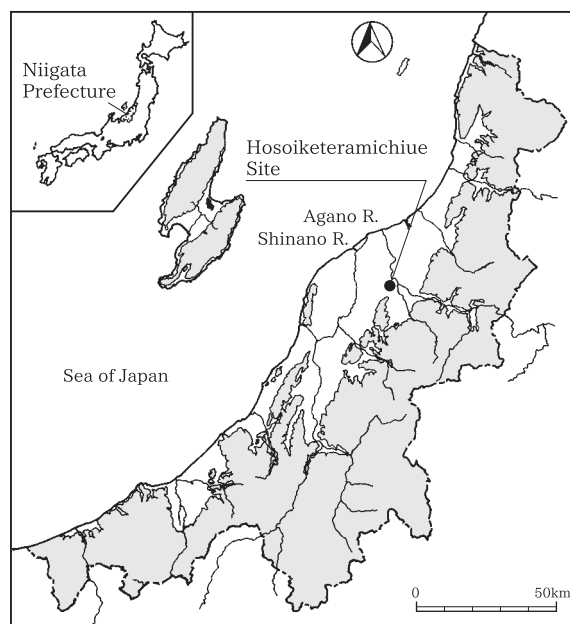


ほそ いけ てら みち うえ
細池寺道上遺跡Ⅷ 第48次調査

— 県営ほ場整備事業(担い手育成型)両新地区に伴う細池寺道上遺跡第23次発掘調査報告書 —

本文編



2019

新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は新潟県新潟市秋葉区東金沢字家浦 65-1 番地ほかに所在する細池寺道上（新潟市遺跡番号 151）第 48 次調査の発掘調査記録である。細池寺道上遺跡第 48 次調査は平成 28 年度に実施した。
- 2 書名は旧新潟市教育委員会および新潟市教育委員会刊行の発掘調査報告書〔北村・菊池ほか 2004、潮田 2014、立木・相澤（高野）ほか 2014、遠藤・青木ほか 2015、立木・細井ほか 2015、立木・奈良ほか 2017、立木・奈良ほか 2018）に続く細池寺道上遺跡については 8 冊目の報告書であることから『細池寺道上遺跡Ⅷ 第 48 次調査』とした。
- 3 調査は県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区造成に伴い、新潟県から新潟市が受託した。調査は新潟市教育委員会（以下、市教委という）が調査主体となり、新潟市文化スポーツ部文化財センター（以下、市文化財センターという）が補助執行した。
- 4 平成 28（2016）年度に発掘調査と整理作業、平成 29（2017）年度に整理作業、平成 30（2018）年度に報告書刊行を行った。発掘調査と整理作業の体制は第三章に記した。
- 5 発掘調査、出土品ほかの整理作業および報告書作成作業の支援業務は株式会社シン技術コンサルに、調査に伴う測量業務は株式会社オリスに委託した。
- 6 出土遺物及び調査・整理作業に係る記録類は、一括して市文化財センターが保管・管理している。
- 7 本書の編集は立木宏明・奈良佳子（市文化財センター）・石川博行（株式会社シン技術コンサル）が行った。遺構図版の作成は立木・奈良・石川・安生素明（株式会社シン技術コンサル）が行った。遺物図版の作成は立木・奈良・石川・重留康弘（株式会社シン技術コンサル）が行い、遺構・遺物写真図版の作成は石川・安生が行った。執筆分担は以下の通りである。

第Ⅰ・Ⅲ章・第七章第 1 節 D を立木、第Ⅴ章第 2 節・第七章第 2 節 A・I を奈良、第Ⅱ章第 4 節・第Ⅴ章第 4 節・第 5 節 A・F・第七章第 2 節 D・E・J を石川、第Ⅱ章第 1～3 節・第Ⅴ章第 1 節・第 5 節 C～E・第Ⅵ章第 1 節・第七章第 1 節 A～C・E・第 2 節 B・G・H を安生、第七章第 3 節を立木・奈良・石川、第Ⅴ章第 5 節 B・第七章第 2 節 F を重留、第Ⅳ章を立木・安生、第Ⅴ章第 3 節・第七章第 2 節 C を奈良・安生が行った。

なお、第Ⅵ章第 2・7 節は杉山真二氏（(株)古環境研究所）、第Ⅵ章第 3 節は金原正子氏（(株)古環境研究所）、第Ⅵ章第 4 節は佐々木由香・バンドリ スタルシャン氏（(株)パレオ・ラボ）、第Ⅵ章第 5 節は金原美奈子氏（(株)古環境研究所）、第Ⅵ章第 6 節は山田卓司氏（(公財)元興寺文化財研究所）、第Ⅵ章第 8 節は(株)加速器分析研究所、第Ⅵ章第 9 節は奈良貴史・佐伯史子氏（新潟医療福祉大学）・(株)古環境研究所による分析報告を編集して掲載した。
- 8 第Ⅱ章第 2 節は『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』〔渡邊ほか 2002〕および『萱免遺跡 第 2 次調査』〔立木ほか 2009〕、『細池寺道上遺跡Ⅴ 第 32・38・41 次調査 西江浦遺跡第 6 次調査』〔立木・細井ほか 2015〕から引用・一部加筆した。
- 9 本書で用いた写真は、遺跡写真は立木・細野・吉澤・安生・中里・長澤展生・菊池康一郎（株式会社シン技術コンサル）が撮影し、遺物写真は株式会社シン技術コンサルが撮影した。顕微鏡写真（写真図版 309）は奈良、エックス線写真（写真図版 280・281）と赤外線写真（図版 304・174）は今井さやか（新潟市文化財センター）が撮影した。ただし、写真図版 1 は米軍（国土地理院発行）、写真図版 2～7 は(株)オリスが撮影したものを使用した。
- 10 遺物実測図のデジタルトレースおよび DTP ソフトによる各種版下の作成は有限会社不二出版に委託し、完成データを印刷業者へ入稿した。
- 11 中世陶磁器の産地と年代観については水澤幸一氏（胎内市教育委員会）から、近世陶磁器の産地と年代観については渡邊ますみ氏（新潟市教育委員会）、相羽重徳氏（佐渡市世界遺産推進課）から御教示頂いた。
- 12 今回の調査成果については、これまで現地説明会資料（平成 28 年 10 月 8 日）や平成 28 年度新潟市遺跡発掘調査速報会〔立木 2017a〕、第 29 回新潟県考古学会研究発表会〔立木 2017b〕で発表されている。報告書と齟齬のある場合は、本報告書をもって正とする。
- 13 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関より御指導・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。

相羽重徳・阿部泰之・伊藤秀和・伊藤啓雄・小熊博史・尾崎高宏・春日真実・小林昌二・高橋保雄・田中耕作・鶴巻康志・戸根与八郎・土橋由理子・古澤妥史・水澤幸一・吉井雅勇・奈良貴史

新潟県教育庁文化行政課・(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県新潟地域振興局農林振興部・新津郷土地改良区

（所属・敬称略、五十音順）

凡 例

- 1 本書は本文編・図面図版編・写真図版編の3分冊からなるうちの「本文編」である。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。
- 3 掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものは、原図の作成者・作成年を示した。
- 4 本文中の注は各節の末尾に記した。本書中で引用している文献については、著者名の五十音順、同著者では発行年順にまとめて第七章の後に掲載したが、第六章のみに引用されている文献については、一覧の末尾に別個にまとめている。本文中では著者名と発行年(西暦)を〔 〕内に示した。
- 5 遺構番号は現場で付したものをを用いた。番号は遺構の種別ごとに付さず、区ごとに通し番号とした。遺構種別は、道路状遺構を除き、以下の略称を用いて表した。
井戸(SE)、土坑(SK)、性格不明遺構(SX)、溝(SD)、小土坑(Pit)、方形区画墓(SZ)、墓(ST)、掘立柱建物(SB)、柱列(柵)(SA)、畑(SN)、河(NR)
- 6 土層および遺物の色調観察は『新版 標準土色帖』[小山・竹原 1967]を用いた。
- 7 遺物の注記の際は、遺跡名を「細池寺道上」とし、出土地点や層位を続けて記した。第48次調査出土遺物は遺跡名の前に調査年度(西暦)の後半数字の「16」を付した。
- 8 遺構の記述は、区ごとに、井戸(SE)、土坑(SK)、性格不明遺構(SX)、溝(SD)、小土坑(Pit)、方形区画墓(SZ) 墓(ST)、掘立柱建物(SB)、柱列(柵)(SA)、畑(SN)、河(NR) 道路状遺構の順に記し、同一調査区内の同種遺構については、想定時期の別にかかわらず、概ね北から南へと順次記した。この順番は遺物の記述、別表、図面図版、写真図版に掲載した遺構・遺物の順番と概ね対応する。
- 9 遺物番号は土器・陶磁器はまとめて通し番号とし、土製品・石製品・金属製品・鍛冶関連遺物・銭貨・木製品についてはそれぞれ種別ごとに1から番号を付し、その番号を本文および観察表・遺物図版・写真図版に共通して用いた。
- 10 本文中の挿図に用いた地形図、遺構・遺物図の縮尺は各図に示した。
- 11 遺構計測表における()付きの値は残存値を意味し、遺物観察表中における()付きの値は、推定値を意味する。
- 12 遺構計測表では、遺構の新旧関係を表現する際に「<」や「>」を用いた。例えば、SK1<SK2となる場合はSK1が古く、SK2が新しいことを示す。

目 次

第Ⅰ章 序 章	1
第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	3
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	5
第1節 遺跡の位置と地理的環境	5
第2節 周辺の遺跡	5
第3節 歴史的環境	17
第4節 新津周辺の近世三国街道	18
第Ⅲ章 調査の概要	20
第1節 試掘・確認調査	20
第2節 本発掘調査	20
A 調査方法	20
1) グリッド設定	20
2) 調査方法	23
B 調査経過	23
C 調査体制	24
第3節 整理作業	24
A 整理方法	24
1) 遺 物	24
2) 遺 構	24
B 整理経過	24
C 整理体制	25
第Ⅳ章 遺 跡	26
第1節 概 要	26
第2節 層 序	26
第3節 遺 構	27
A 遺構の概要	27
B 1区の遺構	27
1) 1区の概要	27
2) 1区の遺構各説	28
C 2区の遺構	56
1) 2区の概要	56
2) 2区の遺構各説	56
第Ⅴ章 遺 物	94
第1節 概 要	94
第2節 古代の土器	94

A	土器の分類と記述	94
1)	須恵器	95
2)	土師器	95
3)	黒色土器	95
B	出土土器各説	97
1)	1区出土土器	97
2)	2区出土土器	97
第3節	中世の陶磁器	100
A	陶磁器の分類と記述	100
B	出土陶磁器各説	100
1)	1区出土陶磁器	100
2)	2区出土陶磁器	103
第4節	近世・近代の陶磁器・土器	106
A	概要	106
B	出土土器等各説	106
1)	1区出土陶磁器・土器	106
2)	2区出土陶磁器・土器	108
第5節	土製品・石製品・金属製品・木製品・烏帽子・数珠	113
A	土製品と瓦	113
B	石製品	114
1)	石製品の分類と記述	114
2)	1区出土石製品	114
3)	2区出土石製品	116
C	金属製品	123
1)	金属製品	123
2)	鍛冶関連遺物	123
3)	銭貨	124
D	木製品	124
1)	木製品の分類	124
2)	1区出土木製品	124
3)	2区出土木製品	125
E	烏帽子	133
F	数珠	134
1)	概要	134
2)	分類	134
3)	1区出土数珠	134
4)	2区出土数珠	135

第VI章 自然科学分析 136

第1節	はじめに	136
第2節	細池寺道上遺跡における植物珪酸体分析	139
A	はじめに	139
B	試料	139
C	分析方法	139
D	分析結果	139
E	考察	141
1)	イネ科栽培植物の検討	141
2)	植物珪酸体分析から推定される植生と環境	142
F	まとめ	142
第3節	細池寺道上遺跡における花粉分析	142
A	はじめに	142
B	試料	142
C	分析方法	143
D	分析結果	143
1)	分類群	143
2)	花粉群集の特徴	143

E 考 察	146
1) 花粉分析から推定される植生と環境	146
2) 各時代の植生、環境の復原	148
F ま と め	149
第4節 細池寺道上遺跡から出土した大型植物遺体	149
A はじめに	149
B 試料と方法	149
C 結 果	149
D 考 察	153
第5節 細池寺道上遺跡における樹種同定	156
A はじめに	156
B 試 料	156
C 分析方法	156
D 分析結果	156
E 考察とまとめ	159
第6節 細池寺道上遺跡における漆膜観察・赤外線分光分析	162
A はじめに	162
B 対象資料	162
C 漆膜観察と赤外線分光分析	162
1) 分析内容	162
2) 使用機器	162
3) 分析結果	162
第7節 細池寺道上遺跡におけるリン・カルシウム分析	163
A はじめに	163
B 試 料	163
C 分析方法	163
D 分析結果	163
E 考 察	164
第8節 細池寺道上遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）	164
A 測定対象試料	164
B 化学処理工程	164
C 測定方法	165
D 算出方法	165
E 測定結果	165
第9節 細池寺道上遺跡出土人骨の人類学的報告	167
A はじめに	167
B 状 態	167
1) 1区出土人骨	167
2) 2区出土骨	170
C ま と め－若干の考察－	171
1) 人骨の年齢構成と性別	171
2) 茶 毘	172
3) 拾 骨	173
第VII章 総 括	174
第1節 細池寺道上遺跡の遺構	174
A 掘立柱建物	174
1) 建物の分類	174
2) 中世の掘立柱建物	174
3) 近世の掘立柱建物	176
4) 集落の区画溝	177
5) ま と め	179

B 井戸	179	2) SE734 井戸側について	181
1) 井戸の分類	179		
C 道路状遺構	184		
D 中世の方形区画墓	187		
E 近世の墓制	194		
1) 1区近世墓について	194	2) 2区火葬土坑について	200
3) まとめ	201		
第2節 細池寺道上遺跡の遺物	201		
A 古代の土器	201		
B 中世の陶磁器	202		
C 青白磁合子	204		
D 近世・近代の陶磁器・土器	204		
E 土製品	208		
F 石製品	208		
G 金属製品	211		
H 木製品	212		
I 烏帽子	214		
J 数珠	215		
第3節 細池寺道上遺跡の様相	217		
A 古代における細池寺道上遺跡の様相	217		
B 中世における細池寺道上遺跡の様相	217		
C 近世における細池寺道上遺跡の様相	217		
引用・参考文献	223		
別表	236		
抄録・奥付	巻末		

挿図目次

第1図 遺跡遠景	4	第15図 中世の陶磁器分類図(2)	102
第2図 細池寺道上遺跡周辺の地形分類図	6	第16図 数珠玉の分類	134
第3図 細池寺道上遺跡周辺の遺跡分布図 (旧石器時代・縄文時代)	8	第17図 細池寺道上遺跡第48次調査 自然科学分析サンプル採取地点	136
第4図 細池寺道上遺跡周辺の遺跡分布図(弥生時代)	9	第18図 細池寺道上遺跡における植物珪酸体分析結果	140
第5図 細池寺道上遺跡周辺の遺跡分布図(古墳時代)	11	第19図 細池寺道上遺跡の植物珪酸体 (プラント・オパール)	141
第6図 細池寺道上遺跡周辺の遺跡分布図(古代)	12	第20図 細池寺道上遺跡における花粉ダイアグラム	145
第7図 細池寺道上遺跡周辺の遺跡分布図(中世)	14	第21図 細池寺道上遺跡の花粉・孢子	148
第8図 細池寺道上遺跡周辺の遺跡分布図(近世)	15	第22図 細池寺道上遺跡から出土した大型植物遺体	155
第9図 細池寺道上遺跡周辺の三国街道中通りの様子	19	第23図 細池寺道上遺跡の木材(1)	160
第10図 細池寺道上遺跡試掘・確認調査トレンチ図	21	第24図 細池寺道上遺跡の木材(2)	161
第11図 細池寺道上遺跡試掘・確認調査土層柱状図	22	第25図 対象資料(ST1621(SZ2013)出土烏帽子)	162
第12図 作業風景・現地説明会風景	25		
第13図 古代土器集成図	96		
第14図 中世の陶磁器分類図(1)	101		

第 26 図	赤外線吸収スペクトル	162	第 47 図	1 区近世墓群	195
第 27 図	烏帽子の断面写真	163	第 48 図	近世墓から出土した遺物 (1)	196
第 28 図	細池寺道上遺跡におけるリン・カルシウム含量	164	第 49 図	近世墓から出土した遺物 (2)	197
第 29 図	細池寺道上遺跡第 48 次調査 出土炭化材の暦年較正年代グラフ	166	第 50 図	近世墓から出土した遺物 (3)	198
第 30 図	出土人骨写真 (1)	172	第 51 図	近世墓から出土した遺物 (4)	199
第 31 図	出土人骨写真 (2)	172	第 52 図	検出された火葬土坑	200
第 32 図	掘立柱建物分類図	175	第 53 図	中世の陶磁器編年図	203
第 33 図	細池寺道上遺跡第 46・48 次調査 掘立柱建物主軸方位	176	第 54 図	県内の青白磁合子出土主要遺跡分布図	204
第 34 図	細池寺道上遺跡掘立柱建物変遷図	178	第 55 図	県内の主要遺跡出土青白磁合子集成図	205
第 35 図	井戸分類図	180	第 56 図	主要遺構出土の近世陶磁器・土器 (1)	206
第 36 図	桶積上げ式井戸側集成図 (1)	182	第 57 図	主要遺構出土の近世陶磁器・土器 (2)	207
第 37 図	桶積上げ式井戸側集成図 (2)	183	第 58 図	細池寺道上遺跡周辺の砥石出土遺跡分布図	210
第 38 図	桶積上げ式井戸側主要出土遺跡分布図	183	第 59 図	軽石の長さ比グラフ	211
第 39 図	井戸計測値対比グラフ	184	第 60 図	SX1131 出土 行灯模式図	213
第 40 図	道路状遺構の変遷 (1)	185	第 61 図	数珠の遺構毎の分類	216
第 41 図	道路状遺構の変遷 (2)	186	第 62 図	1922 年以前の現況図と発掘調査区	218
第 42 図	新潟県下越地方の方形区画墓と その類似資料検出遺跡	189	第 63 図	細池寺道上遺跡第 48 次調査 時代別遺構分布図 (1 区)	219
第 43 図	新潟県下越地方の方形区画墓と その類似資料	190	第 64 図	細池寺道上遺跡第 48 次調査 時代別遺構分布図 (2 区)	220
第 44 図	方形区画墓の主体部	191	第 65 図	細池寺道上遺跡で検出された稲架木跡と 現在の稲架木	221
第 45 図	方形区画墓・方形区画遺構の出土遺物	191	第 66 図	細池寺道上遺跡 2 区 SX1131 出土の村松焼	222
第 46 図	方形区画墓・方形区画遺構の法量と 主軸方位	193			

表 目 次

第 1 表	細池寺道上遺跡調査履歴	2	第 10 表	メロン仲間種子の大きさ	154
第 2 表	細池寺道上遺跡周辺の遺跡一覧表	16	第 11 表	細池寺道上遺跡における樹種同定結果	157
第 3 表	遺物出土トレンチ	22	第 12 表	細池寺道上遺跡における蛍光 X 線分析結果	164
第 4 表	細池寺道上遺跡第 48 次調査 遺構数集計表	27	第 13 表	放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)	167
第 5 表	細池寺道上遺跡第 48 次調査 自然科学分析一覧表	137	第 14 表	放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、 暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)	167
第 6 表	細池寺道上遺跡における植物珪酸体 分析結果	140	第 15 表	道路状遺構計測表	187
第 7 表	細池寺道上遺跡における花粉分析結果	144	第 16 表	新潟県下越地方の主要方形区画墓・ 方形区画遺構	189
第 8 表	細池寺道上遺跡から出土した炭化種実 (1)	151	第 17 表	細池寺道上遺跡周辺の砥石出土遺跡一覧表	210
第 9 表	細池寺道上遺跡から出土した炭化種実 (2)	152	第 18 表	遺構毎の数珠集計表	216

別表目次

別表 1	遺構計測表	236	別表 15	遺構出土近世・近代陶磁器・ 土器器種構成比率表	298
別表 2	掘立柱建物計測表	259	別表 16	遺構出土石製品・礫構成比率表	313
別表 3	柱列（柵）計測表	263	別表 17	石製品実測点数表	317
別表 4	古代土器観察表	266	別表 18	石製品組成と石材組成表	317
別表 5	中世陶磁器観察表	268	別表 19	地区別石製品組成表	317
別表 6	近世・近代の陶磁器・土器観察表	269	別表 20	地区別石材組成表	318
別表 7	土製品と瓦観察表	280	別表 21	礫・焼礫点数重量表	318
別表 8	石製品観察表	280	別表 22	遺構出土金属製品・鍛冶関連遺物区毎組成表	318
別表 9	金属製品・鍛冶関連遺物観察表	285	別表 23	遺構出土金属製品・鍛冶関連遺物組成表	318
別表 10	銭貨観察表	285	別表 24	木製品集計表	319
別表 11	木製品観察表	285	別表 25	土製品と瓦集計表	320
別表 12	数珠観察表	288	別表 26	遺構別取上げ遺物一覧表	320
別表 13	遺構出土古代土器器種構成比率表	290			
別表 14	遺構出土中世陶磁器器種構成比率表	294			

第 I 章 序 章

第 1 節 遺 跡 概 観 (第 1 表)

現在、細池寺道上遺跡として登録されている一帯は、かつて細池、寺道上、木津橋、土手外遺跡が遺跡登録されていた地域である。後述するように本報告に至る 50 次の調査 (第 1 表) を経るなかで、範囲の見直しが検討された結果、現状の遺跡範囲となったものである。

最も早く遺跡として周知されたのは寺道上遺跡で、昭和 60 年 8 月に行われた新潟県教育委員会 (以下、県教委という) 主催の遺跡詳細分布調査の折に、平安時代の須恵器甕・杯が見いだされ古代を中心とした遺跡として登録された (旧新津市遺跡番号 28)。次いで木津橋遺跡が平成元年刊行の『新津市史資料編第 1 巻 原始・古代・中世編』[川上・木村・鈴木 1989] で報告され古代の遺跡として登録されている (旧新津市遺跡番号 63)。細池遺跡は平成 2 年に行われた磐越自動車道建設に伴う県教委が行った試掘・確認調査により、金屋集落横が寺道上遺跡の地点と異なることから新遺跡として登録された (旧新津市遺跡番号 68)。さらに、その調査の際に寺道上遺跡の遺跡範囲も拡大し再登録された。その後の平成 3・4 年に県教委による細池遺跡と寺道上遺跡の本発掘調査が行われ [小池ほか 1994]、平成 8・9 年には新津市により農道建設に伴う本発掘調査が細池遺跡で実施された [立木・渡邊ほか 1998]。平成 11 年には新津市による同原因の調査が寺道上遺跡で実施された [渡邊ほか 2001]。そして平成 13 年に行われた両新地区ほ場整備事業に伴う確認調査 (図版 4) の結果、遺跡範囲がさらに拡大し、細池・寺道上の両遺跡と木津橋遺跡を含めた範囲を「細池寺道上遺跡」(旧新津市遺跡番号 28、新潟市遺跡番号 151) として、寺道上遺跡の番号を用いて再登録されることになった。それに伴う処置として、細池・木津橋遺跡の遺跡番号は欠番として扱うこととなった。これ以降の遺跡名は「細池寺道上遺跡」の名称を用いる。同年、土手外遺跡 (旧新津市遺跡番号 89) が細池寺道上遺跡の東側で古代・中世の遺跡として新発見され、遺跡登録されたが、平成 14 年に行われた両新地区ほ場整備に伴う確認調査の結果、細池寺道上遺跡の範囲拡大により同遺跡に統一された。それに伴い土手外遺跡の遺跡番号は欠番となった。本報告の調査区に関わる確認調査の結果は第 III 章第 1 節に詳述する。

現在の細池寺道上遺跡においてこれまで行われた本発掘調査の成果を以下に概観する。平成 3・4 年度にかけて県教委が磐越自動車道建設に伴い「細池遺跡」19,960m²、「寺道上遺跡」14,660m² の計 34,620m² を調査している。その結果、微高地上に古代から中世に至る集落跡・ほ場跡などが検出されている [小池ほか 1994]。特筆されるものとしては、中世のほ場跡に伴う掘込田がある。平成 8・9 年度に行われた農道建設に伴う「細池遺跡」の本発掘調査 [立木・渡邊ほか 1998] では、2,848m² が調査され、平安時代に所属する遺構・遺物が検出された。平成 11 年には農道建設に伴い、843.78m² が調査され、「都保一口」と刻書された短頸壺に代表される 9 世紀第 2 四半期のまとまった土器群が確認された。短期間に営まれた集落跡で遺物の出土状況も良好であり、古代土器編年研究に重要な調査例となった。平成 15 年度には、東北電力西新潟線鉄塔建替工事に伴う本発掘調査をほ場整備事業対象範囲で実施し、細池寺道上遺跡の一部 397.77m² を調査した結果、古代の河道跡が検出され、仏鉢形土器など特殊な土器を含む 9 世紀後半の土器が出土している [北村・菊池ほか 2004]。

平成 19 年度から細池寺道上遺跡範囲内で本格的にほ場整備に伴う本発掘調査が開始され、当年度は 8,952.7m² が調査され、区画溝で区切られた中世の集落が確認された [潮田 2014]。平成 20 年度には 2,911.5m² が調査され、鎌倉・室町時代の集落跡が確認された。14 世紀後半の集落間を結ぶ「道路」が確認されている [立木・相澤 (高野) ほか 2014]。平成 21 年度には 2,346m² を調査し、旧河道に沿って古代・中世の集

第1節 遺跡概観

第1表 細池寺道上遺跡調査履歴

通算調査回数	泉宮ほ場整備 両新地区に伴う 発掘調査回数	調査年次	調査種別	調査原因	調査主体	担当	調査面積	トレンチNo.	文献	遺跡名	備考	
		S60年(1985)8.4	分布調査	新潟県遺跡詳細分布調査	新潟県	県文化行政課				寺道上	寺道上遺跡を新登録。	
		H1年(1989)	分布調査	「新津市史資料編第1巻原始・古代・中世」に伴う調査	新津市	川上貞雄			〔川上ほか1989〕	木津橋	市史に現存の「細池寺道上遺跡」の一部の木津橋遺跡が古代の遺跡として掲載され、一般に周知される。	
1		H2年(1990)10.1～10.18	確認調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人	958㎡		〔小池ほか1994〕	細池		
2		H2年(1990)10.1～10.18	確認調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人	820㎡		〔小池ほか1994〕	寺道上		
3		H3年(1991)4.15～12.7	本発掘調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人	34,620㎡ (細池遺跡19,960㎡、 寺道上遺跡14,660㎡)		〔小池ほか1994〕	細池	古代・中世の集落跡の一部および中世の広範囲なほ場が確認された。奈良・平安時代の遺物は9世紀が主体で、新津丘陵産および佐渡産須恵器が確認されている。	
4		H3年(1991)7.8～12.7	本発掘調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人		寺道上				
5		H4年(1992)4.8～8.7	本発掘調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人		細池				
6		H4年(1992)4.8～6.30	本発掘調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人		寺道上				
7		H7年(1995)11.6～11.10	確認調査	農道拡幅	新津市	新津市教育委員会渡邊朋和	97.2㎡	1～27T		細池		
8		H8年(1996)7.22～7.23	確認調査	農道拡幅	新津市	新津市教育委員会渡邊朋和	52.8㎡	1～22T		寺道上		
9		H8年(1996)10.17～12.13	本発掘調査	農道拡幅	新津市	新津市教育委員会渡邊朋和	1,429㎡		〔立木・渡邊ほか1998〕	細池	古代の集落跡の一部および中世のほ場が確認された。	
10		H9年(1997)10.7～11.25	本発掘調査	農道拡幅	新津市	新津市教育委員会立木宏明	1,419㎡			細池		
11		H9年(1997)10.30	確認調査	農道拡幅	新津市	新津市教育委員会渡邊朋和	8.84㎡	23～26T		寺道上		
12		H11年(1999)10.1～12.15	本発掘調査	農道拡幅	新津市	新津市教育委員会渡邊朋和	843.78㎡		〔渡邊ほか2001〕	寺道上	古代の溝などを検出した。「都保一口」とヘラ書きされた須恵器短頸壺が出土した。	
13	1	H13年(2001)10.15～11.8	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会渡邊朋和	1,147.5㎡			寺道上	細池・寺道上・木津橋遺跡を統合し細池寺道上遺跡とする。	
14	2	H13年(2001)10.15～11.8	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会渡邊朋和		A地区1～77T、 B地区1～178T				木津橋
15	3	H13年(2001)10.15～11.8	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会渡邊朋和						細池
16	4	H13年(2001)10.15～11.8	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会渡邊朋和						土手外
17		H14年(2002)10.16～10.24	確認調査	鉄塔建設	新津市	新津市教育委員会立木宏明	39.6㎡	東17～24T		細池寺道上		
18	5	H14年(2002)10.16～11.15	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会渡邊朋和	1,701㎡			細池寺道上	土手外遺跡を統合し細池寺道上遺跡とする。	
19	6	H14年(2002)10.16～11.15	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会渡邊朋和		A地区78～211T、 B地区179～293T、 C地区1～129T				土手外
20		H15年(2003)9.5～12.19	本発掘調査	鉄塔建設	新津市	シン技術コンサル北村 淳	397.77㎡		〔北村ほか2004〕	細池寺道上	古代の旧河道が検出され、覆土中に土師器・須恵器の食膳具が多出した。「川相」と墨書きされた墨書土器が出土した。	
21	7	H15年(2003)11.17～12.1	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会渡邊朋和	490.5㎡			細池寺道上		
22	8	H16年(2004)10.4～11.5	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会渡邊朋和	40.05㎡			細池寺道上		
23	9	H17年(2005)10.11～10.26	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター渡邊ますみ	154.5㎡			細池寺道上		
24	10	H18年(2006)11.10	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	県文化行政課 沢田 敦	24㎡			細池寺道上		
25	11	H19年(2007)6.11～12.11	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター諫山えりか	8,952.7㎡		〔潮田2014〕	細池寺道上	古代・中世の集落跡が確認された。主体は中世(13C末～14C初頭)で、溝で区画された中に掘立柱建物や井戸を構築し、居住域としている。	
26	12	H20年(2008)6.10～9.27	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター立木宏明	2,911.5㎡		〔立木ほか2014〕	細池寺道上	中世の集落跡、掘立柱建物、井戸、土坑、ビットなどが確認され遺構密度が高い。道路状遺構や橋状構造物などの土木構造物が確認されている。遺物は鎌倉・室町時代の珠洲焼、青磁、白磁、瀬戸・美濃焼などが出土している。	
27		H20年(2008)10.14～10.16	確認調査	農道建設	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター今井きよか	117㎡			細池寺道上		
28		H 21年(2009)5.28	確認調査	作業所	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター諫山えりか	3㎡			細池寺道上		
29	13	H21年(2009)6.15～10.17	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター朝岡政康	2,346㎡			細池寺道上	古代・中世の集落跡が確認された。掘立柱建物、井戸、土坑、溝、ビット、旧河道が確認されている。遺物は平安時代では須恵器・土師器が出土し、鎌倉・室町時代では瀬戸美濃焼、珠洲焼、青磁、白磁などが出土している。各時代共に水辺に集落を営んだ様子がうかがえる。	
30		H22年(2010)5.11	確認調査	放送局舎建築	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター立木宏明	3㎡			細池寺道上		
31	14	H22年(2010)6.21～12.1	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター遠藤恭雄	4,464.2㎡			細池寺道上	古代・中世の集落跡が確認された。掘立柱建物、井戸、土坑、溝、ビット、旧河道が確認されている。遺物は平安時代では須恵器・土師器、鎌倉・室町時代では珠洲焼、中世は磁器、鍛冶関連遺物、農具を転用した井戸側板などが出土している。平安時代には主に農地として利用され、鎌倉・室町時代には居住域として利用されたものと考えられる。	
32	15	H23年(2011)7.25～8.25	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市文化財センター前山結明	220.2㎡		〔立木・細井ほか2015〕	細池寺道上	古代のビット、近世以降の流路、水田の一部と考えられる畦が確認された。遺物は古代の土師器・須恵器、鎌倉・室町時代の珠洲焼、流路から磁石転用の唐津焼が出土した。近世以降の地形改変が著しく、古代～中世の遺構・包含層は南地区南端部に限定された。	
33		H23年(2011)8.3～8.4	確認調査	農道建設	新潟市	新潟市文化財センター廣野耕造	90㎡			細池寺道上		
34		H23年(2011)10.28	確認調査	農道整備	新潟市	新潟市文化財センター廣野耕造	48㎡			細池寺道上		
35	16	H24年(2012)5.29	確認調査	農道建設	新潟市	新潟市文化財センター前山結明	9㎡			細池寺道上		
36		H24年(2012)7.3～7.4	確認調査	道路改良	新潟市	新潟市文化財センター廣野耕造	84㎡			細池寺道上		
37		H24年(2012)7.13	確認調査	庫裡改築	新潟市	新潟市文化財センター廣野耕造	6㎡			細池寺道上		

通算調査回数	泉宮ほ場整備 両新地区に伴う 発掘調査回数	調査年次	調査種別	調査原因	調査主体	担当	調査面積	トレンチNo.	文献	遺跡名	備考
38	17	H24年(2012) 7.23～ H25年(2013) 1.10	本発掘調査	両新地区ほ場 整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 前山精明	4,715.68㎡		[立木・ 細井ほか 2015]	細池寺道上	古代・中世の農地。遺構は水田、井戸、テラス状遺構、木道・土坑・ピット、溝、旧河道が確認されている。遺物は平安時代の須恵器、土師器、盤や斎串などの木製品、鎌倉・室町時代の珠洲焼が出土している。各時代とも水辺に営まれた農地と考えられる。
39		H24年(2012) 10.16	確認調査	墓地造成	新潟市	新潟市文化財センター 諫山えりか	11.2㎡	B地区1～4T		細池寺道上	
40		H25年(2013) 2.22	確認調査	避雷針設置	新潟市	新潟市文化財センター 渡邊ますみ	9.3㎡	B地区1T		細池寺道上	
41	18	H25年(2013) 7.25～12.27	本発掘調査	両新地区ほ場 整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 立木宏明	2,814.55㎡		[立木・ 細井ほか 2015]	細池寺道上	古代・中世の集落と、中世の耕作地。遺構は掘立柱建物、水田跡、井戸、杭列、溝、土坑、ピットが確認された。遺物は平安時代では須恵器・土師器が中心で、鎌倉・室町時代では珠洲焼等が出土している。1区は平安時代では集落、鎌倉・室町時代では集落とそれに隣接する水田跡が確認できた。2・3区は調査区が狭小であるが、古代・中世の遺跡が広がるということが確認できた。
42		H25年(2013) 11.18～11.22	確認調査	市道改良	新潟市	新潟市文化財センター 朝岡政康	51.44㎡	A地区1～9T		細池寺道上	
43		H26年(2014) 6.20～10.10	本発掘調査	市道改良	新潟市	新潟市文化財センター 遠藤恭雄	557.28㎡		[遠藤・ 青木ほか 2015]	細池寺道上	第26次調査2区隣接地の調査である。中世の遺構集積区が3か所確認され、第26次調査に続く道路状遺構および掘立柱建物なども確認された。それ以外に井戸・土坑・Pitを多数検出し集落域の広がりを確認した。
44	19	H26年(2014) 7.16～12.26	本発掘調査	両新地区ほ場 整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 立木宏明	5,547.6㎡		[立木・ 奈良ほか 2017]	細池寺道上	古代・中世の拠点集落。遺構は掘立柱建物、竪穴状遺構、カマド状遺構、井戸、土坑、溝、Pit、道路状遺構などが確認された。遺物は平安時代の須恵器・土師器が中心で、鎌倉・室町時代では珠洲焼や青磁碗、その他に井戸側板・曲物・漆器といった木製品が出土している。
45	20	H27年(2015) 6.10～6.11	確認調査	両新地区ほ場 整備事業	新潟市	新潟市歴史文化課 諫山えりか	36㎡	B地区447～ 457T		細池寺道上	
46	21	H27年(2015) 7.27～H28 (2016) 2.29	本発掘調査	両新地区ほ場 整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 立木宏明	8,712.88㎡		[立木・ 奈良ほか 2018]	細池寺道上	古代～近世の集落と、古代・中世の耕作地および中世の100mにおよぶ道路状遺構が確認された。遺物は平安時代の須恵器・土師器、鎌倉・室町時代の珠洲焼、その他に柱根などの木製品、鉄製品、石製品が出土している。
47	22	H27年(2015) 8.20	確認調査	両新地区ほ場 整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 立木宏明	49.5㎡	B地区458～ 472T		細池寺道上	
48	23	H28年(2016) 6.16～12.28	本発掘調査	両新地区ほ場 整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 立木宏明	8,716.71㎡		[本書]	細池寺道上	古代～近世の集落と、中世の方形区画墓および耕作地、道路状遺構が確認された。近世では17世紀から始まる近世墓が確認された。遺物は平安時代の須恵器・土師器、鎌倉・室町時代の青磁・青白磁、珠洲焼、安土桃山・江戸時代の唐津焼・肥前系磁器、その他に桶などの木製品、鉄製品、石製品が出土している。
49	24	H28年(2016) 9.30～10.5	確認調査	両新地区ほ場 整備事業	新潟市	新潟市歴史文化課 朝岡政康	90.83㎡	C地区306～ 316T D地区1～8T		細池寺道上	
50	25	H29年(2017) 7.1～12.28	本発掘調査	両新地区ほ場 整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 立木宏明	1,746.85㎡			細池寺道上	古代の旧河道から多量の遺物が出土した。遺物は土師器・須恵器・木製品・石製品が出土している。

※第17次調査東1～13Tは中谷内遺跡・沖ノ羽遺跡・天下遺跡・西江浦遺跡の範囲のため除外
 ※※「遺跡名」とした項目は調査当時の遺跡名である。旧遺跡名が含まれる。

落域が確認された。平成22年度には4,464.2m²を調査して古代・中世の集落跡を確認し、中世の井戸中から農耕具のエブリ・田下駄などの木製品が井戸側に再利用された状態で出土して注目される。平成23年度には220.2m²を調査し、古代の須恵器・土師器、中世の珠洲焼などが出土した。遺構は近世以降の攪乱により明瞭ではないが、調査区南端から少数確認されている〔立木・細井ほか2015〕。平成24年度には4,715.68m²を調査し、古代の旧河道から多量の須恵器・土師器・木製品(斎串・皿など)が出土し、祭祀跡を確認した〔立木・細井ほか2015〕。平成25年度には2,814.55m²を調査し、古代の集落跡の一部と、中世の水田跡とそれに伴う掘立柱建物と井戸などで構成された居住域などを検出した〔立木・細井ほか2015〕。平成26年度には5,547.6m²が調査され、古代の旧河道・カマド状遺構・掘立柱建物・井戸などが検出された、また須恵器・土師器の土器類も多く出土し、古代の拠点集落的な様相が確認された〔立木・奈良ほか2017〕。同年市道建設に伴う調査が、ほ場整備平成20年度本発掘調査区隣接地で行われ、中世の道路状遺構などが検出された〔遠藤・青木ほか2015〕。平成27年度には平成26年度本発掘調査区の東側を8,712.88m²調査し、延長100mにおよぶ中世の道路状遺構の一部を検出した。また、江戸時代初期からはじまる近世集落を確認した〔立木・奈良ほか2018〕。平成29年度には1,746.85m²が調査され、古代の旧河道から多量の遺物が出土した〔立木2018〕。

第2節 発掘調査に至る経緯

平成7年度に、新潟市秋葉区内の旧阿賀浦村・新関村区域(両新地区)における泉宮ほ場整備事業の計画が旧新津市生涯学習課に知らされた。旧新津市生涯学習課は、新津東土地改良区(現新津郷土地改良区)および旧新津

市農産業振興課と協議を重ね、県教委が平成3・4年度に磐越自動車道建設に伴い本発掘調査を実施した細池遺跡・寺道上遺跡〔小池ほか1994〕の範囲とあわせて多くの遺跡の存在が予想され、将来本発掘調査の必要性がある旨伝えた。平成11年度に入り、事業計画が見直され、県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区として約170haが対象になり、新潟県新津農地事務所（現新潟県新潟地域振興局農林振興部、以下、新潟地域振興局という）と協議を行い、全区域を対象とした試掘・確認調査を平成13～18年度に実施した。その結果、ほ場整備事業範囲内に細池寺道上遺跡、西江浦遺跡、道上遺跡、下久保遺跡の4遺跡が確認された。

平成17年3月の市町村合併により発掘調査の事業主体は新潟市教育委員会となった。道上遺跡については平成17年度、下久保遺跡については平成18年度に本発掘調査を終了し、発掘調査報告書を刊行している〔龍田ほか2018〕。平成19年度から毎年、ほ場面工事に伴う細池寺道上遺跡の本発掘調査を行っている。本発掘調査の概要は前節で触れたが、詳細は平成19年度〔潮田2014〕、平成20年度〔立木・相澤（高野）ほか2014〕、平成21年度〔朝岡2010b〕、平成22年度〔遠藤2011〕、平成23・24・25年度〔立木・細井ほか2015〕、平成26年度〔立木・奈良ほか2017〕、平成27年度〔立木・奈良ほか2018〕の各報告で明らかにしている。

本書に掲載した平成28年度の細池寺道上遺跡の本発掘調査対象範囲の設定は、新潟地域振興局・新津郷土地改良区・新潟市歴史文化課の3者で遺跡の取扱いを巡って協議を重ねた結果、平成11年9月10日付け教文第578号で新潟県教育委員会教育長から通知された「発掘調査の要否の判断基準について（通知）」の基準により、保護層（工事の施工に際して埋蔵文化財を保護するために設ける一定以上の厚さの土層、樹脂等による緩衝層）を確保できない場合には本発掘調査を実施するとし、保護層が確保できない用・排水路管部分および田面部分の本発掘調査を実施することで合意した。平成28年度細池寺道上遺跡調査地については、平成27年4月22日付け新振津農第63-1号で文化財保護法第94条の第1項の通知が提出され、平成27年6月8日付け教文第233号の2で新潟県教育委員会教育長から新潟地域振興局長宛てに、本発掘調査を実施するよう指示文が出された注）。それを受けて、新潟地域振興局より平成28年4月26日付け新振津農第72号で本発掘調査の依頼が提出され、平成28年6月15日付け新歴B第31号の3で、新潟市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長宛てに、文化財保護法第99条第1項による発掘調査の通知を提出し、本発掘調査を実施した。なお、調査終了後速やかに、平成29年2月14日付け新歴B第31号の4で新潟市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長宛てに終了報告を提出した。最終的な調査面積は1区上端面積4,624.93m²・下端面積4,560.29m²、2区上端面積4,091.78m²・下端面積3,987.93m²、合計面積は上端面積8,716.71m²・下端面積8,548.22m²である。

注）本来、平成27年・28年度本発掘調査範囲は平成27年度1年間で終了させる予定であったが、工程上の問題で、2か年に分割した。そのため、文化財保護法第94条第1項の通知および県教育委員会本発掘調査指示文は、平成27年度に平成28年度分と合わせて出されている。



五頭連峰を望む（西→東）



阿賀野川を望む（南西→北東）

第1図 遺跡遠景

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境（第2図、図版1・2）

新潟市は2005年に行われた周辺市町村（新津市・白根市・豊栄市・小須戸町・横越町・亀田町・西川町・巻町・岩室町・味方村・潟東村・月潟村・中之口村）との合併により、海岸部を含む越後平野の大部分と信濃川を挟んで対峙する弥彦・角田山塊と新津丘陵を含む総面積726.45m²の広大な面積を有する市となった。

細池寺道上遺跡が所在する新潟市秋葉区（以下、秋葉区）は越後平野のほぼ中央に位置し、新津丘陵を中心として東に阿賀野川、西に信濃川が北流する。享保年間には加治川が阿賀野川に、阿賀野川が新潟港で信濃川に合流する状況で、度々水害に見舞われた。そのため、享保十五年（1730）に新発田藩による松ヶ崎放水路の開削が行われ、現阿賀野川の河口となった。阿賀野川や信濃川以外の河川については、五泉市域を北流する早出川が下新田付近で阿賀野川に合流する。また、七日町付近では阿賀野川から分岐した小阿賀野川が西流し、覚路津付近で信濃川に合流する。新津丘陵東縁を北流する能代川は、太平洋戦争後に水害対策の河川改修が行われた。これにより、五泉市千原～秋葉区大関間の蛇行部分が直線化され、秋葉区新津地区の市街地を貫流していた本来の流路から分流が東へ造られ、現在の新津川や能代川となっている。この新津川と能代川は下興野付近で再び合流し、荻島付近で小阿賀野川に注いでいる。

秋葉区付近の地形は丘陵とその縁辺の段丘、沖積地からなる。南南西～北北東に走る新津丘陵は加茂川を南限に標高278mの高立山が最も高く、北に行くに従い標高を下げ北端で70～80mとなり、その周囲には段丘が標高10～70m間に4段みられる。沖積地は、その大部分が信濃川と阿賀野川の二大河川により形成され、自然堤防、旧河道、後背湿地、三角州などの多様な地形がみられる。阿賀野川が流路を東遷させてきた結果、秋葉区域では新津丘陵北端～小阿賀野川間に自然堤防が形成され、現在は起伏のごく少ない微高地として断続的に存在している。本遺跡は阿賀野川左岸の早出川合流地点から北西約1.5kmの微高地上に立地する。

遺跡地は調査直前まで水田として利用されているが、遺跡周辺の旧景観については既にまとめられている〔小池ほか1994〕。それによれば、現在の遺跡周辺は水田地帯であるが、これは大正末年～昭和二十年代に行われた耕地整理事業によって形成されたものであり、整理事業以前の状況からは当該地域の微地形を反映した土地利用が行われていた様子が窺えるとする。つまり低地は方形区画の水田に、微高地周縁は畑地と、微高地を水田化するため開発された畑を囲む水田「堀田」が混在するという土地利用がみられるとしている。

第2節 周辺の遺跡（第2表、第3～8図）

細池寺道上遺跡周辺における時代ごとの遺跡分布状況をみると、旧石器時代については丘陵部に限定される。縄文および弥生時代では丘陵や段丘上、砂丘地に集中し、古墳時代には丘陵や段丘縁辺部、平野部微高地、砂丘地に、奈良時代や平安時代になると平野部微高地にさらに多くの分布がみられるようになる。具体的には、丘陵上において弥生時代後期の環濠集落、古墳時代の円墳などが展開され、丘陵裾部には奈良・平安時代の製鉄および須恵器（土師器）窯といった生産遺跡が集中している。このような分布状況の中で、細池寺道上遺跡は古代から近世にかけての複合遺跡として周知されている。

市町村合併後の新潟市における遺跡数は、市域で758箇所（2018年12月現在）である。以下に、時代ごとに解説を加える。



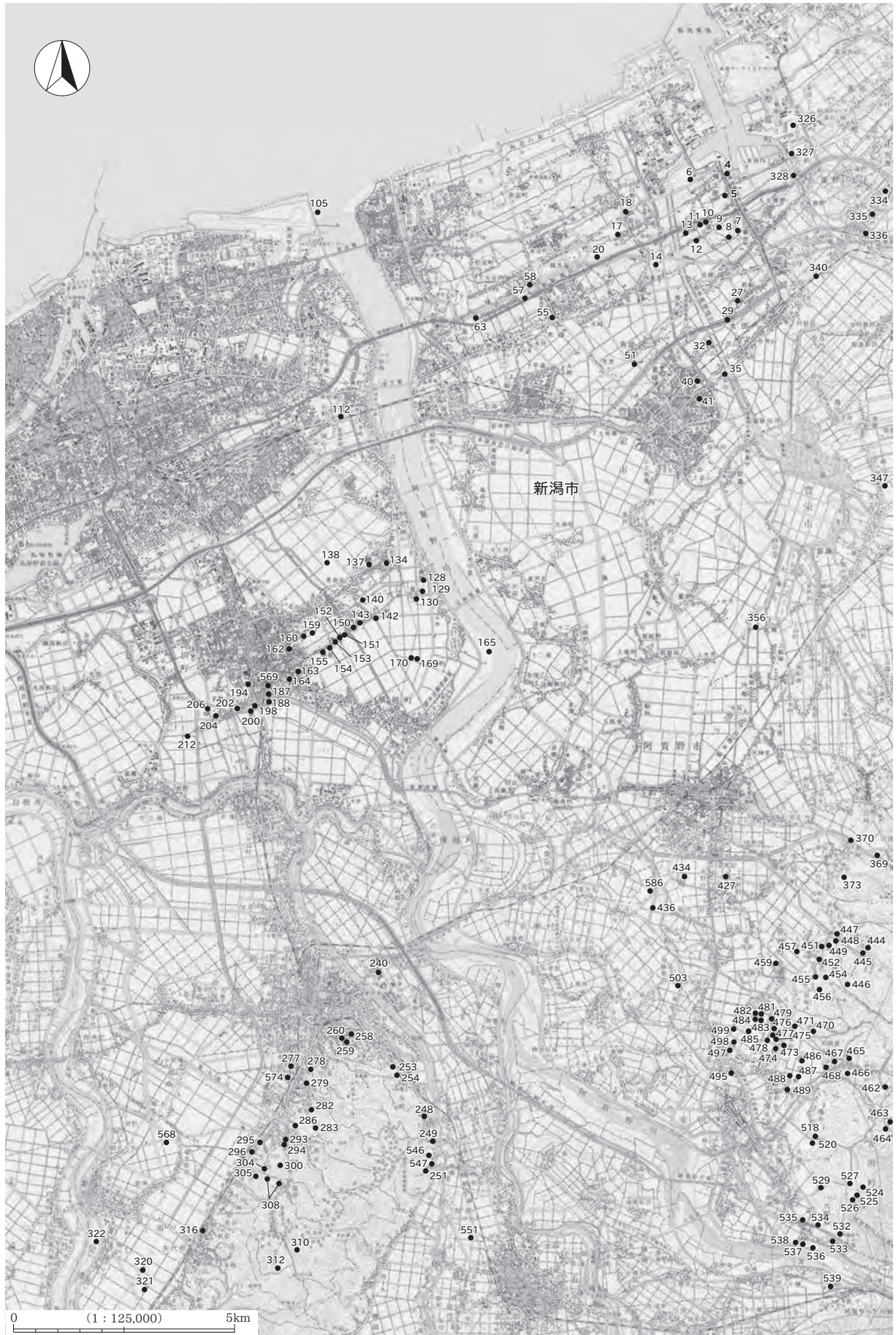
第2図 細池寺道上遺跡周辺の地形分類図

旧石器時代の遺跡 市内では新津丘陵に3箇所、角田山麓に1箇所の計4遺跡が確認されている。新津丘陵の古津八幡山遺跡(300)〔渡邊・立木ほか2001・2004〕からは始良 Tn 火山灰降灰以降のナイフ形石器3点が、草水町2丁目窯跡(253)〔新潟市国際文化部歴史文化課2007〕からはナイフ形石器1点と石刃4点が、秋葉遺跡(260)〔前山2014a〕からスクレイパー1点が出土している。角田山麓ではケカチ堂遺跡〔小野1994a〕から旧石器時代終末ころの尖頭器と剥片が出土している。

縄文時代の遺跡 市内では草創期～晩期の171遺跡が確認されている。草創期の遺跡は、新津丘陵にある愛宕澤遺跡(254)から草創期初頭の神子柴型の局部磨製石斧や片刃石斧、石核、敲石が出土している〔立木・澤野ほか2004a〕。角田山麓では稲島馬渡遺跡から尖頭器が、御手洗山遺跡、新谷遺跡、福井遺跡から神子柴型石斧の出土が知られ〔小野1994b〕、近年では峰岡城山遺跡から柳葉形尖頭器1点が出土している〔立木・伊比ほか2013〕。早期の遺跡は、角田山麓の豊原遺跡〔小野・前山1994〕において早期後半の土器1点が出土している。前期の遺跡は、砂丘上に砂崩遺跡(154)〔酒井・廣野2002、前山2015〕、笹山前遺跡(130)〔廣野1997〕がある。角田山麓では前期初頭の布目遺跡〔小野・小熊1987〕や前期前葉の新谷遺跡〔前山1994a〕が代表例である。同山麓丘陵下の低地の峰岡上町遺跡からは、中期以降の大規模な埋没谷が確認されている〔前山ほか2015〕。

中期以降からは秋葉区内の事例を記述する。縄文時代中・後期の代表的な遺跡は、新津丘陵縁辺部などに位置する竪穴建物が検出された平遺跡(249)〔川上・木村・鈴木1989〕、大規模集落跡と推定される原遺跡(279)〔川上・木村・鈴木1989〕、竪穴建物や土壇、土器捨て場などが検出された秋葉遺跡〔川上・木村・鈴木1989、前山2014a〕である。後期後葉の遺跡は、竪穴建物が検出された古津八幡山遺跡北東地区〔渡邊・立木ほか2004〕、晩期の遺跡では、新津丘陵西麓の沖積地に大沢谷内遺跡(321)〔前山ほか2012、細野・伊比ほか2012、相田・金田・八藤後ほか2015〕、大沢谷内北遺跡(320)〔前山・伊比ほか2010〕がある。このうち、晩期中葉～最終末の大沢谷内遺跡からは、竪穴建物や掘立柱建物、焼土遺構、土坑などが検出され、多量に出土した天然アスファルトは、精製や加工が行われていたと推測されている。近年、丘陵地の原遺跡(279)〔立木2019〕から大沢谷内遺跡と同時期の晩期中葉～最終末の集落が確認されている。

弥生時代の遺跡 市内で65遺跡が確認されている。弥生時代前期～中期初頭を主体とする遺跡は、砂丘上に立地する緒立遺跡〔金子ほか1983〕、養海山遺跡(204)〔新潟市国際文化部歴史文化課2007〕、砂丘間低地に位置する西郷遺跡(206)〔土橋ほか2009〕がある。緒立遺跡は縄文晩期から続く弥生時代前期～中期前葉の遺跡で、新潟県最古の弥生土器「緒立式土器」の出土をはじめ、人骨加工品が出土している。西郷遺跡は縄文晩期後葉から続く弥生時代前期～中期後葉の遺跡で、東日本各地との交流を示す弥生土器の出土をはじめ、磨製石鎌や足形付土版などが出土している。中期前半～後半の遺跡は、砂丘上に石動遺跡(112)(中～後期)〔廣野1996〕、駒込小丸山遺跡(143)〔家田1987、酒井2000a〕、山ノ家遺跡(151)〔川上1993、酒井2000b〕がある。石動遺跡からは東北系と北陸系の土器が、山ノ家遺跡からは東北系、北陸系、信州系の土器が出土している。駒込小丸山遺跡からは円形の竪穴建物から中期後半の土器が出土した。秋葉区新津地区では2003年度の立会調査で、秋葉遺跡から中期前葉、塩辛遺跡(291)から中期後葉の土器が出土している〔渡邊・立木ほか2004〕。このうち塩辛遺跡では土器がまとまって出土しており、古津八幡山遺跡が形成される前段階の遺跡として重要である。中期末～後期の遺跡では舟戸遺跡(290)があり、2015年の調査において木製品が出土している〔金田・早田2017〕。後期の遺跡では、新津丘陵沿いに古津八幡山遺跡(297)〔川上1994、渡邊1994a〕と、その周辺の居村遺跡(D・E地点)〔川上1996a、渡邊ほか1997〕がある。古津八幡山遺跡は、新津丘陵上に立地する大規模な高地性環濠集落で、二重の環濠と竪穴住居、方形周溝墓、前方後方形周溝墓などが検出された。遺物は東北系、北陸系の弥生土器とともに、両系統の折衷型式である「八幡山式土器」が認められたほか、鹿角装鉄剣が出土しており、当時の地域間交流を考える上で重要である。このほか、居村C遺跡(308)D地点からは東北北部の土器を伴う土坑墓が検出されている。また、2013年度の立会調査で、塩辛遺跡から後期の天王山式系土器1点が出土している〔渡邊2015〕。砂丘上には六地山遺跡〔寺村1960、中村1960〕があり、東北系の天王山式土器や、アメリカ式石鎌が出



国土地理院発行2万5千分の1地形図に加筆 「新潟北部・松浜・新潟南部・水原・白根・新潟・矢代田・村松・馬下・出湯・新潟田・天王」

第3図 細池寺道上遺跡周辺の遺跡分布図(旧石器時代・縄文時代)



国土地理院発行2万5千分の1地形図に加筆 「新潟北部・松浜・新潟南部・水原・白根・新津・矢代田・村松・馬下・出湯・新発田・天王」

第4図 細池寺道上遺跡周辺の遺跡分布図(弥生時代)

土している〔渡邊 2015〕。角田山麓には山谷遺跡（山谷古墳下層）〔甘粕・小野ほか 1993〕、大沢遺跡〔甘粕・古川ほか 1981〕、御井戸遺跡〔前山・相田 2004・2005〕がある。

古墳時代の遺跡 市内で 91 遺跡が確認されている。古墳は、新津丘陵上に古津八幡山古墳（297）〔甘粕・川村ほか 1992、相田・渡邊ほか 2014〕がある。県内最大の古墳で、2011～2013 年の調査によって墳形が円墳であることが判明し、築造年代は前期末～中期初頭と想定された。近年では、東区の砂丘上にある牡丹山諏訪神社古墳（578）の存在が注目される〔橋本・小林・奥田 2014〕。墳形は円墳で、築造年代は 5 世紀前葉と想定される。遺物は、発見の契機となった採集資料の円筒埴輪に加え、2014 年の発掘調査では須恵器の装飾器台〔橋本 2015〕、2015 年の調査では、墳頂部から土製玉類が出土している〔橋本 2016〕。砂丘上には、葦石を有する緒立八幡神社古墳（前期）〔吉田ほか 1982、渡邊 1993〕、角田山麓の丘陵上には前方後方墳である山谷古墳（前期）〔甘粕・小野ほか 1993〕、前方後円墳の菖蒲塚古墳（前期）〔相田・前山 2003・2005〕がある。

古墳以外の遺跡では、砂丘上や砂丘間低地に日水遺跡（199）（中期）〔立木・細野ほか 2013〕、武左衛門裏遺跡（202）（前～中期）〔酒井 1988、土橋ほか 2007〕、東園遺跡（138）（前期）〔朝岡・諫山 2003〕、笹山前遺跡（後期）〔廣野 1997〕がある。自然堤防上には、阿賀野川以東に正尺 C 遺跡（50）〔土橋ほか 2006〕、小阿賀野川以南に中田遺跡（229）（中～後期）〔諫山 2009〕、結七島遺跡（228）（前～後期）〔田中・丹下ほか 2004〕、沖ノ羽遺跡（227）（中～後期）〔星野ほか 1996、遠藤・澤野ほか 2014〕などがある。日水遺跡では、古墳時代中期の須恵器直口壺がほぼ完形の状態で出土している。笹山前遺跡、中田遺跡、沖ノ羽遺跡からは須恵器が出土している。新津丘陵縁辺や端部には、舟戸遺跡（290）（中期）〔川上 1995〕、塩辛遺跡（中～後期）〔渡邊・立木ほか 2004、渡邊 2015〕、大沢谷内遺跡などがある。舟戸遺跡からは、炉からカマドへの移行期に位置づけられる竪穴建物が検出された。大沢谷内遺跡 19～21 次調査では、ヒスイ製勾玉 1 点が出土している〔相田・金田・八藤後ほか 2015〕。角田山麓には南赤坂遺跡（前期）〔前山・相田 2002〕、御井戸遺跡（前～後期）〔前山・相田 2004・2005〕がある。

古代の遺跡 古代（飛鳥～平安時代）の遺跡は、市内で 358 遺跡が確認されている。平野部には集落遺跡が多く分布し、丘陵裾部には製鉄遺跡、須恵器や土師器窯跡などの生産遺跡が集中する。海岸付近の砂丘上には、声援遺跡も確認されている。古代の遺跡については、本遺跡周辺の秋葉区に限定して記述する。

新津丘陵窯跡群は新津丘陵北東斜面に分布し、七本松窯跡（256）〔中川・倉田 1956〕、草水町 2 丁目窯跡や滝谷窯跡（255）〔川上・木村・鈴木 1989〕などがある。また、2006 年度の下水道工事に伴う立会調査において、七本松窯跡に隣接する地点で、新たに秋葉 2 丁目窯跡（257）（9 世紀前半）が発見された。旧版の『新津市史』では、新津丘陵上に 18 箇所窯跡が存在すると記載されており〔小林 1952〕、近隣に未発見の窯跡が多数存在する可能性が高い。製鉄遺跡は新津丘陵西斜面に居村遺跡や大入 C 遺跡（303）などがあり、9 世紀第 2 四半期以降の遺跡とされている〔渡邊ほか 1997〕。

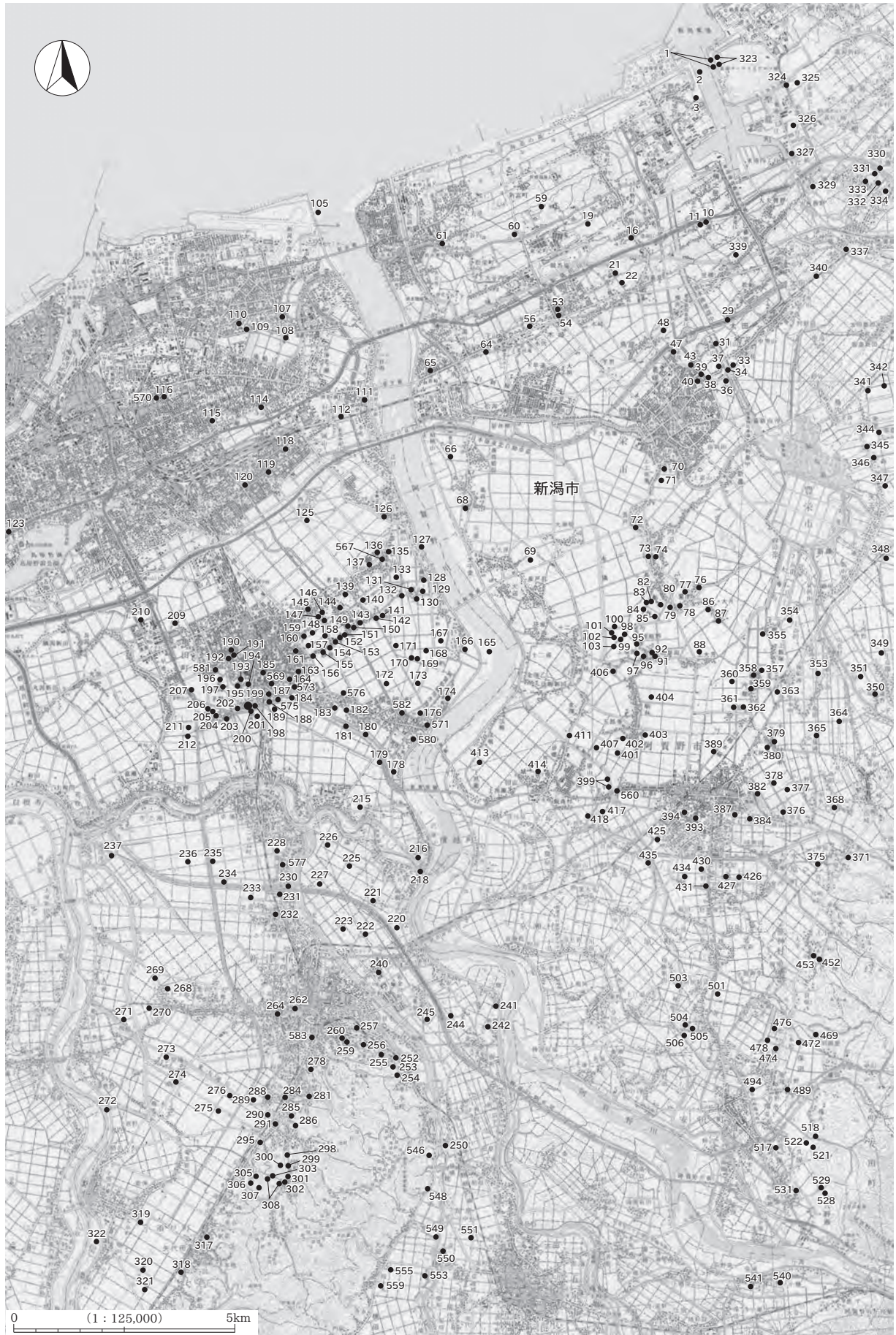
沖積地に立地する集落遺跡としては、長沼遺跡（236）〔渡邊 1991〕、大沢谷内遺跡、上浦 A 遺跡（234）〔川上 1997、坂上 2003〕、上浦 B 遺跡（233）〔新潟市国際文化部歴史文化課 2007〕などがある。長沼遺跡からは非ロクロ成形の土師器や返りのある須恵器蓋が定量出土している。大沢谷内遺跡からは、7 世紀後半の土器に共伴して県内最古とされる「九九木簡」などの木製品、律令祭祀具が出土している。両遺跡とも 7 世紀中葉の 647 年に造営したとされる「淳足柵」と年代的に近いこともあり、注目される。上浦 A 遺跡では掘立柱建物が検出され、円面硯や多量の墨書土器が出土している。同遺跡の年代は、出土遺物から 7 世紀末～10 世紀と推定され、長期間にわたって存続したと考えられる。上浦 A 遺跡に隣接する上浦 B 遺跡からは、周囲を溝で囲まれた総柱建物 1 棟と掘立柱建物 2 棟が検出されている。周囲からは井戸や畑跡も検出されており、共伴関係が窺える。遺跡は 9 世紀後半の短期間に営まれている。遺物は、奈良三彩の小壺 1 点が出土している。

また、新津丘陵北側の満日地区には、沖ノ羽遺跡〔石川ほか 1994、星野ほか 1996、細野ほか 2002、春日 2003a、北村・菊池ほか 2004、立木・澤野・八藤後ほか 2008、遠藤・澤野ほか 2014、遠藤・澤野ほか 2016〕、山王浦遺跡（223）〔立木・澤野ほか 2004b〕、中谷内遺跡（226）〔立木ほか 1999、渡邊ほか 2002、遠藤・笹澤ほか 2015〕、内野遺跡（225）〔立



国土地理院発行2万5千分の1地形図に加筆 「新潟北部・松浜・新潟南部・水原・白根・新津・矢代田・村松・馬下・出湯・新発田・天王」

第5図 細池寺道上遺跡周辺の遺跡分布図(古墳時代)



国土地理院発行2万5千分の1地形図に加筆 「新潟北部・松浜・新潟南部・水原・白根・新津・矢代田・村松・馬下・出湯・新発田・天王」

第6図 細池寺道上遺跡周辺の遺跡分布図(古代)

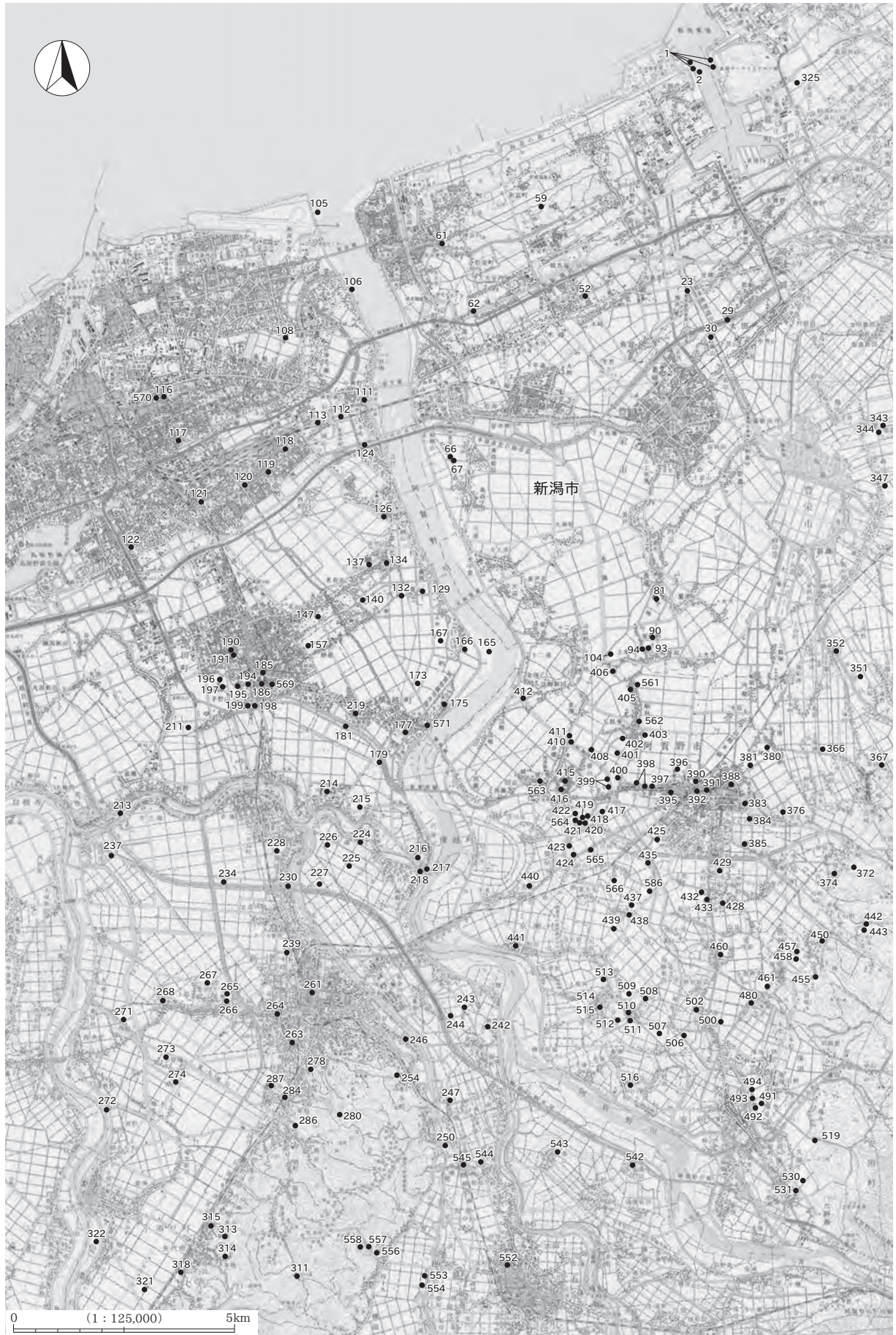
木・高野ほか2002、遠藤・笹澤ほか2015)、無頭遺跡(221)〔長澤ほか2002〕、大下遺跡(222)、中新田久保遺跡(220)など9世紀後半を中心とする遺跡が多く確認されている。沖ノ羽遺跡からは8世紀第3四半期～10世紀第1四半期までの遺構や遺物が確認されており、遺跡における集落や生産域の変遷が明らかになりつつある。土師器仏鉢形土器、瓦塔や緑釉陶器香炉・蓋などの特殊な遺物が出土した地点もあり、「村落内寺院」を持つ地域において、中心的な集落であったと考えられる。山王浦遺跡からは、9世紀後半の雨落溝を持つ掘立柱建物が3棟検出されており、井戸や土坑などを共伴する建物の小群が複数存在する「住耕一体型」集落の一部と考えられる。中谷内遺跡からは平安時代の旧河道沿いに集落の一部が確認されている。旧河道覆土からは祭祀に伴う墨書土器が多量に出土しており、9世紀第3四半期から第4四半期にかけての概ね2～3時期に分けられる。また、緑釉陶器無台碗などの希少品も出土している。内野遺跡では9世紀後半の集落の一部が確認された。無頭遺跡は狭小な調査区のため不確定な部分があるが、9世紀後半の土器が少量出土している。

新津丘陵東側の両新地区では細池寺道上遺跡(244)〔小池ほか1994、立木・渡邊ほか1998、渡邊ほか2001、北村・菊池ほか2004、潮田2014、立木・相澤ほか2014、遠藤・青木ほか2015、立木・細井ほか2015、立木・奈良ほか2017・2018〕、諏訪畑遺跡(250)〔潮田2008〕、能代川を挟んで、諏訪畑遺跡の対岸に位置する小実山遺跡(546)〔山崎・遠藤1999〕など、9～10世紀にかけての遺跡が確認されている。細池寺道上遺跡は遺跡範囲が広範囲に及び、「都保一口」と刻書された9世紀前半の須恵器短頸壺や、土師器仏鉢形土器などの特殊な遺物も含む9世紀代の遺物が主体的に出土している。2014年(44次)の調査では、カマド状遺構や須恵器稜椀などが確認されている。また、2015年の調査では古代の畑と区画溝が検出されている。諏訪畑遺跡からは9世紀後半～10世紀初頭の土師器長甕と鍋の一括資料が出土している。出土状況から炉跡状遺構に伴うと考えられ、貴重な資料となっている。小実山遺跡からは、緑釉陶器耳皿など特殊遺物も含む10世紀前半を主体とする遺物が出土している。

中世の遺跡 市内で217遺跡が確認されているが、秋葉区に限定して記述する。城郭などについては、城館跡10箇所、山城として東島城跡(280)と金津城跡(311)〔横山・竹田ほか1987〕の2箇所、城跡とされるもの5箇所が確認されている。

集落跡は平野部微高地に立地する。これまでは自然堤防上における遺跡の実態には不明点が多かったが、1992年に調査された江内遺跡(230)〔春日ほか1996〕の発掘によって14～15世紀の集落が発見された。細池寺道上遺跡では、鎌倉～室町時代の掘立柱建物や井戸、溝、道路状遺構が検出された〔小池ほか1994、潮田2014、立木・相澤ほか2014、立木・細井ほか2015、立木・奈良ほか2017・2018〕。同遺跡の第41次調査では水田跡と近接して、井戸を共伴する掘立柱建物が検出されている。沖ノ羽遺跡では12～15世紀の集落とほ場の一部が確認された〔石川ほか1994、星野ほか1996、春日2003a、遠藤・澤野ほか2014・2016〕。また、県内初出土となる「烏帽子」が出土している。沖ノ羽遺跡の北東に位置する内野遺跡〔立木・高野ほか2002〕では、掘立柱建物や井戸、溝などが検出され、珠洲焼甕や壺類、青磁、白磁、瀬戸・美濃焼が出土しており、14～15世紀の集落の様相が明らかとなった。また、検出された井戸内からは鉄鍋が出土しており、祭祀行為などで埋納された例として注目される。このほか、井戸底から大型犬の骨の一部が検出され、食用の可能性が指摘されており、中世の食文化を考える上で貴重な資料となっている。大沢谷内遺跡では12～14世紀の掘立柱建物と耕作関連遺構が検出された。出土例が少ない骨角製の筭(こうがい)、栗形や蓋状鉄製品が出土していることから、有力者層の存在が推測されている〔相田・金田・八藤後2015〕。

近世の遺跡 市内で52遺跡が確認されている。集落跡は中世と同じく平野部微高地に立地しているが、現在の住宅地が連続して立地していることが多いため不明な点が多い。発掘調査例も少ないが、秋葉区内では江内遺跡において、17世紀前半の集落の一部が確認されている。近世新潟町跡では、湊町新潟の幾層も重なる生活面が確認され、肥前系を中心とする各地の陶磁器が多量に出土している。部分的な調査ではあるが、17～19世紀の町屋の実態に迫る重要な調査例である〔佐藤ほか2008、渡邊ますみ2014、今井2015・2016・2017、渡邊朋和・今井2018〕。細池寺道上遺跡では、2015年(第46次)の調査において掘立柱建物、井戸などからなる屋敷地と



国土地理院発行2万5千分の1地形図に加筆 「新潟北部・松浜・新潟南部・水原・白根・新津・矢代田・村松・馬下・出湯・新発田・天王」

第7図 細池寺道上遺跡周辺の遺跡分布図(中世)



国土地理院発行2万5千分の1地形図に加筆 「新潟北部・松浜・新潟南部・水原・白根・新津・矢代田・村松・馬下・出湯・新発田・天王」

第8図 細池寺道上遺跡周辺の遺跡分布図(近世)

第2節 周辺の遺跡

第2表 細池寺道上遺跡周辺の遺跡一覧表

Table with columns for No., 名称, 時代, No., 名称, 時代, No., 名称, 時代, No., 名称, 時代, No., 名称, 時代. Lists various archaeological sites and their periods.

墓域、近代まで継続する道路状遺構が確認された。出土遺物から17世紀初頭～17世紀前半、17世紀後半～18世紀、18世紀後半～19世紀以降の3時期にわたる近世集落の変遷が判明している。角田山東南麓に位置する峰岡上町遺跡では、三根山藩上級武士に関係した遺構・遺物が確認され、19世紀中葉頃の陶磁器を中心に木製品なども出土している〔前山2015〕。そのほかに新潟税関所が近代の遺跡として登録されている。

第3節 歴史的環境

越国の領域については、第1段階(3～4世紀)は旧越前国(越前・加賀・能登)、第2段階(5～6世紀)は旧越中国(頸城・古志・魚沼・蒲原4郡まで含む)まで、第3段階(7世紀中～)は淳足・磐舟柵までとされ、次第に北上していく様が窺える〔米沢1965・1980〕。

4世紀前半～5世紀初頭にかけて、秋葉区の古津八幡山古墳をはじめ、西蒲区の菖蒲塚古墳や山谷古墳、西区の緒立八幡神社古墳や三条市の保内山王山古墳群などの前期古墳が丘陵部、砂丘上などに造営される。前方後円墳や前方後方墳、円墳、帆立貝式古墳など形態は多様で、墳丘の規模は20～50m前後で全国的に見ても小規模なものとなっている。こうした点と分布状況から、古墳時代前期の越後平野一帯は、角田・弥彦山麓、西山丘陵の島崎川流域、新津丘陵北部の新津・田上町周辺、新津丘陵南部の加茂市・三条市周辺に、政治的まとまりが分立していたと考えられている〔藤塚・本間ほか1995〕。古墳時代前期以降は、越後平野の実態は長らく不明瞭であったが、東区の牡丹山諏訪神社古墳が確認されたことにより、5世紀代は前期以降も引き続き古墳が造営されることが明らかになった。6世紀前半になると、三条市の保内山王山、村上市の浦田山に小規模ではあるが後期古墳群が造営される。保内山王山古墳群では前期古墳と同じ尾根上に、円墳・方墳からなる群集墳が造営される。村上市の浦田山には、磐舟浦田山古墳群が造営される。このうちの2号墳は竪穴系横口式石室を用いており、北九州の古墳築造技術の影響が窺える。

『続日本紀』大宝二(702)年三月条には、越中国4郡を割いて越後国に編入するとあり、頸城・古志・魚沼・蒲原の4郡がこれに当たるとされ、これにより越中国の領域が確定した。最終的に越後国の領域が確定するのは、和銅五(712)年にそれまで越後国に属していた出羽郡を分割して、出羽国を建国したことによる。

古代の秋葉区域は蒲原郡に属し、その郡域は概ね三条市以北、阿賀野川以西の越後平野と推定され、中世南北朝期に蒲原郡域が旧沼垂郡を含む領域に拡大するまでは大幅な変更はないと思われる。7世紀段階には旧越中国の淳足柵に属する領域として整備され、8世紀には蒲原郡として成立したとみられる。蒲原郡には10世紀成立の『和名類聚抄』に日置・桜井・勇礼・青海・小伏の5郷がみられる。近年、西蒲区下新田遺跡において「日置」と書かれた墨書土器が出土し、注目される〔龍田ほか2015〕。また、宝亀十一(780)年の「西大寺資財流記帳」(『寧楽遺文』中巻)には、西大寺の荘園として蒲原郡に鶉橋庄・槐田庄がみられる。同史料に「越後国水田并壘田地帳景雲三年」とあることから、両荘園の成立は8世紀中葉とみられる。所在地については式内社名から、鶉橋庄が五泉市橋田、槐田庄が三条市周辺とされる。また、2010年に調査された西蒲区林付遺跡で出土した墨書土器から、文献資料に登場しない古代荘園「川合(川井)庄」の存在が明らかとなった〔相田ほか2012〕。以上のような文献・出土遺物も散見されるが、現時点では古代における秋葉区域の詳細な郷域は、不明となっている。このほかに、古代の秋葉区域に関連して注目される点は須恵器生産があげられる。新津丘陵における須恵器生産は、早ければ7世紀後半に始まり8世紀前半～9世紀中頃が主な操業時期とされる。これは越後国内における他地域の須恵器生産動向とほぼ一致しており、いわゆる「一郡一窯体制」であったと考えられる。さらに、9世紀前半～中葉になると佐渡小泊窯の須恵器製品が越後全域に流通するという、画期的な変化が生じることになる〔坂井1996〕。また、須恵器以外の生産遺跡として、新津丘陵北西側の金津地区に金津丘陵製鉄遺跡群がある。須恵器生産とは薪や木炭などの燃料が共通するところから、近接地域に展開していたと考えられる。このように、古代の秋葉区域の産業は、新津丘陵の須恵器窯や製鉄が中心であったと考えられ、低湿地や潟湖が大部分を占めて

いた越後平野の中で、新津丘陵は重要な位置にあったと思われる。文献史料では確認されていないが、淳足柵や、国府津である蒲原律とも何らかの関係があった可能性がある。

11世紀後半に各地で成立し始めた公領の一つである金津保は、秋葉区域に所在したとされる。金津保の初見は建武3(1336)年11月18日「羽黒義成軍忠状写」で、「同二日、引籠于金津保新津城、对于小国政光以下御敵等、到散々合戦畢」(『新潟県史』資料編4-1935)とあり、北朝方である三浦和田(羽黒)義成は金津保にあった新津城に籠り、南朝方の小国政光らと戦ったとある。この史料によって金津保には新津城が含まれていたことが分かり、この新津城とは新津城・程島館・東島城のいずれかであろうとされる〔木村1989〕。また天正5(1577)年「三条衆給分帳」に「金津保之内遊川」(『新潟県史』資料編5-2704)とあり、遊川は田上町湯川とみられ、さらに天文13(1544)年10月10日「上杉玄清定実知行宛行状」・同「長尾晴景副状」(『新潟県史』資料編4-1495・1496)に「金津保下条村」とあるのは、五泉市下条に当たるとされる。以上のことから金津保の領域は年代によって若干違いがあった可能性はあるが、秋葉区～田上町北部と新津丘陵の五泉市側までを含む範囲であったと推定する。

院政期～鎌倉初期には建仁元(1201)年3月4日に「城四郎長茂并伴類新津四郎已下、於吉野奥被誅畢」(『吾妻鏡』)とあり、新津四郎はおそらく金津保に何らかの関連を持つ人物とみられるが、阿賀野川以北に勢力を持ち国衙勢力と対峙する城長茂と行動をともにしている。このことから公領である金津保は国衙勢力と城氏との間で不安定な状況であったことが予想される。また南北朝動乱期には阿賀野川以北の北朝方佐々木加地景綱らと、刈羽・魚沼地域に勢力を置く南朝方の小国氏らの蒲原津を巡っての攻防が続き、阿賀野川流域である金津保(つまり秋葉区域)は、その中で拠点の一つとして注目されていた。その後も越後守護となった上杉氏や守護代長尾氏にとって、その支配に抵抗する阿賀野川以北の国人層や本庄・式部・中条・佐々木加地氏らを統制するために金津保は地理的に極めて重要な拠点であった。そのため金津保は国衙領として守護の支配下に置かれることとなる。

第4節 新津周辺の近世三国街道 (第9図)

細池寺道上遺跡第48次調査では、近世の道路状遺構が2条検出された。道は小規模のため近世集落内の地割といったものと推定される(第七章Cで後述する)。また、これまでの調査で道路と思われる遺構が多数検出されており、集落間を結ぶ道のような指摘がされている〔潮田2014、立木・相澤ほか2014、遠藤・青木2015、立木・奈良ほか2017・2018〕。このような状況をふまえ、本節では遺跡周辺の近世期の道に簡単にふれたい。

まず近世以前からある道について古代からみってみる。本遺跡周辺の道について詳細な記録はない。平安時代に編纂された『延喜式』(927年)によると、古代北陸道の記述があり駅名は主に海岸沿いの各地が記されている。現在の長岡市(旧和島村)に所在する八幡林遺跡では、蒲原郡司と郡内の青海郷の役人とのやり取りが記された木簡が出土している。この木簡は通行手形の機能を持つようで、八幡林遺跡で接取され廃棄されたものとされる〔田中・桑原1994〕。ここに登場する青海郷は現在の加茂市周辺とされる。また、八幡林遺跡には古代北陸道の大家駅があったとされており、このことから加茂市周辺から北陸道へと通じる道があったことが推測される。中世では、南北朝時代～室町時代初期に成立した「義経記」の中に道の記述がみられる。直江津、弥彦、乗足、蒲原といった地名がみられ、義経一行は日本海ルートを北へ向かっていたことが記されている。この他にも中世期の文献には、現在の村上市や聖籠町、新潟市、寺泊町、出雲崎町、柏崎市、上越市といった日本海側の地名がみられるため、県内を縦断するのは海沿いの北陸道が主要道であったことが窺える。近世になると文献も増え、道の様子がより具体的に記されている。正保年間に編纂された正保国絵図(1644～1651年)には、内陸部の街道の様子が描かれている。街道は様々な本道や間道と交わりながら長岡城下から村上市下を結ぶ道として延びており、本遺跡の周辺にも通じている。新津―飯柳―金屋―新郷屋―分田渡しの区間は、北国脇往還と呼ばれ、新発田藩が領地内統治と三国街道へ通じる道として、享保期以降に整備されたようである〔桑原1988〕。

さらに北国脇往還を詳しくみる。現在の道と合わせた『三国街道(中通り)』〔小松ほか1995〕の解説によると、

古くは宿場町として栄えていた JR 新津駅付近の本町四丁目から三丁目へと現在では繁華街となっている場所を通り、三丁目から二丁目へと抜ける。二丁目には通称「小揚小路」があり、その奥にあるお堂の中に中世石仏が安置されている。二丁目から先へ進むと、能代川の左岸にあったとされる船着場へと突き当たる。能代川沿いに発達する自然堤防上の道を進み、明暦二年（1656年）に架設された新津大橋を渡り、新町通りへと出る。新町通りからは道を東に進み金沢町、そこから南東に向きを変え柄目木、さらに飯柳付近で再び東に方向を変え金屋へと至る。金屋には「右ハハツ梅・左ハにかた道・天保四年巳年」と刻まれた道標がある。昭和十二年（1937年）に現在の地に移され、元は京ヶ瀬（ハツ梅〈梅護寺〉）と新潟（にかた）方面に通じる分岐点である上金沢地区から堤集落に向かう三叉路に建てられていたようである。金屋から先は、東に進み新郷屋付近の阿賀野川に着く。対岸には水原町分田の稗河原場に向かう渡船場があったとされる。第9図は上述した『三国街道（中通り）』より転載した図で、そこに本遺跡の位置を加筆し示したものである。これをみると本遺跡南の側に脇往還が通っており、遺跡は交通の要所である三叉路付近に位置していることが分かる。

この脇往還は江戸中期以降には新発田藩の主要街道の一つであった。寛政元年（1789年）には、街道筋にある古田新田が新たに継所に指定された。また、荻島は寛政上知以来本継所となり、新津から荻島一亀田の両継所を通して、沼垂への往還もあった〔小村式ほか1990〕。このように本遺跡周辺は、近世期になると長岡から村上間に加え、沼垂町のある新潟港への往還、そして会津といった交通の要所であったといえる。



第9図 細池寺道上遺跡周辺の三国街道中通りの様子（〔小松ほか1995〕より転載・加筆）

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 試掘・確認調査（第10・11図、図版4、第3表）

両新地区ほ場整備事業に伴う試掘・確認調査は、平成13～18年度にほ場整備事業区域全域を行っている。平成13年度には1,147.5m²、平成14年度には1,701m²、平成15年度には490.5m²、平成16年度には40.05m²、平成17年度には154.5m²、平成18年度には24m²の計3,557.55m²を行い、平成27年度に85.5m²を追加して3,643.05m²となった。

平成28年度本発掘調査（第48次調査）地点は、B地区（図版4参照）である。各トレンチと第48次調査区との位置関係は第10図に、各トレンチの土層柱状図を第11図に示した。基本層序の説明は第IV章第2節に示した。

第48次調査区の現況は田である。柱状図に示したとおり現地表面（G・L）から0.3～0.6mで遺構確認面に達する。Ⅲ層土が欠落するトレンチが多く、大部分は大正時代から昭和初期に行われた区画整理事業の影響と考えられる。遺物包含層であるⅣ層は大部分のトレンチで確認され、良好に遺跡が残存している可能性が考えられた。

以上の結果から、平成28年度の細池寺道上遺跡範囲内でのほ場整備において遺跡保護層の確保されない本発掘調査範囲は前述のとおり8,716.71m²となった。

第2節 本発掘調査

A 調査方法

1) グリッドの設定（図版5～7）

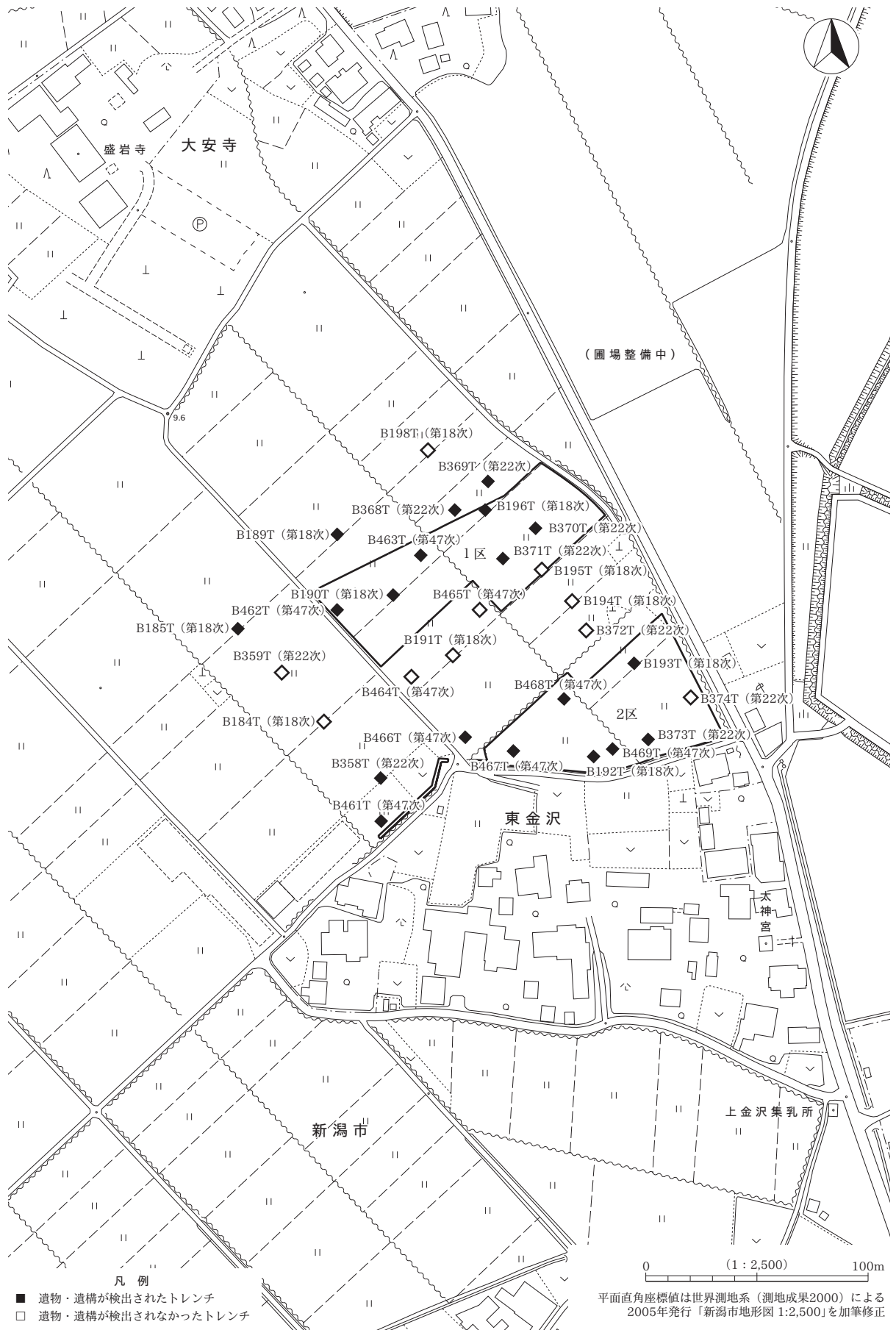
グリッドを設定するにあたっては、世界測地系（測地成果2000）を用いた。平成19年度調査から細池寺道上遺跡の範囲全体にグリッド設定を行った。なお、当該地域では、平成23年の東日本大震災による地殻変動に対応するため、三角点位置および水準点標高の改定が行われているが（測地成果2011）。既存調査との整合をとるため特に断りがない場合には測地成果2000による座標値を掲載している。その基準点はX座標：200400.000、Y座標：56900.000、緯度：37°48′15″.14414、経度139°08′46″.21718（測地成果2011：X座標：200399.790、Y座標：56901.000、緯度：37°48′15″.13710、経度139°08′46″.25792）を1A-1A杭とした。基準点に対し国土地理院の第Ⅷ系座標軸を用いて100mの方眼を組み、これを大々グリッドとした。大々グリッドの名称は北西隅の杭を基点として南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットとし、この組み合わせによって表示した。この大々グリッドに10mの方眼を組み、これを大グリッドとした。大グリッドも大々グリッド同様の表示方法とした。大グリッドをさらに2m方眼に区分して1から25の小グリッドに分割し、「7P-1J5」のように呼称した。基準杭の打設は測量業者に委託した。

調査区内2点の座標は次のとおりである。

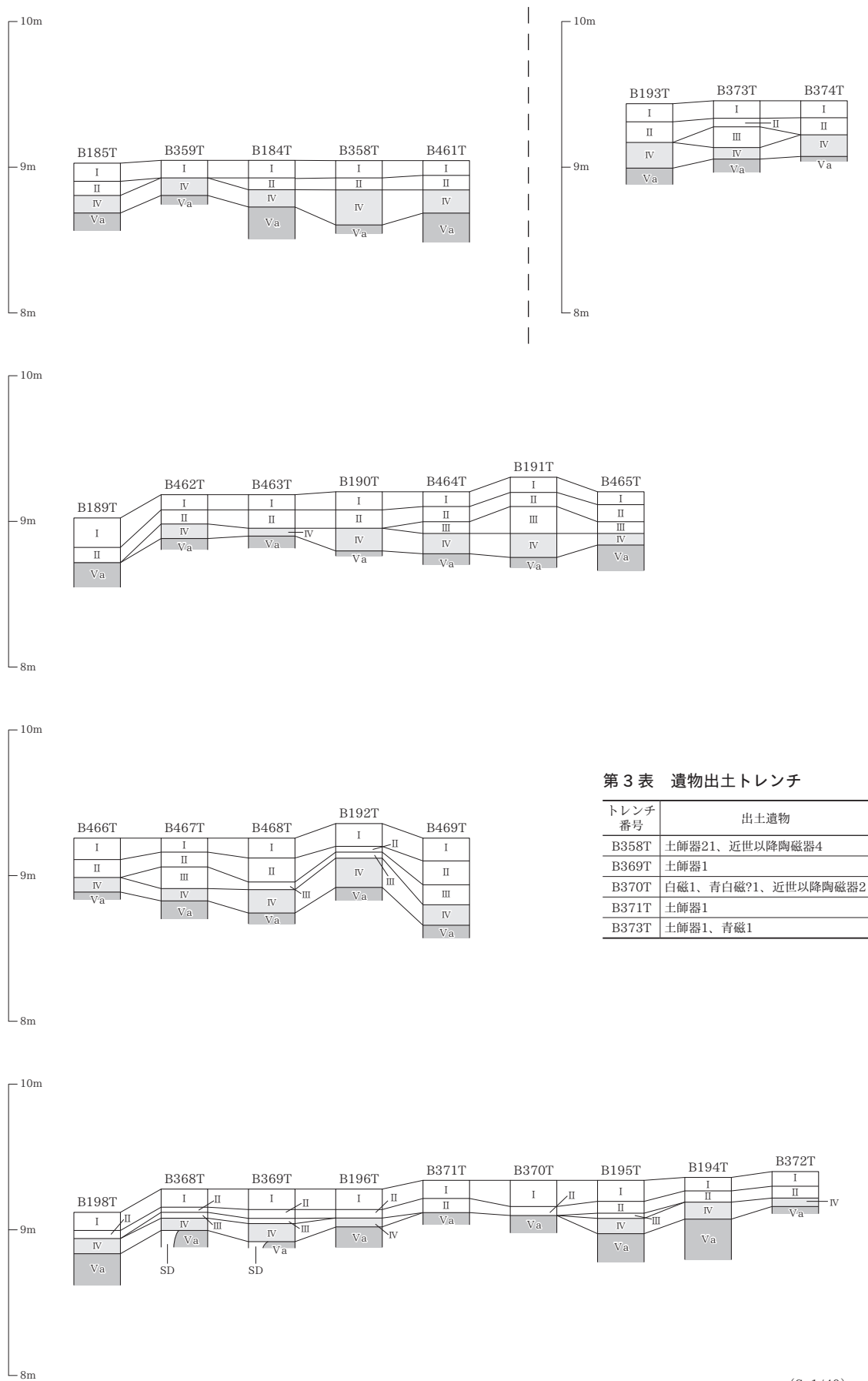
1区14R-1A1 測地成果2000（X座標：199100.000、Y座標：58600.000、標高：9.052m、緯度：37°47′32″.5909、経度139°09′55″.3349）

測地成果2011（X座標：199099.790、Y座標：58601.001、標高：9.052m、緯度：37°47′32″.5839、経度139°09′55″.3758）

14R-1A1 杭で南北方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度24分28秒東



第10図 細池寺道上遺跡試掘・確認調査トレンチ図



第11図 細池寺道上遺跡試掘・確認調査土層柱状図

(S=1/40)

偏し、磁北は真北に対して8度10分00秒西偏する。

2区 14R-9E1 測地成果 2000 (X座標: 199020.000、Y座標: 58640.000、標高: 8.964m、緯度: 37° 47' 29" .9868、経度 139° 09' 56" .9466)

測地成果 2011 (X座標: 199019.790、Y座標: 58641.001、標高: 8.964m、緯度: 37° 47' 29" .9798、経度 139° 09' 56" .9874)

14R-9E1 杭で南北方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度24分29秒東偏し、磁北は真北に対して8度10分00秒西偏する。

2) 調査方法

① 表土剥ぎ: 確認調査によって遺物の出土が多量であることから、遺物包含層(IV層)上面まで、遺物の出土に注意しながら重機(バックホウ)により除去した。排土は横置きした。法面は安全面を考慮して一分の勾配とした。また、湛水防止のために、表土剥ぎと並行して調査区の周囲に土側溝を掘り、2時のポンプで強制排水を行った。土側溝は、幅20cm、深さ20cm程の溝で、壁面を垂直に掘ると崩壊する恐れがあるために緩く傾斜をつけたV字の溝を人力で掘削した。土側溝により遺構の破壊が考えられたが、湛水により調査が不能になることを防ぐ処置である。

② 包含層掘削・遺構検出・発掘: 重機で掘削後、ジョレン等を用いて人力で精査を行い、包含層の掘削・遺構の検出にあたった。排土はベルトコンベア・一輪車を用いて人力で調査区外へ搬出した。

③ 実測・写真撮影: 平面図および各種測量点は測量業者に委託してトータルステーションを用いて作成し、断面図は1/20で手取りおよび写真実測を用いて作成した。あわせて俯瞰写真を撮影した。写真撮影は35mm版、6×7版のカメラを用い、白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜併用した。さらにデジタルカメラでの撮影も行った。

④ 遺物取り上げ: 包含層出土遺物は小グリッドを単位として取り上げた。遺構出土遺物は基本的に個別の点取り上げを行った。

⑤ 自然科学分析: 植物珪酸体分析・花粉分析・種実同定・樹種同定・漆膜分析・リン・カルシウム分析・放射性炭素年代測定(AMS法)・骨同定の科学分析を行った。

B 調査経過

平成28年6月16日から諸準備を開始し、最初に調査区の草刈り、ユニットハウスの建込等を行った。7月1日に市文化財センターより機材搬入を行った。調査担当1名、市調査員1名、民間調査員3名で調査を開始する。7月5日より重機を用いた表土掘削を1・2区ともに開始したが、降雨のため進捗が思わしくない。表土剥ぎと並行して作業員約30名で土側溝掘削、法面仕上げおよび遺構検出準備作業を行い、合わせて、随時ベルトコンベア設置作業を行い、人力掘削を開始した。7月16日より、民間調査員1名を増員し、2区の表土剥ぎを2班で行った。7月25日に1区において方形区画墓のプランを確認した。8月8・10日に略測図作成のためドローンを用いて撮影を行った。8月13～17日は、お盆の行事などで作業員の出勤が極端に少ないため休工した。8月18日から調査を再開し、この頃より登録作業員を70名程度とし、表土剥ぎと並行して遺構精査を開始した。遺構精査は1区は北東側から、2区は東側から行った。8月22日午後は台風10号のため休工した。8月30日も台風11号のため休工した。9月1日より登録作業員を100名程度とし、遺構精査を継続した。9月2日より自然科学分析(植物珪酸体・花粉・樹種同定・種実同定・¹⁴C年代測定等)のサンプリングを随時、調査担当が行った。9月7日で表土掘削を終了し、作業員全員で遺構精査を開始した。8・9月の台風の影響で調査の進捗が遅れが生じたため、10月3日より民間調査員1名を増員した。10月5日に市主催事業「動く市政教室」で20名の見学者があった。10月8日に豪雨の中、現地説明会を開催し地元を中心に71名の参加があった。10月13日には地元の新潟市立新関小学校向けの見学会を行い、児童15名の参加があった。10月19日に市

第3節 整理作業

主催事業「動く市政教室」の第2回見学会があり、13名の見学者があった。11月1日より随時ウォーターセパレーションを使い、井戸・土坑等のサンプリング土の自然遺物等の選別作業を開始する。11月5・7日に高所作業車での写真撮影、11月6日に1区を中心にラジコンヘリコプターによる1回目の空撮を行った。11月25日に2区方形区画墓主体部底面から出土した漆膜の取上げを行った。11月26日には2区を中心として午前中にラジコンヘリコプターによる2回目の空撮、午後を高所作業車での写真撮影を行った。11月30日に調査地全体を対象とした3回目の空撮を行った。12月7日までに遺構精査作業を終了し、12月8日より2区井戸SE734の井戸側に用いられた木桶の取上げ作業に入る。12月12日に1段目の木桶を取り上げ、12月13日に2段目の木桶を取り上げる。その段階で3段目の木桶を確認し、GLより3m以上下になるため、取上げ方法を調査員全員で協議する。12月15日に降雪の中、3段目木桶を取上げる。12月16日に約50cm降雪し、除雪作業を行う。12月18日より測量作業および遺構のダメ押し、下層遺跡が無いことを確認し、12月28日で本発掘調査を終了した。

最終的な調査面積は1区上端面積4,624.93m²・下端面積4,560.29m²、2区上端面積4,091.78m²・下端面積3,987.93m²、合計面積は上端面積8,716.71m²・下端面積8,548.22m²である。

C 調査体制

平成28年度細池寺道上遺跡本発掘調査の調査体制は以下の通りである。

調査期間	平成28年6月16日～平成28年12月28日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 前田秀子）
所管課・事務局	新潟市文化スポーツ部歴史文化課（課長 藤井希伊子、課長補佐 廣野耕造、埋蔵文化財担当係長 朝岡政康） 新潟市文化スポーツ部文化財センター（所長 松田賢一、所長補佐 渡邊朋和・福地康郎、主幹 遠藤恭雄）
調査担当	立木宏明（主査）
調査員	奈良佳子（市文化財センター非常勤嘱託）、細野高伯 吉澤 学 安生素明 菊池康一郎 中里正憲 長澤展生（株式会社シン技術コンサル）

第3節 整理作業

A 整理方法

1) 遺物

遺物量はコンテナ（内寸54.5×33.6×10.0cm）にして226箱（発掘調査終了時点）である。平安・鎌倉・室町・江戸時代の土器・陶磁器・土製品・石製品・金属製品・木製品など各種の遺物がある。

遺物の整理作業は次の手順で行った。① 洗浄 ② 注記 ③ 包含層：種別ごと小グリッド別に重量計測 ④ 遺構：器種別の重量・破片数・残存率計測 ⑤ 接合 ⑥ 報告書掲載遺物の抽出 ⑦ 実測図作成 観察表・集計表作成 ⑧ トレース図作成 ⑨ 写真撮影（デジタルカメラまたは6×7版カメラによる）⑩ 図面図版・写真図版分割付作成 ⑪ 版下作成 ⑫ 収納。このうち⑧と⑩は業者に委託してデジタル編集で行った。

2) 遺構

各種図面の整理にあたっては、まず測量業者に委託した1/20の遺構平面図と手取り等の断面図との校正作業を行った。報告書に掲載する1/100平面図、個別遺構の平面図と断面図を1/40縮尺で組み合わせたものは測量業者が作成し、デジタルデータとした。その後割り付を作成し業者に委託して版下を作成した。

B 整理経過

平成28年度は発掘調査終了後、遺物の洗浄・注記など基礎整理作業を年度内で終了させた。さらに、遺構写

真・図面の整理を行い、あわせて測量業者に委託した遺構平面図・断面図の校正作業を行った。平成 29 年度は報告書作成業務を株式会社シン技術コンサルに委託した。平成 28 年度の発掘調査に参加した民間調査員を中心に整理作業全般を委託し、市の担当職員は遺物実測・共同編集・一部執筆および監理にあたった。作業は遺物計測・遺物実測・デジタルトレース、遺物写真の撮影、図版のレイアウト、報告書の執筆・編集を行った。報告書は平成 30 年度に刊行した。

C 整理体制

平成 29 年度の細池寺道上遺跡の整理体制は以下の通りである。

調査期間	平成 29 年 6 月 20 日～平成 30 年 3 月 31 日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 前田秀子）
所管課・事務局	新潟市文化スポーツ部歴史文化課（課長 藤井希伊子、課長補佐 廣野耕造、埋蔵文化財担当係長 朝岡政康） 新潟市文化スポーツ部文化財センター（所長 外山孝幸、所長補佐 渡邊朋和・福地康郎、主幹 遠藤恭雄）
整理担当	立木宏明（主査）
調査員	奈良佳子（市文化財センター非常勤嘱託）、石川博行 安生素明 重留康弘（株式会社シン技術コンサル）



作業風景



作業風景



現地説明会



新潟市立新関小学校見学会

第 12 図 作業風景・現地説明会風景

第IV章 遺 跡

第1節 概 要

細池寺道上遺跡は阿賀野川左岸の自然堤防上に立地する。標高は現水田面で9～10m前後を測り、北東から南西にかけて緩やかに傾斜する。遺構確認面においても概ね同様の傾斜が認められており、標高8.45m～9.05mを測る。出土遺物は古代（9世紀後半）、中世（13世紀後半から14世紀）、近世（17世紀中頃から18世紀前半、19世紀）のものがみられる。このうち中世と近世の遺物が大半を占め、古代の遺物は少量である。

遺構は1区と2区の全体で確認でき、特に標高が高い2区東側に分布が集中する。出土遺物や覆土の特徴から、室町時代と江戸時代に帰属する。

遺物量は、コンテナ(内寸54.4×33.6×10.0cm)換算で226箱となる。内訳は土器・陶磁器106箱、石製品57箱、金属製品4箱、木製品27箱、自然遺物32箱である。

第2節 層 序 (図版29・30・82・83、写真図版24・36～39・104～106)

基本層序はI～VII層に大別できた。この中で色調や土質、粘性、しまり、混入物などによって細分できる場合は、aやbなどアルファベット小文字で表記し、さらに細分できる場合はアルファベット小文字の後に数字を付した。また、検出範囲が限定的などの理由で上記の細分に当て嵌まらない場合は' (ダッシュ) で表記した。記録に際しては、色調や土質、また粘性やしまり、混入物などに着目した。I層は現水田耕作土、II層は現水田床土である。II層のうち、部分的にしまりの強い箇所については、II'層とした。III層は近代以降の耕作土で、部分的にみられる。IV層は古代・中世の遺物包含層である。IV層はIV'層が存在するが、1区南端のみで確認されており、下面で検出された旧河道の影響を受け変質したと思われる。V層以下は河川堆積に由来する土で、地山である。V層はVa・Vbに細別でき、Va層上面を遺構確認面とした。VI層は細分できる可能性があるが、今回の調査では行っていない。VII層は泥炭層である。

調査区は1区2区ともに北東-南西に長く、最大で1区120m、2区160mを測る。大正末から昭和20年代に行われた耕地整理などによって削平されており、1区中央西寄り付近では包含層は残存していなかった。また、1区では旧河道とみられる落ち込みが、調査区南端と、中央付近を東西に横断する流路として確認された。遺構確認面であるVa層は酸化しており、長期間帯水することなく安定した状態であったことが窺える。

I 層	黒褐色 (10YR3/2) シルト	粘性弱	しまり強	表土	層厚 25～30cm
II 層	褐灰色 (10YR4/1) シルト	粘性弱	しまり弱	床土	層厚 5～15cm
II' 層	褐灰色 (10YR4/1) シルト	粘性弱	しまり強	床土	層厚 15～20cm
IIIa 層	褐灰色 (10YR5/1) シルト	粘性なし	しまり弱	部分的に見られる	層厚 5～20cm
IIIb 層	褐灰色 (10YR5/1) シルト	粘性なし	しまり弱	部分的に見られる	IIIa層よりも色調暗い 層厚 5～15cm
IV 層	黒褐色 (10YR3/1) シルト	粘性なし	しまり強	古代・中世遺物包含層	層厚 25～30cm
IV' 層	褐灰色 (10YR4/1) シルト	粘性強	しまりやや強	Va層土粒を少量含む	旧河道上層にあたる 層厚 10cm

- Va 層 にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト 粘性なし しまりやや強 遺構確認面 層厚 20～50cm
- Vb1 層 灰黄褐色 (10Y5/2) 砂質シルト 粘性弱 しまりなし 砂を含む 漸移層 層厚 8～25cm
- Vb2 層 暗黄褐色 (2.5YR5/2) 砂 粘性なし しまりなし 層厚 30cm
- Vb3 層 暗黄褐色 (2.5YR5/2) 砂質シルト 粘性弱 しまりなし 漸移層 層厚 30cm
- Vb4 層 褐灰色 (10YR6/1) シルト 粘性強 しまりなし 層厚 15cm 以上
- VI 層 褐灰色 (10YR6/1) 砂質シルト 粘性なし しまりなし 層厚 1.7m
- VII 層 青灰色 (5BG6/1) 砂 粘性なし しまりなし 黒色腐植土層 (ガツボ層) 有機物・礫など含む
層厚 80cm 以上

第3節 遺 構 (図版 13～181、写真図版 6～239)

A 遺構の概要

遺構番号は、区毎に1から通し番号を付したが、整理時に遺構でない判断したものについては欠番とした。記述は、1区、2区の順とし、概要からはじめ井戸 (SE)、土坑 (ST・SK)、性格不明遺構 (SX)、溝 (SD)、小土坑 (Pit)、区画墓 (SZ)、掘立柱建物 (SB)、柵 (SA)、畑 (SN)、旧河道 (NR)、道路状遺構の順に記す。同一調査区内の同種遺構については、時期の別にかかわらず、概ね北から南へと順次記す。遺構の形態分類は、平面形は円形・楕円形・方形など7種類に、断面形は台形・箱形・皿形など8種類に分類した。

今回の調査で検出した遺構総数は、1区が870基、2区が2,027基の総数2,897基である。遺構の多くは遺構確認面であるVa層上面で検出されているが、一部の遺構は遺物包含層IV層から掘り込まれているものも確認されている。遺構内からは、須恵器、土師器などの土器、中世の陶磁器、近世以降の陶磁器が出土しており、これらに加え土人形などの土製品、砥石・硯などの石製品、釘・刀子・銭貨などの金属製品、椀形鍛冶滓などの鍛冶関連遺物、柱根や部材、下駄、漆器などの木製品、烏帽子などの漆塗り製品が出土している。遺構の時期識別は主に出土遺物から行い、遺構の覆土、重複関係、分布状況も加味した。遺構の計測値は別表1に示し、詳細な説明は一部省略している。

B 1 区 の 遺 構

1) 1 区 の 概 要

遺構の検出は基本土層Va層上面で行った。遺構種別と検出数は、井戸 (SE) 1基、墓・埋葬施設 (ST) 1基、土坑 (SK) 33基、性格不明遺構 (SX) 1基、溝 (SD) 154条、小土坑 (Pit) 660基、区画墓 (SZ) 1基、掘立柱建物 (SB) 4棟、柵 (SA) 2列、畑 (SN) 8面、旧河道 (NR) 2条、道路状遺構3条からなり、総数は870基である。

出土遺物及び覆土の観察からこれらの構築年代は古代 (平安時代)～近世以降にわたっている。

遺構番号は検出順に通し番号とし、整理段階で認識した遺構については連番を付した。また、区画墓、掘立柱

第4表 細池寺道上遺跡第48次調査遺構数集計表

	井戸 (SE)	墓・埋葬施設 (ST)	土坑 (SK)	性格不明遺構 (SX)	溝 (SD)	小土坑 (Pit)	区画墓 (SZ)	掘立柱建物 (SB)	柵 (SA)	畑 (SN)	旧河道 (NR)	道路状遺構	合計
1区	古代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	中世	1	1	0	0	20	32	1	2	0	0	0	60
	近世	0	0	22	0	91	223	0	2	0	8	0	346
	近世以降	0	0	5	1	43	49	0	0	2	0	0	100
	不明	0	0	6	0	0	356	0	0	0	0	0	362
	計	1	1	33	1	154	660	1	4	2	8	2	3
2区	古代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中世	20	1	7	1	32	152	1	10	0	2	0	227
	近世	15	0	23	2	25	430	0	7	1	0	2	505
	近世以降	0	0	0	0	0	260	0	9	0	0	0	269
	不明	0	0	74	5	33	914	0	0	0	0	0	1026
	計	35	1	104	8	90	1756	1	17	10	2	0	3
合計	36	2	137	9	244	2416	2	21	12	10	2	6	2897

建物、柵、畑、道路状遺構については、整理段階において個々の土坑、小土坑や溝より抽出したため、遺構毎に新たに番号を付して対応した。

2) 1 区の遺構各説

a 井 戸 (SE)

井戸は1基確認されたが、素掘りで井戸側などの付帯設備は確認されていない。覆土の様相から、中世の所産と推察される。

SE27 (図版 16・31、写真図版 39)

13R-8D4・9に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。開口部の平面は長楕円形、断面は階段形を呈し、南東側にテラス状の張り出しをもつ。井戸側板などは確認されておらず、素掘りの井戸である。覆土は8層に分けられ、Va層土ブロックが混入する黒褐色シルトが主体となる。主軸方向はN-31°-Wを指す。規模は長軸2.55m、短軸1.39m、深さ1.38mを測り、底面標高は7.57mである。遺物は出土していない。

b 土 坑 (SK)

土坑は33基検出した。

SK58 (図版 16・31、写真図版 39・40)

13R-7D14・19に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。平面形は不整形、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-80°-Wを指す。規模は長軸1.55m、短軸1.04m、深さ0.08mを測る。遺物は出土していない。

SK66 (図版 16・31、写真図版 40)

13R-7E21・22、8E1・2に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。平面形は楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-52°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長軸0.73m、短軸0.52m、深さ0.06mを測る。遺物は出土していない。

SK68 (図版 16・31、写真図版 40)

13R-8D15に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。Pit67に切られる。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-80°-Wを指す。規模は長軸0.82m、短軸0.47m、深さ0.15mを測る。遺物は出土していない。

SK256 (図版 16・18・31、写真図版 40)

13R-8C25、8D21、9C5、9D1に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。SD170を切る。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-77°-Eを指す。規模は長軸0.80m、短軸0.40m、深さ0.07mを測る。遺物は出土していない。

SK859 (図版 17・32、写真図版 40・41)

13R-9A4に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。平面形は長楕円形、断面は台形を呈し、覆土は4層に分けられる。底面に小穴があり、柱穴の可能性もある。主軸方位はN-81°-Eを指す。規模は長軸0.98m、短軸0.50m、深さ0.30mを測る。遺物は出土していない。

SK332 (図版 17・32、写真図版 41)

13R-9A18・19・23・24に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD205を切る。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-24°-Eを指す。規模は長軸1.22m、短軸0.62m、深さ0.21mを測る。遺物は出土していない。

SK367 (図版 17・21・32、写真図版 41)

13R-10A1・6に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。NR500を切る。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-16°-Eを指す。規模は長軸1.05m、短軸0.50m、深さ0.30mを測る。1層から磁器徳利が出土している。

SK486 (図版 25・32、写真図版 41)

14R-2B23、3B3 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-34° -E を指す。規模は長軸 1.00m、短軸 0.44m、深さ 0.15m を測る。遺物は出土していない。

SK687 (図版 22・23・26・27・32、写真図版 41・42)

14Q-3E7・8・12・13 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は円形、断面は凹凸のある皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。重機による表土掘削時に上位の遺物が露出してしまい、埋没状況は確認できなかった。主軸方位は N-70° -W を指す。規模は長軸 1.45m、短軸 1.27m、深さ 0.18m を測る。1 層から陶器鉢・壺(唐津)・甕、骨片が出土している。骨片と蔵骨器と思われる陶器が出土していることから、土坑墓と推察される。(図版 195、写真図版 244)

SK688 (図版 22・23・26・27・32、写真図版 42)

14Q-3E12・13 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK689 を切る。平面形は円形、断面は台形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-54° -W を指す。規模は長軸 0.63m、短軸 0.61m、深さ 0.48m を測る。3 層から板材片が出土している。土坑の形状とこの板材がやや立った状態で出土していることから桶の残欠と考えられるとすれば土坑墓の可能性はある。(図版 239、写真図版 284)

SK689 (図版 22・23・26・27・32、写真図版 42)

14Q-3E12・13 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK688、Pit690 に切られる。平面形は長方形、断面は箱形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-74° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 0.70m、短軸 0.57m、深さ 0.15m を測る。遺物は出土していない。

SK684 (図版 22・23・26・27・33、写真図版 42・43)

14Q-3E13 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK691 を切る。平面形は隅丸方形、断面は箱形を呈し、覆土は 5 層に分けられる。主軸方位は N-77° -W を指す。規模は長軸 0.82m、短軸 0.71m、深さ 0.32m を測る。東よりの位置で 5 層上面に方形の板を箱形に組んだものが検出された。西側と南側の側板と天板は残っていないが、SK708 で検出されているものと同類とみられ 1 辺 35cm 前後の方形板 6 枚を組んだ木棺であろう。覆土の堆積状況からみても、天板と西・南側の側板は抜き取られたと考えられる。残る部分も上部は削平されてしまったものであろう。棺の南東隅の近くから鉄釘が出土しており、木棺の組立てに用いられたものかもしれない。木棺の残存規模は、南北 0.35m、東西 0.3m、深さ 0.13m を測る。1 層から陶器鉢・甕、土師質土器蓋、砥石、釘、3 層から土師質土器蓋、釘、板材、4 層から土師質土器蓋が出土している。棺内からの出土遺物はない。棺の存在から土坑墓と推察される。(図版 195・213・236・238、写真図版 245・260・280・282・283)

SK691 (図版 22・23・26・27・33、写真図版 43)

14Q-3E13・14 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK684・686 に切られる。平面形は隅丸方形、断面は箱形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-77° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 0.69m、短軸 0.60m、深さ 0.24m を測る。1 層から陶器甕、3 層から磨石 + 敲石・礫、骨片が出土している。出土遺物から、土坑墓と推察される。(図版 214、写真図版 261)

SK686 (図版 22・23・26・27・33、写真図版 43～45)

14Q-3E13 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK691、Pit848 を切る。平面形は隅丸方形、断面は台形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。遺構確認面で、中央部に径 14～21cm ほどの円形プランが確認でき、その内側を中心に焼骨が集中して出土している。有機質の容器に収骨して埋納していた可能性が高い。主軸方位は N-80° -W を指す。規模は長軸 0.53m、短軸 0.53m、深さ 0.15m を測る。1 層上部の土坑縁近くから陶器鉢・甕が出土した。2 層は炭化物が主体で、木製数珠玉、焼骨が出土している。壁面は焼けていない

が2層の存在から、この場で茶毘に付し、有機質の容器に収骨し小土坑を穿って埋納した墓と推察される。(図版 261、写真図版 308)

SK685 (図版 22・23・26・27・34・35、写真図版 45)

14Q-3E14 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK694・708 を切る。平面形は隅丸方形、断面は箱形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-12° -E を指す。検出した範囲での規模は、長軸 0.48m、短軸 (0.46) m、深さ 0.24m を測る。1層から陶器鉢、砥石・敲石、2層から陶器(越中瀬戸) 播鉢・甕が出土している。(図版 195・196・213・215、写真図版 245・260・262)

SK694 (図版 22・23・26・27・34・35、写真図版 45)

14Q-3E14 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK685 に切られる。平面形は楕円形、断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-89° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 0.47m、短軸 0.39m、深さ 0.07m を測る。底面に円板状の板の残欠とみられる木製品が並んではりつくように出土しており、桶が埋納されていたと考えられる。1層から土師器長甕、磁器碗、敲石が出土している。桶棺を埋納した土坑墓と推察される。(図版 238、写真図版 283)

SK692 (図版 22・23・26・27・34・35、写真図版 45・46)

14Q-3E14 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は隅丸方形、断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-14° -W を指す。規模は長軸 0.38m、短軸 0.35m、深さ 0.11m を測る。1層の中央から集中して焼骨が出土している。SK686 のようなブランは確認できなかったが有機質の容器に収骨後に埋納した可能性がある。南西隅は後世の小土坑で攪乱されたものとみられ、この部分からの骨の出土はなかった。炭化物は認められないので、この場で茶毘に付してはいない土坑墓と推察される。

SK708 (図版 22・23・26・27・34・35、写真図版 46)

14Q-3E14 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK685 に切られる。平面形は隅丸長方形、断面は箱形を呈し、覆土は6層に分けられる。主軸方位はN-75° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 0.72m、短軸 0.65m、深さ 0.57m を測る。土坑中央で6層上に方形の板を箱形に組んだものを検出した。規模は、南北 0.34m、東西 0.34m、高さ 0.57m を測る。主軸方位はN-21° -E である。側面および天板・底板がすべて遺存していたが、天板は土圧によって底板付近まで落ち込んでいた。埋納された木棺と考えられるが、天板と底板の間の層(5層)からは木片が1点出土しているのみで、骨などは確認できなかった。この他には1層から陶器甕が出土している。具体的な葬法を知る手掛りは少ないが、方形木棺の全形を知ることのできる良好な例である。(図版 196・238・239、写真図版 245・283・284)

SK680 (図版 22・23・26・27・36～38、写真図版 46・47)

14Q-3E14・15 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK683 を切る。平面形は方形、断面は台形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-45° -E を指す。規模は長軸 0.90m、短軸 0.90m、深さ 0.21m を測る。1層から陶器甕、陶器(唐津) 皿・鉢、石臼・磨石・敲石・磨石+敲石・礫、骨片、2層から陶器壺、土師質土器蓋、礫が出土している。骨は焼けてヒビがあり、重複するSK683からの混入の可能性が高い。(図版 195・196・213～217、写真図版 245・260～264)

SK683 (図版 22・23・26・27・36～38、写真図版 47・48)

14Q-3E15・20 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK680・681 に切られ、Pit812 を切る。平面形は円形、断面は台形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-73° -E を指す。検出した範囲での規模は、長軸 1.44m、短軸 1.34m、深さ 0.29m を測る。1層から磁器碗、礫、板材が出土している。板材は組んだ状態ではなく、折り重なった状態であった。方形木棺の部材と考えられるが、この場に埋納されていたものか、別の場所で解体したものを埋めたものか不明である。2層は炭化物主体で、炭と灰からなる。磁器碗、木製数珠玉、ガラス製数珠玉が出土している。3層は、炭化物主体で長さ 5cm ほどの炭と灰からなる。木製数珠玉、

ガラス製数珠玉、焼骨が出土している。4層は、炭化物主体で2層と差がほとんどないが、炭化物や灰がプライマリな状態であり、分層した。木製数珠玉が3点、ガラス製数珠玉2点、焼骨が出土している。焼骨は土坑内全体から出土したが、南東隅ではやや高い位置に遺存状態が比較的良好なものがまとまっており、有機質の容器に収骨後埋納されたと考えられる。2～4層のあり方からすればこの場で茶毘に付し、有機質の容器に収骨したものを、小土坑を穿って埋納したものと想定される。(図版196・237・260・261、写真図版245・282・308)

SK681 (図版22・23・26・27・36～38、写真図版48)

14Q-3E15・20、3F11・16に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SK682・683、Pit812・852を切る。平面形は円形、断面は台形を呈し、覆土は7層に分けられる。主軸方位はN-2°-Eを指す。規模は長軸0.77m、短軸0.66m、深さ0.70mを測る。土坑内7層上に桶が据えられた状態で検出された。底板はほぼ完存していたが、側板はごく一部しかなく、天板は2片に分かれて落ちた状態で出土した。箍も残っていた。残存する桶の規模は、0.35m、0.30m、深さ0.13mを測る。2層から台石、4層から敲石、桶蓋上の5層から細かい細工と塗装を施した用途不明の木製品、7層から礫が出土している。骨は出土していないが、桶棺を埋納した土坑墓と推察される。(図版215・217・237・239、写真図版262・263・282・284)

SK682 (図版22・23・26・27・36～38、写真図版48・49)

14Q-3E15、3F11・16に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SK681に切られる。平面形は隅丸方形、断面は台形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-0°を指す。検出した範囲での規模は、長軸1.44m、短軸1.35m、深さ0.24mを測る。検出時に、覆土から陶器甕が露出しており、遺構上部は後世の削平を受けていると考えられる。1層は出土した陶器大甕内の覆土である。2層は人為的に埋め戻した土で、炭化物が多く混入する。3層は大甕を埋設する際に掘りこんだ小坑に充填した土である。4層は炭化物主体で長さ5cmほどの炭と灰からなる。1層から陶器鉢・(越前)甕、磨石+敲石・敲石・礫、木製数珠玉、焼骨片が出土している。土坑内に埋設された甕の下面からも焼骨破片が出土し、覆土中にも混在することから甕内に納骨されていたとは考えられず、甕内の焼骨は二次的に混入したと推察される。2層では中央やや西よりで寛永通宝鉄銭6枚が重なった状態で出土し、東よりで焼骨がまとまって出土している。焼骨は破損が目立ち、収骨されたものと考えられる。3層からは骨が1点出土している。4層では木製数珠玉、ガラス製数珠玉、焼骨片が出土している。土坑北東部から出土している焼骨No.95は、火葬時の原位置を保っているかもしれない。以上のことから、この場で茶毘に付した後に収骨し、2層で土坑を埋めてから小土坑を穿ち、おそらく有機質の容器に入れた骨を埋納したと推察される。甕も2層を埋めた後に据えられているが、蔵骨器として使用されたとは考えにくく、別の目的で設置された可能性もある。甕内から出土している骨については、骨埋納位置と隣接していることから、この骨の一部が二次的に混入した可能性が高い。(図版196・214～216・236・260・261、写真図版245・261～263・281・308)

SK705 (図版22・23・26・27・36～38、写真図版49・50)

14Q-3F16・17に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD446(道路状遺構884)を切る。平面形は円形、断面は階段形を呈する。上位は皿形に傾斜し、中央部は長方形で垂直気味に掘りこまれている。覆土は6層に分けられる。主軸方位はN-77°-Wを指す。規模は長軸0.88m、短軸0.85m、深さ0.42mを測る。覆土を掘削したところ、土坑底面の中央に主軸に沿って細長い板材が出土した。その材に直交して2条の箍の痕跡が確認できた。箍痕は壁に向かって緩やかに弧を描くように立ち上がり、また、底面には籠目状の破片が遺存していたが、雨による湧水で消失してしまった。これらのことから、籠や行李のような籠目状の素材を使用した容器を棺とした土坑墓であった可能性が考えられる。4・5層が棺の位置に相当し、6層は掘方の埋土である。1層から陶器鉢、砥石・敲石・礫、2層から磁器大德利、陶器鉢、陶器(越前)甕・礫、5層から骨が出土している。覆土に含まれる炭化物は、隣接するSK682から混入したものと推察される。(図版196・213・215・216・238、写真図版245・260・262・263・283)

SK700 (図版 22・23・26・27・39・40、写真図版 50)

14Q-3F12 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は隅丸長方形、断面はやや不整形な皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-90° を指す。規模は長軸 0.71m、短軸 0.59m、深さ 0.13m を測る。1 層から陶器甕、軽石製石製品が出土している。(図版 217、写真図版 264)

SK706 (図版 22・23・26・27・39・40、写真図版 50・51)

14Q-3F12・17 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK707・810、SD446 (道路状遺構 884) を切る。平面形は楕円形、断面は階段形を呈する。上位は皿形に傾斜し、中央部は長方形で垂直気味に掘りこまれている。覆土は 6 層に分けられる。6 層は炭化物主体で、多量の炭と灰からなる。主軸方位は N-5° -W を指す。規模は長軸 1.28m、短軸 0.92m、深さ 0.42m を測る。1 層から陶器鉢、陶器 (唐津) 甕、敲石・台石・礫、包丁・釘、木製数珠玉、4・5・6 層から木製数珠玉、ガラス製数珠玉、焼骨が出土している。以上のことから、この場で茶毘に付して 6 層が形成され、取骨の後 (2～) 5 層で埋めたものと考えられ、1 層は 6 層上面まで達していることから骨の埋納のため掘られた土坑があった可能性もあろう。(図版 216・217・236・260・261、写真図版 263・280・308)

SK707 (図版 22・23・26・27・39・40、写真図版 51・52)

14Q-3F12・13・17・18・22・23 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK706 に切られ、SK810・811、SD446 (道路状遺構 884) を切る。平面形は隅丸長方形、断面は台形を呈するが、中央で一段落ち込む。覆土は 6 層に分けられる。主軸方位は N-2° -E を指す。検出した範囲での規模は、長軸 2.53m、短軸 0.80m、深さ 0.31m を測る。1 層から磁器碗、陶器皿・鉢 (唐津)、礫、3 層から陶器鉢 (唐津)・甕、木製数珠玉、4 層からガラス製数珠玉が出土している。陶器鉢は南側、陶器甕は北側に集中して出土した。土坑中央部はやや窪み、覆土には少量の炭化物や焼骨片が含まれる。この場で茶毘に付した後、炭化物を取り除き、埋め戻したのであろうか。陶器の鉢と甕は、比較的残りが良いことからこの場に埋納された蔵骨器のセットであった可能性が高いが、破損状況からは当土坑はかなりの深さまで攪乱されているとみななければならない。(図版 197・260・261、写真図版 245・246・308)

SK811 (図版 22・23・26・27・39・40、写真図版 52)

14Q-3F17・18 に位置する近世の遺構である。SK810 掘削時に Va 層下面で検出した。SK707・810 に切られる。平面形は方形、断面は箱形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-38° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 (0.45) m、短軸 (0.42) m、深さ 0.20m を測る。遺物は出土していない。

SK810 (図版 22・23・26・27・39・40、写真図版 52)

14Q-3F12・13・17・18・23 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK663・706・707、SD672、Pit665 に切られ、SK811、道路状遺構 884 を構成する SD446・598 を切る。平面形は長楕円形、断面は凹凸のある箱形を呈する。覆土は 6 層に分けられる。主軸方位は N-48° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 3.00m、短軸 1.54m、深さ 0.48m を測る。1 層から陶器鉢が出土しているのみである。覆土は Va 層土ブロックが主体であり、風倒木などの可能性が示唆されるものの、判然としないことから性格不明である。

SK663 (図版 22・23・26・27・41、写真図版 52)

14Q-3F18・19 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。SK810、SD448 (道路状遺構 884)・672 を切る。平面形は円形、断面は台形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-90° を指す。規模は長軸 0.81m、短軸 0.69m、深さ 0.48m を測る。遺物は出土していない。

SK540 (図版 23・24・26・41、写真図版 53)

14Q-4G4・9 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は隅丸長方形、断面は台形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。1 層は灰黄褐色シルトで炭化物を多く含む。2 層は炭化物主体で長さ 5cm ほどの炭と灰からなる。主軸方位は N-88° -W を指す。規模は長軸 0.91m、短軸 0.80m、深さ

0.33m を測る。2層から銭貨、木製数珠玉が16点、焼骨片が出土しており、この場で茶毘が行われたと想定される。(図版 236・261、写真図版 281・308)

SK526 (図版 23・24・26・41、写真図版 53)

14Q-4G5・10 に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。平面形は隅丸長方形、断面は台形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-10°-Eを指す。規模は長軸1.18m、短軸0.92m、深さ0.42mを測る。遺物は出土していない。

SK734 (図版 22・23・26・41、写真図版 53)

14Q-3D19・20 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。平面形は円形、断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-24°-Wを指す。規模は長軸0.77m、短軸0.68m、深さ0.13mを測る。遺物は出土していない。

SK787 (図版 23・26・27・41、写真図版 54)

14Q-4E7 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。平面形は円形、断面は箱形を呈する。上面に攪乱があり、攪乱掘削と同時に掘り下げてしまい埋没状況は不明である。主軸方位はN-22°-Wを指す。規模は長軸0.81m、短軸0.74m、深さ0.30mを測る。遺物は出土していない。

c 性格不明遺構 (SX)

性格不明遺構は、中世の区画墓(ST1)を切る1基のみが検出されている。遺物は出土しておらず、時期の詳細は不明だが、覆土の特徴から近世以降に掘削されたものと推察される。

SX885 (図版 25・42・55、写真図版 54)

14R-2A24 に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。ST1、SZ865を切る。平面形は楕円形、断面は皿形を呈する。主軸方位はN-70°-Eを指す。規模は長軸0.90m、短軸0.74m、深さ0.14mを測る。遺物は出土していない。

d 溝 (SD)

溝は154条検出されている。これらの大半は区画溝や道路状遺構、畑跡とみられるもので、単に排水のために使用されたものは少ない。

SD194 (図版 16・42、写真図版 54)

13R-7E21、8E1 に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。Pit13(SA870)に切られる。断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-64°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ1.63m、上端幅0.10～0.28m、深さ0.05mを測る。遺物は出土していない。

SD28 (図版 16・18・42、写真図版 54)

13R-7C3・4・8～10・15、7D6・11・12・17～19・23～25、8D5、8E1・6・7・12・13・18・19・24・25 に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は台形・皿形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-55°-W・N-62°-E・N-50°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ31.26m、上端幅0.24～0.71m、深さ0.14～0.25mを測る。1層から磨石+敲石が出土している。(図版 214、写真図版 261)

SD170 (図版 16～18・31・42、写真図版 55)

13R-8C25、9C4・5・8～10・12～14・16～18・21、8D17・21・22、9D1 に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。SK256、SD205に切られ、Pit303・822を切る。断面は凹凸の激しい皿形を呈し、覆土は単層である。上層からの踏み込み圧痕と想定される。SD487と同一の可能性あり。主軸方位はN-47°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ15.59m、上端幅0.27～0.56m、深さ0.13mを測る。遺物は出土していない。

SD180 (図版 18・42、写真図版 55)

13R-9E17・18・23・24 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit190 に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-50° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 5.07m、上端幅 0.15 ~ 0.29m、深さ 0.05 ~ 0.22m を測る。遺物は出土していない。

SD262 (図版 18・42、写真図版 55・56)

13R-9E23・24 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-51° -W を指す。規模は長さ 1.85m、上端幅 0.21 ~ 0.47m、深さ 0.10m を測る。遺物は出土していない。

SD212 (図版 18・42、写真図版 56)

13R-9D14・18・19・23 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-33° -E を指す。規模は長さ 5.43m、上端幅 0.12 ~ 0.51m、深さ 0.10m を測る。遺物は出土していない。

SD205 (図版 17・43・61・65、写真図版 56・57)

13Q-9J2~4・6~10・13~15、13R-9A6・7・11~15・17~20・25、9B11・16~25、9C16・21~24、10B5、10C1~5・8~10、10D1~10・13~15、10E6~8・11・12 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK332、SN874 を構成する SD88・115・117・119・121・123・125・126・127・128・129・130・134・135・137・138・139・140・141・142・143、SD204・333・409・445 に切られ、SD170、Pit299・378・826・827・828・839・860、NR500 を切る。断面は V 字形を呈し、覆土は 12 層に分けられる。主軸方位は N-75° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 51.04m、上端幅 2.05 ~ 3.00m、深さ 0.96 ~ 1.30m を測る。2 層から敲石・台石、5 層から土師器無台椀、10 層から台石、12 層から珠洲焼壺が出土している。(図版 194・215 ~ 217、写真図版 244・262・263)

SD409 (図版 18・21・25・43・65、写真図版 56 ~ 58)

13R-10B15・20・24・25、10C1・2・6・7・11・12・16、14R-1B3 ~ 5・8・9・12 ~ 14・17・18・22・23、2B1・2・6・7・11・12・16・17・21・22、3B1・2・6 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD312 (SN875)、Pit365・366・403・405 に切られ、SD205、Pit417・418・423・424・425・478・479・609・613、NR500 を切る。断面は皿形を呈し、覆土は 6 層に分けられる。主軸方位は N-6° -E・N-28° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 34.80m、上端幅 0.95 ~ 1.74m、深さ 0.28 ~ 0.44m を測る。SD205 と連結する。1 層から土師器無台椀、2 層から土師器無台椀、3 層から土師器椀、磨石、5 層から土師器無台椀・長甕が出土している。(図版 214、写真図版 260)

SD204 (図版 18・21・44、写真図版 58)

13R-10C10、10D6・11 ~ 13・17 ~ 19・24・25 位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205 を切る。断面は U 字形半円を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-55° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 10.66m、上端幅 0.25 ~ 0.51m、深さ 0.26 ~ 0.34m を測る。1・2 層から磁器碗が出土している。(図版 198、写真図版 246)

SD433 (図版 17・44、写真図版 58)

13R-8A18・19 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-72° -E を指す。規模は長さ 1.67m、上端幅 0.15 ~ 0.28m、深さ 0.02m を測る。遺物は出土していない。

SD333 (図版 17・43・44、写真図版 58・59)

13Q-8J25、9J5・10、13R-8A16・21、9A1 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205 を切る。断面は台形を呈し、覆土は 9 層に分けられる。主軸方位は N-20° -E を指す。検出した範囲で

の規模は、長さ 5.28m、上端幅 0.81 ~ 1.10m、深さ 0.5m を測る。SD205 と連結する。SD205 と合流することから排水用目的の溝と推察される。遺物は出土していない。

SD143 (図版 17・61、写真図版 93)

13Q-9J15・19・20 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205 を切る。断面は箱形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-17° -E を指す。規模は、長さ 2.39m、上端幅 0.27 ~ 0.40m、深さ 0.19m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD447 (図版 17・19・20・45・67、写真図版 99・100)

13Q-9I13・17・18・21・22、10H10・14・15・19・23・24、10I1・2・6、14Q-1G15・20・24・25、1H2・3・6・7・11・16 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD399・856 に切られる。断面は台形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-36° -E・N-61° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 26.32m、上端幅 0.12 ~ 0.54m、深さ 0.08 ~ 0.23m を測る。14Q-1G24 で SD446 と合流する SD446・448 とともに道路状遺構 884 を構成する。遺物は出土していない。

SD448 (図版 17・19・20・22・24・26・27・45・67、写真図版 99・100)

13Q-9I13・14・18・19・22・23、10H10・15・19・20・23・24、10I1・2・6・7・11、14Q-1G20・24・25、1H2~4・7・8・11・12・16、2F25、2G3~5・7~9・12・13・16・17・21、3F5・9・10・14・15・18・19、3G1 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK663、SD110・399・400・672・856・857 に切れ、Pit754・804・805、NR500 を切る。断面は台形を呈し、覆土は 7 層に分けられる。主軸方位は N-36° -E・N-76° -E・N-32° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 51.69m、上端幅 0.58 ~ 0.98m、深さ 0.11 ~ 0.54m を測る。SD446 の南側を平行して南西へと走行し、同溝とともに道路状遺構 884 を構成する。また、南西部では遺構の重複が激しく、溝が断絶する。途切れた先には、SD598 が位置する。深度がやや異なるが、方向性の一致から SD598 は本溝と同一の可能性が高い。1 層から磨石、4 層から青磁皿(盤)、5 層から須恵器横瓶、6 層から磨石が出土している。(図版 194・213、写真図版 244・260)

SD616 (図版 19・49、写真図版 65)

13Q-10G23 ~ 25、14Q-1G4・5、1H1 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD617 に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-80° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 6.08m、上端幅 0.14 ~ 0.50m、深さ 0.11m を測る。遺物は出土していない。

SD88 (図版 17・61、写真図版 93)

13R-9A8・13 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205 を切る。断面は台形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-25° -E を指す。規模は長さ 0.99m、上端幅 0.13 ~ 0.37m、深さ 0.04m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD110 (図版 17・45・61・67、写真図版 93・94)

13Q-9I14・19 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD448 を切る。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-18° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 1.50m、上端幅 0.15 ~ 0.24m、深さ 0.09m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD111 (図版 17・61、写真図版 93・94)

13Q-9I14・15・19 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-19° -E を指す。規模は長さ 2.20m、上端幅 0.13 ~ 0.25m、深さ 0.06m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD112 (図版 17・61、写真図版 93・94)

13Q-9I15・19・20 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-15° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 3.02m、上端幅 0.12 ~

0.28m、深さ 0.08m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD113 (図版 17・61、写真図版 93・94)

13Q-9I10・15・20 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-16° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 3.50m、上端幅 0.10 ~ 0.38m、深さ 0.06m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD114 (図版 17・61、写真図版 93・94)

13Q-9I10・15・20、9J6・11 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-17° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 3.91m、上端幅 0.11 ~ 0.25m、深さ 0.06m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD115 (図版 17・43・61、写真図版 93・94)

13Q-9I15・20、9J6・11・16 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205、Pit377 を切る。断面は V 字形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-17° -E である。検出した範囲での規模は、長さ 4.70m、上端幅 0.13 ~ 0.28m、深さ 0.15m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD116 (図版 17・61、写真図版 93・94)

13Q-9I20、9J16 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は台形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-19° -E を指す。規模は長さ 1.08m、上端幅 0.16 ~ 0.19m、深さ 0.08m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD117 (図版 17・43・61、写真図版 93・94)

13Q-9I20、9J6・11・16 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205 を切る。断面は階段形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-19° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 5.51m、上端幅 0.10 ~ 0.27m、深さ 0.15m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD118 (図版 17・61、写真図版 93・94)

13Q-9J16 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-20° -E を指す。規模は長さ 1.12m、上端幅 0.15 ~ 0.24m、深さ 0.08m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD119 (図版 17・43・61、写真図版 93・94)

13Q-9J7・11・12・16・21 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205 を切る。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-19° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 6.10m、上端幅 0.16 ~ 0.32m、深さ 0.08m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD120 (図版 17・61、写真図版 93・94)

13Q-9J16・21 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は階段形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-18° -E を指す。規模は長さ 1.59m、上端幅 0.25 ~ 0.31m、深さ 0.14m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD121 (図版 17・43・61、写真図版 93・94)

13Q-9J2・7・11・12・16・17・21 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205 を切る。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-17° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 6.82m、上端幅 0.08 ~ 0.25m、深さ 0.07m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD122 (図版 17・61、写真図版 93・94)

13Q-9J16・17・21 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-18° -E を指す。規模は長さ 2.55m、上端幅 0.17 ~ 0.26m、深さ 0.05m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD123 (図版 17・43・61、写真図版 93・94)

13Q-9J2・3・7・8・12・16・17・21・22 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205 を切る。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-18° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 7.82m、上端幅 0.12 ~ 0.24m、深さ 0.09m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD124 (図版 17・61、写真図版 93・94)

13Q-9J17・21・22 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-14° -E を指す。規模は長さ 2.29m、上端幅 0.13 ~ 0.31m、深さ 0.07m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD125 (図版 17・61、写真図版 93・94)

13Q-9J3・7・8・12・17・22 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205 を切る。断面は台形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-18° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 8.59m、上端幅 0.07 ~ 0.33m、深さ 0.05m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD126 (図版 17・61、写真図版 93・94)

13Q-9J3・8・12・13・17・18・22 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205・445 を切る。断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-19° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 9.37m、上端幅 0.13 ~ 0.30m、深さ 0.04m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD127 (図版 17・61、写真図版 93・94)

13Q-9J3・4・8・9・13・17・18・22・23 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205・445、Pit385 を切る。断面は半円形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-17° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 9.43m、上端幅 0.13 ~ 0.37m、深さ 0.07 ~ 0.11m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD128 (図版 17・61、写真図版 92 ~ 94)

13Q-8J24、9J4・8・9・13・14・18・23 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205・445、Pit431 を切る。断面は半円形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-17° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 9.93m、上端幅 0.11 ~ 0.24m、深さ 0.06 ~ 0.08m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD129 (図版 17・61、写真図版 92 ~ 94)

13Q-8J24・25、9J4・5・9・13・14・18・19・23、10J3 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205・445 を切る。断面は台形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-17° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 10.92m、上端幅 0.15 ~ 0.27m、深さ 0.04 ~ 0.06m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD130 (図版 17・61、写真図版 92 ~ 94)

13Q-8J25、9J4・5・9・10・14・18・19・23・24、10J3 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205・445、Pit387 を切る。断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-18° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 11.62m、上端幅 0.16 ~ 0.29m、深さ 0.07m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD131 (図版 17・61、写真図版 93・94)

13Q-9J14・19・23・24、10J3・4 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-17° -E を指す。規模は長さ 4.54m、上端幅 0.09 ~ 0.25m、深さ 0.04m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD132 (図版 17・61、写真図版 93・94)

13Q-9J19・20・24、10J4 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-19° -E を指す。規模は長さ 4.96m、上端幅 0.09 ~ 0.25m、深さ 0.06m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD133 (図版 17・61、写真図版 93・94)

13Q-9J15・19・20・24・25、10J4 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は台形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-19° -E を指す。規模は長さ 6.16m、上端幅 0.10 ~ 0.42m、深さ 0.04 ~ 0.17m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD134 (図版 17・61、写真図版 92 ~ 94)

13Q-9A1・6、9J10・15・20・24・25、10J4・5 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205・445 を切る。断面は箱形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-18° -E を指す。規模は長さ 10.19m、上端幅 0.12 ~ 0.24m、深さ 0.05 ~ 0.11m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD135 (図版 17・61、写真図版 92 ~ 94)

13Q-9J15・20・25、10J5、13R-9A1・6・11 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205・445、Pit382 を切る。断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-17° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 9.92m、上端幅 0.12 ~ 0.38m、深さ 0.02 ~ 0.06m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD136 (図版 17・61、写真図版 93・94)

13Q-9J25、10J5 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit381 を切る。断面は台形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-16° -E を指す。規模は長さ 1.84m、上端幅 0.23 ~ 0.40m、深さ 0.15m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD137 (図版 17・61、写真図版 92・93)

13Q-9J20・25、10J5、13R-9A1・2・6・7・11・16・21 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205 を切る。断面は箱形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-19° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 9.15m、上端幅 0.14 ~ 0.43m、深さ 0.08m を測る。SN874 の畝の一部である。1 層から陶器皿が出土している。

SD138 (図版 17・61、写真図版 93)

13R-9A2・6・7・11・16・21 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205、Pit467 を切る。断面は台形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-17° -E を指す。規模は長さ 8.50m、上端幅 0.14 ~ 0.40m、深さ 0.08m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD139 (図版 17・61、写真図版 93)

13R-9A7・11・12・16・21 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205、Pit468 を切る。断面は V 字形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-19° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 6.72m、上端幅 0.13 ~ 0.40m、深さ 0.12m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD140 (図版 17・61、写真図版 93)

13R-9A7・8・12・16・17・21 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205 を切る。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-18° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 7.45m、上端幅 0.08 ~ 0.40m、深さ 0.04m を測る。SN874 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD141 (図版 17・61、写真図版 93)

13R-9A8・12・13・17・22 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD205、Pit373 を切

る。断面は台形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-18°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ7.22m、上端幅0.13～0.50m、深さ0.04mを測る。SN874の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD142 (図版17・61、写真図版93・94)

13R-9A8・12・13・17・18・22に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD205を切る。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-17°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ6.67m、上端幅0.12～0.29m、深さ0.04mを測る。SN874の畝の一部である。1層から土師器甕が出土している。

SD312 (図版18・21・25・62、写真図版95)

13R-10B25に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD409を切る。断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-47°-Eを指す。規模は長さ0.56m、上端幅0.15～0.34m、深さ0.04mを測る。SN875の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD313 (図版18・21・25・62、写真図版95)

13R-10B25に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-84°-Wを指す。規模は長さ0.51m、上端幅0.14～0.24m、深さ0.05mを測る。SN875の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD314 (図版18・21・25・62、写真図版95)

13R-10B25に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD315を切る。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-65°-Eを指す。規模は長さ0.63m、上端幅0.26～0.35m、深さ0.06mを測る。SN875の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD315 (図版18・21・25・62、写真図版95)

13R-10B25、14R-1B5に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD314に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-64°-Eを指す。規模は長さ0.72m、上端幅0.20～0.35m、深さ0.06mを測る。SN875の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD316 (図版18・21・25・62、写真図版95)

14R-1B5、1C1に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-88°-Wを指す。規模は長さ0.60m、上端幅0.17～0.29m、深さ0.04mを測る。SN875の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD317 (図版18・21・25・62、写真図版95)

14R-1B5、1C1に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-80°-Eを指す。規模は長さ0.45m、上端幅0.15～0.27m、深さ0.03mを測る。SN875の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD318 (図版18・21・25・62、写真図版95)

14R-1B5、1C1に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-86°-Eを指す。規模は長さ0.79m、上端幅0.16～0.27m、深さ0.06mを測る。SN875の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD319 (図版18・21・25・62、写真図版95)

14R-1B5、1C1に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-85°-Eを指す。規模は長さ0.78m、上端幅0.15～0.30m、深さ0.06mを測る。SN875の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD320 (図版18・21・25・62、写真図版95)

14R-1B5、1C1に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-89°-Wを指す。規模は長さ0.64m、上端幅0.29～0.39m、深さ0.11mを測る。

SN875の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD321 (図版18・21・62、写真図版95)

14R-1B5、1C1に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-89°-Wを指す。規模は長さ0.45m、上端幅0.18～0.22m、深さ0.07mを測る。SN875の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD322 (図版18・21・62、写真図版95)

14R-1B10、1C6に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD329を切る。断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-72°-Eを指す。規模は長さ0.51m、上端幅0.15～0.30m、深さ0.04mを測る。SN875の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD325 (図版21・62、写真図版95)

14R-1C7・8・12・13に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD329を切る。断面は台形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-7°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ1.82m、上端幅0.16～0.29m、深さ0.09mを測る。SN876の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD326 (図版21・62、写真図版95)

14R-1C8・13に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-5°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ1.47m、上端幅0.16～0.26m、深さ0.04mを測る。SN876の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD327 (図版21・62、写真図版95)

14R-1C8・13に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-6°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ1.50m、上端幅0.12～0.22m、深さ0.03mを測る。SN876の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD369 (図版21・62、写真図版95)

14R-1C11に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD329を切る。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-85°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ0.48m、上端幅0.11～0.27m、深さ0.06mを測る。SN878の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD370 (図版21・62、写真図版95)

14R-1C11に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD329を切る。断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-70°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ0.57m、上端幅0.14～0.30m、深さ0.10mを測る。SN878の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD371 (図版21・62、写真図版95)

14R-1C11に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD329を切る。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-73°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ0.59m、上端幅0.19～0.27m、深さ0.10mを測る。SN878の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD372 (図版21・62、写真図版95)

14R-1C11に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD329を切る。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-85°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ0.85m、上端幅0.21～0.42m、深さ0.12mを測る。SN878の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD390 (図版21・25・63、写真図版95・96)

14R-1B19・20に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-88°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ1.25m、上端幅0.11～0.17m、深さ0.08mを測る。SN879の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD391 (図版 21・25・63、写真図版 95・96)

14R-1B19・20、1C16 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-84° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 2.80m、上端幅 0.06～0.31m、深さ 0.07m を測る。SN879 の畝の一部である。1 層から軽石製石製品が出土している。(図版 234、写真図版 278)

SD392 (図版 21・25・63、写真図版 95・96)

14R-1B19・20、1C16 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD329 を切る。断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-88° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 3.70m、上端幅 0.08～0.18m、深さ 0.05m を測る。SN879 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD393 (図版 21・25・63、写真図版 95・96)

14R-1B20、1C16 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-87° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 1.82m、上端幅 0.10～0.23m、深さ 0.07m を測る。SN879 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD394 (図版 21・25・63、写真図版 95・96)

14R-1B19・20・25、1C16・21 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD329 を切る。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-85° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 3.49m、上端幅 0.08～0.35m、深さ 0.04m を測る。SN879 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD395 (図版 21・25・63、写真図版 95・96)

14R-1B25、1C21 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-83° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 1.25m、上端幅 0.11～0.27m、深さ 0.05m を測る。SN879 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD396 (図版 21・25・63、写真図版 95・96)

14R-1B25、1C21 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD329 を切る。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-84° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 2.12m、上端幅 0.13～0.20m、深さ 0.05m を測る。遺物は出土していない。

SD397 (図版 21・25・63、写真図版 95・96)

14R-1B25、1C21 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD329 を切る。断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-85° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 2.15m、上端幅 0.18～0.36m、深さ 0.06m を測る。SN878 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD348 (図版 21・25・63、写真図版 96)

14R-1A10・15 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD349・601 を切る。断面は台形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-9° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 3.15m、上端幅 0.26～0.53m、深さ 0.18m を測る。SN877 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD349 (図版 21・25・63、写真図版 96)

14R-1A5・10・15、1B6 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD348 に切られ、SD601 を切る。断面は半円形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-11° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 3.00m、上端幅 0.24～0.40m、深さ 0.14m を測る。SN877 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD350 (図版 21・25・63、写真図版 96)

14R-1B6・11 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は U 字形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-12° -E を指す。規模は長さ 2.41m、上端幅 0.18～0.38m、深さ 0.17m を測る。SN877 の畝の一部である。2 層から土師器長甕が出土している。

SD351 (図版 21・25・63、写真図版 96)

14R-1B6・7・11 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-15°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ 2.45m、上端幅 0.15～0.35m、深さ 0.07m を測る。SN877 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD489 (図版 21・63、写真図版 96)

14R-1A11・16 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-20°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ 2.22m、上端幅 0.20～0.32m、深さ 0.03m を測る。SN880 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD490 (図版 21・63、写真図版 96)

14Q-1J15・20、14R-1A11・16 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-22°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ 1.64m、上端幅 0.48～0.58m、深さ 0.15m を測る。SN880 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD491 (図版 21・63、写真図版 96)

14Q-1J15・20 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-23°-Eを指す。規模は長さ 0.82m、上端幅 0.14～0.25m、深さ 0.09m を測る。SN880 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD630 (図版 19・22・64、写真図版 97)

14Q-1F11・16、1E15・20 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は2層で分けられる。主軸方位はN-15°-Eを指す。規模は長さ 2.33m、上端幅 0.07～0.19m、深さ 0.09m を測る。SN881 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD631 (図版 19・22・64、写真図版 97)

14Q-1F11・16 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-14°-Eを指す。規模は長さ 1.84m、上端幅 0.08～0.20m、深さ 0.05m を測る。SN881 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD632 (図版 19・22・64、写真図版 97)

14Q-1F11 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-11°-Eを指す。規模は長さ 1.46m、上端幅 0.08～0.26m、深さ 0.09m を測る。SN881 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD633 (図版 19・22・64、写真図版 97)

14Q-1F11・12・16・17 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-13°-Eを指す。規模は長さ 2.17m、上端幅 0.09～0.27m、深さ 0.05m を測る。SN881 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD634 (図版 19・22・64、写真図版 97)

14Q-1F12・17 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-3°-Eを指す。規模は長さ 1.83m、上端幅 0.19～0.35m、深さ 0.06m を測る。SN881 の畝の一部である。1層から軽石製石製品が出土している。(図版 217、写真図版 264)

SD635 (図版 19・22・64、写真図版 97)

14Q-1F7・8・12・17 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-10°-Eを指す。規模は、長さ 3.46m、上端幅 0.13～0.44m、深さ 0.03m を測る。SN881 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD636 (図版 19・22・64、写真図版 97)

14Q-1F12・13・17・18 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-11° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 2.69m、上端幅 0.07 ~ 0.39m、深さ 0.10m を測る。SN881 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD637 (図版 19・22・64、写真図版 97)

14Q-1F13・18 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-10° -E を指す。規模は長さ 3.02m、上端幅 0.08 ~ 0.27m、深さ 0.03m を測る。SN881 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD638 (図版 19・22・64、写真図版 97)

14Q-1F18 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-14° -E を指す。規模は長さ 1.55m、上端幅 0.13 ~ 0.31m、深さ 0.07m を測る。SN881 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD639 (図版 19・22・64、写真図版 97)

14Q-1F14・18・19 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-13° -E を指す。規模は長さ 2.92m、上端幅 0.15 ~ 0.30m、深さ 0.04m を測る。SN881 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD640 (図版 19・22・64、写真図版 97)

14Q-1F14・19・24 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-16° -E を指す。規模は長さ 2.59m、上端幅 0.10 ~ 0.37m、深さ 0.07m を測る。SN881 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD641 (図版 19・22・64、写真図版 97)

14Q-1F19・20・24 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-13° -E を指す。規模は長さ 1.38m、上端幅 0.18 ~ 0.33m、深さ 0.05m を測る。SN881 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD642 (図版 19・22・64、写真図版 97)

14Q-1F20・25 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-16° -E を指す。規模は長さ 1.96m、上端幅 0.12 ~ 0.26m、深さ 0.04m を測る。SN881 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD643 (図版 19・22・64、写真図版 97)

14Q-1F25 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD644 に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-78° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 0.48m、上端幅 0.15 ~ 0.20m、深さ 0.06m を測る。SN881 の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD445 (図版 17・19・20・43・45、写真図版 59)

13Q-9J10・14・15・18・19・22・23、10I5・9・10・13 ~ 15・17・18・21・22、10J1・2・6、13R-9A1・2・6、14Q-1G25、1H5・9・10・13・14・17・18・21・22、1I1、2G4・5・9・10、2H1 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SN874 を構成する SD126・127・128・129・130・134・135 に切れ、SD205、NR500 を切る。また、現代の大畦畔下から確認された SD856・SD857 と連結するが、覆土に差がないことから同時期のものと思われる。断面は凹凸の激しい皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-48° -E である。検出した範囲での規模は、長さ 47.70m、上端幅 0.32 ~ 0.65m、深さ 0.09m を測る。遺物は出土していない。

SD451 (図版 19・45・67、写真図版 59)

13Q-9I17 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。SD446 (道路状遺構 884) を切る。断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-15° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 0.68m、上端幅 0.21 ~ 0.26m、深さ 0.14m を測る。遺物は出土していない。

SD400 (図版 17・45・67、写真図版 60)

13Q-9I13・18・23 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。SD448 (道路状遺構 884) を切る。断面は箱形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-17° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 2.45m、上端幅 0.12 ~ 0.25m、深さ 0.06m を測る。遺物は出土していない。

SD399 (図版 17・19・45、写真図版 59・60)

13Q-9I18 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。道路状遺構 884 を構成する SD447・448 を切る。断面は箱形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-17° -E を指す。規模は長さ 1.37m、上端幅 0.15 ~ 0.30m、深さ 0.4m を測る。遺物は出土していない。

SD446 (図版 19・20・22 ~ 24・26・27・45・67、写真図版 99・100)

13Q-9I16・17・21・22、10H5・9・10・13 ~ 15・18・19・22・23、10I1、14Q-1G10・14・15・19・20・23・24、1H1 ~ 3・6・7・11、2F15・20・24・25、2G2・3・6 ~ 8・11・12・16・21、3E25、3F3 ~ 5・8・9・12・13・16・17・21、4E5・10、4F1 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK705・706・707・810、SD451・672・703・856・857 に切られ、SD447・577 (道路状遺構 883)・704、Pit470、NR500 を切る。断面は台形を呈し、覆土は 6 層に分けられる。主軸方位は N-36° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 56.01m、上端幅 0.50 ~ 1.38m、深さ 0.12 ~ 0.37m を測る。南側を走る SD448 と平行しながら南西へと走行し、同溝とともに道路状遺構 884 を構成する。2 層から敲石が出土している。(図版 214、写真図版 262)

SD457 (図版 20・45、写真図版 60)

14Q-1J2・3 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は箱形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-19° -E を指す。規模は長さ 1.55m、上端幅 0.16 ~ 0.20m、深さ 0.15m を測る。遺物は出土していない。

SD487 (図版 21・25・45、写真図版 60)

13R-10A25、10B12・13・16・17・21、14R-1A4・5・8・9・11 ~ 13・16・17 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。SD601 を切る。断面は凹凸の激しい皿形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。上層からの踏み込み圧痕の可能性が想定される。SD250、NR500 を挟んで北東側対岸には、走行方向を同じくする SD170 が検出されており、同一遺構の可能性がある。主軸方位は N-47° -E を指す。規模は長さ 18.45m、上端幅 0.22 ~ 0.60m、深さ 0.14m を測る。遺物は出土していない。

SD601 (図版 21・25・45、写真図版 60・61)

14R-1A3・8・9・10、1B6 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD348・349・487 に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-81° -W を指す。規模は長さ 6.40m、上端幅 0.28 ~ 0.54m、深さ 0.08m を測る。遺物は出土していない。

SD488 (図版 21・46、写真図版 61)

14Q-1J25、2J5・10、14R-1A11・16・21、2A1 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-17° -E を指す。規模は長さ 7.23m、上端幅 0.20 ~ 0.50m、深さ 0.06m を測る。遺物は出土していない。

SD606 (図版 21・46、写真図版 61)

14Q-1J20・25、2J4・5、14R-1A16・21 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。重複

関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-18°-E・N-48°-Eを指す。規模は長さ4.35m、上端幅0.15～0.44m、深さ0.1mを測る。遺物は出土していない。

SD323 (図版18・21・46、写真図版61)

13R-10C23、14R-1C2・3に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-37°-Eを指す。規模は長さ2.32m、上端幅0.14～0.38m、深さ0.04mを測る。遺物は出土していない。

SD328 (図版18・21・46、写真図版61・62)

13R-10C21、14R-1C1・6・11・16・21、2C1・6・11に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD329、Pit843を切る。断面は皿形・台形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-16°-W・N-4°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ15.28m、上端幅0.25～0.41m、深さ0.02～0.13mを測る。遺物は出土していない。

SD329 (図版18・21・46・47、写真図版62・63)

14R-1C1・6～11・16・21、1D6・7・11、2B10・15、2C1・6・11、に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD322 (SN875)・324・325 (SN876)・328、SN878を構成するSD369・370・371・372、SN879を構成するSD392・394・396・397に切られ、Pit415・416・843を切る。断面は皿形・V字形を呈し、覆土は7層に分けられる。それぞれの方位はN-0°・N-82°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ22.07m、上端幅0.50～1.22m、深さ0.25～0.43mを測る。L字形に屈曲し、流水の痕跡がないことから区画溝と推察される。1層から砥石・磨石、2層から磁器碗・皿、陶器皿、磨石・磨石+敲石・敲石・台石・礫、3層から礫、4層から磨石・磨石+敲石・敲石・剥片・礫、5層から磨石+敲石・敲石が出土している。(図版198・213～217、写真図版246・260～264)

SD324 (図版21・48・62、写真図版63)

14R-1C7・12・17・22、2C2・7に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD329を切る。断面は皿形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-4°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ9.68m、上端幅0.13～0.35m、深さ0.07～0.25mを測る。遺物は出土していない。

SD480 (図版21・25・48、写真図版63・64)

14R-2B7・12に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-43°-Wを指す。規模は長さ1.05m、上端幅0.20～0.33m、深さ0.05mを測る。1層から磁器碗が出土している。(図版198、写真図版246)

SD407 (図版21・25・48、写真図版64)

14R-2A5、2B1・6に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-60°-Wを指す。規模は長さ1.90m、上端幅0.24～0.34m、深さ0.06mを測る。遺物は出土していない。

SD408 (図版21・25・48、写真図版64)

14R-2A9・10、2B6に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-84°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ2.55m、上端幅0.29～0.43m、深さ0.1mを測る。遺物は出土していない。

SD856 (図版19・20・49、写真図版64)

13Q-10H3・4・9・10・15、10I11・16・17・22・23、14Q-1I3・4・9・10・15、1J11・16・17・22・23、2J2～4に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。道路状遺構884を構成するSD446・447・448、NR500を切る。断面は凹凸の激しい皿形を呈し、覆土は単層である。SD445と連結するが、覆土に差がないことから同時期のものと思われる。主軸方位はN-42°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長

さ 30.10m、上端幅 0.31 ~ 0.70m、深さ 0.15m を測る。遺物は出土していない。

SD857 (図版 19・20・49、写真図版 64)

13Q-10H3・4・8 ~ 10・14・15・20、10I16・21・22、14Q-1I2・3・8・9・14・15・20、1J16・21・22、2J2・3 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。道路状遺構 884 を構成する SD446・448、NR500 を切る。断面は凹凸の激しい台形を呈し、覆土は単層である。SD445 と連結するが、覆土に差がないことから同時期のものと思われる。主軸方位は N-42° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 28.74m、上端幅 0.26 ~ 0.58m、深さ 0.15m を測る。遺物は出土していない。

SD612 (図版 19・49、写真図版 65)

13Q-10H6・7・11・12・16・21、14Q-1H1 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-13° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 9.30m、上端幅 0.18 ~ 0.47m、深さ 0.18m を測る。遺物は出土していない。

SD614 (図版 19・49、写真図版 65)

13Q-10G17・18・22 ~ 25、10H21 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。SD615 を切る。断面は皿形・階段形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-78° -W・N-10° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 7.88m、上端幅 0.28 ~ 0.56m、深さ 0.21m を測る。遺物は出土していない。

SD615 (図版 19・49、写真図版 65)

13Q-10G16・17・22 ~ 25、10H21 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。SD614 に切られる。断面は台形を呈し、覆土は 5 層に分けられる。主軸方位は N-77° -W・N-6° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 8.32m、上端幅 0.20 ~ 0.50m、深さ 0.20m を測る。遺物は出土していない。

SD617 (図版 19・49、写真図版 65)

13Q-10G22 ~ 24、14Q-1G3 ~ 5 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。SD618 に切られ、SD616 を切る。断面は箱形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-78° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 7.48m、上端幅 0.25 ~ 0.48m、深さ 0.14m を測る。遺物は出土していない。

SD618 (図版 19・49、写真図版 65)

13Q-10G22・23、14Q-1G2 ~ 5 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。SD617・619・622 を切る。断面は台形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-78° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 7.38m、上端幅 0.28 ~ 0.70m、深さ 0.15m を測る。遺物は出土していない。

SD619 (図版 19・50、写真図版 66・67)

13Q-10G22、14Q-1G1・2・6・7・11・12 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。SD618 に切られる。断面は台形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-8° -E を指す。規模は長さ 4.18m、上端幅 0.40 ~ 1.00m、深さ 0.20m を測る。遺物は出土していない。

SD620 (図版 19・50、写真図版 66・67)

14Q-1G2・7・12 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。SD621 に切られる。断面は台形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-7° -E を指す。規模は長さ 5.04m、上端幅 0.24 ~ 0.48m、深さ 0.17m を測る。1 層から土師器小甕が出土している。

SD621 (図版 19・50、写真図版 66・67)

14Q-1G2・3・7・12 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。SD620 を切る。断面は台形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-9° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 4.98m、上端幅 0.24 ~ 0.52m、深さ 0.16m を測る。1 層から土師器無台碗、磁器猪口が出土している。

SD622 (図版 19・50、写真図版 66・67)

14Q-1G3・7・8・12・13 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。SD618 に切られる。

断面は台形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-10°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ4.82m、上端幅0.22～0.50m、深さ0.11mを測る。遺物は出土していない。

SD629 (図版19、写真図版67)

14Q-1G12・17に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-0°を指す。検出した範囲での規模は、長さ1.69m、上端幅0.12～0.30m、深さ0.03mを測る。遺物は出土していない。

SD628 (図版19・50、写真図版66・67)

14Q-1G11・12・16に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-7°-Eを指す。規模は長さ1.94m、上端幅0.20～0.60m、深さ0.08mを測る。遺物は出土していない。

SD623 (図版19・50、写真図版66・67)

14Q-1G16・17・21に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は階段形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-12°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ3.68m、上端幅0.29～0.44m、深さ0.16mを測る。1層から陶器皿、砥石が出土している。(図版213、写真図版260)

SD624 (図版19・50、写真図版66・67)

14Q-1G12・17・21・22に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は台形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-15°-Eを指す。規模は長さ4.86m、上端幅0.20～0.60m、深さ0.09mを測る。遺物は出土していない。

SD625 (図版19・50、写真図版66・67)

14Q-1G17・22、2G2に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は台形を呈し、覆土は5層に分けられる。主軸方位はN-15°-Eを指す。規模は長さ4.14m、上端幅0.26～0.84m、深さ0.15mを測る。遺物は出土していない。

SD626 (図版19・50、写真図版67)

14Q-1G17・18・22・23に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は半円形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-13°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ2.66m、上端幅0.17～0.30m、深さ0.12mを測る。遺物は出土していない。

SD627 (図版19・50、写真図版67)

14Q-1G22・23に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-82°-Wを指す。規模は長さ1.10m、上端幅0.20～0.31m、深さ0.06mを測る。遺物は出土していない。

SD644 (図版19・22・50、写真図版67・68)

14Q-1F25、1G21に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。SD643(SN881)を切る。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-67°-Wを指す。規模は長さ1.20m、上端幅0.20～0.25m、深さ0.1mを測る。遺物は出土していない。

SD563 (図版24・50、写真図版68)

14Q-2H22・23、3H3に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-21°-Wを指す。規模は長さ3.34m、上端幅0.35～0.56m、深さ0.07mを測る。遺物は出土していない。

SD647 (図版19・50、写真図版68)

14Q-1E19・20に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-74°-Wを指す。規模は長さ1.03m、上端幅0.17～0.26m、深さ

0.05m を測る。遺物は出土していない。

SD732 (図版 19・22・23・26・27・51、写真図版 68～70)

14Q-1E14・18・19・23・24、2E3・8・12・13・17・18・22、3E2・6・7・11・12・16・21、4E1・6 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。道路状遺構 883 を構成する SD577・600、Pit785・786、NR500 を切る。断面は台形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。SD733 と平行に走行するが、覆土がやや異なる様相を呈することから、造り替えが想定される。また、SD703 と連結するが、覆土に差がないことから同時期のものである。主軸方位は N-10° -E を指す。検出した範囲での規模は、長さ 28.07m、上端幅 0.15～0.58m、深さ 0.04～0.26m を測る。1 層から磁器碗、敲石・礫が出土している。(図版 198・215、写真図版 246・262)

SD733 (図版 22・23・26・27・51、写真図版 68～70)

14Q-1E13・17・18・22・23、2E2・3・7・8・12・17・21・22、3E1・2・6・11・16・21、3D20・25、4D5・10 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。道路状遺構 883 を構成する SD577・600、Pit784、NR500 を切る。断面は台形を呈し、覆土は 6 層に分けられる。SD732 と平行に走行するが、覆土がやや異なる様相を呈することから、造り替えが想定される。主軸方位は N-12° -E を指す。規模は長さ 26.87m、上端幅 0.43～0.78m、深さ 0.16～0.36m を測る。1 層から磁器碗、陶器壺・乗燭、磨石・磨石 + 敲石・敲石・礫、2 層から土師器無台碗、3 層から磁器碗・皿、陶器播鉢、砥石・砥石 + 敲石が出土している。(図版 198・213～216、写真図版 246・260～263)

SD736 (図版 22・52、写真図版 70)

14Q-2D7・8 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。NR500 を切る。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-46° -W を指す。規模は長さ 2.01m、上端幅 0.40～0.45m、深さ 0.06m を測る。遺物は出土していない。

SD776 (図版 22・52、写真図版 70)

14Q-2D20、2E16・17 に位置する近世以降の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。三日月形の圧痕が連続して溝となっていることから耕作痕と推察される。主軸方位は N-60° -E・N-64° -W を指す。規模は長さ 3.35m、上端幅 0.16～0.25m、深さ 0.1m を測る。遺物は出土していない。

SD577 (図版 22・23・26・27・66～69、写真図版 101～103)

14Q-2C24・25、3C4・5、3D1・2・6～9・13～15、3E11・12・16～20・23～25、3F21・22、4F1～3・7～9・13～15・19・20・25、4G16・21・22、5G1～3 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。道路状遺構 884 を構成する SD446・598、SD703・732・733、Pit589 に切られ、SD574 (道路状遺構 882)・696、Pit593・651・652・653・800・809 を切る。断面は台形を呈し、覆土は 7 層に分けられる。主軸方位は N-68° -W・N-41° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 42.99m、上端幅 0.83～1.80m、深さ 0.27～0.45m を測る。SD574 との接点では、方向をやや北寄りに指向し、重複する。溝深度が SD574 より深いことから、SD574 を深掘りしたものと推察される。SD578、SD600 と平行する道路状遺構 883 の構成遺構の一つである。3 層から須恵器甕、土師器長甕、磨石 + 敲石が出土している。(図版 194・214、写真図版 244・261)

SD600 (図版 22・23・26・27・54・66・68・69、写真図版 101～103)

14Q-3D17～19・23～25、3E21・22、4D5、4E1～4・7～10・15、4F6・7・11・12・16・17・21・22、5F1・2・6・7・11 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD576・732・733 に切られ、SD670・696、NR814 を切る。断面は台形を呈し、覆土は 13 層に分けられる。主軸方位は N-10° -E・N-68° -W を指す。検出した範囲での規模は、長さ 28.90m、上端幅 1.10～1.75m、深さ 0.32～0.56m を測る。

L字形に屈曲する本溝は、東西方向に延びる方がSD577と平行する道路状遺構882・883の構成遺構の一つである。3層から珠洲焼甕が出土している。(図版194、写真図版244)

SD795 (図版22・23・26・52、写真図版70・71)

14Q-3D13・14・18・19に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-42°-Wを指す。規模は長さ3.24m、上端幅0.35～0.50m、深さ0.07mを測る。遺物は出土していない。

SD672 (図版22・23・26・52、写真図版71)

14Q-3F12・13・18に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SK663に切られ、SK810、道路状遺構884を構成するSD446・448、Pit813を切る。断面は台形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-52°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ2.60m、上端幅0.30～0.64m、深さ0.34mを測る。1層から陶器鉢が出土している。

SD598 (図版22・23・26・27・67、写真図版101)

14Q-3F18・22・23、4F2・3・7に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SK810に切られ、道路状遺構882・883を構成するSD574・577、Pit671を切る。断面は台形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-31°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ6.12m、上端幅0.68～0.85m、深さ0.18mを測る。深度は異なるが、方向性の一致からSD448と同一の溝の可能性はある。道路状遺構884の構成遺構の一つである。遺物は出土していない。

SD703 (図版22・23・26・27・52、写真図版71)

14Q-3E11～14・18～20、3F16・17・21・22に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。SD446(道路状遺構884)・577(道路状遺構883)・704、Pit853・854を切る。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。SD732と連結するが、覆土に差がないことから同時期のものである。主軸方位はN-75°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ13.45m、上端幅0.21～0.28m、深さ0.05mを測る。1層から磨石・礫、骨が出土している。(図版214、写真図版260)

SD704 (図版22・23・26・27・52、写真図版72)

14Q-3E20、3F16・21に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SD446(道路状遺構884)・703に切られる。断面は箱形を呈し、覆土は3層に分けられる。半截段階ではSKと想定していたが、完掘段階で、SD446と合流することが判明した。切り合いはなく、Va層主体のブロック土で人為的に埋められていた。主軸方位はN-63°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ1.50m、上端幅0.92m、深さ0.40mを測る。遺物は出土していない。

SD696 (図版22・26・27・52・68、写真図版72)

14Q-3E23・24、4E3・4に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SD577・600(道路状遺構882・883)に切られる。断面は台形を呈し、覆土は4層に分けられる。SD577とSD600を繋ぐように位置する。また、SD600を跨いだ先にSD670が位置する。本溝の延長ライン上に位置しているが、幅や覆土が異なることから別遺構と推察される。主軸方位はN-21°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ3.12m、上端幅0.60～0.87m、深さ0.42mを測る。遺物は出土していない。

SD670 (図版23・26・53・66・68、写真図版73)

14Q-4E8・12・13・17・18・23に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SD600に切られる。断面は台形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-4°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ5.17m、上端幅1.36～1.70m、深さ0.55mを測る。走行方向の延長線上に、SD600を挟んでSD696が位置するが、幅や覆土が異なることから別遺構と推察される。遺物は出土していない。

SD599 (図版 23・26・53・66、写真図版 73)

14Q-4E20・25、5E5・10 に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は台形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-7°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ4.98m、上端幅0.68～1.00m、深さ0.32mを測る。遺物は出土していない。

SD574 (図版 23・24・26・27・53・68・69、写真図版 102)

14Q-3F22・23、4F2～5・8～10、4G6～8・11～15・20、4H11 に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SD575・577 (道路状遺構 883)・598 (道路状遺構 884) に切られ、Pit580・587・588・595・668・669 を切る。断面は台形を呈し、覆土は6層に分けられる。主軸方位はN-74°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ16.20m、上端幅1.03～1.37m、深さ0.32～0.47mを測る。SD600とともに、道路状遺構 882 の構成遺構の一つである。2層から土師器鍋が出土している。(図版 194、写真図版 244)

SD575 (図版 23・24・26・53・69、写真図版 73)

14Q-4G15・20 に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SD574 (道路状遺構 882) を切る。断面は台形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-18°-Eを指す。溝はSD574との連結部から大きく落ち込み、標高の低い南西側に伸びる。検出した範囲での規模は、長さ0.80m、上端幅0.42～0.58m、深さ0.48mを測る。遺物は出土していない。

SD578 (図版 23・26・66・68・69、写真図版 103)

14Q-4F17・18・22～24、5F3～5・9・10、5G6・11 に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。NR814 を切る。断面は台形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-50°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ10.55m、上端幅0.75～1.15m、深さ0.22～0.27mを測る。SD577と平行する道路状遺構 883 の構成遺構の一つである。1層から須恵器甕が出土している。(図版 194、写真図版 244)

SD576 (図版 23・54・66・69、写真図版 74・98)

14Q-5F11～15・17・18 に位置する近世以降の遺構である。Va層上面で検出した。SD600 (道路状遺構 882)、NR814 を切る。断面は漏斗形・U字形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-90°を指す。検出した範囲での規模は、長さ7.25m、上端幅0.72～0.85m、深さ0.61～1.07mを測る。1層から陶器挿鉢、土師質土器焙烙、2層から不明木製品、3層から台石が出土している。(図版 198・216、写真図版 246・263)

e 小 土 坑 (Pit)

1区では660基確認されている。これらの多くは掘立柱建物の柱穴や柵または柱列を構成するものと推察される。小土坑は遺構数が多いため、個別の形状や数値については別表1の記載にとどめた。

f 区 画 墓 (SZ)

SZ865 (図版 21・25・55・56、写真図版 16～22・74・75)

14R-2A13～15・18～20・23～25、2B11・16・21、3A3～5 に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。ST1と、ST1を周回するSD2およびSD3から構成される。SX885、SA871を構成するPit360・361・362・363・364に切られ、Pit765・766を切る。SD3の南西隅は調査区外で未検出である。全体の平面形は長方形である。ST1の平面形は隅丸長方形、断面は台形を呈す。主軸方位は、全体ではN-17°-Eを指し、ST1はN-26°-Eと若干東に振れる。規模は、全体の長軸6.80m、短軸5.42m、SD3内側の長軸4.68m、短軸3.61mを測る。ST1の覆土からは人骨や棺などの痕跡は認められなかったが、底面から並んで出土した青白磁合子については副葬品とみられ、埋葬施設(ST1)を溝(SD2・3)によって区画した区画墓と想定される。SD2は、ST1を中心に周回する構造はSD3と同様であるが、ST1の西側から北側、東側へと弧を描くように走行しており、SD3のように方形区画を形成してはいない。重複関係からも、SD3より古い区画であったか、区画墓とは別遺構であった可能性も考えられる。SD3では区画内からの崩落土の堆積が認められることから、区画内に盛土が構築されていた可能性がある。覆土からは珠洲焼片口鉢・壺、軽石製石製品などが出土し

ている。また、採取した土壌サンプルを洗浄選別したところ、5層中から骨片が少量出土しているが、埋葬施設と関連するものであるかは不明である。(図版 194・213～217、写真図版 240・244・260～264)

ST1 (図版 25・55・56、写真図版 16～18・20～22・74・75)

14R-2A19・20・24・25 に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SX885 に切られる。平面形は隅丸長方形、断面は台形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-26°-Eを指す。SZ865の埋葬施設に相当するが、遺構の上部は後世に削平されていると思われ、木棺などの痕跡は認められなかった。検出した範囲での規模は、長軸 2.36m、短軸 0.80m、深さ 0.16m を測る。1層検出面で須恵器短頸壺、底面直上で青白磁合子の身(正位)・蓋(逆位)が並んで出土した。4層から青磁皿小片が出土している。(図版 194、写真図版 240・244)

SD2 (図版 21・25・55・56、写真図版 16・19～22・74)

14R-2A14・15・18～20・23～25 に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SD3 に切られる。走行形状は南北にやや長い馬蹄形を呈す。断面は箱形を呈し、覆土は3層に分けられる。層中にはVa層土ブロックが多く含まれ、人為的埋土とみられる。主軸方位は走行範囲の長軸でN-27°-E、N-74°-E、N-60°-W、N-16°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ 7.26m、上端幅 0.27～0.50m、深さ 0.03～0.16m を測る。遺物は出土していない。

SD3 (図版 21・25・55・56、写真図版 16・19～22・74・75)

14R-2A13～15・18～20・23～25、2B11・16・21、3A3～5 に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。Pit360・363・364(SA871)に切られ、SD2、Pit765・766を切る。断面は台形を呈し、覆土は9層に分けられる。主軸方位はN-20°-E・N-77°-W・N-16°-E・N-75°-Wを指す。形状は南北にやや長い方形を呈する。検出した範囲での規模は、長さ東辺 5.61m、西辺 5.19m、南辺 4.13m、北辺 4.12m、上端幅 0.66～1.30m、深さ 0.26～0.42m を測る。1層から珠洲焼片口鉢、軽石製石製品、2層から磨石・敲石、4層から珠洲焼壺、磨石、6層から敲石+台石が出土している。(図版 194・213～217、写真図版 244・260～264)

g 掘立柱建物跡 (SB)

本遺跡で確認された掘立柱建物跡は計4棟を数えるが、土層観察により柱痕が認められたものの柱列が組めず小土坑として扱った遺構も多くあり、全ての掘立柱建物跡を選出できていない可能性が高い。

SB866 (図版 16・57、写真図版 23・75～79)

13R-7C14・19・20・23～25、7D16・17・21・22、8C5、8D1・2 に位置する中世の遺構である。Pit38・39・41～45・48～50・52・53・55～57・64・71・90 から構成される。重複関係はない。棟方向はN-70°-Wを指す。梁行2間×桁行3間の東西棟の側柱建物と推定され、西面に庇が付く。床面積 22.29m²を測る。規模は、桁行総長 6.48m、梁行総長 3.60m(東面)、3.22m(西面)を測り、東面がやや広がる。桁行の柱間寸法は、北面 1.83～2.37m、南面 1.68～2.88mとなる。身舎の規模は、桁行長 6.48m、梁行長 3.22mを測る。検出された12本の身舎柱穴規模は小さく、柱掘方は、平面円形もしくは楕円形、断面U字形を基調とし、長軸 0.21～0.29m、確認面からの深度は 0.11～0.41mを測る。また、東梁には主柱穴の間に Pit56・64の支柱穴が設置されている。身舎内には Pit44の延長上に Pit41・53の2基の支柱穴が確認できる。柱掘方は、平面円形もしくは楕円形、断面U字形を基調とし、長軸 0.17～0.31m、確認面からの深度は 0.11～0.43mを測る。また、南桁の Pit50と東梁の Pit57延長上に Pit52が位置し、間仕切りと考えられる。柱掘方は、平面円形で断面U字形を呈す。底部柱列は、身舎の桁行西側柱列で 0.78～0.83m外側に位置する。桁行では柱間寸法 1.19～1.99mと身舎の柱穴配置とはややズレが認められる。柱掘方は、平面楕円形で、長軸 0.16～0.20m、断面はU字形を呈し、深度 0.23～0.33mを測る。遺物は出土していない。

SB868 (図版 17・18・58、写真図版 23・80・81)

13R-9B7～9・12～14 に位置する近世の遺構である。Pit267・273・280・282・285・862 から構成

される。重複関係はない。棟方向はN-85°-Wを指す。梁行1間×桁行2間の東西棟の側柱建物と推定される。床面積10.45m²を測る。規模は、桁行長3.84m、梁行長2.88mを測り、桁行の柱間寸法は、北面1.84～2.00m、梁行の柱間寸法は、2.76～2.88mとなる。検出された6本の柱穴規模は小さく、柱掘方は、平面円形もしくは楕円形や隅丸方形、断面箱形、台形、半円形、階段形を呈す。長軸0.24～0.45m、確認面からの深度は0.12～0.32mを測る。遺物は出土していない。

SB869 (図版17・18・58、写真図版23・80～82)

13R-9B8・9・13・14に位置する近世の遺構である。Pit268・274・281・283から構成される。重複関係はない。棟方向はN-81°-Eを指す。梁行1間×桁行1間の東西棟の側柱建物と推定される。床面積4.62m²を測る。規模は、桁行長2.48m、梁行2.00mを測り、検出された4本の柱穴規模は小さく、柱掘方は、平面円形もしくは楕円形、断面皿形、箱形、U字形、漏斗形を呈す。長軸0.25～0.57m、確認面からの深度は0.18～0.43mを測る。遺物は出土していない。

SB867 (図版21・25・58、写真図版82～84)

14R-1A23、2A2～4・8・9に位置する中世の遺構である。Pit492～497から構成される。重複関係はない。棟方向はN-74°-Wを指す。梁行2間×桁行1間の東西棟の側柱建物と推定される。床面積4.56m²を測る。規模は、桁行長2.56m、梁行長1.82mを測り、桁行の柱間寸法は、北面2.52m、南面2.56mとなる。梁行の柱間寸法は、0.90～0.92mとほぼ等間隔である。検出された6本の柱穴規模は小さく、柱掘方は、平面円形もしくは楕円形、断面皿形、半円形、U字形を呈す。長軸0.15～0.36m、確認面からの深度は0.12～0.23mを測る。桁行側より梁行で柱本数が多いが、長さは桁行側のほうが長い。変則的ではあるが、周囲から他にPitが検出されず、配置や平面形態、覆土の類似性から建物とした。遺物は出土していない。

h 柱 列 (SA)

柱列は2列確認された。近世以降の遺構と思われる、主に集落における塀などの区画施設、または稲架木列と考えられる。

SA870 (図版16・59、写真図版84～89)

13R-7C4・5・10、7D6・7・12～14・19・20・25、7E21、8E1・2・7・8・13・14・19・20、8F16・21・22、9F2・3に位置する近世以降の遺構である。19基の小土坑(Pit5～22・102)からなる。両端は調査区外へ延びる。Pit13はPit65、SD194を、Pit19はPit103を切る。小土坑の平面は隅丸長方形を呈し、断面形は皿形、箱形、台形を呈し、覆土は単層もしくは2層である。主軸方向はN-53°-Wを指す。確認長は33.40mを測り、長径0.44～0.71m、深度0.03～0.15mを測る。柱間寸法は1.46～2.0mを測るが、概ね1.8～1.9m間隔の規格が窺える。現在の地割に沿っており、稲架木の可能性が考えられる。遺物は出土していない。

SA871 (図版21・25・60、写真図版89～92)

14R-1A9・14・15・19・20・25、2A5・10・15・20・25、3A5に位置する近世以降の遺構である。14基の小土坑(Pit352～364・368)からなる。南端は調査区外へ延びる。Pit360・363・364はSD3(SZ865)を切る。小土坑の大半は、平面が円形を呈し、断面形はU字形を呈す。覆土は1～3層で分けられ、柱痕が残るものが多い。主軸方向はN-3°-Wを指す。確認長は18.48mを測り、長径0.20～0.33m、深度0.28～0.48mを測る。柱間寸法は1.22～1.60mを測り、規格が窺える。ほぼ南北方向に延びることから、方位を考慮していることが窺える。稲架木の可能性が考えられる。遺物は出土していない。

i 畑 (SN)

畑は8面(SN874～881)確認された。覆土の特徴と遺構の方向性から、いずれも近世の遺構と考えられる。大半の畑が後世の削平を受けており、連続性がないなど不明瞭な状態の小溝群として検出された。

SN874 (図版 17・43・45・61、写真図版 92～94)

13Q-8J24・25、9I10・14・15・19・20、9J2～25、10J3～5、13R-9A1・2・6～8・11～13・16～18・21・22に位置する近世の遺構である。35条の小溝(SD88・110～143)からなり、これらの小溝は、掘削深度の深浅や後世の削平により平面的な連続性が認められない部分も多く見られるが、走行方向と覆土から一連の遺構とした。SD205・445・448、Pit373・377・381・382・385・387・431・467・468を切る。断面は皿形、半円形、箱形、台形、V字形、階段形など多様である。覆土は、1～3層に分けられ、基本土層Ⅲ層が主体となり、Va層土ブロックと黒褐色シルトブロックが混入する。走行方向は、N-14～25°-Eを指す。畝間は0.03～0.52mを測る。検出した範囲での規模は、東西16.10m、南北12.20m、深さ0.01～0.25mを測る。畑を構成する各溝はVa層上面で検出されたが、北壁の土層観察よりⅢ層下面から掘り込まれていることが確認された。SD142の1層から土師器甕が出土している。

SN875 (図版 18・21・25・62、写真図版 95)

13R-10B25、14R-1B5・10、1C1・6に位置する近世の遺構である。11条の小溝(SD312～322)からなり、これらの小溝は、後世の削平や掘削深度の深浅により平面的な連続性が認められない部分もあるが、走行方向と覆土から一連の遺構とした。SD329・409を切る。断面は皿形もしくは台形を呈す。覆土は、基本単層で、基本土層Ⅲ層が主体となり、Va層土ブロックと黒褐色シルトブロックが混入する。走行方向は、N-47・64・65・72・80・84～86・88・89°-E、N-84・88・89°-Wを指す。検出した範囲での規模は、東西0.95m、南北3.65m、深さ0.03～0.11mを測る。畝間は0.02～0.21mを測る。遺物は出土していない。

SN876 (図版 21・62、写真図版 95)

14R-1C7・8・12・13に位置する近世の遺構である。3条の小溝(SD325～327)からなり、これらの小溝は、後世の削平や掘削深度の深浅により調査できた本数は少ないが、走行方向と覆土から一連の遺構とした。SD329を切る。断面は皿形、半円形、台形を呈す。覆土は単層もしくは2層に分けられ、基本土層Ⅲ層が主体となり、Va層土ブロックと黒褐色シルトブロックが混入する。走行方向は、N-5～7°-Eを指す。検出した範囲での規模は、東西1.55m、南北2.05m、深さ0.03～0.09mを測る。畝間は0.46～0.54mを測る。遺物は出土していない。

SN878 (図版 21・62、写真図版 95)

14R-1C11に位置する近世の遺構である。4条の小溝(SD369～372)からなり、これらの小溝は、後世の削平や掘削深度の深浅により調査できた本数は少ないが、走行方向と覆土から一連の遺構とした。SD329を切る。断面は皿形、半円形、台形を呈す。覆土は単層で、基本土層Ⅲ層が主体となり、Va層土ブロックと黒褐色シルトブロックが混入する。走行方向は、N-70・73・85°-Eを指す。検出した範囲での規模は、東西0.90m、南北1.36m、深さ0.06～0.12mを測る。畝間は0.06～0.08mを測る。遺物は出土していない。

SN879 (図版 21・25・63、写真図版 95・96)

14R-1B19・20・25、1C16・21に位置する近世の遺構である。8条の小溝(SD390～397)からなり、これらの小溝は、後世の削平や掘削深度の深浅により平面的な連続性が認められない部分も多く見られるが、走行方向と覆土から一連の遺構とした。SD329を切る。断面は皿形、半円形、台形を呈す。覆土は2層に分けられる。基本土層Ⅲ層が主体となり、Va層土ブロックと黒褐色シルトブロックが混入する。走行方向は、N-83～85・87・88°-Wを指す。検出した範囲での規模は、東西3.90m、南北2.94m、深さ0.04～0.08mを測る。畝間は0.03m～0.38mを測る。遺物は出土していない。

SN877 (図版 21・25・63、写真図版 96)

14R-1A5・10・15、1B6・7・11に位置する近世の遺構である。4条の小溝(SD348～351)からなり、これらの小溝は、後世の削平や掘削深度の深浅により調査できた本数は少ないが、走行方向と覆土から一連の遺構とした。SD348に切られ、SD349・601を切る。断面皿形、半円形、台形、U字形を呈す。覆土は3層に分

けられる。基本土層Ⅲ層が主体となり、Va層土ブロックと黒褐色シルトブロックが混入する。走行方向は、N-9・11・12・15°-Eを指す。検出した範囲での規模は、東西3.03m、南北3.23m、深さ0.07～0.18mを測る。畝間は0.06～1.02mを測るが、0.3m程度が主体であったと推察される。遺物は出土していない。

SN880 (図版21・63、写真図版96)

14Q-1J15・20、14R-1A11・16に位置する近世の遺構である。3条の小溝(SD489～491)からなり、これらの小溝は、後世の削平や掘削深度の深浅により平面的な連続性が認められない部分も多く見られるが、走行方向と覆土から一連の遺構とした。重複関係はない。断面は皿形、半円形を呈す。覆土は単層である。基本土層Ⅲ層が主体となり、Va層土ブロックと黒褐色シルトブロックが混入する。走行方向は、N-20・22・23°-Eを指す。検出した範囲での規模は、東西1.55m、南北2.36m、深さ0.03～0.15mを測る。畝間は0.10～0.24mを測る。遺物は出土していない。

SN881 (図版19・22・64、写真図版97)

14Q-1E15・20、1F7・8・11～14・16～20・24・25に位置する近世の遺構である。14条の小溝(SD630～643)からなり、これらの小溝は、後世の削平や掘削深度の深浅により平面的な連続性が認められない部分も多く見られるが、走行方向と覆土から一連の遺構とした。SD644に切られる。断面は皿形、半円形、台形を呈す。覆土は、2層に分けられ、基本土層Ⅲ層が主体となり、Va層土ブロックと黒褐色シルトブロックが混入する。走行方向は、N-3・10～16°-Eを指す。検出した範囲での規模は、東西9.86m、南北3.77m、深さ0.03～0.10mを測る。畝間は0.31～0.70mを測る。SD634の1層から軽石製石製品が出土している。(図版217、写真図版264)

j 旧河道(NR)

旧河道は2条(NR500・814)確認された。NR500は凡そ西～東へと緩やかに蛇行しながら走行し、1区を横断する。検出された範囲での西端にあたるD-D'での底面標高は8.60m、東端のA-A'では7.90mを測り、東西での比高差が0.70mとなる。南側に近接する2区においては確認されていないことから、東もしくは北東へと延びるものと推察される。

NR814は、調査区南端において部分的に確認された。NR500と同様に、凡そ西～東へと走行するものと推察され、検出範囲が狭いことから詳細な東西比高差も不明である。NR500と同様に2区では検出されていないため、1区と2区の間を走行して東へと延びるか、途中で収束するものと推察される。

NR500 (図版18・20～22・24・43・65、写真図版24・56・57・98)

13Q-10I15・18～20・22～25、10J7～23、13R-9A21～25、9B21～25、10A1～16、10B1～15・20、10C1・2・6～9・11～20・23～25、10D16・17・21～24、14Q-1G25、1H5・9・10・13～15・17～25、1I1～13・16～18・21～23、1J1、2D2～5・7～10・13～15、2E6～15・18～20・24・25、2F6～25、2G4～25、2H1～13・16・17、2I1・2、3F4・5、3G1～3、14R-1C5、1D1～8に位置する古代の自然流路である。Va層上面で検出した。SK367、道路状遺構884を構成するSD446・448、SD205・409・445・732・733・736・856・857、Pit294・295・442・450・673・674・709・710・711・713・714・715・717・726・727・728・758・788・789・790・804・805に切られ、Pit389・398・430・443・452・607・608・759・760・761・762・764・802・803・840・861を切る。断面は皿形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位は、蛇行しているため一定ではないが概ねN-75°～78°-W・N-60°-Eを指す。検出した範囲での規模は、確認長111.80m、上端幅4.50～8.50m、深さ0.13～0.34mを測る。1層から須恵器甕・土師器無台椀、2層から珠洲焼壺、土師器椀・無台椀・長甕、3層から土師器椀、砥石、4層から土師器長甕・小甕、砥石・剥片が出土している。(図版194・213・217、写真図版244・260・264)

NR814 (図版23・26・54・66・69、写真図版98・99)

14Q-5E10、5F3～15・17～20・23・24、5G1・2・6・7・11に位置する古代の自然流路である。Va

層上面で検出した。SD576・578（道路状遺構 883）・600（道路状遺構 882・883）に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-90°を指す。検出した範囲での規模は、確認長 7.0m、上端幅 2.02～6.63m、深さ 0.35m を測る。層位的には、基本土層のIV層とV層の間にあたる。1区でもっとも標高が低くなる。遺物は出土していない。

k 道路状遺構

道路状遺構は3条(道路状遺構 882～884)確認された。いずれも路面部にあたる部分に波板状遺構や硬化面は、明確には確認されていないが、側溝の存在と方向性などによって道路状遺構とした。

道路状遺構 884 (図版 17・19・20・22～24・26・27・45・67、写真図版 99～101)

13Q-9I13・14・16～19・21～23、10H5・9・10・13～15・18～20・22～24、10I1・2・6・11、14Q-1G10・14・15・19・20・23～25、1H1～4・6～8・11・12・16、2F15・20・24・25、2G2～9・11～13・16・17・21、3E25、3F3～5・8～10・12～19・21～23、3G1、4E5・10、4F1～3・6・7に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SK663・705・706・707・810、SD399・400・451・672・703・856・857、Pit754に切られ、SK810、SD447・451・577・704、Pit470・671・804・805、NR500、道路状遺構 882・883を切る。SD446・447・448・598から構成され、SD446と448・598は側溝にあたる。SD448とSD598は同一線上に位置し、同じ遺構である可能性が高い。SD446と448・598の断面は、台形を呈し、覆土はそれぞれ6層、7層、2層に分けられる。主軸方位はN-36°-Eを指す。検出した範囲での規模は、全長(最大)65.9m、側溝間0.38～2.62m、側溝間芯々距離2.32～4.13mを測る。路面にあたる側溝間からは硬化面や波板状遺構は確認できなかったが、浅い溝であるSD447が部分的に検出された。側溝間は平均的に幅約1mを測り、NR500と交差する箇所で狭まり、南西端で幅が広がる。側溝の深度は、NR500付近で深くなり、南西端で浅くなる。幅が狭いことから、畦畔道などの小規模の道路状遺構と推察される。SD446から敲石、SD448から須恵器横瓶、青磁盤、磨石が出土している。(図版 194・213、写真図版 244・260)

道路状遺構 882 (図版 22～24・26・27・53・54・66・68・69、写真図版 101～103)

14Q-2C24・25、3C4・5・10、3D1・2・6～9・11～15・17～20・23～25、3E11・12・16～25、3F21～23、4D5、4E1～5・7～10・15、4F1～25、4G6～8・11～24、4H11、5F1～15・17～20・23・24、5G1～3・6・7・11に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SD446・575・576・577・598・703・732・733、Pit589、道路状遺構 883・884に切られ、SD670・696、Pit580・587・588・593・595・668・669・800・809、NR814を切る。SD574・600からなり、側溝にあたるSD574・600の断面は台形を呈し、覆土はそれぞれ6層と13層に分けられる。主軸方位はN-67°-Wを指す。路面にあたる側溝間には硬化面や波板状遺構は確認できなかった。検出した範囲での規模は、全長(最大)43mを測る。SD574は、SD577(道路状遺構 883)に切られている。SD574は本来東西へと走行する直線的な溝であり、南側を走行するSD600と相対して道路状遺構 882の側溝として機能していたと思われる。検出した時点では、SD577にSD574がつながるような構造となっていたが、おそらくは2条が接する箇所より西側はSD574を踏襲し、東側を南に約35°屈曲させて掘りなおしたものがSD577と考えられる。よってここでは、道路状遺構 882の計測値は、SD574とSD577が重なる箇所も含めるものとする。そのため、確認した全長以外の側溝間幅、側溝間芯々距離は、1段階時期が新しい道路状遺構 883のものとなる。ここでは、道路状遺構 882の段階での正確な計測はできないため計測値の記載は割愛する。また、南側側溝であるSD600はSD574と577の接点とほぼ同じ付近で南側に屈曲する平面L字形を呈することから、道路状遺構 882の東側は扇状に広がり道路の体をなしていない。平行に溝が走行しない東側については、片側側溝の道路状遺構であったと推察される。SD574から土師器鍋、SD600から珠洲焼片口鉢が出土している。(図版 194、写真図版 244)

道路状遺構 883 (図版 22・23・26・27・54・66～69、写真図版 101・103)

14Q-2C24・25、3C4・5・10、3D1・2・6～9・11～15・17～20・23～25、3E11・12・16～25、

3F21・22、4D5、4E1～5・7～10・15、4F1～3・6～9・11～20・22～25、4G16・21・22、5F3～5・9・10、5G1～3・6・7・11に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SD446・598・703・732・733、Pit589、道路状遺構884に切られ、SD574・670・696、Pit593・651・652・653・800・809、NR814、道路状遺構882を切る。SD577・578・600を側溝とし、側溝断面は台形を呈し、覆土はそれぞれ7層、3層、13層に分けられる。主軸方位はN-67°-W・N-43°-Wを指す。路面にあたる側溝間には、硬化面や波板状遺構などの痕跡は確認できなかった。北側側溝のSD577は道路状遺構882の側溝であったSD574を掘りなおした溝で、14Q-5Fグリッド付近で南に屈曲し走行方向を変えている。南側側溝のSD600は、南へと屈曲する箇所新たにSD578を掘削し、SD577と平行させることで道路状遺構883の側溝としたものと考えられる。検出した範囲での規模は、全長(最大)41.3m、側溝間2.83～3.00m、側溝間芯々距離4.46～5.70mを測る。SD577から須恵器甕、土師器長甕、磨石+敲石、SD578から須恵器甕、SD600から珠洲焼甕が出土している。(図版194、写真図版244)

C 2 区 の 遺 構

1) 2 区 の 概 要

遺構の検出は基本土層Va層上面で行った。遺構種別は井戸(SE)35基、墓・埋葬施設(ST)1基、土坑(SK)104基、性格不明遺構(SX)8基、溝(SD)90条、小土坑(Pit)1756基、区画墓(SZ)1基、掘立柱建物(SB)17棟、柵(SA)10列、畑(SN)2面、道路状遺構3条で、2027遺構からなる。

出土遺物及び覆土の観察からこれらの構築年代は古代(平安時代)～近世以降にわたっている。

遺構番号は検出順に通し番号とし、整理段階で認識した遺構については連番を付した。また、区画墓、掘立柱建物、柵、畑、道路状遺構については、整理段階において個々の土坑、小土坑や溝より抽出したため、遺構毎に新たに番号を付して対応した。

2) 2 区 の 遺 構 各 説

a 井 戸 (SE)

井戸は35基確認され、このうちSE734からは桶を3段重ねた状態の井戸側が検出され、SE449にも桶を用いた井戸側があった可能性があるが、それ以外の33基はいずれも素掘りであった。詳細は後述するが、覆土と出土遺物などから20基が中世、15基が近世の所産と推察される。

SE403 (図版72・84、写真図版106)

14R-5G5・9・10・15、5H6・11に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。Pit414に切られ、Pit1389・1407を切る。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は台形を呈し、覆土は12層に分けられる。主軸方位はN-86°-Eを指す。規模は長軸2.71m、短軸2.48m、深さ1.09mを測る。1層から珠洲焼壺、礫、2層から陶器瓶、3層から珠洲焼片口鉢が出土している。(図版200・202、写真図版247・249)

SE405 (図版72・85・86・111・112、写真図版106)

14R-5G13～15・18・19に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SK404、Pit435に切られる。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は台形を呈し、覆土は19層に分けられる。主軸方位はN-28°-Eを指す。規模は長軸2.55m、短軸2.54m、深さ1.89mを測る。1層から珠洲焼片口鉢、14層から敲石・礫が出土している。(図版200・226、写真図版247・272)

SE434 (図版72・74・86、写真図版107)

14R-5G17・18・22・23に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SK374・558・559に切られる。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は長楕円形、断面は半円形を呈し、覆土は14層に分けられる。主軸方位はN-16°-Eを指す。規模は長軸2.94m、短軸1.58m、深さ1.01mを測る。遺物は

出土していない。

SE783 (図版 74・87・116、写真図版 107)

14R-6F9・10・14・15 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK842、SD1635 を切る。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は台形を呈し、覆土は 11 層に分けられる。主軸方位は N-1° -E を指す。規模は長軸 2.54m、短軸 2.52m、深さ 1.53m を測る。1 層から土師器無台椀、青磁碗・皿、9 層から珠洲焼壺が出土している。(図版 200、写真図版 247)

SE1409 (図版 73・74・88・132、写真図版 27・107)

14R-6F11・12・16・17 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SX1421 に切られる。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は楕円形、断面は台形を呈し、覆土は 7 層に分けられる。主軸方位は N-32° -W を指す。規模は長軸 2.10m、短軸 1.60m、深さ 1.31m を測る。5 層から珠洲系陶器片口鉢、台石が出土している。(図版 200・229、写真図版 247・275)

SE519 (図版 74・75・89、写真図版 107)

14R-6G14・15・19・20・24 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit1121・1320・1327・1380、SB2008 を切る。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は漏斗形を呈し、覆土は 13 層に分けられる。主軸方位は N-17° -E を指す。規模は長軸 2.91m、短軸 2.70m、深さ 1.74m を測る。1 層から珠洲焼片口鉢、敲石、2 層から磨石・台石、3 層から敲石・台石、13 層から珠洲焼片口鉢が出土している。(図版 200・201・221・226・230・231、写真図版 247・267・272・275・276)

SE538 (図版 75・89、写真図版 108)

14R-6H20・25、6I16・21 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は U 字形を呈し、覆土は 7 層に分けられる。主軸方位は N-38° -E を指す。規模は長軸 1.02m、短軸 0.88m、深さ 1.27m を測る。1 層から磨石が出土している。(図版 221、写真図版 267)

SE136 (図版 75・89、写真図版 108)

14R-6I24・25、7I4・5 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。井戸側等は確認しておらず素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は台形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-8° -W を指す。規模は長軸 1.54m、短軸 1.38m、深さ 1.15m を測る。2 層から珠洲焼甕、4 層から珠洲焼甕、焼礫、炭化米、種実が出土している。(図版 200、写真図版 247)

SE446 (図版 75・90・141、写真図版 28・108)

14R-6I22・23、7I2・3 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD150 を切る。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は台形を呈し、覆土は 10 層に分けられる。主軸方位は N-11° -E を指す。規模は長軸 2.72m、短軸 2.36m、深さ 1.21m を測る。1 層から珠洲焼壺 T 種、磨石 + 敲石、3 層から磨石 + 敲石、10 層から台石が出土している。(図版 200・222・224・230、写真図版 247・269・271・276)

SE447 (図版 74・75・91、写真図版 108)

14R-7G4・5 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は U 字形を呈し、覆土は 5 層に分けられる。主軸方位は N-50° -E を指す。規模は長軸 1.00m、短軸 0.92m、深さ 1.29m を測る。遺物は出土していない。

SE1027 (図版 73・91・92、写真図版 109)

14R-7D11～13・16～18 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit1595、SB2011 を切る。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は半円形を呈し、覆土は 7 層に分けられる。主軸方位は N-1° -E を指す。規模は長軸 2.68m、短軸 2.60m、深さ 1.07m を測る。1 層から陶器皿、5 層から

土師器無台碗が出土している。(図版 199、写真図版 246)

SE1028 (図版 73・76・92・93、写真図版 109・154)

14R-8C4・5・9・10、8D1・6 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD1579・1670、Pit1645・1648 を切る。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は半円形を呈し、覆土は 10 層に分けられる。主軸方位は N-67° -E を指す。規模は長軸 2.50m、短軸 2.39m、深さ 1.04m を測る。1 層から磨石 + 敲石が出土している。(図版 225、写真図版 271)

SE728 (図版 74・93・94、写真図版 28・109)

14R-7G21・22、8G1・2 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は半円形を呈し、覆土は 9 層に分けられる。主軸方位は N-12° -W を指す。規模は長軸 1.68m、短軸 1.55m、深さ 1.38m を測る。1 層から磨石、9 層から礫、板材が出土している。(図版 220・257、写真図版 266・305)

SE732 (図版 77・94、写真図版 29・109)

14R-8G13 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit1253・1496・1500 を切る。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は半円形を呈し、覆土は 7 層に分けられる。主軸方位は N-70° -E を指す。規模は長軸 1.55m、短軸 1.51m、深さ 1.29m を測る。出土していない。

SE1203 (図版 77・95、写真図版 109)

14R-8F24・25、9F4・5 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は台形を呈し、覆土は 7 層に分けられる。主軸方位は N-0° を指す。規模は長軸 2.10m、短軸 2.02m、深さ 1.05m を測る。7 層から台石が出土している。(図版 231、写真図版 276)

SE137 (図版 75・95、写真図版 110)

14R-7I14・19 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は U 字形を呈し、覆土は 5 層に分けられる。主軸方位は N-23° -W を指す。規模は長軸 1.65m、短軸 1.57m、深さ 1.22m を測る。1 層から珠洲焼甕、5 層から珠洲焼甕が出土している。(図版 201、写真図版 247)

SE444 (図版 75・78・95、写真図版 110)

14R-7J22・23、8J2・3 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit48・210・211・216、SA2003・2004 に切られ、SD860、SN2014 を切る。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は半円形を呈し、覆土は 11 層に分けられる。主軸方位は N-77° -E を指す。規模は長軸 2.34m、短軸 2.26m、深さ 0.92m を測る。1 層から砥石・台石・剥片・礫・鎌、2 層から陶器(唐津) 播鉢、台石、4 層から磁器碗が出土している。(図版 202・218・230・231・235・236、写真図版 249・265・276・279・280)

SE818 (図版 75・96、写真図版 110)

14R-7I20・25、8I5、7J16・21、8J1 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SE351 に切られる。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は楕円形、断面は半円形を呈し、覆土は 7 層に分けられる。主軸方位は N-20° -E を指す。検出した範囲での規模は、長軸 3.06m、短軸 3.04m、深さ 0.87m を測る。4 層から陶器皿が出土している。

SE351 (図版 75・78・96・97、写真図版 110・111)

14R-7I25、8I4・9・10、8J1・6 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD353 に切られ、SE818・846・847 を切る。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は箱形を呈し、覆土は 10 層に分けられる。主軸方位は N-44° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 3.05m、短軸 2.87m、深さ 1.25m を測る。1 層から土師器無台碗、青磁鉢、磁器碗・小碗・皿、陶器皿・碗・鉢・播鉢、2

層から磁器皿・碗、陶器皿・鉢、磨石+敲石・敲石・軽石製石製品、3層から陶器皿・鉢、4層から陶器皿、磨石・磨石+敲石・敲石・台石、7層から土師器無台碗、9層から陶器（唐津）皿、磨石・礫が出土している。（図版201～203・220・221・223・227・229・233、写真図版248・249・267・269・270・273～275・277）

SE846（図版75・78・96・97、写真図版111）

14R-8I9・10・14・15に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SE351、Pit838に切られ、SE847を切る。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は楕円形、断面はU字形を呈し、覆土は5層に分けられる。主軸方位はN-69°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長軸1.99m、短軸1.55m、深さ0.99mを測る。2層から台石が出土している。（図版230、写真図版275）

SE847（図版75・78・96・97、写真図版111）

14R-8I10・15、8J1・6・11に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SE351・383・846に切られる。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は楕円形と推察され、断面は台形を呈し、覆土は9層に分けられる。主軸方位はN-31°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長軸3.16m、短軸1.62m、深さ1.09mを測る。1層から珠洲焼甕、砥石が出土している。（図版201・218、写真図版248・265）

SE383（図版75・78・96・97、写真図版111）

14R-8J6・11に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SE847を切る。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は隅丸方形、断面はU字形を呈し、覆土は6層に分けられる。主軸方位はN-61°-Wを指す。規模は長軸1.21m、短軸1.09m、深さ1.14mを測る。遺物は出土していない。

SE382（図版75・78・98、写真図版111）

14R-8I8・9・13・14に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は半円形を呈し、覆土は7層に分けられる。主軸方位はN-50°-Eを指す。規模は長軸1.72m、短軸1.58m、深さ0.97mを測る。1層から土師器無台碗が出土している。

SE482（図版75・78・98、写真図版112）

14R-8I15・20、8J11・16に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。Pit679に切られる。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は箱形を呈し、覆土は10層に分けられる。主軸方位はN-10°-Wを指す。規模は長軸1.82m、短軸1.69m、深さ0.85mを測る。遺物は出土していない。

SE4（図版75・78・99、写真図版112）

14S-8A7に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。井戸側等は確認されておらず素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は半円形を呈し、覆土は7層に分けられる。主軸方位はN-64°-Wを指す。規模は長軸1.68m、短軸1.50m、深さ0.46mを測る。1層から珠洲焼片口鉢、3層から銭貨、5層から須恵器甕が出土している。（図版199・201・236、写真図版246・248・281）

SE251（図版78・100、写真図版112）

14R-8J25、9J5、14S-8A21、9A1に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。Pit433に切られる。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は半円形を呈し、覆土は11層に分けられる。主軸方位はN-0°を指す。規模は長軸2.34m、短軸2.24m、深さ0.94mを測る。1層から土師器無台碗、磁器碗、2層から陶器皿、5層から磨石+敲石、8層から台石が出土している。（図版203・225・229、写真図版249・271・275）

SE392（図版78・101、写真図版112）

14R-9J10、14S-9A1・6・7に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。Pit390に切られ、南側は調査区外となる。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は楕円形と推察され、断面は半円形を呈し、覆土は8層に分けられる。主軸方位はN-75°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長軸2.50m、短

軸 1.28m、深さ 0.99m を測る。1 層から須恵器無台杯、礫が出土している。(図版 199、写真図版 246)

SE23 (図版 78・102、写真図版 112・113)

14R-9J4・5・9・10 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。井戸側等は確認しておらず素掘りの井戸である。平面形は円形、断面はU字形を呈し、覆土は8層に分けられる。主軸方位はN-14°-Wを指す。規模は長軸 1.20m、短軸 1.12m、深さ 0.75m を測る。1 層から須恵器無台杯、3 層から土師器長甕、6 層から磨石 + 敲石・敲石が出土している。(図版 199・223・226、写真図版 246・269・272)

SE709 (図版 78・102・103、写真図版 113)

14R-8H20・25、8I16・17・21・22 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は半円形を呈し、覆土は7層に分けられる。主軸方位はN-48°-Wを指す。規模は長軸 3.15m、短軸 3.00m、深さ 1.26m を測る。1 層から陶器鉢、不定形石器・剥片・礫、2 層から陶器碗、磨石・礫、7 層から磨石が出土している。(図版 220・235、写真図版 266・267・279)

SE845 (図版 78・104・105、写真図版 113)

14R-9I5・10、9J1・6 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SE449、SD636 に切られる。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は半円形を呈し、覆土は9層に分けられる。主軸方位はN-77°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長軸 2.16m、短軸 1.86m、深さ 0.99m を測る。遺物は、1 層から不定形石器、3 層から磨石 + 敲石が出土している。(図版 223・235、写真図版 269・279)

SE449 (図版 78・104・105、写真図版 113)

14R-9I10・15、9J6・11 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SE845、SD665・1959 を切る。隣接する SE734 の井戸側の桶側板と同様の板 1 点が立って底面にめりこむようにして出土し、またその外側に接する位置に環状に組まれた状態を保った竹製の籠が存在することから、元来は桶を井戸側としていた可能性がある。平面形は円形、断面は台形を呈し、覆土は10層に分けられる。主軸方位はN-30°-Eを指す。規模は長軸 3.94m、短軸 3.46m、深さ 1.20m を測る。1 層から磁器皿、陶器皿・鉢・播鉢、砥石・敲石、3 層から磁器(肥前)皿、4 層から板材・角材、11 層から磨石・磨石 + 敲石・敲石・軽石製石製品・礫、板材・杭・竹製の籠が出土している。(図版 203・219・221・223～225・227～229・234・240・255・256・258・259、写真図版 249・266～271・273・274・278・285・303・305・306)

SE734 (図版 78・106・107・126、写真図版 29・114)

14R-9I8・9・13～15 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK735 に切られ、SK1957・1958 を切る。桶を3段重ねた井戸側が検出された。上段の井戸側は、検出面から1層を0.62m掘削した地点で検出され、上端は欠損していた。中段および下段の井戸側は遺存状態が良好で、桶を構成する各板は、上下2箇所両端を尖らせた竹製の釘を打ち込んで、接合されていた。平面形は楕円形、断面は台形を呈し、覆土は12層に分けられる。主軸方位はN-33°-Wを指す。規模は長軸 2.88m、短軸 2.20m、深さ 2.98m を測る。1 層から磁器碗・皿・火入(波佐見)・花瓶、陶器碗・皿・播鉢・壺、磨石、3 層から珠洲焼片口鉢、4 層から磁器碗、8 層から磁器菊皿、軽石製石製品・礫、12 層から磁器碗が出土している。(図版 201・203・220～222・233・249～256・258、写真図版 248・249・267・268・277・278・293～303・306)

SE647 (図版 78・108・109、写真図版 114)

14R-9H15・20・25、9I11・16・21 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は台形を呈し、覆土は10層に分けられる。主軸方位はN-48°-Eを指す。規模は長軸 2.85m、短軸 2.67m、深さ 1.39m を測る。1 層から珠洲焼壺、磨石、大釘、3 層から青磁碗、4 層から磨石 + 敲石が出土している。(図版 201・220・225・236、写真図版 248・266・271・280)

SE1509 (図版 77・109、写真図版 114・115)

14R-9F25、9G21、10F5、10G1 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD940、Pit1153・1154・1155・1469 に切られる。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は台形を呈し、覆土は 8 層に分けられる。主軸方位は N-9° -E を指す。規模は長軸 1.30m、短軸 1.21m、深さ 1.25m を測る。遺物は出土していない。

SE1022 (図版 77・110、写真図版 115)

14R-10E4・5・9・10 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit1014 に切られる。井戸側等は確認しておらず、素掘りの井戸である。平面形は円形、断面は台形を呈し、覆土は 6 層に分けられる。主軸方位は N-77° -E を指す。規模は長軸 2.13m、短軸 1.90m、深さ 1.11m を測る。2 層から台石が出土している。(図版 231、写真図版 276)

b 土 坑 (SK)

土坑は 104 基検出した。このうち SK483・557 の 2 基は覆土に多量の焼土と炭化物が含まれ、焼骨片が出土したことから火葬施設であったことが推察されるが、埋葬施設とは断定できなかったため土坑に含めた。

SK30 (図版 72・111、写真図版 115)

14R-4I17 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は楕円形、断面は U 字形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-64° -E を指す。規模は長軸 0.80m、短軸 0.54m、深さ 0.41m を測る。遺物は出土していない。

SK31 (図版 72・111、写真図版 115)

14R-4I18・23 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は隅丸長方形、断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-52° -W を指す。規模は長軸 0.96m、短軸 0.80m、深さ 0.17m を測る。遺物は出土していない。

SK582 (図版 72・111、写真図版 115・116)

14R-5I15 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-28° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 0.87m、短軸 0.34m、深さ 0.07m を測る。遺物は出土していない。

SK404 (図版 72・85・86・111・112、写真図版 106)

14R-5G13・14・18・19 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit436 に切れ、SE405、Pit1455 を切る。平面形は楕円形、断面は台形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-33° -W を指す。規模は長軸 1.21m、短軸 0.96m、深さ 0.43m を測る。1 層から軽石製石製品が出土している。

SK374 (図版 72・74・112、写真図版 116)

14R-5G18 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SE434、Pit437 を切る。平面形は長楕円形、断面は台形を呈し、覆土は 5 層に分けられる。主軸方位は N-79° -W を指す。規模は長軸 1.09m、短軸 0.70m、深さ 0.19m を測る。遺物は出土していない。

SK1384 (図版 72・112、写真図版 116)

14R-5G17 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit1386 を切る。平面形は楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-48° -E を指す。規模は長軸 0.48m、短軸 0.39m、深さ 0.10m を測る。遺物は出土していない。

SK559 (図版 72・74・113、写真図版 116)

14R-5G17・22 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SE434 を切る。平面形は円形、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-83° -E を指す。規模は長軸 1.00m、短軸 0.95m、深さ 0.19m を測る。遺物は出土していない。

SK558 (図版 72・74・113、写真図版 116)

14R-5G22、6G2 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SE434 を切る。平面形は円形、断面は皿形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-27° -W を指す。規模は長軸 0.90m、短軸 0.84m、深さ 0.10m を測る。遺物は出土していない。

SK32 (図版 72・75・113、写真図版 117)

14R-5I17・22 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-20° -W を指す。規模は長軸 1.16m、短軸 0.86m、深さ 0.13m を測る。遺物は出土していない。

SK370 (図版 75・113、写真図版 117)

14R-6I1 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit371・597 を切る。平面形は円形、断面は皿形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-18° -E を指す。規模は長軸 0.95m、短軸 0.84m、深さ 0.22m を測る。遺物は出土していない。

SK372 (図版 75・113、写真図版 117)

14R-6H5 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SK373・539 を切る。平面形は不整形、断面は階段形を呈し、覆土は 7 層に分けられる。主軸方位は N-59° -W を指す。規模は長軸 1.30m、短軸 0.85m、深さ 0.39m を測る。1 層から敲石、3 層から磨石が出土している。(図版 221・227、写真図版 268・272)

SK373 (図版 75・113、写真図版 117)

14R-6H5、6I1 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SK372 に切られ、SK539、Pit597 を切る。平面形は隅丸長方形、断面は台形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-62° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 1.22m、短軸 0.88m、深さ 0.16m を測る。遺物は出土していない。

SK539 (図版 75・114・144、写真図版 117)

14R-6H5、6I1・6 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SK372・373 に切られ、SD540 を切る。平面形は不明、断面は皿形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-84° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 1.42m、短軸 0.62m、深さ 0.19m を測る。遺物は出土していない。

SK529 (図版 72・74・75・114・140、写真図版 118)

14R-5H22、6H2 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SD419 に切られる。平面形は楕円形と推察され、断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-8° -E を指す。検出した範囲での規模は、長軸 0.68m、短軸 0.52m、深さ 0.11m を測る。1 層から敲石が出土している。(図版 226、写真図版 272)

SK561 (図版 74・75・114・150、写真図版 118)

14R-6H1・2・6・7 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SD362 を切る。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-1° -E を指す。規模は長軸 1.20m、短軸 0.47m、深さ 0.16m を測る。遺物は出土していない。

SK563 (図版 74・75・114・150、写真図版 118)

14R-6H7・8 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SD362 を切る。平面形は方形、断面は台形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-20° -E を指す。規模は長軸 0.81m、短軸 0.75m、深さ 0.16m を測る。遺物は出土していない。

SK1991 (図版 75・114、写真図版 118)

14R-6H10・15、6I6・11 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SD119・362 に切られる。平面形は不整形、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-53° -W を指す。検出した範

囲での規模は、長軸 0.90m、短軸 0.79m、深さ 0.13m を測る。遺物は出土していない。

SK223 (図版 75・114、写真図版 118・119)

14R-6I15 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SK224・225、SD530 を切る。平面形は楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-9° -W を指す。規模は長軸 0.52m、短軸 0.35m、深さ 0.08m を測る。遺物は出土していない。

SK224 (図版 75・114、写真図版 118・119)

14R-6I15、6J11 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SK223 に切られ、SK225、SD530 を切る。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-35° -W を指す。規模は長軸 1.27m、短軸 0.75m、深さ 0.15m を測る。2 層から磨石が出土している。(図版 221、写真図版 267)

SK225 (図版 75・114、写真図版 118・119)

14R-6I15 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SK223・224 に切られ、SK226、SD530 を切る。平面形は楕円形と推察され、断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-2° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 1.15m、短軸 1.10m、深さ 0.15m を測る。遺物は出土していない。

SK226 (図版 75・114、写真図版 118・119)

14R-6I10・15 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SK225 に切られ、SD530 を切る。平面形は不明、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-60° -E を指す。検出した範囲での規模は、長軸 0.96m、短軸 0.13m、深さ 0.13m を測る。遺物は出土していない。

SK369 (図版 75・115・150、写真図版 119)

14R-6I14・15・19・20 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SD119・362 を切る。平面形は円形、断面は U 字形を呈し、覆土は 6 層に分けられる。主軸方位は N-77° -W を指す。規模は長軸 1.28m、短軸 1.08m、深さ 0.58m を測る。1 層から種実(モモ)が出土している。

SK302 (図版 75・115、写真図版 119)

14R-7I9 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は楕円形、断面は半円形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-23° -W を指す。規模は長軸 1.07m、短軸 0.75m、深さ 0.40m を測る。遺物は出土していない。

SK283 (図版 75・115、写真図版 119)

14R-7I15・20 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit303 に切られる。平面形は円形、断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-8° -W を指す。規模は長軸 1.21m、短軸 1.14m、深さ 0.31m を測る。遺物は出土していない。

SK560 (図版 74・75・115・150、写真図版 119)

14R-6G20・25 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SD537 に切られる。平面形は楕円形と推察され、断面は台形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-44° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 0.60m、短軸 0.57m、深さ 0.24m を測る。遺物は出土していない。

SK1129 (図版 74・115、写真図版 120)

14R-6G12・13・17・18 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SD1413 を切る。平面形は円形、断面は台形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-7° -E を指す。規模は長軸 0.87m、短軸 0.77m、深さ 0.29m を測る。遺物は出土していない。

SK1125 (図版 74・115、写真図版 120)

14R-6G18 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SK1126 を切る。平面形は長方形、断面は箱形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-60° -W を指す。規模は長軸 0.87m、短軸 0.53m、深さ 0.32m を測る。3 層から磨石 + 敲石が出土している。(図版 224、写真図版 270)

SK1126 (図版 74・115、写真図版 120)

14R-6G18・19・23・24に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SK1125に切られる。平面形は楕円形と推察され、断面は箱形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-62°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長軸0.58m、短軸0.56m、深さ0.24mを測る。遺物は出土していない。

SK1127 (図版 74・115、写真図版 120)

14R-6G24に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-3°-Eを指す。規模は長軸0.58m、短軸0.38m、深さ0.14mを測る。遺物は出土していない。

SK1091 (図版 74・115、写真図版 120)

14R-6G16に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。Pit1095に切られる。平面形は円形、断面は皿形を呈し、覆土は5層に分けられる。主軸方位はN-47°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長軸0.60m、短軸0.53m、深さ0.09mを測る。遺物は出土していない。

SK1128 (図版 74・115、写真図版 121)

14R-6G12・17に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SK1326を切る。平面形は不整形、断面はU字形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-6°-Wを指す。規模は長軸0.86m、短軸0.74m、深さ0.52mを測る。遺物は出土していない。

SK1326 (図版 74・116・151、写真図版 121・152)

14R-6G17に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SK1128、SD1412・1413に切られる。平面形は楕円形と推察され、断面は箱形を呈し、覆土は5層に分けられる。主軸方位はN-53°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長軸0.56m、短軸0.43m、深さ0.35mを測る。1層から磨石+敲石、3層から磨石・磨石+敲石が出土している。(図版 222・224、写真図版 268・270)

SK842 (図版 74・87・116、写真図版 107)

14R-6F5・10に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SE783に切られる。平面形は楕円形と推察され、断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-39°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長軸1.06m、短軸0.90m、深さ0.16mを測る。遺物は出土していない。

SK795 (図版 73・74・117、写真図版 121)

14R-6F22に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。平面形は円形、断面は箱形を呈し、覆土は5層に分けられる。主軸方位はN-66°-Eを指す。規模は長軸0.92m、短軸0.88m、深さ0.15mを測る。遺物は出土していない。

SK793 (図版 74・117、写真図版 121・122)

14R-7F4・9に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。平面形は楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-22°-Eを指す。規模は長軸0.78m、短軸0.62m、深さ0.13mを測る。1層から磨石+敲石・敲石、2層から磨石+敲石が出土している。(図版 224・227、写真図版 270・272)

SK1669 (図版 73・117、写真図版 122)

14R-7D1に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。平面形は楕円形、断面は半円形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-48°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長軸0.42m、短軸0.20m、深さ0.30mを測る。遺物は出土していない。

SK1533 (図版 73・117、写真図版 122)

14R-7D1・2に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。平面形は隅丸長方形、断面は皿形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-64°-Eを指す。規模は長軸0.75m、短軸

0.60m、深さ 0.09m を測る。遺物は出土していない。

SK1534 (図版 73・117、写真図版 122)

14R-7C10、7D6 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は円形、断面は皿形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-51° -E を指す。規模は長軸 0.67m、短軸 0.63m、深さ 0.12m を測る。遺物は出土していない。

SK1672 (図版 73・117、写真図版 122)

14R-7C19 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は 6 層に分けられる。主軸方位は N-83° -W を指す。規模は長軸 0.82m、短軸 0.45m、深さ 0.10m を測る。4 層から珠洲焼片口鉢が出土している。(図版 201、写真図版 248)

SK1671 (図版 73・117、写真図版 123)

14R-7C19・20 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD1670 を切る。平面形は長楕円形、断面は箱形を呈し、覆土は 6 層に分けられる。主軸方位は N-81° -W を指す。規模は長軸 1.35m、短軸 0.60m、深さ 0.35m を測る。1 層から珠洲焼片口鉢が出土している。(図版 201、写真図版 248)

SK1529 (図版 73・74・117、写真図版 123)

14R-7D14・15 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-60° -E を指す。規模は長軸 0.60m、短軸 0.44m、深さ 0.20m を測る。遺物は出土していない。

SK1531 (図版 73・74・117・153、写真図版 123)

14R-7E11・12 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD1530 に切られる。平面形は楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-25° -W を指す。規模は長軸 0.83m、短軸 0.67m、深さ 0.07m を測る。遺物は出土していない。

SK1537 (図版 73・74・118、写真図版 123)

14R-7D19・20 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit1538 を切る。平面形は円形、断面は皿形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-40° -E を指す。規模は長軸 0.53m、短軸 0.50m、深さ 0.13m を測る。遺物は出土していない。

SK1535 (図版 73・118、写真図版 124)

14R-7D18・19 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は円形、断面は皿形を呈し、覆土は 5 層に分けられる。主軸方位は N-36° -W を指す。規模は長軸 1.10m、短軸 0.95m、深さ 0.20m を測る。遺物は出土していない。

SK1536 (図版 73・118、写真図版 124)

14R-7D19・24 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は隅丸方形、断面は半円形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-89° -W を指す。規模は長軸 0.71m、短軸 0.65m、深さ 0.22m を測る。遺物は出土していない。

SK1539 (図版 73・118、写真図版 124)

14R-8D1 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は隅丸長方形、断面は皿形を呈し、覆土は 5 層に分けられる。主軸方位は N-76° -W を指す。規模は長軸 0.71m、短軸 0.47m、深さ 0.19m を測る。遺物は出土していない。

SK1656 (図版 73・76・118、写真図版 124)

14R-8D6・7・11・12 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は円形、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-51° -W を指す。規模は長軸 0.66m、短軸 0.57m、深さ 0.06m を測る。遺物は出土していない。

SK1862 (図版 73・76・118、写真図版 125)

14R-8B5・10、8C1・6 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-19° -E を指す。規模は長軸 2.04m、短軸 0.98m、深さ 0.27m を測る。遺物は出土していない。

SK1788 (図版 73・76・118、写真図版 125)

14R-8B9・10 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-68° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 0.91m、短軸 0.58m、深さ 0.14m を測る。遺物は出土していない。

SK1567 (図版 76・118・154、写真図版 125)

14R-8C12・13・17 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD1299 (道路状遺構 2018)・1563、Pit1675 に切られる。平面形は不整形、断面は半円形を呈し、覆土は 5 層に分けられる。主軸方位は N-39° -E を指す。検出した範囲での規模は、長軸 1.37m、短軸 1.02m、深さ 0.65m を測る。遺物は出土していない。

SK755 (図版 74・119、写真図版 126)

14R-7G8・9・13・14 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は長楕円形、断面は階段形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-18° -E を指す。規模は長軸 1.22m、短軸 0.44m、深さ 0.26m を測る。遺物は出土していない。

SK1093 (図版 75・119・151、写真図版 126)

14R-7H4・9 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD450 に切れ、SD1094、Pit1872 を切る。平面形は長楕円形と推察され、断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-3° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 2.01m、短軸 0.30m、深さ 0.12m を測る。遺物は出土していない。

SK876 (図版 74・75・119、写真図版 126)

14R-7H8・13 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-85° -W を指す。規模は長軸 0.85m、短軸 0.63m、深さ 0.09m を測る。遺物は出土していない。

SK550 (図版 74・75・119、写真図版 126・127)

14R-7G15・20、7H11・16・21 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit879・935・1631 を切る。平面形は楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は 5 層に分けられる。主軸方位は N-5° -W を指す。規模は長軸 2.88m、短軸 1.93m、深さ 0.35m を測る。1 層から磁器碗、陶器碗・鉢・播鉢、砥石・剥片・礫、鉄滓、2 層から磁器碗、陶器碗・皿・鉢・播鉢・甕、砥石・礫、木製品栓、4 層から珠洲焼壺、磁器碗、陶器皿・鉢・瓶、磨石・敲石・原石 (鉄石英)・礫、5 層から磁器香炉、陶器碗・鉢、磨石 + 敲石・敲石が出土している。(図版 201・203・219・222・224・227・235・259、写真図版 248・249・265・266・268・271・273・279・307)

SK400 (図版 75・120、写真図版 127)

14R-7H20・25、7I16・21 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD150、Pit1794・1795・1796・1797 を切る。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-76° -E を指す。規模は長軸 3.77m、短軸 2.18m、深さ 0.33m を測る。1 層から磁器皿・徳利、陶器皿・播鉢、砥石・磨石・敲石・軽石製石製品・礫が出土している。(図版 203・219・221・222・226・228・229・233・234、写真図版 249・265・268・272～274・278・279)

SK483 (図版 75・120、写真図版 127・128)

14R-7H24・25、8H4・5 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit471 に切れ、SD450 を切る。平面形は円形、断面は皿形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-0° を指す。規模は長軸 1.16m、短軸 1.09m、深さ 0.35m を測る。底面の中央付近は、東西方向に溝状に掘り窪められており、東端部

はPit471によって壊されていた。覆土下半にあたる3～4層は多量の焼土ブロック・炭化物を主体とし、少量の骨片も含まれていた。これらの点から、溝状の掘り込みは送風孔の痕跡であり、火葬土坑であった可能性がある。2層から木製数珠玉が出土している。(図版261、写真図版308)

SK557 (図版74・75・78・121、写真図版128)

14R-8H2に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SK556に切られる。平面形は楕円形と推察され、断面は階段形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-90°を指す。検出した範囲での規模は、長軸1.42m、短軸0.46m、深さ0.41mを測る。底面の中央付近は、東西方向に溝状に掘り窪められており、SK483と同様に、覆土に多量の炭化物が含まれ、底面からは骨片も出土していることから火葬土坑と考えられる。4層から骨、数珠が出土している。(図版261、写真図版308)

SK556 (図版74・75・77・78・121、写真図版128)

14R-8H1～3・6～8に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SK557、Pit1685・1686、SB2026を切る。平面形は隅丸長方形、断面は台形を呈し、覆土は7層に分けられる。主軸方位はN-89°-Wを指す。規模は長軸4.23m、短軸1.81m、深さ0.43mを測る。1層から磁器碗、陶器鉢・甕、砥石・磨石・磨石+敲石・敲石・軽石製石製品・礫、刀子・包丁・鋳物製品、2層から土師器不明品、珠洲系陶器片口鉢、磁器碗・皿、陶器鉢、磨石・台石・軽石製石製品・礫、3層から磁器碗、陶器皿、磨石・軽石製石製品・礫、鉄釘、4層から土師器無台碗・不明品、磁器碗・皿、陶器皿・搗鉢・蓋、土師質土器灯明皿、砥石+敲石・磨石・磨石+敲石・敲石・軽石製石製品・礫、6層から磁器碗、陶器鉢が出土している。(図版201・204・218・219・221・222・224・227・229・232～234・236、写真図版248・249・265～269・271・273・274・277～280)

SK498 (図版74・75・77・122、写真図版128・129)

14R-8G5・10・15、8H1・6・11に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。Pit918・919・920・921・1103・1104を切る。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は5層に分けられる。主軸方位はN-2°-Wを指す。規模は長軸3.55m、短軸1.05m、深さ0.31mを測る。1層から陶器皿、敲石・台石・軽石製石製品が出土している。(図版227・232～234、写真図版272・277・278)

SK1721 (図版75・78・122、写真図版129)

14R-8H10に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SD150に切られる。平面形は隅丸長方形、断面は皿形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-79°-Eを指す。規模は長軸0.82m、短軸0.73m、深さ0.23mを測る。遺物は出土していない。

SK442 (図版75・122・144、写真図版129)

14R-7J24、8J4に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。Pit17・445、SA2000に切られ、SD81を切る。平面形は円形、断面は階段形を呈し、覆土は5層に分けられる。主軸方位はN-81°-Eを指す。規模は長軸1.55m、短軸1.50m、深さ0.55mを測る。2層から砥石・磨石が出土している。(図版219・222、写真図版265・268)

SK282 (図版75・78・123、写真図版129・130)

14S-7A21・22、8A2に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。東側上端を側溝によって切られる。平面形は長楕円形、断面は台形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-28°-Wを指す。検出した範囲での規模は長軸1.92m、短軸0.89m、深さ0.49mを測る。2層から台石、3層から陶器皿、砥石・礫が出土している。(図版218・230、写真図版265・275)

SK20 (図版75・78・123、写真図版130)

14S-8A1・6に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。平面形は楕円形、断面はU字形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-5°-Eを指す。規模は長軸0.98m、短軸0.77m、深さ0.63mを測る。遺物は出土していない。

SK5 (図版 75・78・123、写真図版 130)

14S-8A7・12 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は隅丸方形、断面は箱形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-74° -W を指す。規模は長軸 0.82m、短軸 0.76m、深さ 0.65m を測る。4 層から台石・礫が出土している。(図版 229、写真図版 275)

SK381 (図版 75・78・123、写真図版 130)

14S-8A8・13 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出したが、調査区壁面の観察から IV 層上面からの掘り込みと推察される。遺構東側は調査区外に延びる。重複関係はない。平面形は楕円形と推察され、断面は半円形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-28° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 1.36m、短軸 0.28m、深さ 0.55m を測る。遺物は出土していない。

SK487 (図版 78・123・145、写真図版 130・131・148)

14R-8J20・25、14S-8A16・17・21・22 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD391、Pit56・397 (SA2002)・480 に切られ、SD481、Pit632・729・730 を切る。平面形は隅丸長方形、断面は台形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-86° -E を指す。規模は長軸 4.12m、短軸 1.42m、深さ 0.14m を測る。1 層から磁器皿が出土している。(図版 204、写真図版 249)

SK227 (図版 78・124、写真図版 131)

14R-8J25、9J5 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-68° -E を指す。規模は長軸 1.10m、短軸 0.78m、深さ 0.22m を測る。1 層から陶器鉢、敲石、3 層から台石が出土している。(図版 226・232、写真図版 272・277)

SK228 (図版 78・124・144、写真図版 131)

14R-9J3・4・8・9 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD81 に切られる。平面形は長楕円形と推察され、断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-15° -E を指す。検出した範囲での規模は、長軸 2.44m、短軸 1.42m、深さ 0.23m を測る。遺物は出土していない。

SK1051 (図版 78・124、写真図版 131)

14R-9J1・2 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD252 に切られ、SB2029 を切る。平面形は楕円形、断面は半円形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-72° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 1.38m、短軸 1.02m、深さ 0.56m を測る。遺物は出土していない。

SK1920 (図版 78・124、写真図版 131・132)

14R-9J8・13 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD81 に切られる。平面形は隅丸方形、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位は N-20° -E を指す。検出した範囲での規模は、長軸 1.80m、短軸 0.66m、深さ 0.14m を測る。遺物は出土していない。

SK660 (図版 75・78・124、写真図版 132)

14R-8I12・13 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は長楕円形、断面は台形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-8° -W を指す。規模は長軸 1.66m、短軸 0.51m、深さ 0.15m を測る。遺物は出土していない。

SK633 (図版 78・124、写真図版 132)

14R-8I17・22 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は長楕円形、断面は台形を呈し、覆土は 6 層に分けられる。主軸方位は N-4° -W を指す。規模は長軸 2.10m、短軸 0.80m、深さ 0.71m を測る。2 層から磁器碗、陶器皿、軽石製石製品・礫、椀形鍛冶滓、漆椀、炭化物、4・6 層から磁器碗が出土している。(図版 204・234・236、写真図版 249・250・278・280・310)

SK637 (図版 78・125・141、写真図版 132)

14R-9H9・10 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SD150 を切る。平面形は円形、

断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-19° -Wを指す。規模は長軸1.00m、短軸0.90m、深さ0.16mを測る。遺物は出土していない。

SK645 (図版78・125、写真図版133)

14R-9I6・7に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。平面形は隅丸長方形、断面は階段形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-86° -Eを指す。規模は長軸1.71m、短軸0.67m、深さ0.53mを測る。1層から円盤状土製品が出土している。(図版212、写真図版259)

SK668 (図版78・125、写真図版133)

14R-9I8に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。平面形は長楕円形、断面は箱形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-7° -Wを指す。規模は長軸0.96m、短軸0.66m、深さ0.23mを測る。遺物は出土していない。

SK1957 (図版78・125、写真図版133)

14R-9I9に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SE734、SD1959に切られ、Pit1964を切る。平面形は長楕円形、断面は箱形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-75° -Wを指す。規模は長軸1.70m、短軸0.46m、深さ0.37mを測る。遺物は出土していない。

SK1958 (図版78・125、写真図版133)

14R-9I8・13に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SE734に切られる。平面形は楕円形、断面は台形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-79° -Eを指す。検出した範囲での規模は、長軸0.68m、短軸0.32m、深さ0.25mを測る。遺物は出土していない。

SK735 (図版78・106・126、写真図版114・133)

14R-9I14・19に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SE734を切る。平面形は楕円形、断面は半円形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-18° -Eを指す。規模は長軸1.26m、短軸0.98m、深さ0.49mを測る。1層から磁器碗、台石、2層から砥石が出土している。(図版218・230、写真図版265・275)

SK628 (図版77・127・150、写真図版134)

14R-8G19・20・24・25に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD537・940を切る。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は5層に分けられる。主軸方位はN-84° -Wを指す。規模は長軸3.28m、短軸1.79m、深さ0.34mを測る。1層から磁器碗、3層から砥石が出土している。(図版204・218、写真図版250・264)

SK1194 (図版77・128、写真図版134)

14R-8G12・13・17に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SK1195を切る。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-88° -Wを指す。規模は長軸1.04m、短軸0.52m、深さ0.12mを測る。遺物は出土していない。

SK1195 (図版77・128、写真図版134)

14R-8G12・17に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SK1194に切られ、Pit1711を切る。平面形は不整形、断面は台形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-34° -Eを指す。規模は長軸1.16m、短軸0.85m、深さ0.19mを測る。1層から磁器碗・花瓶、2層から磁器瓶が出土している。(図版204、写真図版250)

SK1499 (図版77・128、写真図版134)

14R-8G17・18に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD940を切る。平面形は隅丸長方形、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-88° -Eを指す。検出した範囲での規模は、長軸2.17m、短軸1.27m、深さ0.50mを測る。5層から磁器碗が出土している。

SK1202 (図版 77・129・169、写真図版 134)

14R-8G17・22 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK1201、SD940 に切られ、Pit1706・1708・1709 を切る。平面形は不明、断面は皿形を呈し、覆土は 2 層に分けられる。主軸方位は N-85° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 1.27m、短軸 0.43m、深さ 0.17m を測る。1 層から陶器皿、礫が出土している。

SK1201 (図版 77・129・169、写真図版 134)

14R-8G22、9G2 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK1202、SX1963、Pit1704・1705・1709 を切る。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は 5 層に分けられる。主軸方位は N-7° -E を指す。規模は長軸 2.90m、短軸 1.72m、深さ 0.51m を測る。1 層から磁器碗・皿、陶器皿・播鉢、陶器 (唐津) 鉢、磨石 + 敲石・敲石・軽石製石製品、2 層から磁器碗、陶器皿、3 層から磨石・焼石、4 層から陶器碗、5 層から漆碗が出土している。(図版 204・221・224・229・234、写真図版 250・267・270・274・278・310)

SK911 (図版 77・129、写真図版 135)

14R-9G19・20・24 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-88° -E を指す。規模は長軸 0.80m、短軸 0.58m、深さ 0.12m を測る。遺物は出土していない。

SK1840 (図版 77・129、写真図版 135)

14R-9F25 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit1839 に切られ、SD1841 を切る。平面形は円形、断面は皿形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-51° -E を指す。規模は長軸 0.62m、短軸 0.57m、深さ 0.16m を測る。遺物は出土していない。

SK1251 (図版 77・129・150、写真図版 135)

14R-10G7・8 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit1151・1152 に切られ、SD537・Pit1739 を切る。平面形は不整形、断面は半円形を呈し、覆土は 3 層に分けられる。主軸方位は N-6° -W を指す。検出した範囲での規模は、長軸 1.32m、短軸 0.82m、深さ 0.31m を測る。遺物は出土していない。

SK1520 (図版 77・130、写真図版 135)

14R-8F22 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は円形、断面は皿形を呈し、覆土は 5 層に分けられる。主軸方位は N-80° -E を指す。規模は長軸 0.70m、短軸 0.60m、深さ 0.22m を測る。遺物は出土していない。

SK1519 (図版 77・130、写真図版 136)

14R-8E25 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は円形、断面は箱形を呈し、覆土は 5 層に分けられる。主軸方位は N-55° -W を指す。規模は長軸 0.82m、短軸 0.78m、深さ 0.23m を測る。遺物は出土していない。

SK1644 (図版 77・130、写真図版 136)

14R-8E22・23 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は円形、断面は台形を呈し、覆土は 6 層に分けられる。主軸方位は N-60° -W を指す。規模は長軸 1.05m、短軸 0.93m、深さ 0.27m を測る。遺物は出土していない。

SK1592 (図版 77・130、写真図版 136)

14R-9E8・13 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit1230 (SA2031) に切られる。平面形は円形、断面は皿形を呈し、覆土は 4 層に分けられる。主軸方位は N-80° -W を指す。規模は長軸 0.80m、短軸 0.75m、深さ 0.22m を測る。SK483・557 と同様に、覆土に多量の炭化物を含み、少量の骨片が出土している。

SK1590 (図版 77・130、写真図版 136・137)

14R-9E11・12 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。重複関係はない。平面形は

楕円形、断面は箱形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-2°-Wを指す。規模は長軸0.67m、短軸0.50m、深さ0.17mを測る。遺物は出土していない。

SK1548 (図版76・130、写真図版137)

14R-9D14・19に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。平面形は隅丸長方形、断面は箱形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-61°-Wを指す。規模は長軸0.85m、短軸0.55m、深さ0.22mを測る。遺物は出土していない。

SK1562 (図版77・130・180、写真図版137)

14R-10E11・16に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。Pit951・955・1007(SA2031)・1008に切られ、Pit1981、SD1521(道路状遺構2017)を切る。平面形は不整形、断面は皿形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-62°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長軸1.60m、短軸0.90m、深さ0.28mを測る。1層から陶器皿が出土している。(図版204、写真図版250)

SK1566 (図版76・130、写真図版137)

14R-9C11に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SD1521(道路状遺構2017)を切る。平面形は円形、断面は箱形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-43°-Wを指す。規模は長軸0.70m、短軸0.69m、深さ0.23mを測る。遺物は出土していない。

SK1942 (図版76・130、写真図版137・138)

14R-9B1・6に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。平面形は不整形、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-49°-Eを指す。規模は長軸0.93m、短軸0.72m、深さ0.12mを測る。遺物は出土していない。

SK1943 (図版76・131、写真図版138)

14R-9A5、9B1・6に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SD1620(道路状遺構2017)に切られる。平面形は不整形、断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-35°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長軸1.13m、短軸0.57m、深さ0.14mを測る。遺物は出土していない。

SK1926 (図版76・131、写真図版138)

14R-10C11・12に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SD1615(道路状遺構2017)に切られる。平面形は楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-72°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長軸0.87m、短軸0.79m、深さ0.16mを測る。遺物は出土していない。

SK1619 (図版76・131、写真図版138)

14R-9B22、10B2に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SK1565を切る。平面形は円形、断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-10°-Wを指す。規模は長軸1.22m、短軸1.20m、深さ0.29mを測る。遺物は、1層から磁器小碗が出土している。

SK1565 (図版76・131、写真図版138・139)

14R-9B21・22、10B1・2に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SK1619に切られる。平面形は円形、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-4°-Eを指す。規模は長軸0.77m、短軸0.76m、深さ0.17mを測る。遺物は出土していない。

SK1939 (図版76・131、写真図版139)

14R-9A24・25、10A4・5に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SX1131に切られる。平面形は長楕円形、断面は箱形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-58°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長軸1.55m、短軸0.58m、深さ0.18mを測る。遺物は出土していない。

SK1698 (図版76・79・131、写真図版139)

14R-10A3に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SK1699に切られる。平面形は

不整形、断面は皿形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-84°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長軸1.59m、短軸1.04m、深さ0.23mを測る。遺物は出土していない。

SK1699 (図版76・79・131、写真図版139)

14R-10A3・8に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SK1698を切る。平面形は不整形、断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-85°-Eを指す。規模は長軸1.65m、短軸1.16m、深さ0.18mを測る。遺物は出土していない。

SK1887 (図版80・131、写真図版139・140)

15Q-3F14に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。東端部は土側溝のため不明となったが、重複関係はない。平面形は楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-44°-Wを指す。検出された範囲での規模は、長軸0.46m、短軸0.42m、深さ0.08mを測る。遺物は出土していない。

c 性格不明遺構 (SX)

性格不明遺構は8基検出した。ほとんどが時期・性格ともに不明であるが、長軸が4mを超える大型のSX1131からは、供膳具や日用雑器、仏具、建築部材など多種多様な遺物が出土しており、近世以降の廃棄坑であった可能性がある。

SX583 (図版72・132、写真図版140)

14R-5I9・14に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-77°-Wを指す。規模は長軸0.97m、短軸0.54m、深さ0.07mを測る。遺物は出土していない。

SX1421 (図版73・74・88・132、写真図版107)

14R-6F16に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SE1409を切る。平面形は不整形、断面は皿形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-61°-Eを指す。規模は長軸1.44m、短軸0.93m、深さ0.28mを測る。遺物は出土していない。

SX1591 (図版73・132・142、写真図版140)

14R-6D17・22に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。北西隅は調査区外となり、南東隅は土側溝のため不明となったが遺構同士の重複関係はない。平面形は不整形、断面は半円形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-47°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長軸1.00m、短軸0.74m、深さ0.42mを測る。遺物は出土していない。

SX701 (図版78・132、写真図版140)

14R-8I23、9I3に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。Pit702・703を切る。平面形は長楕円形で、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-5°-Eを指す。規模は長軸1.84m、短軸1.06m、深さ0.06mを測る。遺物は出土していない。

SX1965 (図版78・132、写真図版140)

14R-9I18・19・23に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。北側を土側溝に切られるが、遺構同士の重複関係はない。平面形は不整形、断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-10°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長軸0.66m、短軸0.44m、深さ0.10mを測る。遺物は出土していない。

SX1978 (図版78・132、写真図版141)

14R-9I21・22に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。南側は土側溝のため不明となったが、遺構同士の重複関係はない。平面形は長楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-74°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長軸2.35m、短軸0.52m、深さ0.35mを測る。遺物は出土していない。

SX1963 (図版 77・133、写真図版 141)

14R-9G2・7に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SK1201に切られる。平面形は楕円形、断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-88°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長軸1.42m、短軸1.12m、深さ0.21mを測る。2層から磁器碗が出土している。

SX1131 (図版 76・133～139、写真図版 141・142)

14R-9A19・20・24・25、9B16・21に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SK1939、SD1615(道路状遺構2017)を切る。平面形は不整形、断面は台形を呈し、覆土は9層に分けられる。主軸方位はN-90°を指す。規模は長軸4.51m、短軸3.76m、深さ1.35mを測る。1層から須恵器甕・壺、土師器無台椀、珠洲焼甕・片口鉢、磁器碗・小碗・小杯・皿・瓶・花瓶・猪口・德利・急須、陶器碗・小椀・皿・鉢・片口鉢・播鉢・土瓶・壺・植木鉢・蓋・仏花器、土師質土器焙烙、瓦質土器火鉢、土人形、砥石・磨石・磨石+敲石・敲石・軽石製石製品・石核・不定形石器・礫、釘、珪化木、杭、種実(トチ)、3層から土師器鉢、珠洲焼壺、磁器碗・瓶・德利・急須、陶器小碗・皿・鉢・播鉢・瓶・德利・土瓶・壺・甕・鍋・鍋蓋・香炉・火入・植木鉢・秉燭・爛鍋、土師質土器焙烙、瓦質土器火鉢、鋳型・土人形、砥石・砥石+台石・磨石+敲石・敲石・軽石製石製品・硯・パステル形石製品・不定形石器、漆器椀・漆器蓋・漆器皿・籬・板材、種実(トチ・モモ・クルミ)、4層から磨石+敲石、板材、5層から磁器碗・皿・德利・蓋、陶器鉢・壺・植木鉢・花生、不定形石器、板材・下駄・円盤形底板・杭・曲物、6層から磁器碗・小碗・皿・瓶・德利、陶器播鉢・瓶・土瓶・蓋・鍋蓋、土師質土器焙烙・瓦質火鉢、土人形、砥石・磨石・敲石・台石・軽石製石製品・硯、桶側板・網代・板材・角材・部材・箱部材・行灯部材・底板・曲物底板・棒状木製品・円盤形木製品・下駄・下駄の歯・竹材・漆器椀・漆塗箱、種実(クルミ・ウリ)、炭化物、8層から磁器瓶、陶器播鉢、板材・曲物底板・杭・角材・底板、種実(クルミ・クリ)が出土している。(図版199・201・204～209・212・218～223・225～227・230・232～236・240～248・255～259、写真図版246・248・250～256・259・264～273・275・277～280・285～292・303～307)

d 溝 (SD)

溝は90条検出されている。これらの大半は区画溝や道路状遺構、畑跡とみられるもので、単に排水のために使用されたものは少ない。

SD419 (図版 72・74・75・114・140、写真図版 118・143)

14R-3H20・25、4H5・9・10・14・15・18・19・23、5H3・8・12・13・17・18・22、6H2に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。Pit176・177・178・179・182・184、SA1997・1998に切られ、SK529、SD1425・1426を切る。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-13°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ24.00m、上端幅0.14～0.50m、深さ0.08～0.15mを測る。遺物は出土していない。

SD1428 (図版 72・140、写真図版 143)

14R-5H11～13・18に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-73°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ5.78m、上端幅0.20～0.39m、深さ0.05mを測る。遺物は出土していない。

SD1427 (図版 72・140、写真図版 143)

14R-5G15、5H11に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。Pit240・241に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-72°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ2.52m、上端幅0.14～0.25m、深さ0.07mを測る。遺物は出土していない。

SD1426 (図版 72・140、写真図版 143)

14R-5G15、5H11・16～18に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SD419、Pit348・350に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-70°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ4.75m、上端幅0.12～0.24m、深さ0.07mを測る。遺物は出土していない。

SD1425 (図版 72・140、写真図版 143)

14R-5H11・12・17～19に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SD419に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-72°-W・N-87°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ6.05m、上端幅0.10～0.28m、深さ0.05mを測る。遺物は出土していない。

SD1440 (図版 72・74・140、写真図版 143)

14R-5G23・24に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-76°-Wを指す。規模は長さ0.83m、上端幅0.12～0.18m、深さ0.06mを測る。遺物は出土していない。

SD150 (図版 72・75・77・78・90・125・141・142、写真図版 132・144)

14R-4I14・19・23・24、5I3・4・8・9・13・14・18・19・23、6I2～4・7・8・12・13・17・18・22・23、7H25、7I2・3・6・7・11・12・16・17・21・22、8H5・10・14・15・19・20・24・25、8I1・6・11、9H4・5・8～10・13・14・17～19・22・23、10H2・3・6～8に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SE446、SK400・637、SD119・144・149・362・450・492、Pit472・476・477・478・479・630、SB2023に切られ、SK1721、SD1972、Pit448・589・590・591・601・602・892・897・1177・1178・1858・1993を切る。断面は皿形もしくは台形を呈し、覆土は7層に分けられる。主軸方位はN-8°-E・N-18°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ58.00m、上端幅1.07～2.20m、深さ0.31～0.74mを測る。1層から須恵器甕・焼台、軽石製石製品、2層から須恵器壺、土師器長甕、土師質土器鉢、台石・軽石製石製品、種実(モモ)、3層から土師器不明品、敲石が出土している。(図版 199・209・226・227・231・233・234、写真図版 246・256・272・273・276～278)

SD149 (図版 72・75・141・142、写真図版 144・145)

14R-5I20・24・25、5J11・16・17・21、6I3～5・7～9に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD144、Pit219に切られ、SD150・588、Pit594を切る。断面は半円形を呈し、覆土は7層に分けられる。主軸方位はN-49°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ10.40m、上端幅1.00～1.68m、深さ0.36～0.43mを測る。遺物は出土していない。

SD588 (図版 72・75・142、写真図版 145)

14R-6I4・5・10、5J22、6J2・6・7に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD144・149に切られる。断面は皿形もしくは台形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-74°-W・N-9°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ9.19m、上端幅0.15～0.69m、深さ0.08～0.37mを測る。L字状に屈曲する溝で、西端はSD149に切られ、北端は調査区外へと延びる。遺物は出土していない。

SD144 (図版 73～75・141～143、写真図版 144～146)

14R-6D18～20、6E11・15・16、6F11～15、6G10～15、6H6～13、6I5～10、6J1～3・6に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD149・150・362・450・537・540・588・1261・1635、Pit222・611・886・887・888・1170・1321・1324・1325・1493・1955を切る。断面は皿形もしくは半円形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-85°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ45.00m、上端幅0.19～0.76m、深さ0.07～0.31mを測る。1層から土師器不明品、珠洲焼甕破片の転用砥石、磁器碗、礫、2層から磁器鉢が出土している。(図版 201・209、写真図版 248・256)

SD530 (図版 75・143、写真図版 146)

14R-6I14・15、6J11・16・17に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SK223・224・225・226、SD362、Pit331・531に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-70°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ6.91m、上端幅0.14～0.46m、深さ0.08～0.11mを測る。遺物は出土していない。

SD593 (図版 75・143、写真図版 146)

14R-6J11・16・17に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。Pit333に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-20°-Wを指す。規模は長さ1.75m、上端幅0.14～0.24m、深さ0.05mを測る。遺物は出土していない。

SD119 (図版 75・141・143、写真図版 144)

14R-6I6・7・11～15・19・20、6J16に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SK369、SD362に切られ、SK1991、SD150を切る。断面は皿形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-78°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ10.53m、上端幅0.62～0.81m、深さ0.22mを測る。1層から土師器無台椀・長甕、磨石が出土している。(図版 212・221、写真図版 259・267)

SD540 (図版 72・74・75・114・144、写真図版 117)

14R-5H22・23、6H2～5・10、6I1・6・7に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SK539、SD144に切られ、Pit580・581・600、SB2033を切る。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-70°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ9.35m、上端幅0.28～0.50m、深さ0.16mを測る。遺物は出土していない。

SD860 (図版 75・176、写真図版 236)

14R-7J2・3・7・12・17・22に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SE444、Pit60・67・211・830、SA2000・2001・2002・2003に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-11°-E・N-0°を指す。検出した範囲での規模は、長さ8.47m、上端幅0.50～0.74m、深さ0.08mを測る。SN2014の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD861 (図版 75・176、写真図版 236)

14R-7J7・11・12に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。Pit94 (SA2002)に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-6°-Eを指す。規模は長さ3.34m、上端幅0.29～0.38m、深さ0.03mを測る。SN2014の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD862 (図版 75・176、写真図版 236)

14R-7J6・11に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。Pit93に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-6°-Eを指す。規模は長さ1.54m、上端幅0.28～0.37m、深さ0.03mを測る。SN2014の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD863 (図版 75・176、写真図版 236)

14R-7I5・10・15に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-10°-Eを指す。規模は長さ3.08m、上端幅0.20～0.30m、深さ0.04～0.05mを測る。SN2014の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD864 (図版 75・176、写真図版 236)

14R-7I4・5・9・10・14に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-5°-Eを指す。規模は長さ3.13m、上端幅0.22～0.33m、深さ0.03～0.05mを測る。SN2014の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD68 (図版 75・144、写真図版 147)

14R-7J11に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-8°-Eを指す。規模は長さ0.70m、上端幅0.20～0.24m、深さ0.08mを測る。遺物は出土していない。

SD81 (図版 75・78・122・124・144・145、写真図版 129・131・147)

14R-7J10・15・20・24・25、8J4・5・9・10・14・15・19・23・24、9J3・4・8・9・13・14、14S-

7A6・11に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SK442、SD391、Pit17・24・41・42・43・122・123・253・396・428・431・432・443、SB2028・2029、SA1999・2000・2001・2002・2004に切られ、SK228・1920、Pit853を切る。平行して走行するSD150とともに、建物屋敷地を囲む区画的な役割を担っていたと推察される。断面は半円形もしくは皿形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-11°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ22.88m、上端幅0.92～1.50m、深さ0.18～0.58mを測る。1層から須恵器無台杯、珠洲焼壺、敲石・台石、9層から須恵器焼台が出土している。(図版199・201・228・231・232、写真図版246・248・274・276・277)

SD391 (図版78・145、写真図版147・148)

14R-8J17～20・22、14S-8A16～19に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SK487、SD81・481、Pit396・725・726、SA2004を切る。断面は台形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-87°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ14.52m、上端幅0.32～0.55m、深さ0.09～0.33mを測る。1層から磁器鉢、陶器鉢、軽石製石製品、種実(モモ)が出土している。(図版209・234、写真図版256・278)

SD481 (図版78・123・145、写真図版130・131・148)

14S-8A16～19・23・24に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SK487、SD391に切られ、Pit725・727を切る。断面は台形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-84°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ3.47m、上端幅0.57～0.64m、深さ0.21～0.25mを測る。1層から砥石が出土している。(図版219、写真図版266)

SD252 (図版78・146、写真図版148)

14R-8J16・17・21・22、9J2・7・12・17に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SK1051、SD665、Pit856を切る。断面はU字形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-4°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ8.35m、上端幅0.33～0.46m、深さ0.35mを測る。1層から陶器皿・鉢・搦鉢、砥石・敲石、2層から磨石・磨石+敲石、自然木が出土している。(図版209・218・222・225・228、写真図版256・264・268・271・274)

SD421 (図版78・146、写真図版148)

14R-8J22、9J2・7・12に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD665、Pit852・855・874を切る。断面は台形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-5°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ6.27m、上端幅0.37～0.60m、深さ0.20mを測る。1層から陶器碗・陶器不明品、磨石が出土している。(図版222、写真図版268)

SD665 (図版78・146、写真図版148)

14R-8J22・23、9J1～3・6・7に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SE449、SD252・421、Pit128・130(SB2029)に切られ、Pit851・852を切る。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-36°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ5.99m、上端幅0.26～0.42m、深さ0.06～0.10mを測る。遺物は出土していない。

SD353 (図版75・146、写真図版149)

14R-7I24・25、8I4・5に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SE351を切る。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-18°-Wを指す。規模は長さ2.67m、上端幅0.43～0.62m、深さ0.06mを測る。遺物は出土していない。

SD1404 (図版75・78・146、写真図版149)

14R-7I24、8I4に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。Pit352・640・653(SB2027)に切られ、Pit1405・1406を切る。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-15°-Wを指す。規模は長さ3.60m、上端幅0.14～0.22m、深さ0.03mを測る。遺物は出土していない。

SD492 (図版 75・78・141・147、写真図版 144・149)

14R-8H14・15、8I6・7・11～13・17・18に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD150・450・733・949を切る。断面は半円形を呈し、覆土は12層に分けられる。主軸方位はN-22°-W・N-86°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ8.65m、上端幅0.60～1.18m、深さ0.55～0.60mを測る。1層から磁器碗・皿、陶器碗・播鉢・甕、2層から須恵器有台杯、磁器碗・皿、陶器碗・皿・鉢・播鉢、磨石、3層から土師器無台碗、磁器碗・皿、陶器碗・皿・播鉢・鉢・花生、土師質土器灯明皿、砥石、5層から磁器碗・皿、陶器碗・皿、8層から陶器碗、10層から磁器碗、陶器皿・播鉢・花生、砥石、漆碗が出土している。(図版 199・209・210・218・219・222、写真図版 247・256・257・264・265・266・268)

SD949 (図版 78・148、写真図版 149)

14R-8I17・18・22・23に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD492・733に切られる。断面は箱形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-3°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ2.63m、上端幅0.20～0.36m、深さ0.14mを測る。遺物は出土していない。

SD733 (図版 78・148、写真図版 150)

14R-8I13・18～20に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD492に切られ、SD949を切る。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-15°-W・N-90°を指す。検出した範囲での規模は、長さ5.54m、上端幅0.25～0.53m、深さ0.09mを測る。1層から磁器碗が出土している。(図版 210、写真図版 257)

SD636 (図版 78・105・148、写真図版 150)

14R-8J21、9I5、9J1に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SE845を切る。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-87°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ2.19m、上端幅0.33～0.43m、深さ0.16mを測る。1層から土師器無台碗、磁器皿、陶器播鉢・鉢・壺甕類、砥石・磨石+敲石・敲石・敲石+台石・礫が出土している。(図版 210・219・223・226・229、写真図版 257・266・270・272・274)

SD1959 (図版 78・148、写真図版 150)

14R-9I9・10に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SE449に切られ、SK1957を切る。断面は箱形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-61°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ0.64m、上端幅0.38～0.40m、深さ0.13mを測る。遺物は出土していない。

SD1972 (図版 77・78・149、写真図版 150)

14R-10H3・4に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SD150に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-82°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ1.55m、上端幅0.36～0.53m、深さ0.25mを測る。遺物は出土していない。

SD865 (図版 75・175、写真図版 235)

14R-6I21、7I1・6に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-5°-Eを指す。規模は、長さ3.92m、上端幅0.35～0.57m、深さ0.12～0.17mを測る。SN2015の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD866 (図版 75・175、写真図版 235)

14R-6I21、7H5・10、7I1・6に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。Pit1994を切る。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-4°-Eを指す。規模は、長さ4.66m、上端幅0.23～0.38m、深さ0.02～0.07を測る。SN2015の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD868 (図版 75・175、写真図版 235)

14R-6H25、7H5・10・15・20に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。Pit867に切られ、Pit1388を切る。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-5°-Eを指す。規模は、長さ8.25m、上端幅0.28～0.47m、深さ0.05～0.07を測る。SN2015の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD869 (図版 74・75・175、写真図版 235)

14R-7H9・14 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。Pit2032 (SB2009) に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-17°-Eを指す。規模は長さ2.41m、上端幅0.30～0.51m、深さ0.14mを測る。SN2015の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD1100 (図版 75・175、写真図版 235・236)

14R-7H10・15 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD450 に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-2°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ2.91m、上端幅0.07～0.22m、深さ0.07mを測る。SN2015の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD1101 (図版 75・175、写真図版 235・236)

14R-7H9・14・19 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SD450 に切れ、Pit1871を切る。断面は半円形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-0°を指す。検出した範囲での規模は、長さ4.17m、上端幅0.06～0.24m、深さ0.05mを測る。SN2015の畝の一部である。遺物は出土していない。

SD450 (図版 75・78・141・149・175、写真図版 144・151)

14R-6H4・9・14・19・24、7H4・5・9・10・14・15・19・20・24・25、8H4・5・9・10・14・15 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK483、SD144・492 に切れ、SK1093、SD150・362・541・1100 (SN2015)・1101 (SN2015)・1094、Pit606 (SB2006)・763・773 (SB2033)・1172・1719・1720・1870・1871を切る。断面は半円もしくは台形、階段形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-2°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ23.77m、上端幅0.73～1.00m、深さ0.30～0.43mを測る。1層から磁器小碗・皿、陶器碗・挿鉢、砥石・磨石・敲石・台石・礫、2層から青磁(波佐見)香炉、磁器碗・皿、陶器鉢が出土している。(図版 210・218・221・222・227・232、写真図版 257・265・268・273・277)

SD541 (図版 75・149、写真図版 151)

14R-6H24、7H4 に位置する詳細時期不明の遺構である。Va 層上面で検出した。SD450 に切られる。断面は半円形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-6°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ0.99m、上端幅0.19～0.30m、深さ0.24mを測る。遺物は出土していない。

SD362 (図版 74・75・114・115・141・143・149～151、写真図版 118・119・146・151)

14R-6H6～9・13～15、6I11～14・17～20、6J16～19・22～24 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK369・561・563、SD144・450、Pit99 (SA2000)・100 (SA1999)・562 に切れ、SK1991、SD119・150・530、Pit608・933を切る。調査過程においてSD537とは別個の遺構としたが、新旧関係は不明瞭であり、SD537からも鉄滓など共通する遺物が出土していることから、同一溝であった可能性が高い。断面は半円形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-78°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ27.13m、上端幅0.56～1.14m、深さ0.27～0.47mを測る。14R-6H6付近で南北に走るSD537と合流し、方形区画を形成すると推察される。1層から磨石、釘、2層から磨石+敲石・敲石、椀形鍛冶滓、3層から砥石が出土している。(図版 218・220・224・229・236、写真図版 265・267・270・274・280)

SD537 (図版 74・75・77・115・127・129・142・150・151・155、写真図版 119・135・146・151・152)

14R-6G20・25、6H6・11・16・21、7G5・10・15・19・20・24・25、8G4・5・9・14・18・19・23・24、9G3・4・8・9・13・17・18・22・23、10G2・3・7・8・12・13 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。SK628・1251、SD144・848・940、SA2010を構成するPit907・908・909・910、Pit1151・1152・1447に切れ、SK560、SD1096・1102・1261・1498・1962、Pit744・748・914・917・938・1165・1168・1186・1187・1193・1265・1328・1448・1449・1450・1506・1515・1692・1723・1724・1725・1726・1727・1729・1736・1738を切る。南北方向に直線的に走り、東西方向から延びるSD362と合流して方形の区画を形成していたと考えられる。SD362とは覆土や出土遺物が類

似することから、同一の溝とも考えられるが、調査の過程では別遺構として扱った。断面は皿形を呈し、覆土は5層に分けられる。主軸方位はN-10°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ42.52m、上端幅0.59～1.30m、深さ0.21～0.34mを測る。1層から土師器無台碗・長甕・鍋、台石、碗形鍛冶滓、2層から磨石・磨石+敲石、釘、3層から珠洲焼甕、敲石が出土している。(図版199・201・222・228・230・232・236、写真図版247・248・268・269・274・275・277・280)

SD1261 (図版74・75・151、写真図版152)

14R-6H11・16に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SD144・537に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-17°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ2.77m、上端幅0.28～0.41m、深さ0.11mを測る。遺物は出土していない。

SD1094 (図版74・75・119・151、写真図版126・152)

14R-7H4に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SK1093、SD450に切られる。断面は半円形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-31°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ1.28m、上端幅0.18～0.51m、深さ0.40mを測る。遺物は出土していない。

SD870 (図版74・75・151、写真図版152)

14R-7H13に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。Pit551 (SB2009)・1690に切られる。断面は箱形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-14°-Eを指す。規模は長さ1.25m、上端幅0.15～0.24m、深さ0.09mを測る。遺物は出土していない。

SD1413 (図版74・116・151、写真図版121・152)

14R-6G13・16～18に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SK1129に切れ、SK1326、SD1412を切る。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-52°-E・N-73°-Eを指す。規模は長さ4.17m、上端幅0.21～0.40m、深さ0.40mを測る。遺物は出土していない。

SD1412 (図版74・116・151、写真図版121・152)

14R-6G16・17に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SD1413に切れ、SK1326を切る。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-86°-E・N-60°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ1.47m、上端幅0.12～0.35m、深さ0.06mを測る。遺物は出土していない。

SD1635 (図版73・74・152、写真図版152・153)

14R-6F8・10・13・15・18～20に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SE783、SD144に切れ、Pit1955・1956を切る。南西側に弧を描く「C」字状の溝で、断面は台形を呈し、覆土は4層に分けられる。主軸方位はN-4°-W・N-57°-W・N-12°-E・N-41°-Eを指す。規模は長さ9.06m、上端幅0.35～0.70m、深さ0.15～0.31mを測る。2層から砥石・砥石+敲石・磨石+敲石・敲石・軽石製石製品・礫、銅製埴埦、種実(モモ)、3層から珠洲焼片口鉢、磨石、磨石+敲石が出土している。(図版201・219・220・223・224・226・234・236、写真図版248・265～267・269・270・272・278・280)

SD1252 (図版74・152、写真図版153)

14R-6G21、7G1・6・11・16に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。Pit784・790・891を切る。断面は半円形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-5°-Wを指す。規模は長さ8.35m、上端幅0.18～0.27m、深さ0.11mを測る。遺物は出土していない。

SD1097 (図版74・153、写真図版153・154)

14R-7G17・18・22・23に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は箱形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-20°-Eを指す。規模は長さ0.99m、上端幅0.14～0.20m、深さ0.07mを測る。遺物は出土していない。

SD1530 (図版 73・74・117・153、写真図版 123)

14R-7E11～15に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SK1531を切る。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-87°-Eを指す。規模は長さ9.16m、上端幅0.13～0.30m、深さ0.03mを測る。遺物は出土していない。

SD1670 (図版 73・153、写真図版 154)

14R-7C20・25、8C5に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SE1028、SK1671、Pit1597に切られる。雨落ち溝のような、SE1028の付帯施設であった可能性がある。断面は箱形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-8°-E・N-39°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ3.42m、上端幅0.32～0.50m、深さ0.15mを測る。遺物は出土していない。

SD1579 (図版 73・153、写真図版 154)

14R-7C25、8C5、8D1に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SE1028、Pit1580 (SB2011)に切られる。SD1670と同様に、SE1028の付帯施設であった可能性がある。断面は半円形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-9°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ0.70m、上端幅0.34～0.50m、深さ0.19mを測る。遺物は出土していない。

SD1522 (図版 73・76・153、写真図版 154・155)

14R-7D23、8D2・3・7・12・16・17・21・22、9D1・6・11・16・21、10C10・15、10D1・6・11に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SD1299・1300、Pit1351・1352・1568に切れ、SD1521 (道路状遺構 2017)・1618、Pit1626 (SB2011)・1969・1973・1975を切る。断面は皿形もしくは階段形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-6°-E・N-14°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ28.11m、上端幅0.48～0.83m、深さ0.07～0.18mを測る。1層から土師器小甕が出土している。(図版 199、写真図版 247)

SD1299 (図版 73・76・77・118・153・154・177・178、写真図版 125・154～156)

14R-8C12～15・17・22、8D11～15、8E11～15、8F8～15、8G6～8・11、9C2・7に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。Pit1198・1204に切れ、SK1567、SD1241 (道路状遺構 2016)・1255・1300・1522、道路状遺構 2018を構成するSD1554・1563、Pit1288・1568を切る。東端が調査区外へと延びる東西方向の溝で、14R-8C12付近で南へほぼ直角に屈曲する。覆土や出土遺物が類似するSD1554・1563とは、近世の方形区画を形成していた可能性がある。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-87°-E・N-0°を指す。規模は全長48.80m (東西41.00m、南北7.80m)、上端幅0.26～0.61m、深さ0.09～0.15mを測る。1層から陶器播鉢、磨石が出土している。(図版 210・220、写真図版 257・267)

SD1300 (図版 76・77・153・154・177、写真図版 154～156)

14R-8C14・15、8D11～15、8E11～15、8F11～15、8G11に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD1299に切れ、SD1241 (道路状遺構 2016)・1522、Pit1304・1808・1913・1914を切る。SD1299とほぼ同じ位置で東西方向に走る溝で、断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-88°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ33.20m、上端幅0.22～0.43m、深さ0.09～0.17mを測る。1層から陶器鉢が出土している。(図版 210、写真図版 257)

SD1255 (図版 77・154、写真図版 155・156)

14R-8F8・13に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SD1299に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-73°-Eを指す。規模は長さ0.53m、上端幅0.12～0.16m、深さ0.04mを測る。遺物は出土していない。

SD1547 (図版 76・154、写真図版 156)

14R-8D22、9D2に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は台

形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-0°を指す。規模は長さ1.03m、上端幅0.24～0.27m、深さ0.14mを測る。遺物は出土していない。

SD1807 (図版77・154、写真図版156)

14R-8E19・20、8F16に位置する、詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-79°-Eを指す。規模は長さ4.63m、上端幅0.16～0.25m、深さ0.06mを測る。遺物は出土していない。

SD1336 (図版77・154、写真図版156・157)

14R-8F13～15・18、8G11に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は単層である。主軸方位はN-28°-E・N-88°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ6.43m、上端幅0.19～0.28m、深さ0.06～0.08mを測る。遺物は出土していない。

SD1096 (図版74・75・77・155、写真図版157)

14R-8G9・10に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SD537に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-79°-Wを指す。規模は長さ1.07m、上端幅0.15～0.25m、深さ0.07mを測る。遺物は出土していない。

SD1102 (図版75・77・155、写真図版157)

14R-8G13～15、8H11・12に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SD537に切られる。断面は半円形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-88°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ6.22m、上端幅0.10～0.32m、深さ0.06mを測る。遺物は出土していない。

SD940 (図版77・78・127・129・150・168～170、写真図版134・151・202)

14R-8F20・25、8G16～21・25、8H16～18・21～23・25、9F5・10・15・20、9G1・6・11・16・21、10G1・2・6・7・11に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SK628・1499、SD848、Pit849に切れ、SE1509、SK1202、SD537、Pit1156・1157・1191・1298・1654・1676・1677・1693・1703・1706・1707・1708・1732・1764・1765・1857・1960・1961・1995を切る。14R-8G16付近ではほぼ直角に屈曲するL字型の溝で、SB2010が東側に近接し、棟方向と溝の主軸方位が類似することから、建物の区画も兼ねた雨落ち溝であったと考えられる。断面は皿形を呈し、覆土は5層に分けられる。主軸方位はN-5°-W・N-90°を指す。検出した範囲での規模は、長さ30.34m、上端幅0.70～2.52m、深さ0.16～0.22mを測る。1層から土師器無台椀・長甕、珠洲焼壺、磁器碗・皿、陶器碗・皿・鉢・播鉢、土製品羽口、磨石・磨石+敲石・敲石・軽石製石製品・礫、鉄滓、自然木、2層から台石、3層から磁器碗、砥石・磨石・礫、4層から土師器長甕、磁器碗、磨石・磨石+敲石・軽石製石製品・礫、5層から磨石+敲石が出土している。(図版199・202・210～212・218・221～226・228・232～234、写真図版247・248・258・259・264・265・267～269・271・272・274・277～279)

SD848 (図版77・129・150・168～170、写真図版135・202)

14R-10G6・7・11～14に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD537・940を切る。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-83°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ5.94m、上端幅0.46～1.98m、深さ0.27mを測る。1層から磁器碗、陶器鉢、陶器(肥前)皿が出土している。(図版210、写真図版258)

SD1498 (図版77・155、写真図版157)

14R-8G23に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SD537に切られる。断面は半円形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-82°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ0.48m、上端幅0.22～0.32m、深さ0.14mを測る。遺物は出土していない。

SD1962 (図版77・150・155、写真図版151・157)

14R-9G8・9・13・14に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SD537に切られる。断面は

半円形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-24°-W・N-82°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ1.70m、上端幅0.40～0.73m、深さ0.24mを測る。遺物は出土していない。

SD1841 (図版77・155、写真図版157・158)

14R-9F24・25に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SK1840に切られる。断面は皿形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-79°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ1.59m、上端幅0.21～0.27m、深さ0.05mを測る。遺物は出土していない。

SD1241 (図版77・154・177、写真図版155・237)

14R-8F12・17・22、9F2・7・8・12・13・17・18・22・23、10F2・3・8・13・18に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD1299・1300、Pit1145・1147・1148・1150・1238に切られ、SD1838、Pit1740・1744・1745・1746・1747・1751・1752・1754・1755・1758・1759・1760・1761を切る。南側は調査区外へと延び、北側はSD1299に切られる。断面は台形を呈し、覆土は5層に分けられる。SD1422とともに、主軸方位はN-4°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ22.68m、上端幅0.50～0.96m、深さ0.32～0.46mを測る。道路状遺構2016の側溝として機能し、区画的な役割も担っていたと考えられる。1層から珠洲焼片口鉢、磁器皿、陶器碗・皿・甕、パステル形石製品、2層から土師質土器鉢、砥石・剥片が出土している。(図版202・211・218・234・235、写真図版248・258・259・265・279)

SD1242 (図版77・177、写真図版237)

14R-9F18・19・23・24、10F3・4・9・14・19に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。Pit1741・1742を切る。南側は調査区外へと延びる。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-4°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ10.09m、上端幅0.24～0.60m、深さ0.11～0.32mを測る。SD1241とともに、道路状遺構2016の側溝として機能し、区画的な役割も担っていたと考えられる。1層から磁器碗・皿・瓶・花瓶、陶器碗、砥石・敲石・台石が出土している。(図版211・219・228・232、写真図版259・266・274・277)

SD1838 (図版77・155、写真図版158)

14R-9F16・17・22に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SD1241(道路状遺構2016)に切られる。断面は半円形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-69°-W・N-82°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ2.11m、上端幅0.20～0.30m、深さ0.14mを測る。遺物は出土していない。

SD1837 (図版77・155、写真図版158)

14R-9F21、10F1・2に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。Pit1601に切られる。断面は箱形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-70°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ1.24m、上端幅0.20～0.30m、深さ0.20mを測る。遺物は出土していない。

SD1859 (図版76・77・155、写真図版158)

14R-10D15・20に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。Pit1006に切られ、Pit1860を切る。南側は調査区外へと延びる。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-4°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ1.08m、上端幅0.27～0.43m、深さ0.29mを測る。1層から陶器碗が出土している。

SD1554 (図版76・178・180、写真図版237・238)

14R-8C13・14・18・19・23・24、9C3・4・9・14・19・24、10C9・14に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD1299に切られ、SD1521・1618、Pit1556・1976、道路状遺構2017を切る。南側は調査区外へと延びる。断面は皿形もしくは台形を呈し、覆土は2層に分けられる。SD1563とともに主軸方位はN-5°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ19.89m、上端幅0.30～0.74m、深さ0.15～0.19mを測る。道路状遺構2018の側溝として機能し、区画としての役割も担っていたと考えられる。1層から磁器碗・

鉢、瀬戸産の天目碗、磨石が出土している。(図版 202・211・221、写真図版 248・259・267)

SD1563 (図版 73・76・118・154・178・180、写真図版 125・237～239)

14R-7C17・22・23、8C2・3・7・12・17・22、9C2・7・12・17・22・23、10C2・3・7・8・12・13に位置する近世の遺構である。Va層上面で検出した。SD1299に切られ、SK1567、道路状遺構 2017を構成するSD1521・1615、SD1618、Pit1675を切る。南側は調査区外へと延びる。断面は皿形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-0°を指す。検出した範囲での規模は、長さ28.14m、上端幅0.47～1.15m、深さ0.11～0.25mを測る。SD1554とともに道路状遺構 2018の側溝として機能し、区画としての役割も担っていたと考えられる。1層から土師器長甕、磁器碗、陶器皿・鉢・甕が出土している。(図版 211、写真図版 259)

SD1616 (図版 76・179・181、写真図版 238・239)

14R-8B16・17・21～23、9B3・4に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。道路状遺構 2017の側溝であったSD1521の幅を拡張するかたちで新たに掘削した溝と考えられる。断面は皿形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-52°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ9.32m、上端幅1.35～1.54m、深さ0.33～0.51mを測る。遺物は出土していない。

SD1521 (図版 76・77・130・153・179～181、写真図版 137・155・238・239)

14R-8A25、8B21・22、9A5、9B1～5・8～10、9C1・6・7・11～13・17～20・23～25、9D21、10C5、10D1～3・7～10・14・15、10E6・11～13・17～19に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SK1562・1566、SD1616・1522、道路状遺構 2018を構成するSD1554・1563、Pit950・951・954・1000・1001・1007 (SA2031)・1008・1016・1017・1018・1025・1040・1041・1078・1163・1305・1306・1307・1309・1513に切られ、Pit1970・1971を切る。断面は半円形を呈し、覆土は6層に分けられる。主軸方位はN-62°-W・N-71°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ40.03m、上端幅0.94～1.75m、深さ0.41～0.60mを測る。検出した範囲の西端付近でSD1616と切り合っているが、土層断面の観察から、後世に造り替えた可能性が考えられる。道路状遺構 2017の側溝として機能していたと考えられる。1層から須恵器甕、土師器無台碗・長甕、珠洲焼甕・片口鉢、陶器花瓶、台石、2層から土師器無台碗、珠洲焼甕、土師質土器鉢が出土している。(図版 199・202・231、写真図版 247・248・276)

SD1620 (図版 76・179・181、写真図版 238・239)

14R-9A4・5・10、9B1・6・7・12に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SK1943を切る。北西側は調査区外へと延びる。断面は台形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-57°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ6.65m、上端幅0.41～0.77m、深さ0.08～0.17mを測る。道路状遺構 2017の構成遺構の一つである。遺物は出土していない。

SD1618 (図版 76・179～181、写真図版 238・239)

14R-9B13・14・18～20・25、9C21・22、10C1～4・8～10・15、10D6・11に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SD1522、道路状遺構 2018を構成するSD1554・1563、Pit1164に切られる。断面は皿形もしくは台形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-58°-W・N-78°-Wを指す。規模は長さ19.05m、上端幅0.37～0.87m、深さ0.06～0.16mを測る。道路状遺構 2017の構成遺構の一つである。遺物は出土していない。

SD1615 (図版 76・179～181、写真図版 238・239)

14R-9A8・12～15・18～20、9B11・16・17・21～24、10B3～5・9・10、10C1・6・7・11～14に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。SX1131、SD1563 (道路状遺構 2018)・1617に切られ、SK1926、Pit1927・1928を切る。溝の東西は調査区外へと延びる。断面は半円形を呈し、覆土は5層に分けられる。主軸方位はN-60°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ22.68m、上端幅1.10～1.95m、深さ0.35～0.58mを測る。道路状遺構 2017の南側側溝と考えられる。1層から土師器無台碗・長甕・鍋、珠洲焼壺・

甕・片口鉢、剥片、2層から土師器無台椀・長甕・小甕・甕・鍋・鉢、黒色土器無台椀、珠洲焼甕、磨石、3層から土師器長甕・小甕、4層から土師器小甕、5層から須恵器無台杯、土師器無台椀・長甕・鉢が出土している。(図版199・200・202・221・235、写真図版247・248・267・279)

SD1617 (図版76・156、写真図版158)

14R-9B23、10B3に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。SD1615(道路状遺構2017)を切る。断面は台形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-7°-Eを指す。規模は長さ1.84m、上端幅0.49～0.62m、深さ0.37mを測る。遺物は出土していない。

SD1899 (図版79・156、写真図版159)

14Q-10I6・11に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。東西両側は調査区外に延びる。断面は皿形を呈し、覆土は5層に分けられる。主軸方位はN-75°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ1.18m、上端幅0.86～1.16m、深さ0.36mを測る。遺物は出土していない。

SD1906 (図版79・156、写真図版159)

14Q-10H20・25、10I16・21、15Q-1H5に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。Pit1898・1905を切る。断面は箱形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-5°-Eを指す。規模は長さ3.49m、上端幅0.20～0.29m、深さ0.13mを測る。遺物は出土していない。

SD1896 (図版79・156、写真図版159)

15Q-1H10・14・15に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。北側は調査区外に延びる。断面は箱形を呈し、覆土は6層に分けられる。主軸方位はN-17°-Eを指す。検出した範囲での規模は、長さ1.09m、上端幅0.26～0.43m、深さ0.43mを測る。遺物は出土していない。

SD1894 (図版79・156、写真図版159)

15Q-1H14・18・19に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。南北両側は調査区外に延びる。断面は皿形を呈し、覆土は3層に分けられる。主軸方位はN-0°を指す。検出した範囲での規模は、長さ1.15m、上端幅0.70～0.92m、深さ0.23mを測る。遺物は出土していない。

SD1893 (図版80・156、写真図版160)

15Q-2G18に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。重複関係はない。東西両側は調査区外に延びる。断面は半円形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-69°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ1.00m、上端幅0.55～0.60m、深さ0.21mを測る。遺物は出土していない。

SD1892 (図版80・157、写真図版160)

15Q-3F5・10、3G1・2・6に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。Pit1915を切る。東西両側は調査区外に延びる。断面は皿形を呈し、覆土は10層に分けられる。主軸方位はN-58°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ1.11m、上端幅2.78～2.99m、深さ0.61mを測る。2層から土師器無台椀・長甕、陶器皿、8層から土師器無台椀、磁器碗、9層から土師器無台椀・長甕・小甕が出土している。(図版199、写真図版247)

SD1890 (図版80・157、写真図版160)

15Q-3F9・10に位置する詳細時期不明の遺構である。Va層上面で検出した。北西側は調査区外へと延びる。重複関係はない。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分けられる。主軸方位はN-50°-Wを指す。検出した範囲での規模は、長さ0.69m、上端幅0.46～0.54m、深さ0.11mを測る。遺物は出土していない。

e 小 土 坑 (Pit)

本遺跡では1756基確認されている。これらの多くは掘立柱建物の柱穴や柵または柱列を構成するものと推察される。小土坑は遺構数が多いため、個別の形状や数値については別表1の記載にとどめた。

f 区 画 墓 (SZ)

SZ2013 (図版 73・74・158、写真図版 160・161)

14R-6E21・22、7E1・2・6・7に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。Pit1771・1780・1781・2019・2020・2021・2022に切られる。ST1621、SD1622からなり、ST1621の外周にSD1622が巡り区画を形成する。遺構形態や覆土から、1区のSZ865と近い時期の構築と推察される。区画の平面形態は隅丸方形を呈し、周溝部に相当するSD1622の各辺は緩く内湾する。途切れる部分はなく、全周する。主体部であるST1621の主軸方位はN-18°-E、区画溝であるSD1622の主軸方位はN-14°-E・N-75°-W・N-15°-E・N-77°-Wを指す。規模は、SD1622の外周で長軸3.64m、短軸3.40m、内周で長軸2.90m、短軸2.60mを測る。南側にはテラス状の段差が半円状に張り出し、これを含む外周長軸は4.08mを測る。1区で検出されたSZ865の1/2程の規模である。SD1622の覆土はVa層土ブロックが多量に含まれており、主体部側からの崩落土と考えられることから、主体部上には盛土が存在した可能性がある。ST1621は区画のほぼ中央に配される。平面は長方形を呈すが、長軸と短軸の差が少なく幅広である。平面検出時にも覆土中に長方形のプランが確認されており、何らかの遺骸収納施設(木棺・木櫃等)を伴っていた可能性もあるが、土層断面ではそれを裏付ける痕跡は確認されなかった。ST1621の底面直上から烏帽子と考えられる漆塗製品が出土している。(図版 260、写真図版 307)

ST1621 (図版 73・74・158、写真図版 30～33)

14R-7E1・2・6・7に位置する中世の遺構である。Va層上面で検出した。平面形は隅丸長方形、断面形は箱形を呈し、覆土は8層に分けられ、Va層土ブロックが多く含まれる。主軸方位はN-18°-Eを指す。規模は、長軸1.68m、短軸1.24m、深さ0.20～0.24mを測る。区画墓(SZ2013)の主体部に相当する。検出時には、色調の異なる長軸1.18m、短軸0.52mの長方形プランが中央部に確認された。木棺等の埋葬施設である可能性も考えられたが、覆土中からはそれらを示す資料は検出されず、土層断面観察からも痕跡は確認されなかった。また、覆土から資料を採取し、リン・カルシウム分析を行ったが遺体の存在を示す結果は示されなかった。中央部の底面直上から漆塗製品が出土した。漆膜観察および赤外線分光分析の結果、和紙などに漆を塗布した製品の一部であることが判明し、烏帽子である可能性が指摘されている。(図版 260、写真図版 307)

SD1622 (図版 73・74・158、写真図版 30・31・33・160・161)

14R-6E21・22、7E1・2・6・7に位置する中世の遺構である。Pit1771・1780・1781・2022に切られる。区画溝として機能していたと考えられる。断面は皿形を呈する。底面は南側が深く、北側が浅い。南辺には幅0.44m、深さ0.09mを測るテラス状の段差を伴う。覆土は3層に分けられ、覆土の大半を占める2層にはVa層土ブロックが多く含まれる。主軸方位はN-14°-E・N-75°-W・N-15°-E・N-77°-Wを指す。規模は、長さ11.02m(東辺2.72m、西辺3.07m、南辺2.59m、北辺2.64m)、上端幅0.37～0.78m、深さ0.09～0.17mを測る。ST1621とともにSZ2013の構成遺構の一つである。遺物は出土していない。

g 掘立柱建物跡 (SB)

本遺跡で確認された掘立柱建物跡は計17棟を数えるが、土層観察により柱痕が認められたものの柱列が組めず小土坑として扱った遺構も多くあり、全ての掘立柱建物跡を選出できていない可能性が高い。

SB2024 (図版 72・74・159、写真図版 161～163)

14R-5G8・9・13～15・18・19・22～24、6G3・4に位置する中世の遺構である。Pit266・277・278・285・356・675・1329・1371から構成される。Pit290を切る。東にSB2006・2007、南にSB2008が隣接する。棟方向が類似することから、共時性がうかがえる。桁行3間×梁行2間の南北棟で、床面積は19.34m²を測る。規模は、桁行長6.10m、梁行長3.42mを測り、棟方向はN-20°-Eを指す。身舎の柱間寸法は、桁行は西側柱列(Pit356・278・285・1371)で1.30～3.10m、東側柱列(Pit675・277・1329)で3.04～3.06mを測り、梁行は北柱列(Pit356・675)で3.00m、南柱列(Pit1371・1329)で3.42mを測る。桁行・梁行ともに、柱間寸法に規格性は認められない。柱掘方は、平面円形もしくは楕円形、断面半円形、台形、階段形

を呈し、規模は長軸 0.25 ～ 0.42m、確認面からの深度は 0.16 ～ 0.29m を測る。遺物は出土していない。

SB2006 (図版 72・74・75・159、写真図版 34・163～168)

14R-5G19・20・24・25、6G4・5、5H16～19・21～24、6H1～4・7～9 に位置する中世の遺構である。Pit27・53・83・85・243・258・271・341・347・349・368・377・412・415・599・606 から構成される。Pit606 は SD450 に切られ、Pit85 は Pit86・605、Pit271 は Pit272、Pit341 は Pit408、Pit412 は Pit411 (SB2007)、Pit53 は Pit413 (SB2007)、Pit415 は Pit416 (SB2007)、Pit347 は Pit518 を切る。また、西に SB2024、南に SB2008、南東に SB2033 が隣接しており、棟方向が類似することから共時性がうかがえる。桁行 3 間 × 梁行 1 間の東西棟で、西側柱列に棟持柱、身舎の北と東 2 面にそれぞれ 1 間の庇が付く。床面積は 40.11m² を測る。規模は、桁行長 8.82m、梁行長 4.20m を測り、棟方向は N-74° -W を指す。身舎の柱間寸法は、桁行は北側柱列 (Pit53・83・341・347) で 2.80 ～ 3.10m、南側柱列 (Pit368・377・412・415) で 2.82 ～ 3.00m を測る。梁行は西柱列 (Pit341・368) で 4.20m、東柱列 (Pit53・415) で 4.15m を測る。棟持柱は西柱列の中央から 1.60m 突出する。桁行の柱間寸法は 3.00m 前後の規格性が認められ、重複する SB2007 と共通する。底部は、身舎から北側で 0.9m、東側で 1.10m の幅で設けられており、柱穴は身舎には対応せず、北側で 4 間、東側で 2 間の間隔で配置される。柱間寸法に規格性は認められず、北側で 1.86 ～ 3.10m、東側で 2.38 ～ 2.84m を測る。身舎の柱掘方は平面円形もしくは楕円形、断面半円、U 字形、階段形、漏斗形を呈し、規模は長軸 0.24 ～ 0.68m、確認面からの深度は 0.08 ～ 0.59m を測る。底部の柱掘方は平面円形もしくは楕円形、断面半円、U 字形、階段形を呈し、規模は長軸 0.22 ～ 0.44m、深度は 0.14 ～ 0.44m を測り、身舎に比べてやや小振りである。Pit53 から陶器碗、Pit271 の 1 層から磨石 + 敲石が出土している。(図版 225、写真図版 271)

SB2007 (図版 72・74・75・159、写真図版 34・163～169)

14R-5G15・19・20・24・25、6G4・5、5H11・12・16～25、6H1～5・8～10 に位置する中世の遺構である。Pit84・245・346・376・410・411・413・416・418 から構成される。Pit413 は Pit53 (SB2006)、Pit410 は Pit287、Pit411 は Pit412 (SB2006)、Pit416 は Pit415 (SB2006) に切られる。また、西に SB2024、南に SB2008、南東に SB2033 が隣接しており、棟方向が類似することから共時性がうかがえる。桁行 3 間 × 梁行 1 間の東西棟で、西側柱列に棟持柱を持つ。床面積は 39.19m² を測る。規模は、桁行長 9.16m、梁行長 4.30m を測り、棟方向は N-73° -W を指す。身舎の柱間寸法は、桁行は北側柱列 (Pit245・346・84・413) で 2.80 ～ 3.20m、南側柱列 (Pit418・376・411・416) で 2.88 ～ 3.08m を測る。梁行は西柱列 (Pit245・418) で 4.30m、東柱列は南側 (Pit413・416) で 3.92m を測る。棟持柱は西側柱列の中央やや南寄りから 0.89m 突出する。身舎の柱掘方は、平面円形もしくは半円形、楕円形、断面箱形、U 字形、階段形を呈し、規模は長軸 0.22 ～ 0.46m、確認面から深度は 0.22 ～ 0.50m を測る。Pit245 の 3 層から銅塊が出土している。(図版 236、写真図版 280)

SB2008 (図版 74・75・160、写真図版 34・163・164・169～172)

14R-6G2～4・7～10・12～15・19・20、6H6～8・11～13・16・17・21・22 に位置する中世の遺構である。Pit291・299・420・441・454・458・459・463・468・516・522・527・528・555 から構成される。南側柱列の一部を SE519 に切られる。Pit516 は Pit515 に切られ、Pit463 は Pit465、Pit527 は Pit1492・1493 を切る。北に SB2006・2007・2024、東に SB2033 が隣接しており、棟方向が類似することから共時性がうかがえる。桁行 3 間 × 梁行 2 間、東西棟の総柱建物で身舎の東側に 1 間の庇が付く。床面積は 37.93m² を測る。規模は、桁行長 9.58m、梁行長 4.00m を測り、棟方向は N-66° -W を指す。身舎の柱間寸法は、桁行は北側柱列 (Pit299・441・454・522) で 3.05 ～ 3.26m、南側柱列 (Pit527・555・459) で 3.15 ～ 6.43m を測る。梁行は、西柱列 (Pit299・291・527) で 1.82 ～ 2.00m、東柱列 (Pit522・458・459) で 1.80 ～ 2.20m を測る。底部は、身舎から東側に 1.12 ～ 1.19m の幅で設けられており、柱穴は身舎に対応している。身舎の柱掘方は平面円形、隅丸方形、断面半円形、U 字形、階段形、漏斗形を呈し、規模は長軸 0.27 ～ 0.48m、深度は確認面

から 0.21 ~ 0.53m を測る。底部の柱掘方は平面円形、楕円形、断面皿形、U 字形を呈し、規模は長軸 0.22 ~ 0.51m、確認面からの深度は 0.16 ~ 0.35m を測る。Pit441 から腕形鍛冶滓が出土している。(図版 236、写真図版 280)

SB2033 (図版 74・75・161、写真図版 35・173 ~ 175)

14R-6H4・5・9・10・13 ~ 15・18 ~ 20・23 ~ 25、7H4・5、6I6 に位置する中世の遺構である。Pit509・580・581・600・612・693・773・803・1123 から構成される。Pit733 は SD450、Pit580・581・600 は SD540 に切られる。桁行 3 間 × 梁行 2 間の南北棟で、西側に SB2006 ~ 2008 が隣接し、このうち SB2006 とは西側柱列で一部重複する。床面積は 31.85m² を測る。規模は、桁行長 8.20m、梁行長 4.00m を測り、棟方向は N-21° -E を指す。身舎の柱間寸法は、桁行は西側柱列 (Pit600・1123・509) で 3.90 ~ 4.20m、東側柱列 (Pit581・612・693・773) で 2.50 ~ 3.00m を測る。梁行は、北柱列 (Pit600・580・581) で 1.70 ~ 2.10m、南柱列 (Pit509・803・773) で 1.80 ~ 2.20m を測る。身舎の柱掘方は平面円形もしくは楕円形、断面台形、箱形、半円形、U 字形、階段形を呈し、規模は長軸 0.10 ~ 0.48m、確認面からの深度は 0.18 ~ 0.51m を測る。遺物は出土していない。

SB2025 (図版 74・75・161、写真図版 35・175・176)

14R-6H21 ~ 23、7H1 ~ 3 に位置する中世の遺構である。Pit461・502・511・577 から構成される。Pit461 は Pit460 に切られ、Pit502 は Pit501 を切る。桁行 1 間 × 梁行 1 間の東西棟で、北側に SB2008・2033 が隣接する。床面積は 4.62m² を測る。規模は、桁行長 3.30m、梁行長 2.10m を測り、棟方向は N-70° -W を指す。柱間寸法は、桁行は北側柱列 (Pit461・511)、南側柱列 (Pit502・577) とともに 3.30m、梁行は西柱列 (Pit461・502) で 1.90m、東柱列 (Pit511・577) で 2.10m を測る。柱掘方は平面円形もしくは楕円形、断面皿形、半円形、階段形を呈し、規模は長軸 0.19 ~ 0.52m、確認面からの深度は 0.14 ~ 0.32m を測る。遺物は出土していない。

SB2034 (図版 73・74・162、写真図版 35・176 ~ 178)

14R-6F18・19・22 ~ 25、7F2 ~ 5・9・10、6G21・22、7G1・2・6・11 に位置する中世の遺構である。Pit757・764・765・766・767・780・788・789・794・797・937 から構成される。重複関係はない。桁行 3 間 × 梁行 2 間の東西棟で、北側に SB2008 が近接する。床面積は 29.36m² を測る。規模は、桁行長 8.20m、梁行長 3.70m を測り、棟方向は N-68° -W を指す。柱間寸法は、桁行は北側柱列 (Pit767・766・764・757) で 1.10 ~ 3.20m、南側柱列 (Pit797・937・788・789) で 2.45 ~ 3.20m、梁行は西柱列 (Pit767・794・797) で 1.70 ~ 2.00m、東柱列 (Pit757・780・789) で 1.70 ~ 1.92m を測る。また、建物中央からやや西よりにあたる北側柱列 Pit766 と南側柱列 Pit937 の間に Pit765 が配列され、西側 1 間と東側 2 間の間に間仕切りがあったと推察される。柱掘方は平面円形もしくは楕円形、断面台形、箱形、U 字形、階段形を呈し、規模は長軸 0.22 ~ 0.36m、確認面からの深度は 0.22 ~ 0.42m を測る。遺物は出土していない。

SB2012 (図版 73・76・163、写真図版 35・179 ~ 183)

14R-7C17 ~ 20・22 ~ 25、8B5・10、8C1 ~ 9 に位置する中世の遺構である。Pit1581・1582・1583・1623・1624・1627・1636・1638・1639・1642・1643・1646・1673・1674・1783・1786・1801・1944 から構成される。重複関係はない。桁行推定 3 間 × 梁行 2 間、東西棟の総柱建物で、身舎の南北 2 面にそれぞれ 1 間の庇が付く。建物北西隅は調査区外となり、西側柱列の大部分は未検出である。東に SB2011 が隣接しており、棟方向が類似することから共時性がうかがえる。床面積は 23.81m² を測る。検出した範囲での規模は、桁行長 8.20m、梁間長 3.50m を測り、棟方向は N-83° -W を指す。身舎の柱間寸法は、桁行は北側柱列 (Pit1944・1642・1643・1624) で 2.50 ~ 3.20m、南側柱列 (Pit1786・1674・1583・1582) で 2.50 ~ 3.20m を測る。梁行は西柱列 (Pit1674・1801・1944) で 1.70 ~ 1.80m、東柱列 (Pit1624・1646・1582) で 1.60 ~ 1.70m を測る。桁行の柱間寸法は、南北柱列ともに中央が 3.20m、その東西は 2.50m、梁行はいずれも 1.70m 前後で、規格性が認められる。庇部は、身舎から北側で 0.90m、南側で 0.70 ~ 1.10m の幅で設け

られる。柱穴は身舎とは若干のずれがみられる。身舎の柱掘方は平面円形もしくは楕円形、断面半円形もしくはU字形を呈し、規模は長軸0.25～0.37m、確認面からの深度は0.17～0.37mを測る。底部の柱掘方は概ね平面円形もしくは楕円形、断面半円形もしくはU字形を呈し、規模は長軸(0.17)～0.39m、深度は0.17～0.69mを測る。Pit1646から珠洲焼片口鉢が出土している。(図版202、写真図版248)

SB2011 (図版73・76・164、写真図版35・183～185)

14R-7C25、7D16・17・21・22、8D1・2・6・7に位置する中世の遺構である。Pit1577・1578・1580・1584・1593・1625・1626・1650から構成される。Pit1626はSD1522に切られ、Pit1580はSD1579を切る。桁行2間×梁行2間、南北棟の総柱建物である。西にSB2012が隣接しており、棟方向が類似することから共時性がうかがえる。床面積は20.89m²を測る。規模は、桁行長6.50m、梁行長2.98mを測り、棟方向はN-5°-Eを指す。柱間寸法は、桁行は北側柱列(Pit1578・1626)で3.20m、南側柱列(Pit1593・1580・1584)で3.10～3.40mを測る。梁行は、西柱列はSE1027に切られるため不明、中央柱列(Pit1580・1577・1578)で1.40～1.58m、東柱列(Pit1626・1625・1584)で1.30～1.60mを測る。桁行の柱間は、梁行の柱間のほぼ倍となっており、柱間寸法に規格性が認められる。柱掘方は平面円形もしくは楕円形、隅丸長方形、断面U字形もしくは半円形を呈し、規模は長軸0.24～0.39m、確認面からの深度は0.20～0.49mを測る。Pit1577・1626から磨石が出土している。(図版220・221、写真図版266・267)

SB2030 (図版73・74・77・164、写真図版185・186)

14R-7E23・24、8E2～5・8・9に位置する中世の遺構である。Pit1276・1810・1815・1865・1867・1868から構成される。Pit1815はPit1817を切る。桁行1間×梁行1間の東西棟で、西に11mの地点には、棟方向を同じくするSB2011・2012が近接する。床面積は8.37m²を測る。規模は、桁行長3.30m、梁行長2.60mを測り、棟方向はN-62°-Wを指す。柱間寸法は、桁行は北側柱列(Pit1815・1865)で3.10m、南側柱列(Pit1810・1276)で3.30mを測る。梁行は西柱列(Pit1815・1810)で2.58m、東柱列(Pit1865・1276)で2.60mを測る。柱掘方は平面円形もしくは楕円形、断面U字形もしくは半円形を呈し、規模は長軸0.22～0.33m、確認面からの深度は0.14～0.37mを測る。遺物は出土していない。

SB2009 (図版74・75・165、写真図版35・187～190)

14R-7H7～9・12～14・17～19・22～24に位置する近世の遺構である。Pit542・543・544・547・548・549・551・552・554・564・699・799・800・1105・2032から構成される。Pit699はPit553に切られ、Pit2032はSD869(SN2015)、Pit551はSD870、Pit544はPit545・546、Pit799はPit928を切る。桁行2間×梁行2間の南北棟で、北と東にそれぞれ1間の庇が付く。床面積6.15m²を測る。規模は、桁行長2.60m、梁行長2.60mを測り、棟方向はN-1°-Wを指す。身舎の柱間寸法は、桁行は西側柱列(Pit699・554・544)で1.10～1.40m、東側柱列(Pit551・547・542)で1.28～1.32mを測る。梁行は北柱列(Pit699・552・551)で1.00～1.40m、南柱列(Pit544・543・542)で1.10～1.50mを測る。桁行および梁行ともに、柱間寸法に規格性は認められない。庇部は、身舎から北側で1.40～1.60m、東側で1.20～1.30mの幅で設けられており、柱穴は身舎に対応している。身舎の柱掘方は平面円形もしくは楕円形、断面半円形、台形、箱形、U字形を呈し、規模は長軸0.30～0.77m、確認面からの深度は0.21～0.49mを測る。庇部の柱掘方は概ね平面円形もしくは楕円形、断面半円形、台形、漏斗形、階段形を呈し、規模は長軸0.18～0.87m、深度は0.16～0.56mを測る。東側柱列のうちPit547から、柱根の一部、Pit542から器種不明の磁器、Pit564から陶器火入が出土している。(図版210、写真図版258)

SB2026 (図版74・75・77・78・166、写真図版35・191・192)

14R-8H1～3・6～8に位置する近世の遺構である。SK556とほぼ同位置にあることから、同遺構に伴う何らかの付帯施設であった可能性がある。Pit739・1685・1686・1687から構成される。Pit1685・1686はSK556に切られる。桁行1間×梁行1間の東西棟で、各柱穴はSK556南北両壁に沿ったかたちで検出され

た。北側には棟方向を同じくするSB2009が、東側にはSB2023が近接する。床面積は4.62m²を測る。規模は、桁行長2.80m、梁行長2.00mを測り、棟方向はN-87°-Eを指す。柱間寸法は、桁行は北側柱列(Pit1687・739)で2.80m、南側柱列(Pit1686・1685)で2.70mを測る。梁行は西柱列(Pit1687・1686)で1.75m、東柱列(Pit739・1685)で2.00mを測る。桁行・梁行ともに、柱間寸法に規格性は認められない。柱掘方は、平面楕円形もしくは円形、断面皿形、半円形、U字形を呈し、規模は長軸0.23～0.29m、確認面からの深度は0.12～0.26mを測る。遺物は出土していない。

SB2023 (図版75・78・166、写真図版35・191～193)

14R-8H5・10、8I1・6に位置する近世の遺構である。Pit473・474・475・476・477・479から構成される。Pit479はPit478に切られ、Pit476・477・479はSD150を切る。桁行2間×梁行1間の南北棟で、北西には棟方向を同じくするSB2009が、西にはSB2026が近接する。南側にはSD492が南側柱列と平行するかたちで隣接する。床面積は6.27m²を測る。規模は、桁行長2.50m、梁行長2.50mを測り、棟方向はN-3°-Wを指す。柱間寸法は、桁行は西側柱列(Pit479・477・476)で1.10～1.40m、東側柱列(Pit473・474・475)で1.05～1.45mを測る。梁行は北柱列(Pit479・473)、南柱列(Pit476・475)ともに2.50mを測る。桁行と梁行が同寸であり、正方形に近い小規模な建物であったと推察される。柱掘方は平面円形、楕円形、長楕円形、隅丸長方形、断面皿形、半円形、漏斗形を呈し、規模は長軸0.31～0.53m、確認面からの深度は0.10～0.32mを測る。Pit475から磁器碗が出土している。

SB2027 (図版75・166、写真図版36・191・193～195)

14R-7I13～15・18～20・23～25、7J11・12・16・17・21・22に位置する近世の遺構である。Pit61・102・105・644・650・653・664・829・1989・1992から構成される。Pit1992はPit1132に切られ、Pit653はSD1404を切る。桁行3間×梁行2間の東西棟で、北に1間の庇が付く。床面積は25.32m²を測る。規模は、桁行長7.50m、梁行長3.50mを測り、棟方向はN-84°-Wを指す。身舎の柱間寸法は、桁行は北側柱列(Pit664・105・1992・61)で1.80～3.30m、南側柱列(Pit650・653・1989)で2.80～4.70mを測る。梁行は西柱列(Pit664・652・650)で1.60～1.80m、東柱列(Pit61・1989)で1.50～2.00mを測る。桁行・梁行ともに、柱間寸法に規格性は認められない。庇部は、身舎から北側に0.9～1.0mの幅で設けられており、柱穴は身舎に対応している。身舎の柱掘方は平面円形もしくは隅丸長方形、断面台形、U字形、階段形を呈し、規模は長軸0.24～0.50m、確認面からの深度は0.22～0.48mを測る。庇部の柱掘方は平面円形、断面半円形、漏斗形を呈し、規模は長軸0.20～0.30m、深度は0.22～0.53mを測る。遺物は出土していない。

SB2028 (図版75・78・167、写真図版36・191・195～197)

14R-8J3・4・8・9・13・14に位置する近世の遺構である。Pit52・202・206・384・385・388・425・428から構成される。Pit384はPit44(SA2011)に切られ、Pit428はSD81を切る。また、土層断面で切り合い関係は確認できなかったが、Pit52はSB2028廃絶後にSA2002の柱穴として柱列を構成する。桁行2間×梁行2間の南北棟で、南側には棟方向を同じくするSB2029が近接する。床面積は7.36m²を測る。規模は、桁行長3.40m、梁行長2.10mを測り、棟方向はN-4°-Eを指す。柱間寸法は、桁行は西側柱列(Pit388・206・202)、東側柱列(Pit384・52・428)ともに1.60～1.80m、梁行は北柱列(Pit388・385・384)で0.9～1.20m、南柱列(Pit202・425・428)で0.90～1.00mを測り、桁行の柱間寸法にはある程度の規格性が認められる。柱掘方は平面円形もしくは楕円形、隅丸長方形、断面半円形、台形、U字形を呈し、規模は長軸0.24～0.44m、確認面からの深度は0.15～0.43mを測る。遺物は出土していない。

SB2029 (図版78・167、写真図版36・191・197・198)

14R-8J16～19・21・22、9J1～3に位置する近世の遺構である。Pit130・253・423・424・635から構成される。Pit130はPit128・129、Pit423はPit422、Pit635はPit634に切られ、Pit253はSD81、Pit130はSD665を切る。桁行2間×梁行1間の東西棟で、北側にSB2028が近接する。床面積は18.27m²

を測る。規模は、桁行長 4.42m、梁行長 4.00m を測り、棟方向は N-88° -E を指す。柱間寸法は、桁行は北側柱列 (Pit635・424・423) で 2.00 ~ 2.42m、南側柱列 (Pit130・253) で 2.50m を測る。梁行は東側柱列 (Pit423・253) で 4.00m を測る。柱掘方は平面円形もしくは楕円形、断面皿形、半円形、U 字形、階段形を呈し、規模は長軸 0.35 ~ 0.75m、確認面からの深度は 0.33 ~ 0.54m を測る。遺物は出土していない。

SB2010 (図版 77・78・168 ~ 170、写真図版 34・191・198 ~ 202)

14R-9G3 ~ 5・8 ~ 10・13 ~ 15・18 ~ 20、10G3 ~ 5・8、9H1・2・6・7・11・12・16・21、10H1 に位置する近世の遺構である。Pit893・900・901・902・903・904・905・906・907・908・909・910・912・944・1088 から構成される。Pit903 は Pit902、Pit944 は Pit943、Pit1088 は Pit1087 に切られ、Pit907・908・909・910 は SD537、Pit902 は Pit903、Pit944 は Pit945 を切る。西~北側には、建物に沿ったかたちで SD940 が L 字状に走行しており、雨落ち溝兼区画溝として機能していたと推察される。桁行 5 間 × 梁行 1 間の南北棟として検出されたが、南側は調査区外となるため桁行は 5 間以上となる可能性もある。北東隅に 2 間 × 1 間の張り出し部が付く。床面積は 71.81m² を測る。検出した範囲での規模は、桁行長 11.40m、梁行長 5.30m を測り、棟方向は N-1° -W を指す。柱間寸法は、桁行は西側柱列 (Pit905 ~ 907・910・908・909) で 2.10 ~ 2.50m、東側柱列 (Pit900 ~ 904) で 1.70 ~ 3.90m を測る。梁行は北側柱列 (Pit904・909) で 5.30m を測る。張り出し部は、東側に 3.00m の幅で設けられており、東側柱列北端の柱間 (Pit903・904) と対応する。張り出し部の柱間寸法は、北側柱列 (Pit904・944・1088) で 0.80 ~ 2.20m、南側柱列 (Pit903・893・912) で 1.00 ~ 2.00m、西側柱列 (Pit903・904) で 3.90m、東側柱列 (Pit1088・912) で 3.70m を測り、南北の柱列は柱間寸法が対応する。張り出し部の位置や柱穴の配置等から、建物の入り口であった可能性がある。柱掘方は平面円形もしくは楕円形、隅丸長方形、断面台形、階段形、漏斗形を呈し、規模は長軸 0.51 ~ 1.21m、確認面からの深度は 0.15 ~ 0.56m を測る。張り出し部の柱掘方は平面楕円形、隅丸長方形、断面半円形、U 字形、階段形を呈し、規模は長軸 0.35 ~ 0.88m、深度は 0.15 ~ 0.48m を測る。Pit901 から磁器小杯・徳利、Pit904 から陶器花生、軽石製石製品、鎌、Pit905 から台石、Pit907 から土師器長甕、敲石、柱根の一部、Pit908 から土師器長甕が出土している。(図版 210・229・232 ~ 234・236、写真図版 258・274・277・278・280)

h 柵 (SA)

柵は 10 列確認された。大半は近世以降の遺構と思われ、主に集落における塀などの区画施設、または稲架木列の痕跡と考えられる。

SA1997 (図版 72・171、写真図版 202 ~ 205)

14R-4H15・19・20・23・24、4I6・11、5H2・3・6・7 に位置する近世以降の遺構である。12 基の小土坑 (Pit13・16・19・47・73・74・158・172・182・185・196・237) からなる。Va 層上面で検出した。Pit182 は SD419、Pit196 は Pit197 を切る。各小土坑の平面形は円形もしくは楕円形で、断面形は皿形、半円形、台形、階段形、U 字形を呈し、覆土は 1 ~ 3 層に分けられるが、大半は単層である。現在の地割に沿っており、稲架木の可能性が考えられる。主軸方位は N-46° -E を指す。規模は確認長 14.92m、長軸 0.22 ~ 0.28m、確認面からの深度は 0.06 ~ 0.24m を測る。柱間寸法は 1.30 ~ 1.56m を測るが、概ね 1.30 ~ 1.40m 間隔の規格が窺える。遺物は出土していない。

SA1998 (図版 72・171、写真図版 205 ~ 208)

14R-4H19・20・23・24、4I6・11、5H3・6・7 に位置する近世以降の遺構である。12 基の小土坑 (Pit11・15・18・72・167・178・180・190・198・200・345・363) からなる。Va 層上面で検出した。Pit363 は Pit161 に切られ、Pit178 は SD419、Pit179、Pit180 は Pit181、Pit18 は Pit402 を切る。各小土坑の平面は円形もしくは楕円形を呈し、断面皿形、半円形、箱形、U 字形、階段形を呈し、覆土は大半が単層である。現在の地割に沿っており、稲架木の可能性が考えられる。主軸方位は N-46° -E を指す。規模は確認長 14.07m、長軸 0.17 ~ 0.38m、深度 0.11 ~ 0.32m を測る。柱間寸法は 0.94 ~ 1.52m を測る。遺物は出土していない。

SA2005 (図版 73・74・172、写真図版 208～210)

14R-6D18～20・23、6E16 に位置する近世の遺構である。7基の小土坑 (Pit1543～1545・1549・1550・1833・1834) からなる。東西両端は調査区外へ延びる。Va層上面で検出した。重複関係はない。各小土坑の平面は円形、楕円形、隅丸長方形を呈し、断面半円形、台形、皿形を呈し、覆土は3～5層に分けられる。主軸方位はN-85°-Eを指す。検出した範囲での規模は、確認長7.03m、長軸0.55～1.07m、深度0.11～0.23mを測る。柱間寸法は1.06～1.42mを測る。遺物は出土していない。

SA1999 (図版 75・78・173、写真図版 210～215)

14R-6J17・22、7J2・3・8・13・14・19・24・25、8J5・10、14S-8A6・11・16・17・22 に位置する近世以降の遺構である。18基の小土坑 (Pit1・3・8・26・29・38・49・50・69・78・80・100・122・123・133・134・395・631) からなる。Va層上面で検出した。Pit122・123はSD81、Pit100はSD362を切る。各小土坑の平面は隅丸方形、隅丸長方形、円形を呈し、断面半円形、箱形、U字形を呈し、覆土は大半が単層である。現在の地割に沿っており、稲架木の可能性が考えられる。主軸方位はN-28°-Wを指す。規模は確認長24.85m、長軸0.18～0.28m、深度0.18～0.38mを測る。柱間寸法は1.15～2.78mを測る。遺物は出土していない。

SA2000 (図版 75・78・173、写真図版 215～219)

14R-6J16・17・22、7J2・3・8・13・14・19・24・25、8J5・10、14S-8A6・11・16 に位置する近世以降の遺構である。17基の小土坑 (Pit6・9・17・24・25・37・51・67・77・79・99・127・131・132・135・332・394) からなる。Va層上面で検出した。Pit17はSK442、SD81、Pit24はSD81、Pit99はSD362、Pit67はSD860 (SN2014) を切る。各小土坑の平面は隅丸方形、円形、楕円形を呈し、断面台形、半円形、箱形、U字形を呈し、覆土はすべて単層である。現在の地割に沿っており、稲架木の可能性が考えられる。主軸方位はN-27°-Wを指す。規模は確認長22.11m、長軸0.19～0.24m、深度0.13～0.28mを測る。柱間寸法は1.04～2.79mを測る。遺物は出土していない。

SA2001 (図版 75・78・173、写真図版 219～223)

14R-6J21、7J1・2・7・12・13・18・23・24、8J4・9・10・15・20 に位置する近世以降の遺構である。16基の小土坑 (Pit33・35・39・41・43・44・54・55・65・92・97・98・229・232・824・830) からなる。Va層上面で検出した。Pit232はPit231に切れ、Pit41・43はSD81、Pit830はSD860 (SN2014)、Pit44はPit384 (SB2028)、Pit55はPit398を切る。各小土坑の平面は円形、楕円形、長楕円形を呈し、断面形態は皿形、半円形、台形、箱形、U字形を呈し、覆土はすべて単層である。現在の地割に沿っており、稲架木の可能性が考えられる。主軸方位はN-28°-Wを指す。規模は確認長18.85m、長軸0.18～0.39m、深度0.05～0.44mを測る。柱間寸法は1.20～1.57mを測る。遺物は出土していない。

SA2002 (図版 75・78・173、写真図版 223～226)

14R-7J1・6・7・12・17・18・23、8J3・4・9・14・15・20・25 に位置する近世以降の遺構である。15基の小土坑 (Pit22・34・40・42・52・59・66・88・91・94・96・230・386・387・397) からなる。Va層上面で検出した。Pit397はSK487、Pit42はSD81、Pit94はSD861 (SN2014) を切る。また、土層断面では切り合い関係を確認できなかったが、Pit52はSB2028の柱穴であったが、SB2028廃絶後にSA2002の柱穴として柱列を構成する。各小土坑の平面は円形もしくは楕円形を呈し、断面形態は皿形、半円形、台形、箱形、U字形を呈し、覆土はすべて単層である。現在の地割に沿っており、稲架木の可能性が考えられる。主軸方位はN-28°-Wを指す。規模は確認長18.62m、長軸0.14～0.29m、深度0.12～0.40mを測る。柱間寸法は1.09～2.35mを測る。Pit397から陶器皿が出土している。

SA2003 (図版 75・173、写真図版 227・228)

14R-7J11・16・17・22、8J2 に位置する近世以降の遺構である。5基の小土坑 (Pit48・211・213・214・334) からなる。Va層上面で検出した。Pit48・211はSE444、SD860 (SN2014) を切る。各小土坑の平面

は楕円形、円形、長楕円形を呈し、断面皿形、半円形、台形、箱形を呈し、覆土は1～2層である。現在の地割に沿っており、稲架木の可能性が考えられる。主軸方位はN-29°-WEを指す。規模は確認長6.38m、長軸0.20～0.40m、深度0.13～0.27mを測る。柱間寸法は1.21～2.12mを測る。遺物は出土していない。

SA2004 (図版75・78・173、写真図版197・228～231)

14R-7I5・10・15、7J11・16・21・22、8J2・7・8・13・18・19・24、9J4・5に位置する近世以降の遺構である。15基の小土坑(Pit95・101・107・124・203・205・208・210・212・216・301・335・396・399・836)からなる。Va層上面で検出した。Pit396はSD391に切られ、Pit210はSE444、Pit396はSD81、Pit216はPit215を切る。各小土坑の平面は楕円形、円形を呈し、断面半円形、箱形、漏斗形、U字形を呈し、覆土はすべて単層である。現在の地割に沿っており、稲架木の可能性が考えられる。主軸方位はN-28°-Wを指す。規模は確認長20.81m、長軸0.20～0.32m、深度0.09～0.25mを測る。柱間寸法は1.20～1.70mを測る。遺物は出土していない。

SA2031 (図版77・174、写真図版231～235)

14R-8E19・23・24、9E3・8・13・17・18・22、10E2・6・7・11・16に位置する近世以降の遺構である。15基の小土坑(Pit1237・1235・1232・1205・1230・1525・1075・989・990・1039・1015・1986・967・1007・1026)からなる。Va層上面で検出した。Pit1007はSK1562、SD1521(道路状遺構2017)、Pit1230はSK1592を切る。各小土坑の平面は円形もしくは楕円形を呈し、断面は半円形、台形、箱形、U字形を呈し、覆土は単層～3層に分けられる。現在の地割に沿っており、稲架木の可能性が考えられる。規模は確認長19.70m、長軸0.17～0.34m、深度0.15～0.30mを測る。柱間寸法は1.20～1.60mを測るが、概ね1.40m間隔の規格が窺える。主軸方位はN-16°-Eを指す。遺物は出土していない。

i 畑 (SN)

畑は2面(SN2014・2015)確認された。覆土の特徴と遺構の方向性から、いずれも中世の遺構と考えられる。1区と同様後世の削平を受けており、連続性がない不明瞭な状態の小溝群として検出された。

SN2015 (図版74・75・175、写真図版235・236)

14R-6H25、6I21、7H5・9・10・11・14・19・20、7I11に位置する中世の遺構である。6条の小溝(SD865・866・868・869・1100・1101)からなる。Va層上面で検出した。SD450、Pit867・2032(SB2009)に切られ、Pit1388・1871・1994を切る。断面は皿形、半円形を呈す。覆土は3層に分けられる。基本土層Va層土ブロック混じりの黒色、もしくは黒褐色シルトである。主軸方位は、SD865・866・868が、それぞれN-5°-E・N-4°-E・N-5°-E、SD869がN-17°-E、SD1100がN-2°-W、SD1101がN-0°で、SN2014に比べて方向性に若干ばらつきがみられる。SN2014と同じく、後世の削平や掘削深度の深浅により平面的な連続性が認められない部分も見られるが、走行方向と覆土から一連の遺構とした。検出した範囲での規模は、確認長東西5.25m、南北9.00m、深度0.05～0.17、畝間は0.30～0.80mを測る。遺物は出土していない。

SN2014 (図版75・176、写真図版236)

14R-7I4・5・9・10・14・15、7J2・3・6・7・11・12・17・22に位置する中世の遺構である。5条の小溝(SD860～864)からなる。Va層上面で検出した。SE444、Pit60・67(SA2000)・93・94(SA2002)・211(SA2003)・830(SA2001)に切られる。断面は皿形を呈す。覆土は単層である。基本土層Va層土ブロック混じりの黒色、もしくは黒褐色シルトである。主軸方位は、N-11°-E・N-0°・N-6°-E・N-10°-E・N-5°-Eを指す。これらの小溝は、後世の削平や掘削深度の深浅により平面的な連続性が認められない部分も見られるが、走行方向と覆土から一連の遺構とした。検出した範囲での規模は、確認長2.24～8.47m、幅0.19～0.74m、深度0.03～0.08を測る。畝間の間隔はSD860～862までは0.34～0.53mを測るが、SD862～863間が1.8m、SD863～864間が1.5mと間隔が開くことから、削平によって消失した小溝が間に存在していた可能性がある。遺物は出土していない。

j 道路状遺構

道路状遺構 2016 (図版 77・154・177、写真図版 155・237)

14R-8F12・17・22・23、9F2・3・7・8・12・13・17～19・22～24、10F2～4・8・9・13・14・18・19 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。道路状遺構 2016 は、西辺部分が SD1241、東辺部分は SD1242 からなる。両溝とも側溝で、路面にあたる側溝間に硬化面や波板状遺構は確認できなかった。南側は調査区外へと延び、北側は SD1299・1300、Pit1145・1147・1148・1150・1238 に切られ、SD1838、Pit1740・1741・1743・1744・1745・1746・1747・1751・1752・1754・1755・1758・1759・1760・1761 を切る。主軸方位は N-4° -W を指す。主軸方位が SB2010 と類似することから、SD1299・1300 とともに建物屋敷地を囲む区画的な役割も担っていたものと推察される。検出した範囲での規模は、全長(最大)西辺 12.3m、東辺 10.1m、側溝間 1.34～1.64m を測る。側溝 (SD1241・1242) の覆土からは、珠洲焼片口鉢、磁器碗・皿・瓶、陶器碗・皿・甕、土師質土器鉢、砥石・敲石・台石・剥片・パステル形石製品が出土している。(図版 202・211・219・228・234・235、写真図版 248・258・259・266・274・279)

道路状遺構 2018 (図版 73・76・118・154・178・180、写真図版 125・237～239)

14R-7C13・17・18・22・23、8C2・3・7・8・12～14・17～19・22～24、9C2～4・7・9・12・14・17～19・22～24、10C2～4・7～9・12～14 に位置する近世の遺構である。Va 層上面で検出した。道路状遺構 2018 は、東辺部分が SD1554、西辺部分が SD1563 である。両溝とも側溝で、路面にあたる側溝間に硬化面や波板状遺構は確認できなかった。南北両端は調査区外へと延びる。SD1299 に切られ、SK1567、道路状遺構 2017 を構成する SD1521・1615・1618、Pit1556・1675・1976 を切る。主軸方位は N-4° -W を指す。検出した範囲での規模は、全長(最大)東辺 9.20m、西辺 19.55m、側溝間 2.41～3.27m を測る。東辺部分の SD1554 は、道路状遺構 2016 と同様に SD1299・1300 に切られる、もしくは合流しており、建物屋敷地を囲む区画的な役割を担っていたものと推察される。側溝 (SD1554・1563) の覆土からは、土師器長甕、磁器碗・鉢、陶器皿・鉢・甕、瀬戸天目碗、磨石が出土している。(図版 202・211、写真図版 248・259)

道路状遺構 2017 (図版 76・77・130・153・179～181、写真図版 137・155・238・239)

14R-8B16・17・21～23、9A4・5・8・9・12～15・18～20、9B1～5・8～24、9C1・6・7・11～13・17～20・23～25、9D21、10C1～15・25、10D1～3・6・7・11～15・18～20、10E6・11～13・16～19 に位置する中世の遺構である。Va 層上面で検出した。道路状遺構 2017 は北辺部分が SD1521・1616、南辺部分は SD1615 である。全て側溝で、路面にあたる側溝間には硬化面や波板状遺構は確認できなかった。SD1521・1616 と SD1615 の間には、走行方向を同じくする SD1618・1620 が走り、排水溝と考えられる。南東側および北西側は調査区外へと延び、SK1562・1566・1943、SX1131、SD1522・1554・1563・1617、Pit950・951・954・1000・1001・1007・1008・1016・1017・1018・1025・1040・1041・1078・1163・1164・1305・1306・1307・1309・1513、SA2031、道路状遺構 2018 に切られ、SK1926・1943、Pit1927・1928・1970・1971 を切る。主軸方位は N-58° -W を指す。土層観察から、北辺部分の SD1521 は 14R-9B5 付近で SD1616 に造り替えられたと思われ、一番古い段階は SD1521 と SD1615 の組み合わせとなる。検出した範囲での規模は、全長(最大)北辺 28.65m、南辺 24.00m、側溝間は SD1521・1615 間 4.95～6.18m、SD1616～1615 間 7.52m を測る。側溝 (SD1521・1615) の覆土からは、須恵器甕・無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋・鉢・蓋、黒色土器無台碗、珠洲焼・壺・壺 T 種・甕・片口鉢・鉢、陶器華瓶、土師質土器鉢、磨石・台石・剥片が出土している。(図版 199・200・202・221・231・235、写真図版 247・248・267・276・279)

第V章 遺 物

第1節 概 要

細池寺道上遺跡からは古代・中世・近世の遺物が出土している。遺物出土総量はコンテナ（内寸54.5×33.6×10.0cm）に226箱である（終了報告時の数量）。古代の土器21箱、中世の土器8箱、近世の土器77箱、木製品27箱、石製品57箱、金属製品4箱、自然遺物32箱である。このほか、種実や炭化物、骨といった自然遺物が57箱出土している。

第2節 古代の土器（図版194・199・200、写真図版224・246・247）

古代の土器には須恵器・土師器・黒色土器の3種がある。1・2区合わせて破片数で245点、重量で2499.58g出土した。総出土土器・陶磁器に占める割合は、破片数にして17.60%、重量にして5.73%である。このうち遺構出土が198点・2022.57g、包含層出土が47点・477.01gで、遺構からの出土状況を見ると、中世以降の溝からの出土が多く、古代の遺構と考えられるのは1区の旧河道NR500のみである。図版182・183に包含層出土分の重量分布図を示したが、全体的には2区の南よりで西にいくほど多い傾向がある。須恵器と土師器の比率は全体で破片数1：5、重量1：1.3、また遺構では破片数1：7、重量1：1.2、包含層では破片数1：2.33、重量で1：2である。破片数・重量ともに土師器が多いことは確かであるが比率は様々で、相対的に重いものが多いなど出土した器種の偏りを反映していると考えられる。実測図を掲載したのは54点で、詳細な観察内容は別表4に、遺構出土品の器種組成比率は別表13にまとめた。

A 土器の分類と記述

小片が多く完形を知り得るものがなかったが、土師器については口縁部形態が明らかなものが比較的多かった。分類をおこなった場合、形態・手法による分類はアルファベット大文字を用い、細分する場合はアルファベット小文字・算用数字の順に用いた。法量による分類はローマ数字を用いて大きい方からⅠ・Ⅱ…としている。また、成形・調整の表現は『細池寺道上遺跡Ⅴ・Ⅵ』（立木・奈良ほか2017、同2018）にならい以下のようにした。

1. ロクロ回転を利用したナデを「ロクロナデ」、そのほかのものは「ナデ」とした。
2. ロクロ回転を利用したケズリを「ロクロケズリ」、利用しないものは「ケズリ」とした。
3. ロクロ回転を利用した刷毛目を「カキメ」、利用しないものは「ハケメ」とした。
4. 黒色土器無台椀・土師器無台椀などにみられるへら磨きは「ミガキ」とした。
5. 須恵器甕・横瓶、土師器長甕・鍋などの外面にみられる叩き具を用いた成（整）形痕を「タタキメ」とし、対応して内面に当てられた当て具の痕跡を「当て具痕」とした。

叩き具・当て具の痕跡は、特に平成26年以降当調査区の西側で大規模に調査した第44次調査・第46次調査の整理・報告の過程で、詳細に観察するならば相当多様であることが明らかになってきており〔立木・奈良ほか2017、同2018〕、単純ではないことに留意する必要がある。ここでは第44・46次調査での分類に準じ、平行線文をH類、同心円文をD類、格子文をK類、放射状文をS類、扇形文をC類とする。今回出土品では平行線文タタキメ（H類）と同心円文当て具痕（D類）（体部下半では平行線文が加わる）の組み合わせが大部分で、長方形格子文タタキメ（Ka類）が1点、土師器の当て具に扇形文（C類）が1点あるという状況で、第44・46次調査

で明らかになっているバリエーションにおさまるものである。平行線文タタキメは、刻まれた線に対する木目の現れ方で3種類に分けている(直交:Ha類,右上がり斜交:Hb類,左上がり斜交:Hc類)が、今回はHa類のみであった。

須恵器の胎土については『山三賀Ⅱ遺跡』〔坂井ほか1989a〕、『越後阿賀北地域の古代土器様相』〔春日ほか2004〕で提示されている分類を参考に以下のように分類した。

- A群 胎土そのものが相対的に粗く、石英・長石・雲母を多く含む。器面はざらついたものが一般的で、小礫が露出する。阿賀北地方の窯跡の須恵器と推定される一群である。
- B群 胎土そのものが精良で、白色粒子を多く含む。器面に黒色の斑点、吹き出しがみられる。佐渡の小泊窯跡群の須恵器と推定される一群である。
- C群 胎土そのものは比較的精良であり、石英・長石の小粒子を少量含む。器面は滑らかである。新津丘陵窯跡群の須恵器と推定される。

1) 須 恵 器

食膳具(無台杯・有台杯)、貯蔵具(壺・甕・瓶類)、窯道具(焼台)がある。完形を知り得るものはない。

無台杯 小片でかつ部位が限られるため、細分はしていない。

有台杯 断面方形の高い高台が平底の周縁近くに貼り付けられる1点のみである。

壺 小型の短頸壺になるとみられる口縁部と、長頸になるか短頸になるか不明の底部がある。

甕 叩き成形による体部があるが、それらの口縁部とみられるものは認められなかった。

横 瓶 体部閉塞部近くとみられる小片が1片ある。口縁部になると考えられるものは認められなかった。

焼 台 長頸瓶の焼成に使用される杯形の焼台の可能性のあるものが1点ある。

2) 土 師 器

食膳具(無台碗)、煮炊具(長甕・小甕・鍋)がある。食膳具はすべてロクロ使用のものであるが、長甕にはロクロ使用でないものもある。

無台碗 完形を知り得るものがないため、細分は行っていない。すべてロクロ使用で、切り離し技法が判明するものは回転系切りである。内面はロクロナデにより凹凸なく滑らかに整えられている。

長 甕 底部の出土はないが、ロクロを用いて成形し、下半部を叩いて丸底にするタイプのもの、口縁部のみだがロクロは使用していないものがある。ロクロ使用のものについては口縁部形態で以下のように分類した。

A類 口縁部が体部からなだらかに屈曲して短く開き、端部は断面三角形に肥厚させる。端部内面側はなんらかの工具により細沈線を巡らせることによりシャープな屈曲を作り、「く」の字形を呈するもの(5・95・116・106・113・117)をA1類とし、98のように内面側の屈曲がシャープではないものをA2類とする。

B類 体部から「く」字状に屈曲して直線的に口縁部がのび、端部は断面三角形に肥厚する。上端はつまみだされない(117)。

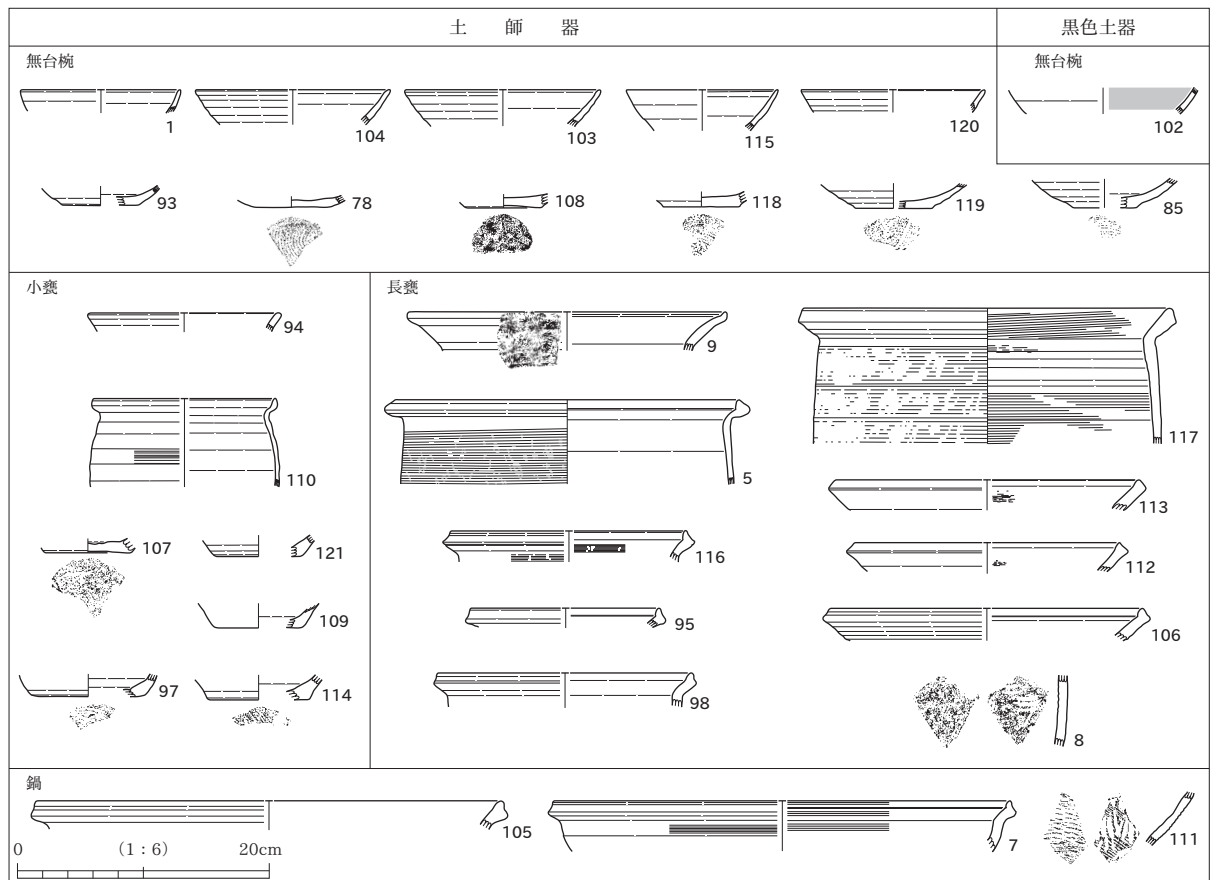
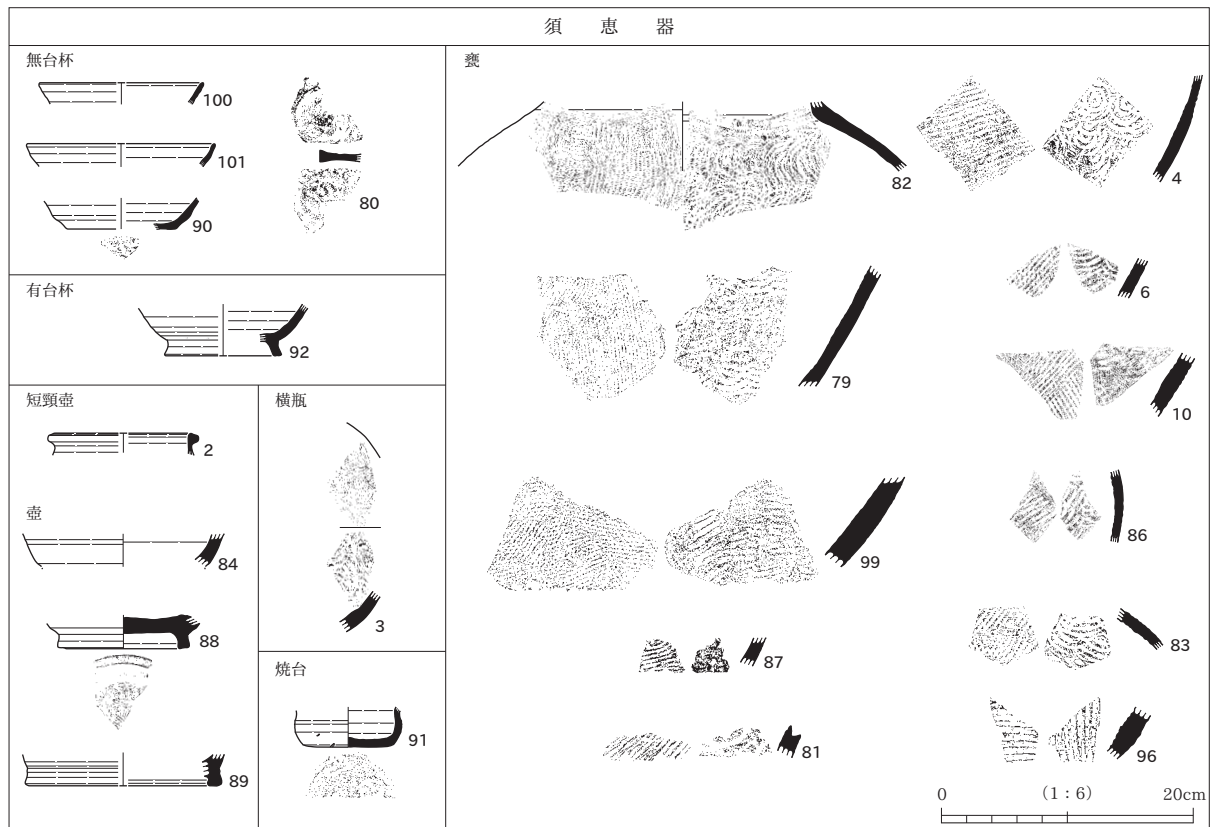
小 甕 全体がよくわからないが、ロクロを使用していない可能性のあるものが1点あり、口縁端部を丸くおさめるものである。ロクロを使用するものでは、端部を上方につまみだすものがある。

鍋 口縁部が2点あり、口縁部の形態は長甕と共通しており、長甕のA1類(7)とA2類(105)がある。

3) 黒 色 土 器

無台碗の小片が1片出土した。

無台碗 体部の小片のため、口縁部形態や口径・底径などは不明であるが、内面を磨いて黒色処理したものである。



第13図 古代土器集成図 (S=1/6)

B 出土土器各説

1) 1区出土土器 (図版194)

1区では須恵器(6点・163.47g)・土師器(49点・259.63g)が出土しており、実測したのは須恵器短頸壺・横瓶・甕、土師器無台椀・長甕・鍋の計10点である。

a 遺構出土土器

SD205 (図版194、写真図版244)

土師器無台椀が出土している。土師器無台椀を図化した。1は口縁部の小片である。

ST1 (図版194、写真図版244)

須恵器短頸壺が出土している。須恵器短頸壺を図化した。2は口縁からくびれ部にかけての小片で、口縁部は断面台形の突帯状に整えられている。小型のものである。胎土B群。

SD448 (図版194、写真図版244)

須恵器横瓶が出土している。須恵器横瓶を図化した。3は外面タタキメの大部分がナデ消されているが、さらにその上から施されたかと思われるHa類タタキメがごく浅く残る。内面はD類当て具痕で、焼成は堅緻で胎土はB群。破片の曲率とナデの様相から横瓶体部の閉塞部に近い部分と考える。

SD577 (図版194、写真図版244)

須恵器甕、土師器長甕が出土している。須恵器甕(4)、土師器長甕(5)を図化した。4は体部破片で、外面Ha類タタキメ、内面はD類当て具痕が明瞭に残る。胎土C群である。86と同一個体の可能性がある。5は口縁～体部上半にかけて約5分の1残るもので、口縁は体部からなだらかに屈曲してあまり長くはのびず、端部は断面三角形に肥厚する。内面側には工具痕とみられる細い沈線をめぐらせて明瞭な屈曲が作られ、「く」の字形を呈する。A1類。体部外面は残存部ではカキメが施されている。

SD578 (図版194、写真図版244)

須恵器甕が出土している。須恵器甕を図化した。6は体部破片で、外面Ha類タタキメ、内面D類当て具痕を残す。胎土C群である。

SD574 (図版194、写真図版244)

土師器鍋が1点出土している。7は口縁～体部の破片で、端部は上方と外方につまみだされて断面三角形状を呈する。

NR500 (図版194、写真図版244)

須恵器甕、土師器無台椀・小甕・長甕が出土している。土師器長甕を図化した。8は体部片で、外面は摩滅が激しく調整不明だが、内面にはD類当て具痕が残る。9は口縁部で、端部は小さく屈曲して上方につまみ出されている。外面は平行線文タタキメまたはハケメののちにヨコナデされている。内面もヨコナデされている。ロクロ使用でないと考えられるものである。

b 包含層出土土器

10は須恵器甕の体部片で、外面Ha類タタキメののちハケメ、内面D類当て具痕ののちハケメが施される。胎土C群である。

2) 2区出土土器

2区では須恵器(33点・929.34g)・土師器(156点・1144.36g)・黒色土器(1点・2.78g)が出土している。須恵器無台杯・有台杯・壺・甕・焼台、土師器無台椀・小甕・長甕・鍋、黒色土器無台椀の計44点を実測した。

a 遺構出土土器

SE1027 (図版199、写真図版246)

土師器無台椀が出土している。土師器無台椀を図化した。78は回転糸切り痕を残す底部片で、内面は平滑に

ロクロナデで仕上げられている。

SE4 (図版 199、写真図版 246)

須恵器甕が1点出土している。79は体部破片で、外面 Ha 類タタキメ、内面 D 類当て具痕がみられる。胎土 A 群である。

SE23 (図版 199、写真図版 246)

須恵器無台杯、土師器長甕が出土している。須恵器無台杯を図化した。80は底部の小片で、近接する SE392 出土の1片と接合した。外面はヘラ切りとみられるが、その後ロクロナデされている。内面は中央が突出する。胎土 B 群である。

SX1131 (図版 199、写真図版 246)

須恵器甕・壺、土師器無台碗・鉢が出土している。須恵器甕 (81・82・83)・壺 (84)、土師器無台碗 (85) を図化した。81は体部小片で、外面 Ha 類タタキメ、内面は突部が非常に幅広い D 類当て具痕、一部剥落していて粘土紐の継ぎ目が観察できる。上面を V 字形の溝状にへこませてあったように見え、環状の工具をはめ込んで作ったものを継ぎ合わせた例になるかもしれない。胎土 A 群である。82は頸部下端～体部上部の破片で、外面は Ha 類タタキメののちカキメ、内面は溝部分のごく細く浅い D 類当て具痕が残る。胎土 A 群。83は体部小片で、外面は Ha 類タタキメののちカキメ、内面はくつきりした D 類当て具痕が残る。胎土 C 群であり、50m ほど西に位置する第 46 次調査区で出土している図版 105-33 [立木・奈良ほか 2018] と同一の原体であることが確認できる。84は体部下半とみられる小片である。高台がついていたとみられる。胎土は B 群か。85は体下部～底部の破片で、回転糸切り痕がわずかに残っている。内面は滑らかに仕上げられており、底部と体部の境にわずかな段差がみられる。

SD150 (図版 199、写真図版 246)

須恵器甕・壺・焼台、土師器長甕が出土している。須恵器甕 (86・87)・壺 (88・89) を図化した。86は体部の小片で、外面 Ha 類タタキメ、内面 D 類当て具痕、胎土 C 群で 4 の同一個体の可能性が高い。87も体部の小片で、外面 Ha 類タタキメ、内面はもともとごく浅い不明瞭な痕跡であるため判然としないが、D 類当て具痕と思われる。胎土 A 群で 100 の同一個体の可能性が高い。88は底部から高台の破片である。厚みのある底部に断面方形のしっかりした高台がはりつけられている。胎土 A か B か。89も底部～高台の破片で、底部はほとんどわからないが、断面方形のしっかりした高台がはりつけられている。胎土 B 群か。

SD81 (図版 199、写真図版 246)

須恵器無台杯・焼台が出土している。須恵器無台杯 (90)・焼台 (91) を図化した。90は体～底部の破片で、胎土は B 群である。91は SD150 出土の1片と接合した。長頸瓶の焼成に使用される杯形の焼台ではないだろうか。残存部分には穿孔はみられない。胎土 C 群。

SD492 (図版 199、写真図版 247)

須恵器有台杯、土師器無台碗が出土している。須恵器有台杯 (92) を図化した。92は体下部～高台にかけての破片で、体部は直立でなくやや外側に開く形、高台は底部平坦面の端にはりつけられ、内端で接地する。高さが 1.3cm、端部で厚み 0.7cm あり、丁寧に作られている。胎土 B 群である。

SD537 (図版 199、写真図版 247)

土師器無台碗・鍋・長甕が出土している。土師器無台碗を図化した。93は体下部～底部の破片で、底部は回転糸切りとみられるが、全体に摩滅していて不明瞭である。

SD1522 (図版 199、写真図版 247)

土師器小甕が出土している。土師器小甕を図化した。94はごく小片であるが、端部を丸くおさめる口縁部とみられ、ロクロ使用でない可能性もある。

SD1892 (図版 199、写真図版 247)

土師器無台椀・小甕・長甕が出土している。土師器長甕を図化した。95は口縁部の破片で、断面三角形の端部の上端を大きく上方につまみあげている。内面側には細い沈線をめぐらせて明瞭な屈曲が作られ、「く」の字形を呈する。A1類。

Pit281 (図版 199、写真図版 247)

須恵器甕が1点(96)出土している。96は底部に近い部分と考えられる小片で、外面には長方形格子文(Ka類)のタタキメが深くくつきりと残されている。内面は断面が弧状を呈する平行線文の当て具痕がやはりくつきりと残される。胎土B群。

Pit1886 (図版 199、写真図版 247)

土師器小甕・長甕が出土している。土師器小甕を図化した。97は底部周縁部の破片で外面には回転糸切り痕を残している。

SD940 (図版 199、写真図版 247)

土師器無台椀・長甕が出土している。土師器長甕を図化した。98は口縁部の小片で、断面三角形になる端部の上端を上方につまみだしているが、くの子を呈するくびれ部は比較的なだらかにロクロナデで整えられており、95のような沈線はみられない。A2類。硬質な質感に焼成されている。

SD1521 (図版 199、写真図版 247)

須恵器甕、土師器無台椀・長甕が出土している。須恵器甕を図化した。99は底部に近い厚みのある破片で、外面Ha類タタキメ、内面H類当て具痕を残す。胎土A群で、87と同一個体の可能性が高い。

SD1615 (図版 199・200、写真図版 247)

須恵器無台杯、土師器無台椀・鉢・鍋・小甕・長甕、黒色土器無台椀が出土している。須恵器無台杯(100・101)、黒色土器無台椀(102)、土師器無台椀(103・104・108)・鍋(105・111)・長甕(106・112・113)・小甕(107・109・110)を図化した。100・101はともに口縁部の小片で、胎土はB群である。102は今回出土品の中では唯一の黒色土器である。体部の小片で、内面のみ黒色処理されている。103・104はともに口縁～体部の破片で器面の残りがよく、外面はロクロ成形時の凹凸がみられ、内面は平滑に整えられている。105は、口縁部の破片で、断面三角形を呈する端部の上端を上方につまみだしている。106も口縁部の破片で断面三角形を呈する端部の上端を上方につまみだしている。内面側には小さな段差がみられる。A1類。107は底部4分の1程の破片で、外面は回転糸切り痕、内面はロクロナデで、らせん状を呈する大きな凹凸が残っている。108は底部片で、全体に摩滅していて調整の詳細は不明である。109は体下部～底部とみられるが、摩滅していて詳細は不明である。110は口縁～体部上半の破片で、今回の出土品の中では特に残りのよいものである。口縁端部はつよく上方につまみだされ、ほぼ受け口状を呈する。111は体部の小片であるが、タタキメと当て具痕がよく観察できる。外面はHa類タタキメ、内面はカキメののち扇形に配列するとみられる(C類)当て具痕がくつきりと残されている。112は口縁部の破片で、器面の残りは悪いが、内面にはわずかにカキメが認められる。端部はもう少し高く上方につまみあげられていたようである。113も断面三角形を呈し端部を上方につまみあげる口縁部の小片で、内面にはカキメがみられる。112・113とも口縁部内面側に段差がみられ、A1類である。

b 包含層出土土器

114は土師器小甕の体下部～底部である。回転糸切り痕が残る。115は土師器無台椀の口縁部～体部である。外面はロクロ成形時の凹凸が残り、内面は平滑に仕上げられている。116は土師器長甕の口縁部である。断面三角形を呈する端部の上端を上方に大きくつまみだす。内面側には明瞭な屈曲が作られ、「く」の字形を呈する。A1類。内面にはカキメが施される。全体にシャープで硬質の質感のものである。117は土師器長甕で、今回出土品の中では最も残存率が高く器面の残りも良好である。口縁端部は断面三角形で上方につまみだされるが、内面側がくびれることはなく平坦に整えられる。B類。口縁部内面にはほぼ全面に粗いカキメが施され、内面体部

中ほどにもカキメがみられる。118・119は土師器無台椀の体下部～底部の破片である。底部外面には回転糸切り痕が残り、内面は平滑に仕上げられている。120は土師器無台椀口縁部の小片で、内面は剥落が激しい。121は土師器小甕の体下部～底部の小片である。残存部分では内面は凹凸していない。

第3節 中世の陶磁器 (図版194・200～202、写真図版224・247・248)

今回出土のすべての土器・陶磁器の中で、中世の陶磁器が占める総重量比は8.67%(3780.78g)、総点数比が5.20%(72点)である。珠洲焼58点、珠洲系陶器2点、陶器4点、磁器7点が出土しており、陶器は瀬戸・美濃焼の皿・碗・花瓶、磁器は中国産の青磁・青白磁である。珠洲焼と珠洲系陶器が重量比で87.56%(3,310.61g)、点数比で83.33%(60点)を占める。なお、これらは、青白磁の合子を除いて破片資料であった。器形全体を窺えるものは少なかったが、可能な限り復元を試みた。詳細な観察内容は別表5に、遺構別器種構成比は別表14に、包含層出土中世陶磁器分布図は図版184・185に示した。

A 陶磁器の分類と記述

珠洲焼・珠洲系陶器以外はごく少数であるため細分はしていない。珠洲焼の分類や編年観については吉岡康暢〔吉岡1994〕の研究を参考とした。珠洲焼には甕、壺、片口鉢の3種がある。甕と壺の体部破片は器種の判断が困難であるが、厚さによって甕と壺にそれぞれ分類した。このうち、甕の体部破片については平行タタキメが横位・斜位に施されるものをA類、綾杉状に施されるものをB類とした。壺については甕と同じく平行タタキメの方向でA・B類に分類し、さらにタタキメが施されないものをC類とし、四耳壺をD類、小型のものをE類とした。片口鉢は、口縁部の注口部分が残存する個体は1点しか確認されていないが、すべて片口鉢とした。片口鉢の分類は口縁部の形態をもとに3種に分類した。口縁部が平縁で外傾するものをA類、平縁で水平に仕上げられるものをB類、丸みを帯びた円頭状のものをC類とした。珠洲系陶器については珠洲焼に準じる。

B 出土陶磁器各説

1) 1区出土陶磁器

a 遺構出土陶磁器

SD205 (図版194、写真図版244)

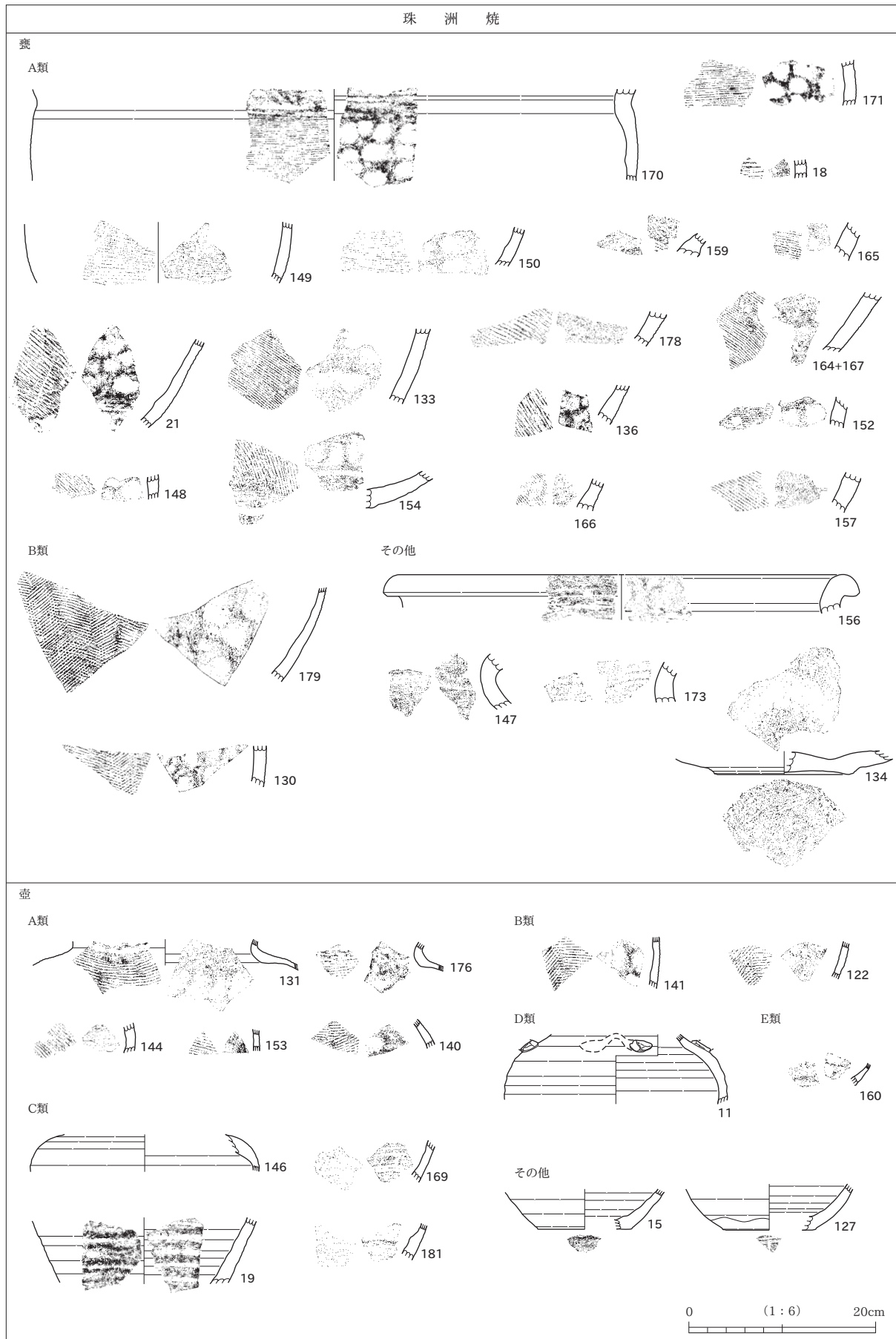
珠洲焼壺(11)の肩部破片が出土しており、これを図化した。残存する耳は1か所であつ欠損するが壺R種の四耳壺と思われる。吉岡編年のI期にあたる12世紀後半の所産と思われる。

ST1 (図版194、写真図版244)

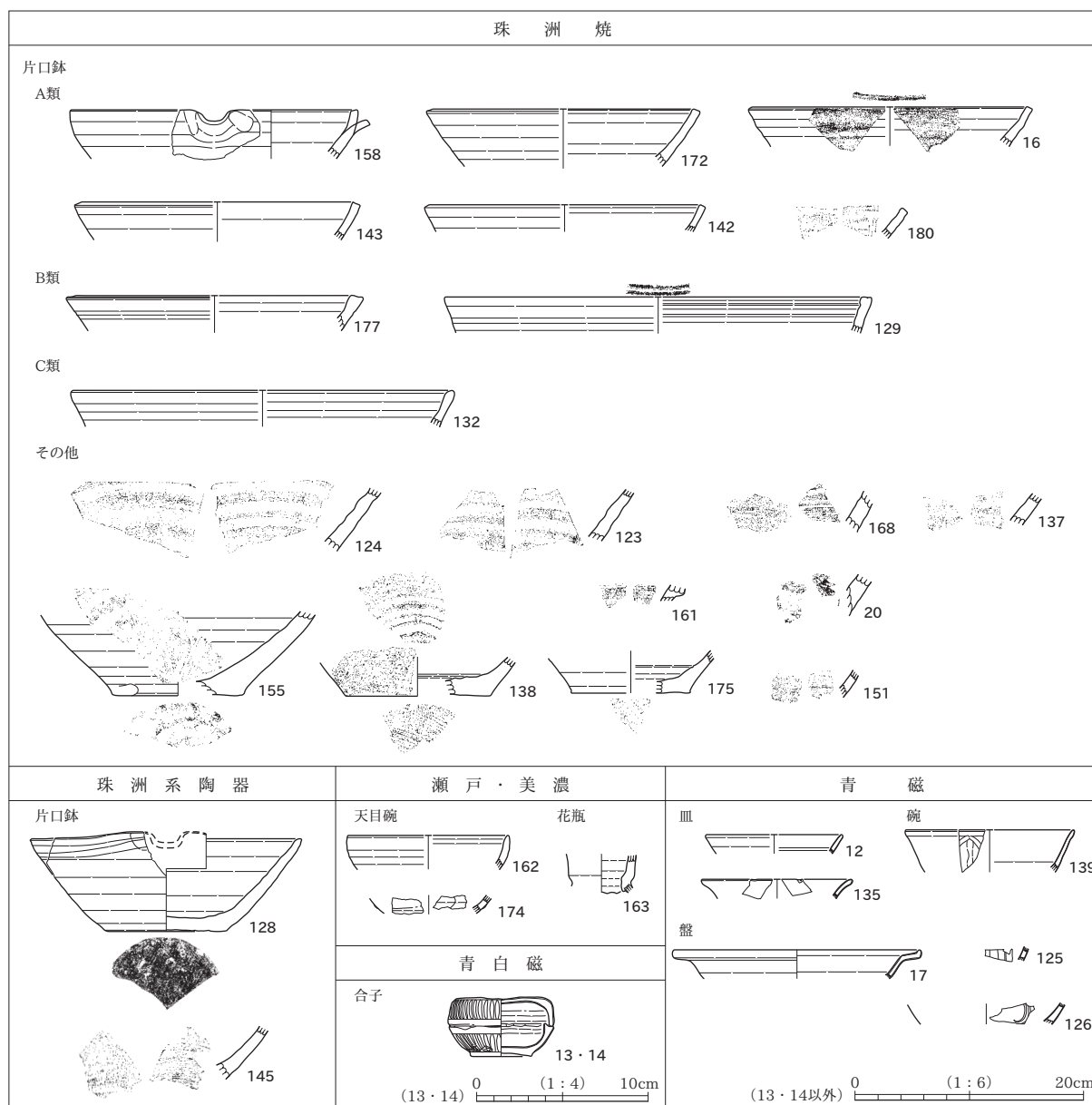
青磁皿、青白磁合子が出土している。青磁皿(12)、青白磁合子身(13)、合子蓋(14)を図化した。12は口縁部の小破片で、残存部下端が沈線状にくぼむ。12世紀後半の龍泉窯系のものと考えられる。13は立ちあがりの一部が欠損するがほぼ完形である。14は完形で、13・14ともに、外面に菊花と思われる草花文が型押しされる。両者は並んで出土しており、文様意匠・焼成状態からみても本来セットであつたとみてよいだろう。生産窯は不明だが12世紀後半～13世紀初頭の中国産と考えられる。

SD3 (図版194、写真図版244)

珠洲焼壺(15)・片口鉢(16)が出土しており、これを図化した。15は底部破片で、ロクロ成形されている。16は口縁部破片で、ロクロ成形されている。口縁端部は平縁で外傾する。吉岡編年のI期にあたる12世紀後半の所産と思われる。



第14図 中世の陶磁器分類図(1)



第15図 中世の陶磁器分類図(2)

SD448 (図版194、写真図版244)

青磁盤(17)が出土しており、これを図化した。口縁部破片で、緩やかに外傾しながら立ち上げたのち、ほぼ水平に引き出され、端部を上方へ引き上げる。胎土は精緻で、明緑灰色の青磁釉が施される。

SD600 (図版194、写真図版244)

珠洲焼甕(18)が出土しており、これを図化した。体部破片で、外面には太い横位の平行タタキメが施される。

NR500 (図版194、写真図版244)

珠洲焼壺(19)が出土しており、これを図化した。体部下位の破片でロクロ成形されている。

b 包含層出土陶磁器 (図版194、写真図版244)

珠洲焼甕(21)・片口鉢(20)が出土している。21は体部破片で、外面に太い斜位の並行タタキメ、内面には押圧痕が認められる。20は体部破片で、内外面ともに摩滅が著しい。21は吉岡編年のIV期にあたる14世紀の所産と思われる。

2) 2区出土陶磁器

a 遺構出土陶磁器

SE403 (図版 200、写真図版 247)

珠洲焼壺・片口鉢が出土している。珠洲焼壺(122)・片口鉢(123)を図化した。122は体部破片で、外面に太い斜位の平行タタキメが綾杉状に施される。123は体部破片でロクロ成形されている。内面に卸目は認められない。

SE405 (図版 200、写真図版 247)

珠洲焼片口鉢(124)が出土しており、これを図化した。焼成が不良な体部破片で、ロクロ成形されている。内面に卸目の上端部が認められる。吉岡編年のⅢ～Ⅳ期にあたる13世紀後半～14世紀の所産と思われる。

SE783 (図版 200、写真図版 247)

珠洲焼壺、青磁碗が出土している。珠洲焼壺(127)、青磁碗(125・126)を図化した。127は底部破片で、ロクロ成形されている。外面下位には、底部粘土板との接合痕が認められる。125は体部破片で、外面に蓮弁文の一部が認められる。126は体部破片で、内面に草花文の一部が認められる。125・126ともに胎土は精緻で、緑灰色の青磁釉が施される。

SE1409 (図版 200、写真図版 247)

珠洲系陶器片口鉢(128)を図化した。ロクロ成形されており、内面に卸目は認められない。片口部分を含む、全体の1/3を欠損する。口唇部は薄く仕上げられる。胎土は精緻だがφ2～6mmの石英、長石粒を多く含む。

SE519 (図版 200・201、写真図版 247)

珠洲焼片口鉢が出土している。珠洲焼片口鉢(129・132)を図化した。129は口縁部破片で、ロクロ成形されている。卸目などは認められず、口縁端部は平坦でわずかに肥厚する。吉岡編年のⅠ3期の所産と思われる。132は口縁部破片で、ロクロ成形されている。内面に卸目は認められず、口縁端部はわずかに肥厚し、薄く仕上げられる。吉岡編年のⅡ～Ⅲ期の所産と思われる。

SE136 (図版 200、写真図版 247)

珠洲焼甕(130)の体部破片が出土しており、これを図化した。外面には細く浅い斜位の平行タタキメが綾杉状に施される。内面には押圧痕が認められる。吉岡編年のⅡ期にあたる可能性があり、13世紀前半の所産と思われる。

SE446 (図版 200、写真図版 247)

珠洲焼壺(131)が出土しており、これを図化した。頸部下位～肩部の破片で、外面には横位の平行タタキ目、内面には押圧痕が認められる。吉岡編年のⅣ期にあたる14世紀の所産と思われる。

SE137 (図版 201、写真図版 247)

珠洲焼甕(133・134)が出土しており、これを図化した。133は体部破片で、外面に細い斜位の平行タタキメが施される。内面には押圧痕が認められる。134は底部破片である。全体に歪みが認められ、底部外面には線状の圧痕が数条残る。内面には自然釉が認められる。

SE351 (図版 201、写真図版 248)

青磁皿(135)が出土しており、これを図化した。口縁部破片で、緩やかに外反し端部はわずかに肥厚する。胎土は精緻で、緑灰色の青磁釉が施される。

SE847 (図版 201、写真図版 248)

珠洲焼甕(136)が出土しており、これを図化した。体部破片で、外面に太い斜位の平行タタキメが施される。内面には押圧痕が認められる。

SE4 (図版 201、写真図版 248)

珠洲焼片口鉢(137)が出土しており、これを図化した。体部破片で、内面には卸目が認められる。

SE734 (図版 201、写真図版 248)

珠洲焼片口鉢 (138) が出土しており、これを図化した。底部破片で、ロクロ成形されている。底部外面には、ヘラ状工具によると思われる調整痕が認められる。内面に卸目は認められない。吉岡編年のⅠ～Ⅱ期か。

SE647 (図版 201、写真図版 248)

珠洲焼壺、青磁碗が出土している。珠洲焼壺 (140・141)、青磁碗 (139) を図化した。141 は体部破片で、外面に太い斜位の平行タタキメが綾杉状に施される。内面には押圧痕が認められる。140 は壺 T 種の体部破片で、外面に太い斜位の平行タタキメが施される。内面には押圧痕が認められる。139 は体部から口縁部にかけての破片で、口縁端部はわずかに外反する。外面には蓮弁文の一部が認められる。胎土は精緻で、緑灰色の青磁釉が施される。

SK1672 (図版 201、写真図版 248)

珠洲焼片口鉢 (142) が出土しており、これを図化した。口縁部破片で、ロクロ成形されている。口縁端部は平縁で外傾する。吉岡編年のⅡ期にあたる 13 世紀前半の所産と思われる。

SK1671 (図版 201、写真図版 248)

珠洲焼片口鉢 (143) が出土しており、これを図化した。口縁部破片で、ロクロ成形されている。口縁端部は平縁で外傾する。吉岡編年のⅢ期にあたる 13 世紀後半の所産と思われる。

SK550 (図版 201、写真図版 248)

珠洲焼壺 (144) が出土しており、これを図化した。体部破片で、外面には太い斜位の平行タタキメが施される。内面には押圧痕が認められる。

SK556 (図版 201、写真図版 248)

珠洲系陶器片口鉢 (145) が出土しており、これを図化した。体部下位の破片で、ロクロ成形されている。

SX1131 (図版 201、写真図版 248)

珠洲焼甕・壺・片口鉢が出土している。珠洲焼甕 (147～150)・壺 (146)・片口鉢 (151) を図化した。147 は頸部破片で、強く外反する。148 は体部破片で外面には斜位の平行タタキメが施される。内面には押圧痕が認められる。149 は体部破片で、外面には太い横位の平行タタキメが施される。内面にはハケメが認められる。150 は体部破片で、外面には細い横位の平行タタキメが施される。内面には押圧痕が認められる。146 は肩部破片で、ロクロ成形されている。151 は体部破片で、ロクロ成形されている。

SD144 (図版 201、写真図版 248)

珠洲焼甕 (152) が出土しており、これを図化した。体部破片で、外面には細い斜位の平行タタキメが施される。内面には指頭圧痕が認められる。150 の同一個体とみられる。全体に擦痕が顕著に認められることから、破片を砥石として二次利用したものと思われる。

SD81 (図版 201、写真図版 248)

珠洲焼壺 (153) が出土しており、これを図化した。壺 T 種の体部破片と思われ、外面には太い斜位の平行タタキメが施される。内面には押圧痕が認められる。

SD537 (図版 201、写真図版 248)

珠洲焼甕 (154) が出土しており、これを図化した。底部破片で、外面には太い斜位の平行タタキメが施される。内面には押圧痕が認められる。

SD1635 (図版 201、写真図版 248)

珠洲焼片口鉢 (155) が出土しており、これを図化した。底部～体部にかけての破片で、本調査において出土した珠洲焼の中では比較的焼成が悪い。ロクロ成形されており、底部外面にはヘラ状工具によるものと思われる調整痕が認められる。内面には卸目が施される。吉岡編年のⅢ～Ⅳ期にあたる 13 世紀後半～14 世紀の所産と思われる。

Pit565 (図版 202、写真図版 248)

珠洲焼甕 (156) が出土しており、これを図化した。口縁～頸部にかけての破片で、本調査で出土した珠洲焼甕の中で唯一端部が残存する。頸部は強く外反しながら立ち上がり、口縁端部は肥厚し、ほぼ水平に短く引き出される。吉岡編年のⅡ期にあたる 13 世紀前半の所産と思われる。

Pit1112 (図版 202、写真図版 248)

珠洲焼甕 (157) が出土しており、これを図化した。体部破片で、外面には太い斜位の平行タタキメが施される。内面には押圧痕が認められる。

Pit1646 (図版 202、写真図版 248)

珠洲焼片口鉢 (158) が出土しており、これを図化した。口縁部破片で、口縁の一部を外側に凹ませて注口部としている。口縁部はわずかに内湾し、端部は平縁で平坦に仕上げられる。吉岡編年のⅠ 2 期の所産と思われる。

Pit253 (図版 202、写真図版 248)

珠洲焼片口鉢 (159) が出土しており、これを図化した。底部近くの小破片である。

SD940 (図版 202、写真図版 248)

珠洲焼壺が出土している。珠洲焼壺(160)を図化した。壺 R 種の体部下半破片と思われ、ロクロ成形されている。

SD1241 (図版 202、写真図版 248)

陶器片口鉢 (161) が出土しており、これを図化した。口縁部破片で、端部を欠損する。ロクロ成形され、内面には卸目の上端部が認められる。生産地は不明。

SD1554 (図版 202、写真図版 248)

瀬戸・美濃焼天目碗 (162) が出土しており、これを図化した。口縁部破片で、ロクロ成形されている。緩やかに内湾しながら立ち上がり、端部は薄く仕上げられる。内外面に鉄釉が施される。古瀬戸中期様式Ⅳ期の天目茶碗で、14 世紀頃の所産と思われる。

SD1521 (図版 202、写真図版 248)

珠洲焼甕・片口鉢、瀬戸・美濃焼花瓶が出土している。珠洲焼甕 (164・165・166・167)・片口鉢 (168)、瀬戸・美濃焼花瓶 (163) を図化した。164～167 は体部破片で、外面に太い斜位の平行タタキメが施される。内面にはナデが認められる。164 と 167 が接合し、165・166 も 164 と同一個体とみられる。168 は体部破片で、ロクロ成形されている。163 は頸部破片である。ロクロ成形され、外面には灰釉が施される。15 世紀頃の所産と思われる。

SD1615 (図版 202、写真図版 248)

珠洲焼甕・壺・片口鉢が出土している。珠洲焼甕 (170・171)・壺 (169)・片口鉢 (172) を図化した。170 は頸部下位～体部にかけての破片で、体部外面には細い横位の平行タタキメが施される。内面には押圧痕が認められる。171 は体部破片で、外面には細い横位の平行タタキメが施される。内面には押圧痕が認められる。169 は体部破片で、ロクロ成形されている。172 は体部～口縁部にかけての破片で、ロクロ成形されている。口縁端部は平縁で外傾する。吉岡編年のⅢ期にあたる 13 世紀後半の所産と思われる。

b 包含層出土土器 (図版 202、写真図版 248)

珠洲焼甕・壺・片口鉢、瀬戸・美濃焼皿が出土している。珠洲焼甕 (173・178・179)・壺 (176・181)・片口鉢 (175・177・180)、瀬戸・美濃焼皿 (174) を図化した。173 は頸部破片である。178 は体部破片で、外面には太い斜位の平行タタキメが施される。内面には押圧痕がみられる。179 は体部破片で、外面には細い斜位の平行タタキメが綾杉状に施される。内面には押圧痕が認められる。吉岡編年Ⅱ期の所産と思われる。176 は頸部から肩部にかけての破片で、肩部外面には太い横位の平行タタキメが施される。内面には押圧痕が認められる。181 は体部下半の破片で、ロクロ成形されている。175 は底部破片で、ロクロ成形されている。177 は口縁部破片で、ロクロ成形されている。口縁端部は平縁で水平である。吉岡編年のⅢ～Ⅳ期の所産と思われる。180

は口縁部破片で、ロクロ成形されている。内面には卸目が施される。口縁端部は平縁で外傾する。吉岡編年のⅢ期にあたる13世紀後半の所産と思われる。174は体部破片で、内外面の体部上位に灰釉が施される。大窯成立以前の古瀬戸と思われ、15世紀頃の所産と思われる。

第4節 近世・近代の陶磁器・土器

(図版195～198・202～212、写真図版244～246・249～259)

A 概要

近世・近代の土器は磁器・陶器・土師質土器・瓦質土器の4種がある。大半は肥前系の陶磁器で占められており、他に少量の瀬戸・美濃、京・信楽、萩、越中瀬戸、会津本郷、村松などの陶磁器や、産地不明の土師質土器、瓦質土器がみられる。今回出土のすべての土器・陶磁器の中で、近世・近代の土器が占める割合は、総重量比85.6%(37,347.22g)、総点数比77.2%(1,071点)となり、大部分を占める。

陶磁器の年代は近世から近代までが確認できる。詳細時期をみると、17世紀初頭～17世紀前半、17世紀末～18世紀、19世紀の概ね三つの時期に分けられる。このうち17世紀末～18世紀の陶磁器が最も多く、19世紀、17世紀初頭～17世紀前半のものがこれに次いでいる。

陶磁器・土器の記載に際しては、遺構毎にまとめ、以下、器種や文様を中心に行った。口縁部形状、見込み、高台などについては、小破片が多いため可能なものについてのみ記した。また必要に応じて、釉薬、器体の成形、胎土なども記載した。製作年代については、個別に遺物を説明した後、まとめて記した。

詳細な観察内容は別表6に、遺構別器種構成比率は別表15に掲載した。別表6にある産地の表記は、基本的に肥前、瀬戸・美濃などの地域名で記したが、より詳細な地域や窯跡の特定が可能なものは、本文中で触れるとともに、別表6の備考欄に波佐見、内野山などと記載した。

包含層出土土器の重量分布図は1区と2区に分け、それぞれ図版186(1区)・187(2区)に示した。重量分布図をみると、1区は調査区全体から出土しており特に14Q-3D～F付近では重量もやや増える。2区は14R-7C～Jライン以南に分布し、特に14R-8Fよりも南東側で出土量が増加する。この状況は、検出した当該期遺構の分布状況と概ね一致する。

本遺跡で出土した近世の肥前陶磁器の器種分類や編年観は、大橋康二〔大橋1988〕や「九州陶磁の編年」〔九州近世陶磁学会編2000〕を参考とした。

B 出土土器等各説

1) 1区出土陶磁器・土器

a 遺構出土陶磁器・土器

SK687 (図版195、写真図版244)

陶器鉢・甕・壺が出土している。6点(22～27)図化した。22・24は陶器鉢である。22は端反鉢で、内面には刷毛面文が施される。24の外面には黄色の鉄釉で縦位の線が描かれる。23・25は陶器甕で、口縁部形状はT字形(23)、外側に肥厚(25)する。26・27は陶器壺である。26の器面はロクロナデにより成形される。27の口縁部形状は、内外に肥厚し内側に傾斜する。内面には格子状の当具痕が残る。時期は27が17世紀末～18世紀前半である。

SK684 (図版195、写真図版245)

陶器鉢・甕、土師質土器蓋が出土している。土師質土器蓋(28～30)を図化した。口縁部はやや外反するもの(28)、内湾するもの(29)がある。器面は、ロクロナデ(28)、ロクロケズリ(29・30)により成形される。

SK685 (図版 195、写真図版 245)

陶器鉢・播鉢・甕、土師質土器蓋が出土している。陶器播鉢(31)を図化した。越中瀬戸産で、器面の色調はにぶい黄褐色を呈するのが特徴である。時期は16世紀末～17世紀前半である。

SK694 (図版 195、写真図版 245)

磁器碗の破片が1点出土している(32)。焼継痕がみられる。

SK680 (図版 196、写真図版 245)

陶器皿・鉢・甕・壺、土師質土器蓋が出土している。33は陶器皿で、体部は直線的に外傾する。34は陶器鉢で、外面に刷毛目文が施される。35は陶器壺で、外面には横線文がみられる。36は陶器甕で、口縁部はT字形を呈する。重複するSK708や周辺の包含層からも接合する同一個体片が出土している。37は土師質土器蓋である。口縁部が内湾し、端部には沈線が施される。時期は33が17世紀中頃、34は17世紀後半から18世紀代、36が17世紀～18世紀である。

SK683 (図版 196、写真図版 245)

磁器碗の破片が1点出土している(38)。外面には草花文が描かれる。

SK682 (図版 196、写真図版 245)

陶器鉢・甕が出土している。陶器甕(39)を図化した。外面には刃刀によるナデ、内面は振じ立て痕が残る。17世紀前半の越前焼と考えられる。

SK705 (図版 197、写真図版 245)

陶器鉢・甕、磁器大徳利が出土している。陶器鉢(40)、磁器大徳利(41)を図化した。40は胎土や釉薬の特徴から、35と同一個体の可能性がある。41の外面には草花文が描かれる。時期は41が18世紀である。

SK707 (図版 197、写真図版 245・246)

磁器碗、陶器皿・鉢・甕が出土している。陶器鉢(42)・陶器甕(43)を図化した。42は肥前武雄産で、いわゆる二彩唐津、刷毛目唐津と呼称されるものである。高台の外側は斜めに削り出されている。43の内面には同心円文当具痕や指頭圧痕が残る。42が17世紀末～18世紀初頭、43が17世紀前半である。

SD204 (図版 197、写真図版 246)

磁器碗の破片が1点出土している(44)。外面には染付で文様が描かれる。

SD329 (図版 197、写真図版 246)

磁器碗・皿、陶器皿が出土している。3点(45～47)図化した。45は磁器碗で、外面には草花文が描かれる。46は磁器皿で、内面には山水文が描かれる。47は陶器皿で、見込みに草花文と思われる文様が描かれる。

SD480 (図版 197、写真図版 246)

磁器碗の破片が1点出土している(48)。外面には草花文が描かれる。

SD732 (図版 197、写真図版 246)

磁器碗の破片が1点出土している(49)。外面には染付で文様が描かれる。

SD733 (図版 197、写真図版 246)

磁器碗・皿、陶器播鉢・壺・乗燭が出土している。磁器碗(50・52・54)、皿(51)、陶器播鉢(53)、乗燭(55)を図化した。50・52・54の外面には、草花文(50)、圈線(52)、雪輪文(54)が施される。54は筒型碗である。53の器面の色調は暗褐色をする。55は底面に回転糸切痕が残る。時期は50が18世紀前半、54は18世紀後半～末である。

SD576 (図版 198、写真図版 246)

陶器播鉢、土師質土器焙烙が出土している。陶器播鉢(56)、土師質土器焙烙(57)を図化した。56の口縁部形状は、玉縁状を呈する。57の器面はロクロナデにより成形される。時期は56が17世紀後半である。

b 包含層出土陶磁器・土器 (図版 198、写真図版 246)

磁器碗 (58・62・63・73・76)・小碗 (77)・皿 (60・61・68)・急須 (64)・猪口 (67・75)、陶器鉢 (66・70・72)・甕 (65・69)・猪口 (71・74)、土師質土器壺 (59) が出土している。58 の外面には草花文が描かれる。59 の外面はミガキ調整後に赤彩が施される。60 の外面には草花文、見込みには菊文? が描かれる。61 の内面には唐草文が描かれる。62 の外面にはコンニャク印判によると思われる不明文様がみられる。63 の外面には染付で文様が描かれる。64 の外面には唐草文と思われる文様が描かれる。65 は胎土や釉薬の特徴から、24 と同一個体の可能性がある。66 の内外面はロクロナデにより成形され、藁灰釉が掛けられる。67 の外面には染付で文様が描かれるが、図柄は不明である。68 は見込みに蛇ノ目釉剥ぎが施される。69 の内外面には格子状のタタキメ・当具痕が残る。70 は口縁がやや肥厚する。71 には銅緑釉が掛けられている。72 の口縁部は受口状を呈する。73 の内外面は摺絵により文様が描かれる。74 は上げ底で体部は直立する。75 は見込みに瓢筆文と「阿賀錦」の銘が描かれる。76 の外面には蔓性植物の文様が描かれる。77 は文様の有無不明である。

2) 2 区出土陶磁器・土器

a 遺構出土陶磁器・土器

SE403 (図版 202、写真図版 249)

陶器瓶が 1 点出土している (182)。口縁端部は釉剥ぎされている。

SE444 (図版 202、写真図版 249)

磁器碗、陶器播鉢が出土している (183・184)。183 は磁器碗で、外面には染付で文様が描かれている。184 は陶器播鉢で、口縁部形状は内側に膨らみをもたせ鋭角的につまみ出している。時期は 184 が 17 世紀第 2 四半期である。

SE351 (図版 202・203、写真図版 249)

磁器碗・小杯・皿、陶器碗・皿・播鉢・鉢が出土している。磁器碗 (185～190・192・193)・皿 (195・196)、陶器碗 (191)・皿 (194・197～202)・播鉢 (203)・鉢 (204～206) を図化した。186～190 の外面には、染付による文様がみられ、190 は小片のため不明だが、186・187・189 は草花文、185・188 は残存部には文様がみられない。191 の外面下半は無釉である。192・193 の外面には、コンニャク印判によるとみられる文様 (192)、圏線 (193) がみられる。194・201 の口縁部は溝縁を呈し、藁灰釉が掛けられる。197 の内面には刷毛目文が施される。198 の外面下端には無釉部分がある。199・200 は、銅緑釉が掛けられている。195 は口縁がくびれる。196 は見込みに蛇ノ目釉剥ぎが施され、そこに鉄釉が塗られる。202 は腰部より下位が無釉となり、見込みには胎土目跡が残る。底面は糸切り後、削り出しにより高台が作られる。203・204・206 の口縁部は玉縁状を呈する。205 は高台～体部の小片である。

遺物の時期は、187 が 17 世紀末～18 世紀前半、189 が 18 世紀第 1 四半期、192 が 17 世紀末～18 世紀前半、194 が 1610～1630 年代、197 が 17 世紀後半～18 世紀前半、198 が 17 世紀、199 が 17 世紀第 4 四半期～18 世紀第 1 四半期、200 が 17 世紀後半～18 世紀前半、202 が 16 世紀末～17 世紀初頭である。

SE251 (図版 203、写真図版 249)

磁器碗、陶器皿が出土している。207 は磁器碗で、外面にはコンニャク印判によるとみられる雪輪文? がみられる。208 は陶器皿で、口縁部は溝縁を呈し、器面には藁灰釉が掛けられる。時期は 207 が 18 世紀前半、208 が 1610～1630 年である。

SE449 (図版 203、写真図版 249)

磁器皿、陶器皿・鉢・播鉢が出土している。209 は磁器皿で、口縁部は受け口状に屈曲する。内面には染付で圏線と点列が描かれる。210 は陶器皿で、見込みには蛇ノ目釉剥ぎが施される。211 は陶器播鉢である 212 は陶器鉢で、内面には刷毛目文が施される。時期は 209 が 17 世紀前半、210 が 17 世紀後半～18 世紀前半、211 が 17 世紀、212 が 17 世紀前半 (～1620 年代) である。

SE734 (図版 203、写真図版 249)

磁器碗・皿・花瓶・火入れ、陶器碗・皿・壺・播鉢が出土している。213～215は磁器碗で、外面には山水文(213)、圏線(214・215)が描かれる。215の見込みには蛇ノ目釉剥ぎが施される。216・217は磁器皿である。217の見込みには草花文が描かれる。218は陶器播鉢で、卸目の筋の間隔が広い。219は磁器火入れで、外面には青磁釉が掛けられる。時期は217が17世紀中、218が17世紀後半、219が17世紀末～18世紀である。

SK550 (図版 203、写真図版 249)

磁器碗・香炉、陶器碗・皿・瓶・鉢・播鉢・甕が出土している。220～222は磁器碗である。220の外面には草花文、222外面には上絵付で山水文が描かれる。221は破片の周囲を打ち欠いて円盤形に加工している。223～225は陶器皿で、器面には銅緑釉(223・225)、鉄釉(224)が掛けられる。225は見込み部分がよく磨かれているため、砥石として転用されたものとする。226は陶器播鉢で、口縁部は内側に肥厚する。227・228は陶器鉢である。227の外面には刷毛目文が施される。228は破片を打ち欠いて扇形に加工している。229は磁器香炉で、外面には青磁釉が掛けられる。230は陶器甕で、口縁部はT字形を呈する。

時期は220が18世紀前半、222が17世紀後半、225が17世紀第4四半期～18世紀、226が17世紀後半、227が17世紀中～後半、229が17世紀末～18世紀、230が17世紀～18世紀である。

SK400 (図版 204、写真図版 249)

磁器皿・德利、陶器皿・播鉢が出土している。磁器皿(231)、陶器播鉢(232・233)、磁器德利(234)を図化した。231は内面に染付で文様が描かれ、見込みには蛇ノ目釉剥ぎが施される。232の口縁部は玉縁状を呈する。233は卸目の筋の間隔が広い。234の外面には花文が描かれる。

時期は231が17世紀後半～18世紀前半、232が17世紀後半、233が17世紀代、234が18世紀である。

SK556 (図版 204、写真図版 249)

磁器碗・皿、陶器皿・鉢・蓋・播鉢・甕、土師質土器灯明皿が出土している。磁器碗(235～238)、陶器鉢(239・240)・蓋(241)・甕(242)、土師質土器灯明皿(243・244)を図化した。235～238の外面にはコンニャク印判によるとみられる雪輪文?(235・236)、圏線(237・238)が描かれる。239は三島手で、スタンプによる文様がみられる。240は内面刷毛目文とみられる。241の下面には回転糸切り痕が残る。242の外面には刷毛目文が施される。243・244の内外面には油煙が付着している。

時期は235～237が18世紀前半、239・240が17世紀後半～18世紀前半、242が17世紀後半である。

SK487 (図版 204、写真図版 249)

磁器皿の底部が1点出土している(245)。見込み型による花卉文がみられ、青磁釉が掛けられる。

SK633 (図版 204、写真図版 249・250)

磁器碗、陶器皿が出土している。磁器碗(246～248)、陶器皿(249)を図化した。246～248は外面に網目文(246)、山水文(247)、圏線(248)が描かれる。249は腰部より下は無釉となる。見込みには蛇ノ目釉剥ぎが施され、砂目が残る。

時期は246が17世紀後半、247が17世紀末～18世紀前半、248が17世紀末～18世紀初頭、249が16世紀末～17世紀前半である。

SK628 (図版 204、写真図版 250)

磁器碗が1点出土している(250)。外面の表裏に草花文が描かれる。SK550から出土した破片と接合している。時期は17世紀末～18世紀初頭である。

SK1195 (図版 204、写真図版 250)

磁器碗・瓶・花瓶が出土している。磁器碗(251)を図化した。内面に染付で文様が描かれる。

SK1201 (図版 204、写真図版 250)

磁器碗・皿、陶器碗・皿・鉢・播鉢が出土している。磁器碗(252～255)、陶器播鉢(256)・鉢(257)を図化した。

252の口縁部はやや外反する。253の外面には草花文が描かれ、高台内にくずれた「大明年製」銘がみられる。254の見込みには蛇ノ目釉剥ぎが施される。255は「大明年製」銘のある底部破片を打ち欠いて円盤形に加工している。257の内面には刷毛目文が施される。

時期は253が18世紀前半、254が17世紀後半～18世紀前半、256が17世紀、257が17世紀後半（～18世紀?）である。

SK1562（図版204、写真図版250）

陶器皿の口縁部片が1点出土している（258）。口縁部形状は端反を呈する。

SX1131（図版204～209、写真図版250～256）

磁器碗・小碗・小杯・皿・蓋・瓶・花瓶・徳利・急須・猪口、陶器碗・小碗・皿・鉢・播鉢・片口鉢・瓶・徳利・壺・甕・土瓶・植木鉢・蓋・花生・仏花器・香炉・火入・秉燭・爛鍋、土師質土器焙烙・瓦質土器火鉢が出土している。259～272・277・279は磁器碗で、外面や見込みには大柄な葉（259）、蕨（260）、焚火?（261）、草花文（262・265）、鳥文（277）、蛇行状文（279）が描かれる。266～272にも染付がみられるが、小破片のため図柄は不明である。274は陶器碗で、瀬戸・美濃産の太白手である。内面には山水文が描かれる。273・283は磁器小杯、276は磁器猪口、275・280・281は磁器小碗で、外面には山水文（281）、圏線（273・280・283）が描かれる。275・276は無文である。282は萩焼で、鉄釉と土灰釉によるピラ掛けが施される。278・284～286は磁器皿である。278は打ち欠かれて縁辺が波状に加工されている。284は輪花皿である。285の見込みには風景文が描かれる。286の見込みは蛇ノ目釉剥ぎが施される。287～290は陶器皿である。287・288は銅緑釉が掛けられる。289は村松焼の六角小皿で、内面には葉状の文様が型押しされる。290は比較的高台近くまで施釉されている。291～298・336は陶器播鉢である。口縁部形状はいずれも玉縁状を呈する。291は内面に目跡を残す。298は胎土の特徴から須佐唐津と思われる。299は陶器鍋の受口状の口縁部である。304は越中瀬戸の小壺とみられる。300～303・306・307は陶器鉢である。300の器面には藁灰釉が掛けられる。306の口縁部は玉縁状を呈し、鉄釉が掛けられる。307は内面にのみ鉄釉が掛けられている。高台は低く作られ無釉となる。308は陶器片口鉢である。ほぼ完形で、細長くつき出す注口をはりつけている。309・310は焙烙で、口縁部はロクロナデされる。ともに相対する位置に2ケずつ穿孔されているとみられる。311は磁器蓋で、草花文が描かれる。312～317は陶器蓋である。312～315は土瓶の蓋で312～314には器面にススが付着する。315の底は回転糸切り痕が残る。316・317は陶器鍋蓋で、外面にはトビガンナによる地文の上にイチチン描きにより雲形の装飾を施す。318～322は磁器徳利で、319の外面には雪持笹文が描かれる。320は2色の釉を掛け分けている。323は陶器徳利で、底面には回転ヘラケズリ痕が残る。324は磁器猪口で、ごく小さい高台を削り出す。325は磁器急須で、器面には草花文が描かれる。326は陶器土瓶である。外面にはトビガンナによる文様が施され、土灰釉が蛇行する紐状に掛けられる。さらに、細密な山水文様や梅花文を型押しした楕円形の薄板が貼付けられている。327は陶器秉燭である。底面には墨が付着する。328は陶器火入れで、高台面にも施釉されている。329・330は磁器瓶で、いずれも草花文が描かれる。331～332は陶器瓶である。331の外面には銅緑釉が掛けられる。332は竹節状の装飾が施され、その上部に把手の剥落痕がみられる。333は陶器土瓶の体部小片で、外面には風景文が描かれる。334は陶器仏花器で、頸部の両側面には耳状の突起が付く。335は陶器植木鉢である。口縁部はL字状を呈する。337・339は陶器壺である。337の外表面は単洗線で鋸歯状の文様が描かれる。肩部には把手の剥落痕がみられる。339の口縁部は丸みをもってL字に屈曲する。外面はロクロナデによる凹凸が大きく、鉄釉が掛けられる。高台は低く作られ無釉となる。338は陶器甕の口縁部小片である。340は陶器爛鍋で、口縁部は受口状を呈する。外面にはトビガンナによる文様が施される。注口に対して90°の位置に把手の剥落痕がみられる。341・342は瓦質土器火鉢である。ともに細密な文様をもつ体部に環状の脚部をつけ、2か所に獅子頭をかたどった貫通孔のある耳を貼り付けるという特徴があり、銅製品の「宣徳火鉢」を模して作られたものと考えられるが、製作技法的には2点は全く異なっ

いる。341は円筒形に作った体部の表面に、鋸歯状の単位文様を刻んだ円筒を数段にわたって回転させることで結果として菱形が重なったような地文を施文し、その上に別に型抜きした浮文を貼り付けている。口縁部は4ヶの菊花文を刻んだ型を押し当てて施文している。外面くびれ部には樹脂状のものが塗布されており、脚部には赤彩もみられる。342は底外面に直線的な接合痕がみられることから、体部は型合わせと考えられる。庭園風の風景や青海波等を表現した細密な文様は型を用いることで可能になったものであろう。

SX1131から出土したこれらの製作年代については、一部18世紀末の可能性のあるものもあるが、19世紀のものがほとんどであり、村松焼と考えられる289の六角皿などの存在や、341・342の瓦質火鉢の類例からは幕末から明治にかかる時期が想定され、廃棄年代は近代に入ってから可能性はある。

SD150 (図版209、写真図版256)

土師質土器鉢が1点出土している(343)。底面には回転糸切り痕が残る。

SD144 (図版209、写真図版256)

磁器碗・鉢が出土している。344は磁器碗で、無文である。345は磁器鉢で、内面には染付がみられる。

SD391 (図版209、写真図版256)

磁器鉢、陶器鉢が出土している。346は陶器鉢で、見込みには刷毛目文と砂目が残る。347は磁器鉢で、外面には染付で文様が描かれる。

SD252 (図版209・210、写真図版256)

陶器皿・播鉢・鉢が出土している。陶器播鉢(348)を図化した。胎土の特徴から須佐唐津産と考えられる。

時期は17世紀後半～18世紀前半である。

SD492 (図版209・210、写真図版256・257)

磁器碗・皿、陶器碗・皿・鉢・播鉢・花生・甕、土師質土器灯明皿が出土している。磁器碗(349～358)、陶器碗(359・360)、磁器皿(361)、陶器皿(362～365)・鉢(366)・播鉢(367～369)・花生(370)・壺(371)、土師質土器灯明皿(372)を図化した。349～358の外面には鳥文(349)、草花文(351・354)、圏線(355・357・358)、圏線とコンニャク印判によるとみられる雪輪文(356)が描かれる。352・353は無文である。359はロクロナデにより成形され、藁灰釉が掛けられる。360は色調が浅黄色を呈する、いわゆる京焼風と呼称されるものである。361の見込みには草花文が描かれる。362～365の口縁部形状は、僅かに内湾するもの(362・364・365)、溝縁(363)がみられる。366の口縁部はく字状に外反する。内面に刷毛目文が施される。367・368の口縁部は玉縁状を呈する。369は卸目があまり密ではない。370は外面に突帯が廻り、その上部の内外面は指頭圧痕のように凹みが連続するように見えるが、釉の流れによると考えられる。371は内外面に格子文のタタキメ・当具痕がみられる。372の内外面には油煙が付着している。

時期は349・360が17世紀後半～18世紀前半、350・356が18世紀前半、351・368が17世紀末～18世紀前半、352が17世紀後半、357・366・369が17世紀代、361が17世紀中～後半である。

SD733 (図版210、写真図版257)

磁器碗が出土している。373・374ともに外面にコンニャク印判による不明文様が施される。

時期は373が17世紀末～18世紀前半、374が18世紀代である。

SD636 (図版210、写真図版257)

磁器皿、陶器播鉢・鉢・壺甕類が出土している。375は磁器皿で、内面には山水文(?)が描かれる。376は陶器播鉢で、外面に廻る突帯を境に、内面の卸目が上下に分かれる。377は陶器鉢で、高台の外側が斜めに削られる。378は陶器甕か壺で、内面には格子文当具痕が残る。

時期は377が17世紀後半～18世紀前半である。

SD450 (図版210、写真図版257)

磁器碗・小碗・皿・香炉、陶器碗・播鉢・鉢が出土している。磁器碗(379)、陶器碗(380・381)、磁器皿(382・

383)、陶器播鉢(384)、磁器香炉(385)を図化した。379の外面には圏線が描かれる。380は胎土の特徴から瀬戸美濃の太白手であろう。381は高台の小片である。382・383の内面には、2条一組の線(382)、圏線(383)が描かれる。384の口縁部は内側に肥厚する。385の外面には青磁釉が掛けられる。

時期は381が17世紀後半～18世紀前半、382が18世紀、384が17世紀後半、385が18世紀前半である。

SD1300(図版210、写真図版257)

陶器鉢の底部片が1点出土している(386)。外面刷毛目文か。

SD1299(図版210、写真図版257)

陶器播鉢が1点出土している(387)。卸目は密に交差している。

Pit639(図版210、写真図版257)

陶器皿が1点出土している(388)。腰部以下は無釉となり、見込みと畳付には砂目が残る。底部は削り出しにより高台が作られる。時期は17世紀前半である。

Pit807(図版210、写真図版257)

陶器鉢が1点出土している(389)。外面には刷毛目文が施される。時期は17～18世紀である。

Pit913(図版210、写真図版258)

磁器瓶が1点出土している(390)。口縁部は外反し、端部は面取りされる。時期は17～18世紀である。

Pit564(図版210、写真図版258)

陶器火入れが1点出土している(391)。口縁部は玉縁状を呈する。外面には横線が施される。

時期は17世紀末～18世紀初頭である。

Pit901(図版210、写真図版258)

磁器小杯・徳利が出土している。磁器小杯を図化した(392)。外面には染付による文様がみられる。

SD848(図版210、写真図版258)

磁器碗、陶器皿・鉢が出土している。陶器皿(393)、磁器碗(394)を図化した。393の見込みには砂目が残る。394は高台部が高く作られる。時期は393が16世紀末～17世紀初頭である。

SD940(図版210・211、写真図版258)

磁器碗・皿、陶器碗・皿・播鉢・鉢が出土している。395～399は磁器碗である。395～397は外面に山水文(395)、圏線(396・397)、内面に圏線が描かれる。398は無文である。399は外面の圏線のみ確認できる。400は陶器碗である。色調が浅黄色を呈する、いわゆる京焼風と称されるものである。401・402・405～409は陶器皿で、401は見込み蛇ノ目釉剥ぎ部が黒く塗られているように見える。402は見込みと畳付に砂目が残る。405は内面に唐草文が描かれ、見込み蛇ノ目釉剥ぎである。408・409は見込み蛇ノ目釉剥ぎである。406は唐津と思われる。407は無釉である。403・404は磁器皿である。403は見込みに花文が描かれ、高台が低く作られる。404は見込みに草花文が描かれる。410～413は陶器播鉢である。410は内外面に指頭圧痕が残る。411の口縁部は折り返される。412は卸目がやや幅広となる。413の底面には糸切り痕が残る。414は陶器鉢で、見込みには刷毛目文が施される。

時期は395・396・398・410・413が17世紀代、400・401・409・414が17世紀後半～18世紀前半、402が17世紀後半～18世紀、403が17世紀中、404が17世紀中～後半、405・411が17世紀後半、406が16世紀末～17世紀前半、408が17世紀第4四半期～18世紀前半である。

SD1241(図版211、写真図版258・259)

磁器皿、陶器碗・皿・甕、土師質土器鉢が出土している。磁器皿(415)、陶器皿(416)を図化した。415は見込みに蛇ノ目釉剥ぎが施される。416は銅緑釉が掛けられる。時期は415が18世紀代である。

SD1242(図版211、写真図版259)

磁器碗・皿・瓶・花瓶、陶器碗・鉢が出土している。陶器碗(418)・鉢(417)を図化した。417は高台部の

小片である。418は割れてから高台縁辺を打ち欠いて尖らせており、用途は不明であるが後世に利用されたものと考えられる。時期は418が17世紀後半～18世紀前半である。

SD1554 (図版 211、写真図版 259)

磁器碗・鉢が出土している。磁器鉢(419)を図化した。419の口縁部は受口状を呈し、内面には染付で圏線と列点文が描かれる。時期は17世紀代である。

SD1563 (図版 211、写真図版 259)

磁器碗、陶器皿・鉢・甕が出土している。磁器碗(420)、陶器鉢(421)・甕(422)を図化した。420の外面には二重網目文が描かれる。421の口縁部は外側に肥厚し、方形を呈する。422の口縁部はT字状を呈する。口縁外端は部分的に打ち欠かれている。時期は422が17世紀前半～中葉である。

b 包含層出土陶磁器・土器 (図版 211～212、写真図版 259)

磁器碗(424・425・431・432・436・438・444・445・448・452・455・456)、陶器碗(443)、磁器皿(423・428・437・453・457)、陶器皿(427・430・442)、陶器播鉢(429・450)・鉢(433・434・451・454)、磁器徳利(426・446)・猪口(447・449)、陶器土瓶(435)、磁器香炉(439)・瓶(440・441)が出土している。423の内外面には染付で文様が描かれる。424・425は外面に草花文(424)、山水文(425)が描かれる。426の外表面には風景文が描かれる。427の内面には文様がみられる。428の見込みには蛇ノ目釉剥ぎが施される。429の口縁部はく字状の幅広い縁帯となる。430の口縁部は溝縁を呈する。431の内外面には染付の文様がみられる。432の内外面には二重網目文が描かれる。433は外面に鉄釉、内面に藁灰釉を掛ける厚手のものである。434は手付き鉢の把手部分とみられる。435の外表面には染付がみられる。436の外表面には葉文が描かれる。437の見込みには鶴文が描かれる。438の底面にはくずれた「大明年製」銘が記される。439の外表面には青磁釉が掛けられる。440はあまり大きく開かない頸部である。441の外表面には圏線が描かれる。442の見込みと畳付に砂目が残る。443の内表面には染付で線が描かれる。444・445の外表面には草花文(444)、風景文(445)が描かれる。446はロクロナデにより成形される。447の外表面には草花文が描かれ、実を模したように円形突起が付く。448の外表面には染付がみられる。449の内表面には風景文が描かれる。450は底部に回転糸切り痕が残る。451の見込みには砂目が残る。452の外表面には人物文(うちわか?)が描かれる。453の見込みには蛇ノ目釉剥ぎが施される。454の内表面には砂目、底面には糸切り痕が残る。455はロクロナデにより成形される。456の外表面には草花文が描かれる。457の見込みには蛇ノ目釉剥ぎが施される。

時期は423が18世紀末～19世紀初頭、424・437・450・451が17世紀代、428が17世紀前半～中葉、429が17世紀後半、430が17世紀前半、432が18世紀前半、438が17世紀後半～18世紀初頭、442が17世紀前半(～1630年代)、445が17世紀末～18世紀前半、449が19世紀以降、454・457が17世紀後半～18世紀前半である。

第5節 土製品・石製品・金属製品・木製品・烏帽子・数珠

A 土製品と瓦 (図版 212、写真図版 259)

全て2区から出土している。1～8は土製品、9は瓦である。1～4は人形の破片である。1は髪を結った女性の顔、2は着物姿の人物が座っている袖から足にかけての破片、3は2個の米俵の上に乗っている大黒天の人形と思われ、米俵以外は欠損している。4は動物の尾っぽ部分と思われる。もしかしたら四足動物の足の可能性もある。5は鋳型と思われる。正面には圧痕、左側面の断面は弧状を呈する。6は羽口片で、外表面には鉄が細かく粒状に付着し、被熱で青色に変色している。7・8は土師器と同じ胎土もつ。7は上面に窪みを作り、その中を棒状の工具でさらに窪ませている。8は円盤状を呈する。裏面に僅かな窪みがある。共に性格は不明である。9は平瓦で、器面には製作時の擦痕がみられる。

B 石製品 (図版 213～235、写真図版 260～279)

1) 石製品の分類と記述

石製品の出土総点数は409点である。そのうち砥石58点(実測数50点)、砥石+敲石3点(実測数3点)、磨石85点(実測数85点)、磨石+敲石62点(実測数62点)、敲石86点(実測数86点)、敲石+台石2点(実測数2点)、台石36点(実測数36点)、軽石製石製品57点(実測数57点)、石臼1点(実測数1点)、パステル形石製品2点(実測数2点)、不定形石製品11点(実測数11点)、剥片10点(実測数10点)、石核1点(実測数1点)、原石1点(実測数1点)が出土した。また、焼礫8点、礫223点で礫類合計231点が出土している。

掲載資料の抽出にあたっては器種認定が可能なもの、使用痕が認められるものは小片を除き全て抽出し、礫類に関しては出土数量の記載にとどめ、実測図の掲載は行っていない。

第188図に1区、第189図に2区の出土地点を示した。詳細な計測値は別表8、出土点数・個体数・石製品組成・重量組成等は別表16～21に示した。資料の掲載については器種分類を重視して提示している。

石製品の内、砥石、磨石、磨石+敲石、敲石、軽石製石製品については以下の分類を用いる。

砥石 「砥ぐ」「磨く」「仕上げる」ものとして、その対象物を刃物に限定せず広義に「研磨する」道具を砥石〔沙見1999〕とし、研磨に起因する平滑面や刃物傷があるものを砥石とした。形状により板状のものをA類、四～多角形柱状のものをB類、素材礫の形状を生かしたものや、その剥片を素材としたものをC類とした。

磨石 表面が円滑に摩耗した石製品のうち、敲打痕が観察されないものを一括した。全体的な傾向として、石材の硬度や使用頻度にも左右されることではあるが、形態に変化を生じさせるほど使用したと考えられる資料に乏しい。記載にあたっては立木宏明氏の先行分類〔立木・相澤(高野)ほか2014〕をもとに、従来、磨石とされているものをA類とし、円盤形砥石に類するものをB類とした。他に不定形礫を使用したものをC類とした。

磨石+敲石 表面が平滑に摩耗した石製品のうち、敲打痕が観察されるものを一括した。敲打痕は両端部や側面の他に表面・裏面などの平坦面にも確認されることから、幅広い使用法が想起される。磨石と敲石双方の分類を用いた。

敲石 敲打痕が観察される資料である。このうち円礫もしくは亜円礫を素材とし、断面形状が楕円形を成すものをA類、棒状礫を素材とし断面形状が円形もしくは楕円形のものをB類、不定形礫を素材としたものをC類とした。

軽石製石製品 軽石を素材とするものを一括した。平滑面や平坦面を有するものは、磨石としての用途が考えられるが、明確な使用痕が確認できないものも多い。当遺跡の基本層序Ⅶ層で軽石が確認されることから、近隣で採取し調査区内に持ち込まれたものと考えられる。分類に当たっては立木宏明氏の形態分類〔立木2014c〕を踏襲し、15.1cm以上を超大型品、10.1～15.0cmを大形品、5.1～10cmを中形品、5cm以内を小形品とした。

2) 1区出土石製品

石製品の出土総点数は110点である。そのうち砥石13点(実測数13点)、砥石+敲石1点(実測数1点)、磨石24点(実測数24点)、磨石+敲石18点(実測数18点)、敲石36点(実測数36点)、敲石+台石(1点)、台石7点(実測数7点)、軽石製石製品4点(実測数4点)、不定形石製品1点(実測数1点)、剥片4点(実測数4点)が出土した。包含層からの石製品出土は2点のみであり、残りは遺構内からの出土である。また、焼礫1点、礫58点で礫類合計59点が出土している。第188図に平面分布状況を示した。SK680から磨石(17・20・27)と磨石+敲石(40)と敲石(65・73・83・84・89)と石臼(105)、SK682から磨石+敲石(38)と敲石(74・87)、SK705から砥石(2)と敲石(64・81)、SK706から敲石(85)と台石(98)が出土している。またNR500から砥石(4・7・8・10・11・13)と剥片(107・108・109)が出土した。

砥石(1～13)

1～13は砥石である。このうち1～5はB類、6～13はC類に分類される。1～5は凝灰岩製で、1は表

面・裏面・右側面・左側面・上面の5面に砥面が観察できる。2は表面・裏面・右側面・上面の4面に砥面が観察できる。3は表面・裏面・左側面の3面に砥面が観察できる。4は表面の1面に砥面が観察できる。5は表面・裏面・右側面・左側面の4面に砥面が観察できる。6～13は不定形剥片を素材とした砥石である。6～11・13は凝灰岩製、12は頁岩製である。6は表面を中心とし裏面・右側面の3面に砥面が観察できる。7・10・12・13は表面の1面に砥面が観察できる。8・11は表面・左側面の2面に砥面が観察できる。9は表面・裏面・右側面・左側面の4面に砥面が観察できる。

砥石 + 敲石 (14)

14は砥石 + 敲石である。凝灰岩製の不定形礫の表面から右側面上端部にかけて砥面が、下端部に敲打痕がわずかに観察できる。

磨石 (15～38)

15～38は磨石である。このうち15～28はA類、29～31はB類、32～36はC類に分類される。15～20はA類の中でも断面形状が扁平な一群である。15は礫岩製、16は凝灰岩製、17・19は硬質砂岩製、18は砂岩製、20は流紋岩製であり、15・19は表面と裏面の2面、16～18は全周の4面に使用に起因すると考えられる擦痕や平滑面が観察できる。21～27はA類の中でも断面形状が楕円形を呈する一群である。21・22は花崗岩製、23は安山岩製、24～26は砂岩製、27は凝灰岩製である。24・25は表面と裏面の2面、21・22・26・27は全周の4面に使用に起因する擦痕と平滑面を観察できる。28～31のうち28は硬質砂岩製、29は砂岩製、30は安山岩製、31は凝灰岩製である。28～31は全周の4面に擦痕・平滑面が観察できる。32～35は不定形礫を素材とし、32は凝灰岩製、33・34は硬質砂岩製、35は硬質砂岩製である。33～35は表面と裏面の2面、32は全周に使用に起因すると推測される擦痕・平滑面が観察できる。

磨石 + 敲石 (39～56)

39～56は磨石 + 敲石である。40～42は磨石C類 + 敲石A類に分類される。40は凝灰岩製、41は流紋岩製、42は硬質砂岩製の棒状礫を素材とする。40・41・42は2面に擦痕が観察できる。40・41・42は長軸下端部に敲打痕が観察できる。43～52は磨石A類 + 敲石B類に分類される。43・47は硬質砂岩製、44・48は凝灰岩製、45・46は安山岩製、49は花崗岩製、50は頁岩製の円礫・亜円礫を素材とする。43・46～49は表面と裏面の2面、45・51・52は1面に擦痕が観察できる。48～52は下端部、43・45～47は長軸両端部、44は表面下端部・左縁边上端部と右縁辺に使用に起因すると考えられる敲打痕・剥離が観察できる。53～56は磨石C類 + 敲石C類に分類される。53は珪質頁岩製、54は緑色珪質頁岩製、55は凝灰岩製、56は頁岩製の不定形礫を素材とする。51・54・55・56は1面に擦痕が観察できる。53～55は下端部、56は下端部と表面左側面上端部に使用に起因すると考えられる敲打痕や剥離が観察できる。

敲石 (57～92)

57～92は敲石である。このうち57～65はB類、66～92はC類に分類される。57～59は砂岩製の棒状礫を素材として使用する。57と60は長軸下端部、58は長軸の両端部に敲打痕が観察できる。60～65はやや小ぶりの棒状礫を素材とする。このうち60は安山岩製、61は凝灰岩製、62・65は砂岩製、63は流紋岩製、64は硬質砂岩製である。61・62・65は長軸下端部、63は長軸両端部と左側面・64は両端部に使用に起因すると推測される敲打痕や剥離が観察できる。66～69はC類の中でもやや大ぶりの円礫・亜円礫を素材とする。このうち66は安山岩製、67は砂岩製、68は礫岩製、69は凝灰岩製と多様な石材を用いており、石材よりも素材の形態を重視して選択していたことが窺える。67は長軸下端部、66・68・69は長軸両端部に敲打痕が観察できる。70～74はC類の中でも小ぶりの円礫・亜円礫を素材とする。このうち70は花崗岩製、71はチャート製、72・73は砂岩製、74は凝灰岩製であり、先述した大ぶりなものと同様に多様な石材を用いている。71・73は長軸下端部、70・72は長軸両端部、74は下端部と左側面に使用に起因すると推測される敲打痕や剥離が観察できる。75～92は不定形礫を素材とする。このうち75は安山岩製、76・89は凝灰岩製、77・81・

85・91は花崗岩製、78・84・86・88は流紋岩製、79・80・82・83・92は砂岩製、87は硬質砂岩製であり、多様な石材が使用されている。76・78～80・82・83・89～92は下端部、75・77・81・85・86・87・88は長軸両端部に使用に起因すると推測される敲打痕・剥離が観察できる。

敲打石 + 台石 (93)

93は砂岩製の直角礫を素材とした敲打石 + 台石である。敲打石の分類ではC類に該当する。表面の平坦部に擦痕が観察されることから磨石とセットで使用した台石の機能部と考えられる。また下端部に敲打痕が観察できるが台石と敲打石の使用の前後関係は観察できなかった。

台石 (94～100)

94～100は台石である。94は硬質砂岩を用いているが、欠損著しく母岩の形状は不明である。表面の平坦部に擦痕が観察できる。95は流紋岩製の円礫を分割したものを素材とし、表面と裏面の2面に擦痕が観察できる。96は流紋岩を用いているが、母岩の形状は不明である。裏面は分割され主要剥離面が大きく残る。右側面は複数回の剥離が観察できる。97は緑色凝灰岩製の不定形礫を素材とし、表面に擦痕が観察できる。右側面と裏面に剥離が観察できるが、敲打具として使用された可能性もある。98は凝灰岩製の円礫を素材とするが、母岩は大きく分割され裏面に主要剥離面が残る。表面に擦痕が観察でき、右側面は被熱している。99は砂岩を用いているが、母岩形状は不明である。敲打石とのセットによる使用が進行した結果、礫核のみが残存したものと推測される。100は花崗岩を用いているが、母岩の形状は不明である。表面右側面に擦痕が観察できる。

軽石製石製品 (101～104)

101～104は軽石製石製品であり、立木宏明氏の分類〔立木2014c〕によれば101は中形品、102～104は小形品に分類される。101は右側面と裏面の2面、102は表面の1面、103は表面と左側面の2面、104は表面と裏面の3面に使用に起因すると推測される平坦面や平滑面が観察できる。

石臼 (105)

105は凝灰岩製の石臼である。裏面に6条の溝が観察できる。全体的に風化しており細かい成形痕は観察できない。

不定形石器 (106)

106は不定形石器である。頁岩を節理に沿って板状に分割したものである。

剥片 (107～110)

107～110は剥片である。109は107と108の接合資料である。凝灰岩製であり、表面は上端部と下端部からの打撃による剥片剥離、右側面は上端部からの剥片剥離が観察される。裏面は上端部からの打撃による主要剥離面が大きく残り、剥片剥離の後に表面から裏面右側面の剥離が行われる。これら一連の成形工程の後に、裏面中央部からの打撃により2分割される。砥石に用いられる石材であることから、おそらくは砥石未製品の可能性が高い。砥面に必要な平坦面を作出することができなかつたため、製作途中で廃棄されたものと考えられる。110は頁岩（黒色）製である。右縁辺に交互剥離による剥離が観察され、裏面右上端部には表面からの打撃による剥離が観察できる。

3) 2区出土石製品

石製品の出土総点数は307点である。そのうち砥石45点(実測数37点)、砥石 + 敲打石3点(実測数3点)、硯1点(1点)、磨石61点(実測数61点)、磨石 + 敲打石44点(実測数44点)、敲打石50点(実測数50点)、敲打石 + 台石1点(1点)、台石29点(実測数29点)、軽石製石製品53点(実測数53点)、パステル形石製品1点(実測数1点)、不定形石製品10点(実測数10点)、剥片6点(実測数6点)、石核1点(実測数1点)、原石1点(実測数1点)が出土した。包含層から14点、遺構内から293点が出土している。また、焼礫7点、礫165点で礫類合計172点が出土している。第189図に平面分布状況を示した。SE23から磨石 + 敲打石(218)と敲打石(259)、SE351から磨石(161・166)と磨石 + 敲打石(219・224)と敲打石(285・304)と台石(311)と軽石製石製品(339)、SE444から砥石(132)

と台石 (319・323) と剥片 (407)、SE446 から磨石 + 敲石 (215・240) と台石 (318)、SE449 から砥石 (144) と磨石 (177・188) と磨石 + 敲石 (220・227・228・236・250・252・254) と敲石 (274～276・286～288・293・294・296～298・300) と軽石製石製品 (368)、SE519 から磨石 (170) と敲石 (257・261) と台石 (314・326)、SE709 から磨石 (155・156) と不定形剥片 (396) と剥片 (402)、SE734 から磨石 (160・189・195) と軽石製石製品 (340・354)、SK550 から砥石 (135・142) と磨石 (198) と磨石 + 敲石 (241) と敲石 (278) と剥片 (404) と原石 (409)、SK556 から砥石 (115) と砥石 + 敲石 (148) と磨石 (171・184・187・190・206) と磨石 + 敲石 (213・242) と敲石 (277・301) と台石 (334) と軽石製石製品 (343・348・358・367・370・371・378・384・386・387)、SK1201 から磨石 (174) と磨石 + 敲石 (231) と敲石 (305) と軽石製石製品 (362) が出土している。また SX1131 から硯 (151) と砥石 (111・114・119・120・123・137・145) と砥石 + 台石 (150) と磨石 (165・180・182・193・197) と磨石 + 敲石 (221・222・225・249・252・253) と敲石 (269・281) と台石 (313) と軽石製石製品 (338・346・347・357・359・363・373・376・379・383・385) とパステル形石製品 (391) と不定形石器 (392・394・395・397・399・401) と石核 (408) が出土している。

砥石 (111～147)

111～147は砥石である。このうち111がA類、120～132がB類、135～147がC類に分類できる。111は粘板岩製であり表面と裏面の2面を砥面として使用している。112～116は凝灰岩製である。112・114・115は1面、113・116は3面を砥面として使用している。117は凝灰岩製であり、表面の1面を砥面として使用している。118・119は凝灰岩を摂理に沿って分割した板状剥片を素材とし、118は表面・裏面・右側面・左側面・上端部の5面、119は表面・裏面の2面を砥面として使用している。120・121は凝灰岩製のやや小ぶりの製品であり、全面を砥面として使用している。122は珪質頁岩の板状剥片を素材とし、表面・上端部を砥面として使用している。123・124・125は凝灰岩製で表面の使用が発達し側面形状が弧状を呈している。123・124は表面・裏面・右側面・左側面の4面、125は表面・裏面・右側面・左側面・下端部の5面を砥面として使用している。126は凝灰岩製で表面・裏面・右側面・左側面の4面を砥面として使用している。127は凝灰岩を板状に成形したものを素材とし、表面・裏面・左側面の3面を砥面として使用している。128は凝灰岩製で、表面の1面を砥面として使用している。欠損著しく製品の原型を保っていない。129は凝灰岩製で、表面・裏面・左側面の3面を砥面として使用している。130は凝灰岩製で、表面・裏面・右側面・上端部・下端部の5面を砥面として使用している。131は凝灰岩製で、表面・右側面の2面を砥面として使用している。欠損著しく原形を保っていない。132は凝灰岩製で、表面・裏面・右側面・左側面・上端部の5面を砥面として使用している。133・134は凝灰岩製で、133は表面と裏面の2面、134は表面の1面を砥面として使用している。欠損著しく原形を保っていない。135は凝灰岩製の円礫を分割したものの素材とし、表面の1面を砥面として使用している。136は凝灰岩製の円礫の上端部と下端部を節理に沿って分割したものを素材とし、表面・裏面・右側面・左側面・下端部の5面を砥面として使用している。137は凝灰岩製の不定形礫を素材とし、表面・裏面・右側面の3面を砥面として使用している。138は凝灰岩製の垂角礫を素材とし、表面・裏面・右側面・左側面・下端部の5面を砥面として使用している。右側面は裏面から、下端部は表面側からの打撃により節理に沿って分割され主要剥離面が大きく残る。この分割により平坦面を作り出し機能面としている。139は珪化木製の細長い垂角礫を素材とし、表面・裏面・右側面・左側面の4面を砥面として使用している。右側面を分割することで平坦面を作り出し機能面としている。140・141・142・143は凝灰岩の不定形剥片を素材とし、140は表面の1面、141は表面と右側面の2面、142は表面・裏面・右側面・上端部の4面、143は表面・裏面・右側面の3面を砥面として使用している。144は流紋岩製の垂円礫を節理に沿って板状に分割したものを素材とし、表面・右側面・左側面の3面を砥面として使用している。145は凝灰岩製の円礫を素材とし、表面の1面を砥面として使用している。裏面は表面左側面側からの打撃により分割され主要剥離面が大きく残る。その後、裏面を打面とし表面左側面に連続した剥離を行っている。146・147は凝灰岩製の不定形礫を素材とし、

146は表面・裏面・右側面・左側面・上端部の5面、147は表面・裏面の2面を砥面として使用している。

砥石 + 敲石 (148・149)

148・149は砥石 + 敲石である。それぞれ砥石C類 + 敲石C類に分類できる。148は頁岩製の不定形礫を素材とし、全面を砥面として使用している。長軸下端部に敲打具として使用した際に生じた敲打痕が観察できる。149は凝灰岩の垂角礫を素材とし、表面・裏面の2面を砥面として使用している。長軸両端部に敲打具として使用した際に生じた敲打痕が観察できる。

砥石 + 台石 (150)

150は砥石 + 台石である。凝灰岩を板状に分割したものを素材としている。下端部に擦痕が観察されることから、この部位が砥石の機能面であると推測される。

硯 (151)

151は緑色凝灰岩製の硯である。裏面に「鈴木幸」と線刻されている。

磨石 (152～212)

152～212は磨石である。このうち152～179類がA類、180～188がB類、189～205がC類に分類できる。152・154～158・160・164～166・168・169・171・173・174・176・179・180は凝灰岩製の円礫を素材とする。152・156・160・168・169・171・176は全面に、154・155・158・173・180は表面と裏面の2面、157・164・174は表面の1面、165は表面・裏面・下端部の3面、166は表面・裏面・右側面の3面、179は裏面の1面に擦痕が観察できる。154は被熱の後に器形のほとんどが欠損している。153・162・175は安山岩製の円礫を素材とする。153は全面に擦痕が観察できる。162・175は表面と裏面の2面に擦痕が観察できる。162は器形の約4分の3、175は大部分が欠損している。159・170は頁岩製の円礫を素材とし、表面の1面に擦痕が観察できる。器形の大部分が欠損している。161は頁岩(黒色)製の円礫を素材とし、表面の1面に擦痕が観察できる。上端部と裏面は欠損している。163は砂岩製の円礫を素材とし、表面の1面に擦痕が観察できる。左右側面と上下端部並びに裏面は欠損している。167は流紋岩製の円礫を素材とし、表面と裏面の2面に擦痕が観察できる。172・178は花崗岩製の円礫を素材とする。172は表面の1面に擦痕が観察できる。上下端部と裏面・左側面は欠損している。178全面に擦痕が観察できる。177は硬質砂岩製の円礫を素材とし、表面の1面に擦痕が観察できる。左側面と裏面は欠損している。181・183～185・187は凝灰岩製の円礫を素材とする。184は表面と裏面の2面、181・183・185・186は全面に擦痕が観察できる。187は欠損品であり、表面に擦痕が観察できる。182は緑色凝灰岩製の円礫を素材とし、全面に擦痕が観察できる。186は瑪瑙製の円礫を素材とし、全面に擦痕が観察できる。189・197・198はチャート製の不定形礫を素材とし、189は表面の1面、197は裏面の1面、198は表面と右側面の2面に擦痕が観察できる。188・192・196は砂岩製の不定形礫を素材とする。188は表面中央に稜が存在しその左右2面と裏面1面の計3面、192は全面、196は裏面の1面に擦痕が観察できる。190・193・201は頁岩製の不定形礫を素材とし、190は表面と裏面の2面、193は表面・裏面・右側面・左側面の4面、201は裏面の1面に擦痕が観察できる。191・194・195・199・200・202～204は凝灰岩製の不定形礫を素材とし、191・199・200は表面・裏面・右側面・左側面の4面、194は表面・裏面・右側面の3面、195は全面に擦痕が観察できる。205は角閃石安山岩製を素材とする。風化のため擦痕は明瞭に観察できないが、表面と裏面にわずかだが平滑面が残存している。206～209は欠損著しく各類型に分類困難なものである。206・207・209は凝灰岩製で、206は表面と右側面の2面、207・209は表面の1面に擦痕が観察できる。208は流紋岩製で表面に擦痕が観察できる。210は硬質砂岩製で表面と裏面の2面に擦痕が観察できる。211は花崗岩製で、表面と右側面の2面に擦痕が観察できる。212は石英製で表面の1面に擦痕が観察できる。

磨石 + 敲石 (213～256)

213～256は磨石 + 敲石である。213～219は磨石C類 + 敲石A類に分類できる。213・218は砂岩製の

棒状礫を素材とし、213は表面中央部の1面、218は裏面の1面に擦痕・平滑面が観察できる。また213は長軸両端部、218は下端部に敲打痕が観察できる。213は裏面右縁中央部に被熱痕が観察できる。214・215・219は凝灰岩製の棒状礫を素材とし、表面と裏面の2面に磨石として使用した擦痕・平滑面が観察できる。また長軸両端部に敲打痕が観察できる。216・217は花崗岩製の棒状礫を素材とし、216は表面と裏面の2面、217は裏面に擦痕と平滑面が観察できる。また長軸両端部に敲打痕が観察できる。220～227は磨石A類+敲石B類に分類できる。220・225・226は凝灰岩製の円礫を素材とする。220は表面の1面、225・226は表面と裏面の2面に磨石として使用した擦痕・平滑面が観察できる。220・225は長軸下端部、226は長軸上端部に敲石として使用した際に形成された敲打痕と剥離が観察できる。221は安山岩の円礫を素材とし、表面と裏面の2面に擦痕と平滑面が観察できる。長軸下端部に敲打痕と剥離が観察できる。222・223は流紋岩製の円礫を素材とし、222は表面の1面、223は表面と裏面の2面に擦痕と平滑面が観察できる。222は敲石として右側面上端の稜線部を使用し、その際に大きく分割したものと推測される。220は下端部を敲打具として使用しており、その際に生じた剥離が右側面下端部にまで発達している。223の裏面は被熱により黒色化している。224は頁岩（黒色）製の円礫を素材とし、表面に擦痕と平滑面が観察できる。裏面右下端部を敲打具として使用した際に大きく分割され、その後機能面を右側面下端部に転移した結果、右側面に大きな剥離が形成された後に、表面右側面を敲打具として使用したものと推測される。227は硬質砂岩製の円礫を素材とし、全面に擦痕・平滑面が観察できる。長軸下端部は敲打具として使用した際に分割したものと推測される。228～256は磨石C類+敲石C類に分類できる。228・238・242・244・248・249は凝灰岩製の不定形礫を素材とする。244・249は表面の1面、228は裏面の1面、238・242・248は表面と裏面の2面に擦痕が観察できる。228・238は長軸下端部、242は上端部、244は長軸の両端部、248は裏面、249は裏面と裏面右下縁に敲打具として使用した際に生じた剥離・敲打痕が観察できる。229・237は花崗岩製の不定形礫を素材とする。237は表面と裏面の2面、229は表面・裏面・左右側面・上端部の5面に擦痕が観察できる。229は下端部、237は長軸両端部に敲打具として使用した際に生じた敲打痕が観察できる。232は礫岩製の不定形礫を素材とし、裏面の1面に擦痕、長軸両端部に敲打具として使用した際に生じた敲打痕が観察できる。230・235・236は砂岩製の不定形礫を素材とする。235・236は裏面の1面、230は表面と裏面の2面に擦痕が観察できる。230・235・236は長軸下端部に敲打具として使用した際に生じた敲打痕・剥離が観察できる。231・233・234・239・241・246・250・254は安山岩製、232は礫岩製の不定形礫を素材とする。234は表面の1面、231・233・254は裏面の1面、239は裏面と右側面の2面、241は表面と裏面の2面、250は表面・裏面・下端部の3面に擦痕が観察できる。239・241・246・250・254は長軸下端部、231～234は長軸両端部に敲打具として使用した際に生じた敲打痕が観察できる。240・245・252は硬質砂岩の不定形礫を素材とする。240は表面と裏面の2面、245は表面と裏面の2面、252は裏面と右側面の2面に擦痕が観察できる。240は長軸両端部、245・252は下端部に敲打具として使用した際に生じた敲打痕が観察できる。247は緑色凝灰岩製の不定形礫を素材とし、表面と裏面の2面に擦痕、裏面下端部に敲打具として使用した際に生じた剥離が観察できる。251はデイサイト製の不定形礫を素材とし、裏面の1面に擦痕、下端部に敲打具として使用した際に生じた剥離が観察できる。253は頁岩製の不定形礫を素材とし、上端部の1面に擦痕、下端部に敲打具として使用した際に生じた剥離が観察できる。255は頁岩（黒色）製の不定形礫を素材とし、表面・裏面・右側面の3面に擦痕、下端部に敲打具として使用した際に生じた敲打痕が観察できる。256はチャート製の不定形礫を素材とし、右側面の1面に擦痕、下端部に敲打具として使用した際に生じた剥離が観察できる。被熱のため変色している。

敲石（257～306）

257～306は敲石である。257・258は敲石A類に分類できる。257は頁岩製の棒状礫を素材とし、長軸下端部を敲打具として使用している。258は花崗岩の棒状礫を素材とし、長軸両端部を敲打具として使用している。259～270は敲石B類で、259・260・262～264・268・269は砂岩の棒状礫を素材とし、259・263

は長軸両端部、260・262・264・268・269 は下端部に敲打具として使用した際に形成された敲打痕と剥離が観察できる。261・266 は硬質砂岩の棒状礫を素材とし、下端部に敲打痕が観察できる。270 は流紋岩の棒状礫を素材とし、下端部に敲打痕が観察できる。271～306 は敲石 C 類に分類できる。271・273・282・284・293・296・299 は礫岩製の不定形礫を素材とし、271・282・284・293・296・299 は下端部、273 は両端部に敲打具として使用した際に形成された敲打痕と剥離が観察できる。292 は珪質頁岩製、297・300・301・306 は花崗岩製の不定形礫を素材とし、306 は下端部に使用の際に生じた剥離、292・297・300・301 は両端部に敲打痕が観察できる。274・276・302 は安山岩製の不定形礫を素材とし、下端部に使用の際に生じた剥離や敲打痕が観察できる。275 は硬質砂岩製の不定形礫を素材とし、上端部に敲打痕が観察できる。277・280・285・287・289・305 は凝灰岩製の不定形礫を素材とし、277・280・287・305 は下端部、285 は表面右側面の稜線上と下端部、289 は両端部に敲打具として使用した際に生じた敲打痕と剥離が観察できる。278・283・298 は砂岩製の不定形礫を素材とし、下端部に敲打痕が観察できる。279 は頁岩（黒色）製の不定形礫を素材とし、下端部に敲打具として使用した際に形成された剥離が観察できる。281 はホルンフェルス製の不定形礫を素材とし、下端部に敲打痕が観察できる。286 は流紋岩製の不定形礫を素材とし下端部に敲打痕が観察できる。288 はチャート製の不定形礫を素材とし、両端部と表面左側面端部に敲打痕が観察できる。290・291・294 は頁岩製の不定形礫を素材とし、290 は両端部、291 は右側面、294 は下端部と右側面端部に敲打具として使用した際に形成された剥離が観察できる。292 は珪質頁岩製の不定形礫を素材とし、下端部と左側面端部に敲打具として使用した際に形成された剥離が観察できる。295 は緑色凝灰岩製の不定形礫を素材とし、下端部に敲打具として使用した際に形成された剥離が観察できる。303・304 は石英製の不定形礫を素材とし、303 は下端部に使用の際に生じた剥離が観察できる。304 は表面・裏面・右側面・左側面・下端部に使用の際に生じた剥離が観察できる。これらの剥離は各面の稜線上を打点としていることから火打石の残核の可能性がある。

敲石 + 台石 (307)

307 は敲石 + 台石である。砂岩製であるが、使用による欠損により母岩形状は不明である。表面の1面に擦痕・平滑面が観察できる。裏面を大きく分割した後に、この面を打面として右側面と左側面を分割している。その後、下端部を敲打具として使用し、その際に生じた剥離が観察できる。

台石 (308～336)

308～336 は台石である。主要剥離面を残すものが多く、接合作業を試みたが接合資料には恵まれなかった。また剥片の出土が極端に少ないため、母岩採取地点にて大きく分割した後に、搬入された可能性が高い。308 は砂岩製の亜円礫を素材とする。表面は節理に沿って分割し平坦面を作り出し機能面としている。他に裏面・右側面に擦痕が観察できる。左側面は表面からの打撃により分割され主要剥離面が大きく残る。309 は硬質砂岩製の亜円礫を素材とする。明確な擦痕は観察できないが、表面を節理により分割し平坦面を形成していることから、ここを主要な機能面とした台石と推測した。右側面・裏面も剥離が観察できるが、自然面を除去し平坦面を形成する意図のもとに作業が行われた可能性が高い。310 は花崗岩製の亜角礫を素材とする。明瞭な擦痕は観察できないが、表面の平坦面を主要な機能面とする台石であると推測した。右側面・裏面ともに分割され主要剥離面が大きく残るとともに、平坦面を形成している。あるいは、この2面も台石としての機能を持つかもしれない。311 は花崗岩製の亜角礫を素材とする。表面に擦痕が観察できる。右側面と裏面には連続した剥離が観察できることから、敲石との兼用石器である可能性がある。312 は凝灰岩製を用いているが、母岩形状は不明である。表面下端部の平坦面に擦痕が観察できる。敲石による使用が進行した結果なのか、ほぼ礫核のみが残存している。313 は緑色凝灰岩製の亜円礫を素材とする。表面に擦痕が観察できる。314・315 は凝灰岩製を用いているが、母岩形状は不明である。314 は表面に擦痕が観察できる。被熱により変色している。315 は表面に擦痕が観察できる。自然面を残した母岩の状態で剥片剥離が行われた後に、台石として使用している。

316 は安山岩製の亜角礫を素材とする。表面と裏面に擦痕が観察できる。317 は凝灰岩製の亜角礫を素材とする。表面と左側面に擦痕と被熱による変色が観察できる。裏面は被熱の痕跡が観察できないため、被熱の後に分割されたものと推測される。318 は硬質砂岩製の扁平な角礫を素材とする。表面と裏面に擦痕が観察できる。左側面は表面からの打撃により分割され、主要剥離面が大きく残る。表面を中心に被熱による変色が観察できる。319 は珪質頁岩製の亜角礫を素材とする。表面に擦痕が観察できる。320 は安山岩製の亜円礫を素材とする。下端部は分割され、ここを打面とし左側面を分割し平坦面を形成している。この平坦面に使用された痕跡は観察できなかったが、台石未使用品とも推測される。321 は凝灰岩製の亜円礫を素材とする。大きく分割された礫片の自然面（表面）に擦痕のち敲打痕が観察できる。322 は花崗岩製の亜円礫を素材とする。表面と裏面に擦痕が観察できる。左右側面と下端部は分割されている。323 は流紋岩製の亜円礫を素材とする。表面に擦痕が観察できる。324・325・326・327 は凝灰岩製の亜円礫を素材とする。324 は表面、325 は表面と裏面に擦痕が観察できる。被熱により変色している。326 は表面に擦痕が観察できる。右側面は裏面からの打撃により分割される。327 は表面・右側面・左側面・裏面に擦痕が観察できる。左側面下端部は表面左下部からの打撃により分割される。328 は珪質凝灰岩製の亜角礫を素材とする。左側面は分割され、主要剥離面が残る。この部分を除く全周が平滑である。全面が被熱により赤化している。329 は花崗岩製の亜角礫を素材とする。表面と裏面に擦痕が観察できる。左側面は裏面右下端部からの打撃により分割されており、主要剥離面が大きく残る。表面右縁辺付近と裏面が被熱している。330・332・333・336 は花崗岩製、331 は安山岩製、335 は凝灰岩製を用いているが、母岩形状は不明である。使用により分割されたものと推測される。334 は頁岩製の亜角礫を素材とする。表面と裏面に擦痕が観察できる。

軽石製石製品（337～389）

337～389 は軽石製石製品である。欠損品が多く完形資料に乏しい。完形資料のうち、立木宏明氏の分類〔立木2014c〕によれば339は大形品、340・345・346・349は中形品、350・352・360～363・365・382・383・387・388は小形品に分類される。欠損品の大部分も小形品の枠内に収まるものが多いものと考えられる。337は表面と左右の側面に平滑面が観察できる。特に表面と右側面は使用頻度が高く平滑面が発達しており、原礫の形状を留めていない。338は円礫を素材とし、表面・左右側面の3面をノミ状の工具で平坦に加工した後に使用している。工具による加工が明瞭に観察できる唯一の軽石製石製品である。339は表面と裏面の2面に平滑面が観察できる。340は表面と裏面・右側面の上部に平滑面が観察できる。平滑面は発達しており、原礫の形状を留めていない。341は全面に平滑面が観察できる。全ての平滑面が発達しており、原礫の形状を留めていない。342は表面・裏面・右側面・下端部の4面に平滑面が観察できる。特に下端部の平滑面が発達している。343は全周に平滑面が観察できる。平滑面が発達したため、角礫に似た形状となっている。344は表面・裏面・右側面の3面に平滑面と擦痕が観察できる。左側面は裏面からの打撃により剥離され、主要剥離面が大きく残る。345は全面に平滑面と擦痕が観察できる。346は表面・裏面・右側面の3面に平滑面と擦痕が観察できる。特に表面は複数方向からの使用により生じた平滑面により多角形状を呈している。347は表面・裏面・右側面の3面に平滑面と擦痕が観察できる。右側面は剥離により平坦面を作り出し機能面として使用している。348は表面・裏面・右側面・下端部の4面に平滑面と擦痕が観察できる。349は表面と裏面の2面に擦痕が観察できる。350は裏面の1面に擦痕が観察できる。351は表面の1面に擦痕が観察できる。352は全面に平滑面と擦痕が観察できる。353は表面・裏面・右側面の3面に平滑面と擦痕が観察できる。354は表面・裏面・下端部の3面に平滑面と擦痕が観察できる。特に下端部の使用痕は発達しており原礫の形状は失われている。355は裏面・右側面の2面に平滑面と擦痕が観察できる。右側面は剥離により平坦面を作り出し機能面として使用している。356は表面・裏面・右側面の3面に平滑面と擦痕が観察できる。欠損しており本来の形状は不明であるが、使用の発達により角礫状の形態を呈していたと推測される。357は裏面と右側面の2面に平滑面と擦痕が観察できる。358は表面・裏面・右側面・左側面の4面に平滑面と擦痕が観察できる。359は

表面・裏面・右側面の3面に擦痕が観察できる。360～363は扁平な円礫状の軽石を素材とし、360は表面・裏面。右側面の3面、361は表面と裏面の2面、362は裏面の1面、363は全面に擦痕と平滑面が観察できる。364は表面・右側面・裏面の3面に平滑面と擦痕が観察できる。使用の発達により板状の形態を呈している。365は表面と裏面の2面に擦痕が観察できる。366は表面の1面に擦痕が観察できる。367は裏面・右側面の2面に平滑面と擦痕が観察できる。368は表面と裏面の2面に平滑面と擦痕が観察できる。裏面中央部には研磨による使用による凹が生じている。369は表面に擦痕が観察できる。裏面下端部に剥離が観察され、主要剥離面が大きく残る。370は表面と裏面の2面に平滑面と擦痕が観察できる。使用の発達により板状の形態を呈している。371は表面・裏面・右側面の3面に平滑面と擦痕が観察できる。372は表面・裏面・右側面・下端部の4面に平滑面と擦痕が観察できる。特に下端部の使用痕は発達しており原礫の形状は失われている。373は表面の1面に擦痕が観察できる。裏面は分割されており、表面からの打撃により右側面に連続した剥離が観察できる。374は全面に平滑面と擦痕が観察できる。使用が発達した結果、角柱状の形態を呈している。375は表面の1面に擦痕が観察できる。右側面は裏面からの打撃より大きく分割されており、ここを打面とした打撃により裏面を分割している。裏面には主要剥離面が大きく残る。376は裏面に擦痕が観察できる。377は欠損により本来の形状は不明であるが、使用により残核に似た状態になっている。378は表面・左側面・上端部の3面に平滑面と擦痕が観察できる。表面からの打撃により裏面は剥離され、主要剥離面が残る。379は表面の1面に擦痕が観察できる。380は表面・右側面の2面に平滑面と擦痕が観察できる。欠損しているが、使用が発達した結果、角礫状の形態を呈していたものと推測される。381は表面・右側面・上端部の3面に平滑面と擦痕が観察できる。欠損しているが、使用が発達した結果、角礫状の形態を呈していたものと推測される。382は裏面の1面に平滑面が観察できる。383は表面と裏面の2面に平滑面が観察できる。384は欠損により本来の形状は不明だが、表面に平割面が観察できる。385は表面と裏面の2面に平滑面が観察できる。386は欠損により本来の形状は不明であるが、使用により残核に似た状態になっている。387は表面と裏面の2面に平滑面が観察できる。388は表面に平滑面が観察できる。389は明瞭な使用痕は観察できなかった。

パステル形石製品 (390・391)

390と391はパステル形石製品である。滑石製の2点が出土した。

不定形石器 (392～401)

392～401は不定形石器である。縄文時代の石器で例えると2次調整剥片的な用途不明の石製品である。392は頁岩製の板状剥片を素材とし、右側面と下端部を中心に剥離を行い成形している。393は凝灰岩製の表面・裏面共に主要剥離面が大きく残る剥片を素材とし、裏面からの打撃で表面の周辺を成形している。SE845の井戸枠を構成する柱の置石として使用されていた可能性がある。394は流紋岩製の不定形剥片を素材とし、表面右側面を中心とした剥離が観察できる。395は緑色凝灰岩製である。左右の側面は交互剥離により成形されたことが観察できる。396は凝灰岩製の表面・裏面ともに主要剥離面が残る板状の剥片を素材とする。右側面に剥離が観察できる。397は砂岩製の板状剥片を素材とし、裏面に主要剥離面が大きく残る。裏面からの打撃により表面右側面に連続した剥離を施す。表面の剥離は母岩の時点で形成されたものである。398は流紋岩製の不定形礫を分割したものを素材とし、裏面に主要剥離面が残る。左側面と右側面に剥離が観察できる。399は石英製の垂角礫を素材とする。400は石英製であり表面を中心にして右側面と裏面に剥離が観察できる。剥離は各側辺の稜線上を中心に行われており火打石の残核の可能性はある。401は鉄石英(赤玉)製である。裏面に主要剥離面を残し表面左側面に剥離が観察できる。

剥片 (402～407)

402～407は剥片である。402は凝灰岩製の不定形礫を分割したものであり、砥石の未製品である可能性がある。403は凝灰岩製の垂円礫を節理に沿って分割したものである。同様な剥片は第43次調査〔立木・相澤(高野)ほか2014〕においても出土している。当遺跡においても、144のように類似した剥片を砥石として使用して

いる事例があることから、この剥片は砥石未使用品の可能性が高い。404は頁岩製の不定形礫を節理に沿って分割したものである。405は珪質流紋岩製の剥片である。表面・裏面ともに主要剥離面を残し、表面右側面に連続した剥離が観察できる。406は石英製の不定形礫を分割したもので主要剥離面が大きく残る。407は砂岩製である。

石核 (408)

408は流紋岩製の石核である。上立面に大きな剥片剥離を行った後に、この面を打面とし剥片剥離を行っている。上立面からの剥片剥離を行った後に、左側面に打面を転移し2回の剥片剥離を行っている。この石核から作出された剥片は不定形剥片である。同石材の剥片と接合を試みたが、接合資料は存在しなかった。

原石 (409)

409は鉄石英(黄玉)製の不定形礫を使用した原石である。表面右側面上端部と下端部そして下立面に節理により分割された痕跡が観察されるが、風化により人為的によるものと断定できないため原石として報告するにとどめる。

C 金属製品 (図版 236、写真図版 280・281)

金属製品の出土点数は、鍛冶関連遺物と銭貨も含め、1区が11点(金属製品3点、銭貨8点)、2区が22点(金属製品14点、鍛冶関連遺物6点、銭貨2点)の総点数33点で、総重量423.51gである。器種ごとの内訳は刀子1点、包丁2点、鎌2点、釘6点、大釘1点、鋳物製品破片1点、鉄鍋4点、銅塊1点、椀形鍛冶滓4点、銅製坩堝1点、銭貨10点で、鉄鍋以外はすべて遺構から出土している。掲載した金属製品の詳細な計測値は別表9・10に、出土点数、器種組成については別表22・23に示した。出土した金属製品の分布状況は、1区では調査区南西端に位置する近世墓群の画一(SK540・682・684・706)に集中する傾向がみられた。2区では1区のように1箇所集中する傾向はみられず、調査区東側の遺構と南西端の包含層15Q-2Gグリッドから、それぞれ出土している。原則としてX線写真を撮影し、器種判別、実測図作成、法量の計測に反映させた。金属製品は遺構単位でのまとまりに欠けるため、調査区順で器種ごとに記述する。

1) 金属製品

a 1区出土金属製品

1は包丁である。中子から刃部の中ほどまで残存する。先端を欠損するため包丁の種類は不明である。2・3は釘である。2は頭と先端を欠損する破片である。腐食が進行し、大半を錆に覆われる。3は頭部から上部にかけての破片で、腐食が進行する。2・3とも幅2～3mmと細く、特に3の頭部は小振りなつくりである。2点とも、目釘もしくは平頭釘の可能性はある。

b 2区出土金属製品

4は刀子である。刃部の破片で中子と先端を欠損し、腐食が進行する。5は包丁の破片である。刃部破片と思われる。6・7は鎌で、刃部破片である。8～12は釘である。8・9は強く変形しており、使用後に引き抜かれた可能性がある。9は頭部が残存しており、目釘と思われる。10は中ほどから先端にかけて欠損する。8・9と比較して太く、頭部はしっかりとしたつくりで、平頭釘と思われる。11はほぼ完存するが腐食が進行し、特に頭部付近には錆の塊が錆着する。12は大釘である。長さ20.2cm、最大幅1.2cmを測る大型の釘で、全体に腐食が進行する。エックス線写真観察から、身の中ほどに返しがあることが確認された。13は、小破片のため詳細は不明だが、鋳物製品の断片である。14～17は鉄鍋である。いずれも破片で接点は認められないが、エックス線写真観察から、15には弦を取り付ける孔が確認された。

2) 鍛冶関連遺物

18は銅塊である。SB2007を構成するPit245から出土した。銅を精製する過程で発生したものの断片と思われる、大部分は未だ不純物と思われるが部分的に緑錆を吹いた銅が確認できる。19～22は椀形鍛冶滓である。

23は銅製埴塼の破片である。

3) 銭 貨

1～6は寛永通宝鉄銭で、1区SK682から出土した。6枚は錆着した状態で出土し、銭周囲は厚い錆で覆われていた。1の上部には厚さ20mm前後の板状に鉄分が付着しており、六道銭自体が何らかの容器に入った状態で納められた可能性がある。7・8は縁部分の破片である。8は銭文の一部が確認できるが、判読はできなかった。近世墓の一つであるSK540から出土しているため、寛永通宝である可能性が高い。9は北宋銭で「至和元寶」(1054年)である。10は残存状態が悪く、中央の孔と「寶」の字の一部のみが確認できた。

D 木 製 品 (図版 237～259、写真図版 282～307・310)

1) 木製品の分類

木製品の出土点数3,116点のうち、214点を図化した。計測値を別表11、出土点数は別表24に示した。出土遺構毎の分布状況を見ると、1区では棺の出土している近世墓に集中する。2区では桶を用いた井戸側が出土したSE734と、多量の木製品が出土したSX1131に集中し、これ以外には井戸から数点が出土しているのみで、全体的にみると特定の遺構に一極集中して出土している傾向がみられた。器種については、調査時に加工の認められるものを取り上げ、50cm以上のものを大型、それ以下のものを中～小型品とした。この中で、かつて生活に使用した道具として判別できるものと、用途不明なものに分類した。道具として判別できるものは、食膳具、容器、服飾具、調度品、建築材とに分けて大分類とし、椀や桶などの器種を中分類、部位を細分類とした。用途不明なものについては、部材として可能な限り詳細に観察、記録した。

2) 1区出土木製品

SK681 (図版 237・239、写真図版 282・284)

板状の部材(1～8)と、用途不明品(31)を図化した。部材は10点とも棺桶と思われ、3は桶の底板である。全体的に腐植が進み、側板が当たっていた縁部分は大半が欠損する。5～10は棺桶側板の一部と思われる。残存状態が悪く、一部しか図化できなかった。1・2はその形状から棺桶の蓋と考えられるが、2点は木目が異なることから別個体である。2枚の板材が蓋として用いられた可能性があるが、詳細は不明である。1は平面円形もしくは楕円形の穿孔がされており、径は3cmを測る。31は平面長方形の小型部材である。表面には透明な塗料が塗布され、その上に墨で斜位の縞模様が施される。裏面には幅0.2～0.5cmの溝が7条切り込まれており、クサビ形の断面をもつ溝が並ぶように加工されている。短辺の側面には何らかの接着材と思われる痕跡が認められた。本来の形状、用途は不明だが、墓に供された副葬品の一部であった可能性がある。

SK683 (図版 237、写真図版 282)

板状の部材(11～15)を図化した。方形箱形の棺であったと思われ、6点が折り重なり潰れた状態で出土した。12～15は側板である。木取りは12が柾目、13・14が板目で、15の木取りは不明である。4枚ともほぼ同規格に加工されているが残存状態は悪い。最下部から出土した11は底板と思われ、木取りは板目である。

SK684 (図版 238、写真図版 282・283)

板状の部材が出土している。部材(16～18)を図化した。方形箱形の棺であったと思われるが、底板と側板の一部のみ残存していた。18は底板で木取りは板目である。16・17は側板で、17は上部1/2、18は大部分を欠損する。18は残存状態が悪いため不明であるが、17の木取りは板目である。

SK688 (図版 239、写真図版 284)

平面楕円形に加工された板状の部材(30)が出土している。木取りは板目である。表面は中央部が緩やかに高まり、裏面は平坦に加工される。裏面はほぼ全面が炭化する。用途は不明である。

SK694 (図版 238、写真図版 283)

板状の部材が出土している。部材(19・20)を図化した。棺部材と思われるが、19・20ともに残存状態が悪く、

棺の形状は不明である。19の木取りは柾目、20は板目である。

SK705 (図版 238、写真図版 283)

板状の部材(21)を図化した。棺を構成する板材であったと思われるが、大部分を欠損し細長い板材として出土した。土坑底面において、2条の籬痕の上に直交する形で検出されており、籠や行李のような容器の部材であったと思われる。

SK708 (図版 238・239、写真図版 283・284)

板状の部材が出土している。部材(22～29)を図化した。方形箱形の棺で、検出時は蓋が内部に落ち込んでいたものの側板はすべて組んだままの状態を維持していた。27は底板で、長方形の板材である。木取りは板目で、5箇所釘穴が確認された。腐食が進行しているため未確認だが、一辺に2箇所釘を打ち、側板を固定していたと思われる。29は蓋もしくは側板の一部と思われるが、腐植が著しく接合点は確認できなかった。22～24・26は側板である。22は東側、23は北側、24は西側、26は南側の側板にあたる。各側板の残存値は、26が一回りほど大きい。ほぼ同規格となる。木取りはいずれも板目で、地表に近い板上部の腐植が著しい点共通する。25は蓋と思われ、少量の覆土を挟み、27に重なった状態で検出された。木取りは板目と思われるが残存状態が悪く断定はできない。28は、22下部の内側に重なった状態で出土した。22を含め、どの棺部材とも接点がないことから、側板の補強か何らかの部材であった可能性がある。

3) 2区出土木製品

SE449 (図版 240・255・256・258・259、写真図版 285・303・305・306)

容器、建築材、部材が出土している。箱もしくは枠状の容器(41)、籬(163・166)、板材(195・207)を図化した。41は箱か方形の枠のような容器の側板と思われる細長い板材で、片端は欠損する。残存する側の端部には外面から2箇所釘が打たれ、内面には41とほぼ同じ厚さの板が固定されていた痕跡が認められる。内外面には黒色の付着物もしくは塗料が残る。製品としての性格は不明である。163は細く切った竹を加工したもので、おそらく桶が用いられたであろう井戸側の籬と考えられる。166は若干幅広く加工されているが、163と同様に籬として用いられた可能性が高い。195は小型の板材で、木取りは柾目である。表裏・側面に手斧などによるとと思われるハツリ痕が認められる。用途は不明である。207は大型の板材で、片端は欠損する。木取りは板目である。残存する片端の切断面は粗く、段差が生じる。その形状と163・166など共伴する遺物、出土遺構からSE449の井戸側に用いられた桶の側板であった可能性があり、井戸側を抜き取る際に破損した材が遺棄された可能性が考えられる。ただし、ほかに板材が出土していないため断定はできず、詳細は不明である。

SE728 (図版 257、写真図版 305)

部材(187)を図化した。中型の板材で、全体に腐食が進行する。用途は不明だが、その形状から桶の側板であった可能性がある。SE728の井戸側であったかは、共伴する部材がないため断定できない。

SE734 (図版 249～256・258、写真図版 293～303・306)

建築材、部材が出土している。建築材(101～154・156・158・161・164・168)、部材(203)を図化した。101～152はSE734の井戸側に用いられた桶側板である。井戸側は、3基の桶を逆さまに重ねて井戸内に埋設されていた。各桶の構成は、上段は(101～115)15点、中段は(116～133)18点、下段は(134～152)19点の側板からなる。中・下段の側板間には、各側面の上下部に竹製の目釘を打ち、連結していた。上段には目釘は認められなかった。

上段は全体的に幅広い側板を用いており、15点中9点を占める。中・下段に比べて側板の枚数が少ないのは、幅広い側板を用いているためと思われる。上段はいずれも上端が欠損しており、地表に近い部分の腐植が進行し、欠損したものと推察される。木取りはすべて板目である。側板外面には、全体に手斧あるいは銚などの工具によると思われるハツリ痕が認められる。各側板外面の下部には、籬の痕跡が認められる。井戸側検出時には残存していたが、腐植が進んでいたこともあり分解し、復元することはできなかった。裏面は、中段桶と重なる下端付

近のみハツリ痕が認められる。桶を重ねるにあたり、しっかりと重ねるために削った痕跡と思われる。

中段は残存状態が良好で、側板の幅も上段と比較して細いものを用いている。18点すべての側板側面において、上下部に釘穴が確認されたが、一部の釘は折れ、失われているものもあった。釘は竹製である。木取りは116～118・122・124・126・128・129・131・132が柾目、119～121・123・125・127・130・133が板目である。加工痕は上段と同様、基本的に縦方向のハツリ痕が明瞭に認められる。また、外面上下部に籬が残存していた。2～3本の竹材を振じり、締めているだけであったため、桶全体を検出した際に緩み復元することはできなかった。側板外面には籬の締まっていた箇所には籬痕が認められる。内面下部には、下段との連結を容易に行うためか、外面と同様のハツリ痕が認められる。この点も、上段と同様であった。

下段も残存状態は良好で、比較的細い側板を中心に構成される。19点すべての側板側面に、中段と同様の釘が確認された。釘は竹製である。木取りはすべて板目である。下段も検出時には籬が残存していたが、全体を検出する際にゆるみ、復元はできなかった。外面には縦方向のハツリ痕が明瞭に認められ、中段とほぼ同様の位置に籬の痕跡が認められる。上・中段と異なる点としては、内面下部の加工が上2段と比較して少なく、不明瞭なことである。最下部の井戸側であるため、桶同士の重なりを調整する必要がなかったためと思われる。

153・154・156・158・161・164・168は井戸側の残存していた籬のうち残存状態の良いものである。153・154・156は籬の末端部分と考えられ、端部を斜めに切断している。また、168はほかの籬に比べて幅が広く、必ずしも統一された幅の竹を用いたのではないと考えられる。

203は中～下段検出時に出土した板材である。厚さは井戸側の半分以下であり、樹種も異なる可能性が高いため、井戸側構築材ではない何らかの部材と考えられる。

SK633 (写真図版 310)

食膳具が1点(218)出土している。漆器であるが木質は失われており、漆膜のみ残存する。正確な器種は不明であるが、椀であった可能性がある。図化・計測ができなかったため、写真のみ掲載した。朱漆が全体に施されるが、裏面に黒漆による下地もわずかに残存する。

SK1201 (写真図版 310)

食膳具が1点(216)出土している。218と同様、漆膜のみが残存していた。正確な器種は不明であるが、椀であった可能性がある。図化・計測ができなかったため、写真のみ掲載した。朱漆が全体に施されるが、裏面に黒漆による下地もわずかに残存する。

SX1131 (図版 240～248・255～259、写真図版 285～292・303～307・310)

食膳具、容器、服飾具、調度品、建築材、部材が出土している。食膳具(32～36・215)、容器(38～40・42～65)、服飾具(66～71)、調度品(72～91)、建築材(92～96・99・100・155・157・159・160・162・165・167・169・170)、部材(171～186・188～194・196～202・204～206・208～213)を図化した。

食膳具は漆器が7点出土している。32は蓋で、裾の大半と摘みの一部を欠損する。摘みは低く、高台を逆さにしたような形状で、摘み内側の中央には朱漆によって「イ」と朱書きされる。木取りは柾目である。33～36の漆器とは、内外面に黒漆が施される、高台・摘みなどの内側に朱漆で「イ」と朱書きされる、といった共通点があることから、同じ膳一式であったと推察される。32は飯椀もしくは汁椀の蓋であった可能性が高い。33は椀である。内外面黒漆が施される。木質はほぼ腐植し失われており、漆膜がかろうじて椀の形状をとどめている。高台内側の中央には、朱漆で「イ」と朱書きされる。32の蓋と組んでいたかは不明である。34は椀である。内外面に黒漆が施され、高台内側の中央には、朱漆で「イ」と朱書きされる。木取りは柾目である。口縁部と高台の縁を欠損する。体部は平面楕円形に歪む。32の蓋と組んでいたかは不明である。35は皿である。口縁部と体部の一部を欠損する。32と近似する形状だが、32よりも体部に厚みがあり、しっかりとした作りであること、底部から体部にかけての立ち上がり方、高台の断面形状などから皿と判断した。高台内側の中央には、朱漆で「イ」と朱書きされる。木取りは柾目である。36は、木質が腐食し、高台の一部を除き漆膜しか残存していないが、

椀と思われる。木質は高台部分にわずかに残存しており、高台の径は34・35とほぼ同じである。高台内側の中央には、朱漆によって「ネ」に類似する字もしくは記号が朱書きされる。215は椀と思われるが、木質は失われており漆膜のみが残存していた。ほかの漆器と同様に黒漆が施される。朱漆による朱書きは確認されなかった。

容器は27点出土している。38は漆器で、箱状の容器の蓋と思われる。全体的に漆膜の剥落が著しいが、外面には朱漆、内面は黒漆が施される。箱と思われる容器の形状は方形もしくは長方形であったと思われ、端部内面には細長い長方形の切込みが設けられ、箱本体とずれが生じないように細工が施されたと推察される。39は曲物である。直径18.1cm、高さ3.6cmを測る短い円筒状を呈し、接合部は樹皮(樺あるいは桜か)によって結束する。結束箇所は、使用時に一部が破損したと思われ、針金によって修繕されていた。本体内側には短い板がはめ込まれており、この板と本体に挟まれて網代状の付着物が確認された。このことから曲物上面には網が張られていたと推察され、曲物は漉し器であったと思われる。40は細長い板材で、外面に朱漆、内面に黒漆が施される。漆塗箱の一部と思われる。木取りは板目である。42は曲物の底板である。内面中央には隅丸長方形の穿孔がされるが、貫通はしていない。縁は内面側に段差がつくよう加工されている。おそらくは段差部分に側板を当てるためと思われる。残存状態は良好で、木取りは板目である。底面には細かな傷がみられ、使用時のものと思われる。43は桶の底板である。残存状態が悪く、全体的に腐植が進み、3つに分かれた状態で出土した。木取りは板目である。井戸以外で出土した桶部材の中では大型のものである。中央付近の割れ口側面には2箇所目釘穴が認められ、本来は2つの半円形板材を目釘で接合していたと考えられる。44は桶の底板である。残存状態は良好で、木取りは柾目である。比較的小型の桶で、片側端部と2つに分かれていた。割れ口断面は平坦に加工されていることから、元々別の板として作成されたか、破損したものを再加工したものと思われる。大小両片の断面中央には方形の目釘穴が穿孔される。目釘は欠損するが、目釘によって接合し、使用されていたと考えられる。底面には刃物のような、先端が鋭利なもので付けたと思われる傷が横位に走る。45・46は鍋の蓋と思われ、45が蓋の把手、46は蓋板である。45は上面が緩やかに弧を描くように成形され、側面2箇所には円形の小孔が穿たれる。木取りは板目である。上面と側面の一部を除き、煤が付着する。側面の小孔は蓋板との接合のためと思われ、46の中央部に穿孔された2つの孔と、紐もしくは針金のようなものを通して固定していたと考えられる。46は片側1/2を欠損する。内外面ともに煤が付着し、特に内面の中央付近は炭化するほど被熱の痕跡が認められた。前述のように、持ち手である45を固定するためと思われる小孔が、中央付近に平行して穿たれる。

47～56は桶の側板である。47は側板下部の破片で、木取りは柾目である。外面の一部に手斧などによるハツリ痕が認められる。残存する端部は、外面側の角を落とすように加工される。48は上下端部が残存すると思われ、浅い小型の桶類の側板と思われる。木取りは柾目である。上下両端部は角を落とすなどの加工はされおらず、平坦である。厚さは比較的薄く、反りは緩やかである。49は48と同様短い側板であるが、上下両端部は内外面ともに角を落とすような加工が認められる。反りはほとんどみられない。木取りは柾目である。50は48と近似する側板で、同一個体であった可能性がある。51は上下両端部の内外面に加工痕が明瞭に認められる。木取りは柾目である。52は比較的幅の狭い側板で、上下両端部の内外面に加工痕が認められる。木取りは柾目である。53は上部を欠損する。内外面ともに手斧などによるハツリ痕が認められる。反りはほとんどみられず、平坦である。木取りは柾目である。54は下端部を欠損する。上端部は片側の角を落とし、丸みを帯びた形状に加工する。木取りは柾目である。残存する上下端部付近の外面には、籬の痕跡が認められる。55は外面から見て右端部分と上端部を欠損する。上端部は内外面ともに炭化しており、外面の一部にも煤が付着する。火を受けたのが使用時のものか、破損後かは不明である。56は55と近似する側板で、全体の1/3ほどを欠損する。上端部は55と同様に炭化しており、同一の桶を構成する側板であったと思われる。外面中ほどには籬の痕跡が認められる。いずれの側板も長さは短いものが多く、盥や半台、飯櫃、岡持ちなどの側板であった可能性がある。

57～60は桶の底板である。57は縁の破片で、大半を欠損する。腐植が進み加工痕は不明瞭である。木取り

は板目である。58は縁の一部と全体の1/2ほどが欠損する。木取りは柾目である。59は縁の一部と全体の1/2ほどを欠損する。内面と底面の縁側が炭化しており、底面中央付近には、焼け火箸を当てたような細長い範囲の炭化がみられる。破断面は平坦に加工され、2箇所釘穴が設けられていることから、半月形の板を中央でつなぎ合わせて底板にしたものと考えられる。60は底板の縁破片で、平面は細い半月形を呈する。破断面は平坦に加工され、2箇所に釘が打たれ一部残存することから、欠損する底板の大部分とつなぎ合わせて使用されたと考えられる。木取りは板目である。

61・62は箱形の容器の側板と思われる。61は平面逆台形を呈し、木取りは板目である。中央やや上寄りの位置に横長長方形の孔が穿たれる。左側面に5箇所、下面に2箇所釘穴が認められた。釘穴は方形で、錆が付着することから鉄釘によってほかの側板・底板と固定されていたと考えられる。右側面に釘穴はないが、右縁平面に4箇所同様の釘穴が認められる。上面に釘穴は認められないことから、方形の容器であったと考えられる。中央付近に開けられた方形の孔の役割は不明だが、断面を観察したところ、縁に圧痕が認められた。また、孔は外側下方に向かって開けられている。62は形状・法量とも61と近似する。木取りは板目である。61のような孔は穿たれておらず、逆台形の側板である。外面からみて左縁平面に8箇所の釘穴が認められた。釘穴は方形で、錆が付着することから鉄釘が用いられたと考えられる。右側面に5箇所、下面に3箇所同様の釘穴が認められる。内面の一部には、刃物痕が残る。形状と規模から、61と62は側板として組み、逆台形の方形容器として用いられていた可能性が高い。どのような容器であったかは不明である。65は平面隅丸方形の板材である。短辺の片側が欠損する。木取りは板目である。縁に沿うかたちで6箇所釘穴が認められた。釘穴は方形で、錆が付着することから鉄釘が用いられたと考えられる。欠損部分にも数箇所錆が付着しており、釘穴は縁全体に設けられていたことが想定される。このことから、65は方形の容器の底板であったと考えられる。内面側には一部に圧痕が認められる。底面側は縁全体の角を落とすよう加工される。鉄釘が用いられている点や形状が近似することから、61・62と組み合わせる可能性がある。

63は葦などの細い植物を加工し網代状にしたもので、上段にはほぼ等間隔の隙間を空けて縦方向に3本、中段には隙間を空けず横方向に3本、下段には上段の隙間を埋めるようなかたちで縦方向に3本が重ねられる。断片のみが残存しているため全容は不明だが、箆や籠のような製品の一部であった可能性がある。

64は桶の箍と思われる竹製品である。端部の破片と思われ、弓形に湾曲する。断面は台形を呈し、内外面ともに両端部を削り、扱いやすく加工していると思われる。

服飾具は6点出土している。66～71は下駄である。66は差歯下駄で、前後両端部を欠損し腐植が著しい。木取りは板目である。歯は前後とも欠損する。断面は逆台形を呈していたと思われるが、欠損部分が多く不明瞭である。67は6点中唯一の連歯下駄で、左端の一部を欠損し、全体的に腐植が進む。木取りは板目である。台は大振りで、歯は前後とも接地面の摩耗が著しい。鼻緒を取り付ける前壺は、わずかに左に寄っており右足用の下駄であった可能性がある。横緒孔は後歯の前に位置し、左側の孔は欠損する。台には前壺と右横緒孔を結ぶようにわずかに圧痕が認められ、圧痕の範囲に変色が認められた。断定はできないが、使用痕の可能性はある。また、用途は不明であるが、左側の前後に釘穴と思われる小孔が認められた。68は差歯下駄である。左側全体と後側を欠損する。木取りは板目である。66と近似する差歯下駄で、歯は前後とも欠損する。裏面は中央が高くなる山形に面取りされる。前壺・横緒孔が穿孔された痕跡も見当たらないことから、未成品であった可能性がある。69は差歯下駄である。左右両側面の大部分と、台下方の裏面、後歯を欠損する。木取りは板目である。台は小振り、上面の後方に数条の傷が認められる。台裏面は、前歯と後歯の間は断面逆台形に面取りされ、前方は斜めに面取りされる。後方は欠損するため不明だが、同様の加工であったと推察される。前壺は台前方のほぼ中央に穿孔される。孔内面には鼻緒によると思われる擦痕が認められる。前壺の裏面は、孔の周囲を半月形に窪むよう加工される。横緒孔は後歯の後方に穿孔される。歯は前歯のみ残存する。後歯も同様の板材が用いられていたと思われる。70は差歯下駄の歯である。片側を欠損するため本来の形状は不明だが、台形と推察される。

木取りは板目である。71は差歯下駄である。腐植が著しく、右前方と後方、歯を欠損する。木取りは板目である。台は、中央が断面逆台形となるよう面取りされており、66・68・69と近似する形状であったと思われる。前壺と横緒孔は残存部には認められず、未成品であった可能性がある。

調度品は20点が出土している。72～91は行灯である。持ち手・灯火具吊り下げ用板・本体横木・支柱・台座・引出しの各部位がまとまった状態で出土しており、同一個体である。本体横木・支柱の一部、障子窓、灯火具は出土していない。72は持ち手である。完形で、側面と持ち手裏側に煤が付着する。木取りは柃目である。厚みのあるしっかりとした持ち手で、上面は緩やかな傾斜の弓形に成形され、握りにあたる中央付近は、角が摩耗している。両端部は、灯火具吊り下げ用の板との間に、行灯本体を構成する横木を挟んで固定するため段状に加工される。下面は、中央裏側に浅い溝状の窪みが掘り込まれる。灯火具吊り下げ用板と接する面は、中央の握りを挟んで左右2箇所に分かれる。釘によって固定されていたと思われ、左右3箇所ずつ釘穴が認められる。釘穴は平面方形で、一部は釘が折れて残存する。釘は竹製で、支柱との接合部にも目釘穴が左右1箇所ずつ開けられる。左側の接合部には、先端は破損しているが目釘が残存していた。73は灯火具吊り下げ用の板で、72の持ち手と組み合わせて用いられる長方形の板材である。木取りは板目である。持ち手と支柱との接合部を除き、ほぼ全面に煤・油が付着する。裏面は灯火具の直上にあたることから、熱と乾燥によって木質が委縮し、木目が浮き上がった状態となっていた。火源から離れた後方隅では木質は残存しており、煤や油の付着もみられなかった。持ち手との接合部には、持ち手下面のものと一致する釘穴が6箇所確認された。穴は貫通しており、73裏面から持ち手に向けて釘を打ち込んだものと思われる。

74～77は、本体を構成する部材のうち、最上部に組まれる横木である。小型の角材を、相欠き接ぎによって井桁状に組み合わせていたと考えられる。74は正面にあたる横木で、ほぼ完形である。上面を除くすべての面に煤・油が付着する。端部付近の下面側にホゾが切られ、ホゾの中央には平面方形の釘穴が貫通する。後述する75のホゾ部分と78の支柱上面にも同様の釘穴があることから、各横木を組み、支柱を下に当てて釘を打ち固定したと考えられる。75は正面からみて左側の横木である。完形であるが、左側のホゾに76の折れた端部が嵌った状態で出土した。上面を除くすべての面に煤・油が付着する。上面中央には持ち手によるものと思われる弱い圧痕が認められ、下面には灯火具吊り下げ用板による同様の痕跡が認められた。行灯内側にあたる裏面中央には、持ち手左側面に残存していた竹釘による釘穴があり、下面に向かって斜め下へと貫通する。両端部のホゾは74とほぼ同じで中央の釘穴には竹釘の一部が残存していた。76は行灯背面にあたり、ほぼ全面に煤・油が付着する。片側の端部が欠損し、75のホゾにはまった状態で出土した。残存する端部のホゾには釘穴が2つ並んでおり、いずれも折れた竹釘が釘穴内に残存する。釘穴が2つある理由については、補修もしくは補強などが考えられる。77は右側にあたる横木で、両側のホゾから端部にかけて欠損する。正面・裏面・下面に煤・油が付着する。75と同様に上面中央に持ち手の、下面に灯火具吊り下げ用板の痕跡が認められた。裏面には持ち手との接合用の釘穴が、下面に向かって斜めに貫通する。

78～80は行灯の四方隅にあたる支柱である。78は完形で、煤・油の付着状態、台座との組み合わせ方から、正面からみて左前の支柱と考えられる。細身の角柱で、横断面は前後にやや長い長方形を呈する。上面中央には、横木と接合するための釘穴があり、竹釘の一部が折れ穴に残存する。下端部は細い円柱状に削られ、台座に設けられた孔に差し込むように加工される。差し込み部の上方には、斜め下方から竹釘が打たれており、台座から容易に外れないように工夫した痕跡と考えられる。上端付近には細いホゾが切られ、同様のホゾは下方にも設けられている。ホゾ上下には細い切込みが認められ、ホゾ加工時についた鋸痕と思われる。正面と左側面など外側に向いた面には、上下のホゾ間には汚れが付着していないことから、ホゾ間に横木が渡され、障子紙が貼られていたと推察される。それ以外の面には、ほぼ全面に煤・油が付着する。また、下端付近の側面において、支柱に巻き付くような状態で、繊維状の付着物が確認された。詳細は不明だが、紐もしくは布などが巻きついていた可能性がある。79は正面からみて右後の支柱で、下側のホゾ以下を欠損する。障子紙が貼られていた箇所を除くほ

ぼすべての面に煤・油が付着する。ホゾと上面の釘穴は78と同様であるが、正面から裏面にかけて、横方向に小孔が貫通する。上面からの釘穴下端と直口しており、断面ではT字状の穴が形成されている。横方向の小孔については用途不明である。80は正面からみて右前の支柱である。79と同様に下側のホゾ以下を欠損する。正面を除くほぼ全面に煤・油が付着する。上面の釘穴には折れた竹釘が残存する。ホゾと上面の釘穴は78・79と同様であるが、裏面中央付近に、縦方向に並ぶ3つの小孔が確認された。小孔は貫通しておらず、用途は不明である。

81は台座である。一枚板を加工したもので、平面形は正方形に近い方形である。木取りは板目である。ほぼ全面に油が付着しており、後方部分が波打つようなかたちで歪んでいる。四隅には穿孔があり、支柱が差し込まれていたと考えられる。後側の縁は孔を含め破損する。各辺には台座側板との接合を目的とする釘穴が確認された。前方で2箇所、左側で2箇所、右側で3箇所、中央付近で3箇所が確認されたが、油などの付着物で埋没しているものもあると思われる。中央部の釘穴3箇所は、後述する引出し支柱を台座裏面に固定するためのものである。上面中央には浅いくぼみが2箇所、切り合った状態で検出された。ノミなどの工具で削り込まれたと思われる、平面形は楕円形もしくは不整形である。油壺・皿を置く際に安定させるため、などの用途が推定される。82～85は台座側板である。82は正面の側板で、中央上部に引き出し用の方形窓が開けられる。木取りは板目である。外面、上面、内面の一部に油が付着する。平面形は台形を呈し、平面左端に4箇所、上面に2箇所、右側面に4箇所釘穴が確認された。上面の釘穴は台座と、それ以外は側板同士を接合するためのものである。一部の釘穴には折れた釘が残存しており、支柱などに用いられているのと同じ竹製の釘である。内面の上部隅2箇所には、支柱の差し込みを入れるため溝状に抉りが彫り込まれている。83は正面からみて左側の側板で、木取りは板目である。外面、上面、左側面、内面上方に油が付着する。外面には細かな傷が多く認められる。釘穴は82と同様の位置に認められるが、上面には中央にも釘が打たれ3箇所となっている。内面には、82と同様に支柱用の抉りが彫り込まれる。84は後側の側板で、木取りは板目である。下面を除くほぼ全面に油が付着する。83と接合していた右側面の上部にも油汚れが認められる。内面の油汚れは側板4点中もつとも範囲が広い。内面には、82・83よりも細く短いが、支柱用の抉りが彫り込まれる。85は右側の側板で、木取りは板目である。釘穴の位置は、上面を除き83・84と同様である。上面の釘穴はほかの側板よりも多く、規格性の無い間隔で5箇所に認められる。釘穴の一つには折れた竹釘が残存する。外面と上面はほぼ全面に油が付着し、内面は上端と下端の一部に付着する。内面には抉りが認められるが、小さな凹み程度のものである。

86～91は台座内部に収納される引出しの部材である。86は引出し支柱である。断面台形の細い角材であり、木取りは板目である。81の裏面中央に竹釘で固定され、釘穴は前方2箇所、中央2箇所、後方1箇所の5箇所で認められた。このうち中央2箇所の釘穴には折れた竹釘が残存していた。ほぼ全面に油が付着しており、後方はくの字状に折れかかっている。この部分は、波状に歪んでいた81後方と接合していた箇所であり、その影響と思われる。87は引出し側板のうち、後方の短辺にあたる。木取りは板目である。平面形は横長の長方形で、上部中央に台形の切込みが設けられる。この切込みには、前述した86を差し込んで引出しが落下しないように固定し、なおかつ前後への引出しの移動を容易にする機能を持っていたと思われる。左右側面、下面の中央に釘穴が認められ、左右側面には釘が残存していた。内面、上面、下面のほぼ全面と、外面上部に油が多量に付着する。88は正面からみて左側の引出し側板である。細長い長方形の板材で、振じれたような歪みが認められる。木取りは板目である。台座正面側は台座の傾斜に合わせて斜めに切断されている。87との接合部に1箇所、89との接合部に3箇所、91との接合部に2箇所の釘穴が認められ、一部折れた竹釘が残存する。内外面および上面に油が付着する。87との接合部には板の当たりが圧痕として認められ、これより外側には、油は付着していない。90は88と対になる右側の引出し側板である。細長い板材であるが、88が前方のみ斜めに加工していたのに対し、90は前後両方を斜めに加工しており、平面形が平行四辺形に近い。釘穴の位置や数、油の付着範囲は88とほぼ同じである。88のような歪みはほとんど認められない。89は引出し底板である。長方形の板材で、若干の歪

みが認められる。木取りは板目である。内面には87・88・90との接合面に各部位と対応する釘穴が認められる。引出し正面にあたる91との接合部は内面ではなく前側面であり、前側面中央に竹釘が残存する。内面は前面に油が付着するが、各側板との接合部には付着していない。91は引出し正面の板である。中央上寄りの位置に穿孔されるが、小孔が3つ繋がったものと思われ、おそらくは紐か把手が取り付けられ、引き出しの開閉に用いられたものと推察される。側板・底板との接合部を除く、ほぼ全面に油が多量に付着する。88・90との接合部には竹釘が残存する。

建築材は17点出土した。92は硬質な樹種を用いた角材で、残存状態は良好である。上部に縦方向のホゾが切られる。ホゾの両側面には縦に並ぶ穿孔がなされ、上段は平面円形でほぼ材の中央に、下段は平面方形もしくは不整形で上段とはわずかにずれた位置にある。孔内面は被熱を受けて炭化しており、ほかに炭化している箇所が認められないことから作成あるいは使用過程で、炭化したものと推察される。材としての用途は不明だが、ホゾに別の材を嵌め、2段の孔で固定していたと思われる。建物の部材か、卓や台のような道具の部材であった可能性も考えられる。93は柱材である。端部の破片で、割れ口を除く全面が炭化することから、使用時に廃棄後に火を受けたと考えられる。端部は中央にホゾが切れ、別の部材と組み合わせて用いられたと思われる。94は断面方形の角材で、木取りは板目である。下端部は火を受けて炭化しており、欠損する。上部・中央部・下部の3箇所、貫通する長方形のホゾが切られる。右側面上部には、貫通はしない方形のホゾが切れ、ホゾから上面に向かって断面V字形の切込みが設けられる。中央のホゾからは、長方形の板が嵌った状態で確認された。別部材を組み合わせる際の楔であった可能性があるが、詳細は不明である。また、右側面の右下部では、一部で材の角を削り落とす加工が施される。95は94に近似する角材で、木取りは板目である。長方形のホゾが3箇所貫通するように切られており、ホゾの位置は94と一致する。94は下端部が炭化し、欠損していたが、95は上端部が炭化して欠損している。右側面には94と同じ方形のホゾが認められるが、ホゾから先端がつぶれ、V字の切込みは判然としない。また、炭化の範囲は94よりも広い。外面には全体に連続する線状の傷が認められる。硬質な樹種であることと、節が多いことなどから加工に苦勞したことが窺える。正面と右側面の角には、中央のホゾから下端にかけての角を削り落とす加工が認められる。94にも同じ加工が施されており、ホゾや形状、寸法も一致することから、94と95は対になる関係で、組み合わせて用いられたことが想定される。96は小型の角材で、木取りは柁目である。上下両端部が円柱状に加工されており、別の部材に差し込む、などして用いられたと考えられる。正面には4箇所平面方形の釘穴が認められる。錆が付着することから、鉄釘が用いられた可能性が高い。96の詳細な用途は不明である。99は杭である。外面には全体的に、手斧などによるハツリ痕が認められる。断面形は不整形で、全体的に加工が粗い。100も99と同様の杭である。断面形は円形もしくは楕円形を呈する。上端部は破損しており、全体の長さは不明である。

155・159・160・162・165・167・169・170は桶の箍で、すべて竹製である。155は細身の箍端部で、先端は斜めに切り落とされる。裏面の上下端部は面取りされ、断面は三角形に近い形状となっている。159・160は幅広く厚みがあり、先端は155と同様斜めに切り落とされる。いずれも裏面の上下端部は面取りされており、扱いやすいようにするための工夫と考えられる。162・165・167は細身に薄く、両端は欠損する。裏面上下端部の面取りは明瞭である。169・170は比較的幅が広く厚みがある。両端は欠損する。

部材は39点出土している。171は竹製品で、細長い籤上状に加工される。片側の端部は、おそらく節を加工したと思われるが、ヘラ状に上方へ突出する。反対側の端部は、わずかに先細りになるよう加工されている。用途は不明だが、ヘラのような用途で使用されたか、何らかの道具の未成品であった可能性がある。172は板材で破片である。木取りは柁目である。右側の長辺縁には釘穴が等間隔に5箇所確認された。釘穴は裏まで貫通しており、別の部材を固定するためのものだったと推察される。上下にはそれぞれ1箇所ずつ釘穴が認められる。完形の場合の大きさは不明だが、上下にも同様の釘穴があった可能性はある。173は長方形の板材で、片側の端部を欠損する。木取りは板目である。残存する端部裏面には173とほぼ同じ幅の板材の当たりが認められる。

また、端部中央に1箇所、中央下端部付近に1箇所釘穴が認められることから、箱もしくは膳のような浅い容器の側板であった可能性がある。細かな傷も多く、腐植も進み破損していることから、用途の詳細は不明である。174は板材の断片で、右側端部付近の破片である。欠損部分の割合は不明である。木取りは板目である。正面上方に墨書が認められる。墨書中央付近で破損しており、文字の判読はできなかった。残存する板材の隅は角を落とされ、丸みをもつように加工されている。用途の詳細は不明である。175は長方形の板材で、短辺に2箇所ずつ釘穴が認められる。木取りは柾目である。正面・裏面ともにハツリ痕がみられ、細かな傷も多く認められる。釘穴があることから、何らかの部材と組み合わせて用いられたと思われるが、詳細は不明である。176は長方形の細長い板材で、木取りは板目である。上端に2箇所ならんで釘穴が認められる。釘穴は裏面まで貫通しており、何らかの部材と組み合わせて用いられたと思われる。用途の詳細は不明である。177は長方形の板材で、右側を欠損する。木取りは柾目である。右側の欠損部分の割合は不明だが、残存部分の上端に1箇所、左端やや下寄りに1箇所、下端に2箇所釘穴が認められる。いずれの釘穴も貫通しており、側板と組み合わせ容器として用いられた可能性がある。左側面は正面側の角を面取りによって斜めに加工する。用途の詳細は不明である。178は台形に近い長方形の板材で、木取りは板目である。左側面は右側面に比べて若干長さが短く、中央付近が薄く削られ、このため平面形がやや歪となっている。左側面には上下2箇所に釘穴が認められる。釘穴は上側の短辺にも2箇所認められ、別の木材と組み合わせて用いられた可能性がある。また、正面中央左寄りに穿孔がされるが、用途は不明である。179は平面形が隅丸長方形に近く、やや加工の粗い板材である。木取りは柾目である。上下両端部は薄くなるように加工され、上部右寄りの位置に楕円形の穿孔がされる。裏面にはハツリ痕が認められる。板材の用途は不明である。180は長方形と推定される板材で、上端部を欠損する。下端部は平坦ではなく長辺に対してやや斜めに加工され、2箇所に釘穴が認められる。釘穴には折れた竹釘が残存する。詳細な用途は不明であるが、何らかの部材と組み合わせて用いられたと思われる。181は角材もしくは板材などの端切れと思われ、上端部が炭化する。用途は不明である。182は平面不整形の板材で、木取りは柾目である。左側面の一部を欠損する。183は角材で、上下両端部を欠損する。ハツリ痕や細かな傷が認められるが、用途は不明である。184は長方形の板材で、非常に薄いつくりである。上端部は裏面に向かって緩やかに反っており、意図的に加工されたものかは不明である。185は上端部を欠損するが、長方形の板材と思われる。木取りは柾目である。左端やや下寄りの位置に、釘穴が認められる。釘穴は平面方形で、裏面に貫通する。186は細長く薄い長方形の板材である。板下部の中央付近に釘穴が認められる。釘穴は平面円形で、折れた竹釘が残存する。板材の用途は不明である。188は長方形の板材で、右側～下端部を欠損する。木取りは板目である。189は角材に近いが、左右側面を欠損することから板材とした。木取りは柾目である。190は、やや大型の材が欠けた端切れを加工したものと思われる。木取りは板目である。正面には縦方向のハツリ痕と細かな傷が認められる。正面は緩やかな曲面に加工され、上面は平坦に加工される。裏面は不明瞭であるが、下部にハツリ痕が認められる。用途は不明である。191は長方形の板材で、木取りは柾目である。上端部は欠損しており、一部が炭化する。192～194は不整形な板材で、木取りはいずれも板目である。192は残存する右側面～下面にかけて平面隅丸となる加工が施される。193は右側を欠損する。上下面は平坦に加工されるが、残存する左側面は上に向かって狭くなるように傾斜が付けられており、平面形は台形であった可能性がある。194はやや厚みのある板材で、下端部付近の破片である。196は左右両側面の中央部分が若干張り出した、平面長方形に近い板材である。木取りは板目である。上下面は平坦に加工されるのに対し、左右両側面は斜めであるため、破損もしくは二次的に加工された可能性がある。正面および裏面中央部には、刃物によると思われる傷が集中的に認められた。俎板などの用途が考えられるが、詳細は不明である。197は平面不整形の板材で、左側面は残存すると思われるが、それ以外は破損している。木取りは板目である。198は長方形の板材と思われるが、上端部を欠損する。木取りは柾目である。199は長方形の板材と思われるが、上端部を欠損する。木取りは板目である。外面は腐植が進む。200は長方形の板材と思われるが、上端部から右側面にかけて欠損する薄い板材である。木取りは板目

である。201 は長方形の板材であるが中央で縦方向に割れ、左右両側を欠損する。正面左下に釘穴が認められる。残存する部位から中型の板材であったと思われ、釘穴の存在から別の部材と組み合わせていた可能性が高いが、用途は不明である。202 は長方形の板材で、下端部を欠損する。木取りは板目である。204 は長方形の板材と思われ、左側～下端部にかけて欠損する。木取りは板目である。下端部は一部炭化する。正面右上隅に平面楕円形の釘穴が認められる。205 は長方形の板材と思われ、下端部を欠損する。木取りは板目である。206・208・209 は大型の部材である。206 は縦長の薄い板材で、樹種は不明であるが曲物の側板の可能性はある。下方 1/4 ほどは腐植が著しく、木質は失われて樹皮のみが残存する。208 は棒状の部材で、木取りは板目である。硬質の樹種を用いている。外面には細かなハツリ痕が残り、四隅は角を落としているため断面形は隅丸長方形となる。ただし、下端は角を落としておらず、断面形は横長の長方形を呈する。下面中央には短い角状の突出が認められる。下面を加工する際に中央を削り残し、角状の突出としたと思われる。用途としては、大部分の角を落としてあることから、人の手で扱うことが想定され、長柄の道具の柄であった可能性が考えられる。下面側は加工されていない範囲が別部材と組み合わせられていたことも考えられ、角状の突出は組み合わせる際に何らかの機能を果たしたことも想定される。209 は 208 に近似する棒状の部材である。木取りは柁目である。角が丸みをもつように加工されており、断面は隅丸長方形を呈する。外面の加工痕も 208 と近似するが、下面は一部破損がみられる。用途は不明だが、何らかの道具の柄が別部材と組み合わせて用いられたと考えられる。210 は左側面を残して大半を欠損すると思われ、残存する平面は細長い三角形を呈する。木取りは板目である。

211～213 は円盤状木製品である。211 は円盤右端の破片で破損が著しく、一部歪みもみられる。212 は左側面中央付近を欠損するが、ほぼ完形である。厚みのあるほぼ正円の板材で、木取りは板目である。曲物もしくは小型の桶底板に近似するが、用途は不明である。213 は上端付近の破片で、割れ口の一部が炭化する。木取りは柁目である。

214 は短い棒状の部材である。中ほどから下面にかけて、下方に向かって細くなるように加工する。加工は比較的粗い。形状から、何らかの容器の木栓であると思われる。

Pit1198 (図版 240、写真図版 285)

食膳具が 1 点 (37) 出土しており、これを図化した。37 は漆器の椀と思われる。腐植が著しく、木質部はほぼ失われているが高台部分の破片である。木質部が失われているため、漆膜の裏面や下地が一部確認できた。下地はわずかに残存しているのみだったが、黒漆が施されたと思われる。その上から全体に朱漆が施されたと考えられる。

SD492 (写真図版 310)

食膳具が 1 点 (217) 出土している。216・218 と同様に漆器と思われるが、木質は失われ漆膜のみが残存していた。正確な器種は不明であるが、椀であった可能性がある。図化・計測ができなかったため、写真のみ掲載した。朱漆が全体に施されるが、裏面に黒漆による下地もわずかに残存する。

E 烏帽子 (図版 260、写真図版 307)

漆塗製品は、2 区で検出された区画墓 (SZ2013) の主体部 (ST1621) 底面中央付近から 1 点 (1) 出土しており、1 を図化した。黒漆の漆膜のみが残存する。漆膜観察と赤外線分光分析の結果、和紙のようなものに漆を塗布した製品で、烏帽子の可能性が考えられる。顕微鏡観察の結果、上面中央付近に圧痕が観察され、ハケメのような痕跡も認められた。圧痕は微細な窪みが連続するような特殊なものであった。烏帽子の制作方法では、型紙や布を貼り内外面に漆を塗る。製作技法から類推すると、特殊な圧痕は制作過程で型紙や布などによってついた可能性がある。区画墓被葬者への副葬品と考えられる。

F 数 珠 (図版 260・261、写真図版 308・309)

1) 概 要

今回の調査では、合計 138 顆 (このうち溶着したものが 4 顆で計 11 点。そのため実測点数は 131 点となる) の数珠玉を確認した。数珠が出土した遺構は、1 区 SK540・682・683・686・706・707、2 区 SK483・557 で、いずれも墓や火葬にかかわる土坑である (第IV章参照)。数珠は、正式には 108 顆の成珠、1 顆の金製の母珠、10 顆の銀製の記子からなり、宗派ごと身分ごとに種類が分化するようである [井汲 1991]。今回出土した全ての数珠玉は、調査終了後の水洗選別によって確認できたため、糸で繋がった数珠本来の姿ではないことに留意する必要がある。別表 12 に観察表を示した。

数珠の玉の名称などについては、仏具大辞典 [1982] を参考とした (第 16 図)。

2) 分 類

本遺跡から出土した数珠の玉の分類は、次の手順で行った。群は孔の数、類が材質で、類以下はそれぞれで細分した。1 類の細分は材質の特徴、2 類の細分が形状である。詳細は以下の通りである。

A 群：孔が 2 つ穿たれるもの

(主に母珠と呼称される)

B 群：孔が 1 つ穿たれるもの

(成珠・四天珠・記子・浄明珠などがあるが数珠糸が消失していたため珠の種類は特定できない)

1 類：ガラス製

i：透明

ii：半透明

2 類：木製

i：形状は球形を呈し、孔が穿たれる

る箇所平坦面も僅かなもの

ii：扁平で平面形は小判形を呈するもの

iii：断面形が算盤玉形を呈するもの

iv：形状は概ね球形を呈するが、孔が穿たれる箇所に平坦面が作られるもの

v：形状はivと同様であるが、やや小型となるもの

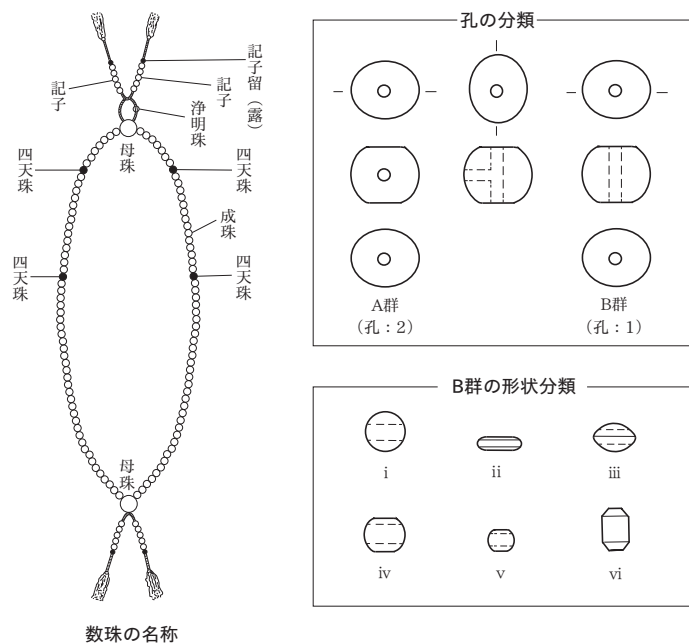
vi：形状はやや縦長気味となるもの

vii：その他

viii：不明

3) 1 区出土数珠

1 は SK682、2・3 が SK706 から出土している。いずれも母珠で、1 が 1 類、2・3 は 2 類である。2・3 は孔中に糸状のものが残り、孔を塞いでいる。3 は破損しており、内面の様子がよく観察できる。上下に貫通する孔に糸が残り、正面から穿たれる孔と合流する箇所では糸が歪んでいる (写真図版 309-8)。4 は SK706、5 が SK707 から出土している。ともに B1 i で、外面には磨痕が残る (写真図版 309-10・12)。4 の孔内部には付着物がみられ、何かが発泡したような痕跡と思われる。6 は SK682、7～18 が SK683 から出土している。い



第 16 図 数珠玉の分類

れも B1 ii である。18 は 4 つの珠が溶着した状態で、焼かれる以前の配列・配置状態を示しているのであろうか。6～18 の孔には糸の痕跡はみられなかった。19～66・68～70 は SK706、67 が SK707 から出土している。いずれも B2 ii で、扁平な薄材の両端部に加工が施され、断面が長楕円に仕上げられる。この類の大部分の珠は糸が残っているため、孔を塞いでいる。68～70 は 18 同様に、複数の珠が溶着している（写真図版 309-13・17）。溶着状況は漆状の付着物が発泡したことによって起こっているため、珠同士が溶けてくっついている 18 とは異なる。漆状の付着物は、68～70 の他、27・57・62・64・65 にもみられる。71～79 は SK682 から出土している。いずれも B2 iii である。72・76・79 の外面には B2 ii 同様に、漆状の付着物がみられる（写真図版 309-22）。74・77 は樹種同定の結果カキノキ属とされた。同属のなかに黒檀も含まれ黒檀とすれば高級輸入材である。81～93 は SK540 から出土している。いずれも B2 iv である。器形の加工は様々で、角をとりながら球形にケズり出すもの（83・86）、縦方向にケズり平面を円形に仕上げているもの（81・82・84・88・91）、水平方向に角をケズりとするもの（85・87・89・90・92）がみられる。93 は SK540、94～110 が SK683、111・112 は SK707、113 が SK686 から出土している。いずれも B2 v である。本類は B2 iv を小型にしたような形状で、外面の加工方法も類似するが、角をとりながら球形にケズり出すものはみられない。114・119 は SK540、115 が SK682、116～118 は SK683 から出土している。114～119 はいずれも B2 vi である。外面は縦方向のケズりが施され、平面を円形に仕上げる。115～119 は上下が欠損していると思われ、この類の形状は元々 114 のようにナツメの実のような形状を呈していたと思われる。120 は SK683、121 が SK686、122 は SK707 から出土している。いずれも欠損しており、元の形が分からないため B2 vii とした。

4) 2 区出土数珠

123～129 は SK483 から出土している。いずれも B2 i である。孔は糸で塞がっており、128 などは糸で繋がっていた隣の珠の一部が糸と一緒に付着している（写真図版 309-28）。いずれの珠も外面には漆状のものが塗られていたと思われるが、磨滅して部分的に剥落しているものが多い。130・131 は SK557 から出土している。共に B2 vii である。130 は略球形を呈する。131 は平面隅丸方形を呈する。

第VI章 自然科学分析

第1節 はじめに (第5表、第17図)

第48次(16)調査における自然科学分析は、今回の調査区(1区・2区)で検出された遺構や出土遺物の状況を十分に検討し実施した。具体的には、出土遺物から遺構の時期を特定できる、土壌が良好に残存する、炭化物や自然遺物が観察できるなどの条件と併せ、遺跡内で重要と考えられる遺構を対象とした。さらに遺跡や遺構の性格、遺跡周辺の自然環境や植生、当時の生業などを効果的に把握できることを念頭に置き、内容を検討した。自然科学分析を行ったそれぞれの概要は時代と分析内容毎にまとめ、具体的な目的について以下に記述した。

古代では、植生や古環境の復元を目的として植物珪酸体分析(プラント・オパール)分析と花粉分析を行った。対象とした遺構は旧河道である。旧河道は1区のみで確認され、今回の調査では数少ない古代の遺構で、当時の植生や古環境の復元を行う上で重要である。

中世では、植生や古環境の復元、建築部材の推定、遺構の時期、被葬者の推定を行う目的で、植物珪酸体(プラント・オパール)、花粉分析、種実同定、樹種同定、漆製品漆膜観察・赤外線分光分析、リン・カルシウム分析、放射性炭素年代測定、骨同定を行った。対象とした遺構は井戸、墓・埋葬施設、性格不明遺構、溝、区画墓であ



第17図 細池寺道上遺跡第48次調査 自然科学分析サンプル採取地点

る。井戸は、底面付近や最下層に堆積する土壌が水に浸かっていることが多い。そのため状態の良いサンプルが採取でき、当時の植生や古環境が復元できる可能性が高い。区画墓を構成する墓・埋葬施設では、被葬者の推定を行う。また、2区の区画墓から出土した烏帽子と推定される漆塗り遺物については、漆膜観察と赤外線分光分析を行うことで詳細な材質や製品の同定を行う。このほか、採取した炭化材の年代を測定することで、遺構の時期が出土遺物の時期と同じであるかどうかを検討する。

近世では、植生や古環境の復元、建築部材の推定、遺構の時期、被葬者の推定を行う目的で、植物珪酸体(プラント・オパール)、花粉分析、種実同定、樹種同定、放射性炭素年代測定、骨同定を行った。対象とした遺構は井戸、土坑、溝である。井戸は、底面付近や最下層に堆積する土壌が水に浸かっていることが多いため、状態の良いサンプルが採取でき、当時の植生や古環境が復元できる可能性が高い。また、検出状況や出土遺物から近世であると考えられるが、井戸側部材などの年代測定をすることによって、出土遺物の時期と同じであるかどうかを検討する。土坑は、木棺と思われる方形に組まれた板材と、人骨が出土した墓と思われるものが複数検出された。また、多量の炭化物と焼土、焼骨が出土した火葬墓と思われるものも少数確認されており、墓域が形成されていた可能性がある。出土した木棺と思われる部材と、火葬墓で検出された炭化物は樹種同定を行い、木棺と燃料材の特定を行う。また、出土人骨を分析することで、年齢や性別など、どのような人物が埋葬されていたか被葬者の推定を行う。なお、これら自然科学分析のサンプルは採取した平面位置を第17図に示し、遺構名や層位などを第5表にまとめた。

第5表 細池寺道上遺跡第48次調査 自然科学分析一覧表

- 凡例 1 地点番号 第17図中の番号を示した。
 2 グリッド 各遺構内における資料採集地点のグリッドを示した。
 3 分析機関 分析機関は表中においては以下の通り省略して表記した。
 古環境：(株)古環境研究所 パレオ：(株)パレオ・ラボ 加速器：(株)加速器分析研究所 新潟医療福祉大：新潟医療福祉大学 元興寺：(公財)元興寺文化財研究所
 4 資料番号 分析報告分中又は表中に試料番号が付されているものは、本表のままとした。試料番号がないものについては該当項目に○で示した。
 5 土壌採集量 分析資料のうち、各土層の土壌を採集し、土壌水洗別法により採取を試みたものについては、下表土壌数欄に袋数を記載した。土壌は40ℓの袋に7割程度採取している。土壌選別法による遺物採取は行ったが、分析対象としなかった遺構もある。同法により得られた分析資料は主に種実同定に関する資料である。

区	地点番号	遺構	層位	グリッド	時代	分析種別・分析番号・分析機関									土壌数								
						第2節 植物珪酸体	第3節 花粉	第4節 種実	第5節 樹種	第6節 漆膜	第7節 リン・カルシウム	第8節 C14	第9節 人骨										
1	1	SE27	7	13R-8D4・9	中世											77							
1	2	SK540	2	14Q-4G4・9	近世	○	○								1	10							
1	3	SK680	1	14Q-3E14・15	近世										2	2							
			2											3	1								
1	4	SK681	7	14Q-3E15・20、3F16	近世										4	1							
1	5	SK682	全体	14Q-3F11・16	近世											4	9						
																			5				
																				6			
																				7	2		
																				8	1		
																				9	1		
																				10	5		
																				11	1		
																				12	5		
																				13	2		
																				14	3		
																				15	2		
																				16	4		
																				17	2		
						1	6	SK683	1	14Q-3E15・20	近世											18	4
																							19
																	20	2					
1	7	SK684	1	14Q-3E13	近世											21	9						
																	22	1					
1	8	SK686	1	14Q-3E13	近世											22	1						
																	23	1					
1	9	SK687	1	14Q-3E7	近世											24	9						
																	25	8					
1	10	SK688	1	14Q-3E12	近世											26	1						
																	27	1					
1	11	SK691	1	14Q-3E13・14	近世											27	1						
																	28	3					
																	29	2					
1	12	SK692	1	14Q-3E14	近世											30	3						
																	31	6					
1	13	SK694	1	14Q-3E14	近世											11	1						
1	14	SK705	1	14Q-3F16・17	近世											32	2						
																	33						
																	34	1					
																	35	2					
																	36	2					
1	15	SK706	1	14Q-3F12・17	近世											37	4						
																	38	3					
																	39	1					
																	40	5					

第1節 はじめに

区	地点番号	遺構	層位	グリッド	時代	分析種別・分析番号・分析機関								土葬数	
						第2節 植物珪酸体	第3節 花粉	第4節 種実	第5節 樹種	第6節 漆膜	第7節 リン・カルシウム	第8節 C14	第9節 人骨		
						古環境	バレオ	古環境	元興寺	古環境	加速器	新潟医療福祉大			
1	16	SK707	1	14Q-3F17・18・22・23	近世								41	20	
			3											42	8
			4											43	10
			6					14						44	7
1	17	SK708	4	14Q-3E14	近世								45	3	
			6					15						46	1
1	18	SK734	2	14Q-3D20	近世								47	1	
1	19	SX885	2	14R-2A24	近世	○	○			2				5	
1	20	SD127	3	13Q-9J22	近世	4	4								
1	21	SD133	1	13Q-9J24	近世	5	5								
1	22	SD446	3	13Q-9I17	中世	○	○								
1	23	SD703	1	14Q-3E12	近世								48		
1	24	SZ865 (SD2)	2	14R-2A14・19・20	中世	2	2							6	
			3						4					9	
			5	14R-2A15・18・20・25、3A4					16			2		49	
			8											4	
			9			3	3						2		
1	26	SZ865 (ST1)	c	14R-2A19・20・24・25	中世						1			3	
			f			1	1	1				3			1
								5							3
1	27	NR500	4	14R-1D3	古代	6	6								
1	28	-	IV	14Q-2J15	古代～中世	7	7								
1	29	-	Va	14R-3A5						4					
1	30	-	Va	14R-3B1						5					
			1	14S-8A7	中世									50	
			2												23
			5												11
			7			○	○								5
2	32	SE23	6	14R-9J9・10	近世	○	○							6	
2	33	SE136	4	14R-6I25、7I5	中世	8	8		17					28	
			2	14R-7I14・19	中世			6	18					48	
			5			○	○								
			4	14S-8A21、9A1	近世									3	
			5			○	○								2
			8					7	19						22
2	36	SE351	1	14R-8I5・10、8J1	近世								52	218	
			9					8	20					24	
2	37	SE382	7	14R-8I8・9	中世	○	○							5	
2	38	SE392	2	14S-9A1・6	近世								53	33	
			3	14R-5G10	中世									5	
			8			9	9	9		21					4
			11										3		10
2	40	SE434	11	14R-5G18・22・23	中世	○	○	10						6	
2	41	SE444	11	14R-7J22・23、8J2・3	近世	○	○							2	
2	42	SE446	10	14R-6I22・23、7I2・3	中世	10	10		22		4			2	
2	43	SE449	6	14R-9I15	近世				23		5			1	
2	44	SE519	13	14R-6G19	中世			11	24		6			7	
2	45	SE647	10	14R-9H20、9I16	中世			12	25					2	
2	46	SE709	7	14R-8I16・21	近世	11	11		26					2	
			2	14R-8G13	中世			13						5	
			7			○	○								2
			1	14R-9I9・14	近世				27					11	
			12					14	28.29				7		3
2	49	SE783	10	14R-6F9・10・14・15	中世			15	30		8			9	
2	50	SE818	7	14R-7I25、7J21	近世	○	○							1	
2	51	SE846	5	14R-8I10	近世	○	○								
2	52	SE847	9	14R-8I10、8J6	中世	○	○								
2	53	SE1022	6	14R-10E9	中世			16	31					1	
2	54	SE1027	7	14R-7D17	中世			17	32					2	
2	55	SE1028	7	14R-8C5	中世			18	33					2	
			3	14R-9F4・5	中世			19						2	
			7			○	○								2
2	57	SE1409	5	14R-6F16・17	中世	12	12		34					2	
2	58	SE1509	8	14R-10F5、10G1	中世	○	○							2	
			1	14R-7H25、8H5	近世									54	
			2												18
			3												55
			4					35						6	
2	60	SK556	4	14R-8H7	近世									57	
2	61	SK557	4	14R-8H2	近世									4	
			1	14R-8D1	近世									59	
			2												1
			1	14R-9E8	近世									61	
			2												1
			3												62
			4												63
2	64	SD81	2	14R-7J10	中世	○	○							2	
2	65	SD860	1	14R-7J12	中世	15	15								
2	66	SD865	2	14R-7I1	中世	16	16								
2	67	SD940	1	14R-9G11	近世								65	2	
2	68	SD1615	5	14R-9A13	中世	17	17								
2	69	SZ2013 (SD1622)	2	14R-7E1・2・6・7、6E21・22	中世	14	14							8	
			a区	5	14R-7E1	中世									
			c区	1					36	○					3
				2							6				1
			d区	4											66
			g区	1	14R-7E1・2									1	
				2	14R-7E1・2						9			6	
2	71	-	VII	14R-9I14							10			19	
2	72	-	Va	14R-7E1						7					

第2節 細池寺道上遺跡における植物珪酸体分析

杉山 真二

A はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO_2) が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている〔杉山 2000〕。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である〔藤原・杉山 1984〕。

ここでは、細池寺道上遺跡における農耕、植生さらに環境を推定する目的で植物珪酸体分析を実施した。

B 試料

分析試料は、方形区画墓(主体部、周溝など)、畑畝間、道路状遺構、旧河道、包含層などから採取された計 17 点である。試料の詳細を分析結果図に示す。

C 分析方法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法〔藤原 1976〕を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105°C で 24 時間乾燥(絶乾)
- 2) 試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加(0.1mg の精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法(550°C・6 時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10 分間)による分散
- 5) 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重(1.0 と仮定)と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重)をかけて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる〔杉山 2000〕。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

D 分析結果

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第 6 表および第 18 図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。なお、イネ以外のイネ科栽培植物(ムギ類、ヒエ、アワ、キビなど)に由来する植物珪酸体は、いずれの試料からも検出されなかった。

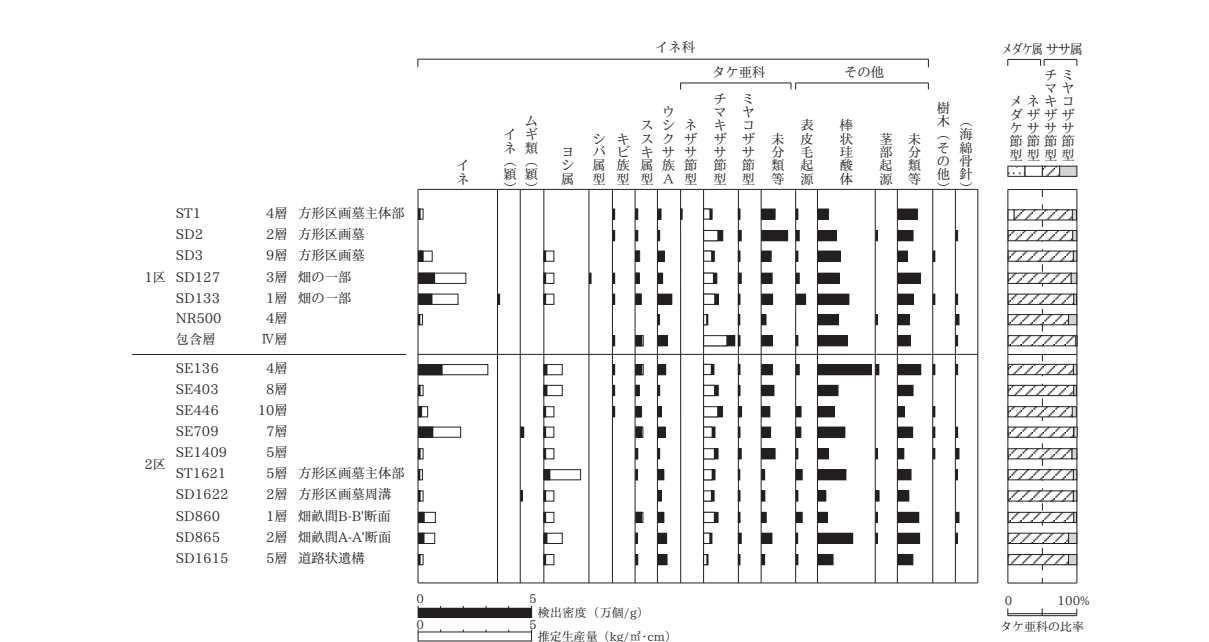
〔イネ科〕

イネ、イネの籾殻(穎の表皮細胞)、ムギ類(穎の表皮細胞)、ヨシ属、シバ属型、キビ族型、ススキ属型(おもにススキ属)、ウシクサ族 A(チガヤ属など)

第6表 細池寺道上遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)		地点・試料																	
分類群	学名	1区							2区										
		ST1	SD2	SD3	SD127	SD133	NR500	包含層	SE136	SE403	SE446	SE709	SE1409	ST1621	SD1622	SD860	SD865	SD1615	
イネ科	Gramineae																		
イネ	<i>Oryza sativa</i>	7		21	73	61	6		107	7	14	65	7	6	7	26	25	7	
イネ籾殻 (穎の表皮細胞)	<i>Oryza sativa</i> (husk Phytolith)						7												
ムギ類 (穎の表皮細胞)	<i>Hordeum-Triticum</i> (husk Phytolith)											13			7				
ヨシ属	<i>Phragmites</i>			7	7	7					13	13	7	7	26	7	7	13	
シバ属型	<i>Zoysia</i> type				7														
キビ族型	Paniceae type				7	7			7	7	7	7							
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	7	7	14	13	20			27	27	13	21	26	7	6		26	6	
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	13	7	28	20	61	6	41	34	7	14	33	7	26	14	26	38	40	
タケ亜科	Bambusoideae																		
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	7																	
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	39	87	49	60	68	19	142	47	67	86	52	66	52	48	66	38	20	
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	7	13	7	13	7	6	7	7	7	14	7	13	6	7	7	13	7	
未分類等	Others	59	114	42	46	48	19	47	47	54	36	39	59	13	14	20	45	13	
その他のイネ科	Others																		
表皮毛起源	Husk hair origin	7	13	7	13	41		7	13		21	20	7	26	7	26	6	7	
棒状珪酸体	Rodshaped	46	80	98	93	136	90	129	235	88	71	118	46	123	34	40	153	66	
茎部起源	Stem origin			7			6		13				7		14	7	6		
未分類等	Others	85	67	42	99	68	51	54	101	67	29	65	26	58	48	92	96	66	
樹木起源	Arboreal																		
その他	Others			7		7			7		7	7	7						
(海綿骨針)	Sponge spicules		7			7	13	7	7			7	13	6		13	6		
植物珪酸体総数	Total	282	402	323	451	539	205	461	658	330	328	452	256	344	205	344	439	239	

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m ² ・cm) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出	
イネ	<i>Oryza sativa</i> 0.19
ヨシ属	<i>Phragmites</i> 0.44
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type 0.08
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i> 0.03
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc. 0.29
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i> 0.02
メダケ率	Medake ratio 9



第18図 細池寺道上遺跡における植物珪酸体分析結果

[イネ科-タケ亜科]

ネザサ節型 (おもにメダケ属ネザサ節)、チマキザサ節型 (ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型 (ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体 (おもに結合組織細胞由来)、茎部起源、未分類等

[樹木]

その他

E 考 察

1) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネをはじめムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジユズダマ属型（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはイネ、ムギ類が検出された。

(1) イネ

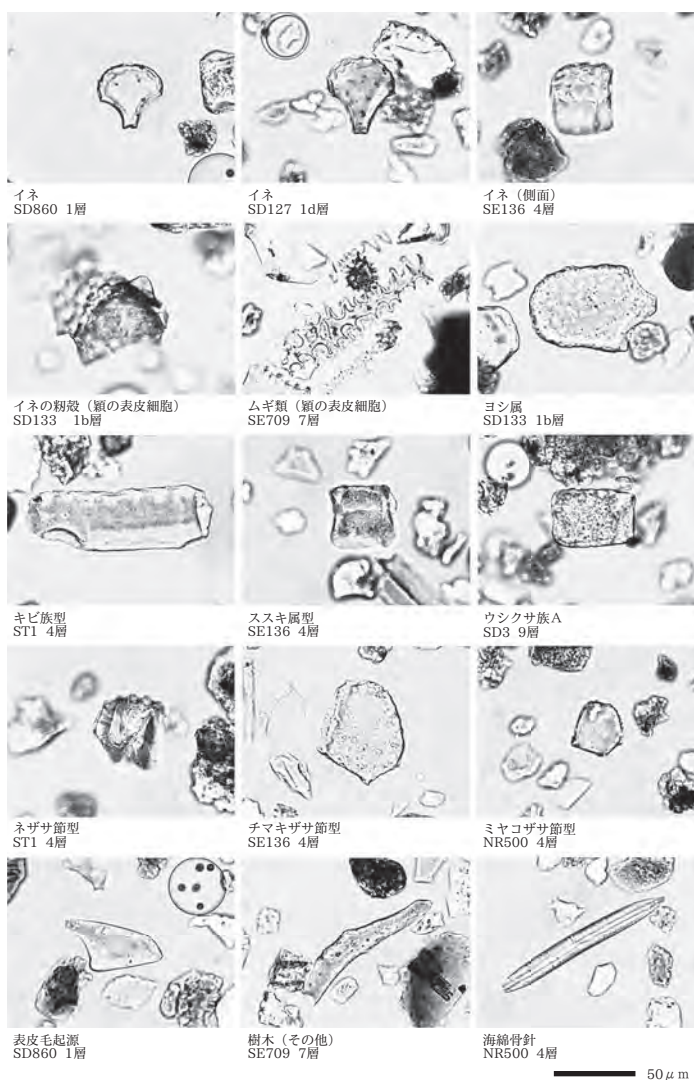
イネは、分析を行った試料 1～試料 17 の計 17 試料のうち、試料 2（1 区 SD2: 方形区画墓）と試料 7（1 区 包含層: IV 層）を除く 15 試料から検出された。このうち、試料 4（1 区 SD127 3 層: 畑の一部）、試料 5（1 区 SD133 1 層: 畑の一部）、試料 8（2 区 SE136 4 層）、試料 11（2 区 SE709 7 層）では密度が 6,100～10,700 個/g と高い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている 5,000 個/g を上回っている。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

その他の 11 試料のうち、畑畝間（2 区 SD860 1 層、2 区 SD865 2 層）では密度が 2,500～2,600 個/g と比較的低い値であり、その他の 9 試料では 600～2,100 個/g と低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。なお、畑稲作（陸稲栽培）の場合は、連作障害や地力の低下を避けるために輪作を行ったり休閑期間をおく必要があるため、イネの密度は水田跡と比較してかなり低くなり、1,000～2,000 個/g 程度である場合が多い〔杉山 2000〕。

また、方形区画墓主体部（1 区 ST1 4 層、2 区 ST1621 5 層）などの遺構内でもイネが検出されたが、これらのイネについては何らかの形で利用された稲藁に由来する可能性が考えられる。稲藁の利用としては、建物の屋根材や壁材、藁製品（俵、縄、ムシロ、草履など）および燃料など多様な用途が想定される。

(2) ムギ類

ムギ類（穎の表皮細胞）は、2 区 SE709 の 7 層、2 区 SD1622 の 2 層（方形区画墓周溝）から検出された。密度は 1,300 個/g および 700 個/g と低い値である。このことから、当時は周辺でムギ類の栽培が行われており、そこから何らかの形でムギ類（穎の表皮細胞）に由来する植物珪酸体が混



第 19 図 細池寺道上遺跡の植物珪酸体（プラント・オパール）

入したと考えられる。

なお、イネ科栽培植物の中には検討が不十分なものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

2) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群では、ほとんどの試料でチマキザサ節型が比較的多く検出され、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族 A、ミヤコザサ節型なども認められた。また、部分的にキビ族型、樹木（その他）なども検出された。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねチマキザサ節型が優勢であり、部分的にヨシ属も比較的多くなっている。

以上の結果から、各試料の堆積当時は、おおむねヨシ属が生育するような比較的湿潤な環境であったと考えられ、周辺の乾燥したところにはササ属（おもにチマキザサ節）、ススキ属、ウシクサ族、キビ族などが生育していたと推定される。ササ属のうち、ミヤコザサ節は太平洋側の積雪の少ないところに分布しており冬季の乾燥に適應しているが、チマキザサ節やチマキザサ節は日本海側の多雪地帯に分布しており冬季の乾燥に弱い〔室井 1960、鈴木 1996〕。ここでは後者が優勢であることから、当時は積雪（降水量）が比較的多かった可能性が考えられる。

F ま と め

植物珪酸体分析の結果、畑の一部（SD127・SD133）、および SE136 や SE709 の試料では、イネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、畑畝間の試料などでもイネが検出され、稲作が行われていた可能性が認められた。方形区画墓主体部などの遺構内でもイネが検出されたが、これらのイネについては何らかの形で利用された稲藁に由来する可能性が考えられる。さらに、SE709 や SD1622（方形区画墓周溝）ではムギ類（穎の表皮細胞）が検出され、周辺でムギ類が栽培されていた可能性も認められた。

各試料の堆積当時は、おおむねヨシ属が生育するような比較的湿潤な環境であったと考えられ、周辺の乾燥したところにはササ属（おもにチマキザサ節）、ススキ属、ウシクサ族、キビ族などが生育していたと推定される。

第3節 細池寺道上遺跡における花粉分析

金原正子

A はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。しかし、風媒花や虫媒花などの散布能力などの差で、庭園などの狭い範囲の植生に由来する結果が得られるなど、陸上の堆積物が分析に適さないわけではない。

ここでは、細池寺道上遺跡における植生と環境を推定する目的で花粉分析を実施した。

B 試料

分析試料は、方形区画墓（主体部、周溝など）、畑畝間、道路状遺構、旧河道、包含層などから採取された計 17 点である。試料の詳細を分析結果図に示す。

C 分析方法

花粉の分離抽出は、〔中村 1967〕の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 試料から 1cm³ を採量
- 2) 0.5% リン酸三ナトリウム (12 水) 溶液を加え 15 分間湯煎
- 3) 水洗処理の後、0.25mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 4) 25% フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置
- 5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理 (無水酢酸 9 : 濃硫酸 1 のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎) を施す
- 6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- 7) 沈渣にチール石炭酸フクシン染色液を加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製
- 8) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 300 ~ 1000 倍で行った。花粉の分類は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン (-) で結んで示した。同定分類には所有の現生花粉標本、〔島倉 1973〕、〔中村 1980〕を参照して行った。イネ属については、〔中村 1974、1977〕を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。

D 分析結果

1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉 15、樹木花粉と草本花粉を含むもの 3、草本花粉 20、シダ植物孢子 2 形態の計 40 である。これらの学名と和名および粒数を第 7 表に示し、花粉数が 200 個以上計数できた試料については、周辺の植生を復原するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを第 20 図に示す。なお、200 個未満であっても 100 個以上計数できた試料については傾向をみるため参考に図示し、主要な分類群は顕微鏡写真に示した。同時に寄生虫卵についても観察したが検出されなかった。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

モミ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属—アサダ、クリ、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属—ケヤキ、トチノキ、ハイノキ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科—イラクサ科、マメ科、ニワトコ属—ガマズミ属

〔草本花粉〕

ガマ属—ミクリ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、タデ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、ソバ属、アカザ科—ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、キカシグサ属、アリノトウグサ属—フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、ヒルガオ、シソ科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物孢子〕

単条溝孢子、三条溝孢子

2) 花粉群集の特徴

花粉構成と花粉組成の特徴をそれぞれ記載する。(第 20 図)

(1) 1 区 (ST1 4 層 : No.1 ~ 包含層 IV 層 : No.7)

・ ST1 4 層 (No.1) : 中世

花粉含有量は極めて低く、わずかにハンノキ属、アブラナ科が出現する。

第3節 細池寺道上遺跡における花粉分析

・SD2 2層 (No.2) : 中世

草本花粉の占める割合が高く、76%を占める。草本花粉では、ヨモギ属が高率に出現し、イネ科(イネ属型を含む)、アブラナ科、ソバ属が伴われる。他にカヤツリグサ科、ナデシコ科、タンポポ科が低率に出現する。樹木花粉では、マツ属複雑管束亜属、ハンノキ属が出現する。

・SD3 9層 (No.3) : 中世

花粉はほとんど検出されないが、わずかにヨモギ属、イネ科、アブラナ科、ソバ属、コナラ属コナラ亜属などが出現する。イネ科の集塊が認められる。

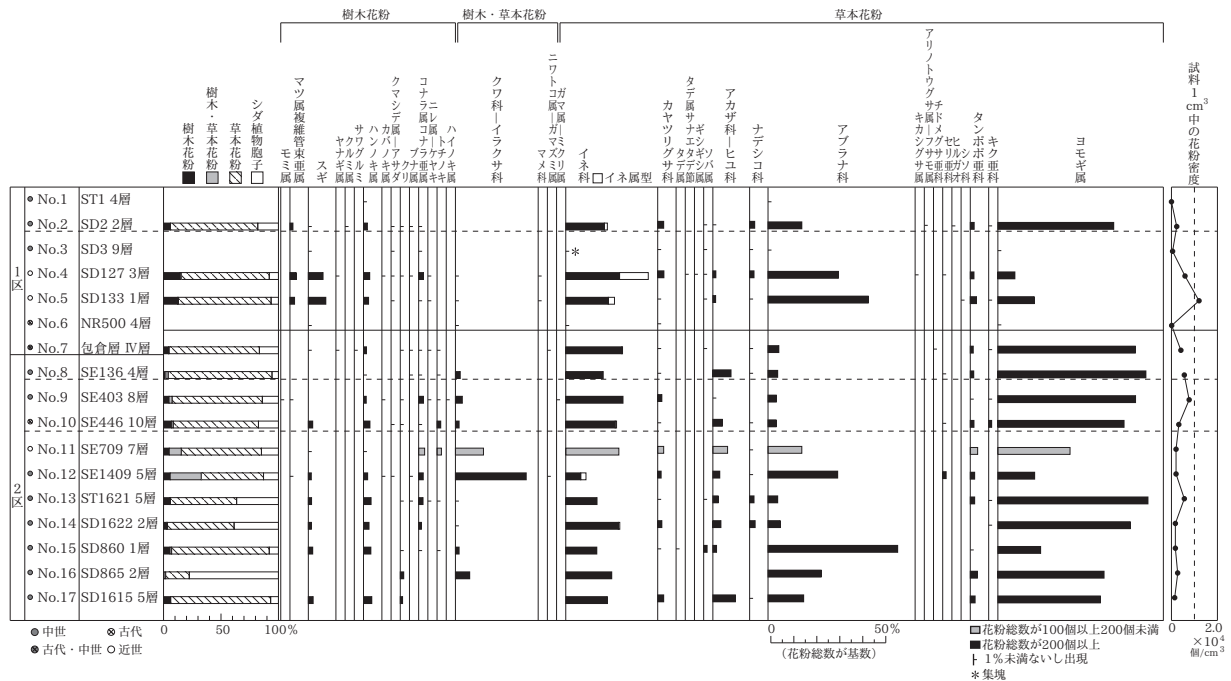
・SD127 3層 (No.4) : 近世

草本花粉の占める割合が高く、77%を占める。草本花粉では、イネ科(イネ属型を含む)、アブラナ科の出現率が高く、ソバ属も出現する。樹木花粉では、スギ、マツ属複雑管束亜属、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属が出現する。

第7表 細池寺道上遺跡における花粉分析結果

学名	和名	1区						2区											
		No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16	No.17	
		ST1 4層	SD2 2層	SD3 9層	SD 127 3層	SD 133 1層	NR 500 4層	包倉層 IV層	SE 136 4層	SE 403 8層	SE 446 10層	SE 709 7層	SE 1409 5層	ST 1621 5層	SD 1622 2層	SD 860 1層	SD 865 2層	SD 1615 5層	
Arboreal pollen	樹木花粉																		
<i>Abies</i>	モミ属									1									
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属			3	10	8				1			3						
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ		2	1	24	31	1	2			6	1	5	3	2	6		4	
<i>Salix</i>	ヤナギ属				1			1											
<i>Juglans</i>	クルミ属		1																
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ							1											
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1	4		10	9		4	3	4	9	1	7	7	4	10		7	
<i>Betula</i>	カバノキ属				1					1			2						
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ		1	1	1	1					2								
<i>Castanea crenata</i>	クリ		2		1			2		1	3			1		1	1	2	
<i>Fagus</i>	ブナ属		2		1			2	2				1	1					
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属		2	2	8	3		2	1	7	2	4	8	4	2	1			
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ				2	1		2		1				1					
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ							1	1	2	5	3		1		1			
<i>Symplocos</i>	ハイノキ属									1									
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉																		
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科				1	1	1		7	10	5	19	123	2	1	5	4		
Leguminosae	マメ科				3	2													
<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニワトコ属-ガマズミ属							1					1						
Nonarboreal pollen	草本花粉																		
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属										1								
Gramineae	イネ科			39	6*	88	75	1	77	54	84	68	36	26	29	39	42	13	35
<i>Oryza type</i>	イネ属型		3		47	11	1	1				2	9		1				
Cyperaceae	カヤツリグサ科		6	1	10	2	2	2	2	6	2	4	6	1	3	1		5	
<i>Polygonum</i>	タデ属															1			
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節				2														
<i>Rumex</i>	ギンギン属				1														
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属		1	1	2	1		2						1		3			
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科		2		5	5			26	1	13	10	12	5	6	5		19	
Caryophyllaceae	ナデシコ科		5	2	7	1		3	2		3	1	1	4	4			1	
Cruciferae	アブラナ科	1	34	4	115	177		15	14	12	11	23	121	9	9	176	15	30	
<i>Rotala</i>	キサシグサ属				1														
<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属		1																
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科							3											
Apioidae	セリ亜科				1						3			6					
<i>Calystegia japonica</i>	ヒルガオ		1																
Labiatae	シソ科					1													
Lactuicoideae	タンポポ科		4		6	11		4	5	1	5	5	4	4		2	2	4	
Asteroidae	キク亜科		2			2		2		1	4			1	1				
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属		117	22	28	64	2	189	213	202	174	49	64	139	98	58	30	86	
Fern spore	シダ植物胞子																		
Monolate type spore	単条溝胞子	3	39	27	20	15	9	47	13	33	33	21	49	120	104	16	223	7	
Trilate type spore	三条溝胞子	12	3	13	13			16	7	22	34	6	11	2	3	11	3	7	
Arboreal pollen	樹木花粉	1	17	4	59	53	1	17	7	19	27	9	27	18	8	19	1	13	
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	0	0	4	3	1	1	7	10	5	19	124	2	1	5	4	0	
Nonarboreal pollen	草本花粉	1	215	36	313	350	6	298	317	308	285	128	249	193	161	288	60	180	
Total pollen	花粉総数	2	232	40	376	406	8	316	331	337	317	156	400	213	170	312	65	193	
Pollen frequencies of 1cm ³	試料1cm ³ 中の花粉密度	1.2	2.3	4.9	5.9	1.2	1.0	4.1	5.6	7.7	3.2	2.0	5.6	1.7	1.7	2.7	2.0	1.4	
Unknown pollen	未同定花粉	0	5	1	6	2	1	5	4	4	3	0	8	2	5	2	2	2	
Fern spore	シダ植物胞子	3	51	30	33	28	9	63	20	55	67	27	60	122	107	27	226	14	
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
Stone cell	石細胞	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
Charcoal・woods fragments	微細炭化物・微細木片	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(++)	(++)	(++)	(+)	(-)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	
微細植物遺体 (Charcoal・woods fragments)	(×10 ⁵)																		
未分解遺体片						0.5					0.7				0.4		0.7	0.4	
分解質遺体片		3.4	17.5	1.4	9.9	23.5	2.5	34.6	55.7	66.5	36.0	18.3	10.2	30.9	16.6	23.0	22.6	16.8	
炭化遺体片 (微粒炭)					0.4			0.4		3.4	1.0	1.1						0.4	

*集塊



第 20 図 細池寺道上遺跡における花粉ダイアグラム

・SD133 1 層 (No.5) : 近世

草本花粉の占める割合が高く、81% を占める。草本花粉では、アブラナ科の出現率が高く、イネ科 (イネ属型を含む)、ヨモギ属が伴われ、ソバ属も出現する。樹木花粉では、スギ、マツ属複雑管束亜属、ハンノキ属が出現する。

・NR500 4 層 (No.6) : 古代

花粉含有量は極めて低く、わずかにヨモギ属、カヤツリグサ科などが出現する。

・包含層 IV層 (No.7) : 古代・中世

草本花粉の占める割合が高く、79% を占める。ヨモギ属が高率に出現し、次いでイネ科が多く、アブラナ科、ソバ属が伴われる。

(2) 2 区 (SE136 4 層 : No.8 ~ SD1615 5 層 : No.17)

・SE136 4 層 (No.8) : 中世

草本花粉の占める割合が高く、90% を占める。ヨモギ属が高率に出現し、イネ科、アカザ科-ヒユ科、アブラナ科が伴われる。

・SE403 8 層 (No.9) : 中世

草本花粉の占める割合が高く、79% を占める。ヨモギ属が高率に出現し、次いでイネ科が多くアブラナ科、カヤツリグサ科が低率に伴われる。樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科、樹木花粉のコナラ属コナラ亜属が低率に出現する。

・SE446 10 層 (No.10) : 中世

草本花粉の占める割合が高く、74% を占める。ヨモギ属が高率であり、次いでイネ科 (イネ属型を含む) が多く、アカザ科-ヒユ科、アブラナ科が低率に出現する。樹木花粉では、ハンノキ属、トチノキ、スギが出現する。

・SE709 7 層 (No.11) : 近世

花粉密度は低い。草本花粉の占める割合が高く、70% を占める。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科を主にアブラナ科、アカザ科-ヒユ科、カヤツリグサ科、タンポポ亜科が出現し、樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科がやや多い。

・SE1409 5層 (No.12) : 中世

草本花粉の占める割合が高く、54%を占め、樹木・草本花粉が27%を占める。草本花粉では、アブラナ科の出現率が高く、ヨモギ属、イネ科(イネ属型を含む)が伴われる。樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科の出現率も高い。

・ST1621 5層 (No.13) : 中世

草本花粉の占める割合が高く、58%を占め、シダ植物胞子が36%を占める。草本花粉では、ヨモギ属が高率に出現し、イネ科、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科、ソバ属が伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、スギが出現する。

・SD1622 2層 (No.14) : 中世

草本花粉の占める割合が高く、58%を占め、シダ植物胞子が39%を占める。ヨモギ属が高率に出現し、次いでイネ科(イネ属型を含む)が多く、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科が低率に出現する。樹木花粉では、ハンノキ属、スギ、コナラ属コナラ亜属が出現する。

・SD860 1層 (No.15) : 中世

草本花粉の占める割合が高く、85%を占める。アブラナ科が高率に出現し、次いでヨモギ属、イネ科が多く、ソバ属、アカザ科-ヒユ科が伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属、スギが出現する。

・SD865 1層 (No.16) : 中世

シダ植物胞子が78%を占め、草本花粉が21%を占める。草本花粉では、ヨモギ属が高率に出現し、イネ科、アブラナ科の出現率も高い。樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科も比較的多い。

・SD1615 5層 (No.17) : 中世

草本花粉の占める割合が高く、87%を占める。草本花粉では、ヨモギ属を主にイネ科、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科の出現率が高く、カヤツリグサ科、タンポポ亜科が低率に出現する。樹木花粉では、ハンノキ属、スギ、クリが出現する。

E 考 察

1) 花粉分析から推定される植生と環境

各地点において花粉群集の特徴から、植生および環境の復原を行う。

(1) 1区 (ST1 4層~包含層 IV層)

・ST1 4層 : 中世

花粉がほとんど検出されず、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥した堆積環境であったか、堆積速度が速かったと推定される。

・SD2 2層 : 中世

SD2の周囲には、ヨモギ属、イネ科、アブラナ科などの草本が繁茂しており、陽当たりの良い乾燥した環境であったとみなされる。アブラナ科には多くの栽培植物が含まれ、ソバ属やイネ属型も出現することから、調査地の周囲には畑や水田の分布が示唆される。周辺に樹木は少なく、マツ属複雑管束亜属やハンノキ属が孤立木として生育していたか、やや遠方に生育していたと考えられる。

・SD3 9層 : 中世

花粉はほとんど検出されず、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥した堆積環境であったと考えられる。わずかに検出されるヨモギ属、イネ科などは、SD3の周囲に生育するとみなされ、栽培植物のソバ属や、栽培植物を多く含むアブラナ科が出現することから、周辺にこれらを作物とする畑の分布が示唆される。周辺に樹木は少なくコナラ属コナラ亜属が生育する。

・SD127 3層：近世

イネ属型、アブラナ科の出現率が高く、ソバ属の出現さらにナデシコ科、アカザ科－ヒユ科などの耕地雑草が伴われることから、アブラナ、ソバなどの畑作や水田耕作が集約的に行われたと推定される。SD127の周囲には、ヨモギ属、イネ科などが生育し、陽当たりの良い乾燥した環境であったと推定される。周辺にはハンノキ属、コナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹が生育し、近隣にはマツ属複雑管束亜属の二次林やスギ林が分布する。

・SD133 1層：近世

アブラナ科の出現率が高く、ソバ属も出現することから、集約的な畑作が行われ、水田も分布する。SD133の周囲にはヨモギ属、イネ科などが生育し、陽当たりの良い乾燥した環境であったと推定される。近隣の森林植生は、マツ属複雑管束亜属の二次林とスギ林が分布する。

・NR500 4層：古代

花粉はほとんど検出されず、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥した堆積環境であったか、堆積速度が速かったと推定される。

・包含層 IV層：古代・中世

調査地は、ヨモギ属を主要素とし、イネ科、アブラナ科、シダ植物孢子などの草本が繁茂する陽当たりの良い乾燥した草地の環境が推定される。また、ソバ属が検出され、ソバの畑の分布も示唆される。

(2) 2区 (SE136 4層～SD1615 5層)

・SE136 4層：中世

ヨモギ属が高率に出現し、イネ科、アカザ科－ヒユ科が伴われることから、SE136周囲は陽当たりの良い乾燥した草地の環境が推定される。また、アカザ科－ヒユ科は畑作雑草の性格を持ち、アブラナ科には多くの栽培植物が含まれることから、アブラナなどの畑の分布も示唆される。

・SE403 8層：中世

ヨモギ属の出現率が高いことから、SE403の周囲は陽当たりの良い乾燥した環境であり、イネ科、アカザ科－ヒユ科、クワ科－イラクサ科の草本（ここでは荒れ地に野生するカナムグラなど）が混在する乾燥した草地の環境が推定される。

・SE446 10層：中世

ヨモギ属の出現率が高く、SE446の周囲は陽当たりの良い乾燥した環境であり、イネ科、アカザ科－ヒユ科、アブラナ科などの草本が混在する草地の環境が推定される。周辺に樹木は少ないが、河辺林や湿地林を形成するハンノキ、トチノキが生育する。

・SE709 7層：近世

ヨモギ属の出現率が高いことから、SE709の周囲は陽当たりの良い乾燥した環境であり、イネ科、カナムグラなどのクワ科－イラクサ科の草本が繁茂する乾燥した草地の環境が推定される。畑作雑草のアカザ科－ヒユ科を伴い栽培植物を多く含むアブラナ科の比率がやや高いことから、周辺にアブラナなどの畑の分布が示唆される。

・SE1409 5層：中世

栽培植物を多く含むアブラナ科が、畑作雑草のアカザ科－ヒユ科を伴い高率に出現することから、SE1409の周辺には、アブラナなどを作物とする畑が分布していたとみなされる。また、イネ属型も出現することから水田の分布も示唆される。クワ科－イラクサ科の出現率が高く、SE1409の周囲にカナムグラやカラムシなどのクワ科、イラクサ科の草本が近接して繁茂していたか、クワなどの樹木の花序がそのまま落下して混入するほど近くに生育していたと考えられる。

・ST1621 5層：中世

乾燥した環境を好むヨモギ属やシダ植物孢子の出現率が高い。ST1621の周囲は、陽当たりの良い乾燥した草地の環境が推定される。栽培植物であるソバ属や、栽培植物を多く含むアブラナ科がアカザ科－ヒユ科などの畑

作雑草を伴い出現することから、畑の分布も示唆される。周辺には、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹が孤立木ないし疎林の状態で生育していた。

・SD1622 2層：中世

ヨモギ属の出現率が高く、SD1622の周囲は陽当たりの良い乾燥した環境であり、イネ科、アカザ科-ヒユ科、アブラナ科などの草本が混在する草地の環境が推定される。周辺に樹木は少ないが、ハンノキ、コナラ属コナラ亜属が生育し、近隣の森林植生としてスギ林が分布する。

・SD860 1層：中世

特徴的にアブラナ科が出現し、ソバ属も伴われることから、SD860の周辺では、アブラナ、ソバなどの畑作が行われていたと推定される。溝の周囲や畑の周囲には、ヨモギ属やイネ科の雑草が生育していたと考えられる。周辺に樹木は少ないが、ハンノキ属が生育し、地域的な森林植生としては、スギ林が分布する。

・SD865 2層：中世

出現率の高いシダ植物孢子、ヨモギ属、イネ科、アブラナ科は、乾燥した環境を好むものばかりであり、SD865の周囲に生育していたとみなされる。溝は、陽当たりの良い乾燥した環境であったと推定される。また、比較的出现率の高いアブラナ科は栽培植物を多く含むことから、アブラナなどの畑作が示唆される。クワ科-イラクサ科はここでは荒地地に野生するカナムグラや、カラムシなどの草本が考えられ、溝の周囲に生育していたとみなされる。

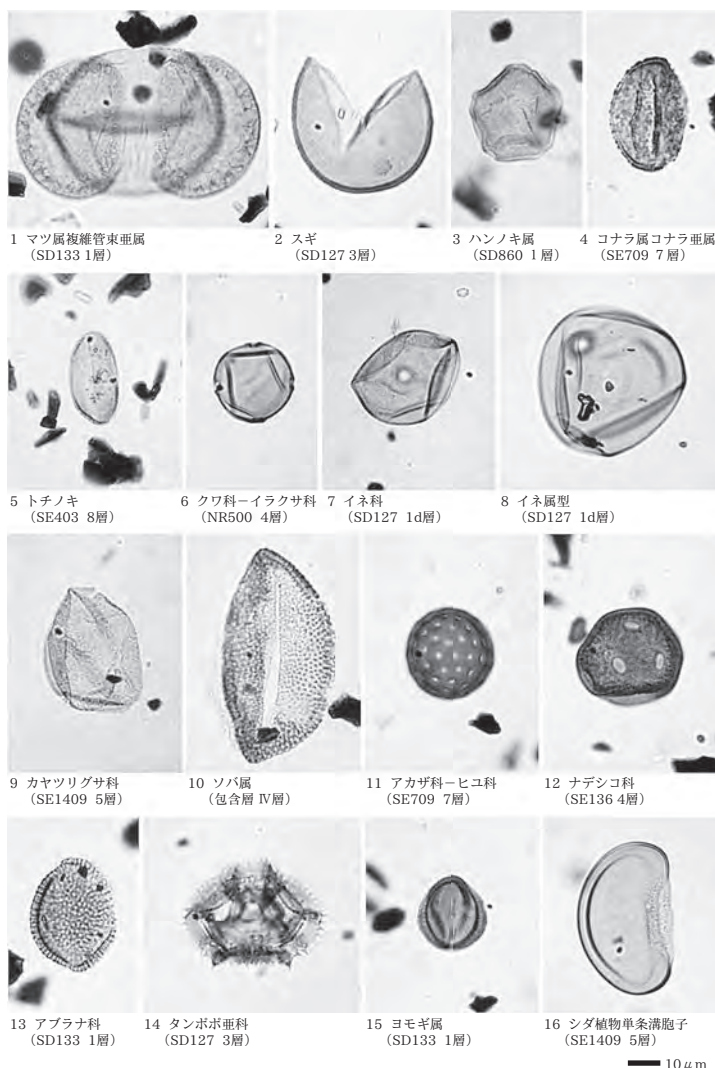
・SD1615 5層：中世

ヨモギ属、イネ科、アカザ科-ヒユ科、アブラナ科の出現率が高く、SD1615の周囲は陽当たりの良い乾燥した草地の環境が推定される。また、アカザ科-ヒユ科は耕地雑草の性格を持ち、栽培植物を多く含むアブラナ科が比較的多いことから、アブラナなどの畑が分布していたと考えられる。周辺には、比較的樹木は少なく、ハンノキ属、クリなどの落葉広葉樹が生育し、地域的な森林植生としては、スギ林が分布する。

2) 各時代の植生、環境の復原

(1) 1区 (ST1 4層～包含層IV層)

古代 (NR500 4層) では、乾燥した環境が示唆され、古代・中世 (包含層IV層) はヨモギ属、イネ科などが繁茂する草地であり、ソバの畑が分布していた。中世 (ST1 4層～SD3 9層) では比較的乾燥した環境が継続し、アブラナ、ソバなどが栽培されていた。近世 (SD127 3層、SD133 1層) になると、アブラナ、ソバなどの畑作や水田が集約的に行われるようになった。ただし、いずれの試料からも寄生虫卵や明らかな消化残渣は検出されず、人糞施肥や生活汚染については言及できない。森林植生としてはマツ属複維管束亜属の二次林とスギ林が分布し、近世 (SD127 3層、SD133 1層) ではスギ林が拡大した。



第21図 細池寺道上遺跡の花粉・孢子

(2) 2区 (SE136 4層～SD1615 5層)

中世 (SE136 4層、SE403 8層、SE446 10層、SE1409 5層～SD1615 5層) では、周囲は陽当たりの良い乾燥した草地の環境で、水田やアブラナ、ソバなどの畑が分布していた。スギが疎林ないしやや遠方に生育し、近隣には河辺や湿地に多いハンノキ、トチノキが生育していた。いずれの試料からも寄生虫卵や明らかな消化残渣は検出されず、人糞施肥や、生活汚染については言及できない。調査地はヨモギ属、シダ植物胞子が多く乾燥した草地の環境になった。近世 (SE709 7層) でも同様な環境が継続した。

F ま と め

細池寺道上遺跡で花粉分析を行い、植生・農耕の復原を行った結果、古代 (1区 NR500 4層) は、比較的乾燥した環境で、ヨモギ属の繁茂とソバなどの畑の分布が推定された。中世 (1区 ST1 4層～SD3 9層、2区 SE136 4層、SE403 8層、SE446 10層、SE1409 5層～SD1615 5層) では、周辺でやや集約性の高いアブラナ、ソバなどの畑作が行われていた。近世 (1区 SD127 3層、SD133 1層、2区 SE709 7層) も中世と同様の環境と農耕が示唆されるが、1区 SD127 3層、SD133 1層ではスギ林の拡大が示唆された。

第4節 細池寺道上遺跡から出土した大型植物遺体

佐々木由香・バンダリ スダルジャン (パレオ・ラボ)

A は じ め に

新潟市秋葉区東金沢に位置する細池寺道上遺跡は、阿賀野川・能代川に挟まれた沖積地に立地する、平安時代～江戸時代を中心とした集落跡である。ここでは、中世もしくは近世の遺構堆積物から得られた大型植物遺体を同定し、食用などに利用された植物や、栽培植物の栽培状況、当時の植生について検討する。

B 試 料 と 方 法

試料は、新潟市文化財センターで水洗された堆積物 19 試料である。北側の 1 区の試料は、中世の井戸 SE27 の 7 層、中世の区画墓である SZ865 (SD3) の 3 層、SZ865 (ST1) の 1 層、近世の土坑 SK682 の 4 層と井戸 SK706 の 6 層から、南側の 2 区の試料は、中世の井戸 SE137 の 2 層と SE403 の 8 層、SE434 の 11 層、SE519 の 13 層、SE647 の 10 層、SE732 の 2 層、SE783 の 10 層、SE1022 の 6 層、SE1027 の 7 層、SE1028 の 7 層、SE1203 の 3 層、近世の井戸 SE251 の 8 層と SE351 の 9 層、SE734 の 12 層から採取された。

新潟市文化財センターで堆積物の水洗と試料番号単位での大型植物遺体の抽出が行なわれた。水洗量は表を参照されたい。水洗は、5.0mm、2.5mm、1.0mm の篩を用いて行われた。同定可能な分類群の抽出・計数・同定は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても 1 個体とみなせるものは完形として数え、1 個体に満たないものは破片とした。モモは形状により、完形個体、動物食痕、半割、破片に分類した。計数が困難な分類群は、記号 (+) で示した。試料は、新潟市文化財センターに保管されている。

C 結 果

同定した結果、木本植物では針葉樹のスギ球果・雄花序・葉・種子 1 分類群、広葉樹のブドウ属 B 種子とモモ核・炭化核、ウメ炭化核、エノキ属核、クワ属炭化核、アカメガシワ種子・炭化種子、トチノキ炭化種子、サンショウ種子・炭化種子、ニワトコ核の 9 分類群、草本植物ではコウホネ炭化種子とツユクサ種子、ウキヤガラ果実・炭化果実、ホタルイ属果実、メヒシバ属有ふ果、ヒエ有ふ果・炭化有ふ果・炭化種子、ヒエ属有ふ果・炭化有ふ果・炭化種子、イネ籾殻・炭化籾・炭化籾殻・炭化種子、アワ炭化有ふ果・炭化種子、エノコログサ属有ふ果、オオムギ炭化有ふ果・炭化種子、コムギ炭化種子、ムラサキケマン種子、キケマン属種子、キンポウゲ

属果実、ツルマメ炭化種子、ダイズ属炭化種子、ハギ属炭化果実、エンドウ属炭化種子、アズキ炭化種子、ササゲ属アズキ亜属炭化種子、マメ科B炭化種子、アサ核・炭化核、メロン仲間種子、カタバミ属種子、エノキグサ属種子、ソバ炭化果実・炭化子葉、ヤナギタデ果実・炭化果実、イヌタデ果実、イヌタデ属A炭化果実、サナエタデ-オオイヌタデ果実・炭化果実、ギシギシ属果実・炭化果実、ミドリハコベ種子、アカザ属種子、ヤエムグラ属種子、ナス種子、エゴマ果実・炭化果実、シソ属果実の38分類群、シダ植物ではスギナ近似種無性芽1分類群の、計49分類群が見いだされた。この他に、科以上の詳細な同定ができなかった種実を不明A種実・炭化種実とし、不明の芽・炭化芽は一括した。科以上の細分に必要な識別点が残存していない一群を、同定不能炭化種実とした。大型植物遺体以外には、炭化した子嚢菌が得られた。また、現生種実と、同定の対象外とした炭化材と昆虫遺体も得られた(第8・9表)。

以下に、産出した大型植物遺体について遺構別に記載する(不明種実・芽と同定不能種実は除く)。

SE27：木本植物は得られなかった。草本植物では、ヤナギタデが少量、ウキヤガラとホタルイ属、メヒシバ属、ヒエ属、エノコログサ属、コムギ、エノキグサ属がわずかに得られた。

SK682：木本植物は得られなかった。草本植物では、イネがやや多く、メヒシバ属とオオムギがわずかに得られた。

SK706：木本植物は得られなかった。草本植物では、オオムギが約6000点と非常に多く、エンドウ属が少量、コウホネとイネ、コムギがわずかに得られた。

SZ865(SD3)：木本植物は得られなかった。草本植物では、ヤナギタデが少量、ヒエとササゲ属アズキ亜属、イヌタデがわずかに得られた。

SZ865(ST1)：木本植物は得られなかった。草本植物では、イヌタデが少量、メヒシバ属とエノキグサ属、ヤナギタデがわずかに得られた。

SE137：木本植物では、クワ属がわずかに得られた。草本植物では、メヒシバ属とヒエ属、イネが少量、ホタルイ属、アワ、オオムギ、コムギ、マメ科B、エノキグサ属、ソバ、ヤナギタデ、イヌタデがわずかに得られた。

SE251：木本植物は得られなかった。草本植物では、ウキヤガラとメヒシバ属、ヒエ属、イネ、オオムギ、コムギ、ダイズ属、ササゲ属アズキ亜属、ヤナギタデがわずかに得られた。

SE351：木本植物では、アカメガシワとサンショウが少量、ウメとクワ属、ニワトコがわずかに得られた。草本植物では、メヒシバ属とヒエ属、オオムギ、コムギ、ササゲ属アズキ亜属、マメ科B、エノキグサ属が少量、ウキヤガラとイネ、アワ、ダイズ属、ソバ、ヤナギタデ、イヌタデ、アカザ属がわずかに得られた。

SE403：木本植物は得られなかった。草本植物では、メヒシバ属とヒエ属が少量、ヤナギタデがわずかに得られた。

SE434：木本植物は得られなかった。草本植物では、ヒエ属とイネが少量、オオムギとコムギ、アズキ、ササゲ属アズキ亜属、ソバがわずかに得られた。

SE519：木本植物では、モモとクワ属がわずかに得られた。草本植物では、アサとイヌタデが多く、アカザ属がやや多く、ツユクサとヒエ、イネ、オオムギが少量、ウキヤガラとヒエ属、ササゲ属アズキ亜属、サナエタデ-オオイヌタデ、エゴマがわずかに得られた。この他の分類群は2点以下の産出数であった。2点以下の分類群のうち、栽培植物としてはアワとコムギ、アズキ、メロン仲間、ソバ、ナスが得られた。

SE647：木本植物は得られなかった。草本植物では、ヒエ属とイネがわずかに得られた。

SE732：木本植物では、クワ属がわずかに得られた。草本植物では、イネが少量、ヒエとヒエ属、アワ、オオムギ、エンドウ属、ササゲ属アズキ亜属、マメ科Bがわずかに得られた。

SE734：木本植物ではスギとニワトコが多く、ブドウ属Bとモモ、エノキ属、アカメガシワ、サンショウがわずかに得られた。草本植物ではギシギシ属が非常に多く、ミドリハコベが多く、ムラサキケマンとメロン仲間、カタバミ属、エノキグサ属、アカザ属、シソ属が少量、イネとオオムギ、コムギ、キケマン属、キンポウゲ属、アサ、

第8表 細池寺道上遺跡から出土した炭化種実(1) (括弧内は破片数)

試料No. 区 遺構	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
	SE27	SK682	SK706	SZ865 (SD3)	SZ865 (ST1)	SE137	SE251	SE351	SE403			
グリッド	13R-8D4・9	14Q-3F11・ 16	14Q-3F12・ 17	14R-2A15・18・ 20・25,3A4	14R-2A19 ・20・24・25	14R-7I14・19	14S-8A21 9A1	14R-8I5・10 8J1	14R-5G10			
小区	—	2G	—	—	f区	—	—	—	—			
層位	7	4	6	3	1	2	8	9	8			
時期	中世	近世		—	中世	—	近世		中世			
分類群	水洗量 (g)	1925	500	125	225	500	1200	550	600	100		
ウメ	炭化核								(1)			
クワ属	炭化核							2	1			
アカメガシワ	種子								3 (11)			
サンショウ	炭化種子								(15)			
ニワトコ	核								(1)			
コウホネ	炭化種子			1								
ウキヤガラ	果実	1							1			
	炭化果実							2				
ホタルイ属	果実	1							1			
メヒシバ属	有ふ果	1	2				3	24	8	10	58	
ヒエ	有ふ果				1							
ヒエ属	有ふ果	6							48	1	12 (1)	10
	炭化種子							1				
イネ	籾殻							(3)				
	炭化種子			4 (1)								
アワ	炭化種子	50 (6)								6 (1)	1	4 (2)
エノコログサ属	有ふ果	1							1	2		
オオムギ	炭化有ふ果			274 (4)								
	炭化種子	1		5858 (22)						8	2	21 (5)
コムギ	炭化種子	1							1	7 (1)	27 (12)	
ダイズ属	炭化種子							2 (1)		3		
エンドウ属	炭化種子				13 (4)							
ササゲ属アズキ亜属	炭化種子					(2)	2 (1)		(10)			
マメ科B	炭化種子							(2)	2 (13)			
エノキグサ属	種子	(1)							3 (5)	2	4 (7)	
ソバ	炭化子葉							5	1			
ヤナギタデ	果実	11 (4)				35	9	1 (4)	2	1	1	
イヌタデ	果実				12	54 (1)	3 (1)	1 (1)				
アカザ属	種子							6				
同定不能	炭化種実				(3)					(2)	(16)	
子囊菌	炭化子囊											
不明	炭化材			(+)				(+)	(+)			
	昆虫	(+)	(++)		(+)				(+)	(+)		
+: 1-9, ++: 10-49												
現生												
ヒエ	種子							1				

イヌタデがわずかに得られた。この他の分類群は2点以下の産出数であった。2点以下の分類群のうち、栽培植物としてはアワが得られた。

SE783：木本植物ではブドウ属 B とモモがわずかに得られた。草本植物ではイネとアサが非常に多く、ヒエ属がやや多く、ホタルイ属とヒエ、オオムギ、ササゲ属アズキ亜属が少量、メヒシバ属とダイズ属、マメ科 B、アカザ属がわずかに得られた。この他の分類群は2点以下の産出数であった。2点以下の分類群のうち、栽培植物としてはアワとコムギ、アズキ、メロン仲間、ナスが得られた。

SE1022：木本植物ではアカメガシワがわずかに得られた。草本植物ではイネとオオムギ、コムギが少量、ヒエとヒエ属、アワ、ダイズ属、ササゲ属アズキ亜属、ソバ、イヌタデ属 A がわずかに得られた。

SE1027：木本植物は得られなかった。草本植物では、ウキヤガラとメヒシバ属、エノキグサ属、ヤナギタデがわずかに得られた。

SE1028：木本植物では少量のクワ属が得られた。草本植物では、オオムギが少量、ヒエとイネ、ササゲ属アズキ亜属がわずかに得られた。

SE1203：木本植物ではトチノキがわずかに得られた。草本植物ではヒエ属とイネ、アワ、ヤナギタデ、イヌタデがわずかに得られた。

次に、得られた主要な分類群の記載を行い、第22図に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は〔米倉・梶田2003〕に準拠し、APG IIIリストの順とした。なお、平成27年度発掘調査区から得られた大型植物遺体の報告書において記載された分類群と部位については、記載を省略する〔パンダリ・佐々木2018〕。

(1) ウメ *Armeniaca mume* (Siebold et Zucc.) de Vriese 炭化核 バラ科

完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は卵円形。表面には全体的に不規則で深く小さな孔がある。残存していないが、着点は凹む。縫合線に沿って深い溝が入る。残存長4.0mm、残存幅7.4mm。

第9表 細池寺道上遺跡から出土した炭化種実(2) (括弧内は破片数)

試料No.	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
区						2				
遺構	SE434	SE519	SE647	SE732	SE734	SE783	SE1022	SE1027	SE1028	SE1203
グリッド	14R-5G18・ 22・23	14R-6G19	14R-9H20 ・9I16	14R-8G13	14R-9I9・ 14	14R-6F9・ 10・14・15	14R-10E9	14R-7D17	14R-8C5	14R-9F4・5
層位	11	13	10	2	12	10	6	7	7	3
時期		中世			近世			中世		
分類群	水洗量 (g)	150	175	50	125	75	225	25	50	50
スギ	球果					4 (6)				
	雄花序					8 (2)				
	葉					51				
	種子					159				
ブドウ属B	種子					2 (1)	2 (1)			
モモ	核		(3)			1	(1)			
	炭化核		1 (2)				1 (2)			
エノキ属	核					(2)				
クワ属	炭化核		3		2				21	
アカメガシワ	種子					(1)				
	炭化種子							1		
トチノキ	炭化種子									(1)
サンショウ	種子					4 (3)				
ニワトコ	核					121 (24)				
ツユクサ	種子		12			1 (1)				
ウキヤガラ	果実		6 (1)				1		1	
ホタルイ属	果実		2				13			
メヒシバ属	有ふ果		2				5		1	
ヒエ	炭化有ふ果		6 (1)				40			
	炭化種子		22 (1)		1		7	4		2
ヒエ属	有ふ果	17	3	1	3		12 (2)	1		1
	炭化有ふ果						32 (1)			
	炭化種子		3		2		3			
イネ	粉殻		(4)				1 (44)			
	炭化粉						66 (1)			
	炭化粉殻		(1)				3 (7)			
	炭化種子	7 (10)	8 (2)	7 (1)	7 (10)	6 (2)	492 (74)	38 (28)		1 (4)
アワ	炭化有ふ果		1							(2)
	炭化種子				4	1 (1)	2	1		(1)
オオムギ	炭化種子	6 (2)	30 (4)		2	6 (1)	19	20 (1)		7 (5)
コムギ	炭化種子	4 (4)	2			5 (1)	1	20 (5)		
ムラサキケマン	種子					27 (4)				
キケマン属	種子		1			3 (2)				
キンボウゲ属	果実					4 (1)				
ツルマメ	炭化種子						1			
ダイズ属	炭化種子						1 (3)	3 (1)		
ハギ属	炭化果実						1			
エンドウ属	炭化種子				(1)					
アズキ	炭化種子	2	1				1			
ササゲ属アズキ亜属	炭化種子	(2)	1 (3)		(5)		10 (10)	(3)		1
マメ科B	炭化種子				(3)		(9)			
アサ	核		6 (140)			(6)	225 (55)			
	炭化核						1 (2)			
メロン仲間	種子		(1)			5 (8)	1			
カタバミ属	種子		1			10 (2)				
エノキグサ属	種子		(2)			15 (35)	1		(1)	
ソバ	炭化果実		1							
	炭化子葉	1						3		
ヤナギタデ	果実		1						1	1
	炭化果実						2			
イヌタデ	果実		110 (2)			5	2			1
イヌタデ属A	炭化果実							1		
サナエタデ・オオイヌタデ	果実		6							
	炭化果実						1			
ギシギシ属	果実					869 (16)				
	炭化果実						1			
ミドリハコベ	種子		2			142 (3)				
アカザ属	種子		72 (3)			11	6			
ヤエムグラ属	種子					1 (1)				
ナス	種子		1				1			
エゴマ	果実		7							
	炭化果実		2							
シソ属	果実		1			7 (3)	1			
不明A	種実					19 (2)				
	炭化種実		1				1			
不明	芽					(++)				
	炭化芽						1			
同定不能	炭化種実	(40)	(5)		(2)		(3)	(132)	(4)	(1)
スギナ近似種	無性芽					1 (6)				(2)
子囊菌	炭化子囊						1	1		
不明	炭化材	(+)	(+)				(+)	(++)	(+)	
	昆虫		(+)			(++)	(++)			

+: 1-9, ++: 10-49

(2) ヒエ *Echinochloa esculenta* (A.Braun) H.Scholz 炭化有ふ果・炭化種子 (穎果) イネ科

有ふ果は紡錘形。先端と基部はやや尖り、内穎側は膨らまない。微細な縦筋がある。長さ3.2mm、幅1.7mm。種子(穎果)の側面観は倒卵形、断面は片凸レンズ形で、厚みは薄くやや扁平である。胚は幅が広く、長さは全長の2/3程度と長い。臍は幅が広いうちわ型。全体の大きさは長さ1.7mm、幅1.4mm。

(3) ヒエ属 *Echinochloa* sp. 有ふ果・炭化有ふ果・炭化種子 (穎果) イネ科

有ふ果は、黄褐色で紡錘形。基部と先端はやや尖る。縦方向に細かい顆粒状の模様がある。内穎は膨らま

ず、外穎は中央部が最も膨らむ。炭化有ふ果は長さ 3.2mm、幅 1.6mm。種子（穎果）は、やや細長い円形。胚は幅が広くうちわ型で、長さは全長の 2/3 程度と長い。内穎は膨らまない。全体の大きさは長さ 1.7mm、幅 1.0mm。

(4) イネ *Oryza sativa* L. 炭化籾 イネ科

側面観は長楕円形。縦方向に明瞭な稜線があり、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。長さ 6.5mm、幅 3.2mm。

(5) アワ *Setaria italica* P.Beauv. 炭化有ふ果 イネ科

円形に近い紡錘形。発泡していてやや状態が悪いが、内穎と外穎に独立した微細な乳頭状突起がある。長さ 1.7mm、幅 1.4mm。

(6) オオムギ *Hordeum vulgare* L. 炭化有ふ果 イネ科

上面観は円形、側面観は紡錘形で、縦方向に筋がある。皮性のオオムギである。長さ 7.9mm、幅 3.5mm、厚さ 3.0mm。

(7) ツルマメ *Glycine max* subsp. *soja* 炭化種子 マメ科

上面観は扁平、側面観は楕円形。臍は〔小畑ほか 2007〕に示された、中央の縦溝（Hilar groove）と周囲の隆線（Rim-aril）というダイズ属の特徴が認められる。臍は長楕円形で全長の 1/3 未満、腹面の中心からややずれて付く。種皮表面はややざらつく。長さ 3.2mm、幅 2.2mm、厚さ 1.7mm。〔小畑 2008〕を参照すると、ツルマメの大きさであった。

(8) エンドウ属 *Pisum* spp. 炭化種子 マメ科

球形に近い広楕円体。臍側はやや扁平。表面は平滑で、にぶい光沢がある。側面の全体に長楕円形の臍がある。臍の大きさは、全長の 3/4 程度。臍の中央には縦溝がある。長さ 2.4mm、幅 2.4mm、厚さ 2.2mm。

(9) アズキ *Vigna angularis* (Willd.) Ohwi et H. Ohashi var. *angularis* 炭化種子 マメ科

上面観は方形に近い円形、側面観は方形に近い楕円形。臍は全長の半分から 2/3 ほどの長さで、片側に寄ると推定されるが、残存していない。長さ 5.8mm、幅 3.7mm、厚さ 3.8mm。

(10) マメ科 B *Fabaceae* sp. B 炭化種子 マメ科

ほぼ完形で、上面観・側面観ともに楕円形、表面は平滑。臍は残存していない。残存長 5.3mm、残存幅 3.3mm、厚さ 3.8mm。

(11) ソバ *Fagopyrum esculentum* Moench 炭化果実・炭化子葉 タデ科

果実の上面観は三稜形、側面観は先端がやや尖る紡錘形。稜の端部は翼状に突き出る。長さ 3.8mm、幅 3.2mm。炭化子葉の上面観は丸みをおびた三稜形、側面観は丸みをおびた三角形で、表面は平滑。長さ 2.9mm、幅 2.9mm。

D 考 察

細池寺道上遺跡から出土した大型植物遺体を同定した結果、種実を中心とした大型植物遺体を得られた。

食用可能な種実として、ブドウ属 B とエノキ属、クワ属、トチノキ、キハダ、サンショウ、ニワトコが得られた。栽培植物では果樹のモモとウメ、水田作物のイネ、畑作物のヒエとアワ、オオムギ、コムギ、エンドウ属、アズキ、アサ、メロン仲間、ソバ、ナス、エゴマが得られた。ダイズ属とササゲ属アズキ亜属には野生種と栽培種が含まれる。エゴマは油として利用された可能性もある。

以下、時期ごとに検討を行う。

[中世]

1 区の区画墓である SZ865 からは、栽培植物としてヒエがわずかに得られ、栽培植物と野生植物の可能性があるササゲ属アズキ亜属、草地や道端に生育するメシバ属とエノキグサ属、イヌタデ、やや湿った場所に生育

するヤナギタデが得られた。

木本植物は1区の井戸SE27からは得られておらず、2区の井戸11基からも、ほとんど得られていない。ブドウ属Bやクワ属などの野生植物は、周辺に生育していた可能性もあるが、モモなどの栽培植物とともに、利用された残滓が堆積した可能性もある。

草本植物では、栽培植物としてヒエとイネ、アワ、オオムギ、コムギ、エンドウ属、アサ、メロン仲間、ソバ、ナス、エゴマが得られており、SE519から得られた約150点のアサは、周辺で保管されていたものが何らかの要因で井戸内に堆積した可能性がある。SE783では炭化米が大量に得られた。籾殻や炭化籾も多いため、籾殻付きの状態に堆積した可能性もある。また、SE783はアサやヒエなどの栽培植物の産出量も多く、多種類の栽培植物が産出しており、付近に調理する場所があって、食物残滓が井戸内に堆積した可能性が考えられる。SE783から出土したメロン仲間種子1点の大きさは、長さ7.8mm、幅3.7mmで、栽培植物のマクワウリ・シロウリ型であった(第10表)。

第10表 メロン仲間種子の大きさ

	長さ	幅	時期
SE734、12層	7.9	3.1	近世
	6.8	3.2	
	7.0	3.2	
	6.1	3.0	
	7.3	3.0	
	7.8	3.7	
最小	6.1	3.0	
最大	7.9	3.7	
平均	7.1	3.2	
標準偏差	0.7	0.3	
SE783、10層	7.8	3.7	中世

単位 (mm)

ウキヤガラやホタルイ属などの抽水植物が産出している井戸では、水草がわずかに生育していた可能性がある。草本植物では、メヒシバ属やイヌタデ、エノキグサ属、アカザ属、ツユクサなど、乾いた草地や道端に生育する分類群が目立った。やや湿った場所にはムラサキケマンやヤナギタデなどが生育していたと推定される。ダイズ属とササゲ属アズキ亜属は、大きさからは栽培植物か野生植物かの判断はできなかったが、炭化しているため、少なくとも利用された可能性がある。

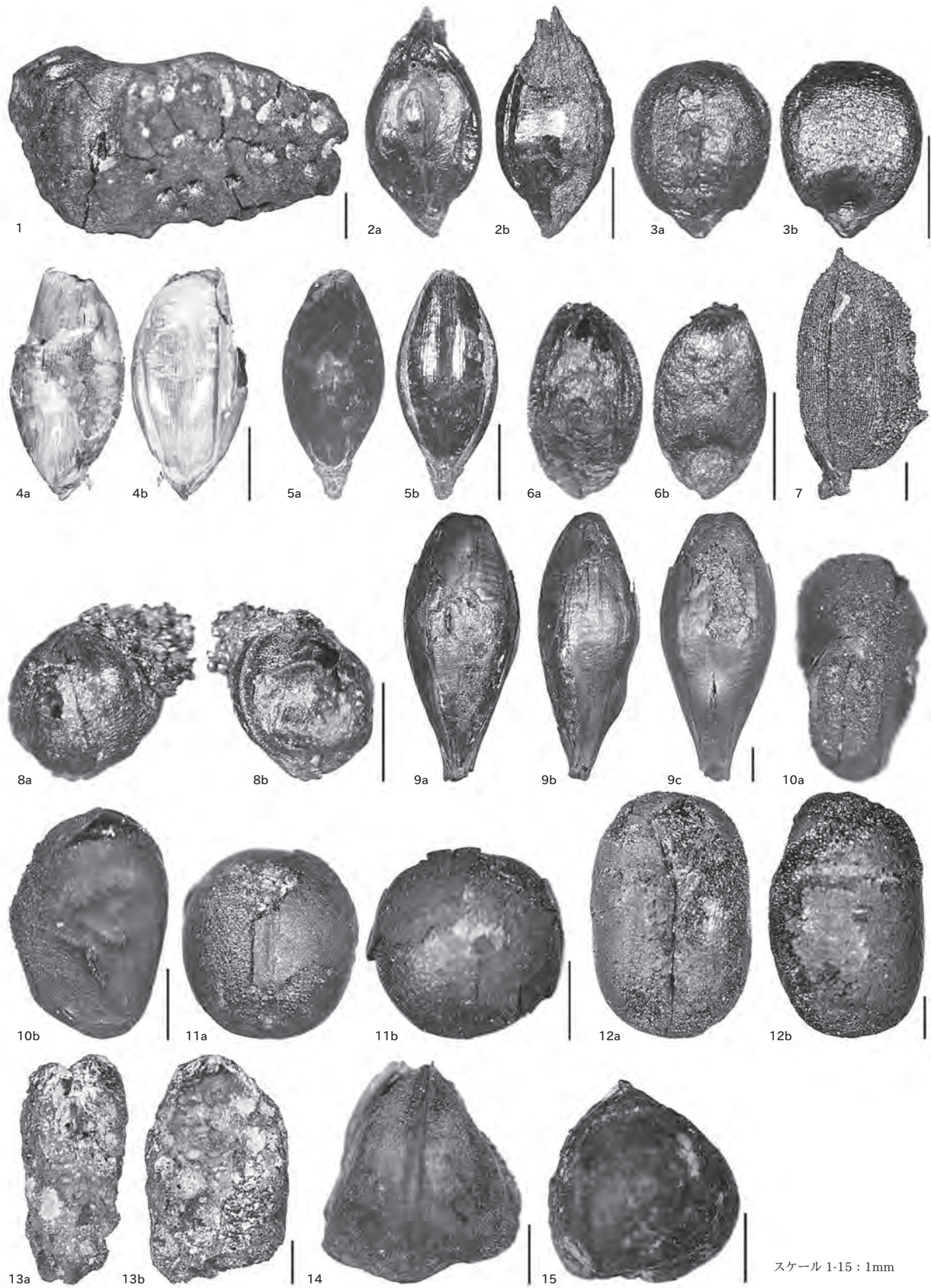
[近世]

1区の土坑SK682とSK706の2基からは、木本植物は得られず、草本の栽培植物が多く得られた。1区は生産域(農耕地)および墓域であった可能性が考えられている。SK682から約50点得られたイネ(いわゆる炭化米)やSK706から約6000点得られたオオムギは、穀類が何らかの要因で炭化して土坑内に捨てられ、堆積した可能性が考えられる。SK706ではオオムギのほかに、コムギやエンドウ属などの栽培植物の産出が目立った。抽水植物のコウホネは根茎が食用可能な植物である。種子が別の場所から持ち込まれ、土坑内に堆積した可能性がある。土坑内から得られた種実は炭化種実がほとんどであるため、当時は乾燥した場所であったと推定される。

井戸は2区の3基の試料を検討した。SE734からはスギやニワトコなど多種類の木本が得られ、遺構があった場所の傍にはある程度の林分があった可能性がある。アカメガシワやサンショウ、ニワトコなどの陽樹が多く、森林要素はあるものの、SE734の周辺は開けて明るい環境であったと考えられる。栽培植物のモモとウメが得られたほか、クワ属は食用にされた残滓の可能性もある。

草本植物では、栽培植物としてイネとアワ、オオムギ、コムギ、アサ、メロン仲間、ソバ、が得られた。SE734から出土したメロン仲間種子6点の大きさは、長さ6.1~7.9(平均7.2±0.7)mm、幅3.0~3.7(平均3.3±0.3)mmで、すべて栽培植物のマクワウリ・シロウリ型であった(第10表)。ダイズ属とササゲ属アズキ亜属は、大きさからは栽培植物か否かの判断はできなかったが、炭化しているため、少なくとも利用された可能性がある。

井戸内にはウキヤガラなどの抽水植物、SE734で約900点と多産したギンギン属は、井戸のごく傍に生育していたであろう。やや湿った場所にはムラサキケマンやヤナギタデなど、周辺の乾燥した道端や荒れ地にはメヒシバ属やエノキグサ属、アカザ属、イヌタデ、ツユクサなどが生育していたと考えられる。



- | | | |
|-------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|
| 1. ウメ炭化核 (SE351 8層 No.7) | 6. ヒエ属炭化種子 (SE783 10層 No.15) | 11. エンドウ属炭化種子 (SK706 6層 No.3) |
| 2. ヒエ炭化有ふ果 (SE783 10層 No.15) | 7. イネ炭化籾 (SE783 10層 No.15) | 12. アズキ炭化種子 (SE783 10層 No.15) |
| 3. ヒエ炭化種子 (SE783 10層 No.15) | 8. アワ炭化有ふ果 (SE519 13層 No.11) | 13. マメ科B炭化種子 (SE351 9層 No.8) |
| 4. ヒエ属有ふ果 (SE783 10層 No.15) | 9. オオムギ炭化有ふ果 (SK706 6層 No.3) | 14. ソバ炭化果実 (SE519 13層 No.11) |
| 5. ヒエ属炭化有ふ果 (SE783 10層 No.15) | 10. ツルマメ炭化種子 (SE783 10層 No.15) | 15. ソバ炭化子葉 (SE519 13層 No.11) |

第 22 図 細池寺道上遺跡から出土した大型植物遺体

第5節 細池寺道上遺跡における樹種同定

金原 美奈子

A はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。また、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能である。

本報告では、細池寺道上遺跡より出土した木製品と炭化材について樹種同定を行い、当時の木材利用と周辺植生について検討する。

B 試料

試料は、近世墓域周辺、中・近世の井戸跡、性格不明土坑より出土したなど生材（桶）3点と炭化材（数珠玉を含む）35点である。試料の詳細は、結果とともに第11表に記す。

C 分析方法

樹種同定の方法は、以下のとおりである。

木製品については、試料からカミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柎目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。炭化材に関しては、試料を割り折りして新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柎目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって50～1000倍で観察した。同定は、木材構造の特徴および現生標本との対比によって行った。

D 分析結果

第11表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を第23・24図に示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

(1) マツ属複維管束亜属 *Pinus subgen. Diploxylon* マツ科 試料 No.26、32

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は急な箇所と穏やかな箇所があり、垂直樹脂道が見られる。放射断面では、放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。接線断面では、放射組織が単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の特徴からマツ属複維管束亜属に同定される。マツ属複維管束亜属にはクロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布する常緑高木である。材はいずれも水湿によく耐え、広く用いられる。

(2) アスナロ属 *Thujaopsis* ヒノキ科 試料 No.27、28、29

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭く、樹脂細胞が存在する。放射柔細胞の分野壁孔は、スギ型からややヒノキ型を示し、1分野に2～4個存在する。また放射柔細胞内に内容物が多い。放射組織は単列で、樹脂細胞が存在する。

以上の特徴からアスナロ属に同定される。アスナロ属はアスナロとその変種ヒノキアスナロからなる日本固有の樹種である。アスナロは本州、四国、九州に分布し、関東北部や木曾に比較的多く、ヒノキアスナロは北・津軽半島を中心に渡島半島南部から日光付近を南限に分布する。常緑高木で、通常高さ40m、径1mに達する。材は、耐朽性、保存性が高く、建築など広く用いられ、特殊用途には漆器木地があり、輪島塗（石川県）はそれである。

(3) ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 試料 No.2, 4, 5, 6, 8, 9, 10, 14, 17, 23

小型で丸い、放射方向にややのびた道管が、単独あるいは2～3個放射方向に複合し散在する散孔材である。道管の穿孔は単穿孔で、道管相互の壁孔は交互状で密に分布する。放射組織は、単列の異性放射組織型である。

以上の特徴からヤナギ属に同定される。ヤナギ属は落葉の高木または低木で、北海道、本州、四国、九州に分布する。材は軽軟で、耐朽性、保存性は低く、建築、器具などに用いられる。

(4) クルミ属 *Juglans* クルミ科 試料 No.33

大型で丸い道管が、単独あるいは2～数個放射方向に複合してまばらに散在する散孔材である。早材から晩材にかけて、道管の径は徐々に減少する。軸方向柔細胞が多少波打ちながら、短接線状に1列に並び、網状柔細胞をつくる傾向がある。道管の穿孔は単穿孔である。放射組織はほとんどすべて平伏細胞からなるが、ときおり上下の縁辺にいくぶん大きい方形細胞が見られる。放射組織は同性放射組織型で、1～3細胞幅である。

以上の特徴からクルミ属に同定される。クルミ属にはオニグルミ、ヒメグルミがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ15～30m、径70～90cmである。材は耐朽性、保存性は低いが、狂いが少なく靱性に富んでいて、建築、器具、彫刻など広く用いられる。

(5) ハンノキ属 *Alnus* カバノキ科 試料 No.13, 16

小型で丸い道管が、放射方向に連なる傾向をみせて散在する散孔材である。道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は10～30本ぐらいである。放射組織は平伏細胞からなる。放射組織は、同性放射組織型で単列である。

以上の特徴からハンノキ属に同定される。ハンノキ属には、ハンノキ、ヤシヤブシ、ケヤマハンノキなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。落葉の高木または低木である。

(6) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 試料 No.20

年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が、火炎状に配列する。早材か

第11表 細池寺道上遺跡における樹種同定結果

試料No.	区	遺構名	グリッド	小区	層位	種別	結果(学名/和名)	時代
1	1区	SE27	13R-8D4・9		7	炭化材	<i>Eurya</i>	ヒサカキ属 中世
2	1区	SK540	14Q-4G4・9		2	炭化材	<i>Salix</i>	ヤナギ属 近世
3	1区	SK680	14Q-3E14・15		2	炭化材	<i>Zelkova serrata</i> Makino	ケヤキ 近世
4	1区	SK681	14Q-3E15・20,3F16		7	炭化材	<i>Salix</i>	ヤナギ属 近世
5	1区	SK682	14Q-3F11・16	4G	4	炭化材	<i>Salix</i>	ヤナギ属 近世
6	1区	SK683	14Q-3E15・20		3	炭化材	<i>Salix</i>	ヤナギ属 近世
7	1区	SK684	14Q-3E13		1	炭化材	<i>Fraxinus</i>	トネリコ属 近世
8	1区	SK686	14Q-3E13		2	炭化材	<i>Salix</i>	ヤナギ属 近世
9	1区	SK688	14Q-3E12		1	炭化材	<i>Salix</i>	ヤナギ属 近世
10	1区	SK691	14Q-3E13・14		3	炭化材	<i>Salix</i>	ヤナギ属 近世
11	1区	SK694	14Q-3E14		1	炭化材	<i>Fraxinus</i>	トネリコ属 近世
12	1区	SK705	14Q-3F16・17		5	炭化材	<i>Prunus</i>	サクラ属 近世
13	1区	SK706	14Q-3F12・17		6	炭化材	<i>Alnus</i>	ハンノキ属 近世
14	1区	SK707	14Q-3F17・22・18・23		6	炭化材	<i>Salix</i>	ヤナギ属 近世
15	1区	SK708	14Q-3E14		6	炭化材	<i>Fraxinus</i>	トネリコ属 近世
16	1区	SZ865 (SD3)	14R-2A18		8	炭化材	<i>Alnus</i>	ハンノキ属 中世
17	2区	SE136	14R-6I25,7I5		4	炭化材	<i>Salix</i>	ヤナギ属 中世
18	2区	SE137	14R-7I14・19		2	炭化材	<i>Zelkova serrata</i> Makino	ケヤキ 中世
19	2区	SE251	14S-8A21,9A1		8	炭化材	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>	コナラ属コナラ節 近世
20	2区	SE351	14R-8I5・10,8J1		9	炭化材	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ 近世
21	2区	SE403	14R-5G10		3	炭化材	<i>Eurya</i>	ヒサカキ属 中世
22	2区	SE446	14R-6I22・23, 7I2・3		10	炭化材	<i>Aesculus turbinata</i> Blume	トチノキ 中世
23	2区	SE449	14R-9I15		6	炭化材	<i>Salix</i>	ヤナギ属 近世
24	2区	SE519	14R-6G19		13	炭化材	Lauraceae	クスノキ科 中世
25	2区	SE647	14R-9H20,9I16		10	炭化材	<i>Zelkova serrata</i> Makino	ケヤキ 中世
26	2区	SE709	14R-8I16・21		7	炭化材	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属 近世
27	2区	SE734	14R-9I14		1	生材(桶)	<i>Thujaopsis</i>	アスナロ属 近世
28	2区	SE734	14R-9I14		12	生材(桶)	<i>Thujaopsis</i>	アスナロ属 近世
29	2区	SE734	14R-9I9・14		12	生材(桶)	<i>Thujaopsis</i>	アスナロ属 近世
30	2区	SE783	14R-6F9・10・14・15		10	炭化材	<i>Ilex</i>	モチノキ属 中世
31	2区	SE1022	14R-10E9		6	炭化材	<i>Prunus</i>	サクラ属 中世
32	2区	SE1027	14R-7D17		7	炭化材	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属 中世
33	2区	SE1028	14R-8C5		7	炭化材	<i>Juglans</i>	クルミ属 中世
34	2区	SE1409	14R-6F16・17		5	炭化材	<i>Rhus</i>	ウルシ属 中世
35	2区	SK483	14R-7H25,8H5		3	炭化材	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>	コナラ属コナラ節 近世
36	2区	SZ2013 (ST1621)	14R-7E1・2	c	1	炭化材	<i>Rhus</i>	ウルシ属 中世
37	1区	SK682	14Q-3F16	3G	1	炭化材(数珠玉)	<i>Diospyros</i>	カキノキ属 近世
38	1区	SK682	14Q-3F17	3G	1	炭化材(数珠玉)	<i>Diospyros</i>	カキノキ属 近世

ら晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる単列の同性放射組織型である。

以上の特徴からクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。耐朽性が強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、ほだ木など広く用いられる。

(7) コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科 試料No.19、35

年輪のはじめに大型の道管が、1～数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の特徴からコナラ属コナラ節に同定される。コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ15m、径60cmぐらいに達する。材は強靱で弾性に富み、建築材などに用いられる。

(8) ケヤキ *Zelkova serrata* Makino ニレ科 試料No.3、18、25

年輪のはじめに大型の道管が1～2列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形おとび接線状ないし斜線状に配列する。道管の穿孔は単穿孔で小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は異性放射組織型で上下の縁辺部の細胞のなかには大きくふくらんでいるものがある。幅は1～7細胞幅である。

以上の特徴からケヤキに同定される。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20～25m、径60～70cmぐらいであるが、大きいものは高さ50m、径3mに達する。材は強靱で従曲性に富み、建築、家具、器具、船、土木などに用いられる。

(9) クスノキ科 Lauraceae 試料No.24

中型から小型の道管が、単独および2～数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の周囲を鞘状に軸方向柔細胞が取り囲んでいる。道管の穿孔は単穿孔のものが存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞で上下の縁辺部のみ直立細胞からなる。異性放射組織型で1～3細胞幅である。

以上の特徴からクスノキ科に同定される。クスノキ科には、クスノキ、ヤブニッケイ、タブノキ、カゴノキ、シロダモ属などがあり、道管径の大きさ、多孔穿孔および道管内壁のらせん肥厚の有無などで細分できるが、本試料は道管径以外の点が不明瞭なため、クスノキ科の同定にとどまる。なお、本試料は道管径の大きさから、クスノキ以外のクスノキ科の樹種のいずれかである。

(10) サクラ属 *Prunus* バラ科 試料No.12、31

丸い道管が単独あるいは2～3個放射方向および斜め方向に複合して散在する散孔材である。道管の径は、早材部から晩材部にかけてゆるやかに減少する。道管の穿孔は単穿孔で、道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は同性に近い異性放射組織型を示す。

以上の特徴からサクラ属に同定される。サクラ属には、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、シウリザクラ、ウメ、モモなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木または低木である。

(11) ウルシ属 *Rhus* ウルシ科 試料No.34、36

年輪のはじめに大型の道管が単独あるいは2～3個複合して配列する環孔材である。晩材部で小道管が単独あるいは主に放射方向に2～3個複合して散在する。早材から晩材にかけて道管の径は徐々に減少していく。道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は異性である。放射組織は異性放射組織型で、1～3細胞幅ぐらいである。

以上の特徴からウルシ属に同定される。ウルシ属にはヤマハゼ、ウルシ、ヌルデ、ツタウルシなどがあり、北海道(渡島半島)、本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑または落葉の低木～高木、または藤本である。

(12) トチノキ *Aesculus turbinata* Blume トチノキ科 試料No.22

小型でやや角張った道管が、単独ないし放射方向に2～数個複合して密に散在する散孔材である。道管の穿

孔は単穿孔で、道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。放射組織と道管との壁孔は、小型で密に分布する。放射組織は単列の同性放射組織型で、層階状に規則正しく配列する。

以上の特徴よりトチノキに同定される。トチノキは北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ15～20m、径50～60cmに達する。材は軟らかく緻密であるが腐朽性、保存性が低いが、容器などに用いられる。

(13) モチノキ属 *Ilex* モチノキ科 試料 No.30

小型でやや角張った道管が、単独あるいは数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の径はあまり変化しない。道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は20～40ぐらいである。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は平伏細胞と直立細胞からなる。放射組織は異性放射組織型で、直立細胞のみからなる単列のものと、2～6細胞幅で上下の縁辺部の1～3細胞高が単列の多列のものからなる。

以上の特徴からモチノキ属に同定される。モチノキ属は常緑または落葉性の高木または低木で、モチノキ、クロガネモチ、イヌツゲなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。なおモチノキは常緑高木で高さ15m、径50cmに達する。やや堅硬な材で、旋作、器具、彫刻などに用いられる。

(14) ヒサカキ属 *Eurya* ツバキ科 試料 No.1, 21

小型で角張った道管が、ほぼ単独で密に散在する散孔材である。道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は多く60を越えて観察される。放射組織は平伏細胞、方形細胞、直立細胞からなる異性放射組織型で、1～3細胞幅であり、多列部と比べて単列部が長い。

以上の特徴からヒサカキ属に同定される。ヒサカキ属にはヒサカキ、ハマヒサカキなどがあり、本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑の小高木で、通常高さ10m、径30cmである。材は強さ中庸で、器具などに用いられる。

(15) カキノキ属 *Diospyros* カキノキ科 試料 No.37, 38

中型の道管が、単独および放射方向に複合して、散在する散孔材である。道管の壁は厚い。軸方向柔細胞は周囲状および接線状に配列する。道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は異性放射組織型で1～2細胞幅である。いずれの放射組織も高さがほぼ同じで、層階状に配列し、リップルマークを呈する。

以上の特徴からカキノキ属に同定される。カキノキ属には、トキワガキ、ヤマガキ、マメガキなどがあり、本州(西部)、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径1mぐらいに達する。材は、建築、器具などに用いられる。

(16) トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科 試料 No.7, 11, 15

年輪のはじめに、大型で厚壁の丸い道管が、ほぼ単独で1～3列配列する環孔材である。孔圏部外では小型でまるい厚壁の道管が、単独あるいは放射方向に2～3個複合して散在する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。軸方向柔細胞は早材部で周囲状、晩材部では翼状から連合翼状である。道管の穿孔は単穿孔である。内部にはチロースが著しい。放射組織は同性である。放射組織は同性放射組織型で、1～3細胞幅である。

以上の特徴からトネリコ属に同定される。トネリコ属にはヤチダモ、トネリコ、アオダモなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する落葉または常緑の高木である。材は建築、家具、運道具、器具、旋作、薪炭など広く用いられる。

E 考察とまとめ

同定の結果、細池寺道上遺跡の木製品は、ヤナギ属10点、アスナロ属3点、ケヤキ3点、トネリコ属3点、マツ属複雑管束亜属2点、コナラ属コナラ節2点、ウルシ属2点、ハンノキ属2点、サクラ属2点、ヒサカキ属2点、カキノキ属2点、クルミ属1点、クリ1点、クスノキ科1点、モチノキ属1点、トチノキ1点であった。

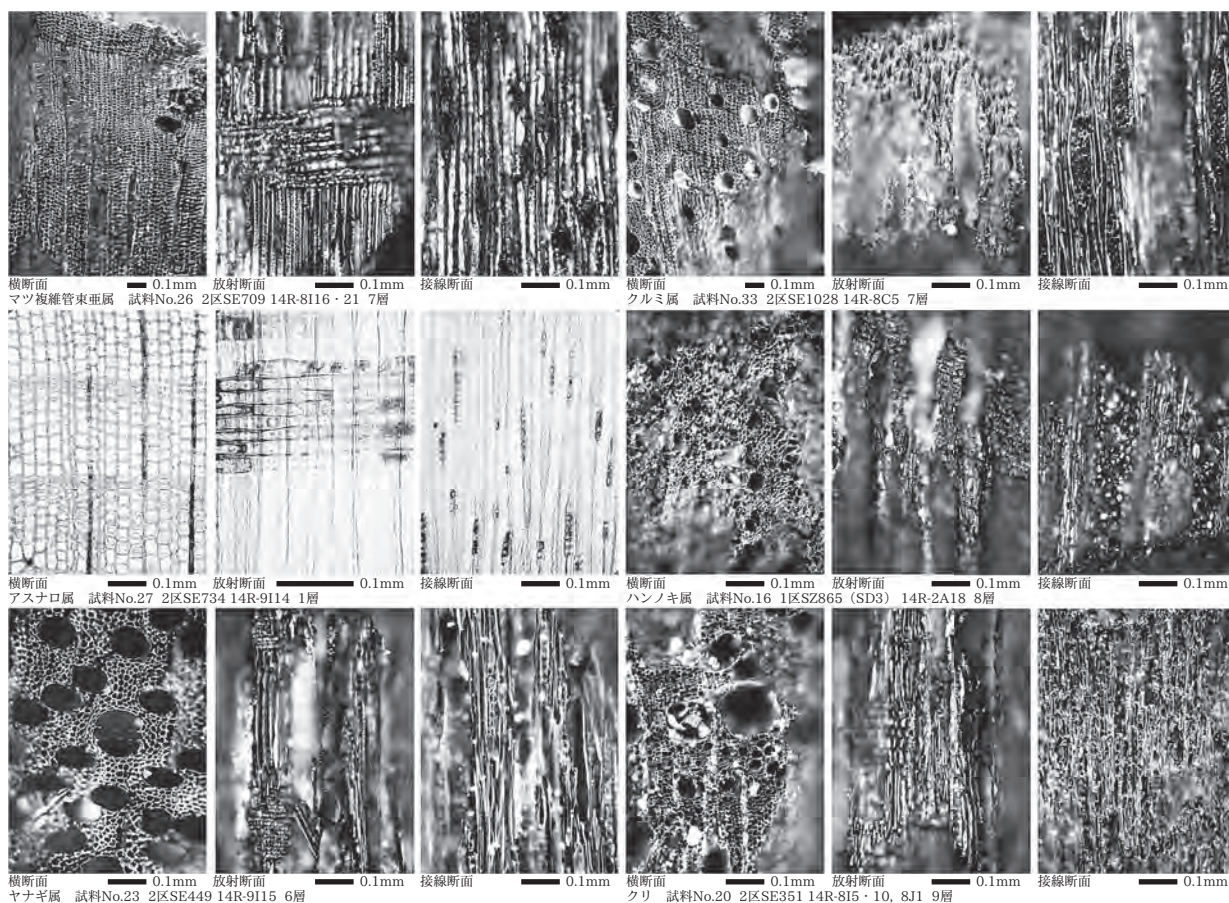
器種が判明しているものでは、生材(桶)が全てアスナロ属、数珠玉がカキノキ属である。アスナロ属は、ヒノキにはやや劣るが木理通直、肌目緻密であり、耐久性・保存性が高く、水湿にはヒノキよりもよく耐える。そ

のため建築材や桶材などによく用いられる。カキノキ属は概して堅硬な材と言え、暖温帯から熱帯に分布する落葉高木で、日当たりの良い尾根筋や緩傾斜地を好み、新潟市もその分布域に該当する。カキノキ属を利用した木製品は日本では少なく、西日本で堅杵などの例が見られる。数珠玉の用材としてのカキノキ属は黒檀が有名であるが、熱帯性であり海外より製品がもたらされた可能性も考えられる。

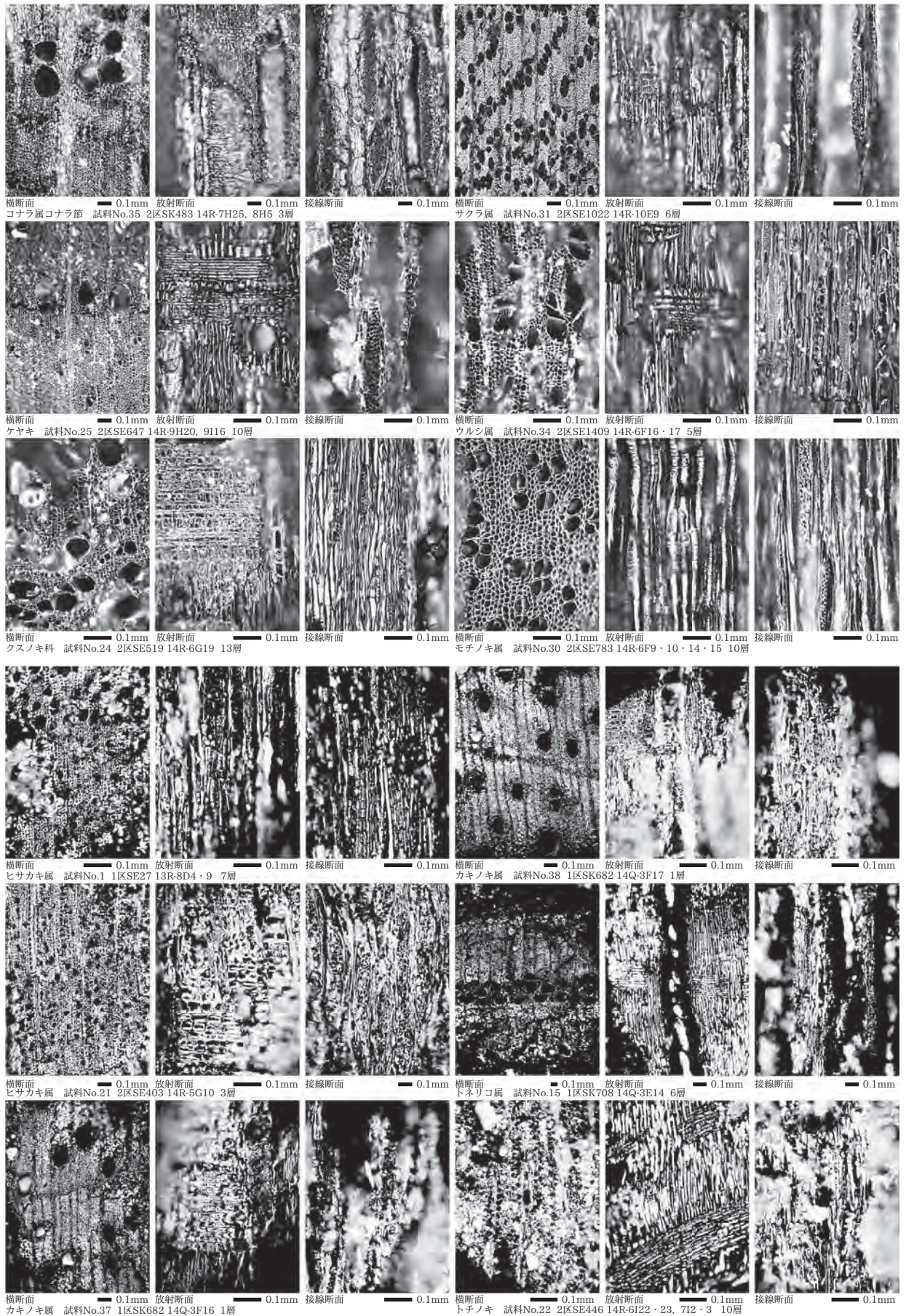
墓域より出土しているものでは、ヤナギ属が多く、次にトネリコ属、ケヤキ、サクラ属、ハンノキ属がある。ヤナギ属、トネリコ属、ケヤキ、ハンノキ属はいずれも温帯に分布し、沢沿いなどの水湿のある滴潤地に生育する樹木である。なお、サクラ属は温帯に分布し、やや乾燥した斜面等に生育する。材質・用途としては、ヤナギ属とハンノキ属は、耐朽性・保存性は高くなく、切削・加工性ともにやや容易で、杭、建築部材などの例が見られる。トネリコ属、ケヤキ、サクラ属はやや硬いが、形が整えやすく木目が美しく現れる材として、椀などのろくろを利用した挽物の用材に好まれる。なお、これらが利用された木材は燃焼された可能性もある。

同定された他の樹種では、マツ属複雑管束亜属、コナラ属コナラ節、クリ、ウルシ属があるが、いずれも二次林種を含み、遺跡周辺に生育していた樹木が利用されたとみられる。同様に、クルミ属やトチノキは周囲の低湿地に生育していたものが利用されたと推定される。モチノキ属、クスノキ科、ヒサカキ属は照葉樹であるが、暖温帯域にもかかる本遺跡周辺にも分布している。

同定された樹木はいずれも温帯に分布する樹種であった。なお、カキノキ属は本遺跡も属する暖帯に分布するが、数珠玉で有名な黒檀の可能性もあり、その場合は海外から持ち込まれた可能性が考えられる。炭化材がほとんどであるため、器種と樹種の相関を考えることは難しいが、墓域周辺から出土したトネリコ属、ケヤキ、サクラ属は、いずれも椀などの木地によく選定される材であることから、墓域内に持ち込まれた容器である可能性もある。なお、同定された樹種は遺跡周辺にも分布しているが、流通によっても近隣地域からもたらすことのできる樹種である。



第23図 細池寺道上遺跡の木材(1)



第 24 図 細池寺道上遺跡の木材 (2)

第6節 細池寺道上遺跡における漆膜観察・赤外線分光分析

山田 卓 司

A はじめに

新潟市細池寺道上遺跡から出土した漆製品の漆膜観察と赤外線分光分析結果について以下のようにご報告いたします。

B 対象資料

資料番号1 漆製品(第25図)

C 漆膜観察と赤外線分光分析

1) 分析内容

資料から塗膜をピンセットで採取した。採取の一部は赤外線分光分析に用いた。残りの採取片をエポキシ樹脂に包埋後、マイクロームと研磨剤を用いて光が透過する薄い漆膜断面の切片を作製した。永久プレパラートを作製し、生物顕微鏡による透過観察または金属顕微鏡による落射観察を行い、写真撮影を行った。

2) 使用機器

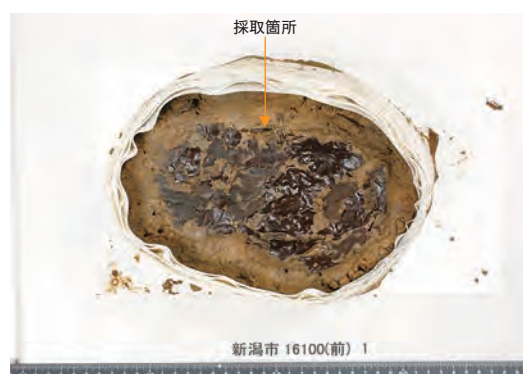
赤外線分光分析には、全反射フーリエ変換赤外分光(ATR-FTIR)分析装置 PerkinElmer Spectrum Two(LiTaC3検出器)を用い、分解能 4cm^{-1} で測定した。

漆膜観察には生物顕微鏡 Olympus BX-53 及び金属顕微鏡 Olympus BH2-UMA を、顕微鏡写真撮影には顕微鏡デジタルカメラ Olympus DP-71 を使用した。

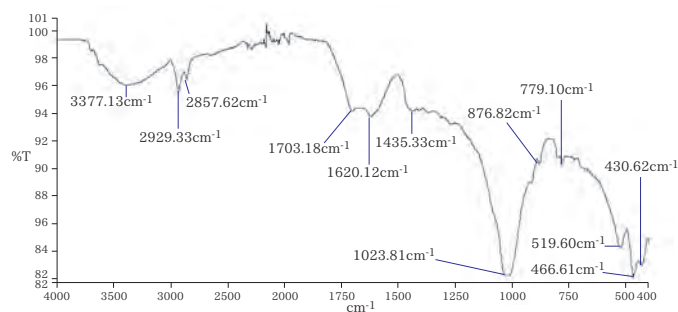
3) 分析結果

採取塗膜片のATR-FTIR結果から、 2900 、 1700 、 1620 、 1430cm^{-1} 付近にピークが検出され(第26図)、採取片は漆膜と考えられた。

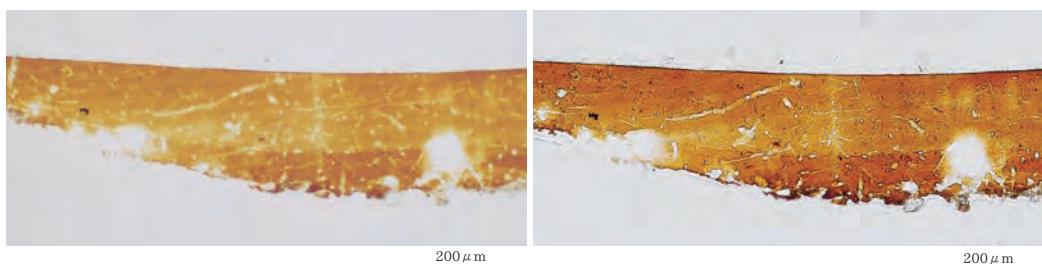
漆膜観察から、厚さ約 $70\mu\text{m}$ と $140\mu\text{m}$ の茶褐色透明漆層が観察され、層内には最大径 $15\mu\text{m}$ の規則性のない繊維が観察された(第27図)。漆製品は和紙に漆を塗った資料であったと考えられた。なお、空隙であり断定は難しいが、巾約 $65\mu\text{m}$ の空隙は糸の痕跡である可能性が考えられた。



第25図 対象資料(ST1621(SZ2013)出土烏帽子)



第26図 赤外線吸収スペクトル



第 27 図 烏帽子の断面写真

第 7 節 細池寺道上遺跡におけるリン・カルシウム分析

杉 山 真 二

A はじめに

土壌に含まれるリンやカルシウムの起源としては、土壌の母材、動物遺体、植物遺体などがあり、遺跡の生活面や遺構内には遺体、排泄物、代謝物、食物残渣、燃料灰などに由来するリンやカルシウムが蓄積している。人骨など動物の骨はリン酸カルシウムが主成分であるが、貝殻や石灰石は炭酸カルシウムが主成分であり、リンはほとんど含まれていない。カルシウムは一般に水に溶解しやすいが、リンは土壌中の鉄やアルミニウムと強く結合して難溶性の化合物となるため、土壌中における保存性が高い〔竹追 1993〕。このようなリンやカルシウムの性質を利用して、墓状遺構などにおける生物遺体（人骨など）の確認および生活面や遺構面の確認などが試みられている。

本報告では、細池寺道上遺跡で出土した方形区画墓においてリン・カルシウム分析を行い、生物遺存体の埋納の可能性について検討する。

B 試料

分析試料は、ST1 方形区画墓の主体部から採取された No.1 ~ No.3、比較試料として周辺から採取された No.4 と No.5、および ST1621 方形区画墓の主体部から採取された No.6、比較試料として周溝周辺から採取された No.7 の計 7 点である。試料の詳細を第 28 図に示す。

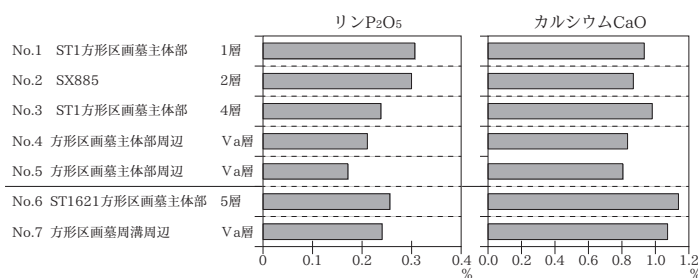
C 分析方法

エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置（日本電子製、JSX3100R II）を用いて、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法（FP法）による定量分析を行った。試料の処理法は次のとおりである。なお、同時に地質標準試料（JG1）を測定して精度の検証を行った。

- 1) 試料を絶乾（105℃・24 時間）
- 2) 試料を粉碎して塩化ビニール製リング枠に入れ、圧力 20t/cm² でプレスして錠剤試料を作成
- 3) 測定時間 240 秒、照射径 3.0mm、電圧 30kV、試料室内真空の条件で測定

D 分析結果

各元素の定量分析結果（wt%）を第 12 表に示し、リン（P₂O₅）とカルシウム（CaO）の含量を第 28 図に示す。定量分析結果は、慣例により代表的な酸化物名で表記した。



第 28 図 細池寺道上遺跡におけるリン・カルシウム含量

第 12 表 細池寺道上遺跡における蛍光 X 線分析結果

単位 : wt (%)									
原子 No.	地点・試料 No.	化学式	1	2	3	4	5	6	7
11		Na ₂ O	0.683	1.288	0.520	0.617	0.075	0.000	0.605
12		MgO	1.764	1.878	1.775	1.937	1.483	1.497	1.694
13		Al ₂ O ₃	15.644	15.494	15.697	15.712	15.738	14.822	15.504
14		SiO ₂	68.098	68.242	68.912	68.362	69.332	69.951	68.754
15		P ₂ O ₅	0.306	0.299	0.238	0.211	0.171	0.256	0.240
16		SO ₃	0.168	0.136	0.164	0.135	0.172	0.141	0.119
19		K ₂ O	1.980	2.076	1.965	2.140	2.136	2.067	2.175
20		CaO	0.935	0.871	0.983	0.836	0.806	1.140	1.076
22		TiO ₂	0.740	0.702	0.695	0.703	0.762	0.695	0.692
23		V ₂ O ₅	0.016	0.006	0.018	0.017	0.032	0.018	0.026
25		MnO	0.275	0.257	0.218	0.239	0.241	0.421	0.234
26		Fe ₂ O ₃	9.267	8.629	8.693	8.974	8.933	8.870	8.751
37		Rb ₂ O	0.030	0.029	0.026	0.025	0.028	0.031	0.031
38		SrO	0.033	0.035	0.034	0.032	0.032	0.039	0.038
40		ZrO ₂	0.062	0.057	0.063	0.059	0.059	0.056	0.063

E 考 察

一般に、未耕作地の土壌中におけるリン酸含量は 0.5% 以下であり、耕作地では 1.0% 程度である。農耕地では、施肥による影響が大きく、目的とする試料の分析結果のみから遺構・遺物内における生物遺体の存在を確認するのは困難である。このため、比較試料（遺物・遺構外の試料）との対比を行う必要がある。

リン・カルシウム分析の結果、ST1 方形区画墓主体部から採取された 1 層 (No.1)、5 層 (No.3)、SX885 2 層 (No.2) におけるリン (P₂O₅) の含量は 0.2 ~ 0.3% と低い値であるが、比較用試料として採取された主体部周辺の Va 層 (No.4, No.5) の 0.2% 前後よりはやや高くなっている。カルシウム (CaO) の含量も 0.9 ~ 1.0% と低い値であるが、比較試料の 0.8% 前後よりはやや高くなっている。また、ST1621 方形区画墓主体部から採取された 5 層 (No.6) におけるリン (P₂O₅) の含量は 0.3% と低い値であり、比較試料として採取された周溝周辺の Va 層 (No.7) とほぼ同様の値である。カルシウム (CaO) の含量も 1.1% と低い値であり、比較試料とほぼ同様の値である。

以上のように、ST1 方形区画墓主体部および ST1621 方形区画墓主体部から採取された試料におけるリンやカルシウムの含量は 0.2 ~ 0.3% と低い値であり、比較試料との差異も明瞭ではないことから、遺構内にリンやカルシウムを多く含む生物遺体が存在していた可能性について評価することは困難である。墓遺構におけるリンやカルシウムの分布は、層位や地点によって大きく偏る傾向があることから、遺構底部を中心に多くの試料について検討を行うことが望まれる。

第 8 節 細池寺道上遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

A 測定対象試料

新潟県新潟市に所在する細池寺道上遺跡 (平成 29 年度) の測定対象試料は、遺構から出土した炭化材 9 点、生材 (桶) 1 点の合計 10 点である (第 13 表)。

B 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。
- 2) 酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と第 13 表に記載する。
- 3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。

- 4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- 6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

C 測定方法

加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

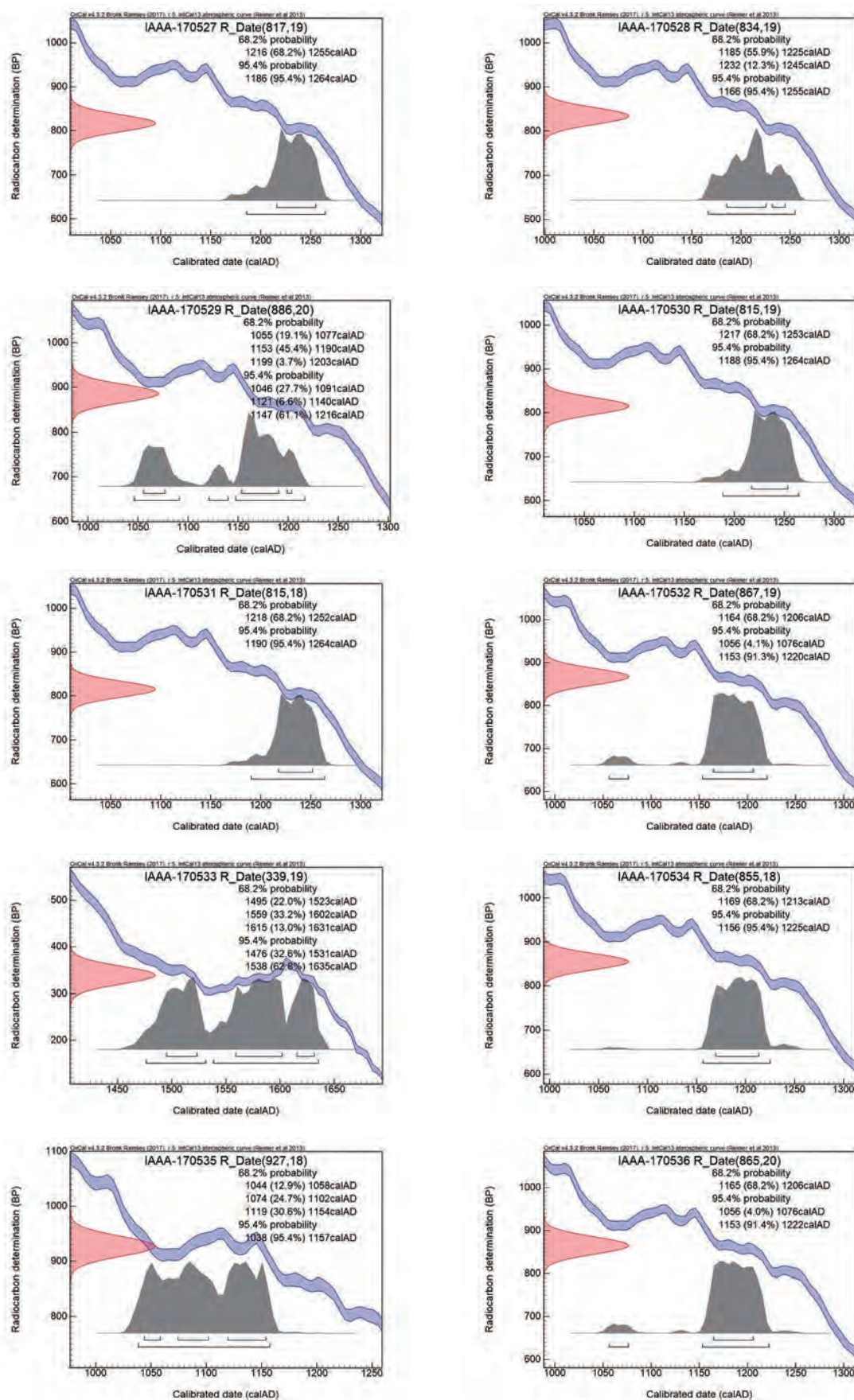
D 算出方法

- 1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (第 13 表)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- 2) ^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する [Stuiver and Polach 1977]。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第 13 表に、補正していない値を参考値として第 14 表に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- 3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を第 13 表に、補正していない値を参考値として第 14 表に示した。
- 4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.3 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第 14 表に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

E 測定結果

測定結果を第 13 表、第 14 表に示す。

炭化材 (No.1 ~ 6, 8 ~ 10) の ^{14}C 年代は、 $930 \pm 20\text{yrBP}$ (No.9) から $820 \pm 20\text{yrBP}$ (No.1, 4, 5)、の間にある。暦年較正年代 (1σ) は、最も古い No.9 が $1044 \sim 1154\text{cal AD}$ の間に 3 つの範囲、最も新しい No.1 が $1216 \sim 1255\text{cal AD}$ の範囲で示される。No.3, 9 は、平安時代後半から中世頃、それ以外の試料 7 点は、中世頃に相当する [佐原 2005]。近世とされていた No.5 は、想定年代よりも古い結果となった。中世とされる No.1, 2, 4・6・8 は想定年代に含まれる。



第 29 図 細池寺道上遺跡第 48 次調査 出土炭化材の暦年較正年代グラフ

第13表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-170527	No.1	1区 SE27 13R-8D4 7層	炭化材	AAA	-26.95 ± 0.2	820 ± 20	90.33 ± 0.22
IAAA-170528	No.2	1区 SZ865 (SD3) 14R-2A18 8層	炭化材	AAA	-28.38 ± 0.23	830 ± 20	90.14 ± 0.22
IAAA-170529	No.3	2区 SE403 14R-5G10 11層	炭化材	AAA	-28.54 ± 0.24	890 ± 20	89.55 ± 0.23
IAAA-170530	No.4	2区 SE446 14R-6I22 10層	炭化材	AAA	-28.24 ± 0.22	820 ± 20	90.35 ± 0.22
IAAA-170531	No.5	2区 SE449 14R-9I15 6層	炭化材	AAA	-25.94 ± 0.19	820 ± 20	90.35 ± 0.21
IAAA-170532	No.6	2区 SE519 14R-6G19 13層	炭化材	AAA	-26.63 ± 0.21	870 ± 20	89.77 ± 0.22
IAAA-170533	No.7	2区 SE734 14R-9I9 12層	生材 (桶)	AAA	-22.78 ± 0.23	340 ± 20	95.86 ± 0.23
IAAA-170534	No.8	2区 SE783 14R-6F9 10層	炭化材	AAA	-24.62 ± 0.21	860 ± 20	89.9 ± 0.21
IAAA-170535	No.9	2区 SZ2013 (ST1621) 14R-7E1 g区 2層	炭化材	AAA	-23.46 ± 0.23	930 ± 20	89.09 ± 0.21
IAAA-170536	No.10	2区 14R-9I14 VII層	炭化材	AAA	-26.99 ± 0.19	870 ± 20	89.78 ± 0.23

[IAA登録番号: #8603]

第14表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	試料名	採取場所	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
			Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-170527	No.1	1区 SE27 13R-8D4 7層	850 ± 20	89.96 ± 0.22	817 ± 19	1216calAD - 1255calAD (68.2%) 1185calAD - 1225calAD (55.9%) 1232calAD - 1245calAD (12.3%)	1186calAD - 1264calAD (95.4%) 1166calAD - 1255calAD (95.4%)
IAAA-170528	No.2	1区 SZ865 (SD3) 14R-2A18 8層	890 ± 20	89.51 ± 0.21	834 ± 19	1055calAD - 1077calAD (19.1%) 1153calAD - 1190calAD (45.4%) 1199calAD - 1203calAD (3.7%)	1046calAD - 1091calAD (27.7%) 1121calAD - 1140calAD (6.6%) 1147calAD - 1216calAD (61.1%)
IAAA-170529	No.3	2区 SE403 14R-5G10 11層	950 ± 20	88.9 ± 0.22	886 ± 20	1217calAD - 1253calAD (68.2%) 1159calAD - 1203calAD (3.7%)	1188calAD - 1264calAD (95.4%) 1190calAD - 1264calAD (95.4%)
IAAA-170530	No.4	2区 SE446 14R-6I22 10層	870 ± 20	89.75 ± 0.21	815 ± 19	1218calAD - 1252calAD (68.2%)	1056calAD - 1076calAD (4.1%) 1153calAD - 1220calAD (91.3%)
IAAA-170531	No.5	2区 SE449 14R-9I15 6層	830 ± 20	90.18 ± 0.21	815 ± 18	1495calAD - 1523calAD (22.0%) 1559calAD - 1602calAD (33.2%) 1615calAD - 1631calAD (13.0%)	1476calAD - 1531calAD (32.6%) 1538calAD - 1635calAD (62.8%)
IAAA-170532	No.6	2区 SE519 14R-6G19 13層	890 ± 20	89.46 ± 0.22	867 ± 19	1169calAD - 1213calAD (68.2%)	1056calAD - 1076calAD (4.1%) 1153calAD - 1220calAD (91.3%)
IAAA-170533	No.7	2区 SE734 14R-9I9 12層	300 ± 20	96.3 ± 0.23	339 ± 19	1044calAD - 1058calAD (12.9%) 1074calAD - 1102calAD (24.7%) 1119calAD - 1154calAD (30.6%)	1038calAD - 1157calAD (95.4%)
IAAA-170534	No.8	2区 SE783 14R-6F9 10層	850 ± 20	89.96 ± 0.2	855 ± 18	1165calAD - 1206calAD (68.2%)	1056calAD - 1076calAD (4.0%) 1153calAD - 1222calAD (91.4%)
IAAA-170535	No.9	2区 SZ2013 (ST1621) 14R-7E1 g区 2層	900 ± 20	89.37 ± 0.2	927 ± 18		
IAAA-170536	No.10	2区 14R-9I14 VII層	900 ± 20	89.41 ± 0.22	865 ± 20		

[参考値]

生材 (桶) (No.7) の ^{14}C 年代は、340 ± 20yrBP、暦年較正年代 (1 σ) は、1495 ~ 1631cal AD の間に3つの範囲で示される。中世から近世頃に相当し (佐原 2005)、想定された近世を含んでいる。

試料の炭素含有率は50% (No.7) ~ 68% (No.3) の適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

第9節 細池寺道上遺跡出土人骨の人類学的報告

奈良貴史・佐伯史子 (新潟医療福祉大学)

株式会社古環境研究所

A はじめに

平成28年度の新潟市教育委員会による細池寺道上遺跡1区、2区の発掘調査において、複数の遺構から人骨と思われる骨片が出土した。本編はこれらの人類学的調査研究報告である。

B 状態

1) 1区出土人骨

1区 SK540 長軸88cm、短軸80cm、深さ28cmの隅丸方形の土坑から炭化物と混在して骨片が出土した。細片化が著しい四肢骨片が多数遺存する。大きいものでも最大長12mm程度である。総重量28.6gである。ほとんどが白色の色調を呈する。全て焼成されている。ヒトの骨と断定はできないが、形状から見てヒトを否定する要素はみられない。

1区 SK680 一辺が90cm、深さ32cm程の方形の土坑から骨片が出土した。細片化が著しい頭骨・四肢骨片が20点ほど遺存する。大きいものでも最大長20mm程度である。総重量1.5gである。ほとんどが白色の色調を呈する。全て焼成されている。ヒトの骨と断定はできないが、形状から見てヒトを否定する要素はみられない。

1区 SK682 一辺が140cm、深さ20cm程の隅丸方形の土坑に埋納されている甕内とその周辺から骨片が出土した。甕内人骨と土坑覆土出土人骨を分けて報告する。

甕内人骨：細片化が著しい頭・四肢骨片が多数遺存する（第30図-下段）。大きいものでも最大長25mm程度である。総重量74.5gである。ほとんどが白色の色調を呈する。全て焼成されている人骨と思われる。四肢長骨片の随所に輪状に走る亀裂がみられる。頭骨では右側頭骨下顎窩部片（第30図-下-1）が同定できた。体幹・四肢骨は、椎骨、肋骨、四肢長骨など全身の部位が確認できるが、細片化が著しいうえ、多くの破片が変形しているため、正確に部位が同定できたのは、上腕骨遠位部片、大腿骨幹部片（第30図-下-4・5）、腓骨骨幹部片（第30図-下-6）などである。年齢は、大腿骨の骨幹部の大きさから、成人並みの体格に達していたと思われるが、詳細は不明。性別は、性別を特定できる形態学的特徴は遺存していません。

土坑内人骨：細片化が著しい頭・四肢骨片が多数遺存する（第30図-中段）。大きいものでも最大長25mm程度である。総重量72.2gである。ほとんどが白色の色調を呈する。全て焼成されている人骨と思われる。四肢長骨片の随所に輪状に走る亀裂がみられる。頭骨では左頭頂骨鱗縁部片（第30図-中-1）、右側頭骨内耳孔部片（第30図-中-2）が同定できた。体幹・四肢骨は、椎骨、四肢長骨など全身の部位が確認できるが、細片化が著しいうえ、多くの破片が変形しているため、正確に部位が同定できたのは、上腕骨遠位部片（第30図-中-4・5）、大腿骨幹部片（第30図-中-6・7）、腓骨骨幹部片などである。年齢は、上腕骨遠位部の骨化が終了しているため、成人段階には達していた。性別は、性別を特定できる形態学的特徴は遺存していません。

同定できる部位が少ないため、これらの人骨片が同一個体由来のものかどうか判断できない。仮に同一個体とすると、成人女性の一個体の焼骨平均重量が約1300gであることを考えると、総重量は140gなのでこの個体が女性ならば1/10程度しか遺存していないことになる。

1区SK683 直径約120cm、深さ30cm程の円形の土坑覆土の炭化物に混在して骨が出土した。出土時に骨の部位が同定出来るほどの大きさで出土したものや、細片化が著しい四肢骨片が多数遺存する（第31図-上段）。総重量407gである。白色の色調を呈する。全て焼成されているヒトと思われる。四肢長骨片の随所に輪状に走る亀裂がみられる。頭骨片と同定できるものは確認できなかった。体幹・四肢骨は、椎骨、肋骨、四肢長骨、手足の骨など全身の部位が確認できるが、細片化が著しいうえ、多くの破片が変形しているため、正確に部位が同定できたのは、上腕骨遠位部片（第31図-上-1）、右尺骨近位部片、大腿骨頭部片、大腿骨骨幹部片、右膝蓋骨（第31図-上-4）、腓骨骨幹部片などである。確認された範囲では重複する部位が認められないため、一個体の可能性が高い。成人女性の一個体の焼骨平均重量が約1300gであることを考えると、この個体が女性ならば1/3程度しか遺存していないことになる。

ただし注意しなければならないことは、本遺構の一部が他の遺構から切られていることから焼骨の量に関してはあくまでも出土した資料に関する情報からの判断である。

年齢に関しては、判断の基準となる部位が少ない。上腕骨の遠位ならびに尺骨近位の骨端の骨化が終了していることから成人段階に達していた。

性別に関しては、焼骨は、通常被熱により変形・縮小していることから、性別の推定困難な場合が多い。性別を推定するのに有効な形態学的特徴を有する寛骨は破損しており、また、乳様突起などの頭骨で性差が顕著な部位も検出されていない。したがって形態学的特徴によって性別を推定することは困難である。そこで、骨の計測データを用いて、男女の骨の大きさの違いをもとに性別推定を試みた。今回計測可能な部位は膝蓋骨のみであったため、膝蓋骨の高さを用いた（第31図-上-4）。しかし、焼骨は、一般的に収縮するとされている。個々の骨の縮小率は一定でなく、収縮率は報告者によりまちまちであり、大きさからの性別推定には注意を要する。〔池田1981〕は、焼成実験による収縮率の検討結果を参考に、太安万侶墓出土の焼骨の性別を推定する際に、収縮率を3%、10%と仮定して検討を加えている。右膝蓋骨の最大高の推定値は30mm程度であり、関東地方現代人女性の平均値よりも小さい（成人男性41.7mm、成人女性35.0mm）。仮に10%縮小していたとしても、もとの値は35mmには達せず、女性の平均値よりも小さい。したがって、現代日本人の成人女性の平均を超える体格ではなく、小柄な女性の可能性が高い。

本遺構の焼骨は、生焼け状態のものが観察されず、ほとんど白色を呈しており、色調にむらが認められないので、部位によって焼成温度の違いはないようである。また、輪状に走る亀裂が多数の骨片に観察でき、著しく変形した部位もみられる。以上のことから、本遺構から出土した焼骨は、死後、軟部組織がまだ骨を覆っている状態で、650℃以上のかかなりの高温で焼かれたものと推定される。

1区 SK684 長軸 160cm、短軸 140cm、深さ 60cm の隅丸方形の土坑に埋納された方形木棺の外側の覆土から骨片が出土した。細片化が著しい骨片が数十点ほど遺存する。大きいものでも最大長 6.3mm 程度である。総重量 0.3g である。ほとんどが白色の色調を呈する。すべて焼成されている。あまりにも細片過ぎてヒトの骨かどうかは肉眼的観察では判断できない。

1区 SK686 長軸 108cm、短軸 100cm、深さ 50cm の隅丸方形の土坑の中央部上層の覆土から骨片が集中して出土した。細片化が著しい頭・四肢骨片が多数遺存する(第31図-下段)。大きいものでも最大長 56mm 程度である。総重量 403.1g である。ほとんどが白色の色調を呈する。すべて焼成されている。同定できた部位は右頬骨前頭突起部片(第31図-下-1)、下顎歯槽部片(第31図-下-6)、椎骨横突起部片(第31図-下-8)、腰椎椎体部片(第31図-下-11)、右肩甲骨肩甲棘部片(第31図-下-7)、右上腕骨遠位部片、右橈骨遠位部片、寛骨白部片、大腿骨骨幹部片(第31図-下-13-14)、右膝蓋骨(第31図-下-12)、距骨滑車部片(第31図-下-15)である。確認された範囲では重複する部位が認められないので、一個体の可能性が高い。成人女性の一個体の焼骨平均重量が約 1300g であることを考えると、この個体が女性ならば 1/3 程度しか遺存していないことになる。

年齢に関しては、判断の基準となる部位が少ない。上腕骨の遠位の骨端の骨化が終了していることから成人段階に達していた。

性別に関しては、焼骨は、通常被熱により変形・縮小していることから、性別の推定困難な場合が多い。性別を推定するのに有効な形態学的特徴を有する寛骨は破損しており、また、乳様突起などの頭骨で性差が顕著な部位も検出されていない。したがって形態学的特徴によって性別を推定することは困難である。そこで、骨の計測データを用いて、男女の骨の大きさの違いをもとに性別推定を試みた。今回計測可能な部位は膝蓋骨のみであったので、膝蓋骨の高さを用いた(第31図-下-12)。しかし、焼骨は、一般的に収縮するとされている。個々の骨の縮小率は一定でなく、収縮率は報告者によりまちまちであり、大きさから性別推定には注意を要する。[池田 1981] は、焼成実験による収縮率の検討結果を参考に、太安万侶墓出土の焼骨の性別を推定する際に、収縮率を 3%、10% と仮定して検討を加えている。右膝蓋骨の最大高の推定値は 32mm 程度であり、関東地方現代人女性の平均値よりも小さい(成人男性 41.7mm、成人女性 35.0mm)。仮に 10% 縮小していたとしても、もとの値は、女性の平均値とほぼ同じである。したがって、現代日本人の成人女性の平均並みの体格であり、女性の可能性が高い。

本遺構の焼骨は、生焼け状態のものが観察されず、ほとんど白色を呈しており、色調にむらが認められないので、部位によって焼成温度の違いはないようである。また、輪状に走る亀裂が多数の骨片に観察でき、著しく変形した部位もみられる。以上のことから、本遺構から出土した焼骨は、死後、軟部組織がまだ骨を覆っている状態で、650℃以上のかかなりの高温で焼かれたものと推定される。

1区 SK687 長軸 144cm、短軸 120cm、深さ 12cm の楕円形の土坑の西側の覆土から骨片が少量出土した。細片化が著しい頭骨・四肢骨片が 20 点ほど遺存する。大きいものでも最大長 32.7mm 程度である。総重量 6.6g である。ほとんどが白色の色調を呈する。すべて焼成されているヒトと思われる。

1区 SK688 一辺が 90cm、深さ 32cm 程の方形の土坑から骨片がごく少量出土した。大きいものでも最大長 1mm にも満たない。総重量 0.1g にも満たない。あまりにも細片過ぎてヒトの骨かどうかは肉眼的観察では判断できない。

1区 SK691 長軸 108cm、短軸 100cm、深さ 50cm の隅丸方形の土坑の覆土から骨片が少量出土した。細片化が著しい四肢骨片が少量遺存する。大きいものでも最大長 21.8mm 程度である。総重量 0.5g である。ほとん

どが白色の色調を呈する。すべて焼成されている。ヒトの骨と断定はできないが、形状から見てヒトを否定する要素はみられない。

1区 SK692 長軸 38cm、短軸 34cm、深さ 20cm の隅丸方形の土坑の覆土から骨片が出土した。細片化が著しい頭骨・四肢骨片が多数遺存する。大きいものでも最大長 45mm 程度である。総重量 87.9g である。同定できた部位は側頭骨錐体部片、側頭骨乳様突起部片、後頭骨片、大腿骨片である。年齢に関しては、判断の基準となる部位が少ない。四肢骨の骨幹部の破片の大きさからみて成人並みの体格に達していたものと思われる。性別に関して、焼骨は通常被熱により変形・縮小していることから、性別の推定困難な場合が多い。本焼骨に関しても性別を特定できる形態学的特徴は少なく、断定するには至らなかった。本遺構の焼骨は、生焼け状態のものが観察されず、ほとんど白色を呈しており、色調にむらぎ認められないので、部位によって焼成温度の違いはないようである。また、輪状に走る亀裂が多数の骨片に観察でき、著しく変形した部位もみられることから、死後、軟部組織がまだ骨を覆っている状態で、650℃以上のかんりの高温で焼かれたものと推定される。

1区 SD703 幅 30cm、深さ 5cm 程の溝から最大長 20mm 程度の骨片が 1 点出土した。重量 0.5g である。白色の色調を呈し、焼成されている。形状から見てヒトの大腿骨の破片と思われる。年齢・性別は不明。

1区 SK705 直径約 80cm、深さ 50cm 程の円形の土坑の覆土から骨片が出土した。細片化が著しい四肢骨片が多数遺存する。大きいものでも最大長 19.5mm 程度である。総重量 3.3g である。ほとんどが白色の色調を呈し、焼成されている。ヒトの骨と断定はできないが、形状から見てヒトを否定する要素はみられない。

1区 SK706 長軸 128cm、短軸 92cm、深さ 40cm の楕円形の土坑の覆土から骨片が少量出土した。細片化が著しい四肢骨片が多数遺存する。大きいものでも最大長 18.4mm 程度である。総重量 17.2g である。白色の色調を呈し、すべて焼成されている。ヒトの骨と断定はできないが、形状から見てヒトを否定する要素はみられない。

1区 SK707 長軸 250cm、短軸 140cm、深さ 25cm ほどの隅丸方形の土坑の覆土から骨片が出土した。細片化が著しい頭・四肢骨片が多数遺存する。大きいものでも最大長 40mm 程度である。総重量 36.3g である。ほとんどが白色の色調を呈する。全て焼成されているヒトと思われる。同定できた部位は頭骨片の他に大腿骨遠位部片だけである。年齢は、大腿骨遠位部の骨化が終了しているもので、成人段階には達していた。焼骨は、通常被熱により変形・縮小していることから、性別の推定困難な場合が多い。本焼骨に関しても性別を特定できる形態学的特徴は少なく、断定するには至らなかった。

1区 SK708 長軸 72cm、短軸 35cm、深さ 10cm ほどの隅丸方形の土坑に埋納された方形木棺の外側の覆土から骨片が 2 片出土した。大きいものでも最大長 1.1mm 程度である。総重量 1.0g である。白色の色調を呈する。いずれも焼成されている。あまりにも細片過ぎてヒトの骨かどうかは判断できない。

1区 SK734 長軸 40cm、短軸 35cm、深さ 10cm の楕円形の土坑の覆土から骨片と思われる微小破片が少量出土した。大きいものでも最大長 0.1mm 程度である。総重量 0.1g にも満たない。肉眼では骨かどうか判断できない。

1区 SZ865 骨なし

2) 2区出土人骨

2区 SE4 直径約 150cm、深さ 40cm の円形の土坑の覆土上部から骨片が出土した。細片化が著しい四肢骨片が 3 点ほど遺存する。大きいものでも最大長 8mm 程度である。総重量 0.1g にも満たない。白色の色調を呈する。全て焼成されている。あまりにも細片過ぎてヒトの骨かどうかは肉眼的観察では判断できない。

2区 SE351 直径約 150cm、深さ 120cm の円形の土坑の覆土最上層から骨片が出土した。細片化が著しい四肢骨片が 1 点遺存する。最大長 4.4mm 程度である。総重量 0.1g にも満たない。白色の色調を呈する。焼成されている。あまりにも細片過ぎてヒトの骨かどうかは肉眼的観察では判断できない。

2区 SK392 魚骨の破片？

2区 SK483 長軸 150cm、短軸 140cm、深さ 32cm 隅丸方形の土坑から炭化物と混在して骨片が出土した。

細片化が著しい頭骨・四肢骨片が多数遺存する。大きいものでも最大長 18mm 程度である。総重量 66.2g である。ほとんどが白色の色調を呈する。全て焼成されている。ヒトの骨と断定はできないが、形状から見てヒトを否定する要素はみられない。

2区 SK556 長軸 340cm、短軸 168cm、深さ 36cm の方形の土坑の東端から骨片が出土した。ヒトの手の基節骨遠位部片 1 点が遺存する。最大長 26.7mm 程度である。総重量 0.5g である。白色の色調を呈する。焼成されている。性別・年齢は不明。

2区 SK557 SK556 に切られているため詳細は不明だが、土坑の下層に炭化物と混在して骨片が出土した。細片化が著しい頭骨・四肢骨片が多数遺存する（第 30 図 - 上段）。大きいものでも最大長 60mm 程度である。総重量 59.9g である。ほとんどが白色の色調を呈する。全て焼成されているヒトと思われる。同定できた部位は、肋骨片、左鎖骨近位部片（第 30 図 - 上 - 1）、右橈骨遠位部片、尺骨骨幹部片（第 30 図 - 上 - 2）、基節骨遠位部片（第 30 図 - 上 - 3）、手の中節骨（第 30 図 - 上 - 4）、手の末節骨（第 30 図 - 上 - 5）、大腿骨骨幹部片（第 30 図 - 上 - 6）である。年齢は中節骨の近位部の骨化が終了していることから、若年以上には達していたと思われる。焼骨は、通常被熱により変形・縮小していることから、性別の推定困難な場合が多い。本焼骨に関しても性別を特定できる形態学的特徴は少なく、断定するには至らなかった。

2区 SD940 幅 160cm、深さ 20cm 程の溝の覆土から骨片が出土した。細片化が著しい四肢骨片が 10 点ほど遺存する。大きいものでも最大長 10mm 程度である。総重量 0.5g にも満たない。いずれも白色の色調を呈していて、焼成されている。あまりにも細片過ぎてヒトの骨かどうかは判断できない。

2区 SK1539 長軸 72cm、短軸 35cm、深さ 10cm ほどの隅丸方形の土坑に埋納された方形木棺の外側の覆土から骨片が出土した。細片化が著しい四肢骨片が多数遺存する。大きいものでも最大長 16.4mm 程度である。総重量 2.7g である。いずれも白色の色調を呈していて、焼成されている。あまりにも細片過ぎてヒトの骨かどうかは判断できない。

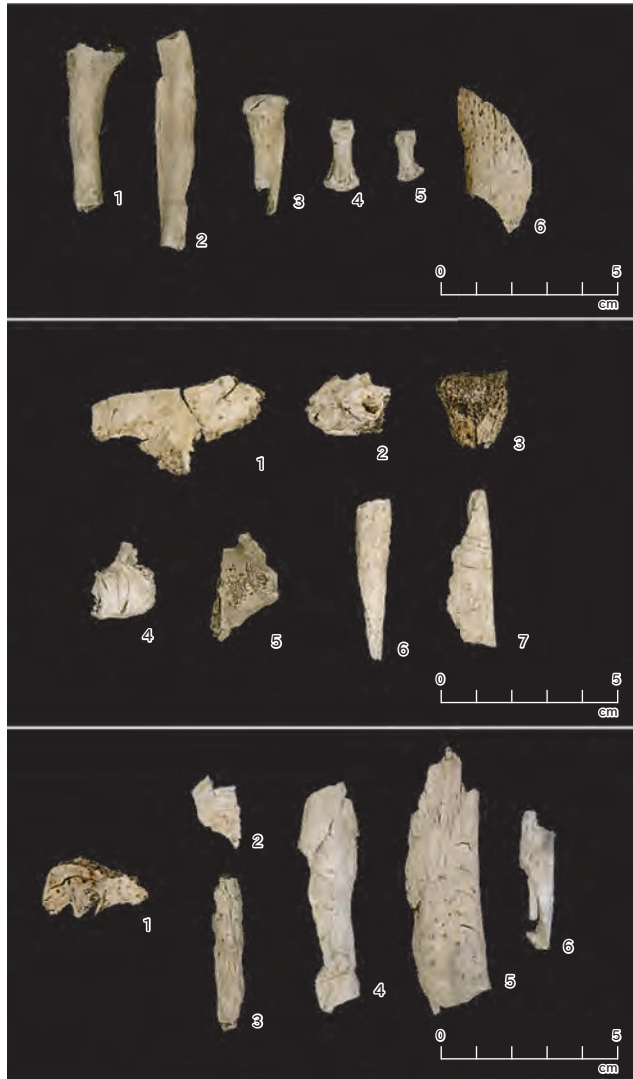
2区 SK1592 長軸 85cm、短軸 70cm、深さ 20cm ほどの隅丸方形の土坑の覆土から骨片が出土した。細片化が著しい四肢骨片が多数遺存する。大きいものでも最大長 27.8mm 程度である。総重量 14.3g である。いずれも白色の色調を呈していて、焼成されている。ヒトの骨と断定はできないが、形状から見てヒトを否定する要素はみられない。輪状に走る亀裂が多数の骨片に観察でき、著しく変形した部位もみられることから、死後、軟部組織がまだ骨を覆っている状態で、650°C 以上のかんりの高温で焼かれたものと推定される。

2区 SZ2013 骨なし

C ま と め — 若干の考察 —

1) 人骨の年齢構成と性別

本遺跡から出土した人骨の年齢構成と性別は、若年以上の成人男性 0 個体、女性 2 個体、性別不明 4 個体。幼・小児人骨は確認できなかった。焼骨は変形が著しく、種の同定のみならず、年齢・性別の識別が困難なことが多い。本遺跡においても人骨と判断できない場合もあった。しかし、SK392 の魚骨のほかに明確に他の動物種と推定できるものも無かったので断定できなかった破片もヒトの可能性が高い。年齢に関しては、年齢推定に有効な寛骨の恥骨結合面はもろく、焼骨で遺存することは稀である。また、同じく歯の咬耗度も、エナメル質が、火葬にされる場合それほど高くない約 500°C で完全に剥離してしまうので、多くの場合利用できない。さらに頭蓋の縫合の癒着の程度も、完全に縫合が癒合していなければ、癒合がかなり進んでいても、縫合に沿って割れてしまう〔池田 1981〕など年齢を推定する際は厳しい条件となる。したがって、正確な年齢構成の把握は困難であるが、本遺跡の出土人骨に未成人が含まれないことは、遺跡の性格を考える上で興味深い事実である。同様に性別に関しても、寛骨が遺存しない場合、後頭骨の外後頭隆起、側頭骨の乳様突起などの発達程度によって判断されることが多いので、頑強な骨格を有する男性が認識され易い傾向にあることを考慮しなければならない。さ



上 2区 SK557
 1: 左鎖骨近位部 (22) 2: 右尺骨骨幹部 (23) 3: 基節骨遠位部 (17)
 4: 中節骨 5: 末節骨 6: 大腿骨骨幹部 (14)

中 1区 SK682
 1: 左頭頂骨鱗縁部 (96) 2: 右側頭骨内耳孔部 (104) 3: 基節骨遠位部 (103)
 4・5: 上腕骨遠位部 (105・19) 6・7: 大腿骨骨幹部 (98・21)

下 1区 SK682墓
 1: 右側頭骨下顎窩部 (86) 2・3: 四肢骨骨幹部 (46・60)
 4・5: 大腿骨骨幹部 (79・41) 6: 腓骨骨幹部 (78)

第30図 出土人骨写真(1) ()内は取上No.



上 1区 SK683
 1: 上腕骨遠位部 2・3: 四肢骨片 4: 右膝蓋骨
 5~8: 四肢骨片 9~13: 四肢骨骨幹部 (1~13すべて取上No.21)

下 1区 SK686
 1: 右頬骨前頭突起部 (23) 2~5: 頭骨片 (77・24・14)
 6: 下顎骨歯槽部 (27) 7: 右肩甲骨肩甲棘部 (91)
 8: 椎骨横突起部 (107) 9・10: 四肢骨片 (75・81)
 11: 腰椎椎体部 (102) 12: 右膝蓋骨中節骨 (42)
 13・14: 大腿骨骨幹部 (7・55) 15: 距骨滑車部 (63)

第31図 出土人骨写真(2) ()内は取上No.

らに焼骨の場合、最大で30%縮小するといわれているが、個々の骨の縮小率は一定でなく、性比の構成を解釈するには注意が必要である。

2) 荼 昆

ヒトと思われる骨片は全て焼成されたものと思われる。

焼成による骨の色調変化は、低い焼成温度では暗赤色・褐色であるが、高温になるにつれて黒色となり、最後には白色を帯びるとされている。また、焼成温度が600℃までは骨自体に変化を及ぼさないが、800℃前後で著しく捻転、収縮等の変化が生じるとされている。骨が白色を帯びる焼成温度は、[Shipmanほか1984]は650℃以上、[Nicholson1993]は700~800℃以上、[平野1935]は800から1000℃と報告しており、報告者によってかなりの幅がある。これらの違いは、焼成時間の長短などの様々な条件に影響されていると思われる。また、焼骨の場合2区SK557でみられたように、指の先端の末節骨などの骨が変形もせずに残存することがしばしばある。

このような例は、手足などの末端は薪などの燃料からはみだしたりして、強い火力に曝されなかったからだと言明されることが多いが、これらは遺体に含まれる脂肪の量によるものだという指摘がある〔Mays 1998〕。つまり、指などの先端の部分は脂肪が少ないため良く焼けなかったと考えられる。また、太った遺体の方が痩せた遺体よりも良く燃える傾向にあるので、良く焼かれている骨だから十分に燃料の提供を受けたものと解釈するのは早計である。さらに軟部の付着した状態で骨が焼かれると、激しく変形し細かい亀裂が多数生じるが、晒した骨は焼かれてもほとんど変形せず、大きく割れるだけであるという〔馬場ほか 1986〕。本遺跡の焼骨は、生焼け状態のものが無く、ほとんど白色で色調にむらが認められず、捻転、収縮等が生じているものが多く見受けられる。また、輪状に走る亀裂が多数の骨片に観察できる。以上のことから、本遺跡から出土した焼骨は、死後、軟部組織がまだ骨を覆っている状態で、一定条件のもと高温で意図的に焼かれた茶毘の可能性が高い。

3) 拾 骨

成人男性の焼骨重量は約 2 kg、成人女性は約 1.3kg とされるが〔山口 1983〕、本遺跡のいずれの遺構から検出された焼骨も重量は大幅にこれらを下回る。一番重たいのは 1 区 SK683 の 407g である。女性と推定されたので、本来あるべき骨量の 1/3 程度しか遺存していないことになる。一般に焼成した骨はもろくなるが、遺跡から出土する焼骨は強固な状態であることが多い。この現象は高温により融解した無機質が再結晶化する際に水と反応してより強固な構造に変化し、有機物を含有しないため微生物によって腐食されないと説明がなされている〔May 1988〕。

本遺跡の焼骨は、いずれも生焼けでなく、ほとんど均一に白色を呈し、もろくないことと指骨などの小さな骨が保存状態良好で遺存していることから、埋存過程で消失したと考えるよりも、埋められたか、遺棄された当初から現在ある量しかなかったと推定するほうが蓋然性が高い。焼かれた後に拾骨されたものと思われる。当地で茶毘されて拾骨された一部が取り残されたものなのか、あるいは別のところで茶毘に付された焼骨の一部が持ち込まれたものであるのか不明である。注目すべき点は、出土した骨片に歯が確認されていない。歯のエナメル質が、火葬にされる場合それほど高くない約 500℃で完全に剥離してしまうので確認することが困難であるが、通常歯根部は比較的保存状態が良好である。近世墓において、蔵骨器の中に歯と喉仏とされる軸椎を別の曲げ物に区別して入れた例〔奈良 1988〕や民俗例では分骨の際歯が選択される場合がある。本遺跡が、このような習俗の事例に当てはまるかどうかは現時点では判断できないが、1 区 SK683 のように 400g ほどの骨が出土していながら頭骨片が同定されていないことなど今後検討すべき課題と思われる。

第Ⅶ章 総 括

第 1 節 細池寺道上遺跡の遺構

A 掘立柱建物 (第 32～34 図)

本調査では、1 区東側および 2 区北～南東側において、溝に囲まれた区画の範囲内から掘立柱建物が合計 21 棟確認された。溝と建物は大きく東西と南北、2 つの軸に合わせて構築されており、遺構の先後関係と出土遺物から、中世と近世の 2 時期に分かれる。以下では、今回検出された掘立柱建物と、区画墓、溝や井戸など共伴すると考えられる遺構も含め、中世と近世の集落として検証し、その変遷をまとめる。

1) 建物の分類

掘立柱建物の分類については、宮本長二郎〔宮本 1999・2002〕・春日真実〔春日 2009〕・中尾七重〔中尾 2012〕の研究を参考に分類を行った (第 32 図)。

梁間 1 間型建物

建物を構成する平行した 2 本の柱列において、各柱穴が同一線上に相対する建物。本調査でもっとも多く検出された建物で、以下の 3 種に細分した。

- ・近接棟持式 … 中世の建物 2 棟 (SB2006・2007) が検出された。2 棟とも片妻側の身舎外側に棟持柱を有する。
- ・壁芯棟持式 … 妻側壁内に棟持柱を有する建物。梁間 2 間型建物と類似するが、本調査では片妻側に棟持柱を有する中世の建物 1 棟 (SB2024) のみが検出された。
- ・棟持無 … 棟持柱を建てない建物。近世の建物 5 棟 (SB868・2010・2023・2027・2029) が検出された。

このほか、庇や間仕切りの有無によってもさらに細分が可能であるが、検出数が限られていることから今回は割愛する。

梁間 2 間型建物

梁間 2 間で構成される建物。梁間 1 間型と同様の細分が可能と思われるが、本調査で検出されたのは壁芯棟持式のみである。中世で 4 棟 (SB866・867・2033・2034)、近世で 2 棟 (SB2009・2028) の建物が検出された。

方形建物

方形もしくは長方形の建物。1 間×1 間の簡素な造りを基本とする。壁芯棟持式に類するものもみられるが、今回は規模での分類を優先し、方形建物とした。中世で 2 棟 (SB2025・2030)、近世で 3 棟 (SB869・2026) の建物が検出された。

総柱型建物

側柱を結んだ交点に中柱を有する建物。中世の建物 3 棟 (SB2008・2011・2012) が検出された。庇の有無や位置によって細分が可能と思われるが、今回は割愛する。

以上、検出された掘立柱建物を 4 類型 6 形式に分類した。以下ではこれを基にして中世・近世の集落の様相をまとめる。

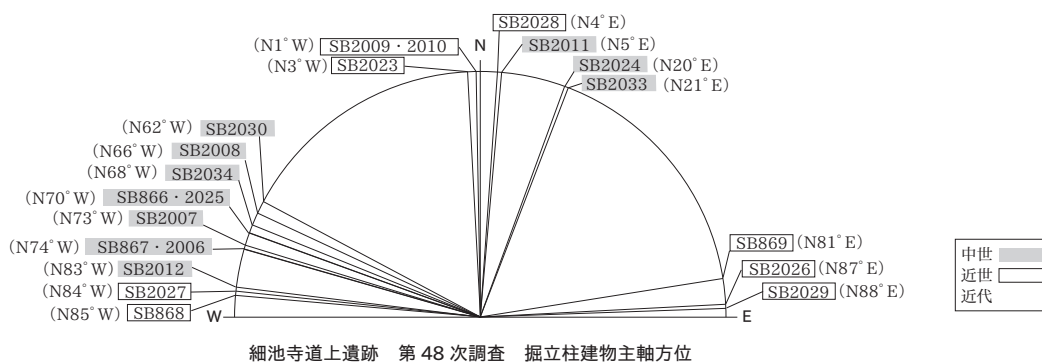
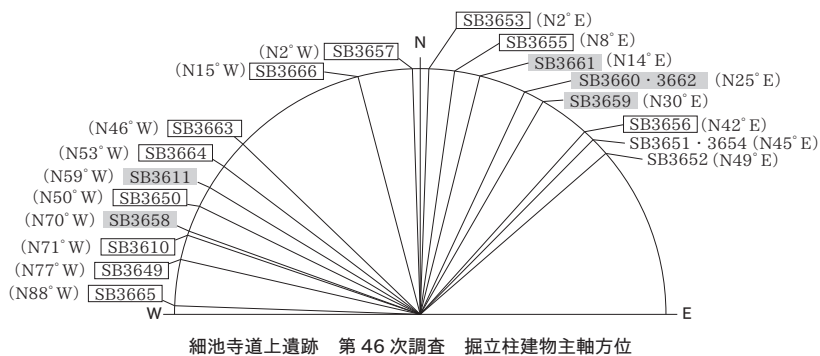
2) 中世の掘立柱建物

本調査において検出された居住に関する遺構は、大半が 2 区で検出された。時期を決定した基準としては、出土遺物、遺構の先後関係、建物の主軸方位である (第 33 図)。中世に位置付けられる掘立柱建物は 1 区で 2 棟 (SB866・867)、2 区で 10 棟 (SB2006～2008・2011・2012・2024・2025・2030・2033・2034) を数え、2 区北側一帯に集中して検出された。各建物は東西棟が 9 棟、南北棟が 3 棟と東西棟が多く、主軸方位は東西棟が

N-70°-W 前後、南北棟が N-20°-E 前後を示すものが多い。調査区別に建物の形態を概観すると、1 区で検出された建物 2 棟 (SB866・867) は、2 区北側一帯の建物群と離れた位置にあり、柱穴の規模も 2 区のそれと比較して小規模である。SB866 は梁間 2 間型・壁芯棟持式の建物で、西妻側の棟持柱延長線上に、建物内に 2 基の四柱穴を設けて間仕切りをしている。また、南東隅には長方形の室のような区画も設けており、ほかの中世建物とは異なる構造が認められる。これらの点から、SB866 は中世建物群の中でも築造時期あるいは建物の機能などが異なっていた可能性がある。SB867 は、SB866 と同様に梁間 2 間型・壁芯棟持式の建物であるが、は

		中世	近世
梁間 1 間型建物	近接棟持式	<p>2 区 SB2006 2 区 SB2007</p>	
	壁芯棟持式	<p>2 区 SB2024</p>	
	棟持無		<p>1 区 SB868 2 区 SB2023</p> <p>2 区 SB2027 2 区 SB2029</p> <p>2 区 SB2010</p>
	壁芯棟持式	<p>1 区 SB866 1 区 SB867</p> <p>2 区 SB2034 2 区 SB2033</p>	<p>2 区 SB2009 2 区 SB2028</p>
方形建物	<p>2 区 SB2030 2 区 SB2025</p>	<p>1 区 SB869 2 区 SB2026</p>	
総柱型建物	<p>2 区 SB2008 2 区 SB2012</p> <p>2 区 SB2011</p>	<p>0 (1 : 400) 20m</p>	

第 32 図 掘立柱建物分類図



第33図 細池寺道上遺跡 第46・48次調査 掘立柱建物主軸方位

るかに小規模で形態としては方形建物に近い。周辺から建物は検出されていないが、調査区際に位置するため未検出の建物が調査区外にあることも考えられる。

本調査でもっとも建物が集中するのは、前述した2区北側の14R-5F～7Hグリッドにかけての一角で、SB2006～2008・2024・2033・2034の6棟が検出された。SB2006・2007は梁間1間型・独立棟持式の建物で、ほぼ同位置において検出されている。柱穴の切り合い関係から、SB2007は2006の建て直しと考えられる。西側にSB2024、南側にSB2008・2025・2033、若干離れた南西側にSB2034が近接するが、いずれも主軸方位が近似もしくは直交することから、同時期性が高い建物群と考えられる。これらの建物群と若干距離を空け、2区北西部においても中世の建物が2棟(SB2011・2012)検出されている。SB2011とSB2012は東西棟と南北棟の違いはあるが、主軸方位はほぼ直交するような関係であり、2棟とも総柱型建物という共通点が認められる。また、前述の建物群とSB2011・2012との中間付近にSB2030が検出されている。主軸方位はN-62°-Wと14R-5F～7Hグリッドの建物群と近似しており、同時期に存在し、何らかの関連があった建物と推察される。

3) 近世の掘立柱建物

近世に位置付けられる掘立柱建物は1区で2棟(SB868・869)、2区で7棟(SB2009・2010・2023・2026・2027～2029)を数え、2区南東側一帯に集中して検出された。各建物は南北棟が4棟、東西棟が5棟とわずかに東西棟が多い。建物の主軸方位は南北棟がN-1～3°-W、N-4°-E、東西棟がN-80°-EもしくはN-80°-Wであり、中世の建物とは主軸方位が異なっている(第33図)。調査区別に建物の形態を概観すると、1区は中世の溝であるSD205の北側にSB868とSB869が重複して検出されている。SB868は小規模な梁間1間型建物、SB869はさらに簡素な方形建物である。柱穴同士の切り合い関係が無いことため先後は不明だが、主軸方位が異なることから内部施設などではなく時期差があるものと考えられる。西側で検出された畑(SN874)に関連する建物の可能性もあるが、その場合は居住施設ではなく納屋のようなものだったと考えられる。

2区の建物は、調査区南東部にあたる14R-7G以南に集中して分布する。この中で特筆されるのは、調査区南

壁際で検出された SB2010 である。SB2010 は主軸方位がほぼ真北を示す大型の建物で、本調査で検出された建物の中でも最大の規模を測る。梁間 1 間型建物であるが、北東隅に 1 間分の張り出しが設けられ、全体の平面形状としては鉤の手状を呈する。張り出し部の役割は不明だが、東側柱の内側に支柱穴と思われる Pit893・944 が検出されており、扉のような施設が設置されていた可能性がある。また、建物の北～西側にかけて、建物と平行する SD940 が検出されており、雨落ち兼区画溝であったと思われる。このような付帯施設を持つ建物は、ほかに見つかっておらず、本調査で確認された近世集落においても中心的な役割を担っていた建物と考えられる。SB2010 北東側には小規模な建物が、不規則ではあるが建物同士の重複もなく検出されている。SB2010 から最も至近距離にある建物は、SB2026 である。SB2026 は方形建物として分類したが、SK556 と主軸方位を同じくして重複している。柱穴は小規模であるが、SK556 の上端に沿うように相対して配置されていた。SK556 は多量の近世遺物が覆土中から出土しており、焼骨が出土した SK557 とも重複する。北東には火葬土坑の可能性のある SK483 (焼骨と多量の炭化物が出土) が近接しており、埋葬に関わる特殊な遺構であった可能性のある土坑である。SB2026 は、SK556 の上屋などを構成する柱穴であった可能性がある。SB2026 北側には SB2009 が近接する。正方形に近い形状の梁間 2 間型・壁芯棟持式建物で、東・北側に庇を有する。SB2009 の南東、SB2026 の東には、梁間 1 間型建物である SB2023 が、SB2023 北東には北側に庇を有する梁間 1 間型の建物 SB2027 が近接する。その南東には梁間 2 間型・壁芯棟持式建物の SB2028、その南には梁間 1 間型建物の SB2029 が近接する。

近世の建物は、SB2010 を除き全体的に中世の建物よりも小規模であり、大型の SB2010 周辺に小型建物が配置されるような分布傾向がみられた。また、2 区南側に集中していることから、調査区外となる南側へ集落が広がっている可能性が高いと思われる。

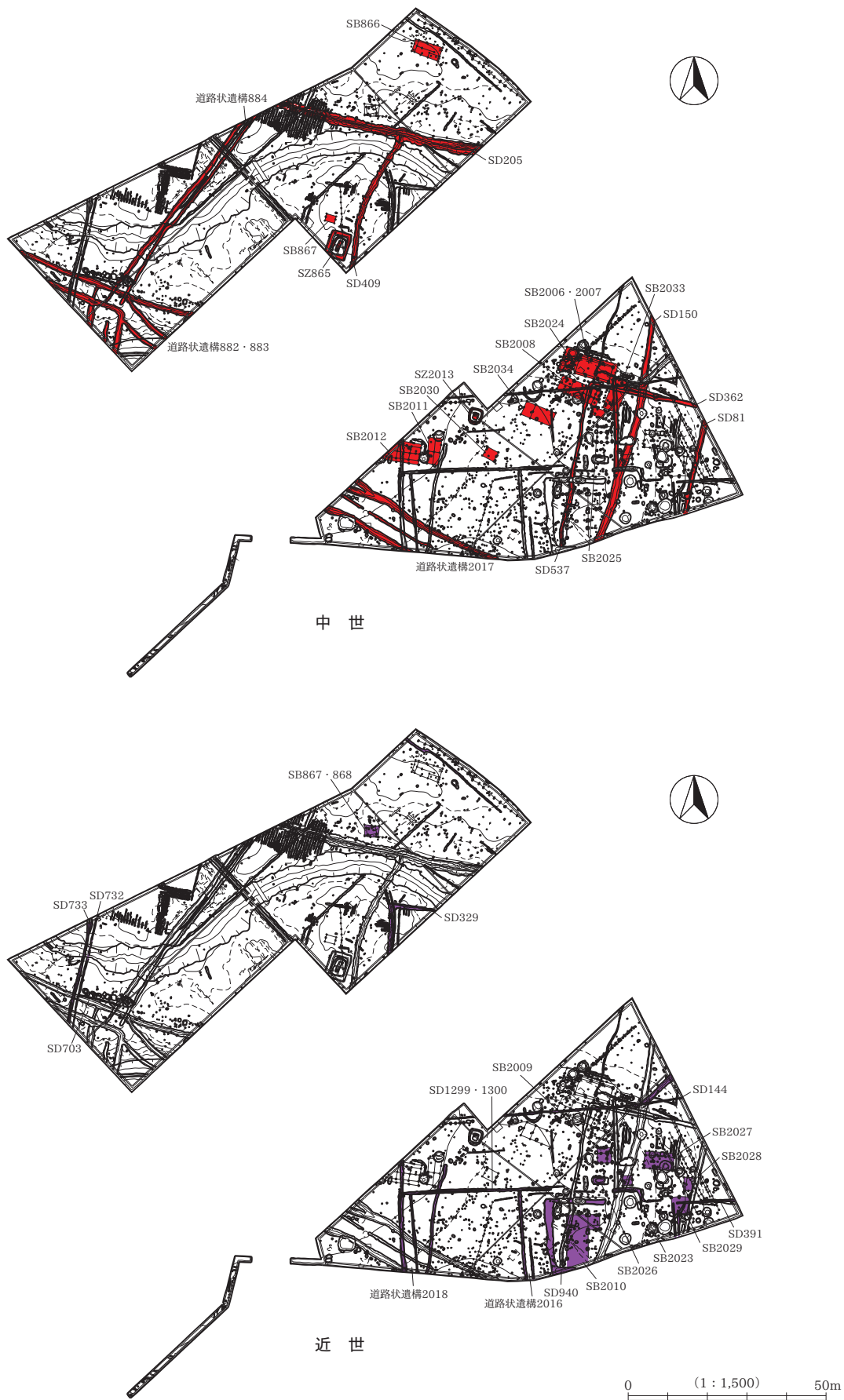
4) 集落の区画溝

【中世の区画溝】

前項で述べた建物群周囲には、同じく中世に位置付けられる溝が複数検出されている。いずれもある程度の規模の幅、深度を有し、直線的に走行する傾向がみられる。1 区では SD205・409 がこれに該当すると思われる。SD205 は断面形状が薬研形を呈し、本調査中でも最大規模の溝であることから本遺跡の中世集落においては重要な機能を果たしていた溝と考えられる。SD409 は緩やかに蛇行しながら SD205 に合流する溝で、走行方向は 2 区の中世溝 SD81・150 と近似する。SD81・150 は 2 区東側で並行して走行しており、2 区の建物群の主軸方位とは、走行方向が平行もしくは直交する。また、1 区南西側を走行する SD574・577・578・600 からなる道路状遺構 882・883 と、2 区南西側を走行する SD1521・1615・1618・1620 からなる道路状遺構 2017 は、両道路ともに前述の溝群とは平行・直交する位置関係にある。1 区と 2 区の道路状遺構が同一のものであると想定するならば、南東―北西にかけて走行する道路状遺構と、道路北側に展開する一連の溝によって区画された中世集落の存在が想起される (第 34 図)。周辺の調査においても、細池寺道上遺跡第 25 次調査では本調査と走行方向が近似する溝によって区画された建物が検出され、第 43 次調査においては南北に走行する道路状遺構周辺で建物群がみついている。当該地域における中世集落の構造の一端が、本調査においても確認されたものと考えられる。

【近世の区画溝】

中世の区画溝に対して、近世の区画溝は小規模な溝によって構成される。1 区では建物を区画する近世の溝は検出されなかったが、調査区東側の南壁際において SD329 が検出されている。SD329 は南北に走行し、NR500 手前で東へと直角に近いかたちで屈曲する溝である。南北溝の走行方向を南の 2 区へと迎ると、2 区西側で検出された SD1563 に繋がる可能性がある。2 区の区画溝は、東西方向は SD144・381・492・733・1299・1300、南北方向は前述の SD252・421・1241・1242・1554・1563 などの小規模な溝によって構成される。これらの溝によって囲われる区画は東西に長い長方形を呈する。1 区 SD329 が近世集落の区画である



第34図 細池寺道上遺跡 掘立柱建物変遷図

ならば、東西に短冊状の区画を配し、南北の溝で用途に合わせて小区画を形成するような構造が窺える（第34図）。区画内の土地利用については、居住域以外の用途は不明である。

5) ま と め

以上、中世・近世それぞれの集落を形成する建物と区画溝について述べたが、中世の集落については周辺の調査結果についても検討し、道路状遺構を軸にある程度広い範囲の区画内に梁間1間型や2間型・壁芯棟持式、総柱型建物といった中型規模の建物、小型の方形建物など多様な建物を用いて集落を形成していたことが分かった。ただし、集落の範囲内に存在する区画墓との関連については、明確な見解は示せなかった。

近世に至ると、区画は真北に近い方向性をとり、小規模な区画ではあるが整然とした構造の中で集落を形成していたと考えられる。特筆されるのは、前述の近世建物のうち、特殊な形態を有するSB2010である。区画内の至近距離に火葬墓などの特殊な遺構が存在し、また区画からは離れるとはいえ、遺跡範囲内において近世墓群が検出されていることも注目される。関連する遺物が出土していないため断定はできないが、寺院もしくは堂のような特殊な役割を持った建物であった可能性も考えられる。今後周辺での調査結果による進展を期待したい。

B 井 戸（第35～39図）

本調査において検出された井戸は、中世が21基、近世が15基の計36基を数える。大半が素掘りの井戸だが、2区SE734からは桶を3段重ねた井戸側が検出された。SE734以外にも、2区SE449のように籬や側板の一部が出土するものもあり、井戸側を備えた井戸が存在した可能性はあるが、良好な状態で残存していたのはSE734のみであった。以下では、検出された井戸の形態分類を行い、概略を時期ごとにまとめる。また、SE734から検出された井戸側について、周辺事例と合わせて検討してみたい。

1) 井 戸 の 分 類

本遺跡地の地盤となるVa層が、シルト質で非常に脆いことから、検出された井戸の大半に崩落の痕跡が確認された。以下で行う分類については、残存する井戸壁面の形状から推定したものも含める。また、平面形はすべて円形もしくは楕円形で極端な変化が無いことから、断面形状も含めた立体的な形状を想定して分類を試みた。井戸側の有無によってさらに細分も可能だが、SE734で確認されているのみのため、ここでは行わないこととする。

A～Dの4種に分類した（第35図）。もっとも多数を占めるA類は上下端・深度によってI～IIIに細分した。

A類：円錐台形 断面台形で底面が比較的平坦なもの。上端径より深度が深い縦長のものをI類、上端径が深度よりも大きい横長のものをII類、全体的に小型のものをIII類として細分した。

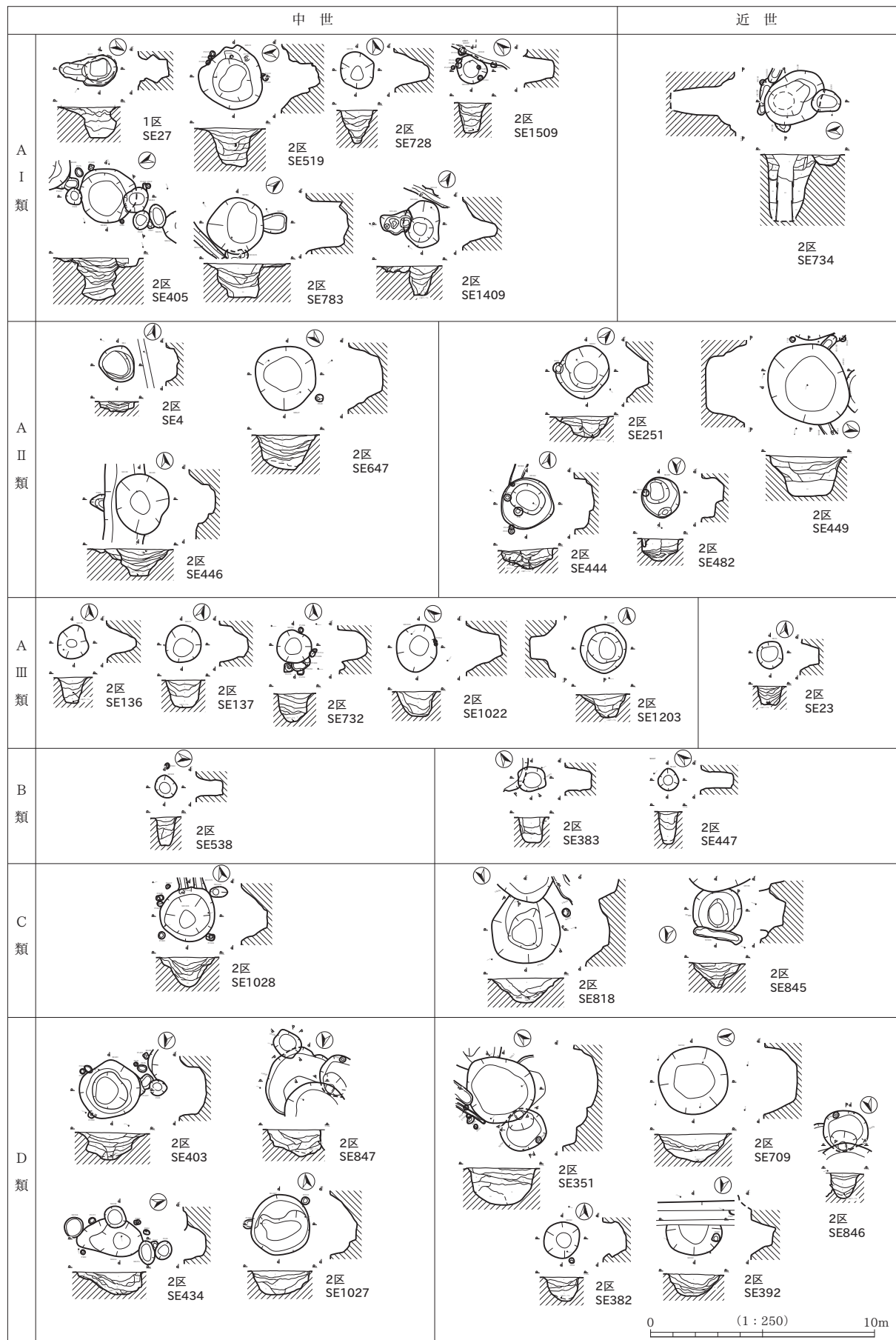
B類：円筒形 上下端の径に差があまりない縦長のもの。

C類：擂鉢形 上端径に対して下端径が極端に小さく、壁面が直線的に立ち上がるもの。

D類：椀形 底面の形状が平坦ではなく、壁面が緩やかに立ち上がるもの。

検出された遺構数別にみると、もっとも多く検出されたのはD類で9基、次いでAⅠ類が8基、AⅡ類が7基、AⅢ類が6基、もっとも少なかったのはB・C類でそれぞれ3基である。時期別にみると、中世はAⅠ類がもっとも多く7基、AⅢが5基、D類が4基、AⅡ類が3基、B・C類がそれぞれ1基となっている。近世ではD類がもっとも多く5基、AⅡ類が4基、B・C類がそれぞれ2基、AⅠ・AⅢ類がそれぞれ1基となっている。

中世でもっとも多く検出されたAⅠ類は、井戸としてはごく一般的な形状であり、中世の掘立柱建物周辺に多く分布することからも、生活用水を確保するための井戸であったと推察される。近世ではD類やAⅡ類などの大型で比較的浅い井戸が多く造られる。掘立柱建物の周辺に分布するのは中世と共通する傾向である。形態以外に中世と大きく異なる点は、井戸同士の切り合いが多く、調査区南東部の一画に何度も掘り直している点である。また、近世の井戸ではSE251・351・383・482・709の覆土に、人為的に埋め戻された痕跡が認められた。このうち、SE251・383・482は井戸側を抜いた後に埋め戻したような状況を示しており、SE734以外にも井



第35図 井戸分類図

戸側を備えたものが存在していた可能性を示している。

2) SE734 井戸側について

本調査で検出された中近世の井戸について概略と形態分類、その特徴については述べた。以下では、その中で特筆される、井戸側が残った状態で検出された 2 区 SE734 について検討してみたい。

SE734 は、2 区南東部の調査区南端付近で検出された。平面形は南北にやや長い楕円形、断面形は縦長の台形を呈する。掘方上部は楕円状に広がり、中心が若干北側に寄っているため南側がやや広がっている。特筆されるのは、本調査で検出された井戸の中で、唯一井戸側が残存していた点である。井戸側は桶を逆さまにして重ねたもので、3 段で構成されている。近世以降に規格化された桶が大量生産されるようになると、桶を用いた井戸側は都市部を中心に盛行したとされ〔鐘方 2003〕、江戸時代に著された『守貞漫稿』にも、桶を井戸側とする方法は江戸を中心とする東日本で用いられたとの記述がみられる。桶の樹種については自然科学分析を行い、アスナロ属と判明している（第 VI 章第 5 節参照）。アスナロ属は保存性、耐久・耐水性に優れ、建築材や桶材に多用される。井戸側の残存状態は遺跡の環境に左右されるため、県内での検出例は多くはないが、新潟市中央区の山木戸遺跡〔諫山 2004〕、江南区の三王山遺跡〔酒井 1980〕、秋葉区の江内遺跡〔春日ほか 1996〕、五泉市の笥下遺跡〔山崎ほか 2004b〕、胎内市中条町の下町・坊城遺跡〔水澤ほか 2000〕、長岡市の長岡城跡〔鳥居ほか 2010〕、阿賀野市の新町遺跡〔田海ほか 2016〕において、桶積上げ式の井戸側が確認されている（第 36～38 図）。

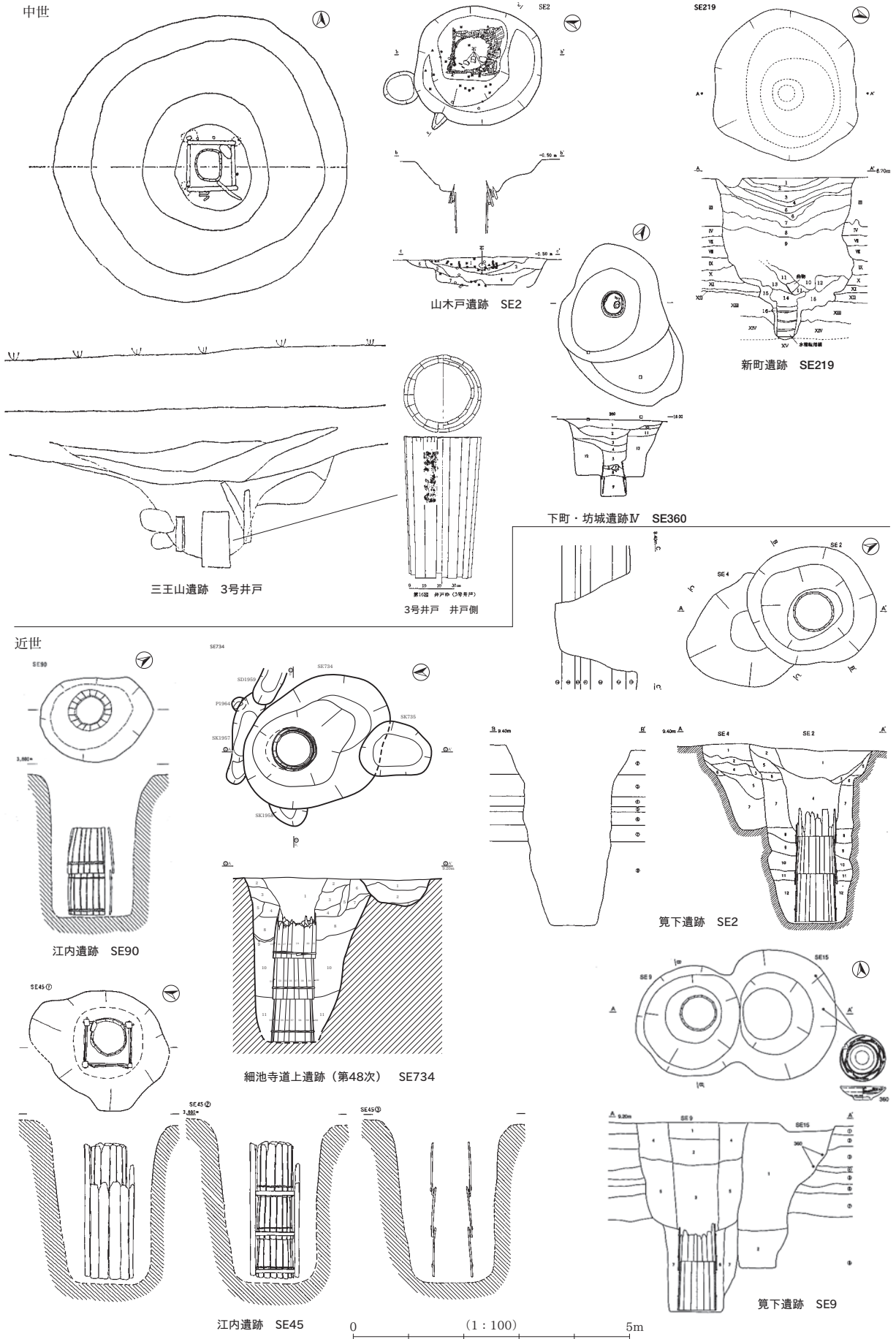
山木戸遺跡は古代～近世にかけての集落遺跡で、竪穴住居、井戸、土坑、掘立柱建物などの遺構が多数検出されている。井戸は 17 基検出されており、すべての井戸から井戸側が検出されている。井戸側の種類は多様で、曲物を重ねたものや削り貫き材を据えたもの、板材を組み立てたものを中心となる。このうち、SE2 の井戸側には唯一桶が用いられていた。単体の桶を正位置で掘方中央に据えており、周囲を縦方向の板材で方形に囲み、土留めを構築している。SE2 の時期は、出土遺物から 11～13 世紀頃に位置付けられている。

三王山遺跡は中世の集落遺跡で、竪穴状遺構、井戸、掘立柱建物、溝などが検出されている。井戸は 3 基検出されており、このうち 3 号井戸には、井戸側に桶が用いられていた。桶周囲には板材で土留めが構築されており、前述の山木戸遺跡と共通する構造となる。井戸側に用いられた桶は高さ 1m 弱を測り、本遺跡の SE734 や後述する江内遺跡 SE45・90 の井戸側よりも 10cm 以上長い側板で構成されている。また、井戸側が検出されなかった 1・2 号井戸にも桶を据えていた痕跡は確認されていることから、三王山遺跡で確認された中世集落では、井戸側に桶を用いることが一般的に行われていたようである。

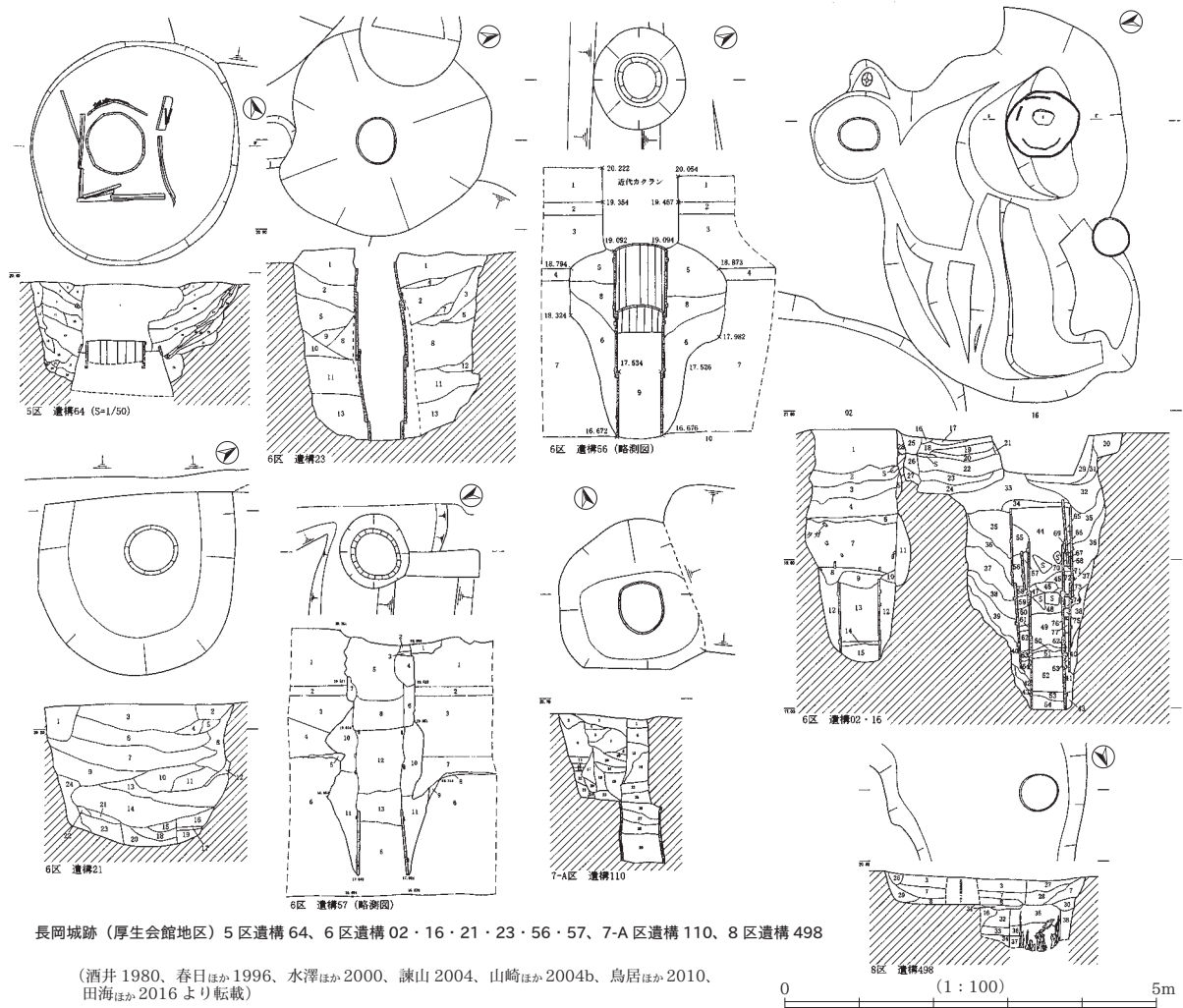
本遺跡にもっとも近接する江内遺跡では 27 基の近世井戸が検出されているが、このうちの 2 基（SE45・90）に桶積上げ式の井戸側が用いられていた。SE45 は径 2.00～2.48m、深度 2.90m を測る平面円形の井戸で、断面形は SE734 と同様台形を呈す。検出された井戸側は本調査の SE734 と近似するもので、逆さまにした桶を 3 段重ねたものである。桶の規模や上段桶の上部が破損している点など SE734 との共通点が多くみられるが、3 段の桶周囲に長大な角材を建て、同寸の板材を用いて方形の土留めを構築している点は異なる。一方の SE90 は、掘方の規模は SE45 とほぼ同じであるが、桶を積み上げた井戸側は 2 段となっている。両井戸とも井戸側に用いている桶は SE734 とほぼ同規格であり、大量生産品が用いられたことの証左となっている。

五泉市の笥下遺跡では、16 基の井戸が検出されており、このうち 2 基（SE2・9）から桶積上げ式の井戸側が検出されている。SE2 は近世の井戸で、井戸側は本調査の SE734 と同様 3 段まで残存していた。桶の規模は高さ 87cm、口径 73～76cm と SE734 よりもわずかに小振りであるが、側板上下断面に木釘を打ち込んで接合している点など、桶の作成方法は共通する。SE9 も SE2 と同様の桶積上げ式井戸側を有するが、こちらは 2 段のみ残存していた。完全に残っていたのは最下段のみで、桶の規模は高さ 91cm と本調査検出のものと同様である。2 段目の桶は上部が破損しているが、土層断面から 2 段以上積み重ねた井戸側であった可能性が高い。2 基の井戸は、井戸側以外にも掘方の形状、掘削深度が SE734 に近似しており、このことから本調査の SE734 は、当該期の井戸として規格化された形態・規模であったことが推察される。

第1節 細池寺道上遺跡の遺構



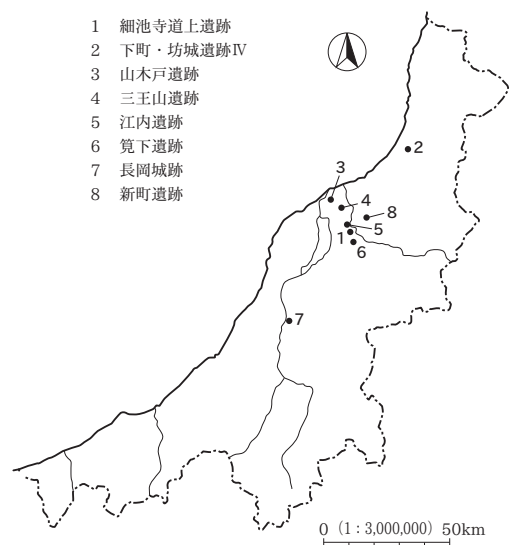
第36図 桶積上げ式井戸側集成図(1)



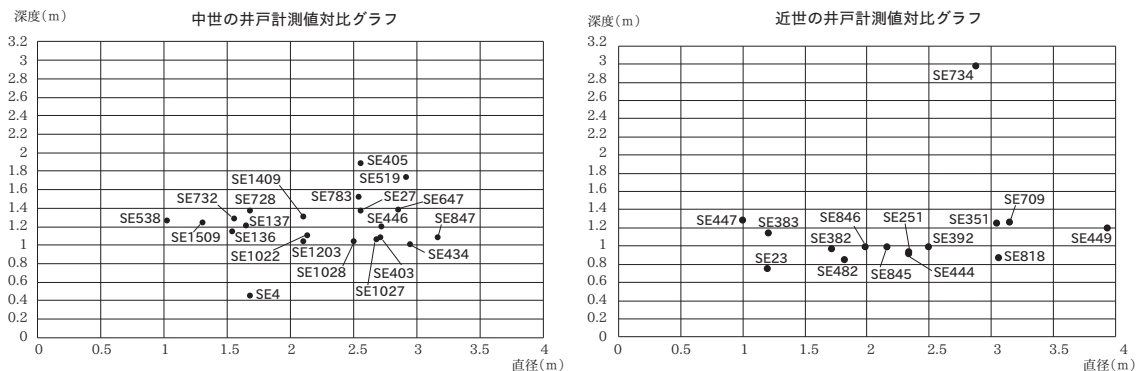
第 37 図 桶積上げ式井戸側集成図 (2)

下町・坊城遺跡Ⅳ (B地点) では2基の中世井戸が検出されているが、SE360に桶を積み重ねた井戸側が残存していた。平面楕円形で、北西側に掘方の中心が寄っている。断面は台形を呈するが、底面中央を桶に合わせて掘り込んで井戸側を据えている点が本遺跡や江内遺跡の例とは異なる。井戸側に用いられている桶は高さ60～70cmとやや短いものを使用されており、三王山遺跡で検出された桶と同様、近世における規格品とは異なっている。

以上の事例を踏まえたうえでSE734の井戸側についてまとめると、使用された桶の中・下段については江内遺跡で検出された2基の井戸のものと同規格であった。上段についても上部が破損しているが、同様の規格であったと推察される。内外面のハツリ痕や、桶同士を重ねる際に内面を削り込んで重ね易くするなどの加工方法についても、同様の特徴がみられた。これらの点から、桶を井戸側に用いる際の共通する手法などの存在が窺える。また、本調査では井戸側の



第 38 図 桶積上げ式井戸側 主要出土遺跡分布図



第39図 井戸計測値対比グラフ

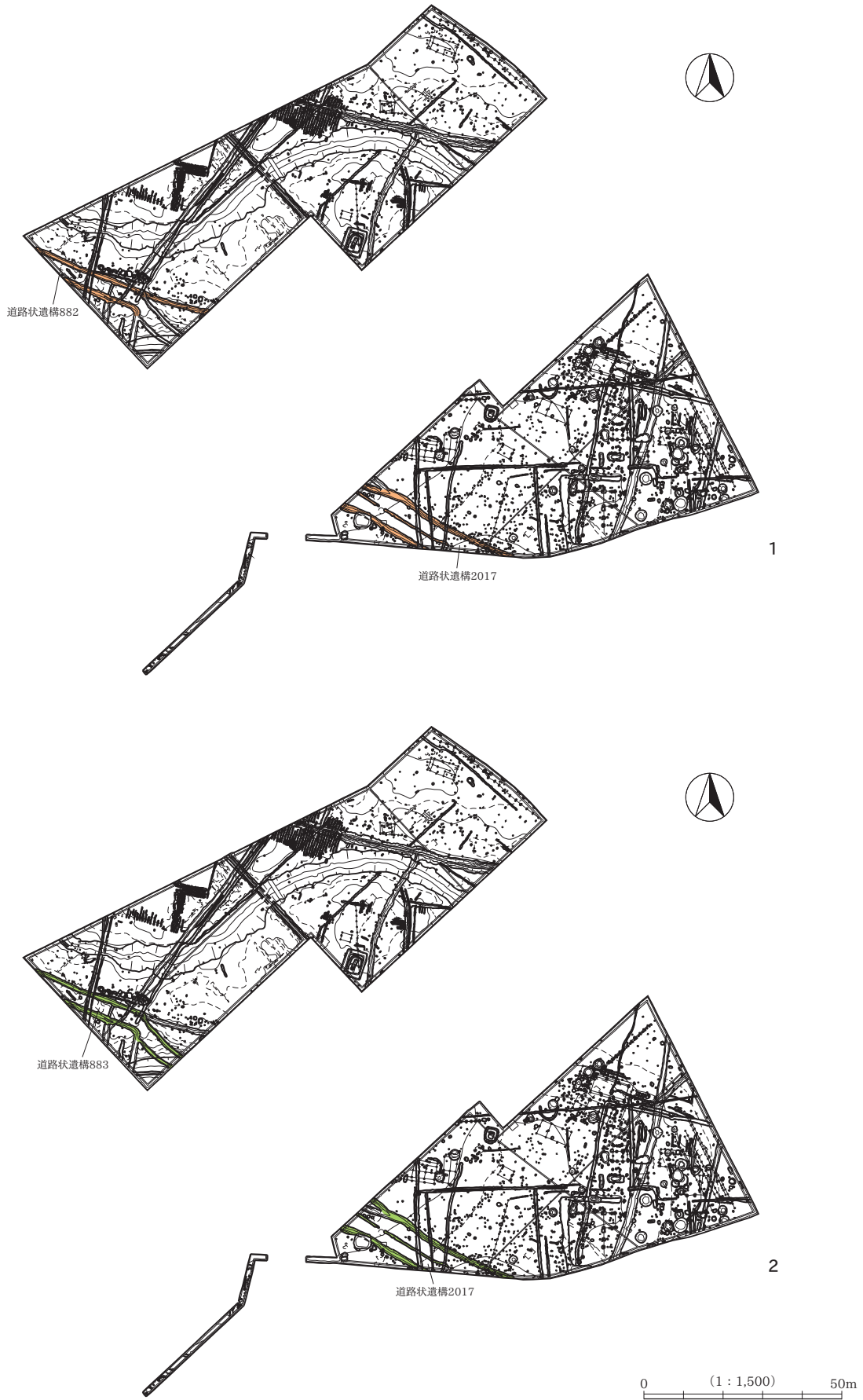
検出例がSE734の1基のみであったが、同じく近世の井戸の中に、井戸側を抜き取った後に埋め戻した痕跡がいくつか確認できた。素掘り井戸だけではなく、井戸側を持つ井戸が複数存在した可能性は高いと思われる。近世の井戸に対して、中世の井戸は井戸側に用いた桶に規格性が乏しく、板材による土留めなどと組み合わせて使用している点が注目される。近世以降に井戸掘削技術が発展し、規模の大きな井戸の掘削が可能になったことを示していると思われる。本調査では、中世に井戸側が用いられた痕跡は確認できなかったが、中世井戸の特徴としては多様な形態を使っていたことが挙げられる(第39図)。近世になってから規模が大型化し、井戸側など長期使用を視野に入れた形態が出現することは、中世の頃よりも安定した集落が運営されていたことを端的に示していると考えられる。なお、調査時に採取した土壌サンプルについては複数の自然科学分析を行った。その結果、イネやアブラナ、コムギ、アワ、ダイズ、ソバ、メロン仲間などの痕跡が検出され、周辺に畑が分布していた可能性が指摘された。また、全体的に日当たりが良く乾燥した環境であったが、ヨシ属などが検出されていることから一部には湿潤な環境もあったことが判明した。中・近世両時期の井戸から同様の分析結果が得られたことから、このような環境は中世から近世にかけて継続していたと考えられる。

C 道路状遺構(第40・41図 第15表)

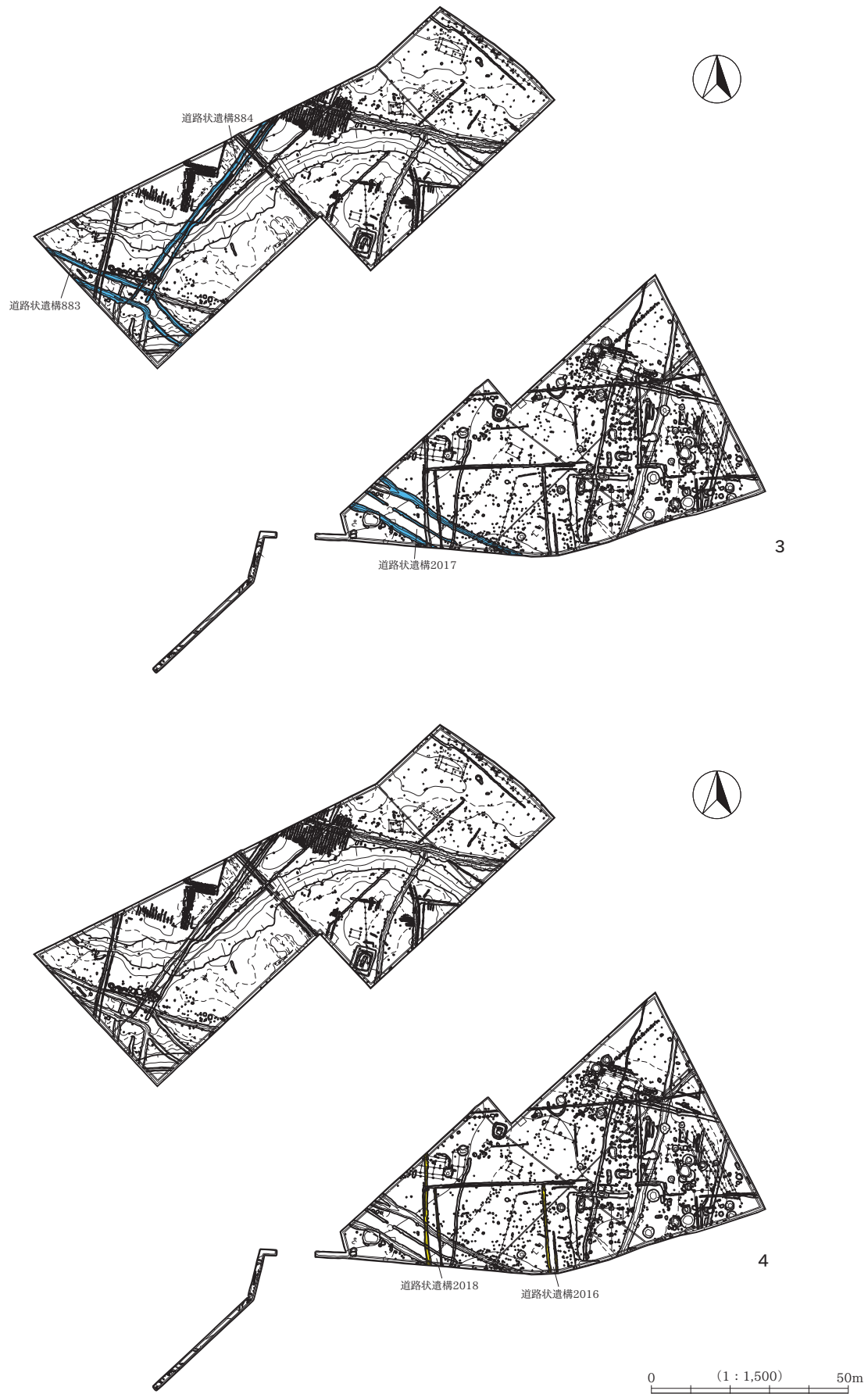
本調査では、道路状遺構を6条検出した。いずれも、2条の溝が平行して一定の距離を保ちながら走行することから、これらの溝を側溝と判断した。各道路の時期は側溝からの出土遺物と遺構同士の切り合い関係から、1区道路状遺構882～884、2区道路状遺構2017の4条が中世、2区道路状遺構2016・2018が近世である。各道路状遺構の計測値については第15表に示した。いずれの道路状遺構も別遺構との切り合い関係が多く、後述する路線の造り替えなども行っているため、ここでは各遺構の時間的変遷と特徴について整理・検討してみたい。各道路状遺構の変遷については第40・41図に示した。

中世の道路状遺構は1・2区ともに南西部に集中して検出されている。道路状遺構882は1区南西端で検出され、SD574とこれに平行するSD600を側溝とし、北西～南東へと走行する。北側側溝であるSD574は、後述する道路状遺構883構築の際に掘り直されているため東側17.50mのみが検出された。道路状遺構882の特徴的な点として、SD574と対となる南側側溝のSD600が14Q-4Fグリッドで急遽南へと屈曲することが挙げられる。道路状遺構としては不自然であるが、SD600が側溝以外に用水などの機能を兼任していた可能性もあり、14Q-4Fグリッド以東は片側側溝であったと判断した。

道路状遺構883は、道路状遺構882の走行方向を付け替えたものである。改築したのは南北両側溝である。北側側溝であるSD574の大部分を掘り直し、対となる南側側溝のSD600が大きく南に屈曲する14Q-4Fグリッド付近で、平行して南に屈曲する。また、南側側溝のSD600は掘り直した痕跡は確認されていないが、屈曲部分に北側のSD577と平行するSD578を新たに掘削している。これによって、全体的には「へ」の字に屈曲する道路状遺構となっている。



第40図 道路状遺構の変遷(1)



第41図 道路状遺構の変遷 (2)

道路状遺構 884 は、1 区中央付近から直線的に南へと延びる道路状遺構で、SD574・577 を切ることから道路状遺構 882・883 よりも新しい段階で構築されたと考えられる。北側側溝のSD446、南側側溝のSD448 からなり、北東～南西へと走行する。SD448 は南西端でSK810 に切られるが、延長線上にSD598 が位置しており、規模や覆土の特徴も類似することから同一遺構と判断した。また、東側路面部分にはSD447 が断続的に検出されており、西端で北側側溝のSD446 へと合流することから排水溝であった可能性がある。

2 区では南西端に中世の道路状遺構 2017 が検出された。SD1521 とこれに平行するSD1615 を側溝とし、1 区道路状遺構 882・883 と同じく北西～南東へと走行する。両側溝とも直線的に走行するが、北側側溝にあたるSD1521 は北西端付近で北側にSD1616 を掘削して側溝を付け替え、路面幅の拡張を行っている。また、路面中央には南北の側溝と平行する浅い溝 (SD1618・1620) が検出されており、排水などの役割を果たしていたと推察される。また、道路状遺構 2017 は側溝の断面形状、覆土の特徴、出土遺物は未調査区域を挟んで相対する1 区道路状遺構 882・883 と同様の特徴を示しており、走行方向が若干ずれるものの北西～南東へと走行する点については一致している。これらの点から、両区の道路状遺構は同一遺構であった可能性が高いと考えられる。1 区道路状遺構 882・883 と2 区道路状遺構 2017 が同一遺構であり、中世の集落南西を走行する道路だとするならば、これに直行する主軸方位をもつ1 区SD409、2 区SD81・150、平行する1 区SD205などは道路を意識して構築された集落の区画であった可能性が高い。また、1 区道路状遺構 884 についてはSD409などの南北方向の区画溝と走行方向が類似することから、道路兼区画溝としての性格が窺える。

近世の道路状遺構は2 区において2 条検出されているが、中世に比べて側溝規模、路面幅も小規模となる。両道路状遺構は、ともに側溝が近世集落の区画溝を兼ねており、南北方向に走行して東西に長い長方形の区画を形成する。道路状遺構 2016 は東側側溝が途中でなくなり、西側のみの片側側溝となる。道路状遺構 2018 は、西側側溝のSD1563 は調査区を南北に横断し途切れることはないが、西側側溝は東西方向の区画溝と思われるSD1299 に合流し、その北側には続いていない。こうした点から、近世の道路状遺構 2016・2018 は通行などを目的とした道路とは異なり、あくまでも集落の区画内で機能するものであったと考えられる。

以上、中世の細池寺道上遺跡では北西～南東へと走行する道路に沿って集落が展開されていたと考えられる。なお、道路側溝の覆土から採取したサンプルをもとに自然科学分析を行った結果、中世当時の道路一帯は日当たりの良い乾燥した環境であったことが判明した。アブラナ科などの花粉が多量に検出されたことから、畑が分布していた可能性がある。また、樹木は少なかったようだがハンノキ、クリなどの落葉広葉樹と、スギ林の存在が指摘されている。近世になると遺跡内からは中世のような通行のための道路は姿を消す。集落である以上、何らかの交通路は周辺に存在すると考えられるが、調査範囲内では確認できなかった。今回検出された近世集落は南側へと続く可能性が高いことから、遺跡南側に近世の道路が存在する可能性はある。周辺の調査では、第46 次調査において近世屋敷地とそれに伴う道路状遺構が検出されているが、本遺跡で検出された近世集落と直接関連があったかは不明である。今後、本遺跡周辺での調査がさらに進展し、当該地域の中・近世における生活の様相がより判明することに期待したい。

D 中世の方形区画墓 (第 42 ～ 46 図、第 16 表)

細池寺道上遺跡第 48 次調査 1・2 区調査区から方形を呈する中世の区画墓が 2 基検出された。非常に希少な

第 15 表 道路状遺構計測表

遺構名	区	時代	主軸方位	規模 (m)				
				確認長	側溝含幅	路面幅	側溝幅	側溝深度
道路状遺構 882	1	中世	N-67° -W	43.00	5.40 ~ 6.50	2.83 ~ 3.00	1.03 ~ 1.75	0.32 ~ 0.56
道路状遺構 883	1	中世	N-67° -W N-43° -W	41.30	4.80 ~ 6.50	2.83 ~ 3.00	0.75 ~ 1.80	0.27 ~ 0.56
道路状遺構 884	1	中世	N-36° -E	65.90	2.10 ~ 4.20	0.38 ~ 2.62	0.58 ~ 0.98	0.11 ~ 0.54
道路状遺構 2016	2	近世	N-4° -W	22.40	2.30 ~ 2.45	1.30 ~ 1.40	0.24 ~ 0.96	0.11 ~ 0.46
道路状遺構 2017	2	中世	N-58° -W	39.00	8.70 ~ 10.08	5.00 ~ 7.80	0.94 ~ 1.95	0.33 ~ 0.58
道路状遺構 2018	2	近世	N-4° -W	28.75	4.10 ~ 4.20	2.30 ~ 2.70	0.30 ~ 1.15	0.11 ~ 0.25

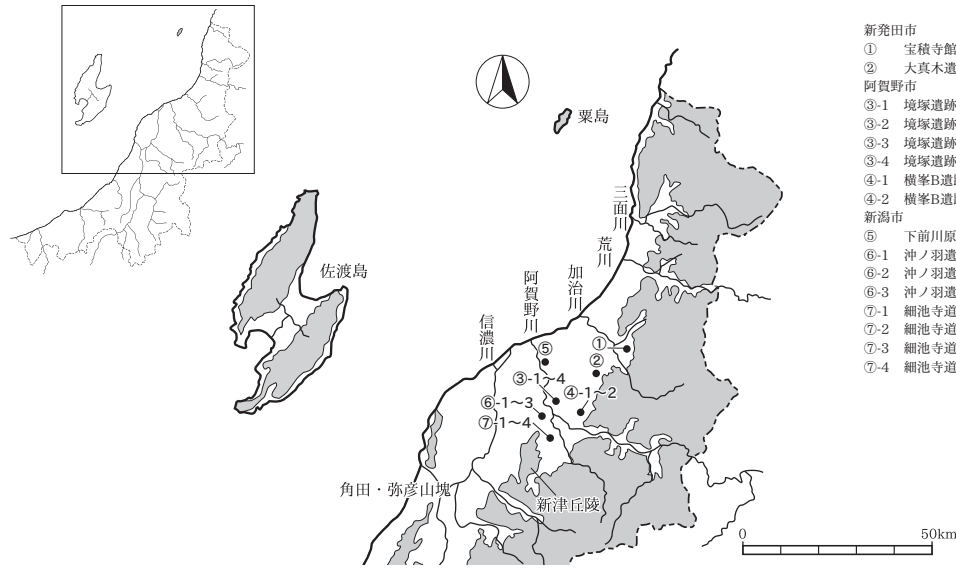
例であるため、若干の考察を述べたい。

弥生時代前期後半から古墳時代早期の「方形周溝墓」〔大場 1966〕と平面形は類似しているが、成り立ちの異なる墳墓と考えられ、時代性も考慮して、この用語は取らない。また、用語の初出は不明であるが、東日本を中心に奈良時代から室町時代にいたる方形に区画され内側に主体部を持つ墳墓を「方形区画墓」あるいは「方形周溝区画墓」と呼称し、多数検出されている〔東日本埋蔵文化財研究会栃木大会準備委員会 1995、中世墓資料集成研究会 2004・2005・2006〕。また、新潟県内の中世墳墓・塚については、考古学的に広い視点で概観した金子拓男氏の論考がある〔金子 1974〕。塚の平面形と断面形で①円形で断面形が半円形をなす塚 ②方形プランで断面が台形をなす塚 ③方形プランで断面が土塔状をなす塚に分け、塚の形状と仏教の密教思想との関わり等を指摘している。その後、品田高志氏が新潟県内の諸例を対象に検討を加えている。方形に巡る溝の用語を「方形区画遺構」とし、区画溝内部に墓(主体部)を持つ遺構を「方形基壇墓」という用語を用い新潟県内の出土例を考察している〔品田 1994a・b〕。

今回考察する遺構は、後述するように基壇のような盛土部分の有無が不明瞭なため、本項では用語を折衷的に用い、方形に巡る溝の用語を「方形区画遺構」、関東・東北・北陸地方と類似遺構と墳墓としての系譜関係は分からないが、今調査事例との類似点が多く、本書でも最終的な平面形態が方形であるため「方形区画墓」という用語を用いる。この用語は、すでに、後述する類例の中であげる新発田市大真木遺跡〔田中・伊藤ほか 1994〕の発掘調査報告書中で用いられている。

前述の品田氏の論考後に「方形区画遺構」は数多く見つかっており、今回、「方形区画墓」とあわせて新潟市の関連遺構および新潟県下越地方の沖積地を中心に、主要類似遺構を 16 例集めた(第 42・43 図)。また、各遺跡の計測値は、第 16 表に示した。主要な出土遺物を第 45 図に示した。これを比較し傾向を明らかにしたい。個々の説明を以下に簡単に行う。

- ① 宝積寺館跡溝 1〔田中・鶴巻ほか 1990〕は、北東に軸がある、ほぼ方形の平面形の方形区画遺構で、溝の残存深は浅く 26cm 程度である。溝埋土からの遺物出土は無い。方形区画のさらに外側に L 字状の溝が北側と南側に所在し、溝 1 と有機的な関係にある。また、埋土の観察から塚や壇状の遺構の可能性が指摘されている。周辺の L 字状溝(溝 2)からは、吉岡康暢氏の珠洲焼編年〔吉岡 1994〕(以下、吉岡珠洲編年)Ⅴ期の口縁部が肥大する甕が出土している。
- ② 大真木遺跡方形区画墓〔田中・伊藤ほか 1994〕は、調査区の都合で西側の状況は不明で、残り 3 方のみが確認されている。ほぼ南北に軸がある、溝深度は 26cm ほどと浅い。溝からの中世の遺物は出土していない。ほぼ南北軸に方形の主体部が遺構中心に所在し(第 44 図)、長方形である。主体部の北東隅に副葬品の漆器椀(塗膜のみ)が出土している。1 辺 8m 程度の方形に溝が巡った、本来盛土された墳墓であると指摘されている。時期的には周辺から出土した珠洲焼の様相から中世前期(吉岡珠洲編年Ⅰ～Ⅱ期)と考えられる。
- ③-1 境塚遺跡〔古澤ほか 2011、荒川ほか 2016〕は、北西に軸を持つほぼ正方形の方形区画遺構である。北側が阿賀野市調査区 B 区 4-260 溝〔古澤ほか 2011〕、南側が新潟県調査区 G 区 SD3295〔荒川ほか 2016〕は一連の遺構となる。溝深度は 48cm ほどである。前者からは珠洲焼甕底部と 13 世紀中葉の瓷器系陶器甕(赤坂窯類似)が出土していることから中世前期の可能性がある。
- ③-2 境塚遺跡 G 区 SD3011〔荒川ほか 2016〕は、北東に軸を持ち、ほぼ正方形の方形区画溝である溝深度は 29cm ほどである。3 層から、白磁四耳壺(12 世紀後半)が出土している。報告では 1・3 層の近世陶器の出土から近世遺構としているが、溝深度が浅く、遺構所属時期が中世前期の可能性もあると考え掲載した。
- ③-3 境塚遺跡 G 区 SD5260・5261〔飯坂・金内・荒川ほか 2018〕は、北西に軸を持ち、長方形の方形区画溝である。報告では溝深度 60cm 前後で、SD5260 の切り合いから大きく 3 回の掘直しが行われていると考えられている。埋土の状況を断面図から読み取ると、遺構中心方向から埋土が流入しているように読み取れ、塚状の高まりからの崩落土とみなせば、中心部分は塚状あるいは壇となっていたと考えられる。埋土の土器



- 新発田市
 ① 宝積寺館跡 [田中・鶴巻ほか1990]
 ② 大真木遺跡 [田中・伊藤ほか1994]
 阿賀野市
 ③-1 境塚遺跡 [古澤ほか2011、荒川ほか2016]
 ③-2 境塚遺跡Ⅱ [荒川ほか2016]
 ③-3 境塚遺跡Ⅲ [飯坂・金内・荒川ほか2018]
 ③-4 境塚遺跡Ⅳ [飯坂・金内・荒川ほか2018]
 ④-1 横峯B遺跡 [川上ほか1981]
 ④-2 横峯B遺跡 [川上ほか1981]
 新潟市
 ⑤ 下前川原遺跡 [遠藤2004]
 ⑥-1 沖ノ羽遺跡第22次調査 [遠藤・澤野ほか2016]
 ⑥-2 沖ノ羽遺跡第22次調査 [遠藤・澤野ほか2016]
 ⑥-3 沖ノ羽遺跡第22次調査 [遠藤・澤野ほか2016]
 ⑦-1 細池寺道上遺跡第29次調査 [朝岡2010]
 ⑦-2 細池寺道上遺跡第44次調査 [立木・奈良ほか2017]
 ⑦-3 細池寺道上遺跡第48次調査 [本書]
 ⑦-4 細池寺道上遺跡第48次調査 [本書]

第 42 図 新潟県下越地方の方形区画墓とその類似資料検出遺跡

第 16 表 新潟県下越地方の主要方形区画墓・方形区画遺構

No.	掲載 No.	遺跡名	遺構名	原本報告遺構名称	市町村	地形区分	標高 (m)	主体 番号	規模											遺構名	墓坑 副葬品	周溝出土品 注1)	時期	文献		
									区画墓 長 (m)	区画墓 幅 (m)	区画内 長 (m)	区画内 幅 (m)	周溝 幅 (m)	周溝 深 (m)	墓壇長 (m)	墓壇幅 (m)	墓壇深 (m)	区画墓 方位	墓坑 方位							
1	①	宝積寺館跡	方形区画遺構	溝	新発田市	原状地	37.0	22P 第16回	11.00	10.40	8.50	8.40	1.40	0.26	-	-	-	-	N-12° E	-	溝1	-	-	V期?	[田中・鶴巻 ほか1990]	
2	②	大真木遺跡	方形区画墓	方形区画墓	新発田市	原状地	15.0	12P 第7回	(8.30)	(4.30) ※8.00	6.95	(3.95)	0.55	0.20	2.15	0.95	0.14	-	N-14° E	N-9° E	4号土坑 (主体部) 4号溝 5号溝	漆器(塗 膜のみ)	-	-	I ~ II期	[田中・伊藤 ほか1998]
3	③-1	境塚遺跡	方形区画遺構	方形区画遺構	阿賀野市	沖積地	7.0	図版38	9.20	9.10	7.60	7.00	0.80	0.48	-	-	-	-	N-67° W	-	B区 4-260 G区 SD3295	珠洲焼 器系陶器	珠洲焼 器系陶器	-	13世紀中 葉	[古澤ほか 2011] [荒川ほか 2016]
4	③-2	境塚遺跡	方形区画遺構	溝	阿賀野市	沖積地	7.0	図版43	7.60	7.40	6.40	5.90	0.60	0.29	-	-	-	-	N-26° E	-	G区 SD3011	-	白磁四耳壺	-	12世紀後 半	[荒川ほか 2016]
5	③-3	境塚遺跡	方形区画遺構	方形区画遺構	阿賀野市	沖積地	7.0	図版26	12.48	10.46	8.02	5.36	2.68	0.60	-	-	-	-	N-57° W	-	SD5260 SD5261	土師質土器皿・小皿、珠洲 焼・片口鉢、漆器系陶器 、青磁鉢、皿、白磁皿、 石製品、金属製品、鉄洋 土師質土器	-	IV ~ V期 ?	[飯坂・金 内・荒川ほか 2018]	
6	③-4	境塚遺跡	方形区画遺構	溝	阿賀野市	沖積地	7.0	図版5	8.30	8.20	7.20	6.20	1.10	0.32	-	-	-	-	N-55° W	-	SD5259	-	土師質土器皿	-	中世	[荒川ほか 2016]
7	④-1	横峯B遺跡	方形区画遺構	方形区画遺構	阿賀野市	丘陵地	20.0	87P 第49回	(4.64)	5.02	(3.88)	3.76	0.68	0.24	-	-	-	-	N-42° E	-	第1号周溝	-	-	-	中世	[川上ほか 1981]
8	④-2	横峯B遺跡	方形区画遺構	方形区画遺構	阿賀野市	丘陵地	20.0	87P 第49回	6.44	5.82	5.56	4.80	0.44	0.22	-	-	-	-	N-48° W	-	第2号周溝	-	-	-	中世	[川上ほか 1981]
9	⑤	下前川原遺跡	方形区画遺構	方形溝	新潟市	沖積地	2.0	15P 第12回	9.00	6.80	8.50	5.75	0.83	0.72	-	-	-	-	N-36° W	-	溝26 溝27 溝28	- 青磁皿 珠洲焼片口鉢	-	I期	[遠藤2004]	
10	⑥-1	沖ノ羽遺跡 (第22次調査)	方形区画遺構	溝	新潟市	沖積地	8.0	図版30	5.90	(5.30)	4.20	(4.20)	0.90	0.34	-	-	-	-	N-70° E	-	1区SD503	珠洲焼 器系陶器、土師器皿、石製 品	-	I ~ II期	[遠藤・澤野 ほか2016]	
11	⑥-2	沖ノ羽遺跡 (第22次調査)	方形区画遺構	溝・土 坑	新潟市	沖積地	8.0	有 図版32	(4.50)	3.10	(3.90)	2.50	0.42	0.38	1.65	0.78	0.45	-	N-34° E	N-45° E	1区SK1766 (主体部) 1区SD1771 1区SD1812	珠洲焼 器系陶器、土師器皿	-	-	中世	[遠藤・澤野 ほか2016]
12	⑥-3	沖ノ羽遺跡 (第29次調査)	方形区画遺構	溝	新潟市	沖積地	8.0	図版32	(5.40)	5.20	(4.30)	3.80	0.80	0.52	-	-	-	-	N-78° W	-	1区SD1747 1区SD1847	珠洲焼片口鉢、土師器皿、 石製品、鍛冶関連遺物	珠洲焼 器系陶器、土師器皿、 石製品	-	中世	[遠藤・澤野 ほか2016]
13	⑦-1	細池寺道上遺跡 (第29次調査)	方形区画遺構	溝	新潟市	沖積地	8.0	- (6.7) ※8.00	8.10	(4.70)	5.30	1.50	0.40	-	-	-	-	-	N-9° W	-	SD358	-	中世土師器皿、珠洲焼 片口鉢、珠洲焼陶器、石 製品	-	中世	[朝岡 2010b]
14	⑦-2	細池寺道上遺跡 (第44次調査)	方形区画遺構	(方形区 画遺構)	新潟市	沖積地	8.0	図版89	6.40	(6.10)	4.20	3.90	1.10	0.55	-	-	-	-	N-10° W	-	3区SD853	-	石製品	-	中世	[立木・奈良 ほか2017]
15	⑦-3	細池寺道上遺跡 (第48次調査)	方形区画墓	(方形区 画墓)	新潟市	沖積地	8.0	有 図版55	6.80	5.42	4.68	3.61	1.10	0.40	2.36	0.88	0.16	-	N-17° E	N-26° E	1区 SZ 865 SD3	ST1 (主体部) SD2 SD3	青磁皿、青 白磁合子 珠洲焼 器系陶器	-	12世紀中 頃～後半 I期	[本書]
16	⑦-4	細池寺道上遺跡 (第48次調査)	方形区画墓	(方形区 画墓)	新潟市	沖積地	8.0	有 図版 158	3.64	3.40	2.90	2.60	0.37	0.10	1.68	1.24	0.22	-	N-28° E	N-18° E	2区 SZ 2013 SD1622	ST1621 島帽子	-	-	中世前期	[本書]

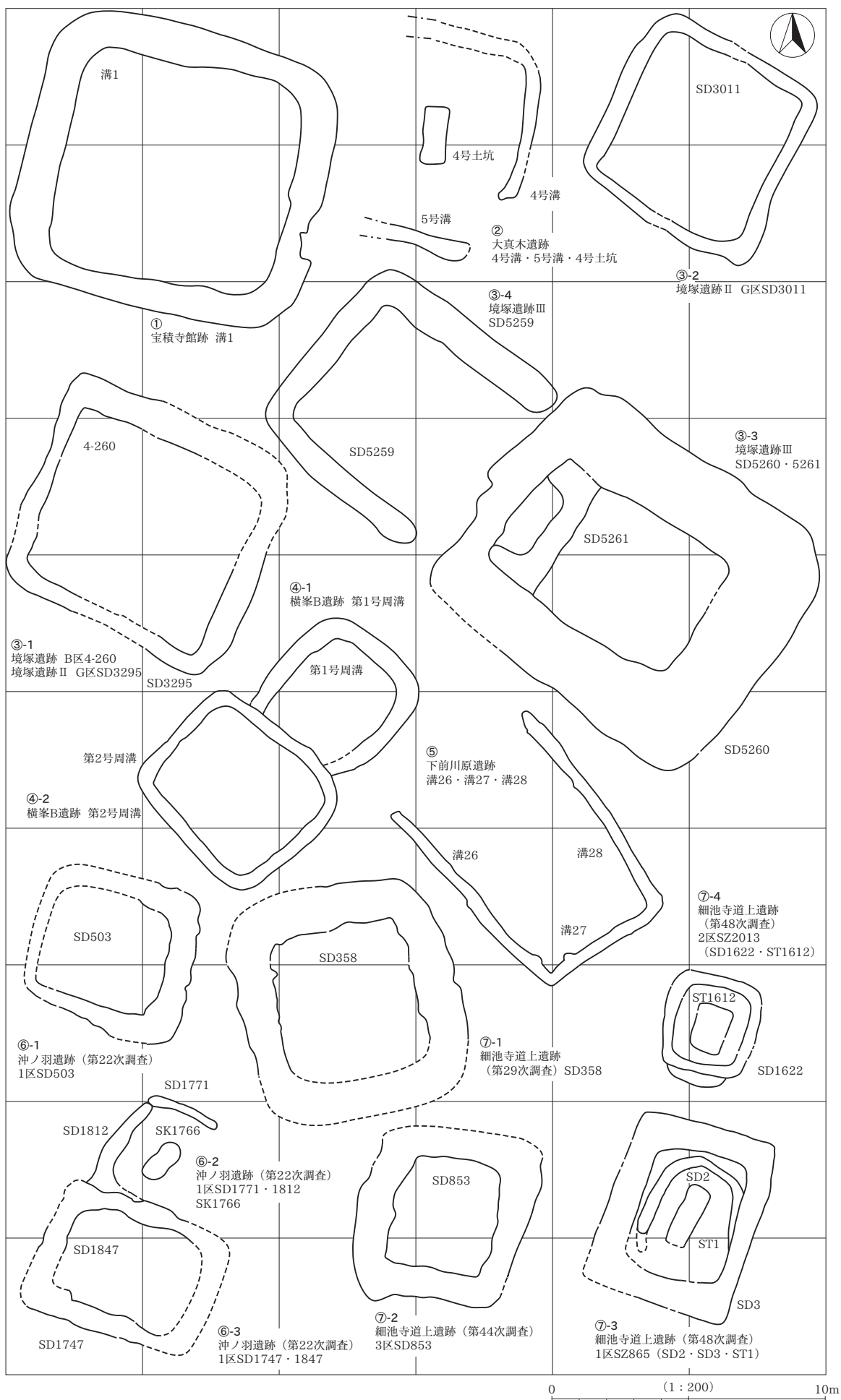
注1) 遺構の所属時期の遺物のみ掲載した。
 ※区画長幅の※は推定値

の様相から吉岡珠洲編年IV～V期には周溝がある程度埋まっていたと考えられる。

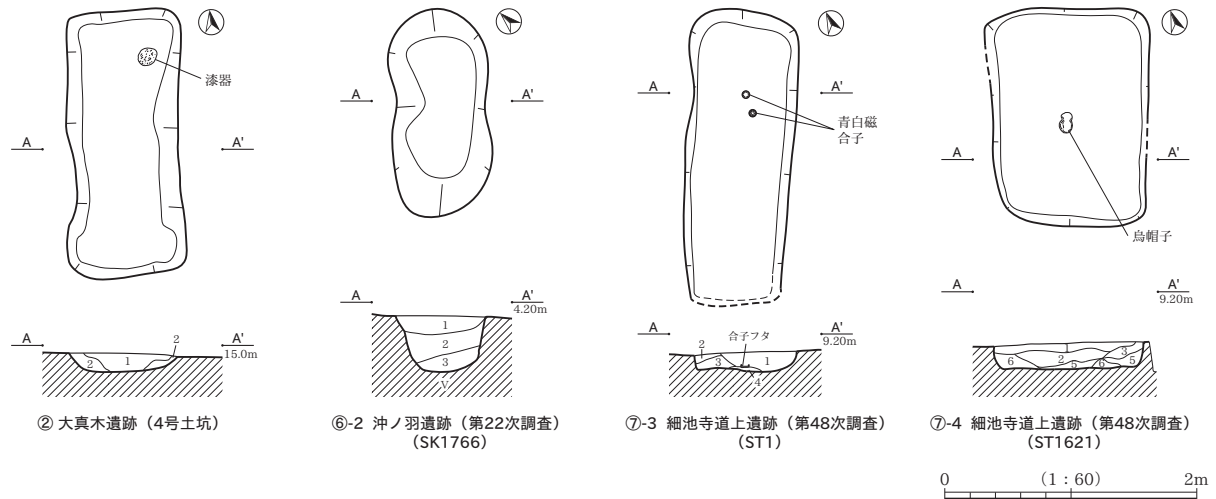
③-4 境塚遺跡 G 区 SD5259 [荒川ほか 2016] は、SD5260 と同時存在したと考えられており、方形区画遺構 2 基が並存していた可能性がある。北西に軸を持ち、一辺は切れており、SD5260 と溝を共有している。SD5260 の後に構築された可能性がある。溝深度は 24 ～ 59cm 前後ある。中世土師器皿が出土している。

④-1 横峯 B 遺跡第 1 号周溝 [川上ほか 1981] は、北東に軸を持ちコの字状の方形区画遺構である。隅丸方形の可能性もある。第 2 号周溝に切られているが、意図的に接続していることも考えられる。溝深度は 24cm 程度と浅い。出土遺物は不明である。出土遺物に中世に属する遺物の記載はないが、経塚の平面形が円形に

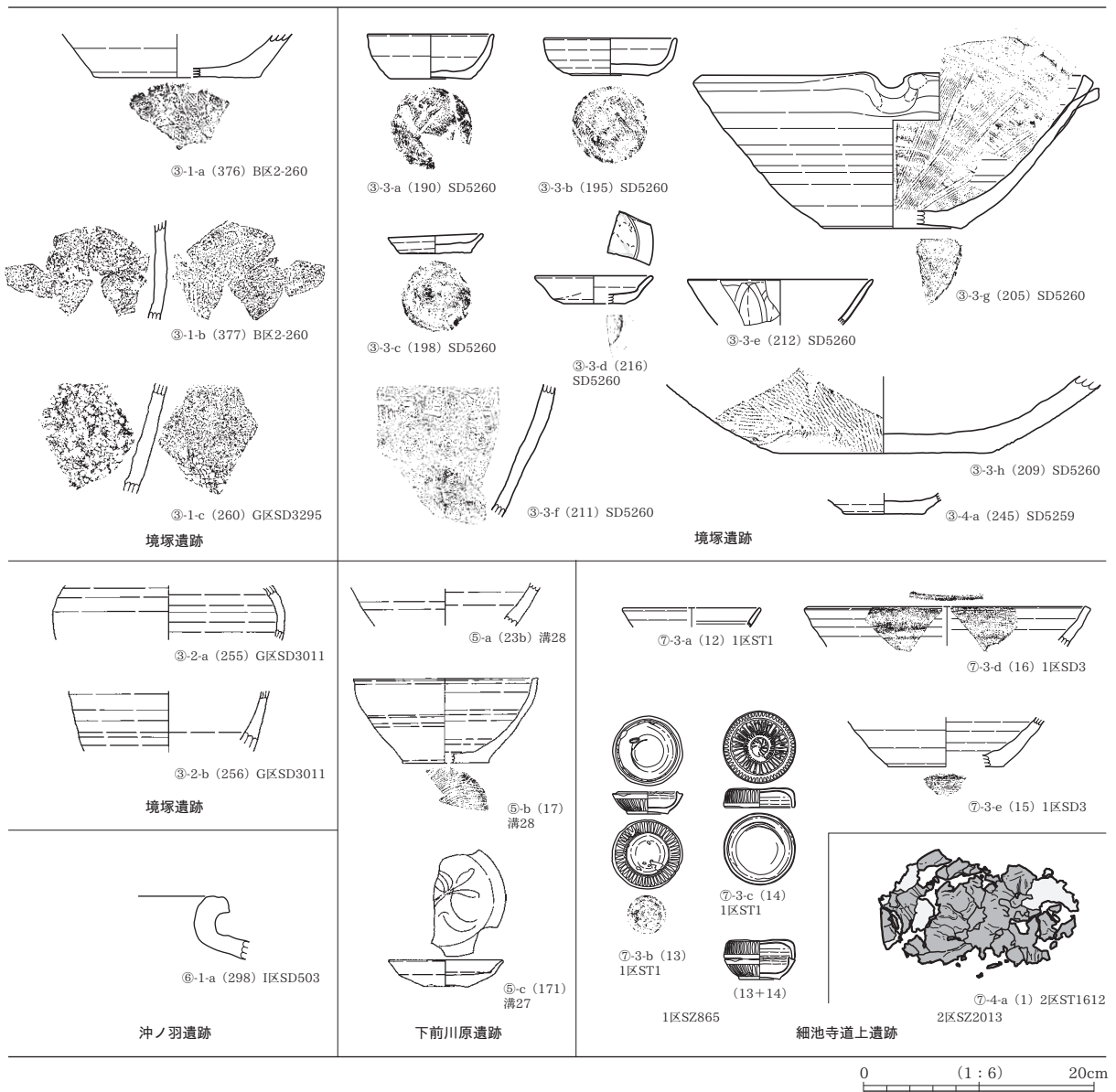
第1節 細池寺道上遺跡の遺構



第43図 新潟県下越地方の方形区画墓とその類似資料



第 44 図 方形区画墓の主体部



第 45 図 方形区画墓・方形区画遺構の出土遺物

対して、第1・2号周溝が隅丸方形であることに着目しており、中世に属する可能性を報告書では示唆している。

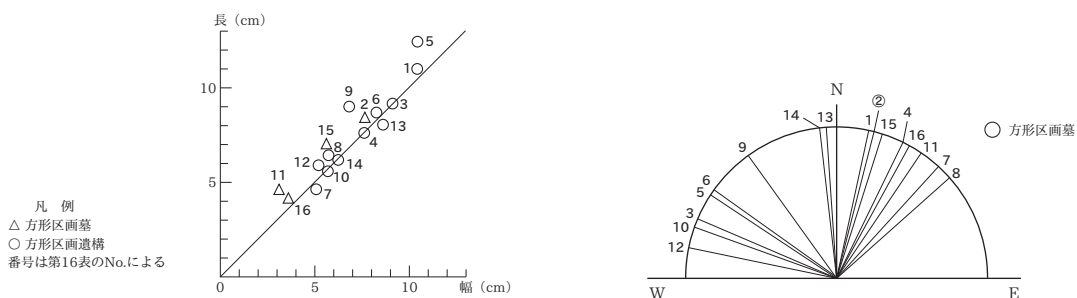
- ④-2 横峰B遺跡第2号周溝〔川上ほか1981〕は、北西に軸を持ち、隅丸方形の方形区画遺構である。溝深度22cmと浅い、第1号周溝が接続する。出土遺物は不明であるが、第1号周溝と同じく中世の可能性が示唆されている。
- ⑤ 下前川原遺跡の方形溝（溝26・27・28）〔遠藤2004〕は、北西に軸を持ち、コの字状の周溝で一端が切れる方形区画遺構である。長方形の平面形を持ち、周溝内から吉岡珠洲編年I期の片口鉢、青龍寺系青磁皿などが出土している。周溝深72cmと比較的深い。内側に多くのPit群を持つことから、掘立柱建物の区画溝の可能性もあるが、報告書によると溝方向に伴う建物は、確認できなかった記述があることから、本類例に加えた。
- ⑥-1 沖ノ羽遺跡溝（1区SD503）〔遠藤・澤野ほか2014〕¹⁾は、北西に軸を持ち、西側は調査区外に伸びるがそれを復元し、一辺6m前後の周溝が巡る方形区画遺構とした。溝深度は34cm前後ある。吉岡珠洲編年I～II期の珠洲焼甕が出土している。
- ⑥-2 沖ノ羽遺跡土坑と溝（1区SK1766・SD1771・1812）〔遠藤・澤野ほか2014〕は、北東軸で、2辺が確認でき、残り1辺は隣の溝（SD1847）に切られたか、意図的に接続させていた可能性もあり3辺の周溝としたい。溝深さは38cm程度である。主体部は、土坑として報告されているが、平面形が楕円形で、断面形は台形状である。長さ165cm、幅78cm、深さ45cmほどである。周辺の土坑に同様の物は無く、主体部からは図示されていないが珠洲焼片口鉢が出土している。なおSD1771は古代の遺構として報告書で記載されたが、遺構の埋土などから中世の一連のものとする。
- ⑥-3 沖ノ羽遺跡溝（1区SD1747・1847）〔遠藤・澤野ほか2014〕は、北西軸で、3辺が残存し、西側の一辺は近世遺構の削平で失われている可能性がある。溝深度は52cmである。埋土から図示されていないが、珠洲焼壺T種が出土している。井戸など他遺構に大きく切られているため、主体部に相当する部分は、不明である。⑥-2の遺構に連結しており、有機的な関係が考えられる。
- ⑦-1 細池寺道上遺跡（第29次調査）溝（SD358）〔朝岡2010〕は、参考のため掲載する。軸は北西に向く方形区画遺構である。南側は他の溝に切られているため、3辺が確認された。溝深度は40cm程度である。珠洲焼甕・片口鉢などが出土している。
- ⑦-2 細池寺道上遺跡（第44次調査）方形周溝状遺構（SD853）〔立木・奈良ほか2017〕は、北東軸で、北側一辺を他の溝に切られている方形区画遺構である。溝深度は55cmある。集落の西端にあり、調査段階から、遺構の特殊性が窺えた。主体部は確認できなかったが、一辺が6m前後の盛土がされた痕跡が、埋土から読み取れた。遺構の一辺方向から東を望むと阿賀野市の五頭連峰が見られ、意識的に山を望む位置に築造された形跡がある。当時の宗教と密接に係わる遺構と考えられる。
- ⑦-3 細池寺道上遺跡（第48次調査）〔本書〕、見解を含めやや詳しく述べる。現地表面下0.4mで遺構を検出した。北東軸で、長軸6.80m・短軸5.42m、幅0.7～1.3m・深度0.4m前後の方形周溝（SD3）が巡り、中央に南北軸の長軸2.36m、短軸0.88m、深度0.16mの長方形の主体部（ST1）が確認された。主体部（ST1）の底面からほぼ完形の青白磁合子（12世紀後半から13世紀前半）と青磁皿の小片（12世紀中頃～後半）が各1点出土した。合子は主体部のやや北寄りの位置に身・蓋とも内面を上に向けて並んでいる状態であった。供献土器と考えられる。主体部底面の土壌からは、第VI章第7節のリン・カルシウム分析の結果が示すように、明瞭に生物遺体の痕跡を見出せなかったが、考古学的な状況証拠で墓塚とすることが可能と考える。また、

1) 沖ノ羽遺跡第22次調査の本発掘調査に筆者も参加したが、方形区画墓・方形区画遺構（⑥-1～3）に対して、当時の認識としては古代・中世の周溝を区画溝の一種、方形区画墓を土坑としか考えていなかった。

周溝 (SD3) からは吉岡珠洲編年 I 期の珠洲焼鉢が出土している。遺構の構築は中央に楕円形で南隅が切れる周溝 (SD2) の掘削後、その排土を用い内側に主体部 (ST1) を構築した上で埋葬を行い埋戻し、楕円形の基壇状あるいは楕円形の盛土のある墓を造成し、一旦完成させている。周溝 (SD2) と主体部 (ST1) の前後関係については時間的な経過が不明な点があり、主体部 (ST1) が先行して造成された可能性もある。その後、周溝 (SD3) が造成されている。周溝 (SD3) は、主体部 (ST1) と軸方向が異なり、造成者が主体部 (ST1) と周溝 (SD3) を同時製作しなかった証拠になるのか。その時間的な間隔は少なくとも主体部の主軸方向ときれいに一致しないことを理由に、周溝 (SD3) の造成が直後に行われていない可能性を指摘したい。また、1 区方形区画墓に東に隣接する区画溝 (SD409) が、北から南にのびているが、微妙に弓状に曲がっている。1 区方形区画墓を意識して意図的に東に湾曲させており、区画溝 (SD409) は 1 区方形区画墓の造成後、あるいは同時に造成された可能性がある。

⑦-4 細池寺道上遺跡 (第 48 次調査) 2 区の区画墓 [本書] は、1 区区画墓の見解を含め、やや詳しく述べる。現地表面下 0.5m で遺構を検出した。北東軸で、長軸 3.64m・短軸 3.40m、幅 0.40～0.80m・深度 0.10～0.20m 前後の方形周溝が巡り、中央に長方形掘方 (長軸 1.77m、短軸 1.27m) を伴う南北軸の長方形主体部 (長軸 1.68m、短軸 1.24m、深度 0.22m) が確認された。主体部は木棺墓だったと考えられる。また、実態は不明であるが、底面中央に 0.2×0.1m の範囲で漆膜が遺存していた。主体部・掘方・周溝からその他遺物の出土がないため明確な時期は不明であるが、1 区方形区画墓との平面形態の類似から、中世前期の所産と考えている。

以上、方形区画墓 3 基、方形区画遺構 13 基について紹介したが、今回集成した方形区画遺構については、本来盛土されていたという発掘所見が散見されることから、大部分は盛土を伴っていたと考えてよいと考える。沖積地の特殊性で、おそらく近世以降、特に水田の場合、大正初期から昭和 20 年代に行われた耕地整理で大部分の土地が改変されており、その際に盛土部分が削られた例も多いと考えられる。細池寺道上遺跡の所見から墓壇を構築してから方形に盛る場合があるが、この場合盛土が薄いので本来の地山から下に墓壇底面がおよび今回の 2 例のように墓壇の遺構が残ったと考えられるが、大部分の「方形区画墓」は地山より上に墓壇底面が作成され、後世に墓壇部分が削られた結果、「方形区画遺構」として現在に残った例が大部分の可能性はある。主体部の平面形態も長方形を基本に、長軸が長いものと短いものがある。木質の痕跡は不明であるが、本来は木棺に葬られていた可能性がある。県内の墳丘を持たないと考えられる単独の中世木棺墓 (屋敷墓) が集成された資料 [高橋 2006] を確認すると、長さ 1.6m 前後、幅 0.5～0.6m の木棺が用いられている。確認されている骨の遺存体は一部であり、全身骨格は不明であるが、棺の長さから伸展葬の可能性が高い。細池寺道上遺跡 (第 48 次調査) 1・2 区の区画墓は 1 区の例は長軸が 2m 以上と長いが、2 区の例は幅が広いが幅広の掘方を持つ可能性があり、平均的な長さの棺が用いられたと考えられる。主軸方向も参考のため示した (第 46 図)。主体部が残る 3 例は北北東に主軸をもっており、さらに、他の類例も多くが北東に主軸をもつことから、北枕を意識しているものと考えられる。長・幅比 (第 46 図) も比較のため示したが、比率から正方形を意識している事がわかる。長さのサイズは順次に大きさが推移しており不明な点が多いが、10m 以上の大形と 7～10m の中形のもの、5～7m の



第 46 図 方形区画墓・方形区画遺構の量と主軸方位

小形のものに分かれる。木棺の大きさなど物理的な面や被葬者の階層に起因しているとも考えられる。

時期的には、大真木遺跡や細池寺道上遺跡の例から12世紀後半から13世紀前半に当地域では築造が開始されたとみられる。中世前期においては、「方形区画墓」1基に1体の遺骸が埋葬される単独墓の形態が取られたと考えられる。集落内あるいは隣接地に所在する、いわゆる屋敷墓である〔橋田2004〕。中世の墓制については、他地域を中心に諸形態が考察されているが、越後の墓制に対し、他地域の類型を、そのまま当てはめていいものか躊躇される。中世後期、越後では、基壇あるいは方形に区画された1基の墓に複数が甕棺あるいは焼骨を直葬する集合墓となる様相がある〔品田1994a・b〕。今回の類例の大部分は単独で主体部がある可能性があり、複数の主体部をもつ可能性は低いと考えられ、共献された土器等も中世前期の可能性が高い。一部、埋土中に中世後期の土器が出土している例もあることから、中世後期までこの葬制が続く可能性もある。

また、横峰B遺跡の報告書〔川上ほか1981〕で述べられているように、塚が円形に対して方形の遺構が存在する。丸と四角の関係は、前述した金子拓男氏が述べる、仏教の密教思想的な意味合いと被葬者の出身地域による土俗的な信仰形態の両者を考える必要がある。細池寺道上遺跡の例で示した「山」との宗教的・土俗的な意味合いが加味されるのではないかと考える。ランドマークになるような山との方位的に関係性があるともみられ、今後の課題である。

今回の総括にあたり新潟県内の方形区画遺構について下越地方の類例を集成した。佐渡では未確認であるが、新潟県上・中越にも類例が散見される。中越地方では柏崎市を中心に品田高志氏等が調査され考察された遺跡群〔品田1994a・b〕があるが、上越地方には上越市樋田遺跡〔室岡1990・1991〕等で長軸7～8mの方形区画遺構が4基確認されている。また、上越市荒町南新田遺跡〔高橋2010〕に一辺の一部が切れた方形区画遺構1基の類例がある。

以上のように、「方形区画遺構」は、主体部を欠落した墳墓の可能性を持つと考えられ、今後、低地の調査で、「方形区画遺構」を積極的に評価する必要がある。また、丘陵地の方形の塚との関係が明らかにされていない、「塚」とされているものの中に「墳墓」が逆に多く含まれている可能性もあり、今後の課題である。

いずれにしろ、今回の本発掘調査で方形区画墓の類例を見出したことは、今後の中世墓研究の進展に寄与するものと考えられる。

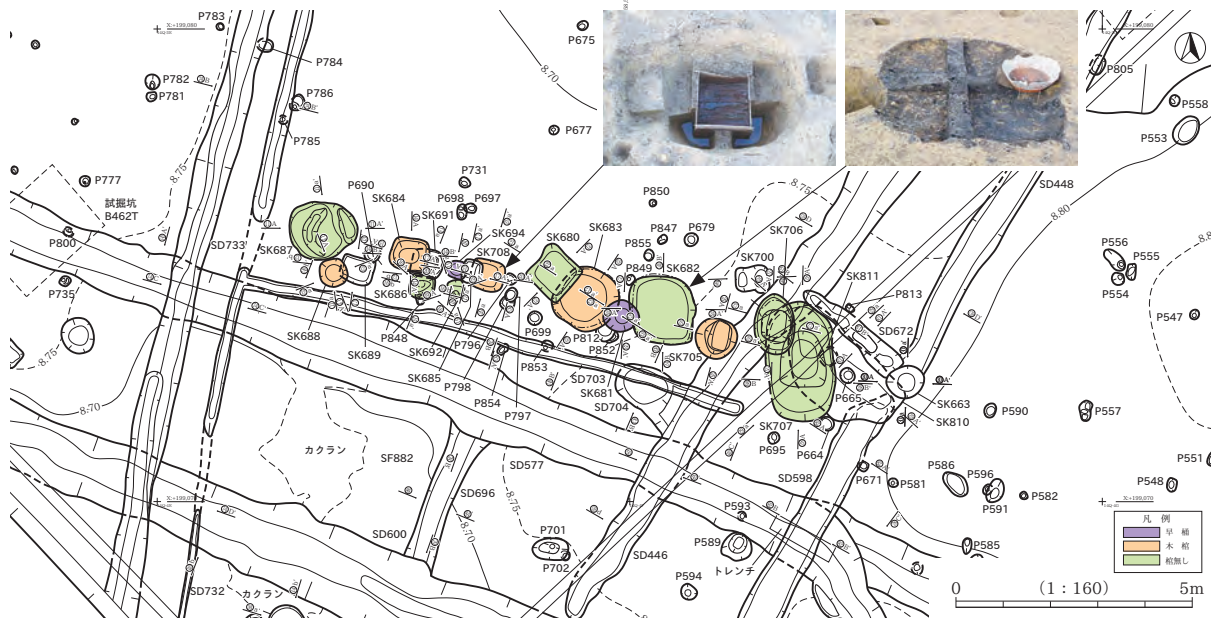
E 近世の墓制 (第47～52図)

本調査では、1区南西側において、墓と思われる近世の土坑群が確認された(第47図)。土坑群は密集し、重複も著しいことからある程度の期間継続した墓地であったと推察される。また、2区では火葬を行った痕跡がある土坑も数基確認されており、それぞれの調査区において特徴的な様相を呈していた。以下では1区で確認された土坑群と、2区で確認された火葬土坑についてまとめ、細池寺道上遺跡において行われていた墓制について検討してみたい。

1) 1区近世墓について

今回「近世墓」とした土坑群は、14Q-3E～3F・4Gグリッドにかけて検出された土坑のうち、①覆土中から人骨が出土したもの、②木棺や棺桶(またはその一部)が出土したもの、③副葬品(六道銭、数珠など)が出土したもの、④覆土中から炭化物や焼土など茶毘の痕跡が検出されたもので、総数は17基(SK540・680～688・691・692・694・705～708)を数える。土坑群の周辺には、南北方向に走行するSD732と、それに平行するSD733、SD732にほぼ直角に連結してT字状の溝を形成するSD703が検出されている。土坑群はこのうちSD703に沿ったかたちで東西に細長く分布しており、3条の溝による区画に沿って墓域が存在したと考えられる。

各土坑の形態については平面形が方形のもの、円形のものに大きく分けられる。断面形は台形が主体であり、深度については棺を埋納していた土坑はある程度の深度があり、木棺を用いずに火葬骨を直接埋納する土坑



第 47 図 1 区 近世墓群

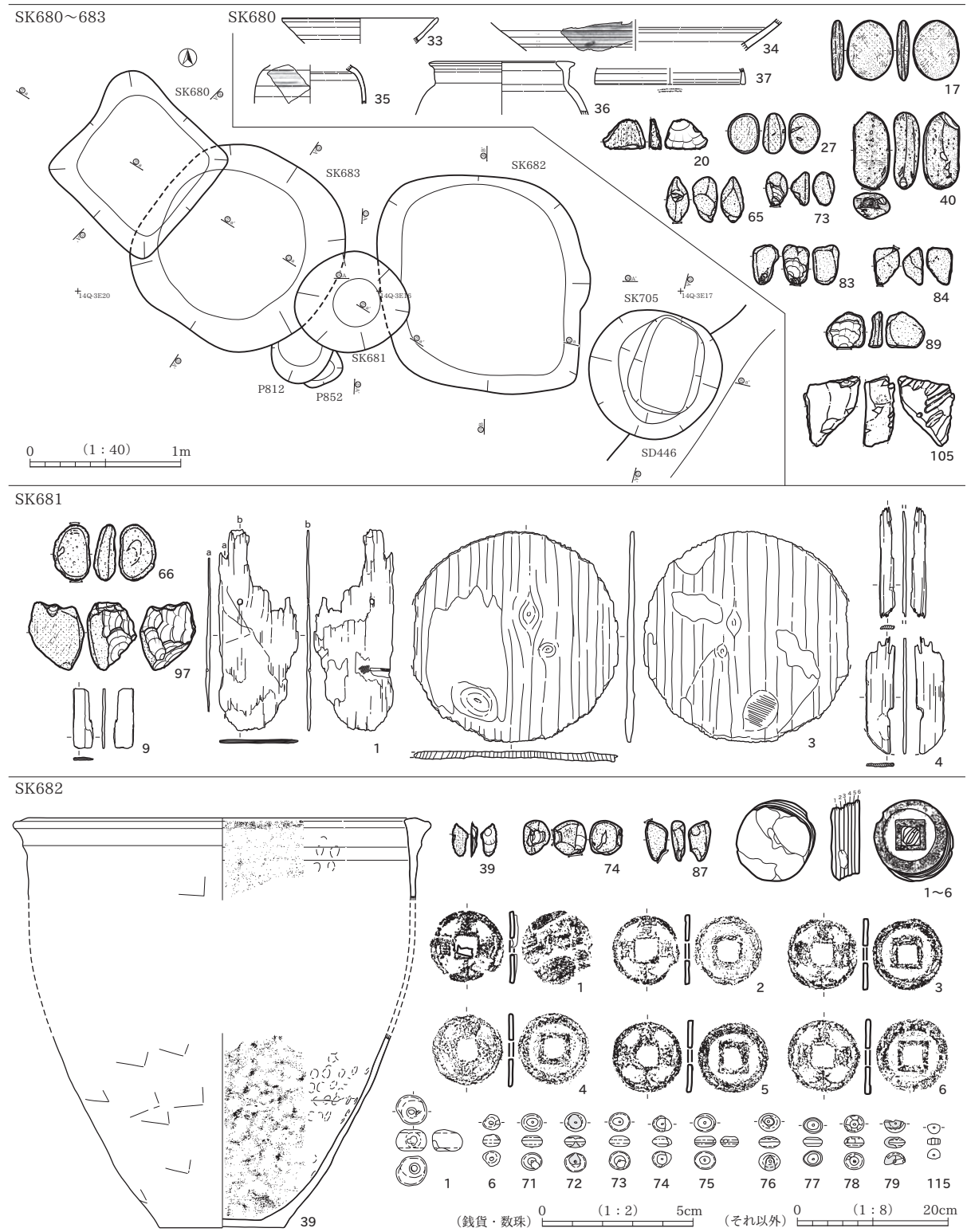
は浅い傾向がみられた。墓標については、包含層を含めて土坑群一帯で検出はされなかった。密集して分布する中にもある程度の規則性がみられることから、墓として機能していた時点では何らかの墓標が存在した可能性は高い。後世の耕作などによって失われているものと思われる。

次に、土坑の性格について検証してみたい。各土坑からは、少量ではあるが陶磁器、金属製品、銭貨、木製品、数珠が出土している。(第 48～51 図)

陶磁器類については、特に唐津焼の皿 (SK680)・鉢 (SK680・687・707)・甕 (SK687・707)、越前焼甕 (SK682) が特筆される。いずれも 17～18 世紀に位置付けられるもので、甕については火葬骨の蔵骨器として用いられた可能性がある。唐津産の陶器は 2 区においても SE351 や SK556、SD940 など近世の遺構で出土している。SK682 出土の越前焼甕は大型のもので、体部の 1/2 を欠損する。底部は形状を留めており、土坑東壁際に正位置で埋設されていた。内部には口縁部の破片とともに少量の焼骨が混入していたが、焼骨の多くは甕内部ではなく土坑中央の覆土中からまとまって出土しており、蔵骨器ではなかった可能性が高い。遺構上部が後世の攪乱を受けていることもあり、現状では SK682 出土の越前甕がどのような性格のものか不明であるが、越前では陶工の墓標として用いられた例もあることから注目される。金属製品は SK706 から包丁が出土している。民俗事例として、刃物を魔除けとして遺体に添える場合がある (新谷・関沢 2005) が、詳細は不明である。銭貨は SK540・682 の 2 基で出土しているが、六道銭と断定できるものは SK682 から出土した鉄製の寛永通宝 6 枚である。6 枚は重なった状態で錯着しており、外側全体が錯で覆われていたことから、何らかの容器に入れた状態で埋納されたと考えられる。また、数珠は茶毘の時に共に焼かれたようで木製ものは炭化し、ガラス製ものは融着しているものがあつた。骨がむらなく焼けているのに木製の数珠が焼け残っているのをどう考えればよいのか検討を要すると思われる。数珠玉には複数の形態が存在しており、近世の葬送儀礼に関わる遺物として注目される。

埋葬方法については、いくつかの特徴がみられた。木製の埋葬容器として、桶を用いた棺桶、板材を方形に組んだ木棺の 2 種類の棺が確認された。桶を用いたものは SK681・694 の 2 基のみであるが、いずれも残存状態が悪く底板と天板、側板の一部のみが出土した。「早桶」と呼ばれる簡易な桶であつたためであろうと推察される。早桶を用いた棺桶は、通常成人が入るような大型のものと、幼児用の小型の 2 種類がつくられたとされ、基本的には土葬に用いる。SK681・694 からも焼骨は検出されておらず、土葬の可能性が高い。ほかの墓からは焼骨が検出されており、同一墓群内で異なる墓制が用いられている例といえる。板材を方形に組んだ木棺が検出された

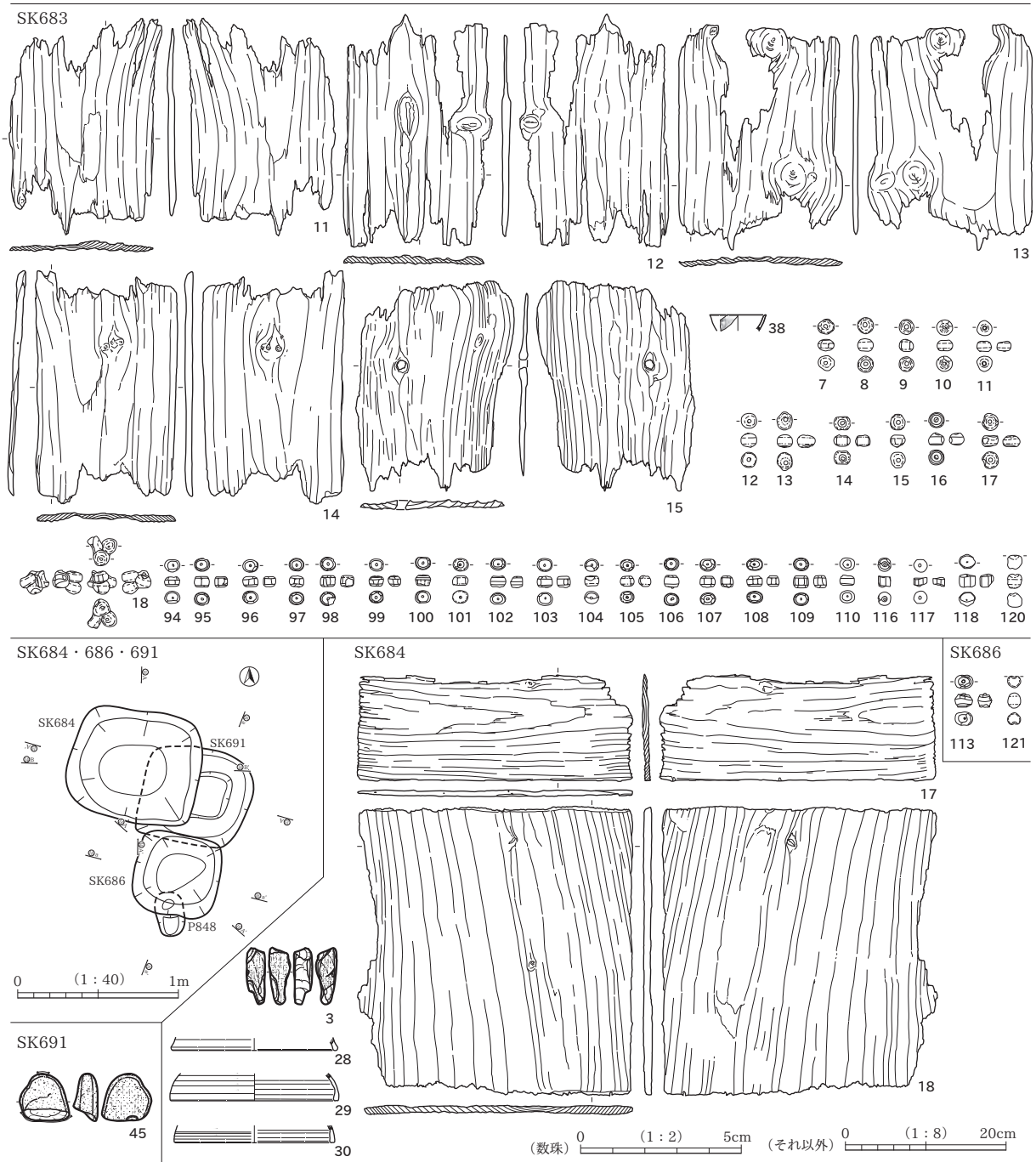
ものは、SK683・684・688・708の4基である。桶同様に残存状態は悪いが、各辺35cm程度の立方体に近い箱形であったと考えられる。4基の土坑の中で、SK683のみ多量の炭化物と灰などの茶昆を示す痕跡が認められたが、それ以外の3基では棺が存在するのみであった。おそらくは茶昆に付した後に蔵骨器に収骨して棺に納めたか、焼骨を直接棺に入れたと思われる。このほかSK705では籠や行李のようなものが用いられている。棺を伴わないSK540・680・682・686・687・692・706・707は覆土に多量の炭化物・灰が含まれるか、または



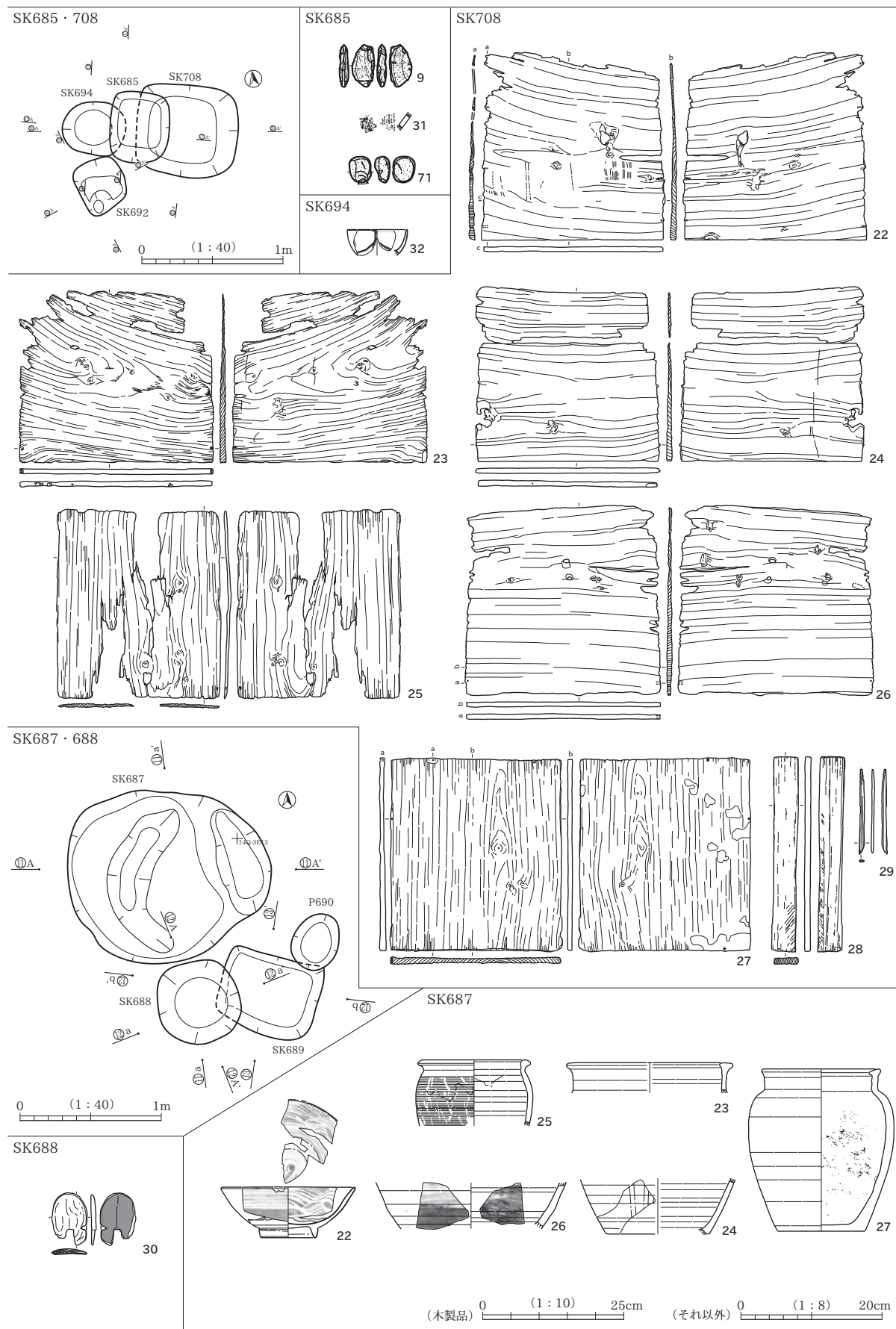
第48図 近世墓から出土した遺物(1)

炭化物・灰で充填されており、土坑内で茶毘に付したか別の場所で茶毘に付したのち、取骨して炭化物や灰とともに埋葬したものと思われる。なお、炭化物はサンプルとして全量採取し、洗浄選別したのち自然科学分析を行った。その結果、SK682 で採取したサンプルからは炭化米 50 点が、SK706 のサンプルからはオオムギ、コムギ、エンドウ属など栽培植物の炭化した種実が多量に検出された。これらの資料が埋葬に伴うものかは不明である。

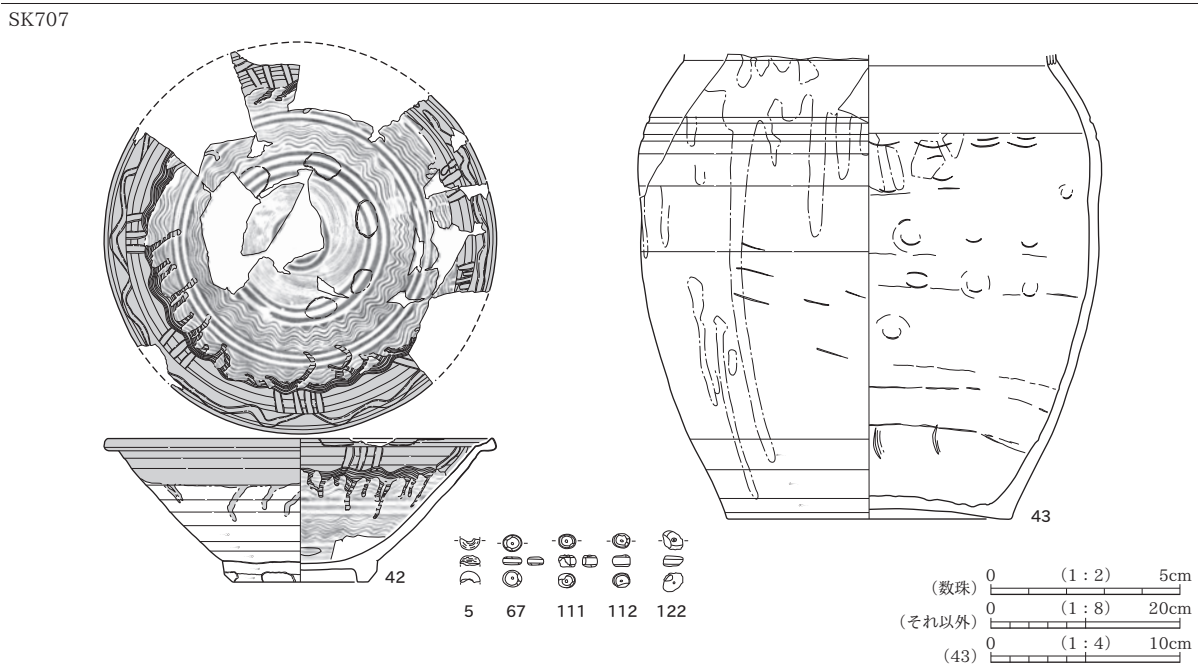
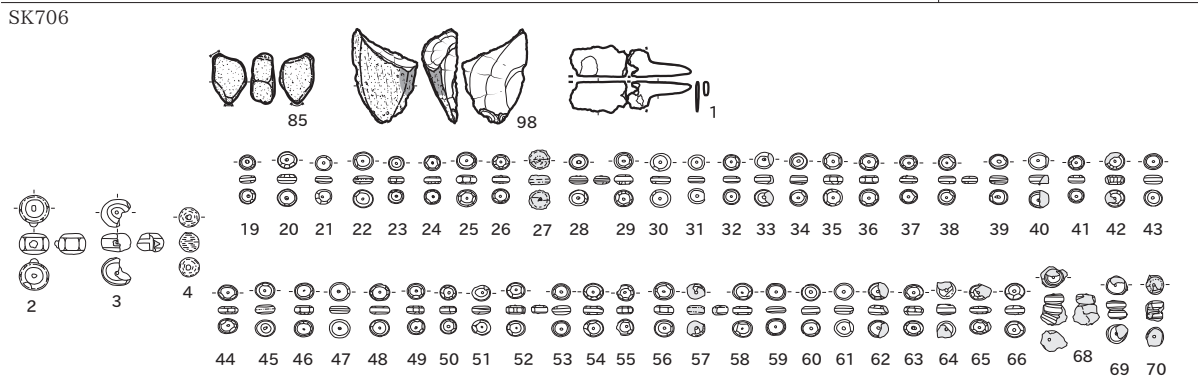
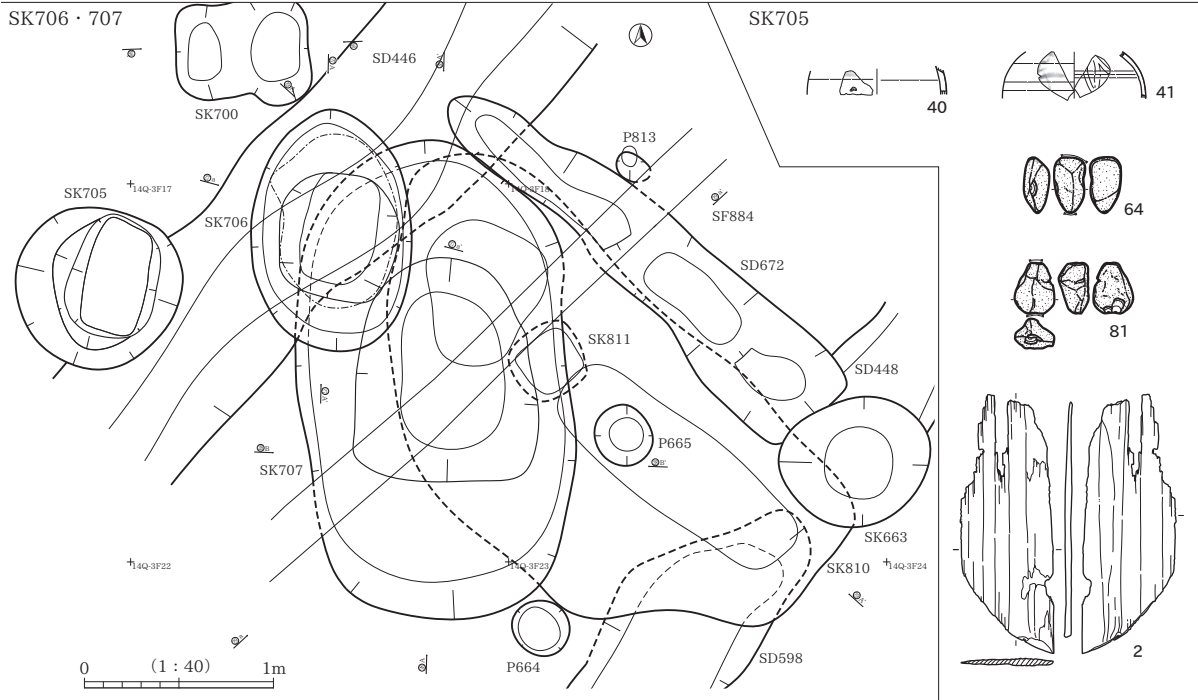
以上、1 区で検出された近世墓の葬制についてまとめると、遺体処理方法は火葬を示す例が多く、桶を棺とした SK681・694 の 2 基は土葬であった可能性があるが、遺体も残っていないため現時点では断定できない。次に、木棺を用いるものとそうでないものがあり、木棺を用いない場合も埋設状態を保ったものは皆無だが多数出土した陶器・土師質土器は蔵骨器と考えられ、焼き物の蔵骨器に取骨して埋納したものと、有機質の容器に納めて直接埋納したもの等があった。これらの差異が何に起因するかは不明である。



第 49 図 近世墓から出土した遺物 (2)



第50図 近世墓から出土した遺物(3)



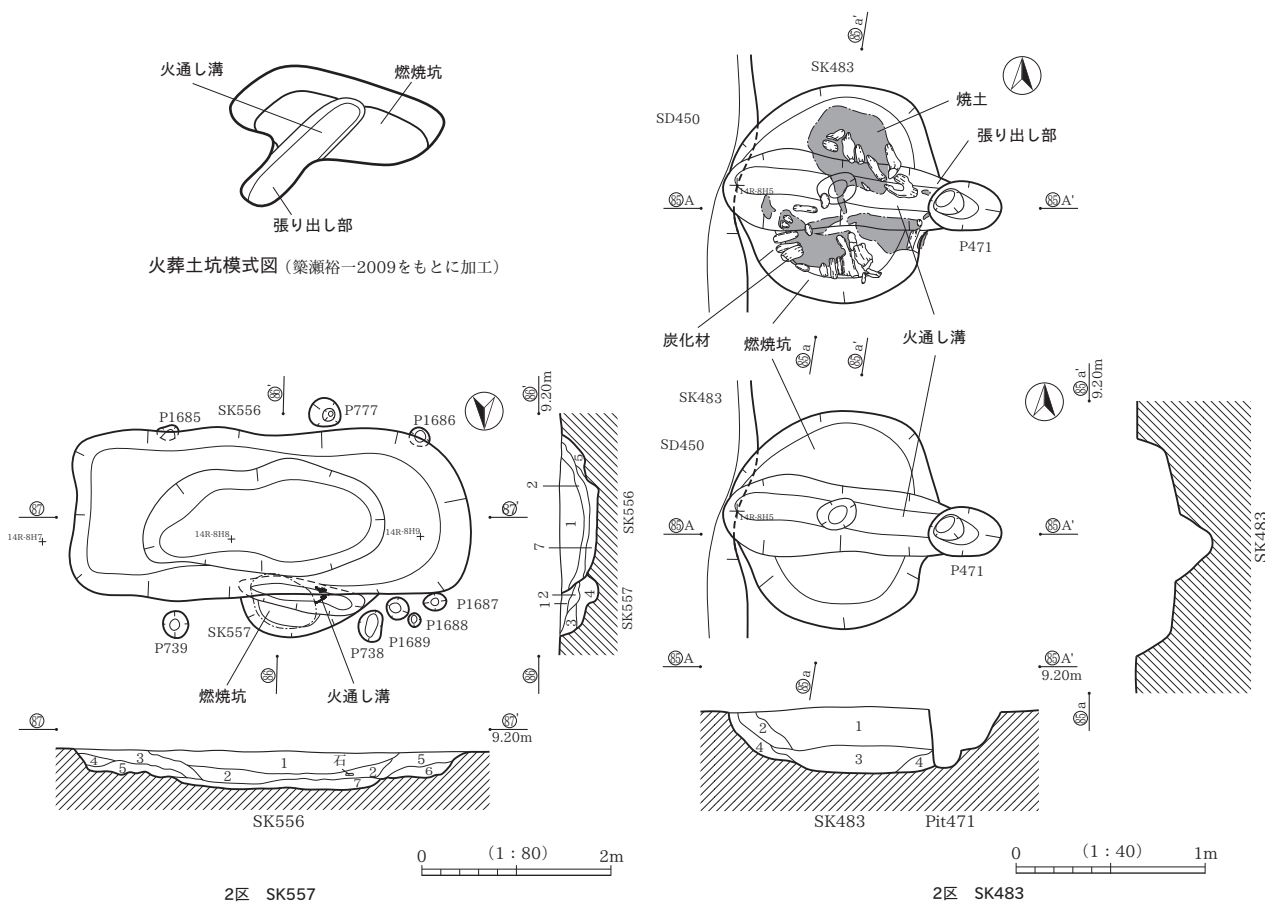
第51図 近世墓から出土した遺物(4)

本遺跡周辺における近世墓の事例としては、五泉市の榎表遺跡〔山崎ほか2005〕がある。同遺跡では26基の墓が検出されており、このうち23基が土葬墓、1基が火葬墓、埋設された蔵骨器が2点となっている。本遺跡とは異なり主体は土葬である。棺は主に桶が用いられており、埋葬状態には寝棺と座棺の2種類がある。箱状の木棺は1基のみ検出されている。火葬墓は棺を伴っておらず、覆土中から少量の焼骨が検出されている。また、検出状況からその場で荼毘に付したのではなく、取骨したものが埋葬されたとされている。埋設蔵骨器については、火葬墓の一種と考えられる。このように、周辺遺跡の事例をとっていても近世当時、様々な埋葬方法がとられていたことが確認できる。

1区近世墓群の造営時期については、この一帯が水田になる際等に改葬したり、削平されたりしたと考えられ、陶磁器類がどの遺構に伴うのかはほとんど不明とせざるを得ないが、個々の陶磁器の製作年代は17世紀前半～18世紀のものが多く、17・18世紀を主体とするのであろう。出土骨が細片すぎて、かろうじて2個体の成人女性が推定されたにとどまり、被葬者については不明な点が多いが、区画に合わせて東西方向に並ぶ分布状況や、集落全体の墓域とするには検出数が限られていることから、血縁集団の墓地などであったと考えられる。

2) 2区火葬土坑について

2区では1区のように群を成す墓域は検出されていないが、SK483・557・1592の3基の土坑において、多量の炭化物和焼骨が検出された。SK483は平面円形の土坑であるが、土坑底面を東西方向に横断する溝状の落ち込みが検出された。溝状の落ち込みは東壁から土坑外側へと抜けていたと思われるが、端部はPit471に壊されている。土坑底面からは辛うじて木材の形状を留める炭化材と多量の炭化物が検出され、底面と壁面の一部は被熱によって赤化していた。サンプルとして採取した炭化物を洗浄したところ少量の焼骨が検出された。また、焼骨以外に木製の数珠玉も確認された。以上のことから、SK483は荼毘を行った火葬土坑であったと考えられる。土坑中央で検出された溝状の落ち込みは火通し溝で、土坑本体は燃焼坑と考えられる(第52図)。



第52図 検出された火葬土坑

SK1592 は平面円形の土坑で、土坑内には多量の炭化物・焼土ブロックとともに、少量の焼骨が検出された。SK483 と土坑の形状は類似するが、火通し溝は備えておらず、規模も若干小振りである。SK483 に類する火葬土坑であった可能性が高い。

SK557 はSK556 に半分以上を壊された状態で検出された土坑である。前述の2基と同様に多量の炭化物が検出されたが、ある程度形状を維持した状態の焼骨も出土した。SK483 と同様に底面中央部に溝状の落ち込みがみられ、焼骨は落ち込み付近に集中していた。火通し溝に落下した焼成骨が骨上げの際見落とされたものと考えられる。また、数珠玉も2点出土している。火通し溝を備えていることと、炭化物と焼骨が検出されている点から、火葬土坑であったと推察される。

3) ま と め

以上、本調査で検出された近世の墓制についてまとめてみたが、1区で検出された土坑群は、明確な範囲を限った墓域であったと考えられる。木棺や蔵骨器に収骨する、あるいは直接土坑に埋納するなど方法は多様である。被葬者については不明だが、様々な形態の数珠玉や、唐津・越前などの大型陶器が出土する点などは特筆される。2区では1区のような墓群は検出されなかったが、1区にない火通し溝を備える火葬土坑が存在する。明らかに土坑そのものが焼けていることから複数回の荼毘が行われた荼毘専用の土坑の可能性もあり、1区とは異なる性格の場であったかもしれない。

一般的には近世の段階では土葬中心の葬制であったと考えられるが、土葬か火葬かの選択は当時から可能で、一般の集落においても経済的な条件はあるが火葬が盛んに行われていたという指摘もある〔木下2012〕。近世以前から、日本における葬制は生活環境や土地問題、信仰などによって変化しながら行われてきた経緯がある。近世の細池寺道上遺跡一帯において、本調査で検出されたような葬制がどの程度普及していたかは、今後の調査の進展に期待したい。

第2節 細池寺道上遺跡の遺物

A 古代の土器

古代の土器には須恵器・土師器・黒色土器の3種がある。決して大量ではないが、一通りの器種が揃っている。

2区SD1615からまとまって最も残りのよいものが出土しているほかは、散漫な出土である。古代の遺構も1区の河以外明確なものはなく、本調査区内に古代の生活痕跡は希薄である。これらの遺物をもたらした古代の遺跡の本体は、2区の調査区外南～南西に存在すると考えられる。本調査区の約50m西に位置する第46次調査区でみられた古代土器と遺構の分布範囲〔立木・奈良ほか2018〕のうち、東よりまたは南よりに位置するものと一連としてとらえられるかもしれない。今回出土した須恵器甕のなかに、第46次調査出土品〔立木・奈良ほか2018：図版105-33〕と同じ叩き原体を使用していて同一個体とみなせるものがある（図版199-83）ことは、その傍証となる。ちなみにこの2点の出土位置間の距離は約93mである。

土師器無台椀は小片が多いが、口径は12.0～13.0cm前後と15cm前後、底径は5.0～6.0cmに復元されるものがある。

土師器煮炊具については口縁部の形状がわかるものが比較的多く存在しており、長甕にはロクロを使用していないものとロクロ使用のものがある。ロクロ使用のものではA1類とした断面三角形を呈する端部の上端を上方向につまみ出し、内側に細い沈線を巡らせて明瞭な屈曲を作り出すものが目立つ。そのようなものは結果的に作りがシャープで、焼成も硬質なものになっている。

須恵器無台杯は全体のプロポーシオンは明らかなものがないものの、胎土・焼成の特徴からすべて佐渡小泊窯の製品であるとみられる。有台杯も小泊窯産だと思われるが、高台が高く立派なものである。

須恵器壺類は断面方形のしっかりした高台をもつものである。

須恵器甕は口縁部がなく体部も全体形をうかがい得るものはなかったが、胎土 A 群と C 群が同点数あり、A 群が比較的厚手で大きい破片が目立つ。

図版 199-91 の須恵器杯形焼台は生産地との関わりを想定させるものである。体部に穿孔がある明らかな杯形焼台が新潟県調査の寺道上遺跡 A 地点〔小池ほか 1994〕で出土しており、穿孔の有無を除き大きさと形状はそっくりである。第 44 次調査では須恵器甕破片を重ねた状態の焼台が 3 点出土しており、類例が増して生産地と関わりをもつ遺跡である可能性がさらに濃くなってきたといえる。

2 区 SD1615 でみると須恵器は佐渡小泊窯産の無台杯があり、土師器長甕の口縁部形態は、明確な屈曲をもって端部を上方につまみだす A1 類のみ、小甕の口縁部も上方につまみだすものである。春日 VI 期〔春日 1999〕のなかで考えるものであろう。

1 区の NR500 旧河道跡にロクロ使用でない長甕口縁部があり、すべてがロクロ使用でないかは確認できていないがやや古い様相があるかもしれない。

B 中世の陶磁器 (第 53 図)

本調査で出土した中世の陶磁器は、珠洲焼(珠洲系陶器含む) 61 点(うち図化 60 点)、陶器 3 点、青磁 6 点、青白磁 2 点の合計 72 点である。大半が破片資料で、得られる情報が多いとは言えないが、形状が復元可能なものや口縁部破片などを中心に検討し、珠洲焼の編年と照合して遺物の時期を比定してみたい。出土した土器の編年表は第 53 図に示した。編年は、吉岡康暢〔吉岡 1994〕にもとづく。

珠洲焼甕は大半が体部破片で、検討可能なものは 156 と 170 の 2 点のみであった。156 は口縁部破片で、復元した口径は 51.0cm を測る。端部は厚みがあり、外傾したのち水平に短く引き出される。その特徴から吉岡編年の II 期に比定され、13 世紀前半に位置付けられる。170 は頸部下位から体部にかけての破片で、復元した最大幅は 64.0cm を測る。法量と手法の特徴から吉岡編年の IV 期に比定され、14 世紀前半に位置付けられる。

壺で検討可能なものは 11 の四耳壺のみであった。壺 R 種と思われる、タタキメや押圧痕は認められない。外面に耳の痕跡が残る。吉岡編年の I 期に比定される。

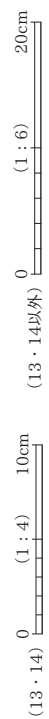
片口鉢は口縁部の破片が比較的多く出土しており、8 点を検討した。16・129・158 の 3 点は吉岡編年の I 期に比定した。129 は口縁部の小破片で、端部は平縁で水平に仕上げられる。復元した口径はやや大振りな 35.6cm を測る。158 は注口部を含む口縁部破片で、復元した口径は 25.0cm である。142・143・172・180 の 4 点は、いずれも口縁部が平縁で外傾する。口径が復元できたのは 142・143・172 の 3 点で、142 が 23.6cm、143 が 23.8cm、172 が 22.8cm と近似する。142 は吉岡編年の II 期、143・172 は吉岡編年の III 期に比定した。177 は復元した口径 26.0cm で、口縁部は厚みがあり、平縁である。吉岡編年の III～IV 期に比定した。

128 は片口鉢ではあるが胎土の特徴から、珠洲焼ではなく珠洲系陶器と判断した。産地は不明だが、胎土には白色凝灰岩などの含有物が多く含まれる。口縁部から底部まで全体の 1/4 ほどが残存しており、体部は直線的に立ち上がり、口縁部は薄く仕上げられる。注口部は欠損するが、口径は 23.2cm を測る。吉岡編年の II 期に比定しておきたい。

珠洲焼以外の陶磁器については、青磁、瀬戸美濃産の陶器について検討した。青白磁合子については次項で改めて検討するので、ここでは割愛する。青磁は 6 点出土しており、このうち 17 の盤は竜泉窯系の輸入品で、15 世紀に比定される。162 と 174 の陶器は 2 点とも瀬戸美濃産である。162 は天目茶碗で、内外面に鉄釉が施された口縁部破片で、端部は薄く仕上げられる。174 は皿の体部破片で、内外面に灰釉が施される。大窯成立以前の所産で、15 世紀に比定される。

珠洲焼については、口縁部が多く出土した片口鉢を中心に検討した結果、12 世紀後半～15 世紀前半にかけての時期が比定される。珠洲焼については、甕や壺など貯蔵具以外にも、調理具である片口鉢の多さに注目したい。古代から中世へと移行する中で人々の食生活にも変化が訪れ、室町時代まで継続している証左と思われる。特筆

	珠州焼 甕	珠州焼 壺	珠州焼 片口鉢	珠州系陶器片口鉢	その他陶磁器
I 期 12世紀後半					
II 期 13世紀前半					
III 期 13世紀後半					
IV 期 14世紀					
V 期 15世紀					



第53図 中世の陶磁器編年図

されるのは中世溝 SD205 底面付近から出土した 11 の四耳壺である。破片資料ではあるが、白磁などを模倣し、上層階級の要求に応えるために限られた数量が作製されたものと考えられる。中世集落において重要な位置を占めていたと考えられる区画墓からも、青磁皿と青白磁合子が出土している。本遺跡一帯に威信品ともいえるこれらの品が普及していたことは、周辺に武士階級や僧侶といった上層階級や、商人などの存在を窺わせる重要な資料と考えられる。

C 青白磁合子 (第 54・55 図)

1 区画墓 SZ865 の埋葬施設である ST1 の底面から、貿易陶磁である中国産青白磁合子の身と蓋が並んで出土した。これらは本来セットであったとみなしうるもので、身は正位、蓋は逆位にしてどちらも開口部を上にして至近距離に置かれたものである。ほとんど完形であるが、蓋受けの立ち上がり端部が約半周分細かく打ち欠かれたように欠損している。出土状況からこの位置に置かれた副葬品であることは疑いないので、被葬者遺愛の品で使用時に欠損してしまったものか、副葬にあたってあえて打ち欠かれた可能性もある。

形の特徴としては、身の体部は腰が張ったり稜をもって屈曲したりはせずなだらかであり、蓋受けの立ち上がりがあまり高くない。対して蓋は平坦な天井部から急激に屈曲して口縁部がほぼ垂直に下がる。いずれも型押しで成形され、外面は底部以外施釉される。

青白磁合子単体についてこれまでまとまった論考に接しておらず、年代的位置づけについては経塚での共伴関係があるものはその範囲で抑えられるが、どれくらいの期間にわたっているのかこれから明らかにしなければならない。

産地について、青白磁としては景德鎮窯が有名だが、福建省で大量に作られていることが知られている〔海のシルクロードの出発点“福建”展開催実行委員会編 2008 など〕。第 55 図の類例を見る限りでも多様な形態があり、生産窯も多数あったことがうかがえる。

中国産青白磁合子自体の出土例は全国的に知られ、細池寺道上遺跡周辺でも近いところでは、阿賀野川をもう少し下った右岸に位置する北区下前川原遺跡〔遠藤 2004〕で 6 点 (3 セット分) が出土している。その出土量と阿賀野川河口に近いその立地とから、船載陶磁器の搬入経路として下前川原遺跡の存在は注目される。

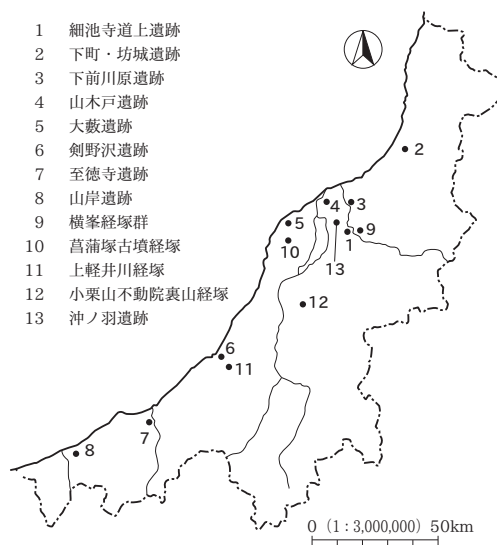
今回出土した貿易陶磁は青磁碗、青磁皿、青磁盤とこの青白磁合子であり、白磁はみられない。

当時の貿易陶磁のなかでは超高級品ではないが、青磁碗ほど一般的でもない品物であり、どの程度の財力がその背景にあったか、そしてその財は何に裏打ちされていたかが今後検討されるべき課題である。

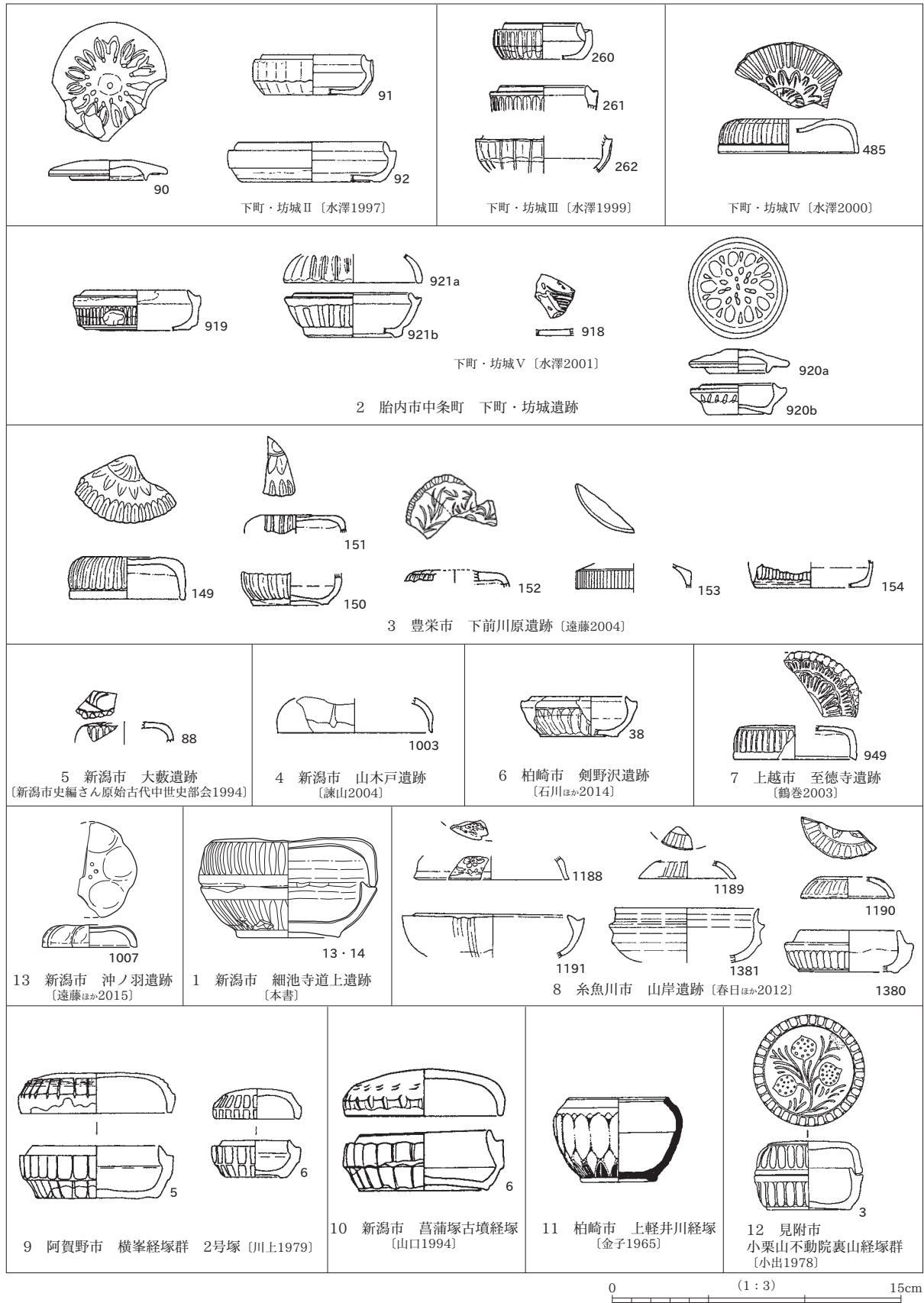
そして経塚に埋納される例が多いなかで、最も注目されるのはその出土状況である。そこにはこの器に対する意識の違いが存在するのではないか。あるいは当時経塚に埋納する風習がすたれていたということを示すのかもしれない。

D 近世・近代の陶磁器・土器 (第 56・57 図)

細池寺道上遺跡第 48 次調査からは、多くの近世陶磁器・土器が出土している。ここではまとまった陶磁器・土器が出土した井戸や土坑などがいくつかみられたため、主要なものを区毎に取り上げて年代的な位置付けを行いたい。なお 2 区については層位も検討した。出土遺物の多くを占める肥前系陶磁器の年代については、第 V



第 54 図 県内の青白磁合子出土主要遺跡分布図



第55図 県内の主要遺跡出土青白磁合子集成図

章でも述べたように大橋康二氏の編年〔大橋 1989〕に拠っている。

1区 SK680 では、胴部から延びそのまま口縁部に至る器形で、藁灰釉が掛けられる皿 (33)、刷毛目文が施される鉢 (34)、横線が施される壺 (35)、口縁部断面がT字形を呈する甕 (36)、土師質土器の蓋 (37) がある。これらのうち 35・37 は詳細時期不明である。34・36 はIV期に相当する。33 はIII期まで上るかもしれない。

1区 SK682 では、越前焼の大甕 (39) がある。17世紀前半であるためII期に併行するものと考えられる。

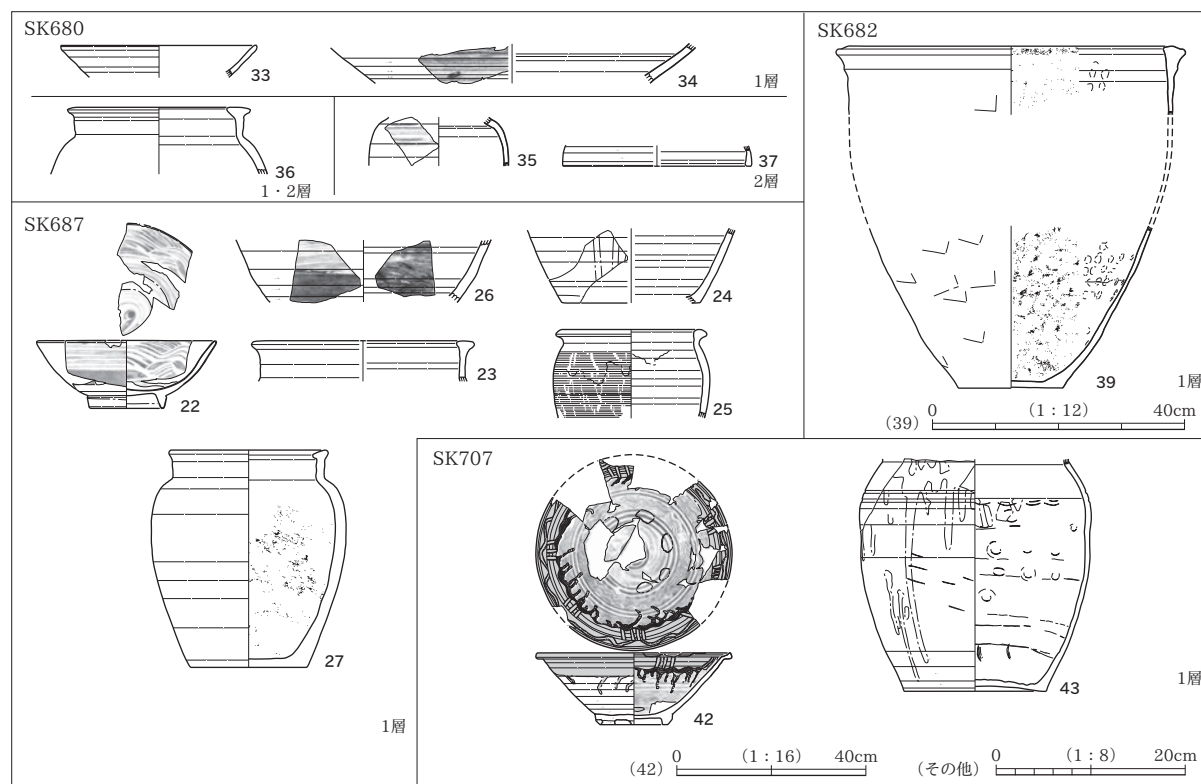
1区 SK687 では、刷毛目文が施される端反鉢 (22)、黄色の鉄釉で縦位線が描かれる鉢 (24)、口縁部の断面がT字形を呈するもの (23) や外に肥厚 (25) する甕、土灰釉が掛けられる壺 (26)、「ハンズーガメ」(27) がある。このうち 24・26 は詳細時期不明である。22 はIII～IV期、23・25 がIV期、27 はV期に相当する。

1区 SK707 では、「刷毛目唐津」と呼ばれる鉢 (42) があり、高台の外側は斜めに削り落とされる。内面に同心円状の当具痕が残る甕 43 は蔵骨器と思われ 42 よりも古くII期頃と考える。

SK687・707 の遺物では年代幅がみられる。出土した遺構が墓であるため、伝世品などが副葬された可能性も考えられる。ただし、出土した陶磁器が副葬品であった場合その多くがあまりにも小破片すぎることに、また遺構の重複や改葬などによって遺物の位置が動いている可能性があること、上記した年代は蔵骨器 (27・43) も含めていること、など検討する必要がある。

2区 SE351 では、磁器碗に草花文が描かれるもの (186・187・189)、コンニャク印判が施されるもの (192) がある。磁器皿は溝縁皿 (194・201)、蛇ノ目釉剥ぎした箇所鉄釉を塗るもの (196)、陶器皿は刷毛目文 (197)、銅緑釉 (199)、蛇ノ目釉剥ぎ (200)、砂目が残るもの (202) がある。203 は口縁部が玉縁状を呈する播鉢である。192・197・199・200 はIV期古相、189 がIV期前半、198 がII～III期、192 がIV期、194 はII期、202 がI期に相当する。これら以外のもは詳細時期不明である。層位的にみると1層ではII～III期の198 が1点みられるが、他は概ねIV期古相～前半段階のものが主体を占める。2層はII期の194 やIV期古相の200 が混在し、最下層にはI期の202 がある。I期以降に廃絶し、IV期には完全埋没したものと考える。

2区 SE449 では、口縁部がく字状に外反する磁器皿 (209)、蛇ノ目釉剥ぎの陶器皿 (210)、播鉢 (211)、刷



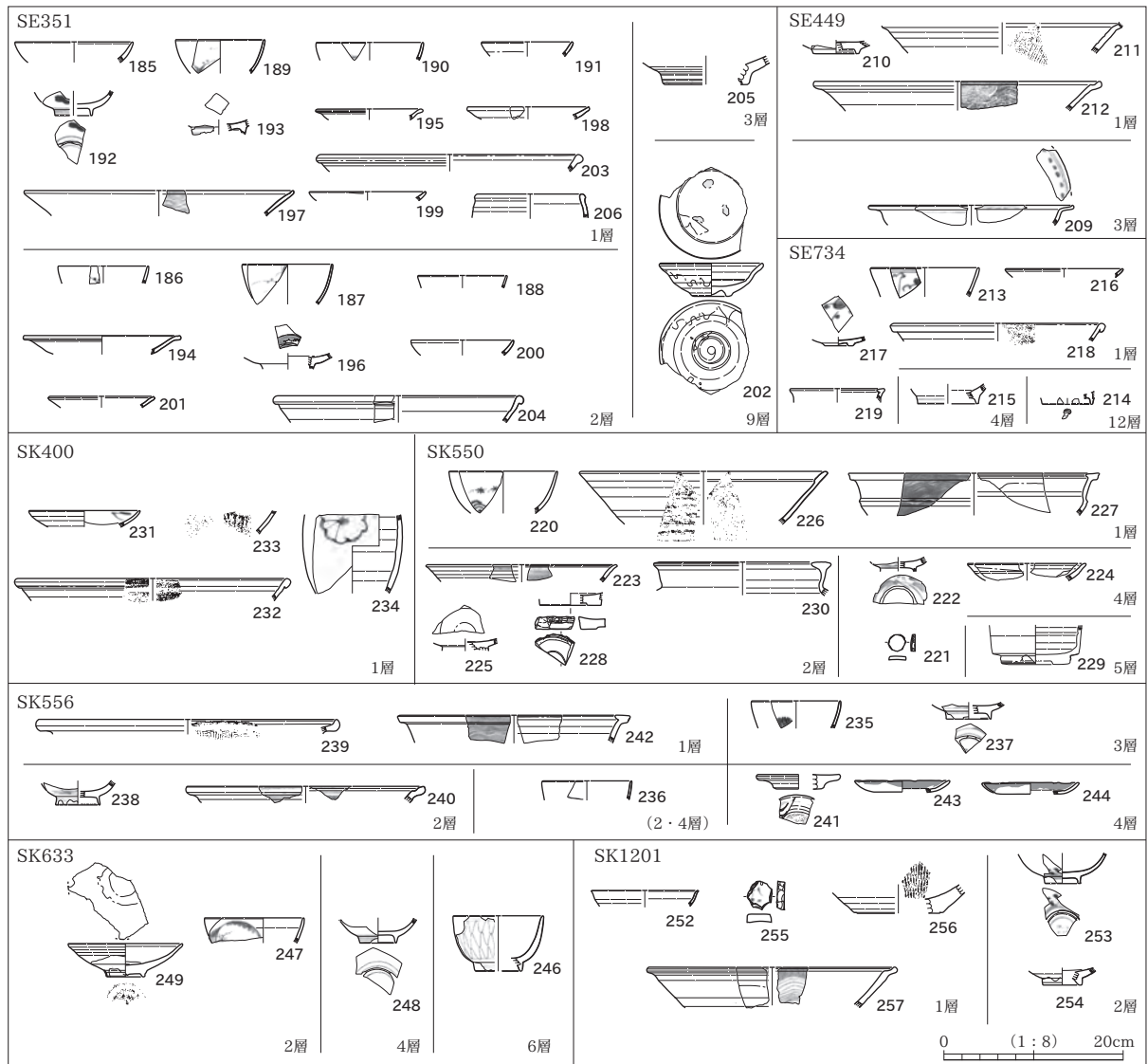
第56図 主要遺構出土の近世陶磁器・土器 (1)

毛目文が施される鉢(212)がある。209・212はⅡ期、210がⅣ期古相、211はⅡ～Ⅲ期に相当する。層位的にみると1層はⅡ～Ⅳ期古相、2層はⅡ期である。Ⅱ期以降Ⅳ期までの間に埋没したものとする。

2区SE734は、磁器碗に山水文が描かれるもの(213)、蛇ノ目釉剥ぎ(215)、磁器皿に草花文が描かれるもの(217)、挿目の一単位ごとの間隔がひらく挿鉢(218)、磁器火入れ(219)がある。213・214・216は詳細時期不明である。217はⅡ～Ⅲ期、218がⅢ期、219はⅣ期に相当する。層位的にみると下層の状況は不明で、1層ではⅡ～Ⅳ期のものが混在する。Ⅳ期までに埋没したと考える。

2区SK400は蛇ノ目釉剥ぎの磁器皿(231)、口縁部が玉縁を呈するもの(232)や挿目が密にならない挿鉢(233)、花文が描かれる磁器徳利(234)がある。231はⅣ期古相、232がⅢ期、233はⅡ～Ⅲ期、234がⅣ期に相当する。Ⅱ期以降Ⅳ期までの間に埋没したものとする。

2区SK550は草花文(220)や山水文(222)が描かれる磁器碗、砂目が残るもの(224)や蛇ノ目釉剥ぎが施される陶器皿(225)、口縁部内側が肥厚する挿鉢(226)、口縁部は内外に突出する鉢(227)、磁器香炉(229)、口縁部がT字形を呈する甕(230)がある。このうち221・223・228は詳細時期不明である。220はⅣ期前半、222がⅢ期、224はⅡ期、225がⅣ期古相、226・227はⅢ期、229がⅣ期、230はⅢ～Ⅳ期に相当する。層位的にみると1～5層内にⅡ～Ⅳ期のものが混在する。最下層の5層にⅣ期のものが出土しているため、Ⅳ期に廃絶し、埋没したものとする。



第57図 主要遺構出土の近世陶磁器・土器(2)

2区 SK556 はコンニャク印判が施されるもの(235・236)や染付による圏線がみられる磁器碗(237・238)、三島手(239)や刷毛目文(240)が施された陶器鉢、落とし蓋(241)、口縁部断面がT字形を呈する甕(242)、ススが多量に付着する灯明皿(243・244)がある。このうち243・244は詳細時期不明である。235～237・239・240はⅣ期前半、238がⅢ期頃、241はⅡ期頃、242がⅢ期に相当する。層位的にみると、最下層の4層でⅡ期と思われる落とし蓋(241)の小片が出ているが、1～3層は概ねⅣ期前半のものでまとまるため、Ⅳ期に廃絶し埋没したものと考えたい。

2区 SK633 は網目文(246)、山水文(247)、圏線(248)が描かれる磁器碗、砂目が残る陶器皿(249)がある。246はⅢ期、247・248がⅣ期前半、249はⅠ～Ⅱ期に相当する。層位的にみると、2層でⅠ～Ⅱ期の皿が出土しているが、他はⅢ～Ⅳ期前半のものなので、Ⅲ期に廃絶しⅣ期前半に埋没したものと考えたい。

2区 SK1201 は草花文(253)、蛇ノ目釉剥ぎ(254)が施される磁器碗、陶器播鉢の底部(256)、刷毛面文が施される鉢(257)がある。このうち252・255は詳細時期不明である。253はⅣ期、254がⅣ期前半、256はⅡ～Ⅲ期に相当する。257はⅢ期と思われるが、Ⅳ期まで下る可能性もある。層位的にみると、Ⅳ期に廃絶し埋没したものとする。

以上、主要な遺構から出土した陶磁器・土器について述べてきた。遺跡全体としてはⅢ～Ⅳ期前半の遺物が多くみられ、また検討した主要遺構においてもSK550・556・633などは当該期に位置付けられる結果となった。本遺跡は、文献によると上金沢村に推定される。このⅢ～Ⅳ期は、沢海藩領から幕府領へと変わり、宝永4年(1707年)の村明細帳によると「高44石2斗余、反別5町7反余、家数11、人数63」(石川家文書)〔斎藤1986〕とあり、村の人数が具体的に記されており、ある程度の人数がいたものと思われる。この他、SE351・449などはⅠ・Ⅱ期のため、上金沢村の開発時期である寛文8年(1633年)前後のものとして注目される。今回の調査においては、近世前半の遺物が少量であったため十分な検討はできなかった。今後の資料の蓄積に期待したい。

E 土 製 品

細池寺道上遺跡第48次調査からは9点の土製品が出土している。遺構別にはSX1131から6点、その他にSK645、SD119・940からそれぞれ1点、全て2区の遺構である(別表25)。SX1131から出土した土製品は5以外全て土人形である。土人形は江戸系と京都系の二つの群に分けられるようで、二者は胎土の色調が異なる〔安芸2001〕。江戸系は橙色・褐色・赤褐色で、京都系が白色・淡黄色を呈する。年代的な特徴としては、17世紀代では恵比寿・大黒、天神・西行、猿・狐といった民間信仰にかかわるものが多い。18世紀前半～中期では、袴雛・太夫、唐子楽人といった節句関係の人形が出現する。18世紀後半～19世紀前半では、17世紀～18世紀中期までに出てきた人形に加え、愛玩的なものや動物といったものが出現する。SX1131は大黒(3)や動物(4)など17世紀代～19世紀の人形がみられる。遺構から出土した陶磁器の年代も概ね同様の時期であり、土人形の年代観とも一致する。

F 石 製 品 (第58・59図、第17表)

今回の調査では合計407点の石製品が出土している。別表19に石製品の組成を示したが、石製品の多くは砥石、磨石、磨石+敲石、敲石、軽石製石製品である。磨石、磨石+敲石、敲石については擦痕や敲打痕などに代表される使用痕が発達しないものが多いことから、臨機的に使用されたものであると考えられる。石製品と石材組成について別表18に示した。それによると凝灰岩、緑色凝灰岩、硬質砂岩、花崗岩などに代表される阿賀野川水系ならびに新津丘陵で採取可能な在地石材を使用しており、石製品ごとの使用石材傾向も窺える。本項では砥石の形態ごとの使用石材の傾向と、軽石製石製品とその自然石の使用傾向について検討したい。

砥石は板状のA類、多角形のB類、自然石を用いたC類の3種に分類できることは第V章第5節Bで触れたとおりである。このうち出土比率が高いものはC類であり、B類、A類がそれに続く。各類型の使用石材に

ついて A 類は粘板岩製 1 点、B 類は凝灰岩製が 17 点、珪質頁岩製が 1 点出土、C 類は凝灰岩製が 18 点、頁岩製と珪化木製が各 1 点使用されており、A 類を除き凝灰岩の使用が他を卓越している。凝灰岩以外の石材についても粘板岩や珪質頁岩、頁岩、珪化木など比較的中～細粒の石材を選択的に使用していることが窺える。砥石における石材の違いは用途の違いと解釈されることが多く、細粒の凝灰岩や粘板岩が仕上砥、流紋岩やデイサイト、中粒の凝灰岩が中砥、砂岩や安山岩を用いたものは荒砥とされる。これを当てはめると、今回の調査においては凝灰岩製の仕上砥～中砥が出土していることになる。土器転用砥石が 1 点 (152) 出土しているが、これも材質的には仕上砥～中砥の範疇に含まれる。今回の発掘調査において金属製品の鎌 (6・7) や包丁 (1・5) が出土しており、これらの刃部を研ぐために使用していたものと考えられる。

次に細池寺道上遺跡周辺の様相を確認するために、砥石の出土している遺跡について略集成を行った (第 58 図、第 17 表)。遺跡の中心時期は古代から近代まで長期間にわたるが、時代による形態変化が乏しく時期差を認めることが難しいため、ここでは砥石全体の傾向について考えてみたい。出土形態の割合は、A 類 12%、B 類 40%、C 類 48% であり C 類の割合が高く、A 類の割合が低い。類型ごとの使用石材については A 類の使用石材は泥岩 3%、粘板岩 8%、頁岩系 8%、凝灰岩系 78%、流紋岩 3% である。細粒から中粒の石材を選択的に用いていることから仕上砥～中砥として使用されていた製品形態と考えられる。B 類の使用石材は泥岩 2%、粘板岩 1%、頁岩系 2%、凝灰岩系 88%、安山岩系 2%、砂岩系 3%、不明 2% である。細粒から粗粒の石材を用いており、中砥を中心とし仕上砥～荒砥まで幅広く用いられた製品形態であるといえる。C 類の使用石材は頁岩系 2%、珪化木 1%、凝灰岩系 53%、流紋岩 6%、安山岩系 4%、アプライト 1%、砂岩系 16%、花崗岩 5%、斑レイ岩 1%、チャート 2%、輝緑岩 2%、デイサイト 2%、礫岩 1%、不明 4% である。中粒の石材を主体とし荒粒の石材が使用される。また、他の類型と異なり多様な石材を使用している。

以上、簡単ではあるが細池寺道上遺跡周辺における出土砥石について触れてみた。形態の点では C 類の出土が多い。石材の割合では凝灰岩などに代表される中砥の出土割合が高く、仕上砥と荒砥の割合が低い。それぞれの砥石の用途としては荒砥が刃物の生産・供給に関わるもの、中砥が日常品の保守・調整、仕上砥が大工道具など繊細な刃物の調整と考えられている。細池寺道上遺跡周辺の遺跡においては前述のとおり中砥の出土量が多く、鎌や包丁などの生活用具の保守・調整に使われたものと考えられる。また A 類と B 類は在地産とされる凝灰岩を用いているが、産地の特定と広域流通について検討することも今後の課題と考えられる。

続いて軽石製石製品について触れてみたい。今回の調査で出土した軽石製石製品と、2 区Ⅶ層から出土した軽石 (自然石) の長さ毎の数量を比較したものが第 59 図である。今回の調査において出土した軽石製石製品は欠損品が多いものの 30mm～50mm 前後の小形品が多く、大形品は 2 区で 1 点 (339) のみの出土にとどまり、超大形品の出土は見られなかった。Ⅶ層出土の軽石は 50mm 以下の小形品が多く、平均 20～30mm 前後のものが主体となっており、概ね製品の大きさに合致する。第 44 次調査においては古代以前と推測される旧河川から軽石交じりの砂礫層が検出されている [立木・奈良ほか 2017]。これによると採取された軽石は 30～80mm の小形品と中形品に集中しており大形品の採取は 1 点にとどまるなど、今回の調査結果の傾向に合致する。河川由来の砂礫層がいつの時点で露出したのかなど詳細に検討する余地が残されるが、遺跡近辺において原石が採取できる可能性が高いことが推測される。一方の大形品については古阿賀野川本流の河原での採取品である可能性が指摘されている [立木 2017c]。この中で、福島県喜多方市で採取された軽石 (自然石) の法量が示されており、これによると大形品を中心に中形品や bg が採取されており、遺跡内で主に使用された小形品の採取がごく少数にとどまっている。この採取された軽石は亜角礫であり、遺跡において使用されている亜円礫を主体とする一群とは様相が異なる。単純にこの周辺からもたらされたとは考え難く、偶発的に採取できた超大形品や大形品を使用したものと考えられる。軽石製石製品は阿賀野川流域 3km 圏内で多く出土することが指摘されている [立木 2014c]。今回の検討では阿賀野川下～中流域である細池寺道上遺跡では小形～中形の自然石を採取できる環境であり、これを利用した製品を多く用いる点について触れた。今後、軽石製石製品の流通経路や大形～超大形の

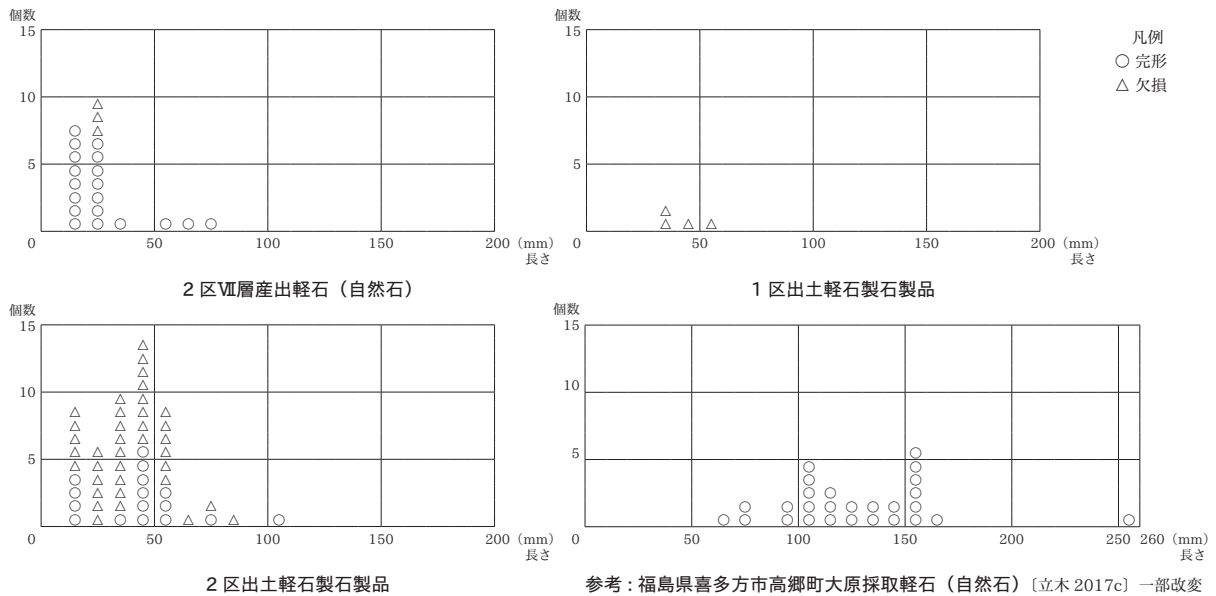


第58図 細池寺道上遺跡周辺の砥石出土遺跡分布図

第17表 細池寺道上遺跡周辺の砥石出土遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	種別	時代(期)	類型ごと石材出土数(点)																文献						
					A類				B類				C類														
					泥	粘	頁系	凝系	流	泥	粘	頁系	凝系	安系	不明	珪系	珪系	珪系	安系	Ap		砂系	花	Gb	Ch	Db	Dc
1a	寺道上遺跡	新潟市秋葉区	集落跡	奈良・平安・中世																							[小池・須藤ほか1994]
1b	寺道上遺跡	新潟市秋葉区	包蔵地	平安							1	1	1		1												[渡邊・山田ほか2001]
2	細池遺跡	新潟市秋葉区	集落跡	奈良・平安・中世																							[小池・須藤ほか1994]
3a	細池寺道上遺跡	新潟市秋葉区	包蔵地	平安(9世紀末~10世紀初)、鎌倉(13世紀)			1		1						8												[潮田2014]
3b	細池寺道上遺跡	新潟市秋葉区	集落跡	平安・鎌倉(12世紀後~13世紀前)、室町(13世紀末~15世紀前)		1		7		1					6										1		[立木・相澤ほか2014]
3c	細池寺道上遺跡	新潟市秋葉区	集落跡	平安・鎌倉・室町(13世紀~14世紀)											3												[遠藤・青木ほか2015]
3d	細池寺道上遺跡	新潟市秋葉区	集落跡	奈良・平安(8世紀後~9世紀後)、鎌倉・室町(13世紀前~15世紀前)		1		5							14		1		1	13					1		[立木・奈良ほか2017]
3e	細池寺道上遺跡	新潟市秋葉区	集落跡	古代・中世・近世				3							3					1							[立木・奈良ほか2018]
3f	細池寺道上遺跡	新潟市秋葉区	集落跡	古代・中世・近世		1									1	17				1	18	1					本書
4a	大沢谷内遺跡	新潟市秋葉区	集落跡	飛鳥~古代(7世紀中~9世紀前)、中世(13世紀~14世紀)					4						5		1			9	9		1	10		3	[細野・伊比ほか2012]
4b	大沢谷内遺跡	新潟市秋葉区	集落跡	古代(9世紀~10世紀初頭)、中世(13世紀)		1									3											6	[前山ほか2012]
5a	沖ノ羽遺跡	新潟市秋葉区	集落跡	平安(9世紀)、鎌倉(13世紀)											4												[星野・石川ほか1996]
5b	沖ノ羽遺跡	新潟市秋葉区	集落跡	平安時代											3												[細野・杉山ほか2002]
5c	沖ノ羽遺跡	新潟市秋葉区	集落・生産跡	古代											1	6		2		3		2					[春日2003]
5d	沖ノ羽遺跡	新潟市秋葉区	集落跡	古代(8世紀前~10世紀前)、中世(12世紀~15世紀前)				4							13	1				3		1					[遠藤・澤野ほか2014]
6a	中谷内遺跡	新潟市秋葉区	包蔵地	近代											1												[立木・小林ほか1999]
6b	中谷内遺跡	新潟市秋葉区	包蔵地	9世紀後~10世紀前											3						15		1			1	[渡邊・立木2002]
7	川根遺跡	新潟市秋葉区	包蔵地	古代(9世紀後~10世紀前)					1						1						1	3	1				[立木ほか2000]
8	上浦A遺跡	新潟市秋葉区	集落跡	古代(7世紀末~10世紀前)					2						2												[坂上2003]
9	山王浦遺跡	新潟市秋葉区	包蔵地	古代(9世紀後)											1					5		2			1		[立木・澤野ほか2004]
10	結七島遺跡	新潟市秋葉区	集落跡	古代(9世紀後)											1						3						[立木・澤野ほか2003]
11	内野遺跡	新潟市秋葉区	包蔵地	9世紀後・中世(13~15世紀)・近世			2	3							17						5		1		4	2	[立木・高野ほか2002]

註：砥石の分類は本書に準ずる
 石材名凡例：泥…泥岩、粘…粘板岩、頁系…頁岩系(頁岩・珪質頁岩)、凝系…凝灰岩系(凝灰岩・緑色凝灰岩・流紋岩質凝灰岩)、流…流紋岩、安系…安山岩系(安山岩・珪質安山岩)、砂系…砂岩系(砂岩・硬質砂岩)、珪木…珪化木、Ap…アフライト、花…花崗岩、Gb…斑レイ岩、Ch…チャート、Db…輝緑岩、Dc…デイサイト、礫…礫岩



第 59 図 軽石の長さ比グラフ

自然石が主体的に採取できると推測される上流域の形態組成を検討し、下流・中流・上流により軽石製石製品の主体となる形態に差異が認められるのかなど多角的な検討が待たれる。

G 金属製品

本調査で出土した金属製品は刀子 1 点、包丁 2 点、鎌 2 点、釘 6 点、大釘 1 点、鋳物製品 1 点、鉄鍋片 4 点で、これに鍛冶関連遺物の椀形鍛冶滓 4 点、銅塊 1 点、銅製坩堝 1 点の合計 23 点である。このうち、刃物は刀子・包丁・鎌の 3 種類が出土した。いずれも残存状態が悪く出土点数も少ないが、種別ごとに出土遺構の性格と合わせて検討してみたい。

刀子 (4)、包丁 (5) はともに 2 区 SK556 から出土している。第 1 節 A でも述べたが、SK556 は多量の近世陶磁器が出土しており、土坑周囲には柱穴が検出されたことから小規模な上屋があった可能性がある特殊な遺構である。4・5 ともに残存状態が悪く、刃部の一部のみであることから、近世集落で出た廃棄品とともに遺棄された可能性がある。包丁 (1) は 1 区近世墓群の一面である SK706 から出土している。茎から刃部半分ほどにかけて残存しており、覆土上層から出土している。SK706 は土坑内に焼骨を埋納した火葬墓であるが、民俗事例において遺体の上に魔除けとして刃物を置く風習がある (新谷・関沢 2005)。墓からの刃物の出土は、近世の葬送儀礼を窺わせ注目される。鎌 2 点 (6・7) はそれぞれ Pit904 と SE444 から出土している。Pit904 は 2 区の掘立柱建物 SB2010 を構成する柱穴であり、地鎮などの祭祀に伴う可能性がある。釘が出土した遺構は、1 区では近世墓群のうち SK684・706 の 2 基、2 区では前述の SK556、多量の遺物が出土した SX1131、中世の溝 SD362・537 である。1 区の近世墓 2 基のうち、SK684 は木棺の一部が出土しており、これを固定していた釘の可能性が高い。SK706 は木棺を伴わないため詳細は不明である。2 区の SX1131 からは多量の木製品が出土しており、木釘以外に鉄釘が使われていたものも認められることから、これらに用いられたものと推察される。溝から出土したものについてはおそらく混入と思われる。中世の井戸である 2 区 SE647 から出土した大釘については不明な点が多いが、上層からの出土であるため、埋没過程において混入した可能性が高い。SK556 からは何らかの鋳物製品破片が 1 点出土しているが、詳細は不明である。包含層から出土した鉄鍋についても、残存状態が悪いため詳細は不明であるが、全体的に金属製品の多くは日常的に用いる製品が廃棄されたものである可能性が高い。1 区 SK706 出土の包丁については葬送儀礼の可能性はあるが、断定はできない。また、釘の出土量が少ない点については、本調査で出土した近世の木製品の多くが、木釘を用いていたことも関連す

と思われる。

鍛冶関連遺物については、出土した遺構の時期、種別ともにまとまりはみられなかった。その中で、銅塊(18)と椀形鍛冶滓(20)の2点は、掘立柱建物を構成する柱穴から出土した点が注目される。18は中世の建物SB2007を構成するPit245覆土から、20は同じく中世の建物SB2008を構成するPit441からそれぞれ出土している。SB2007は2区北側で検出された独立棟持柱の建物で、周囲にSB2008を含む建物が複数並び、周囲に井戸も共伴することから、本遺跡の中世集落においても中心的な位置を占めていたと推察される。また、SB2007南側に隣接するSB2008は総柱型建物で、建物群の一面を占めるが、地鎮などの祭祀に鍛冶関連遺物を用いるかは断定できない。建物が鍛冶関連の施設であったという可能性があるが、それらを示す資料は遺構・遺物ともに検出されなかった。本遺跡を含め遺跡周辺において鍛冶遺構はみられないが、集落において何らかの鍛冶関連施設があった可能性は高く、今後の調査によって発見される可能性はあるものと思われる。

H 木製品(第60図)

本調査では井戸、墓、性格不明遺構から多量の木製品が出土した。特筆されるのは井戸側に桶が用いられたSE734と、本調査で出土した木製品の大半が出土したSX1131である。SX1131からは近世を中心とする土器・陶磁器も多量に出土しているが、漆塗り椀などの食膳具から、桶などの容器、下駄などの服飾具、行灯などの調度品、柱材や杭などの建築部材、用途不明の部材と多様な木製品が出土した。以下では、周辺の調査においても出土例がない行灯について、出土した部材から使用時の構造、特徴について民俗事例なども参考に検討してみたい。

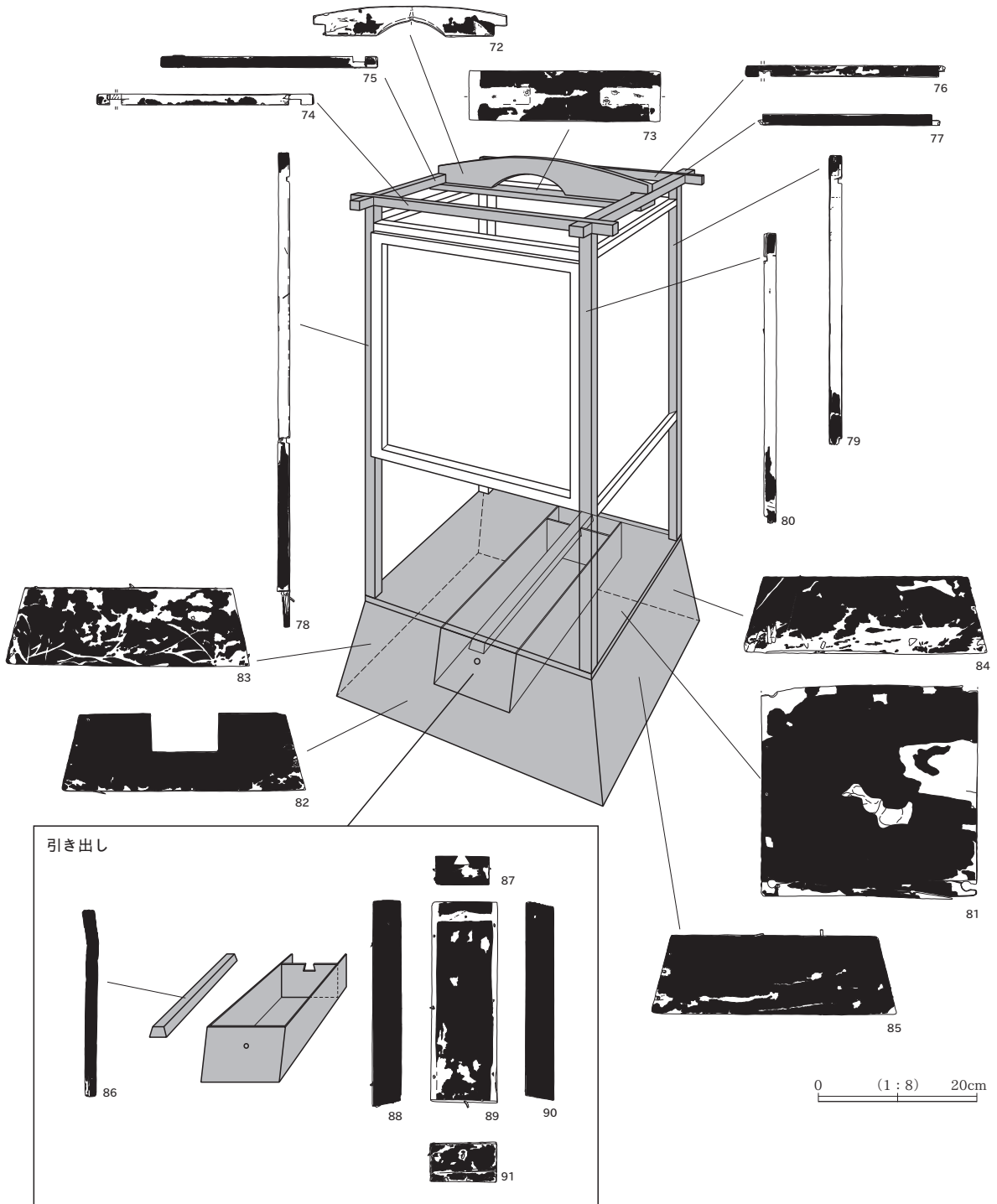
SX1131の6層から(一部8層にも含まれる)まとまって出土した行灯の部材は20点(72～91)を数える。土圧によるものか一部が歪み、油に塗れていた。部材の一部を欠損するが、その構造を復元することができた。復元した行灯の構造は、第60図に模式図として示した。

行灯は江戸時代以降に普及したといわれる。方形や円形の台座上に木枠を組み、障子紙などを張り風除けの覆いとし、その中に灯火具を置いた。通常、覆いの上部には持ち手が付き、持ち運び可能となっている。覆いには用途に応じて様々な形状が存在する。一般的に普及したものは四角柱の角行灯で、本調査で出土したのもこれに当たる。覆いが円柱状のものは丸行灯または遠州行灯と呼ばれる。遠州行灯という名称の来歴は不明だが、安土桃山～江戸時代にかけての大名茶人である小堀遠州が作成した、との俗説がある〔秋澤2015〕。このほかにも多角形の覆いを持つものや、組み合わせで常夜灯や書見灯となる有明行灯、壁に掛けて用いる掛け行灯、舟の中でも安定するように、全体が台形をした舟行灯などがある。燃料は、高価な蠟燭よりも油を用いることが一般的であった。新発田市の民俗事例では、ショウブ油や自家製の菜種油を用いていたことが記録されている〔直江1972〕。油皿には芯を入れて着火していたが、油皿の設置方法には様々な方法がとられていたようである。覆いの内側に横板を設置し、孔や窪みを設けて油皿を設置する、台座に直接置く、把手下に横板を設置し金属製の皿置きを吊るして油皿を置く、などの事例があったようである。

続いて、本調査で出土した行灯の構造を整理してみる。出土した部材20点のうち、72は持ち手である。特に装飾が施されてはならず、実用に応じた簡素な造りである。73は持ち手下を固定するための横板である。木枠の天井部分にあたる枠の一部を、持ち手と上下から挟み込み、これによって木枠本体と持ち手を固定する。持ち手と板の固定には竹製の目釘が用いられている。中央には小孔が2つ穿孔されており、前述の油皿を吊るするための細工と思われる。錆などが付着していないことから金属製の皿置きが使用されたかは不明である。74～77は井桁状に相欠き接ぎで組み合わせ、木枠の天井部分を構成する。78～80は木枠の四隅の支柱にあたる。支柱は角柱で、隣り合わせの2面には油と煤が付着し、反対側の2面には付着がみられなかった。汚れが付着した2面は覆いの内面にあたり、反対側の2面は外側で、障子紙などが張られていたため汚れが付着しなかったと考えられる。このように、台座との接合関係や表面に付着した油・煤などの状態から、支柱の位置を割り出

した。正面からみて左前の支柱は完存、右前、右後は下半を欠損、左後の支柱はすべて失われていた。また、各支柱には中ほどにホゾが切られており、ここに横組みの支柱を渡していたと思われる。支柱はすべて欠損していた。覆いの正面には、油皿の取り出し口があったと思われる。角行灯の場合、嵌め込みもしくはスライド式の窓を付ける場合が多いようであるが、窓が無い開放型もあったようである。

上部構造は部材が一様に細く脆弱なため欠損する割合が高いが、下部構造の台座(81~91)はほぼすべてが残存していた。台座側板は4点(82~85)とも台形を呈し、組み合わせると角錐台となる。正面には引出しを収納する長方形の窓が切れ、各部材は木釘で固定されている。上部構造の支柱も同様であるが、行灯の組み立



第60図 SX1131出土 行灯模式図

てには金属釘が一切使用されていない点は注目される。引出しは外側からは見えないためか、簡素な造りである。引出し側板などは左右対称ではなく、目に触れない箇所については作製効率を優先したものと思われる。引出しの正面には把手が付けられていたと思われる孔が穿孔されるが、把手は出土しておらず、形状は不明である。穿孔痕が粗く、木製の把手を付けるのに不向きであることから、紐状のものであった可能性がある。このほか、特筆されるのは、台座を構成する各部材の内外面、引き出しの部材に至るまで、油が付着していた点である。油は持ち手や木枠などの上部構造にも付着していたが、こちらには煤も付着しており使用時の汚れの上に油が付着したと思われる痕跡が認められた。材自体は炭化していないため、使用時に火災などで延焼した可能性は低いと思われる。これらの点から、破損などの理由でSX1131に遺棄した際に、油ごと遺棄し付着したと推察される。

以上、出土状況から民俗事例なども参考に、行灯の構造についてまとめてみたが、煤などの付着状態から全体的に使い込まれている印象を受けた。近世当時、灯火具は生活において重要であり、タンコロ（乗燭）や松明、提灯、ガンドウ、マツ（松脂を多く含んだ松材を乾燥させ、細かく割ったもの。着火して灯とする。）など必要に応じて創意工夫が行われていた。行灯は室内用の灯火具であり、蠟燭がまだ高級品であったころは日常生活において重要な道具であったと思われる。近代の民俗事例においても、本調査で出土した行灯と酷似したものが収集されているという事実は、江戸時代に普及した段階で、灯火具として完成された構造を備えていたためと考えられる。出土事例が少ないのは部材すべてが木製で残りにくいという点と、使用時から灯火によって傷みが進むためと思われる。本調査で完形ではないものの、部材の大半を残した状態で出土したことは、近世集落における人々の生活の一端を知る上で貴重な資料といえる。

I 烏帽子

器ではない漆塗りの製品として図版 260-1 に示したものが1点、2区の区画墓 SZ2013 の埋葬施設である ST1621 の底面中央に貼りつくように出土している。

周囲の土ごと取り上げて保存処理を依頼し、一部のサンプルで分析を行ったところ、膜は組成から漆であり、空隙のあり方から紙に漆を塗ったものではないかと想定された（第VI章第6節）。

分析結果はそれとして分析した部分の実態を明らかにしたものであるが、分析していない部分には第V章でも述べたように肉眼で観察できるなんらかの圧痕が認められ、それが何であるかという問題が残っている。

漆膜のありようを詳細にみると、図の左端には膜が折り返される部分があり、随所に膜が重なっているとみられる部分がある。また、現状での表面の状態をみると、光沢がある部分とない部分があり、光沢のある部分は表面がなめらかで、刷毛目のような極細の擦痕のみられる部分がある。光沢のない部分の一部に隅丸方形の突起が規則正しく並ぶように見えるなんらかの圧痕（写真図版 307）が観察できる。

折り返される部分があり、重なりがあることから、これが少なくとも漆塗の膜を折りたたんだものであることがわかる。（烏帽子であれば袋状であってさらに折り曲げて使用される。）

隅丸方形の突起が規則正しく並ぶように見える圧痕について、現状ではその裏側を観察できないが、新潟県調査の沖ノ羽遺跡 B 地区 SE110〔星野ほか 1996〕出土例（13世紀、新潟市文化財センター蔵）には、より丸い突起が規則正しく並ぶ痕跡があり、その裏面をみると方形が市松模様状に並び織物の構造とみなせるので、裏面側に布があり、表面が突起状に見えるのは布の凹凸が強調されているためだとわかる。またより細かい織目の布も用いられていたとみられ、粗い目のものが苧麻布、細かい目のものが絹布ではないかと想定されている。

当資料も背面に布があったために凹凸しているものと考えられるとすれば、紙だけではなく布も用いられていたことになる。

秋葉区川根遺跡 SD34〔立木ほか 2000〕出土の烏帽子は、報告書作成時には不明遺物（報告書未掲載）としていたものであるが、保存処理の過程で分析したところ、紙と布の両者が使用されていることがわかっている〔新潟市文化財センター 2014〕。川根例では漆膜に黒色と褐色の2種があり、黒色に布（繊維断面形状より絹と同定）、褐

色に紙が用いられている。現状で外観が黒色であることから褐色漆をしみこませた紙を型として絹を張り重ね、炭粉を混ぜた黒色漆を塗って仕上げたものではないかと想定された。川根例は古代のものか中世のものかはつきりできないが、烏帽子に紙と布の両者を用いたものがあってよいようである。

概説的には烏帽子は布製で背の高いものからそれを折り曲げて使用するようになり、さらに当初から折り曲げた形のものとして作られ、近世には紙製のものになっていくとされる。また、鎌倉時代までは後頭部側に穴をあけてひもを通し髻に結び付けて固定していたものが、室町時代に髪型が変化したため顎紐で固定する方法が変わるとのことである。

富山県在住の現代の紙製烏帽子職人を紹介したテレビ番組（「明日への扉」#41 2013年1月 <https://www.athome-tobira.jp>）があり、そこでは古文書をほどいた和紙3枚にのりをしみこませ、凹凸のつけられた板状の金型にそれを打ち込むようにして「しぼ」と呼ばれる凹凸を表面につけ、外面に黒い紙を重ね貼りしたのち、柿渋を塗ったものを2枚用意する。次に烏帽子の形をした金型に側面から2枚をかぶせて形を整え、継ぎ目にのりをつけコテをあててはり合わせてゆき、最後に帯状に厚紙を貼り合わせたものを縁につけるという製作工程が紹介されている。この職人の師匠は京都で技術を習い覚えてきたとのことである。ここでは黒い色は紙の色であって、漆は最後に塗られるのみなので、出土品とは全く違うものなのだが、柿渋は中世には漆器の廉価な下地として普及していたし、和紙に黒い色をつけるのは墨があればできることでもあることから、廉価で使い勝手のよいものを追求すれば中世でもあってよい方法であろう。

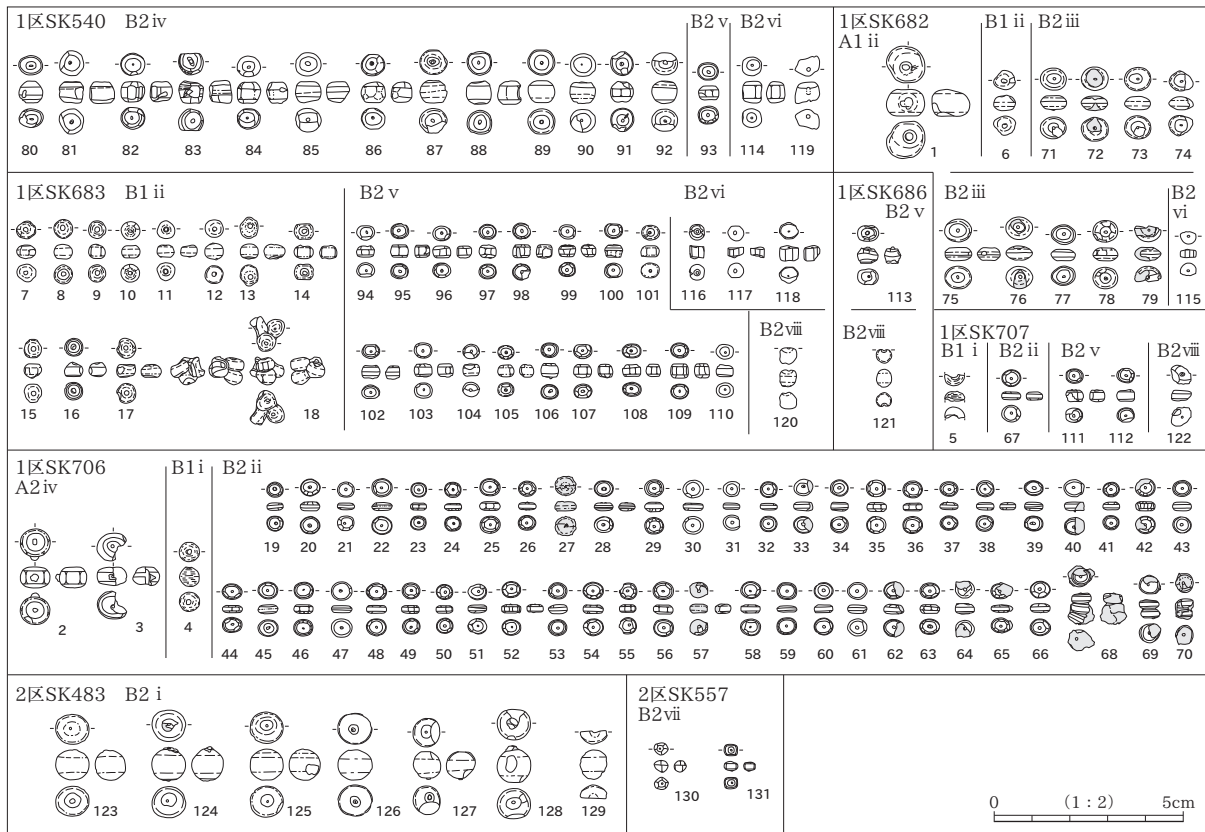
「鏝」や「しぼ」と呼ばれている凹凸文様には年齢などで文様単位の大きさに違いがあったようだが、この凹凸文様がいつからつけられるようになるのか、またその祖型となるものが何かという点が気になるが、目の粗い布を芯にしたことで表面に生まれた凹凸が文様として意識されるようになったと考えるのは飛躍しすぎであろうか。

J 数珠 (第61図、第18表)

今回の調査では、合計138顆の数珠玉が出土している。玉はガラス製と木製の2種があり、ガラス製はさらに2種類（材質の特徴）、木製は7種類（形状）に分けた。本節ではこれら分類を元に、本遺跡から出土した数珠を遺構毎に整理し、まとめとしたい。

まず数珠が出土した遺構を改めてみると、1区がSK540・682・683・686・706・707計6基、2区はSK483・557計2基、合計8基である。いずれも調査中に検出したものではなく、回収した土壌を調査終了後に水洗し、取り上げたものであることを確認しておきたい。

次に回収できた数珠の玉数をみってみる。第18表は玉数を遺構毎に集計したものである。〔岡崎1982〕によれば、数珠として一連に組まれる玉数は108顆を基本数とし、その108を10倍にした1080顆、108を1/2にした54顆、その1/2の27顆、他に42顆、その1/2の21顆がある。本調査で最も多く出土した遺構は、SK706が58顆、SK683は36顆でそれに次ぐ。遺構毎に主体となる玉の分類をみると、SK540ではB2 iv (13/16)、SK682ではB2 iii (9/12)、SK683では2種類の玉が概ね同数で、B2 v (17/36)、B1 ii (15/36)、SK706ではB2 ii (55/58)、SK483では7顆全てB2 iである。上記した玉はそれぞれの遺構内で75%以上を占めるため、1つの数珠であった可能性が高い。この他に数少ない特別な玉もあり、SK682ではガラス製の母珠 (A1 ii)、SK706では木製の母珠 (A2 iv) と透明なガラス製の玉 (B1 i) が出土している。数珠の玉には、母珠・成珠・四天珠・記子・浄明珠・記子留 (露) がある (第16図)。これらの各玉が全ての数珠に備わっているとは限らないようで、数珠は以下の6つに分類される。①母珠もなく、記子もないもの、②1母珠で、記子のみをつけるもの、③2母珠あって、各母珠に記子を10顆ずつつけるもの、④2母珠あって、一方に記子 (20顆) をつけ、一方は紐のみをつけるもの、⑤2母珠で、1母珠に記子 (20顆) をつけ、他の母珠に記子 (10顆) と他に10顆を一連とした記子をつけるもの、⑥輪貫二連数珠、一連は母珠とも40顆、他の一連は母珠とも27顆とする。この二連を交え、一方に金環に紐をつけ、記子6顆、10顆をつけるもの〔岡崎1982〕。①のように母珠がない数珠も



第 61 図 数珠の遺構毎の分類

あるようなので、SK483・540・683 も成珠のみで構成される数珠であった可能性も考えられる。

さらに玉の出土総数が多かった SK683 と SK706 を検討し、数珠の構成を検討してみる。まず SK683 は、36 顆中ガラス製の玉(B1 ii)が15顆、木製の玉(B2 v)が17顆出土しており、この他に B2 vi とした玉が3顆、破損して形状が分からない玉が1顆みられる。相対的に多い B1 ii (ガラス製) と B2 v (木製) の玉は、材質は異なるものの小型で略球形を呈する点で共通する。このことからガラス製と木製の2つの数珠なのか、ガラスと木の成珠を交互に配した1つの数珠なのかといった可能性が考えられる。溶着した18は糸で繋がっていた本来の状態を示していると考えられ、その溶着部分に木片などの炭化物がみられないため、ここでは2つの数珠の可能性を指摘しておきたい。次に SK706 では、58 顆中、木製の母珠 (A2 iv) が2顆、木製の扁平な玉 (B2 ii) が55顆、透明なガラス製の玉(B1 i)が1顆出土している。B2 ii は出土量からみて成珠であると思われる。また B1 i は透明なガラス製で、1点のみ出土していることから浄明珠、四天珠や記子といった成珠以外の玉の可能性が高い。玉の総数は他の遺構と比べて多いため、複数の数珠が結果として1つの遺構から出土している可能性も考えられるが、68～70 など同形の玉が溶着している状況や多くの種類の玉が混在していないなどの状況から、1つの数珠であったものと考えたい。重複する SK707 から出土している5顆の玉が SK706 のものと共通点が多いため、本来 SK706 のものであった可能性がある。

数珠のような微細な遺物は、現地調査ではなかなか認識できず、回収方法については今回のような水洗選別によることが主となってしまいうため、同じ数珠であったかどうか分からない。今回の調査で出土した数珠をみてる

第 18 表 遺構毎の数珠集計表

区	出土位置		分類	分類毎の総数
	遺構名	合計		
1	SK540	16	B2iv	13
			B2v	1
			B2vi	2
	SK682	12	A1ii	1
			B1ii	1
			B2iii	9
			B2vi	1
	SK683	36	B1ii	15※
			B2v	17
			B2vi	3
	SK686	2	B2v	1
			B2viii	1
SK706	58	A2iv	2	
		B1i	1	
SK707	5	B1i	1	
		B2ii	1	
		B2v	2	
		B2viii	1	
2	SK483	7	B2i	7
	SK557	2	B2vii	2
合計		138		

※ 溶着した珠は1顆ずつカウントした
 ※ アミは遺構内で最も多い珠
 (5顆以上出土遺構を対象)

と遺構単位で概ね形状が共通するため、同じ数珠であった可能性は高い。ただし、SK683 などでは形状は共通するものの、素材ではガラス製や木製といった相違があり、元々1つのものなのか、2つあったのか、などの疑問が残る。今後の課題として、今回の調査事例を踏まえ、出土状況などの把握ができるような慎重な調査が求められることを望まれよう。

第3節 細池寺道上遺跡の様相（第63～65図）

A 古代における細池寺道上遺跡の様相

古代では、遺構や遺物のごく僅かであった。遺構では1区の旧河道（NR500・814）の2基のみで、2区では確認できなかった。包含層から出土した当該期遺物の分布をみると、1区では調査区の東～南にかけて3地点あり、いずれも総重量100g以下である（図版182・183）。2区では空白地帯の調査区中央を境に、東側では1区同様に総重量100g以下の小片が散漫に分布する。一方、中央部よりも南西側になると総重量100g以上の地点を含むいくつか集中箇所が分布する。前節Aでも触れたように、隣接する第46次調査では調査区の東～南側にかけて遺物集中地点が数箇所確認されている。両地点の距離は50mほどと比較的近いことから、同じ分布域にあるものと推察される。本調査地点から約250m西に位置する第44次調査地点では、カマド状遺構をもつ集落が確認されている〔立木・奈良ほか2017〕。それよりも東の阿賀野川に向かうにつれて当該期遺構や分布や遺物集中は局所的になる様子が第46次調査の調査結果から窺える〔立木・奈良ほか2018〕。遺物が集中する箇所としない箇所とに分けた場合、2区東側の遺物分布の状況などは本来集中していたものが、中世～近世によって破壊された結果として考えた方が合理的であると考え。本遺跡周辺や同じような沖積地に立地をする遺跡の調査成果をまち、今後検討されることを期待したい。

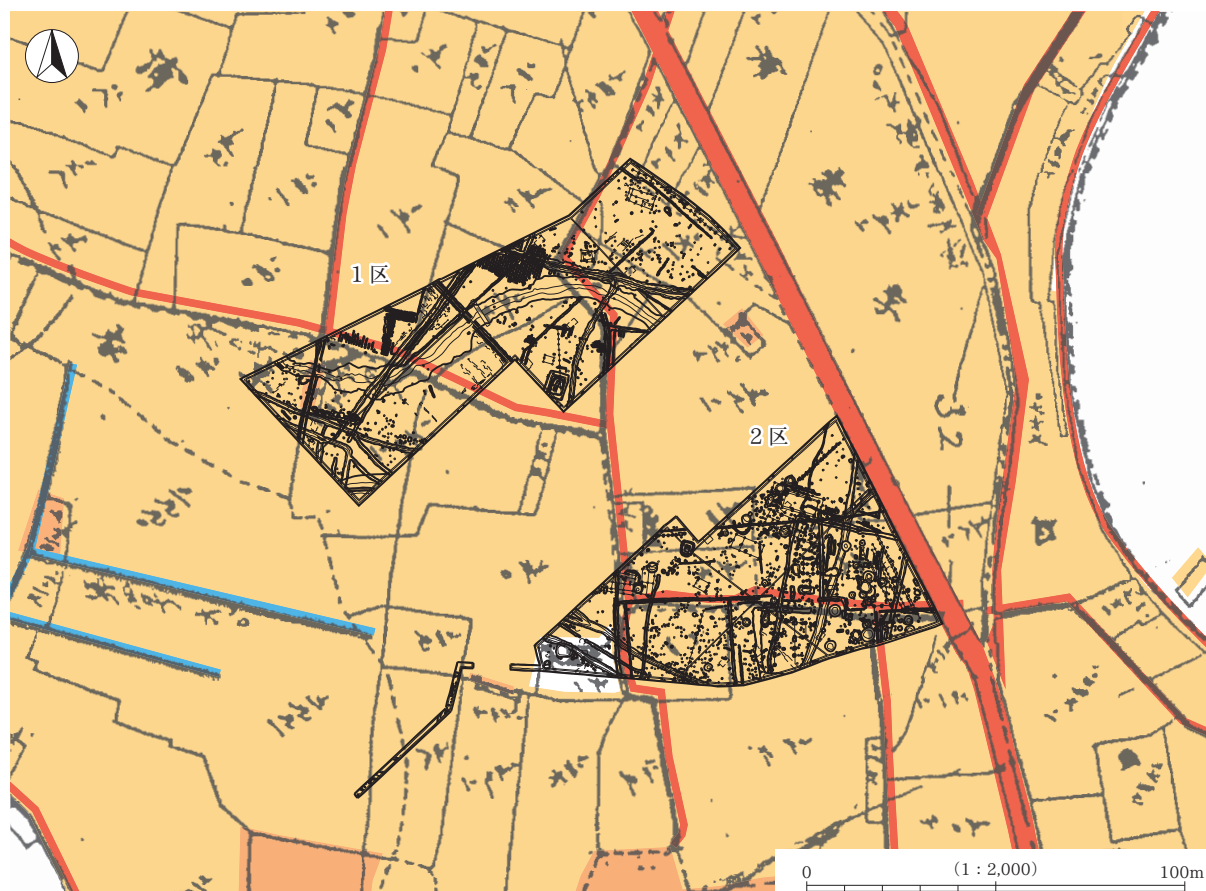
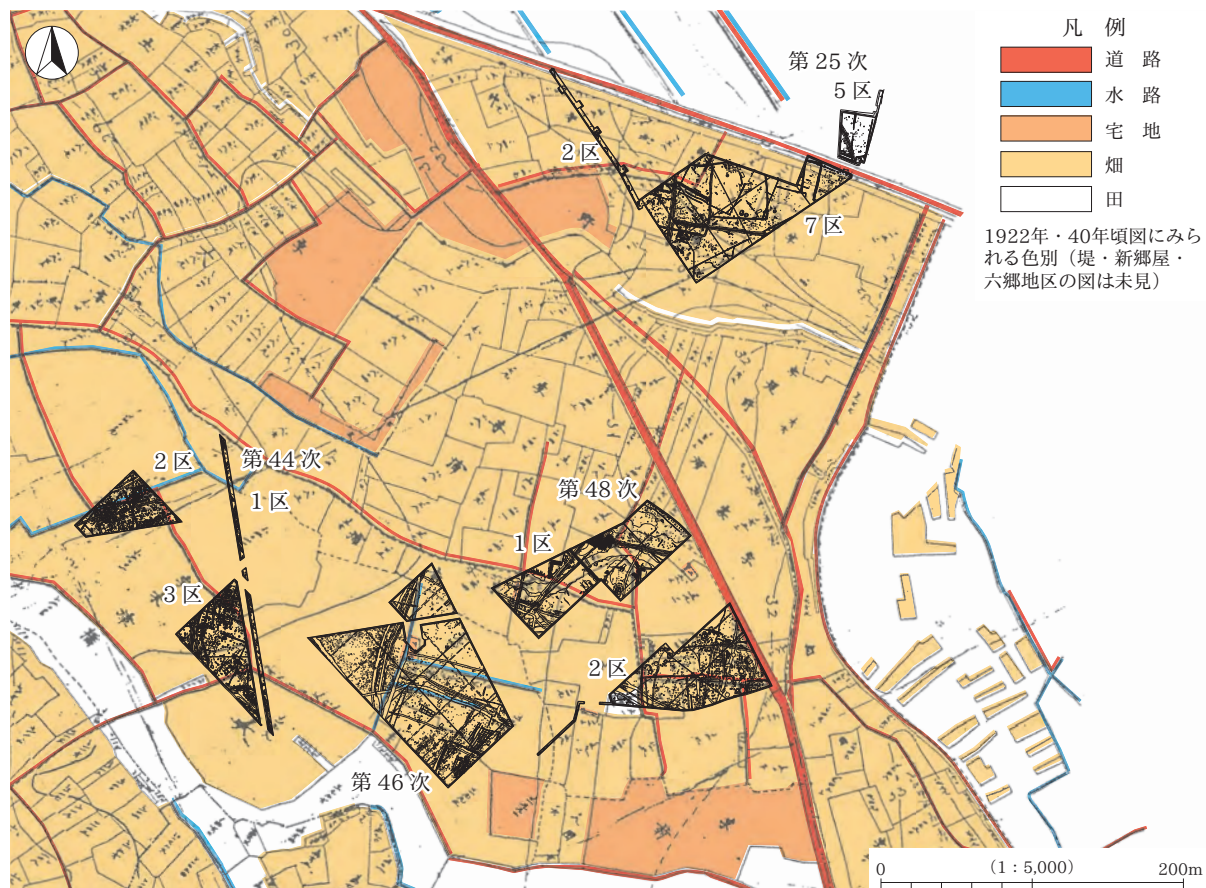
B 中世における細池寺道上遺跡の様相

中世では、井戸・土坑・溝・方形区画墓・掘立柱建物・畑・道路状遺構などを検出した。遺構総数は282基を数える。このうち1区では、掘立柱建物2棟、井戸1基、道路状遺構3条、溝20条で、大半の遺構は2区に位置する。主要遺構である掘立柱建物の位置をみると、1区では調査区北と南側、2区では検出された10棟全てが調査区中央に集中する。本章第1節でも触れたように、建物は区画溝による制約を受けているようで整然と配置される。井戸は建物とセット関係にあり、第25次調査や第46次調査でも同様な状況が確認されている〔潮田2014、立木・奈良ほか2018〕。この他、特筆される遺構として方形区画墓がある。遺構の特徴は方形の区画溝で囲まれた中央に隅丸長方形を呈する主体部をもつ。後世の水田耕作による削平のため、墳丘の有無は確認できなかった。同遺構は2基確認されており、1区調査区の中央南側と2区調査区中央北側にあるため、調査区外となった1～2区の間にも同様な遺構が分布しているものと想定される。同遺構の主体部からは、青白磁合子（13・14）や烏帽子（1）が出土しているため、被葬者はある程度の身分にある人物であった可能性が高い。

出土した珠洲焼は12世紀後半～15世紀のものがみられる。特に13世紀代の出土量が卓越するため、掘立柱建物群の時期として捉えられよう。方形区画墓（SZ865）から出土した青白磁合子についても12世紀後半～13世紀前半頃のものである可能性が高いことから、墓と掘立柱建物は同時期のものとして考える。本遺跡を含む周辺では当該期集落の様相がよくわかっていない。今後の周辺調査の進展により、当該期の集落の様相が明らかにされることに期待したい。

C 近世における細池寺道上遺跡の様相

近世では、井戸や土坑、性格不明遺構、区画溝、掘立柱建物、柵、道路状遺構などが検出された。このうち柵については概ね近世以降から近代にかけてのもので、水田にかかわる稲架木と思われる（第65図）。柵以外の井

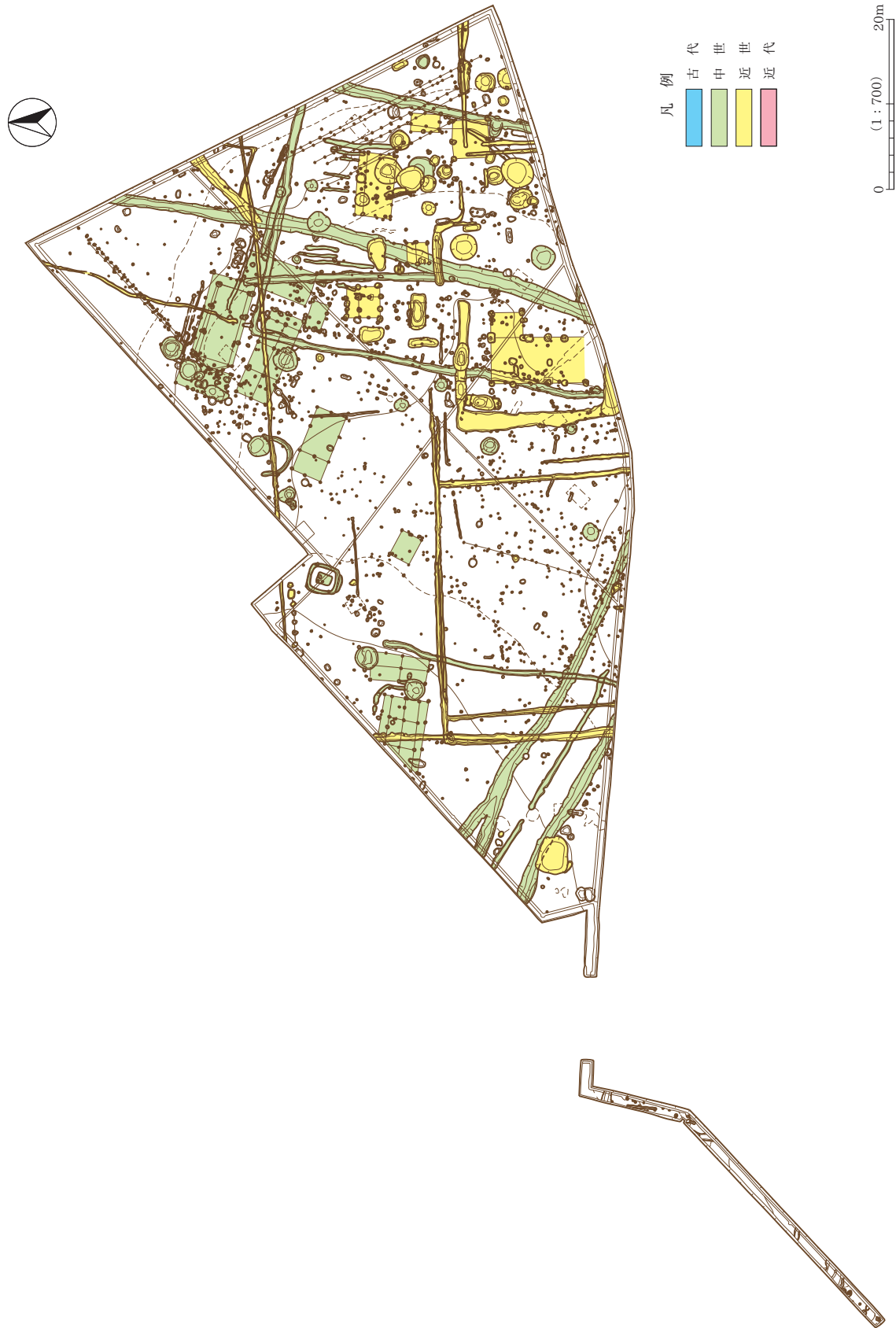


新津町外二ヶ村開田耕地整理組合現形図1922年に合成

第62図 1992年以前の現況図と発掘調査区



第63図 細池寺道上遺跡第48次調査 時代別遺構分布図(1区)



第64図 細池寺道上遺跡第48次調査 時代別遺構分布図(2区)

戸や土坑、区画溝などは掘立柱建物と有機的な関係にあり屋敷地を構成し、また道路状遺構は区画溝と併せ、それら屋敷地の地割にかかわる。屋敷の年代は出土した遺物から17世紀後半～18世紀初頭と考える。隣接する第46次調査でも同様の遺構が確認されており、出土遺物の様相や遺構の主軸方位など多くの点で共通する。屋敷地は主に2区の南半に集中しており、一方1区では建物はみられず畑や人骨を伴う土壌が複数基検出された。土壌は棺桶が埋設されており、焼けた数珠などが出土する。出土した遺物は2区と同様の時期であるため、村の墓域と思われる。なお、数珠の出土は新潟市では初出となる。

出土した遺物は肥前陶磁器が多く、時期は17世紀後半～18世紀初頭が半数以上を占める。次いで18世紀後半～19世紀代、17世紀初頭～17世紀前半のものがみられる。最も出土量が多い17世紀後半～18世紀初頭については、第46次調査でも一番多く出土しているため同様の結果であった〔立木・奈良ほか2018〕。なお、この頃に上金沢村は沢海藩から幕府領となる〔小村1987〕。

自然科学分析では、井戸(SE709)や畑(SD127・133(SN874))からイネ科の植物が検出されたため、調査区周辺では水田が営まれていたことが植物珪酸体や花粉分析の結果から分かった。また周辺にはスギ林が広がっていたようで上金沢村周辺の景観が窺える。この他にイネ・アワ・オオムギ・コムギといった穀物やマクワウリ・シロウリ・アサ・ソバなどの植物が栽培されていたことが、種実同定結果で判明したが、文献では上述した作物を栽培していた記録はみられないため、村内で自給する程度のものであったと思われる。

以上のように、17世紀後半～18世紀前半の頃の上金沢村の様相が判明した。この他に出土した遺物の中には、202(SE351)、338(Pit639)、402・404・405・408・409(SD940)といった17世紀初頭～前半のものが含まれる。これらは近世金沢村開発時期を示すものとして注目される。今後の周辺調査の進展により、近世初頭の様相が明らかにされることに期待したい。また、2区SX1131出土の多量の陶磁器の中に幕末以降五泉市域で生産された村松焼の製品が確認できたほか、産地不明の手のこんだ作りの瓦質火鉢の存在など、幕末～明治期の様相を知る手がかりが得られた(第66図)。



第48次調査 SA1999～2004



現在の稲架木(新潟市秋葉区金津地内)

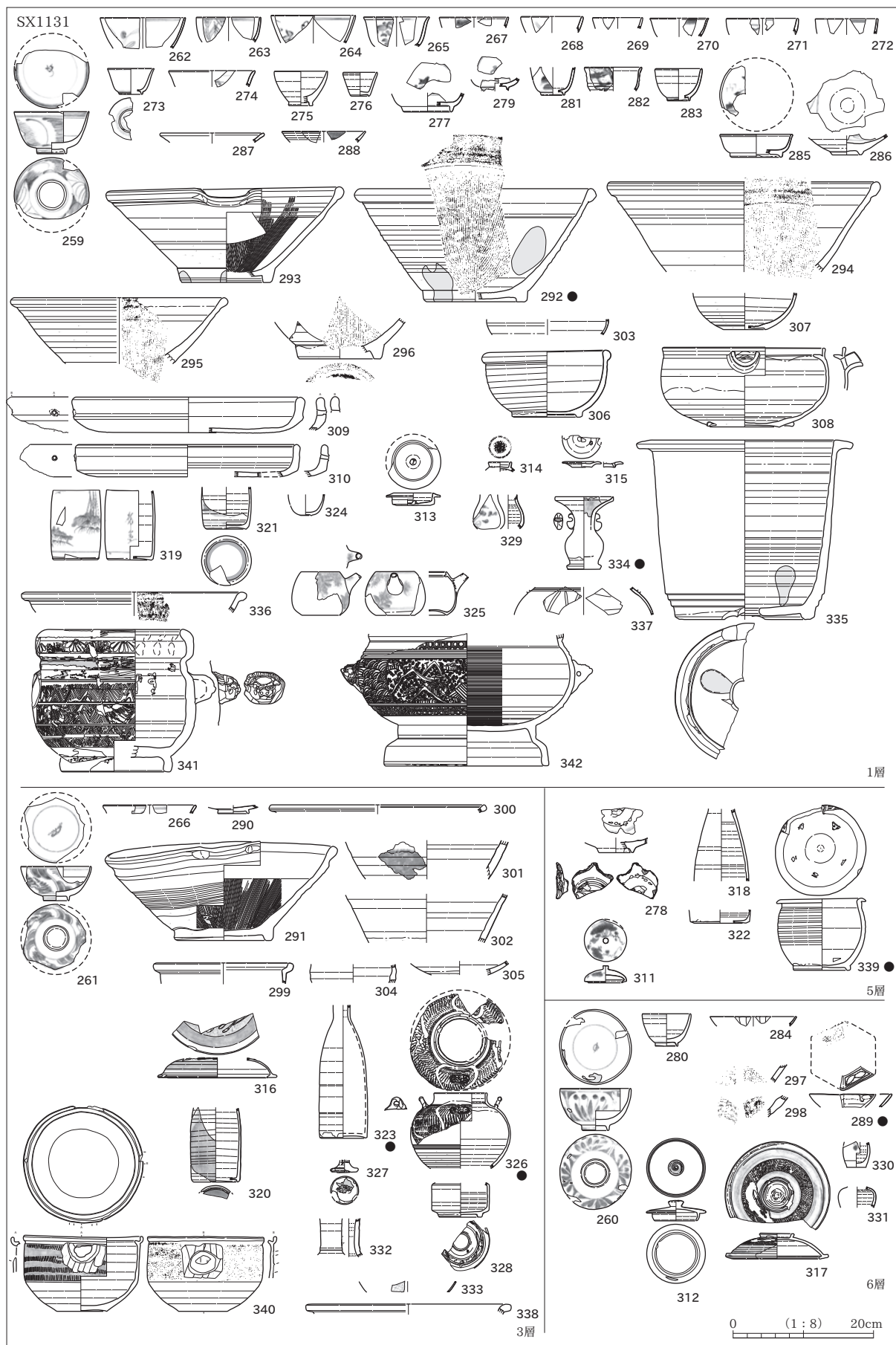


第46次調査 SA3608



現在の稲架木(新潟市秋葉区満願寺地内)

第65図 細池寺道上遺跡で検出された稲架木跡と現在の稲架木



第66図 細池寺道上遺跡2区SX1131出土の村松焼 ※村松焼の可能性のあるものに●を付した。

引用・参考文献

- ア 相田泰臣・前山精明 2003 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳 - 2002 年度確認調査の概要 -』 巻町教育委員会
相田泰臣・前山精明 2005 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳Ⅱ - 2003 年度確認調査の概要 -』 巻町教育委員会
相田泰臣ほか 2012 『林付遺跡 第 2 次調査 - 新潟市立潟東南小学校校体育館建設に伴う林付遺跡第 2 次発掘調査報告書 -』 新潟市教育委員会
相田泰臣・渡邊朋和ほか 2014 『史跡 古津八幡山遺跡発掘調査報告書 - 第 15・16・17・18・19 次調査 -』 新潟市教育委員会
相田泰臣・金田拓也・八藤後智人ほか 2015 『大沢谷内遺跡Ⅳ 第 19・20・21 次調査 - 一般国道 403 号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第 12・13・14 次調査 -』 新潟市教育委員会
相羽重徳 2003 「越中瀬戸広口壺に関する粗描」『研究紀要』第 4 号 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
相羽重徳 2009 「新潟県内における近世骨蔵器の諸様相」『新潟県の考古学Ⅱ』 新潟県考古学会
相羽重徳 2011 「出土資料にみる近世会津藩領への陶磁器流通とその周辺」『三面川流域の考古学』第 9 号 奥三面を考える会
相羽重徳・渡邊大士ほか 2011 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 226 集 北陸新幹線関係発掘調査報告書XX 竹花遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
赤羽正春・高橋知之 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 62 集 横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
秋澤 傑 2015 「有明行灯の用と美」『民具マンスリー』第 48 巻 1 号 神奈川大学日本常民文化研究所
安芸鞠子 2001 「遊・玩具 1 やきもの製人形類」『図説江戸考古学研究事典』江戸遺跡研究会編 柏書房
秋山泰利 2016 『新潟県文化財調査報告書第 263 集 新町遺跡』 新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
朝岡政康 2008 『結七島遺跡Ⅳ 第 13・15・17 次調査 - 荻川駅東土地区画整理事業に伴う結七島遺跡第 7～9 次発掘調査報告書 -』 新潟市教育委員会
朝岡政康 2010a 『三王山遺跡Ⅱ 第 4・7 次調査 - 新潟市立亀田中学校校舎・体育館改築工事に伴う三王山遺跡第 2・4 次発掘調査報告書 -』 新潟市教育委員会
朝岡政康 2010b 「細池寺道上遺跡」『平成 21 年度 新潟市遺跡発掘調査速報会 最新調査成果が語る新潟市の歴史』 新潟市埋蔵文化財センター
朝岡政康ほか 2009 『手代山北遺跡 第 2・3 次調査 - 市道亀田南線建設事業に伴う手代山北遺跡第 2・3 次発掘調査報告書 -』 新潟市教育委員会
朝岡政康・諫山えりか 2003 『東園遺跡 卸売市場建設に伴う市道東 8-273 建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
浅川滋男・箱崎和久 2001 『埋もれた中近世の住まい』 同成社
浅野晴樹 2001 「生活の諸相 6 武器と武具」『図解・日本の中世遺跡』 東京大学出版会
甘粕 健・小野 昭ほか 1993 『越後山谷古墳』 巻町教育委員会・新潟大学考古学研究室
甘粕 健・川村浩司ほか 1992 『古津八幡山古墳Ⅰ 1991 年測量調査報告書』 新津市教育委員会
甘粕 健・古川知明ほか 1981 『大沢遺跡 B'・B 地区の調査概報』 巻町・潟東村教育委員会
荒川隆史 2016 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 262 集 一般国道 49 号線 阿賀野バイパス関連発掘調査報告書 IX 境塚遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
荒川隆史・加藤 学ほか 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 93 集 和泉 A 遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
荒川隆史ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 153 集 一般国道 49 号 安田バイパス関係発掘調査報告書 大坪遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
荒谷伸郎ほか 2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 215 集 一般国道 49 号 阿賀野バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ 山口遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
イ 飯坂盛泰・金内 元・荒川隆史ほか 2018 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 278 集 一般国道 49 号線 阿賀野バイパス関連発掘調査報告書Ⅳ 境塚遺跡Ⅲ』 新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

- 家田順一郎 1987 『小丸山遺跡(小丸山遺跡緊急発掘調査報告書)』 横越村教育委員会
- 井汲隆史 1991 「第3節 副葬品と信仰具」『發昌寺 一社団法人金融財政事情研究会新館建設に伴う第2次緊急発掘調査報告書一』 新宿区南元町遺跡調査会
- 諫山えりか 2004 『新潟市山木戸遺跡 マンション等建設予定地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 諫山えりか 2007 『居屋敷跡遺跡 第3次調査 一県営地盤沈下対策事業新潟南部5期地区沢海揚水機場建設事業に伴う居屋敷跡遺跡第3次発掘調査報告書一』 新潟市教育委員会
- 諫山えりか 2009 『中田遺跡 第2次調査 一市道荻川新津線道路改良事業に伴う中田遺跡第2次発掘調査報告書一』 新潟市教育委員会
- 石垣義則 2012 「中世の火葬土坑について 一新潟県及び東北地方を中心に」『新潟考古』第23号 新潟県考古学会
- 石川智紀ほか 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第58集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅰ(A地区)』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川智紀ほか 2014 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第246集 一般国道8号 柏崎バイパス関係発掘調査報告書Ⅶ 剣野沢遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川日出志ほか 1992 『新潟県安田町文化財調査報告12 六野瀬遺跡1990年調査報告書 立川ブラインド工業株式会社東日本工場増設に伴う新潟県北蒲原郡安田町六野瀬遺跡発掘調査報告書』 安田町教育委員会
- 石田守之・高橋明公子ほか 2009 『聖籠町文化財調査報告書 第4集 携帯電話基地建設に伴う発掘調査報告書 金港遺跡』 新潟県聖籠町教育委員会
- 石田守之・渡辺明公子ほか 2013 『聖籠町文化財調査報告書 第5集 弁天瀧風致公園周辺整備事業に伴う発掘調査報告書 蓮野Ⅰ遺跡 瀧尻遺跡』 新潟県聖籠町教育委員会
- 伊東 崇 1998 『松山窯跡 新潟県北蒲原郡黒川村大字塩沢地内における古代窯跡の発掘調査報告書』 黒川村教育委員会
- 伊藤秀和 2001 『鬼倉遺跡 一国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書一』 加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2005 『馬越遺跡 一国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書一』 加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2012 「馬越遺跡出土の武蔵型甕について 一一点の甕形土器の覚書一」『加茂郷土史』第34号 加茂郷土調査研究会
- 伊藤秀和 2015 「加茂市の古代消費遺跡出土須恵器のロクロ回転方向について 一鬼倉遺跡出土須恵器の再検討を中心に一」『加茂郷土誌』第36号 加茂郷土調査研究会
- 伊藤啓雄 2012 「北陸信越地域における近世六道銭 新潟県」『宮田進一氏追悼集』 出土銭貨研究会・北陸信越出土銭貨研究会
- 今井さやか 2008 『下大口遺跡 第2次調査 一宅地造成に伴う下大口遺跡第2次発掘調査報告書一』 新潟市教育委員会
- 今井さやか 2015 「Ⅱ2(11)近世新潟町跡 試掘・確認調査及び工事立会」『新潟市文化財センター年報』第2号 新潟市文化財センター
- 今井さやか 2016 「Ⅱ2(11)近世新潟町跡 第19～22次調査」『新潟市文化財センター年報』第3号 新潟市文化財センター
- 今井さやか 2017 「Ⅱ2(7)近世新潟町跡 第23・24・27次調査」『新潟市文化財センター年報』第4号 新潟市文化財センター
- 今井さやかほか 2007 『日水遺跡 第3次調査 一鍋田土地区画整理事業に伴う日水遺跡発掘調査報告書一』 新潟市教育委員会
- ウ 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会
- 上野一久・春日真実 1997 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第87集 横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 植田 真・遠竹陽一郎ほか 2003 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新潟市教育委員会
- 上原甲子郎 1971 『上ノ原遺跡緊急調査事業調査報告書』 巻町・潟東村教育委員会
- 宇佐美亮・川村 尚ほか 2005 『小泊窯跡群Ⅰ』 佐渡市教育委員会
- 潮田憲幸 2008 『諏訪畑遺跡 第3次調査 一老人健康保険施設「秋葉の郷」建設にともなう発掘調査報告書一』 新潟市教育委員会

- 潮田憲幸 2014 『細池寺道上遺跡Ⅱ 第25次調査 一県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う第11次発掘調査報告書一』新潟市教育委員会
- 内堀信雄 1988 「須恵器甕に見られる叩き目文について」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 宇野隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集 国立歴史民俗博物館
- 海のシルクロードの出発点“福建”展開催実行委員会編 2008 『東アジアの海とシルクロードの拠点福建 一沈没船、貿易都市、陶磁器、茶文化一』
- エ 江口友子 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第102集 国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書Ⅳ 川根谷内墓所遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 江口友子ほか 2000 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第100集 北陸自動車道黒崎パーキングエリア改良工事関係発掘調査報告書 釈迦堂遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 江戸遺跡研究会編 2001 『図説 江戸考古学研究事典』柏書房
- 遠藤恭雄 2004 『下前川原遺跡 新潟県豊栄市下前川原遺跡発掘調査報告書』豊栄市教育委員会
- 遠藤恭雄 2011 「細池寺道上遺跡」『平成22年度 新潟市遺跡発掘調査速報会 最新調査成果が語る新潟市の歴史』新潟市埋蔵文化財センター
- 遠藤恭雄・青木 誠ほか 2015 『細池寺道上遺跡Ⅳ 第43次調査 一市道大安寺第5号大関線改良工事に伴う発掘調査報告書一』新潟市教育委員会
- 遠藤恭雄・笹澤正史ほか 2015 『中谷内遺跡Ⅳ 第12・15・16次調査 内野遺跡Ⅱ 第8・9次調査 一県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う中谷内遺跡第3・5・6次、内野遺跡第3・4次発掘調査報告書一』新潟市教育委員会
- 遠藤恭雄・澤野慶子ほか 2014 『沖ノ羽遺跡Ⅴ 第18・19次調査 一県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第11・12次発掘調査報告書一』新潟市教育委員会
- 遠藤恭雄・澤野慶子ほか 2016 『沖ノ羽遺跡Ⅵ 第19・22・24次調査 一県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第12・15・17次発掘調査報告書一』新潟市教育委員会
- 遠藤恭雄・澤野慶子ほか 2018 『大沢谷内遺跡Ⅴ 第25次調査 一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第17次発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- オ 大橋康二 1989 『肥前陶磁』考古学ライブラリー55 ニューサイエンス社
- 大橋康二 1994 『古伊万里の文様 初期肥前磁器を中心に』理工学社
- 大橋康二ほか 1988 『古伊万里』別冊太陽 No.63 平凡社
- 大場磐雄 1966 「方形周溝墓」『日本の考古学』3月報所収 河出書房
- 大矢雅彦・加藤泰彦 1984 『阿賀野川水害地形分類図』建設省北陸地方建設局阿賀野川工事事務所
- 小熊博史 1994 「布目遺跡」『巻町史』資料編1 考古 巻町
- 岡崎譲治 1982 『仏具大辞典』鎌倉新書
- 尾崎高宏 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第107集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅱ 正尺A遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 尾崎高宏 2009 「新潟県における製塩関連遺跡」『平成21年度環日本海文化交流史調査研究会 日本海域の土器製塩 一その系譜と伝播を探る一 発表要旨・資料集』財団法人石川県埋蔵文化財センター
- 小田由美子ほか 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第99集 一般国道49号堀越歩道工事関係発掘調査報告書 堀越館跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小田由美子・高橋保雄ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第149集 上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅵ 滝寺古窯跡群 大貫古窯跡群』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小野 昭 1994a 「ケカチ堂遺跡」『巻町史』資料編1 考古 巻町
- 小野 昭 1994b 「新谷遺跡」『巻町史』資料編1 考古 巻町
- 小野 昭ほか 1982 『大沢遺跡Ⅱ 一第3次調査概報一』新潟大学考古学研究室
- 小野 昭・小熊博史 1987 「巻町布目遺跡の調査」『巻町史研究』3号 巻町
- 小野 昭・前山精明ほか 1988 「巻町豊原遺跡の調査」『巻町史研究』4号 巻町
- 小野 昭・前山精明 1994 「豊原遺跡」『巻町史』資料編1 考古 巻町
- 小村 弼ほか 1987 『新津市史』資料編第二巻 近世一 新津市
- 小村 弼ほか 1990 『新津市史』資料編第三巻 近世二 新津市

- 小村 弌・田村順三郎 1979 『新津市誌 金津・小合・新関地区編』 新津市役所・新津市図書館
- カ 柿田祐二 2001 「須恵器甕の叩き目から」『北陸古代土器研究』第9号 北陸古代土器研究会
- 勝田 至 2012 『日本葬制史』 吉川弘文館
- 柏崎市史編さん委員会 1987 『柏崎市史』資料集 考古篇1 柏崎市
- 春日真実 1991 「古代佐渡小泊窯における須恵器の生産と流通」『新潟考古学談話会会報』第8号 新潟考古学談話会
- 春日真実 1994 「第VI章 まとめ 2 古墳時代後期の土器」『新潟県文化財調査報告書 第60集 北陸自動車道上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之口遺跡東地区』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1995 「越後・佐渡における8世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第5号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1997 「越後・佐渡における9世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第6号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1999 「第4章 古代 第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院
- 春日真実 2003a 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第123集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅲ (C地区)』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2003b 「消費遺跡出土佐渡小泊産須恵器のロクロ回転方向 一越後出土の資料を中心に一」『研究紀要』第4号 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2005 「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について 一「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三賀編年」の検討を中心に一」『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- 春日真実 2007 「越後における古代の煮炊具について」『新潟考古』第18号 新潟県考古学会
- 春日真実 2009 「越後における古代掘立柱建物」『新潟県の考古学Ⅱ』新潟県考古学会
- 春日真実 2010 「貞観五年の地震痕跡再考」『三面川流域の考古学』第8号 奥三面を考える会
- 春日真実 2014 「古代集落の動態 一越後を事例として一」『新潟考古学談話会発表要旨』新潟考古学談話会
- 春日真実 2015 「土器・陶磁器の機能別比率 一越後の古墳時代 ～古代を中心に一」『研究紀要』第8号 公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第76集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 江内遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第104集 国道116号埋蔵文化財発掘調査報告書 梯子谷窯跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 2004 『越後阿賀北地域の古代土器様相』新潟古代土器研究会
- 春日真実ほか 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第202集 一般国道8号糸魚川東バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 六反田南遺跡・前波南遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第228集 一般国道8号糸魚川東バイパス関係発掘調査報告書Ⅶ 北陸新幹線関係発掘調査報告書XXⅡ 山岸遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実・笹澤正史 1999 「越後・佐渡の様相」『北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会
- 片桐道宇編 1918 「新津町誌」『中蒲原郡誌』上編 新潟県中蒲原郡役所
- 加藤 学ほか 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第106集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅰ 松影A遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学ほか 2013 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第237集 一般国道49号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書Ⅵ 柄目木遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 「角川日本地名大辞典」編纂委員会・竹内理三 1989 『角川日本地名大辞典 15 新潟県』角川書店
- 金内 元ほか 2011 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第222集 一般国道49号線揚川改良関係発掘調査報告書Ⅳ 向大浦遺跡 上空野中丸遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 金子拓男 1965 「新潟県柏崎市軽井川の経塚」『越佐研究』第22号 新潟県人文研究会
- 金子拓男 1974 「第V章 考察 第2節 川治百塚と第6号塚の性格」『北陸北線 埋蔵文化財発掘調査報告書』埋蔵文化財緊急調査報告書第2号 新潟県教育委員会
- 金子拓男 1987 「古代における信濃川・阿賀野川の河口と流路について」『研究集録』第15号 新潟県立新潟江南高等学校
- 金子拓男ほか 1983 『緒立遺跡発掘調査報告書』黒埼町教育委員会

- 金田拓也・早田 勉 2017 『舟戸遺跡Ⅱ 第25次調査 一宅地造成工事に伴う舟戸遺跡第2次発掘調査報告書一』 新潟市教育委員会
- 鐘方正樹 2003 『井戸の考古学』 同成社
- 鴨井幸彦・田中里志・安井 賢 2006 「新潟平野における砂丘列の形成年代と発達史」『第四紀研究』第45巻 第2号 日本第四紀学会
- 川上貞雄 1979 『安田町文化財調査報告(4) 上野林丘陵埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 横峯経塚群』 安田町教育委員会
- 川上貞雄 1981 『山崎須恵窯跡』 五泉市教育委員会
- 川上貞雄 1982 『中の山遺跡発掘調査報告書』 亀田町教育委員会
- 川上貞雄 1983 『五泉市文化財報告(3) 馬下稲場遺跡 発掘調査報告書』 五泉市教育委員会
- 川上貞雄 1992 『川口甲遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1993 『横越村文化財調査報告2 山ノ家遺跡緊急発掘調査報告書』 横越村教育委員会
- 川上貞雄 1994 『八幡山遺跡Ⅰ 遺構編』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1995 『舟戸遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996a 『金津丘陵製鉄遺跡群 居村B・D地区』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996b 『荒木前遺跡第2次調査 新潟県中蒲原郡亀田町・荒木前遺跡発掘調査報告書』 亀田町教育委員会
- 川上貞雄 1997 『上浦A遺跡 新津市工業団地第2期工事地内発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄ほか 1981 『安田町文化財調査報告(5) 上野林丘陵埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 横峯A遺跡 横峯B遺跡』 安田町教育委員会
- 川上貞雄・遠藤孝司 1983 『平遺跡緊急発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄・木村宗文・鈴木郁夫 1989 『新津市史』資料編 第1巻 原始・古代・中世 新津市
- 川上貞雄・中山俊道 2002 『笹神村文化財調査報告13 主要地方道新潟五泉間瀬線地方特定道路整備費(改築)工事 折居川災害復旧助成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 腰廻遺跡』 笹神村教育委員会
- 河野真知郎 2000 「中世前期の戦争と考古学」『考古学による日本歴史6 戦争』 雄山閣
- 川畑 誠 1996 「北陸地方の木製食器の概要」『第39回 埋蔵文化財研究会 古代の木製食器 第Ⅰ分冊 発表要旨』 埋蔵文化財研究会第39回研究会実行委員会
- 川村 尚・鹿取 渉ほか 2010 『佐渡市内遺跡発掘調査報告Ⅱ 平成19・20年度の調査 佐渡金銀山遺跡の調査 小泊窯跡群の調査』 佐渡市教育委員会
- キ 北野博司 1999 「須恵器貯蔵具の器種分類案」『北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会
- 北村 淳・菊池康一郎ほか 2004 『中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 橘田正徳 2004 「中世前期の墓制 一墓地・屋敷墓からみた中世前期の家・集落・社会一」『大谷女子大学文化財学 科公開講座 考古学の語る「中世墓地物語」』 大谷女子大学
- 木下光生 2012 「四 近世の葬送と墓制」『日本葬制史』 吉川弘文館
- 木村宗文 1989 「資料解説 古代越後国と蒲原郡」『新津市史』資料編 第1巻 原始・古代・中世 新津市
- 木村宗文 1993 「初期荘園の成立」『新津市史』通史編 上巻 新津市
- 九州近世陶磁学会編 2000 『九州陶磁の編年 一九州近世陶磁学会10周年記念一』
- ク 桑原 孝 1988 「第2節 交通の発達」『新潟県史』通史編4 近世二 新潟県
- コ 小池邦明・藤塚 明 1993 『新潟市の場遺跡 的場土地区画整理事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池邦明・本間桂吉 1995 『新潟市小丸山遺跡 直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池義人 1999 「第4章 古代 第4節 生産と流通 第1項 水田遺構」『新潟県の考古学』 高志書院
- 小池義人ほか 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第59集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 細池遺跡 寺道上遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小池義人・野水 仁 2000 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第96集 上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅶ 裏山遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小出義治 1978 『小栗山不動院裏山経塚群』 見附市教育委員会
- 小林 等・石田明夫 2000 「会津のやきもの 須恵器から陶磁器まで」『会津若松市史』14 文化編1 陶磁器 会津若松市
- 小林 存 1952 『新津市誌』 新津市
- 駒形敏朗・寺崎裕助 1981 『埋蔵文化財発掘調査報告書 岩野原遺跡』 長岡市教育委員会

- 小松 彰^{ほか} 1995 『新潟県歴史の道調査報告書 第八集 三国街道（中通り）』 新潟県教育委員会
- 小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版標準土色帖』 農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修
- サ 斎藤義信 1986 『新津市』 日本歴史地名大系 15 新潟県 平凡社
- 酒井和男 1980 『三王山遺跡』 亀田町教育委員会
- 酒井和男 1988 『原始・古代』 『亀田の歴史』 通史編 上巻 亀田町
- 酒井和男 2000a 『小丸山遺跡』 『横越町史』 資料編 横越町
- 酒井和男 2000b 『山ノ家遺跡』 『横越町史』 資料編 横越町
- 酒井和男 2003 『第1章 原始』 『横越町史 通史編』 横越町
- 酒井和男^{ほか} 1987 『大江山地区の遺跡』 新潟市教育委員会
- 酒井和男・廣野耕造 2002 「新潟砂丘における居住の初源」 『新潟考古』 第13号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥 1988a 「越後・佐渡における古代土器の生産と流通 - 8～10世紀を中心として -」 『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』 報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 坂井秀弥 1988b 「古代のごはんは蒸した『飯』であった」 『新潟考古学談話会会報』 第2号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1989a 「第七章 まとめ 2 奈良・平安時代の土器」 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第53集 新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥 1989b 「北陸型土師器長甕の製作技法」 『新潟考古学談話会会報』 第3号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1990a 「山三賀Ⅱ遺跡からみた阿賀北地方の古代土器」 『新潟考古学談話会会報』 第4号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1990b 「古代ロクロ土師器甕の二系譜と須恵器との関係」 『新潟考古学談話会会報』 第6号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1990c 「新潟県三島郡与板町の製鉄遺跡」 『新潟考古』 第1号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥 1994 「庁と館、集落と屋敷 - 東国古代遺跡における館の形成 -」 『城と館を掘る・読む - 古代から中世へ -』 山川出版社
- 坂井秀弥 1996 「水辺の古代官衛遺跡 越後平野の内水面・舟運・漁業」 『越と古代の北陸』 名著出版
- 坂井秀弥 1999 「第四章 古代 第1節 総論」 『新潟県の考古学』 高志書院
- 坂井秀弥 2013 「I 原始・古代の人々の暮らしと環境 4 地域社会の環境・交通・開発 - 越後平野を例に -」 『環境の日本史2 古代の暮らしと祈り』 吉川弘文館
- 坂井秀弥^{ほか} 1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第35集 上新バイパス関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥^{ほか} 1987 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第48集 国道116号 埋蔵文化財調査報告書 三島郡出雲崎町番場遺跡』 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥^{ほか} 1989a 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第53集 新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991 「佐渡の須恵器」 『新潟考古』 第2号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥・高橋 保 1994 「新潟県」 『日本土器製塩の研究』 青木書店
- 坂上有紀 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第118集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 狭川真一 2007 『墓と葬送の中世』 高志書院
- 笹澤正史 2001 「須恵器瓶類の口縁頸部接合痕跡」 『北陸古代土器研究』 第9号 北陸古代土器研究会
- 佐藤友子^{ほか} 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第187集 一般国道7号万代橋下流橋関係発掘調査報告書 近世新潟町跡（広小路掘地点）』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 佐藤友子^{ほか} 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第238集 一般国道8号白根バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ 小坂居付遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鯖田豊之 1990 『火葬の文化』 新潮社
- シ 上越市史専門委員会考古部会 2002 『上越市史叢書8 考古 - 中・近世資料 -』 上越市
- 新谷尚紀・関沢まゆみ 2005 『民俗小事典 死と葬送』 吉川弘文館
- 品田高志 1990 「柏崎市域における塚（群）研究の歩み～現在の視点からみた発掘調査事例の検討～」 『柏崎市立科学博物館 館報』 No.5 柏崎市立博物館

- 品田高志 1994a 「越後における中世の墳墓と墓地 ―墳墓と墓地の類型と消長を中心として―」『柏崎市立博物館 館報』No.9 柏崎市立博物館
- 品田高志 1994b 「方形区画溝遺構と方形基壇墓 ―中世越後における一つの集団墓形態―」『新潟考古学談話会会報』第14号 新潟考古学談話会
- 品田高志 1994c 「越後の中世墳墓・墓地」『第7回北陸中世土器研究会 中世北陸の寺院と墓』北陸中世土器研究会
- ス 鈴木一有 2013 「伊場遺跡群における古代祭祀の変遷」『古代文化』第65巻第3号 公益財団法人古代学協会
- 鈴木公雄 1999 『出土銭貨の研究』東京大学出版会
- 鈴木俊成 2014 「上道下西遺跡の水田肥料痕跡について」『新潟県立歴史博物館紀要』第15号 新潟県立歴史博物館
- 鈴木俊成ほか 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第231集 北陸自動車道栄スマートインターチェンジ関係発掘調査報告書 上道下西遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 須藤 聡 2010 「鎌倉期里見一族の動向と平賀一族」『群馬歴史民俗』31号 群馬歴史民俗学会
- セ 関 雅之 1990 「古代細型管状土錘考」『北越考古学』第3号 北越考古学研究会
- 関 雅之ほか 1980 『鳥屋遺跡Ⅰ』豊栄市教育委員会
- 関 雅之ほか 1988 『豊栄市史』資料編1 考古 豊栄市
- タ 大安寺村誌編纂委員会 2007 『大安寺村誌 平成からの伝言』新潟市秋葉区大安寺自治会
- 高野裕子・渡邊朋和 2003 『川口乙遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 高橋 保 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第150集 上信越自動車道関係発掘調査報告書XVII 海道遺跡・大塚遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋 保 2006 「第VII章まとめ 1 遺構の配置」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第157集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XIII 住吉遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋保雄 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第160集 一般国道49号揚川改良関係発掘調査報告書Ⅰ 上野東遺跡 現明嶽遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋保雄ほか 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第141集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 北野遺跡Ⅱ（上層）』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋保雄ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第172集 一般国道49号安田バイパス関係発掘調査報告書 鴨深甲遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋保雄ほか 2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第210集 北陸新幹線関係発掘調査報告書XV 荒町南新田遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋保雄・荒谷伸郎 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第119集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 北野遺跡Ⅰ（下層）』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高濱信行・卜部厚志・寺崎裕助 2000 「排水機場遺跡」『味方村史』味方村
- 滝沢規朗 1995 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第68集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 大坂上道遺跡 猿額遺跡 中棚遺跡 牧ノ沢遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 田口昭二 1983 『美濃焼』考古学ライブラリー17 ニューサイエンス社
- 田口昭二 1993 「美濃窯の焼物」『多治見の古窯』第3号 多治見市教育委員会
- 田嶋明人 1986 「考察 ―漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター
- 田嶋明人 1988 「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 龍田優子 2018 『道上遺跡 第6次調査 下久保遺跡 第3次調査 ―県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う道上遺跡第6次、下久保遺跡第3次発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 龍田優子ほか 2012 『結七島遺跡Ⅵ 第24次調査 ―宅地造成に伴う結七島遺跡第2次発掘調査報告書―』新潟市教育委員会
- 龍田優子ほか 2015 『下新田遺跡 第6・8・9次調査 ―県営ほ場整備事業（経営体育成基盤整備型）道上地区に伴う第3・5・6次発掘調査報告書―』新潟市教育委員会
- 龍田優子ほか 2018 『笹木遺跡 第3次調査 主要地方道新潟中央環状線横越バイパス道路整備事業に伴う笹木遺跡第3次発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 田中一廣・丹下昌之ほか 2004 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅲ』新潟市教育委員会
- 田中耕作・鶴巻康志ほか 1990 『三光館跡・宝積寺館跡 新潟県営ほ場整備事業（新発田市上三光地区）に伴う遺跡発掘調査報告Ⅱ』新発田市教育委員会

- 田中耕作・伊藤喜代子ほか 1998 『大真木遺跡発掘調査報告書 県営かんがい排水（排水対策特別）事業五十公野地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 田中 靖・桑原陽一 1994 『和島村埋蔵文化財調査報告書 第3集 八幡林遺跡』 和島村教育委員会
- 田中 靖 1996 『和島村埋蔵文化財調査報告書 第5集 県営圃場整備事業（桐原地区）に伴う埋蔵文化財調査報告書 門新遺跡 外割田地区』 和島村教育委員会
- 田中 靖ほか 1995 『門新遺跡』 和島村教育委員会
- チ 中世墓資料集成研究会編 2004 『中世墓資料集成 ー東北編ー』 中世墓資料集成研究会
- 中世墓資料集成研究会編 2005a 『中世墓資料集成 ー関東編（1）ー』 中世墓資料集成研究会
- 中世墓資料集成研究会編 2005b 『中世墓資料集成 ー関東編（2）ー』 中世墓資料集成研究会
- 中世墓資料集成研究会編 2006 『中世墓資料集成 ー北陸編ー』 中世墓資料集成研究会
- 中世墓資料集成研究会編 2007 『中世墓資料集成 ー補遺編（1・2）ー』 中世墓資料集成研究会
- ツ 立木宏明 2014a 「細池寺道上遺跡」『平成25年度 新潟市遺跡発掘調査報告会 ー最新調査成果が語る新潟市の歴史』 新潟市文化財センター
- 立木宏明 2014b 「Ⅱ2(3)細池寺道上遺跡第41次調査」『新潟市文化財センター年報』第1号 新潟市文化財センター
- 立木宏明 2014c 「細池寺道上遺跡の軽石製石製品について」『細池寺道上遺跡Ⅲ 第26次調査 ー県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う第12次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- 立木宏明 2015 「細池寺道上遺跡」『平成26年度新潟市遺跡発掘調査速報会 ー最新調査成果が語る新潟市の歴史ー』 新潟市文化財センター
- 立木宏明 2016 「細池寺道上遺跡 ー平安から江戸時代にいたる集落と道ー」『最新調査成果が語る新潟市の歴史 平成27年度新潟市遺跡発掘調査速報会』 新潟市文化財センター
- 立木宏明 2017a 「細池寺道上遺跡」『平成28年度新潟市遺跡発掘調査速報会 ー最新調査成果が語る新潟市の歴史ー』 新潟市文化財センター
- 立木宏明 2017b 「新潟市細池寺道上遺跡の発掘調査」『新潟県考古学会第29回大会研究発表会発表要旨』 新潟県考古学会
- 立木宏明 2017c 「石製品について」『細池寺道上遺跡Ⅵ 第44次調査 ー県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う細池寺道上遺跡第19次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- 立木宏明 2018 「細池寺道上遺跡」『平成29年度新潟市遺跡発掘調査速報会 ー最新調査成果が語る新潟市の歴史ー』 新潟市文化財センター
- 立木宏明 2019 「原遺跡」『新潟市遺跡発掘調査速報会2018 ー最新調査成果が語る新潟市の歴史ー』 新潟市文化財センター
- 立木宏明ほか 1999 『中谷内遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明ほか 2000 『川根遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明ほか 2009 『萱免遺跡 第2次調査 ー宅地造成に伴う萱免遺跡第2次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・渡邊朋和ほか 1998 『細池遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・高野裕子ほか 2002 『内野遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2003 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2004a 『愛宕澤遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2004b 『山王浦遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2005 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子・八藤後智人ほか 2008 『沖ノ羽遺跡Ⅳ 第15次調査 ー県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第8次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・伊比博和ほか 2013 『峰岡城山遺跡 第2次調査 ー城山屋内体育施設造成工事に伴う峰岡城山遺跡第2次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・細野高伯ほか 2013 『日水遺跡Ⅱ 第6次調査 ー市道亀田300号線道路改良工事に伴う日水遺跡第2次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・相澤（高野）裕子ほか 2014 『細池寺道上遺跡Ⅲ 第26次調査 ー県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う第12次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・細井佳浩ほか 2015 『細池寺道上遺跡Ⅴ 第32・38・41次調査 西江浦遺跡 第6次調査 ー県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う細池寺道上遺跡第15・17・18次 西江浦遺跡第4次発掘調査報告書ー』

- 立木宏明・奈良佳子ほか 2017 『細池寺道上遺跡VI 第44次調査 - 県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う細池寺道上遺跡第19次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 立木宏明・奈良佳子ほか 2018 『細池寺道上遺跡VII 第46次調査 - 県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う細池寺道上遺跡第21次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 鶴巻康志 2003 「至徳寺遺跡（至徳寺館跡・至徳寺跡）」『上越市史叢書8 考古 - 中・近世資料-』上越市
- テ 寺村光晴 1960 「越後六地山遺跡」『上代文化』30 国学院大学考古学会
- ト 田海義正ほか 2016 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第263集 一般国道49号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書X 新町遺跡』新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 棚木 真ほか 1991 『發昌寺跡 - 社団法人金融財政事情研究会新館建設に伴う第2次緊急発掘調査報告書-』新宿区南元町遺跡調査会
- 鳥居美栄ほか 2010 『長岡城跡（厚生会館地区）- シティホール（仮称）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』長岡市教育委員会
- 土橋由理子ほか 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第91集 一般国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書III 牛道遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第166集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XVIII 馬見坂遺跡 正尺A遺跡 正尺C遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子ほか 2007 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第177集 一般国道49号亀田バイパス関係発掘調査報告書I 城所道下遺跡 武左衛門裏遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子ほか 2009 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第200集 一般国道49号亀田バイパス関係発掘調査報告書II 大蔵遺跡 西郷遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子ほか 2011 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第221集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXXVI 古渡路遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ナ 直江広治・新発田市史編纂委員会 1972 『新発田市史資料第五巻 民俗（上）』新発田市長 富樫会
- 中尾七重 2012 「古渡路遺跡の中世掘立柱建物について：架構等の復元とその特徴」『文化学園大学要服装学・造形学研究』43 文化学園大学
- 中川成夫・倉田芳郎 1956 『新津田家七本松須恵器窯址発掘調査報告書』北方文化博物館
- 長澤展生ほか 2002 『無頭遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 長澤展生ほか 2004 『五泉市文化財報告（13）能代川関係発掘調査報告書VI 中田遺跡』五泉市教育委員会・株式会社みくに考古学研究所
- 中野三義 1976 「中蒲原郡の荘園・保」『かみくひむし』第21号 かみくひむしの会
- 中村孝三郎 1960 「西蒲原郡中野小屋村曾和弥生式六地山遺跡」『NHK』Vol.3 長岡市立科学博物館友の会
- 奈良国立文化財研究所 1985 『奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇』
- ニ 新潟県海揚がり陶磁器研究会 2014 『日本海に沈んだ陶磁器 新潟県内海揚がり品の実態調査』新潟県海揚がり陶磁器研究会
- 新潟県考古学会 1999 『新潟県の考古学』高志書院
- 新潟県 1962 『新潟県市町村合併誌』
- 新潟市国際文化部歴史文化課 2007 『新・新潟市史双書2 新潟市の遺跡』新潟市
- 新潟市史編さん原始古代中世史部会 1994 『新潟市史』資料編1 原始 古代 中世 新潟市
- 新潟市文化財センター編 2014 『出土品を残す技術』文化財センター企画展3 展示解説パンフレット 新潟市文化財センター
- 新潟市立記念図書館編 1975 『新潟市のあゆみ 新潟市史略年表』新潟市
- ノ 能登 健 1996 「6 中・近世の農業」『考古学による日本歴史16 産業I 狩猟・漁業・農業』雄山閣
- 野水晃子ほか 2003 『能代川関係発掘調査報告書I 新保北遺跡』五泉市教育委員会・株式会社吉田建設
- ハ 橋本博文 2015 「新潟市東区牡丹山諏訪神社古墳をめぐって ～2014 発掘調査で分かったこと～」『平成26年度新潟市発掘調査速報会 ～最新成果が語る新潟市の歴史』新潟市文化財センター
- 橋本博文 2016 「新潟市牡丹山諏訪神社古墳 - 第2次発掘調査の成果-」『新潟県考古学会第28回大会研究発表会発表要旨』新潟県考古学会
- 橋本博文・小林隆幸・奥田 尚 2014 「新潟県内初発見の円筒埴輪 - 新潟市東区牡丹山諏訪神社採集の埴輪片をめぐって」『人文科学研究』第134輯 新潟大学人文学部

- ヒ 東日本埋蔵文化財研究会栃木大会準備委員会 1995 『東日本埋蔵文化財研究会 東日本における奈良・平安時代の墓制 —墓制をめぐる諸問題—』
- 廣野耕造 1996 『石動遺跡 平成7年度発掘調査概報』 新潟市教育委員会
- 廣野耕造 1997 『笹山前遺跡・神明社裏遺跡・城山遺跡』 新潟市教育委員会
- フ 藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
- 藤塚 明・小池邦明・渡邊朋和 1987 『新潟市小丸山遺跡発掘調査概報』 新潟市教育委員会
- 藤塚 明・小池邦明 1989 『1988年度埋蔵文化財発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 藤塚 明・本間信昭ほか 1995 『新潟市史』 通史編1 原始 古代 中世 近世(上) 新潟市
- 古澤妥史 2002 『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集 町道上遺跡発掘調査報告書』 京ヶ瀬村教育委員会
- 古澤妥史 2005 『土居内西遺跡』 阿賀野市教育委員会
- 古澤妥史ほか 2004 『県営湛水防除事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ 村下遺跡』 京ヶ瀬村教育委員会
- 古澤妥史ほか 2011 『県営湛水防除事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ 境塚遺跡・山口野中遺跡・三辺稲荷遺跡』 阿賀野市教育委員会
- 古庄浩明ほか 2003 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新津市教育委員会
- 文化庁文化財部記念物課監修 2010 『発掘調査のてびき』 文化庁文化財部記念物課
- ホ 北陸中世考古学研究会編 2008 『第21回 中世考古学研究会資料集 北陸中世のみち』 北陸中世考古学研究会
- 星野信明ほか 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第80集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅱ(B地区)』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 細井佳浩 2014 「新潟県における古代の「畝状小溝」(畠)について —越後国域の検出事例から—」『三面河流域の考古学』第12号 奥三面を考える会
- 細野高伯ほか 2002 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 細野高伯・伊比博和ほか 2012 『大沢谷内遺跡Ⅱ 第7・9・11・12・14次調査 —一般国道403号小須戸上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第2・4・6・7・9次発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
- 本田祐二 2008 「越後・佐渡(新潟県)の様相」『北陸中世のみち』第21回北陸中世考古学研究会資料集 北陸中世考古学研究会
- 本田祐二・一箭美貴ほか 2015 『新発田市埋蔵文化財発掘調査報告書 第53集 飯島遺跡発掘調査報告書 経営体育成基盤整備事業(佐々木南部郷2期地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』 新発田市教育委員会
- 本間嘉晴・椎名仙卓 1958 「佐渡小木半島周辺の考古学的調査」『新潟県文化財年報第二 南佐渡 —南佐渡学術調査報告書—』 新潟県教育委員会
- 本間敏則・春日真実ほか 2000 『吉田町史』 資料編1 考古・古代・中世 吉田町
- マ 前山精明 1990 『大沢遺跡 —縄文時代中期前葉を主とする集落跡の調査概要—』 巻町教育委員会
- 前山精明 1994a 「新谷遺跡」『巻町史』 資料編1 考古 巻町
- 前山精明 1994b 「重稲場遺跡群」『巻町史』 資料編1 考古 巻町
- 前山精明 1994c 「御井戸遺跡」『巻町史』 資料編1 考古 巻町
- 前山精明 1994d 「上ノ原遺跡」『巻町史』 資料編1 考古 巻町
- 前山精明 2013 「細池寺道上遺跡」『平成24年度 新潟市遺跡発掘調査報告会 —最新調査成果が語る新潟市の歴史—』 新潟市文化財センター
- 前山精明 2014a 「Ⅱ2(3) 秋葉遺跡 第9・10次調査」『新潟市文化財センター年報』第1号 新潟市文化財センター
- 前山精明 2014b 「Ⅱ2(3) 細池寺道上遺跡 第38次調査」『新潟市文化財センター年報』第1号 新潟市文化財センター
- 前山精明 2015 「V2 新潟市江南区砂崩遺跡の縄文時代遺物 —神林慎一氏採集資料から—」『新潟市文化財センター年報』第2号 新潟市文化財センター
- 前山精明ほか 2012 『大沢谷内遺跡Ⅲ 第8次調査 —市道鎌倉横川線改良工事に伴う大沢谷内遺跡第2次発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
- 前山精明ほか 2015 『峰岡上町遺跡 第3次調査 —国道460号線改良工事に伴う峰岡上町遺跡第3次発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
- 前山精明・相田泰臣 2002 『南赤坂遺跡 —縄文時代前期～中期・古墳時代前期を主とする集落跡の調査—』 巻町教育委員会
- 前山精明・相田泰臣 2004 『御井戸遺跡Ⅱ —2003年度確認調査の概要—』 巻町教育委員会
- 前山精明・相田泰臣 2005 『御井戸遺跡Ⅲ —2004年度確認調査の概要—』 巻町教育委員会

- 前山精明・伊比博和ほか 2010 『大沢谷内北遺跡 第3次調査 - (仮称) 国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内北遺跡第3次発掘調査報告書-』 新潟市教育委員会
- ミ 水澤幸一 1997 『中条町埋蔵文化財調査報告第12集 下町・坊城遺跡Ⅱ ～川跡出土の遺物～』 中条町教育委員会
- 水澤幸一 2005 『越後の様相』 『中世北陸の茶道具』 第18回 北陸中世考古学研究会資料集 北陸中世考古学研究会
- 水澤幸一 2007 「中世越後の土器と陶磁器 - 11～14世紀前半-」 『中世前期北陸のカワラケと輸入陶磁器・施釉陶器・瀬戸美濃製品』 第20回 北陸中世考古学研究会資料集 北陸中世考古学研究会
- 水澤幸一ほか 1999 『中条町埋蔵文化財調査報告第18集 下町・坊城遺跡Ⅲ ～A地点の調査～ 付：江上館跡6次(OE96B～E)・江上館跡7次(OE98)』 中条町教育委員会
- 水澤幸一ほか 2000 『中条町埋蔵文化財調査報告第20集 下町・坊城遺跡Ⅳ～B地点～』 中条町教育委員会
- 水澤幸一ほか 2001 『中条町埋蔵文化財調査報告第21集 下町・坊城遺跡Ⅴ～C地点遺構編・総論編～』 中条町教育委員会
- 水澤幸一ほか 2002 『中条町埋蔵文化財調査報告書 第25集 船戸桜田遺跡4・5次調査 船戸川崎遺跡第6次調査 県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書Ⅳ』 中条町教育委員会
- 三扶聖五郎 1936 『正保二年越後絵図(公儀御国絵図巻34)』 新発田郷土研究社
- 宮 栄二・山田英雄ほか 1986 『日本歴史地名大系 新潟』 平凡社
- 宮本長二郎 1999 「日本中世住居の形成と発展」 『建築史の空間 - 関口欣也先生退官記念論文集-』 安田建一・関口欣也先生退官記念論文集刊行会
- 宮本長二郎 2002 「古代末から中世の住居建築」 『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』 第16号 秋田県埋蔵文化財センター
- ム 室岡 博 1989 『樋田遺跡 発掘調査概報』 吉川町教育委員会
- 室岡 博 1990 『樋田遺跡 第二次発掘調査概報』 吉川町教育委員会
- 室岡 博 1991 『樋田遺跡 第三次発掘調査概報』 吉川町教育委員会
- ヤ 山口栄一 1994 「菖蒲塚古墳経塚」 『巻町史』 資料編1 考古 巻町
- 山口陽子ほか 2000 『新潟県安田町文化財調査報告13 小山崎遺跡発掘調査報告書 県営安田・水原工業団地開発に伴う新潟県北蒲原郡安田町小山崎遺跡発掘調査報告書』 安田町教育委員会
- 山崎 天・遠藤 佐 1999 『小実山遺跡』 五泉市教育委員会
- 山崎 天ほか 2004a 『五泉市文化財報告(11) 能代川関係発掘調査報告書Ⅳ 新保遺跡 住吉田東遺跡』 五泉市教育委員会・山武考古学研究所
- 山崎 天ほか 2004b 『五泉市文化財報告(12) 能代川関係発掘調査報告書Ⅴ 寛下遺跡』 五泉市教育委員会・山武考古学研究所
- 山崎 天ほか 2004c 『五泉市文化財報告(14) 能代川関係発掘調査報告書Ⅶ 巳ノ明遺跡』 五泉市教育委員会・株式会社野上建設興業
- 山崎 天ほか 2005 『五泉市文化財報告(17) 能代川関係発掘調査報告書Ⅹ 榎表遺跡』 五泉市教育委員会・株式会社みくに考古学研究所
- 山本信夫 2000 『太宰府市の文化財 第49集 大宰府条坊跡ⅩⅤ - 陶磁器分類編-』 太宰府市教育委員会
- 山本信夫 2005 「貿易陶磁中世前期(11～14世紀前半) 編年」 『全国シンポジウム 中世窯業の諸相 ～生産技術の展開と編年～』 発表要旨 全国シンポジウム「中世窯業の諸相 ～生産技術の展開と編年～」 実行委員会
- 山本 肇ほか 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第114集 一般国道8号糸魚川東バイパス関係発掘調査報告書 岩倉遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ヨ 横山勝栄・竹田和夫ほか 1987 『新潟県中世城跡等分布調査報告書』 新潟県教育委員会
- 吉井雅勇ほか 1999 『元山窯跡群 平成9・10年度町内遺跡試掘確認調査報告書』 荒川町教育委員会
- 吉井雅勇ほか 2002 『鴨侍遺跡 一級河川乙日川(烏川工区) 統一級河川整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 荒川町教育委員会
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
- 吉田恵二ほか 1982 『緒立八幡神社遺跡』 黒埼町教育委員会
- 米沢 康 1965 「大化前代における越の史的的位置」 『信濃』 17-1 信濃史学会
- 米沢 康 1980 「大宝二年の越中国四郡分割をめぐって」 『信濃』 32-6 信濃史学会
- ワ 渡邊朋和 1991 『長沼遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会

- 渡邊朋和 1992 『上浦遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1994a 『八幡山遺跡発掘調査報告書 ー平成5年度範囲確認調査ー』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1994b 『平成5年度 新津市内遺跡確認調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和 2015 「V4 新潟市秋葉区塩辛遺跡工事立会出土遺物」『新潟市文化財センター年報』第2号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和ほか 1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 居村遺跡E・A・C地点、大入遺跡A地点』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 1998 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅲ(分析・考察編)』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 2001 『寺道上遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 2002 『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和・立木宏明ほか 2001 『八幡山遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和・立木宏明ほか 2004 『八幡山遺跡群発掘調査報告書 ー第11・12・13・14次調査ー』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和・今井さやか 2018 「Ⅱ2(11) 近世新潟町跡第32・38次調査、第27次調査に伴う工事立会」『新潟市文化財センター年報』第5号 新潟市文化財センター
- 渡辺ますみ 1991 『荒木前遺跡』 亀田町教育委員会
- 渡辺ますみ 1993 『緒立A遺跡確認調査報告書』 黒埼町教育委員会
- 渡辺ますみ 1994 『緒立C遺跡発掘調査報告書』 黒埼町教育委員会
- 渡辺ますみ 1998 「第二章 原始・古代 ー緒立遺跡ー」『黒埼町史』資料編1 原始・古代・中世 黒埼町
- 渡辺ますみ 2000 「第三章 戦乱のなかの蒲原 第一節 中世の蒲原を見渡す 第五項 掘り起こされた中世」『黒埼町史』通史編 黒埼町
- 渡辺ますみ 2014 「(9) 近世新潟町跡工事立会(2012119)」『新潟市文化財センター年報』第1号 ー平成23(2011)年度 平成24(2012)年度版ー 新潟市文化財センター
- 渡辺ますみほか 2009 『駒首潟遺跡 第3・4次調査 ー大型小売店舗建設に伴う駒首潟遺跡第3・4次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- 渡辺ますみ・池田ひろ子 2009 『上大川遺跡 第2次調査 ー市道正尺・早通線道路改良工事に伴う上大川遺跡第2次調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- 渡辺ますみ・奈良貴史 2012 『四十石遺跡 第2次調査 ー(仮称)新赤塚埋立処分地整備工事に伴う四十石遺跡第2次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会

第Ⅵ章 自然科学分析参考文献

- イ 池田次郎 1981 「出土火葬骨について」『太安萬侶墓』 奈良県立橿原考古学研究所編 pp.79-88
- 伊東隆夫・山田昌久 2012 『木の考古学』 雄山閣 p.449
- オ 小畑弘己 2008 「マメ科種子同定法」『極東先史古代の穀物3』 熊本大学 pp.225-252
- 小畑弘己・佐々木由香・仙波靖子 2007 「土器圧痕からみた縄文時代後・晩期における九州のダイズ栽培」『植生史研究』15-1 pp.97-114
- カ 加藤守男 1953 「日本人膝蓋骨の人類学的研究」『慈恵医大解剖業績』9 pp.1-24
- 金子清俊・谷口博一 1987 「線形動物・扁形動物・医動物学」『新版臨床検査講座』8 医歯薬出版 pp.9-55
- 金原正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本』第10巻 古代資料研究の方法 角川書店 pp.248-262
- 金原正明 1999 「寄生虫 考古学と動物学」『考古学と自然科学』2 同成社 pp.151-158
- 金原正明・金原正子 1992 『花粉分析および寄生虫・藤原京跡の便所遺構 ー藤原京7条1坊ー』 奈良国立文化財研究所 pp.14-15
- 金原正明・金原正子 1993 「石棺内の花粉分析および消化管内残渣の分析」『斑鳩藤ノ木古墳第二・三次調査報告書』 奈良県立橿原考古学研究所 pp.18-26
- 金原正明・金原正子 2013 「植生と農耕における土壌層分析の実証的研究」『日本文化財科学会第30回大会研究発表会要旨集』 p.112-113
- 金原正明・金原正子・松井 章 2012 「寛永寺徳川將軍親族遺体由来する環境考古学的分析」『東叡山寛永寺徳川將軍家御裏方霊廟』第三分冊 寛永寺谷中徳川家近世墓所調査団編 吉川弘文館 pp.428-440
- サ 佐伯 浩・原田 浩 1985 「針葉樹材の細胞」『木材の構造』 文永堂出版 pp.20-48
- 佐伯 浩・原田 浩 1985 「広葉樹材の細胞」『木材の構造』 文永堂出版 pp.49-100

- 佐原 眞 2005 「日本考古学・日本歴史学の時代区分」『ウエルナー・シュタインハウス監修 奈良文化財研究所編集 日本の考古学 上 ドイツ展記念概説』 学生社 pp.14-19
- シ 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集 p.60
- 島地 謙・伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』 雄山閣 p.296
- ス 鈴木貞雄 1996 『タケ科植物の概説 日本タケ科植物図鑑』 聚海書林 pp.8-27
- 杉山真二・藤原宏志 1986 「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定 -古環境推定の基礎資料として-」『考古学と自然科学』No.19 pp.69-84
- 杉山真二 2000 『植物珪酸体(プラント・オパール) 考古学と植物学』辻誠一郎編 同成社 pp.189-213
- 杉山真二 2009 「植物珪酸体と古生態」『縄文時代の考古学大地と森の中で -縄文時代の古生態学-』3 同成社 pp.105-114
- タ 竹迫 紘 1993 「リン分析法」『第四紀試料分析法2 研究対象別分析法』 日本第四紀学会編 東京大学出版会 pp.38-45
- 田中良之 1985 「中世の遺構」『吉母浜遺跡』 下関市教育委員会 pp.31-100
- チ 土質工学会編 1979 『土質試験法』 pp.2-5-1 ~ 2-5-23 4-2-1 ~ 4-3-11
- ナ 中村 純 1967 『花粉分析』 古今書院 pp.82-102.
- 中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として」『第四紀研究』13 pp.187-193
- 中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』no.10 pp.21-30
- 中村 純 1980 「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集 p.91
- 奈良貴史 1988 「墓制について」『増上寺子院群 光学院・貞松院跡 源興院跡』 東京都港区教育委員会 pp.504-517
- ハ 馬場悠男・茂原信生・阿部修二・江藤盛治 1986 「根古屋遺跡出土の人骨・動物骨」『霊山根古屋遺跡の研究』 霊山根古屋遺跡調査団 pp.93-113
- バンダリ スダルシャン・佐々木由香 2018 「細池寺道上遺跡から出土した大型植物遺体」『細池寺道上遺跡Ⅶ 第46次調査 - 県営ほ場整備事業(担い手育成型) 両新地区に伴う細池寺道上遺跡第21次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- ヒ 平野賢二 1935 「歯牙の熱処理に対する研究(第一編) 人類歯牙の熱処理について」『口腔病学会雑誌』9 pp.375-393
- フ 藤原宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) -数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法-」『考古学と自然科学』no.9 pp.15-29
- 藤原宏志・杉山真二 1984 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(5) -プラント・オパール分析による水田址の探査-」『考古学と自然科学』no.17 pp.73-85
- ム 室井 緯 1960 「竹笹の生態を中心とした分布」『富士竹類植物園報告』5 pp.103-121
- ヤ 築瀬裕一 2009 「房総の中世墓」『日本の中世墓』 高志書院
- 山口 敏 1983 「出土人骨についての分析」『竜ヶ池観音堂塚群発掘調査報告書Ⅱ』 小千谷市教育委員会 pp.41-43
- 山田昌久 1993 「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成」『植生史研究』特別第1号 植生史研究会 p.242
- ヨ 米倉浩司・梶田 忠 2003 「BG Plants 和名 -学名インデックス (YList)」 <http://ylist.info>

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51 (1), 337-360

Latrine Soils. *Journal of Archaeological Science*, 19, pp.231-245.

Nicholson, R.A. 1993 A morphological investigation of burnt animal bone and an evaluation of its utility in archaeology. *J. Archaeol. Sci.*, 20:411-428

Mays, S. 1998 Cremated bone. *The Archaeology of Human Bones*, Routledge, London, pp.207-224

Peter J. Warnock and Karl J. Reinhard (1992) *Methods for Extracting Pollen and Parasite Eggs from*

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55 (4), 1869-1887

Shipman, P., Foster, G. and Schoeninger, M. 1984 Burnt bones and teeth: an experimental study of color, morphology, crystal structure and shrinkage. *J. Archaeol. Sci.*, 11:307-325

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19 (3), 355-363

別表 1 遺構計測表

図版No.	写真図版 No.	SP記号	区画	遺構	グリッド	重複状況	時代	確認	主軸方向	規模 (m)					形態		遺構の有無	遺物図版 No.	出土遺物備考				
										上端		下端		深度	平面	断面							
										長輪	短輪	長輪	短輪										
16-31	39	1A-a	1	SE 27	13R-8D4-9		中世	Va	N-31°-W	2.55	1.39	0.76	0.75	1.38	7.57	長楕円形	階段状	8	有	194	下段※ SZ865		
25-55	56	16~18-20~22-74-75	2A・C	1	14R-2A19・20-24-25		中世	Va	N-26°-E	(2.36)	(0.88)	(2.20)	0.70	0.16	8.85~8.96	隅丸長方形	台形	ブロック状	4	有	194	下段※ SZ865	
16-31	39	40	3	1	SK 58	13R-7D14-19	不明	Va	N-80°-W	1.55	1.04	1.37	0.77	0.08	8.84	不整形	圓形	単層	1	有	194	下段※ SZ865	
16-31	40	4	1	SK 66	13R-7E21-22, 8E1-2		不明	Va	N-52°-W	0.73	(0.52)	0.55	(0.45)	0.06	8.86	楕円形	ブロック状	2	有	194	下段※ SZ865		
16-31	40	5	1	SK 68	13R-8D15	-Ph67	不明	Va	N-80°-W	0.82	0.47	0.09	0.06	0.15	8.80	長楕円形	圓形	ブロック状	2	有	194	下段※ SZ865	
16-18	31	40	6	1	SK 256	13R-8C25, 8D21, 9C5, 9D1	>SD170	近世以降	Va	N-77°-E	0.80	0.40	0.58	0.25	0.07	8.90	長楕円形	圓形	単層	1	有	194	下段※ SZ865
17-32	40-41	7A-a	1	SK 859	13R-9A4		不明	Va	N-81°-E	0.98	0.50	0.15	0.10	0.30	8.62	長楕円形	台形	ブロック状	4	有	194	下段※ SZ865	
17-32	41	8	1	SK 332	13R-9A18-19-23-24	>SD205	近世	Va	N-24°-E	1.22	0.62	1.05	0.43	0.21	8.78	長楕円形	圓形	ブロック状	3	有	194	下段※ SZ865	
17-21	22	41	9	1	SK 367	13R-10A1-6	>NR500	近世	Va	N-16°-E	1.05	0.50	0.54	0.33	0.30	8.60	長楕円形	圓形	ブロック状	4	有	194	下段※ SZ865
25-32	41	10	1	SK 486	14R-2B23, 3B3		近世以降	Va	N-34°-E	1.00	0.44	0.81	0.29	0.15	8.88	長楕円形	圓形	単層	1	有	194	下段※ SZ865	
22-23	26-27	41	11A-a	1	SK 687	14Q-3E7・8・12-13		近世	Va	N-70°-W	1.45	1.27	1.13	0.88	0.18	8.56	円形	円形	ブロック状	2	有	195	下段※
22-23	26-27	42	12A-a	1	SK 688	14Q-3E12・13	>SK689	近世	Va	N-54°-W	0.63	0.61	0.38	0.36	0.48	8.24	円形	台形	ブロック状	4	有	239	木/板材
22-23	26-27	42	13	1	SK 689	14Q-3E12・13	>SK688, Ph690	近世	Va	N-74°-W	0.70	0.57	0.58	0.42	0.15	8.54	長方形	箱形	単層	1	有	239	木/板材
22-23	26-27	42	13	1	SK 689	14Q-3E12・13	>SK688, Ph690	近世	Va	N-74°-W	0.70	0.57	0.58	0.42	0.15	8.54	長方形	箱形	単層	1	有	239	木/板材
22-23	26-27	43	14A-B	1	SK 684	14Q-3E13	>SK691	近世	Va	N-77°-W	0.82	0.71	0.60	0.62	0.32	8.40	隅丸方形	箱形	ブロック状	4	有	195-213, 236-238	下段※
22-23	26-27	43	15A-a	1	SK 691	14Q-3E13・14	>SK684・686	近世	Va	N-77°-W	(0.69)	(0.60)	(0.30)	0.52	0.24	8.38	隅丸方形	箱形	ブロック状	3	有	214	下段※
22-23	26-27	43	44-a	1	SK 686	14Q-3E13		近世	Va	N-80°-W	0.53	0.53	0.43	0.42	0.15	8.50	隅丸方形	台形	ブロック状	4	有	261	陶器/漆・灰・敷・土
22-23	26-27	45	17A-a	1	SK 685	14Q-3E14	>SK694・708	近世	Va	N-12°-E	0.48	(0.46)	0.34	0.31	0.24	8.48	隅丸方形	箱形	ブロック状	2	有	195-196, 213-215	下段※
22-23	26-27	45	18A-a	1	SK 694	14Q-3E14	>SK685	近世	Va	N-80°-W	(0.47)	0.39	(0.27)	0.25	0.07	8.64	楕円形	台形	単層	1	有	195-238	下段※
22-23	26-27	45	46	1	SK 692	14Q-3E14		近世	Va	N-14°-W	0.38	0.35	0.09	0.07	0.11	8.60	隅丸方形	台形	単層	1	有	239	骨
22-23	26-27	46	20A-a	1	SK 708	14Q-3E14	>SK685	近世	Va	N-75°-W	(0.72)	0.65	0.48	0.47	0.57	8.13	隅丸長方形	箱形	ブロック状	6	有	196-238, 239	下段※
22-23	26-27	46	21A-a	1	SK 680	14Q-3E14・15	>SK683	近世	Va	N-45°-E	0.90	0.90	0.73	0.70	0.21	8.54	方形	台形	ブロック状	2	有	196-213, 217	下段※
22-23	26-27	47	22A-a	1	SK 683	14Q-3E15-20	>SK680・681・Ph812	近世	Va	N-73°-E	1.44	1.34	0.97	0.97	0.29	8.47	円形	台形	レンズ状	3	有	196-237, 260-261	下段※
22-23	26-27	48	23A-a	1	SK 681	14Q-3E15-20, 3F11-16	下段1※	近世	Va	N-2°-E	0.77	0.66	0.33	0.31	0.70	8.08	円形	台形	ブロック状	7	有	215-217, 237-239	下段2※
22-23	26-27	48	48	1	SK 682	14Q-3E15, 3F11-16		近世	Va	N-0°	1.44	1.35	1.21	1.06	0.24	8.60	隅丸方形	台形	ブロック状	4	有	196-214, 216-218, 260-261	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 705	14Q-3F16-17	>SD446, 道路状遺構884	近世	Va	N-77°-W	0.88	0.85	0.60	0.31	0.42	8.34	円形	箱形	ブロック状	6	有	197-213, 215-216, 238	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 700	14Q-3F12		近世	Va	N-90°	0.71	0.59	0.30	0.16	0.13	8.65	隅丸長方形	圓形	単層	1	有	217	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 706	14Q-3F12-17	下段1※	近世	Va	N-5°-W	1.28	0.92	0.58	0.37	0.42	8.38	楕円形	階段状	ブロック状	6	有	216-217, 236-260, 261	下段2※
22-23	26-27	49	50	1	SK 707	14Q-3F12-13-17-18-22-23		近世	Va	N-2°-E	2.53	0.80	0.65	0.50	0.31	8.50	隅丸長方形	台形	ブロック状	6	有	197-260, 261	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 810	14Q-3F12-13-17-18-23		近世	Va	N-48°-W	(3.00)	(1.54)	1.46	0.50	0.48	8.39	長楕円形	箱形	ブロック状	6	有	197-260, 261	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 663	706・707, SD72, Ph665, >SK811, SD446-598, 道路状遺構884		近世	Va	N-90°	0.81	0.69	0.38	0.38	0.48	8.34	円形	台形	ブロック状	2	有	197-213, 215-216, 238	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 663	706・707, SD72, Ph665, >SK811, SD446-598, 道路状遺構884		近世	Va	N-90°	0.81	0.69	0.38	0.38	0.48	8.34	円形	台形	ブロック状	2	有	197-213, 215-216, 238	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 810	14Q-3F12-13-17-18-23		近世	Va	N-48°-W	(3.00)	(1.54)	1.46	0.50	0.48	8.39	長楕円形	箱形	ブロック状	6	有	197-260, 261	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 811	14Q-3F17-18	>SK707-810	近世	Va	N-38°-W	(0.45)	(0.42)	(0.30)	(0.27)	0.20	8.35	方形	箱形	単層	1	有	197-260, 261	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 810	14Q-3F12-13-17-18-23		近世	Va	N-48°-W	(3.00)	(1.54)	1.46	0.50	0.48	8.39	長楕円形	箱形	ブロック状	6	有	197-260, 261	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 663	706・707, SD72, Ph665, >SK811, SD446-598, 道路状遺構884		近世	Va	N-90°	0.81	0.69	0.38	0.38	0.48	8.34	円形	台形	ブロック状	2	有	197-213, 215-216, 238	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 810	14Q-3F12-13-17-18-23		近世	Va	N-48°-W	(3.00)	(1.54)	1.46	0.50	0.48	8.39	長楕円形	箱形	ブロック状	6	有	197-260, 261	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 663	706・707, SD72, Ph665, >SK811, SD446-598, 道路状遺構884		近世	Va	N-90°	0.81	0.69	0.38	0.38	0.48	8.34	円形	台形	ブロック状	2	有	197-213, 215-216, 238	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 810	14Q-3F12-13-17-18-23		近世	Va	N-48°-W	(3.00)	(1.54)	1.46	0.50	0.48	8.39	長楕円形	箱形	ブロック状	6	有	197-260, 261	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 663	706・707, SD72, Ph665, >SK811, SD446-598, 道路状遺構884		近世	Va	N-90°	0.81	0.69	0.38	0.38	0.48	8.34	円形	台形	ブロック状	2	有	197-213, 215-216, 238	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 810	14Q-3F12-13-17-18-23		近世	Va	N-48°-W	(3.00)	(1.54)	1.46	0.50	0.48	8.39	長楕円形	箱形	ブロック状	6	有	197-260, 261	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 663	706・707, SD72, Ph665, >SK811, SD446-598, 道路状遺構884		近世	Va	N-90°	0.81	0.69	0.38	0.38	0.48	8.34	円形	台形	ブロック状	2	有	197-213, 215-216, 238	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 810	14Q-3F12-13-17-18-23		近世	Va	N-48°-W	(3.00)	(1.54)	1.46	0.50	0.48	8.39	長楕円形	箱形	ブロック状	6	有	197-260, 261	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 663	706・707, SD72, Ph665, >SK811, SD446-598, 道路状遺構884		近世	Va	N-90°	0.81	0.69	0.38	0.38	0.48	8.34	円形	台形	ブロック状	2	有	197-213, 215-216, 238	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 810	14Q-3F12-13-17-18-23		近世	Va	N-48°-W	(3.00)	(1.54)	1.46	0.50	0.48	8.39	長楕円形	箱形	ブロック状	6	有	197-260, 261	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 663	706・707, SD72, Ph665, >SK811, SD446-598, 道路状遺構884		近世	Va	N-90°	0.81	0.69	0.38	0.38	0.48	8.34	円形	台形	ブロック状	2	有	197-213, 215-216, 238	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 810	14Q-3F12-13-17-18-23		近世	Va	N-48°-W	(3.00)	(1.54)	1.46	0.50	0.48	8.39	長楕円形	箱形	ブロック状	6	有	197-260, 261	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 663	706・707, SD72, Ph665, >SK811, SD446-598, 道路状遺構884		近世	Va	N-90°	0.81	0.69	0.38	0.38	0.48	8.34	円形	台形	ブロック状	2	有	197-213, 215-216, 238	下段※
22-23	26-27	49	50	1	SK 810	14Q-3F12-13-17-18-23		近世	Va	N-4													

Table with columns: 図面No., 写真図原No., SP記号, 遺構, グリッド, 重複状況, 年代, 確認, 主軸方向, 規模(m), 底面標高(m), 形態, 堆積状況, 遺物の有無, 遺物図原No., 出土遺物備考. Includes detailed data for various archaeological sites and structures.

Table with columns: 図面No., 写真図原No., SP記号, 遺構, グリッド, 重複状況, 年代, 確認, 主軸方向, 規模(m), 底面標高(m), 形態, 堆積状況, 遺物の有無, 遺物図原No., 出土遺物備考. Includes detailed data for various archaeological sites and structures.

図版No.	写真図版 No.	SP記号	遺構 種別 番号	グリッド	重複状況	時代	確認 主軸方向	上層 規模 (m)				底面 標高 (m)	形態		堆積状況	遺構の有無	遺物図版 No.	出土遺物 備考	
								上層		下層			平面	断面					
								長軸	短軸	長軸	短軸								
16	Pr 245	13R-E15			近世	Va N-44 -W	0.60 (0.18)	0.27 (0.05)	0.35	8.75	長軸円形	平面形	ブロック状	3					
16	Pr 246	13R-E11-16			近世	Va N-45 -W	0.62 (0.46)	0.30 (0.20)	0.43	8.73	長軸円形	平面形	ブロック状	5					
16-59	87-88	Pr 18	13R-E20		近世	Va N-32 -E	0.63	0.26	0.56	0.21	0.11	8.75	長軸長方形	円形	単層	1		SA870	
16	Pr 103	13R-E20		<Ph19, SA870	近世	Va N-4 -W	0.39	0.23	0.26	0.14	0.12	8.82	長軸円形	階段形	単層	1			
16-59	88	109	Pr 19	13R-E20	<Ph103	近世	Va N-29 -E	0.52	0.23	0.47	0.18	0.07	8.90	長軸長方形	平面形	ブロック状	2		SA870
16	Pr 247	13R-EF16			近世	Va N-47 -W	0.35 (0.09)	0.15 (0.04)	0.28	8.88	楕円形	平面形	ブロック状	2					
16-59	88	Pr 20	13R-EF21		近世	Va N-35 -E	0.48	0.24	0.43	0.04	0.44	8.87	長軸円形	平面形	ブロック状	3		SA870	
16	Pr 248	13R-EF22			近世	Va N-42 -W	0.63 (0.17)	0.09 (0.07)	0.29	8.83	長軸円形	階段形	ブロック状	4					
16-59	88	110	Pr 21	13R-EF22, 9F2	近世	Va N-27 -E	0.51	0.24	0.42	0.17	0.08	8.92	長軸長方形	平面形	ブロック状	3		SA870	
16-59	88-89	111	Pr 22	13R-EF2-3	近世	Va N-23 -E	0.29 (0.29)	0.21 (0.25)	0.15	0.03	8.93	楕円長方形	平面形	ブロック状	2		SA870		
16	Pr 191	13R-EF2			不明	Va N-41 -E	0.34	0.19	0.27	0.10	0.08	8.88	長軸円形	平面形	単層	1			
16	Pr 25	13R-EF1-6			近世	Va N-40 -E	0.48	0.20	0.41	0.15	0.02	8.96	長軸円形	平面形	単層	1			
16	Pr 25	13R-EF5			近世	Va N-35 -E	0.42	0.25	0.35	0.18	0.04	8.94	楕円長方形	平面形	単層	1			
16	Pr 24	13R-E23			近世	Va N-30 -E	0.48	0.30	0.28	0.21	0.10	8.86	楕円長方形	平面形	ブロック状	2			
16	Pr 23	13R-E12-17			近世	Va N-25 -E	0.53	0.26	0.48	0.20	0.08	8.84	楕円長方形	平面形	ブロック状	2			
16	Pr 104	13R-E17			不明	Va N-75 -W	0.26	0.23	0.15	0.11	0.12	8.80	不整形	階段形	単層	1			
16	Pr 219	13R-8D15, 8D11-6			長軸円形	Va N-12 -W	0.25	0.16	0.12	0.10	0.07	8.82	長軸円形	平面形	単層	1			
16-31	40	Pr 67	13R-8D15	<SK68	近世	Va N-5 -W	0.21	0.13	0.06	0.04	0.21	8.74	長軸円形	U字形	単層	1			
16	Pr 148	13R-8D12-17-18			中世	Va N-52 -W	0.30	0.24	0.12	0.09	0.49	8.87	楕円長方形	平面形	単層	1			
16	Pr 160	13R-8D17			近世	Va N-38 -E	0.52	0.35	0.30	0.24	0.13	8.83	楕円長方形	平面形	単層	1	有	陶器・土	
16	Pr 159	13R-8D17			不明	Va N-16 -W	0.41	0.22	0.08	0.07	0.32	8.63	楕円長方形	平面形	単層	1			
16	Pr 158	13R-8D17	<Ph255		近世	Va N-1 -W	0.30	0.25	0.07	0.07	0.51	8.46	楕円形	平面形	単層	1			
16	Pr 155	13R-8D17	<Ph155		不明	Va N-25 -E	0.20 (0.14)	0.13 (0.08)	0.09	0.09	0.86	楕円形	平面形	単層	1				
16	Pr 152	13R-8C20, 8D16	<Ph226		不明	Va N-65 -W	0.28	0.26	0.11	0.09	0.31	8.64	円形	平面形	単層	1			
16	Pr 226	13R-8C20, 8D16	<Ph152		不明	Va N-47 -W	0.32	0.25	0.07	0.05	0.28	8.67	円形	平面形	単層	1			
16	Pr 63	13R-8D12			不明	Va N-63 -W	0.26	0.22	0.18	0.16	0.20	8.71	円形	平面形	単層	1			
16	Pr 74	13R-8D7			近世	Va N-15 -E	0.20	0.18	0.08	0.06	0.31	8.60	円形	U字形	単層	1			
16	Pr 157	13R-8C5-10, 8D11-6			不明	Va N-3 -E	0.32	0.18	0.06	0.05	0.39	8.50	長軸円形	平面形	単層	1			
16	Pr 146	13R-8C9			近世	Va N-21 -E	0.57	0.52	0.46	0.37	0.14	8.77	円形	平面形	単層	1			
16	Pr 109	13R-8C12			不明	Va N-75 -E	0.37	0.24	0.15	0.12	0.44	8.49	長軸円形	平面形	単層	1			
16	Pr 118	13R-8C12			中世	Va N-52 -E	0.47	0.27	0.14	0.12	0.44	8.46	長軸円形	階段形	単層	1			
16	Pr 153	13R-8C7			不明	Va N-1 -E	0.14	0.14	0.08	0.07	0.14	8.74	円形	楕円形	単層	1			
16	Pr 144	13R-7C22			不明	Va N-38 -E	0.51	0.41	0.45	0.33	0.13	8.75	楕円長方形	平面形	単層	1			
16-17	Pr 145	13R-8C2			不明	Va N-45 -E	0.21	0.17	0.08	0.07	0.27	8.60	楕円形	U字形	単層	1			
16-17	Pr 154	13R-7B25			近世	Va N-90 -E	0.20	0.17	0.10	0.10	0.42	8.77	円形	平面形	単層	1			
17	Pr 234	13R-8B4-5			不明	Va N-27 -W	0.31	0.21	0.24	0.16	0.06	8.94	楕円形	平面形	ブロック状	2			
17	Pr 165	13R-8B8			不明	Va N-57 -W	0.42	0.34	0.12	0.05	0.21	8.81	楕円形	平面形	単層	1			
17	Pr 233	13R-8B9			不明	Va N-34 -W	0.21	0.16	0.12	0.09	0.06	8.83	楕円形	平面形	単層	1			
17	Pr 252	13R-8B14-15-19-20			不明	Va N-26 -E	0.17	0.14	0.06	0.04	0.24	8.78	楕円形	平面形	単層	1			
17	Pr 164	13R-8B18			近世	Va N-74 -W	0.40	0.33	0.19	0.14	0.31	8.63	楕円形	階段形	ブロック状	2			
17	Pr 251	13R-8B21-22			不明	Va N-50 -E	0.27	0.20	0.15	0.12	0.16	8.75	楕円形	平面形	単層	1			
17	Pr 237	13R-8B22			不明	Va N-73 -W	0.17	0.16	0.08	0.06	0.18	8.74	円形	U字形	単層	1			
17	Pr 238	13R-8B21			不明	Va N-77 -W	0.18	0.15	0.09	0.07	0.06	8.82	楕円形	平面形	単層	1			
17	Pr 434	13R-8A24			不明	Va N-65 -W	0.18	0.18	0.10	0.08	0.30	8.57	円形	U字形	柱状	2			
17	Pr 306	13R-8A22			近世	Va N-87 -W	0.21	0.17	0.11	0.08	0.12	8.82	楕円形	平面形	単層	1			
17	Pr 835	13R-8A21			不明	Va N-63 -E	0.28 (0.16)	0.12 (0.07)	0.16	0.76	楕円形	平面形	単層	1					
17	Pr 307	13R-8A21-22			近世	Va N-44 -W	0.29	0.22	0.10	0.09	0.19	8.80	楕円長方形	階段形	ブロック状	2			
17	Pr 834	13R-8A22-23			不明	Va N-62 -W	0.25	0.22	0.05	0.04	0.23	8.60	楕円形	平面形	単層	1			
17	Pr 310	13R-9A3			不明	Va N-85 -E	0.23	0.22	0.06	0.05	0.28	8.70	円形	U字形	柱状	2			
17	Pr 308	13R-9A2			近世	Va N-72 -E	0.32	0.24	0.14	0.12	0.24	8.74	楕円形	U字形	単層	1			
17	Pr 330	13R-9A2			不明	Va N-45 -E	0.28	0.22	0.20	0.15	0.12	8.91	円形	平面形	単層	1			
17	Pr 864	13R-9A2-7			不明	Va N-65 -W	0.52	0.37	0.33	0.20	0.11	8.86	楕円形	平面形	単層	1			
17	Pr 309	13R-9A2-7			近世	Va N-33 -W	0.29	0.19	0.16	0.09	0.06	8.91	長軸円形	平面形	単層	1			
17	Pr 305	13R-9A8			近世	Va N-60 -E	0.45	0.42	0.12	0.09	0.11	8.93	円形	平面形	単層	1			
17	Pr 468	13R-9A7	<SD139, SN874		不明	Va N-66 -W	0.29 (0.26)	0.13 (0.11)	0.11	0.26	8.69	円形	平面形	ブロック状	2				
17	Pr 467	13R-9A7	<SD138, SN874		不明	Va N-6 -E	0.26 (0.19)	0.11 (0.11)	0.08	0.26	8.70	楕円形	U字形	ブロック状	2				
17-43-61	Pr 378	13Q-93	<SD205		不明	Va N-30 -E	0.29	0.24	0.13	0.11	0.32	8.70	楕円形	U字形	ブロック状	2			
17-43-61	Pr 377	13Q-936	<SD115, SN874		不明	Va N-19 -W	0.22 (0.17)	0.14 (0.14)	0.11	0.18	8.85	楕円形	楕円形	平面形	単層	1			
17	Pr 431	13Q-9113-14	<SD128, SN874		近世	Va N-68 -E	0.36 (0.28)	0.06 (0.05)	0.31	8.69	楕円形	V字形	ブロック状	2					
17	Pr 383	13Q-9114			近世	Va N-14 -E	0.27	0.23	0.13	0.07	0.19	8.82	円形	平面形	ブロック状	2			
17	Pr 427	13Q-9112			近世	Va N-70 -E	0.20	0.17	0.08	0.07	0.18	8.82	円形	平面形	単層	1			
17	Pr 385	13Q-9118	<SD127, SN874		不明	Va N-70 -W	0.22	0.18	0.13	0.11	0.15	8.88	楕円形	平面形	単層	1			
17-20-21	Pr 386	13Q-1013			不明	Va N-44 -W	0.20	0.18	0.11	0.11	0.23	8.76	円形	U字形	単層	1			
17-20-21	Pr 387	13Q-1013	<SD130, SN874		不明	Va N-68 -E	0.53 (0.33)	0.10 (0.10)	0.49	8.50	長軸円形	階段形	ブロック状	3					
17-21	Pr 384	13Q-1013-4			不明	Va N-61 -W	0.36	0.26	0.29	0.19	0.12	8.86	楕円形	平面形	単層	1			
17-21	Pr 382	13Q-1015	<SD135, SN874		近世	Va N-20 -W	0.33	0.28	0.23	0.20	0.12	8.82	円形	平面形	単層	1			
17-21	Pr 381	13Q-1015	<SD136, SN874		不明	Va N-5 -W	0.17 (0.16)	0.08 (0.07)	0.30	8.62	円形	U字形	単層	1					
17-21	Pr 380	13Q-1015			近世	Va N-86 -E	0.22	0.19	0.16	0.08	0.21	8.71	円形	平面形	単層	1			
17																			

図面No.	写真図面 No.	SP記号	遺構 種別 番号	グリッド	重複状況	時代	確認 主軸方向	規模 (m)					底面 標高 (m)	形態		堆積状況	遺物の 有無	遺物図面 No.	出土遺物 備考
								上端		下端		深さ		平面	断面				
								長軸	短軸	長軸	短軸								
18	Pr 337	13R-9C14	不明	Va N-42° E	0.20	0.19	0.12	0.10	0.24	8.73	円形	単層	1						
18	Pr 335	13R-9C15	近世	Va N-21° E	0.31	0.21	0.25	0.13	0.11	8.91	楕円形	単層	1						
18	Pr 338	13R-9C20	近世	Va N-90°	0.21	0.20	0.14	0.10	0.19	8.85	円形	単層	1						
18	Pr 820	13R-9D16	不明	Va N-37° W	0.18	0.14	0.09	0.06	0.15	8.84	楕円形	単層	1						
18	Pr 334	13R-9D15-20	不明	Va N-11° E	0.25	0.19	0.10	0.07	0.22	8.80	楕円形	単層	1						
18	Pr 200	13R-9D11	不明	Va N-0°	0.10	0.06	0.09	0.02	0.19	8.92	楕円形	単層	1						
18	Pr 199	13R-9C15	不明	Va N-0°	0.22	0.19	0.10	0.07	0.18	8.84	円形	単層	1						
18	Pr 243	13R-9C15	近世	Va N-66° E	0.20	0.14	0.04	0.06	0.10	8.92	楕円形	単層	1						
18	Pr 197	13R-9C15	不明	Va N-50° E	0.17	0.14	0.06	0.04	0.14	8.87	楕円形	単層	1						
18	Pr 242	13R-9C15	近世	Va N-40° E	0.16	0.15	0.07	0.05	0.33	8.69	円形	単層	1						
18	Pr 198	13R-9C10-15	近世	Va N-80° E	0.18	0.16	0.08	0.07	0.17	8.86	円形	単層	1						
16-18	Pr 169	13R-9C10-9D6	不明	Va N-40° E	0.37	0.33	0.26	0.12	0.20	8.85	円形	単層	1						
16-18	Pr 196	13R-9C10	近世	Va N-18° E	0.25	0.25	0.12	0.12	0.26	8.77	円形	単層	1						
16-18	Pr 195	13R-9C10	近世	Va N-58° W	0.19	0.17	0.07	0.05	0.24	8.79	円形	単層	1						
16-18	Pr 168	13R-9C10	近世	Va N-15° E	0.34	0.22	0.09	0.09	0.26	8.75	長楕円形	単層	1						
16-18	Pr 241	13R-9C10-9D6	近世	Va N-44° E	0.22	0.18	0.14	0.11	0.04	8.99	楕円形	単層	1						
16-18	Pr 227	13R-9D6-7	不明	Va N-1° W	0.24	0.17	0.11	0.09	0.13	8.88	楕円形	単層	1						
16-18	Pr 156	13R-9D6-7	不明	Va N-5° E	0.36	0.24	0.09	0.08	0.31	8.71	長楕円形	単層	1						
18	Pr 259	13R-9D2	近世	Va N-77° E	0.24	0.22	0.07	0.07	0.34	8.70	円形	単層	1						
18	Pr 249	13R-9D12	近世	Va N-1° E	0.24	0.19	0.12	0.07	0.27	8.97	楕円形	単層	1						
18	Pr 211	13R-9D13	近世	Va N-81° W	0.34	0.25	0.08	0.07	0.44	8.58	楕円形	単層	1						
18	Pr 213	13R-9D13	不明	Va N-34° E	0.19	0.17	0.08	0.08	0.19	8.83	円形	単層	1						
18	Pr 207	13R-9D13	近世	Va N-10° W	0.24	0.22	0.11	0.09	0.24	8.78	円形	単層	1						
18	Pr 206	13R-9D13	近世	Va N-1° W	0.29	0.24	0.11	0.10	0.22	8.80	長楕円形	単層	1						
16-18	Pr 209	13R-9D13	近世	Va N-89° E	0.46	0.35	0.13	0.10	0.40	8.60	楕円形	単層	1						
16-18	Pr 208	13R-9D8	不明	Va N-37° W	0.19	0.19	0.09	0.08	0.12	8.88	楕円形	単層	1						
16-18	Pr 201	13R-9D7	近世	Va N-20° W	0.17	0.16	0.12	0.10	0.08	8.91	円形	単層	1						
16-18	Pr 222	13R-9D2	不明	Va N-87° E	0.28	0.16	0.23	0.10	0.08	8.93	長楕円形	単層	1						
16-18	Pr 210	13R-9D3	不明	Va N-0°	0.24	0.23	0.07	0.05	0.18	8.82	円形	単層	1						
16-18	Pr 171	13R-8D22-9D2	不明	Va N-0°	0.20	0.18	0.08	0.08	0.24	8.74	円形	単層	1						
16-18	Pr 166	13R-8D22	近世	Va N-86° E	0.47	0.29	0.19	0.16	0.45	8.52	長楕円形	単層	1						
16-18	Pr 172	13R-8D22	近世	Va N-41° E	0.22	0.18	0.12	0.10	0.15	8.82	楕円形	単層	1						
16-18	Pr 823	13R-8D23-9D3	不明	Va N-37° W	(0.12)	0.13	(0.08)	0.07	0.34	8.62	楕円形	単層	1						
16-18	Pr 151	13R-8D23-9D3	近世	Va N-77° W	0.20	0.19	0.14	0.13	0.31	8.67	円形	単層	1						
16-18	Pr 173	13R-9D4	不明	Va N-90°	0.16	0.15	0.07	0.06	0.08	8.92	円形	単層	1						
16-18	Pr 157	13R-9D4	不明	Va N-55° E	0.34	0.31	0.11	0.11	0.30	8.71	円形	単層	1						
16-18	Pr 150	13R-9D4	不明	Va N-64° E	0.13	0.08	0.18	0.12	0.11	8.82	楕円形	単層	1						
16-18	Pr 149	13R-9D4	不明	Va N-34° E	0.31	0.31	0.16	0.14	0.14	8.87	楕円形	単層	1						
16-18	Pr 176	13R-9D5	近世	Va N-49° W	0.22	0.20	0.11	0.09	0.12	8.91	円形	単層	1						
16-18	Pr 175	13R-9D5	不明	Va N-36° E	0.18	0.16	0.09	0.08	0.11	8.90	円形	単層	1						
16-18	Pr 174	13R-9D5	不明	Va N-0°	0.17	0.16	0.11	0.10	0.09	8.90	円形	単層	1						
16-18	Pr 105	13R-8D25	不明	Va N-89° W	0.21	0.17	0.06	0.05	0.22	8.74	楕円形	単層	1						
16-18	Pr 106	13R-8D25	不明	Va N-41° E	0.13	0.14	0.05	0.04	0.15	8.79	楕円形	単層	1						
16-18	Pr 182	13R-9E2-3	近世	Va N-47° E	0.19	0.18	0.08	0.07	0.24	8.76	円形	単層	1						
16-18	Pr 181	13R-9E3	不明	Va N-30° E	0.18	0.11	0.12	0.06	0.10	8.88	長楕円形	単層	1						
16-18	Pr 218	13R-9E7	不明	Va N-0°	0.18	0.18	0.08	0.02	0.24	8.75	円形	単層	1						
16-18	Pr 177	13R-9E6	近世	Va N-62° W	0.37	0.27	0.15	0.12	0.34	8.70	楕円形	単層	1						
16-18	Pr 179	13R-9E6	近世	Va N-70° E	0.40	0.29	0.16	0.14	0.36	8.68	楕円形	単層	1						
16-18	Pr 107	13R-9E8	不明	Va N-52° W	0.18	0.17	0.08	0.08	0.12	8.87	楕円形	単層	1						
16-18	Pr 178	13R-9E6	近世	Va N-15° E	0.31	0.22	0.14	0.12	0.23	8.71	楕円形	単層	1						
18	Pr 220	13R-9E11	近世	Va N-31° W	0.16	0.14	0.09	0.08	0.09	8.93	円形	単層	1						
18	Pr 221	13R-9E12	不明	Va N-46° W	0.31	0.27	0.22	0.18	0.12	8.91	円形	単層	1						
18	Pr 183	13R-9E14	近世	Va N-38° E	0.22	0.18	0.07	0.07	0.17	8.83	楕円形	単層	1						
18	Pr 815	13R-9E4	近世	Va N-46° W	0.19	0.14	0.08	0.06	0.20	8.85	楕円形	単層	1						
18	Pr 190	13R-9E17-18	>SD180	近世	Va N-71° E	0.29	0.19	0.08	0.06	0.32	8.71	長楕円形	単層	1					
18	Pr 185	13R-9E16	近世	Va N-0°	0.27	0.24	0.10	0.10	0.22	8.83	円形	単層	1						
18	Pr 230	13R-9D15	近世	Va N-34° W	0.19	0.18	0.12	0.10	0.06	8.97	円形	単層	1						
18	Pr 184	13R-9D15-20	不明	Va N-84° W	0.27	0.26	0.16	0.13	0.25	8.77	円形	単層	1						
18	Pr 217	13R-9D19	不明	Va N-89° E	0.17	0.15	0.07	0.07	0.08	8.98	円形	単層	1						
18	Pr 202	13R-9D19-24	近世	Va N-5° E	0.50	0.42	0.13	0.13	0.42	9.02	円形	単層	1						
18	Pr 214	13R-9D24	近世	Va N-0°	0.29	0.22	0.06	0.05	0.17	8.89	楕円形	単層	1						
18	Pr 817	13R-9D24	近世	Va N-26° E	0.16	0.15	0.09	0.07	0.20	8.83	円形	単層	1						
18	Pr 203	13R-9D24-25	近世	Va N-15° W	0.32	0.31	0.11	0.09	0.10	8.96	円形	単層	1						
18	Pr 215	13R-9E21	近世	Va N-1° W	0.23	0.21	0.14	0.14	0.14	8.91	円形	単層	1						
18	Pr 186	13R-9E17-21-22	近世	Va N-77° E	0.27	0.23	0.17	0.13	0.18	8.87	円形	単層	1						
18	Pr 188	13R-9E22	近世	Va N-20° E	0.47	0.37	0.18	0.12	0.21	8.86	楕円形	単層	1						
18	Pr 187	13R-9E22	近世	Va N-40° E	0.30	0.25	0.21	0.16	0.30	8.82	楕円形	単層	1						
18	Pr 189	13R-9E21-10E1	不明	Va N-68° W	0.24	0.21	0.12	0.11	0.21	8.80	円形	単層	1						
18	Pr 216	13R-9E21-10E1	不明	Va N-35° W	0.21	0.17	0.13	0.08	0.12	8.94	楕円形	単層	1						
18	Pr 257	13R-10E1	近世	Va N-56° W	0.18	0.17	0.08	0.07	0.20	8.85	円形	単層	1						
18	Pr 258	13R-10E2-7	不明	Va N-7° W	0.19	0.14	0.07	0.07	0.17	8.88	楕円形	単層	1						
18	Pr 260	13R-10E2-7	不明	Va N-50° E	0.21	0.19	0.11	0.09	0.10	8.95	円形	単層	1						
18	Pr 259	13R-10E7	近世	Va N-62° E	0.34	0.22	0.18	0.11	0.12	8.93	長楕円形	単層	1						
18	Pr 261	13R-10E7	近世	Va N-57° E	0.24	0.14	0.18	0.08	0.03	8.99	長楕円形	単層	1						
18	Pr 838	13R-10E6	不明	Va N-90°	0.21	0.17	0.14	0.10	0.08	8.88	楕円形	単層	1						
18	Pr 816	13R-10D3	不明	Va N-1° W	0.32	0.24	0.19	0.12	0.19	8.83	楕円形	単層	1						
18	Pr 819	13R-9D21	近世	Va N-3° W	0.15	0.12	0.08	0.06	0.16	8.84	楕円形	単層	1						
18-21	Pr 818	13R-10D1	近世	Va N-75° E	0.38	0.34	0.14	0.11	0.15	8.84	円形	単層	1						
18-21	Pr 840	13R-10C7	<NR500	不明	Va N-24° E	(0.20)	(0.19)	0.11	0.10	0.08	8.79	楕円形	単層	1					
18-21	Pr 297	13R-10C15	近世	Va N-15° E	0.27	0.26	0.15	0.14	0.19	8.82	円形	単層	1						

図版No.	写真図版 No.	SP記号	区	通構	グリッド	重複状況	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				底面標高 (m)	形態		堆積状況	礎土の有無	遺物の有無	遺物図版 No.	出土遺物備考
										上端		下端			平面	断面					
										長輪	短輪	長輪	短輪								
21-25		1 Pr 765	14R-2A14	<SD3, SZ865	不明	Va N-56°-E	0.43	0.23	0.08	0.07	0.17	8.51	長楕円形	台形	単層	1					
21-25		1 Pr 766	14R-2A14	<SD3, SZ865	不明	Va N-38°-E	(0.29)	(0.27)	0.18	0.14	0.13	8.87	長楕円形	台形	単層	1					
21-25-60	91	118	1 Pr 360	14R-2A15	<SD3, SZ865	近世以降	Va N-4°-W	(0.24)	(0.18)	0.13	0.12	0.28	8.76	楕円形	U字形	柱敷	2		SA871		
25-60	91	119	1 Pr 361	14R-2A20	<SZ865	近世以降	Va N-61°-W	0.24	0.21	0.12	0.11	0.37	8.72	円形	U字形	柱敷	2		SA871		
25			1 Pr 485	14R-2B17-18	<SZ865	近世以降	Va N-1°-E	0.29	0.28	0.11	0.06	0.26	8.78	円形	台形	単層	1				
25-60	92		1 Pr 362	14R-2A25	<SZ865	近世以降	Va N-51°-W	0.20	0.19	0.13	0.12	0.31	8.72	円形	台形	単層	1		SA871		
25-60	92	120	1 Pr 363	14R-3A5	<SD3, SZ865	近世以降	Va N-42°-W	(0.23)	(0.20)	0.16	0.12	0.31	8.71	円形	U字形	柱敷	3		SA871		
25			1 Pr 613	14R-3B1	<SD409	不明	Va N-55°-W	0.50	0.46	0.38	0.27	0.13	8.55	円形	台形	単層	1				
25-60	92	121	1 Pr 364	14R-3A5	<SD3, SZ865	近世以降	Va N-59°-E	(0.20)	(0.19)	0.11	0.10	0.31	8.70	円形	箱形	柱敷	2		SA871		
25			1 Pr 794	14R-3A10	不明	Va N-73°-E	(0.35)	0.21	(0.24)	0.13	0.07	8.92	楕円形	半円形	単層	1					
25			1 Pr 793	14R-3A9	不明	Va N-19°-E	0.19	0.16	0.09	0.08	0.04	8.94	円形	台形	単層	1					
21			1 Pr 611	14Q-2A4	不明	Va N-15°-W	0.50	0.21	0.42	0.13	0.10	8.85	楕円長方形	台形	単層	1					
21			1 Pr 807	14R-1A21	不明	Va N-36°-W	0.20	0.18	0.10	0.07	0.14	8.84	円形	半円形	単層	1					
21			1 Pr 806	14Q-1J25	不明	Va N-43°-E	0.24	0.20	0.15	0.10	0.09	8.84	楕円形	箱形	単層	1					
21			1 Pr 463	14Q-1J9	不明	Va N-41°-E	0.29	0.27	0.12	0.11	0.34	8.63	円形	台形	ブロック状	2					
21			1 Pr 469	14Q-1J4	<Ph461	不明	Va N-10°-W	0.32	(0.21)	0.04	(0.02)	0.47	8.50	楕円形	階段形	ブロック状	2				
21			1 Pr 461	14Q-1J4-9	<Ph469	不明	Va N-15°-W	0.57	0.30	0.10	0.09	0.59	8.38	楕円長方形	箱形	柱敷	3				
21			1 Pr 464	14Q-1J3-8	不明	Va N-0°	0.24	0.20	0.15	0.14	0.24	8.72	楕円形	台形	単層	1					
21			1 Pr 465	14Q-1J8	不明	Va N-89°-W	0.19	0.16	0.14	0.09	0.06	8.91	方形	箱形	単層	1					
20			1 Pr 458	14Q-1J2	不明	Va N-82°-W	0.35	0.31	0.11	0.09	0.24	8.83	円形	楕円形	ブロック状	2					
20			1 Pr 462	14Q-1J1-2	不明	Va N-4°-E	0.58	0.28	0.08	0.07	0.11	8.86	不整形	円形	ブロック状	2					
20			1 Pr 456	13Q-10J22	不明	Va N-40°-W	0.32	0.32	0.24	0.13	0.79	円形	台形	単層	1						
20			1 Pr 456	13Q-10J22	不明	Va N-20°-E	0.22	0.20	0.12	0.10	0.14	8.76	円形	台形	単層	1					
20			1 Pr 398	13Q-10J16	<NR500	不明	Va N-49°-E	(0.32)	(0.29)	0.23	0.19	0.06	8.49	円形	箱形	単層	1				
20			1 Pr 430	13Q-10J11	<NR500, Ph389	不明	Va N-2°-W	(0.20)	(0.28)	0.16	(0.13)	0.12	8.60	楕円形	箱形	単層	1				
20			1 Pr 389	13Q-10J11	<NR500, Ph430	不明	Va N-24°-W	(0.36)	(0.26)	0.19	0.10	0.20	8.66	楕円形	箱形	ブロック状	2				
20			1 Pr 432	13Q-10J8	不明	Va N-26°-E	0.28	0.27	0.15	0.14	0.16	8.77	円形	台形	単層	1					
20			1 Pr 444	13Q-10J6	不明	Va N-29°-W	0.26	0.24	0.07	0.07	0.29	8.69	円形	U字形	柱敷	2					
17-19-20			1 Pr 388	13Q-10J3	不明	Va N-62°-E	0.33	0.30	0.17	0.11	0.49	8.60	円形	階段形	柱敷	3					
19			1 Pr 428	13Q-9J22	不明	Va N-45°-W	0.18	0.17	0.11	0.11	0.09	8.85	円形	台形	単層	1					
19-20			1 Pr 426	13Q-9J21	不明	Va N-40°-E	0.33	0.27	0.17	0.15	0.26	8.80	楕円形	箱形	単層	1					
19-20			1 Pr 470	13Q-9J21	<SD446, 遺跡状遺構884	不明	Va N-52°-W	(0.40)	(0.37)	(0.27)	0.21	0.20	8.74	長楕円形	台形	単層	1				
19-20			1 Pr 429	13Q-10J2-7	不明	Va N-64°-W	0.27	0.23	0.10	0.06	0.30	8.72	円形	U字形	単層	1					
19-20			1 Pr 751	13Q-10H20	不明	Va N-67°-W	0.16	0.15	0.09	0.08	0.19	8.67	円形	U字形	単層	1					
19-20			1 Pr 752	13Q-10H20	不明	Va N-50°-W	0.20	0.18	0.10	0.09	0.23	8.65	円形	台形	単層	1					
19-20			1 Pr 753	13Q-10H20	不明	Va N-71°-W	0.22	0.15	0.12	0.08	0.21	8.67	楕円長方形	箱形	単層	1					
19			1 Pr 754	13Q-10H24	<SD448, 遺跡状遺構884	不明	Va N-53°-W	(0.28)	0.19	0.16	0.11	0.13	8.72	楕円形	台形	単層	1				
19-20			1 Pr 802	14Q-1J13	<NR500	不明	Va N-76°-E	(0.25)	(0.23)	0.09	0.08	0.15	8.49	円形	階段形	ブロック状	2				
19-20			1 Pr 803	14Q-1J13	<NR500	不明	Va N-42°-W	(0.31)	(0.24)	0.08	0.07	0.29	8.34	楕円形	U字形	単層	1				
19-20			1 Pr 762	14Q-1J8-13	<Ph761, NR500	不明	Va N-18°-W	(0.43)	(0.29)	(0.17)	(0.14)	0.14	8.66	楕円形	箱形	単層	1				
19-20			1 Pr 761	14Q-1J12-13	<NR500, Ph762	不明	Va N-40°-W	(0.46)	(0.31)	0.09	0.08	0.20	8.60	楕円形	台形	ブロック状	3				
19			1 Pr 764	14Q-1J13	<NR500	不明	Va N-4°-W	(0.28)	(0.19)	0.10	0.09	0.14	8.68	楕円形	半円形	単層	1				
19			1 Pr 763	14Q-1J16	<NR500	不明	Va N-22°-W	0.30	0.29	0.10	0.07	0.39	8.44	円形	U字形	ブロック状	3				
19			1 Pr 755	14Q-1J05-10	不明	Va N-65°-W	0.27	0.22	0.17	0.14	0.08	8.78	楕円形	台形	単層	1					
19			1 Pr 756	14Q-1JG14	不明	Va N-6°-E	0.30	0.24	0.11	0.10	0.10	8.75	楕円形	箱形	単層	1					
19-22			1 Pr 650	14Q-1F24	不明	Va N-20°-E	0.42	0.30	0.26	0.18	0.06	8.78	楕円形	箱形	単層	1					
19-22			1 Pr 649	14Q-1F16	不明	Va N-90°	0.22	0.21	0.11	0.09	0.17	8.79	方形	台形	単層	1					
19-22			1 Pr 648	14Q-1F16	不明	Va N-63°-W	0.40	0.26	0.19	0.12	0.28	8.50	楕円長方形	台形	ブロック状	3					
19-22			1 Pr 645	14Q-1E14	不明	Va N-30°-W	(0.42)	0.25	(0.31)	0.15	0.06	8.71	長楕円形	台形	単層	1					
19-22			1 Pr 646	14Q-1E19-24	不明	Va N-21°-E	0.45	0.27	0.34	0.20	0.05	8.73	長楕円形	箱形	単層	1					
22			1 Pr 674	14Q-2F16	<NR500	不明	Va N-61°-E	0.38	0.36	0.16	0.15	0.10	8.56	円形	半円形	単層	1				
22			1 Pr 673	14Q-2E14	<NR500	不明	Va N-58°-E	0.40	0.37	0.23	0.14	0.35	8.33	円形	箱形	ブロック状	2				
22			1 Pr 711	14Q-2D10	<NR500	不明	Va N-4°-E	0.15	0.15	0.08	0.07	0.16	8.50	円形	U字形	ブロック状	2				
22			1 Pr 717	14Q-2D9-10	<NR500	不明	Va N-59°-E	0.17	0.16	0.08	0.06	0.11	8.57	円形	箱形	単層	1				
22			1 Pr 727	14Q-2D9	<NR500	不明	Va N-39°-E	0.22	0.20	0.13	0.11	0.12	8.56	円形	箱形	単層	1				
22			1 Pr 715	14Q-2D8-9	<NR500	不明	Va N-10°-W	0.24	0.22	0.19	0.13	0.06	8.63	円形	半円形	単層	1				
22			1 Pr 714	14Q-2D8-9	不明	Va N-11°-E	0.19	0.16	0.12	0.12	0.11	8.57	円形	台形	単層	1					
22			1 Pr 728	14Q-2D9-14	<NR500	不明	Va N-50°-E	0.17	0.17	0.06	0.05	0.21	8.45	円形	台形	単層	1				
22			1 Pr 713	14Q-2D15	<NR500	不明	Va N-21°-W	0.20	0.18	0.08	0.07	0.10	8.58	円形	台形	単層	1				
22			1 Pr 712	14Q-2D13-14	不明	Va N-90°	0.22	0.21	0.16	0.12	0.06	8.66	円形	半円形	単層	1					
22			1 Pr 744	14Q-2D13	不明	Va N-10°-W	0.19	0.16	0.11	0.10	0.34	8.38	円形	半円形	単層	1					
22			1 Pr 743	14Q-2D12	不明	Va N-52°-E	0.21	0.18	0.10	0.10	0.05	8.70	円形	箱形	単層	1					
22			1 Pr 742	14Q-2D17	不明	Va N-10°-W	0.20	0.19	0.11	0.08	0.14	8.50	楕円形	箱形	単層	1					
22			1 Pr 741	14Q-2D16	不明	Va N-27°-E	0.16	0.15	0.08	0.07	0.07	8.71	円形	箱形	単層						

図版No.	写真図版No.	SP記号	区	遺構種別	遺構番号	グリッド	重複状況	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		堆積状況	礎土の有無	遺物の有無	遺物図版No.	出土遺物備考
											上端		下端		深度		平面	断面					
											長輪	短輪	長輪	短輪									
22-23-26-27		1 Prt 591			14Q-3F24-4F4	-Prt596	近世	Va	N-28°-E	0.52	0.34	0.25	0.15	0.23	8.63	長楕円形	圓形	ブロック状	2				
22-23-26-27		1 Prt 582			14Q-3F25		不明	Va	N-70°-W	0.17	0.16	0.10	0.08	0.15	8.70	円形	半円形	単層	1				
22-23-24-26-27		1 Prt 557			14Q-3F20・25		不明	Va	N-13°-E	0.42	0.25	0.14	0.08	0.25	8.58	長楕円形	階段形	柱敷	3				
22-23-24-26-27		1 Prt 554			14Q-3G11		近世	Va	N-42°-W	0.28	0.26	0.10	0.08	0.49	8.36	円形	階段形	単層	1				
22-23-24-26-27		1 Prt 555			14Q-3G11		不明	Va	N-89°-E	0.35	0.23	0.22	0.11	0.22	8.63	長楕円形	U字形	ブロック状	2				
22-23-24-26-27		1 Prt 556			14Q-3G11		近世	Va	N-50°-W	0.55	0.28	0.10	0.08	0.21	8.63	長楕円形	圓形	ブロック状	2				
22-24-26-27		1 Prt 804			14Q-3F5	SD448, 道路状況遺構884, <NR500	不明	Va	N-38°-W	(0.31)	0.23	0.16	0.11	0.14	8.58	楕円形	圓形	単層	1				
22-24-26		1 Prt 805			14Q-3F5, 3G1	SD448, 道路状況遺構884, <NR500	不明	Va	N-30°-E	(0.42)	(0.30)	(0.30)	(0.19)	0.17	8.57	楕円形	台形	単層	1				
24-26		1 Prt 558			14Q-3G1		不明	Va	N-48°-E	0.23	0.22	0.12	0.07	0.35	8.42	円形	U字形	ブロック状	2				
24-26		1 Prt 553			14Q-3G1・2・6		不明	Va	N-43°-E	0.66	0.47	0.52	0.32	0.05	8.77	楕円形	台形	単層	1				
24-26		1 Prt 789			14Q-3G2	<NR500	不明	Va	N-67°-W	0.22	0.15	0.06	0.05	0.23	8.54	楕円形	U字形	単層	1				
24-26		1 Prt 788			14Q-2G22	<NR500	不明	Va	N-15°-W	(0.31)	(0.22)	0.08	0.04	0.19	8.55	楕円形	半円形	単層	1				
24-26		1 Prt 790			14Q-2G22	>NR500	不明	Va	N-43°-E	0.14	0.14	0.09	0.06	0.30	8.48	円形	V字形	単層	1				
24-26		1 Prt 757			14Q-3G3		不明	Va	N-56°-W	0.18	0.16	0.11	0.08	0.12	8.71	円形	圓形	単層	1				
24		1 Prt 758			14Q-2G20	>NR500	不明	Va	N-0°	0.14	0.14	0.09	0.07	0.21	8.53	円形	U字形	単層	1				
24		1 Prt 759			14Q-2H7	<NR500	不明	Va	N-86°-W	(0.28)	(0.21)	0.07	0.06	0.10	8.61	楕円形	圓形	ブロック状	2				
24		1 Prt 760			14Q-2H7	<NR500	不明	Va	N-24°-E	(0.22)	(0.21)	0.19	0.10	0.16	8.59	円形	半円形	ブロック状	2				
24		1 Prt 501			14Q-2I3		近世	Va	N-73°-E	0.20	0.16	0.08	0.06	0.07	8.83	楕円形	台形	単層	1				
24		1 Prt 502			14Q-3I7		近世	Va	N-20°-W	0.25	0.22	0.17	0.10	0.08	8.83	円形	圓形	単層	1				
24		1 Prt 503			14Q-3I11		近世	Va	N-20°-W	0.24	0.20	0.03	0.03	0.13	8.76	楕円形	階段形	ブロック状	2				
24-26		1 Prt 504			14Q-3H2		近世	Va	N-90°	0.25	0.20	0.11	0.11	0.27	8.57	楕円形	U字形	ブロック状	2				
24-26		1 Prt 505			14Q-2H22		近世	Va	N-33°-W	0.39	0.31	0.16	0.12	0.47	8.37	楕円形	U字形	ブロック状	3				
24-26		1 Prt 801			14Q-3C4		不明	Va	N-88°-E	0.30	0.29	0.12	0.12	0.26	8.60	円形	箱形	単層	1				
24-26		1 Prt 791			14Q-3G9		不明	Va	N-60°-W	0.44	0.36	0.35	0.28	0.10	8.78	楕円形	圓形	単層	1				
24-26		1 Prt 552			14Q-3G8		不明	Va	N-40°-E	0.20	0.20	0.11	0.09	0.12	8.70	円形	台形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 547			14Q-3G11・12・16・17		不明	Va	N-35°-E	0.21	0.19	0.09	0.09	0.42	8.44	円形	U字形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 549			14Q-3G13・18		不明	Va	N-10°-E	0.46	0.23	0.22	0.09	0.15	8.71	長楕円形	半円形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 546			14Q-3G17		不明	Va	N-20°-E	0.22	0.17	0.09	0.08	0.12	8.73	楕円形	圓形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 550			14Q-3G17		不明	Va	N-30°-E	0.34	0.21	0.23	0.10	0.09	8.76	長楕円形	圓形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 545			14Q-3G17		不明	Va	N-20°-E	0.22	0.21	0.08	0.07	0.23	8.62	円形	台形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 543			14Q-3G18		不明	Va	N-0°	0.19	0.17	0.11	0.09	0.14	8.73	円形	半円形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 533			14Q-3G18		不明	Va	N-16°-W	0.22	0.19	0.12	0.12	0.12	8.74	円形	台形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 544			14Q-3G22		不明	Va	N-38°-W	0.17	0.16	0.10	0.09	0.12	8.74	円形	台形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 531			14Q-3G22・23		不明	Va	N-90°	0.70	0.47	0.14	0.13	0.25	8.60	楕円形	階段形	ブロック状	2				
23-24-26		1 Prt 551			14Q-3G22		不明	Va	N-33°-E	0.32	0.21	0.23	0.12	0.03	8.79	長楕円形	圓形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 548			14Q-3G21		不明	Va	N-4°-E	0.28	0.21	0.16	0.11	0.05	8.79	楕円形	台形	単層	1				
23-24-26-27		1 Prt 584			14Q-4G1		不明	Va	N-1°-E	0.16	0.15	0.07	0.07	0.12	8.69	円形	半円形	単層	1				
23-24-26-27		1 Prt 583			14Q-4G1		不明	Va	N-3°-W	0.20	0.18	0.10	0.08	0.17	8.63	円形	半円形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 562			14Q-4G1		不明	Va	N-48°-W	0.18	0.15	0.08	0.06	0.25	8.68	楕円形	U字形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 561			14Q-4G2		不明	Va	N-90°	0.18	0.17	0.09	0.08	0.21	8.62	円形	U字形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 559			14Q-4G7		近世	Va	N-23°-W	0.21	0.20	0.13	0.11	0.25	8.56	円形	U字形	ブロック状	2				
23-24-26		1 Prt 560			14Q-4G2		不明	Va	N-46°-E	0.21	0.17	0.10	0.07	0.16	8.68	楕円形	半円形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 530			14Q-4G2		近世	Va	N-1°-W	0.22	0.16	0.08	0.06	0.39	8.45	楕円形	U字形	ブロック状	2				
23-24-26		1 Prt 532			14Q-4G2		不明	Va	N-1°-W	0.18	0.16	0.10	0.07	0.17	8.65	円形	V字形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 522			14Q-4G3		不明	Va	N-49°-E	0.25	0.22	0.16	0.11	0.10	8.74	円形	階段形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 528			14Q-4G3		不明	Va	N-60°-W	0.31	0.22	0.20	0.11	0.17	8.68	楕円形	台形	ブロック状	2				
23-24-26		1 Prt 523			14Q-4G3・4		不明	Va	N-35°-E	0.16	0.15	0.09	0.09	0.15	8.69	円形	U字形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 529			14Q-4G4		不明	Va	N-20°-E	0.31	0.25	0.10	0.07	0.20	8.64	楕円形	階段形	ブロック状	2				
23-24-26		1 Prt 524			14Q-4G4		不明	Va	N-22°-E	0.18	0.18	0.15	0.09	0.11	8.73	円形	台形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 525			14Q-4G4		不明	Va	N-68°-E	0.17	0.17	0.12	0.11	0.11	8.73	円形	半円形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 506			14Q-4G5		不明	Va	N-68°-E	0.35	0.31	0.08	0.06	0.33	8.49	円形	階段形	ブロック状	2				
23-24-26		1 Prt 507			14Q-4G10		近世	Va	N-17°-W	0.23	0.18	0.12	0.11	0.40	8.42	楕円形	台形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 508			14Q-4H6		不明	Va	N-3°-E	0.25	0.25	0.17	0.13	0.17	8.64	円形	半円形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 537			14Q-4H7		不明	Va	N-62°-E	(0.26)	(0.26)	0.17	0.12	0.29	8.55	円形	台形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 542			14Q-4H6・7		不明	Va	N-0°	0.22	0.20	0.06	0.05	0.33	8.49	円形	U字形	単層	1				

図版No.	写真図版No.	SP記号	区	遺構種別	遺構番号	グリッド	重複状況	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		堆積状況	礎土の有無	遺物の有無	遺物図版No.	出土遺物備考
											上端		下端		深度		平面	断面					
											長輪	短輪	長輪	短輪									
23-24-26		1 Prt 538			14Q-4H7		不明	Va	N-21°-W	0.18	0.15	0.10	0.06	0.15	8.66	楕円形	U字形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 539			14Q-4H7		不明	Va	N-30°-W	0.26	0.23	0.11	0.07	0.45	8.37	楕円形	V字形	ブロック状	2				
23-24-26		1 Prt 534			14Q-4H6・7		不明	Va	N-50°-W	(0.49)	0.30	(0.37)	0.22	0.13	8.70	楕円形	台形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 535			14Q-4H7		不明	Va	N-27°-E	0.35	(0.31)	(0.19)	(0.15)	0.16	8.63	楕円形	長方形	半円形	単層	1			
23-24-26		1 Prt 536			14Q-4H6		不明	Va	N-0°	0.27	0.20	0.20	0.14	0.12	8.70	楕円形	台形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 512			14Q-4H6		不明	Va	N-88°-E	0.28	0.27	0.12	0.10	0.38	8.44	円形	U字形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 509			14Q-4H6		不明	Va	N-1°-W	0.23	0.20	0.09	0.08	0.24	8.57	円形	V字形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 510			14Q-4G10		不明	Va	N-12°-W	0.21	0.20	0.14	0.11	0.19	8.64	円形	台形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 511			14Q-4G10		近世	Va	N-15°-W	0.22	0.20	0.18	0.15	0.32	8.49	楕円形	U字形	単層	1				
23-24-26		1 Prt 527			14Q-4G9		近世	Va	N-0°	0.30	0.20	0.16	0.12	0.34	8.52	長楕円形	U字形	ブロック状	2				
23-24-26		1 Prt 520			14Q-4G9		不明	Va	N-1°														

図版No.	写真図版 No.	SP記号	区 画 番 号	遺構 種類 番号	グリッド	重複状況	時代	確認 方向	規模 (m)					底面 標高 (m)	形態		堆積状況	遺物の 有無	遺物図版 No.	出土遺物 備考			
									上端		下端		深度		平面	断面							
									長輪	短輪	長輪	短輪											
23-26				1 Prt 661	14Q-4E20		不明	Va	N-42°-E	0.19	0.17	0.09	0.09	0.15	8.58	円形	断面	単層	1				
23-26				1 Prt 597	14Q-4F22-23		近世	Va	N-14°-E	0.43	0.27	0.23	0.15	0.09	8.54	長楕円形	断面	単層	1				
23-26				1 Prt 660	14Q-4E25, 5E5		不明	Va	N-0°	0.22	0.21	0.09	0.07	0.27	8.31	円形	断面	単層	1				
23-26				1 Prt 657	14Q-5F1		不明	Va	N-0°	0.14	0.13	0.08	0.08	0.05	8.47	円形	断面	単層	1				
23-26				1 Prt 659	14Q-5E5		不明	Va	N-61°-W	0.23	0.21	0.11	0.09	0.24	8.26	円形	断面	単層	1				
23-26				1 Prt 658	14Q-5E5, 5F1		不明	Va	N-44°-E	0.19	0.18	0.12	0.11	0.28	8.21	円形	断面	単層	1				
23-26				1 Prt 656	14Q-5F1		近世	Va	N-13°-W	0.27	0.24	0.17	0.15	0.14	8.36	円形	断面	単層	1				
23-26				1 Prt 655	14Q-5F1		近世	Va	N-52°-W	0.24	0.22	0.16	0.15	0.14	8.39	円形	断面	単層	1				
23-26				1 Prt 654	14Q-5F6		不明	Va	N-49°-W	0.18	0.16	0.10	0.21	0.11	8.22	円形	断面	単層	1				
72-84	106	1A-a	2	SE 403	14R-3G5-9, 10-15, 5H6-11		中世	Va	N-86°-E	2.71	2.48	1.21	0.98	1.09	7.95	円形	断面	レンズ状	12	有	200-202	珠洲焼/灰・片貝・陶器/瓦・石/礎	
72-85-96-111	106	2A-a	2	SE 405	14R-5G13-14, 15-18-19		中世	Va	N-28°-E	2.55	2.54	1.57	1.49	1.89	7.10	円形	断面	水平レンズ	19	有	200-226	珠洲焼/灰・片貝・陶器/瓦・石/礎	
72-74-86	107	3A-a	2	SE 434	14R-5G17-18, 22-23		中世	Va	N-16°-E	2.94	1.58	0.77	0.72	1.01	7.99	長楕円形	断面	ブロック状	14			土師器/無台帳・青磁/甕・黒・珠洲焼/礎	
74-87-116	107	4A-a	2	SE 783	14R-6F9-10, 14-15		中世	Va	N-1°-E	2.54	2.52	1.76	1.58	1.53	7.45	円形	断面	ブロック状	11	有	200	土師器/無台帳・青磁/甕・黒・珠洲焼/礎	
73-74-88-132	27-107	5A-a	2	SE 1409	14R-6F11-12, 16-17		中世	Va	N-32°-W	2.10	1.60	0.61	0.60	1.31	7.60	楕円形	断面	レンズ状	7	有	200-229	珠洲焼/灰・片貝・陶器/瓦・石/礎	
74-75-89	107	6A-a	2	SE 519	14R-6G14-15, 19-20-24		下段1※	中世	Va	N-17°-E	2.91	2.70	1.36	0.88	1.74	7.24	円形	断面	レンズ状	13	有	200-231, 221-226, 230-231	下段2※
					下段1※																		
					下段2※																		
75-89	108	7A-a	2	SE 538	14R-6H20-25, 61E-21		中世	Va	N-38°-E	1.02	0.88	0.52	0.46	1.27	7.73	円形	断面	レンズ状	7	有	221	石/磨石	
75-89	108	8A-a	2	SE 136	14R-6H24-25, 7H4-5		中世	Va	N-8°-W	1.54	1.38	0.48	0.35	1.15	7.89	円形	断面	レンズ状	4	有	200	珠洲焼/灰・片貝・陶器/瓦・石/礎	
75-90-141	28-108	9A-a	2	SE 446	14R-6H22-23, 7H2-3		中世	Va	N-11°-E	2.72	2.36	1.05	0.80	1.21	7.81	円形	断面	レンズ状	10	有	200-222, 224-230	珠洲焼/灰・片貝・陶器/瓦・石/礎	
74-75-91	108	10A-a	2	SE 447	14R-7G4-5		近世	Va	N-50°-E	1.00	0.92	0.46	0.42	1.29	7.64	円形	断面	レンズ状	5			土師器/無台帳・青磁/甕・黒・珠洲焼/礎	
73-91-92	109	11A-a	2	SE 1027	14R-7D11-12, 13-16-17, 18		中世	Va	N-1°-E	2.68	2.60	1.73	0.78	1.07	7.76	円形	断面	レンズ状	7	有	199	土師器/無台帳・青磁/甕・黒・珠洲焼/礎	
73-76-92-93	109-154	12A-a	2	SE 1028	14R-8C4-5-9, 10, 8D1-6		下段※	中世	Va	N-67°-E	2.50	2.39	0.81	0.70	1.04	7.80	円形	断面	レンズ状	10	有	225	土師器/無台帳・青磁/甕・黒・珠洲焼/礎
74-93-94	28-109	13A-a	2	SE 728	14R-7C21-22, 8G1-2		中世	Va	N-12°-W	1.68	1.55	0.68	0.67	1.38	7.56	円形	断面	水平レンズ	9	有	220-257	石/磨石・礎・木/板材	
77-94	29-109	14A-a	2	SE 732	14R-8G13		中世	Va	N-70°-E	1.55	1.51	0.78	0.70	1.29	7.60	円形	断面	水平レンズ	7	有	220-257	石/磨石・礎・木/板材	
77-95	109	15A-a	2	SE 1203	14R-8F24-25, 9F4-5		中世	Va	N-0°	2.10	2.02	1.02	0.87	1.05	7.80	円形	断面	ブロック状	7	有	231	石/台石	
75-95	110	16A-a	2	SE 137	14R-7H14-19		中世	Va	N-23°-W	1.65	1.57	1.06	0.67	1.22	7.79	円形	断面	レンズ状	5	有	201	珠洲焼/礎	
75-78-95	110	17A-a	2	SE 444	14R-7H22-23, 8H2-3		下段1※	近世	Va	N-77°-E	2.34	2.26	1.06	0.78	0.92	8.14	円形	断面	ブロック状	11	有	202-218, 230-231, 235-236	下段2※
75-78-95					下段1※																		
					下段2※																		
75-78-96	110	18A-a	2	SE 1818	14R-8J20-21, 216, SA2003-SA2004, SD800, SN2014		下段※	近世	Va	N-20°-E	(3.06)	3.04	1.13	0.95	0.87	8.14	楕円形	断面	レンズ状	7	有		陶器/瓦
75-78-96-97	110-111	19A-a	2	SE 351	14R-7H25, 8H4-9, 10, 8H1-6		近世	Va	N-44°-W	3.05	2.87	2.50	2.14	1.25	7.78	円形	断面	水平	10	有	201-203, 223-227, 233	下段3※	
75-78-96-97					下段※																		
75-78-96-97					下段3※																		
75-78-96-97	111	20A-a	2	SE 846	14R-8J9-10, 14-15		近世	Va	N-69°-W	1.99	(1.55)	(0.38)	(0.33)	0.99	7.99	楕円形	断面	レンズ状	5	有	230	石/台石	
75-78-96-97	111	21A-a	2	SE 847	14R-8J10-15, 8J1-6-11		中世	Va	N-31°-E	3.16	(1.62)	1.35	(0.49)	1.09	7.91	楕円形	断面	ブロック状	9	有	201-218	珠洲焼/灰・片貝・陶器/瓦・石/礎	
75-78-96-97	111	22A-a	2	SE 383	14R-8J6-11		近世	Va	N-61°-W	1.21	1.09	0.78	0.69	1.14	7.86	楕円形	断面	水平	6			土師器/無台帳	
75-78-96-97	111	23A-a	2	SE 382	14R-8H8-9, 13, 14		近世	Va	N-50°-E	1.72	1.58	0.69	0.66	0.97	8.04	円形	断面	レンズ状	7	有		土師器/無台帳	
75-78-98	112	24A-a	2	SE 482	14R-8H15-20, 8H11-16		近世	Va	N-10°-W	1.82	1.69	0.81	0.62	0.85	8.11	円形	断面	水平	10			土師器/無台帳	
75-78-99	112	25A-a	2	SE 4	14S-8A7		中世	Va	N-64°-W	1.68	1.50	1.18	1.00	0.46	8.58	円形	断面	レンズ状	7	有	199-201	須恵器/灰・珠洲焼/灰・片貝・陶器/瓦・石/礎	
78-100	112	26A-a	2	SE 251	下段1※		近世	Va	N-0°	2.34	2.24	1.00	0.93	0.94	8.18	円形	断面	ブロック状	11	有	203-225, 229	下段2※	
78-101	112	27A-a	2	SE 392	14S-9A1-6, 7, 14R-9J10		近世	Va	N-75°-E	2.50	1.28	(1.34)	(0.85)	0.99	8.08	楕円形	断面	レンズ状	8	有	199	須恵器/無台帳・石/礎	
78-102	113	28A-a	2	SE 23	14R-9J4-5-9, 10		近世	Va	N-14°-W	1.20	1.12	0.80	0.72	0.75	8.27	円形	断面	レンズ状	8	有	199-223, 226	下段3※	
78-102					下段3※																		
78-102	113	29A-a	2	SE 709	14R-8H20-25, 8H16-17, 21-22		近世	Va	N-48°-W	3.15	3.00	1.00	1.68	1.26	7.75	円形	断面	水平レンズ	7	有	220-235	下段3※	
78-104-105	113	30A-a	2	SE 845	14R-9J5-10, 9J1-6		近世	Va	N-77°-E	2.16	(1.86)	0.64	0.52	0.99	7.97	円形	断面	レンズ状	9	有	223-235	石/磨石・礎・石/不定形石器	
78-104-105	113	31A-a	2	SE 449	14R-9J10-15, 9J6-11		近世	Va	N-30°-E	3.94	3.46	2.46	2.37	1.20	7.86	円形	断面	ブロック状	10	有	203-219, 221-223, 227-229, 234-240, 255-256, 258-259	下段3※	
78-104-105					下段3※																		
					下段4※																		

図版No.	写真図版 No.	SP記号	区 画 番 号	遺構 種類 番号	グリッド	重複状況	時代	確認 方向	規模 (m)					底面 標高 (m)	形態		堆積状況	遺物の 有無	遺物図版 No.	出土遺物 備考			
									上端		下端		深度		平面	断面							
									長輪	短輪	長輪	短輪											
78-106-107-126	29-114	32A-a	2	SE 734	14R-9H8-9, 13-14-15		近世	Va	N-33°-W	2.88	2.20	0.80	0.80	2.98	6.00	楕円形	断面	ブロック状	12	有	201-203, 220-222, 233-249, 256-258	下段3※	
78-108-109	114	33A-a	2	SE 647	下段1※		中世	Va	N-48°-E	2.85	2.67	1.57	1.47	1.39	7.54	円形	断面	レンズ状	10	有	201-220, 225-236	下段2※	
77-109	114-115	34A-a	2	SE 1509	14R-9F25, 9G21, 10F5, 10G1		下段※	中世	Va	N-9°-E	1.30	1.21	0.75	0.70	0.75	7.64	円形	断面	レンズ状	8			
77-110	115	35A-a	2	SE 1022	14R-10E4-5, 9-10		下段※	中世	Va	N-77°-E	2.13	1.90	1.20	1.10	1.11	7.80	円形	断面	レンズ状	6	有	231	石/台石
73-74-158	30-31-32-33	36A-B	2	ST 1621	14R-7E1-2, 6-D-E		中世	Va	N-18°-E	1.68	1.24	1.60	1.14	0.20	8.56	楕円							

Table with columns: 図版No., 写真図版No., SP記号, 遺構, グリッド, 重複状況, 時代, 確認, 主軸方向, 規模(m), 底面標高(m), 形態, 堆積状況, 遺物の有無, 遺物図版No., 出土遺物備考. Includes detailed data for various archaeological sites and structures.

Table with columns: 図版No., 写真図版No., SP記号, 遺構, グリッド, 重複状況, 時代, 確認, 主軸方向, 規模(m), 底面標高(m), 形態, 堆積状況, 遺物の有無, 遺物図版No., 出土遺物備考. Includes detailed data for various archaeological sites and structures, continuing from the previous table.

Table with columns: 図版No., 写真図版No., SP記号, 区別, 遺構, グリッド, 重複状況, 時代, 断面, 主軸方向, 規模(m), 底面標高(m), 形態, 堆積状況, 覆土の有無, 遺物の有無, 遺物図版No., 出土遺物備考. Includes detailed data for various archaeological sites and structures.

Table with columns: 図版No., 写真図版No., SP記号, 区別, 遺構, グリッド, 重複状況, 時代, 断面, 主軸方向, 規模(m), 底面標高(m), 形態, 堆積状況, 覆土の有無, 遺物の有無, 遺物図版No., 出土遺物備考. Includes detailed data for various archaeological sites and structures.

図版No.	写真図版No.	SP記号	遺構 種別 番号	グリッド	重複状況	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)					底面 標高 (m)		形態		堆積状況	礎土の有無	遺物の有無	遺物図版No.	出土遺物備考
									上端		下端		深度	平面	断面	長輪	短輪					
									長輪	短輪	長輪	短輪										
72-171	204・205・207	354	2 Prt 74	14R-5H2	近世以降	Va	N-90°	0.24	0.22	0.16	0.14	0.16	8.91	円形	半円形	単層	1			SA1997		
72-171	205・207		2 Prt 355	14R-5H2	不明	Va	N-30°-W	0.22	0.18	0.12	0.08	0.06	9.01	楕円形	楕円形	単層	1					
72-171	205・207	355	2 Prt 190	14R-5H2	近世以降	Va	N-42°-E	0.24	0.20	0.10	0.10	0.23	8.84	楕円形	U字形	単層	1			SA1998		
72-171	205・207		2 Prt 189	14R-5H2	不明	Va	N-56°-W	0.15	0.14	0.06	0.05	0.10	8.96	円形	圓形	単層	1					
72-171			2 Prt 191	14R-5H2	近世以降	Va	N-6°-E	0.22	0.22	0.16	0.14	0.22	8.83	円形	U字形	単層	1					
72-171	208		2 Prt 71	14R-5H2・7	近世以降	Va	N-1°-W	0.24	0.24	0.15	0.13	0.29	8.76	円形	半円形	単層	1					
72-171	208	355	2 Prt 72	14R-5H2・7	近世以降	Va	N-74°-W	0.24	0.22	0.13	0.12	0.22	8.82	円形	半円形	単層	1			SA1998		
72-171	205	354	2 Prt 73	14R-5H2・7	近世以降	Va	N-1°-E	0.24	0.22	0.14	0.13	0.07	8.99	円形	圓形	単層	1			SA1997		
72-171			2 Prt 192	14R-5H7	近世以降	Va	N-32°-W	0.26	0.26	0.16	0.13	0.25	8.80	円形	U字形	単層	1					
72-171			2 Prt 193	14R-5H7	不明	Va	N-0°	0.18	0.18	0.10	0.08	0.07	8.99	円形	台形	単層	1					
72-171			2 Prt 195	14R-5H7	<Ph194	近世以降	Va	N-74°-W	0.25	(0.18)	(0.08)	(0.06)	0.19	8.86	楕円形	箱形	水平	2				
72-171			2 Prt 194	14R-5H7	>Ph195	近世以降	Va	N-25°-W	0.26	0.18	0.10	0.08	0.20	8.86	楕円形	箱形	単層	1				
72-171			2 Prt 199	14R-5H6	不明	Va	N-66°-E	0.24	0.20	0.13	0.06	0.14	8.88	円形	半円形	単層	1					
72-171	208	355	2 Prt 198	14R-5H6・7	近世以降	Va	N-32°-W	0.22	0.20	0.12	0.10	0.21	8.84	円形	箱形	単層	1			SA1998		
72-171	205	315	2 Prt 196	14R-5H6	>Ph197	近世以降	Va	N-10°-W	0.24	0.22	0.16	0.10	0.06	9.00	円形	圓形	単層	1			SA1997	
72-171	205	319	2 Prt 197	14R-5H6	<Ph196, <Ph197	近世	Va	N-13°-W	0.28	(0.18)	0.14	(0.14)	0.25	8.80	楕円形	台形	単層	1				
72-171			2 Prt 198	14R-5H6・7	>SE403	中世	Va	N-2°-W	(0.32)	0.29	(0.12)	0.08	0.18	8.82	円形	半円形	斜位	2				
72-171	205	354	2 Prt 237	14R-5H6	近世以降	Va	N-44°-W	0.22	0.22	0.16	0.12	0.07	8.98	円形	圓形	単層	1			SA1997		
72-171	208	355	2 Prt 200	14R-5H6	近世以降	Va	N-43°-W	0.22	0.21	0.14	0.10	0.25	8.80	円形	圓形	単層	1			SA1998		
72-171			2 Prt 233	14R-5H6・11	>Ph234	不明	Va	N-83°-E	0.17	0.10	0.06	0.04	0.04	9.00	円形	半円形	単層	1				
72-171			2 Prt 234	14R-5H11	<Ph233	不明	Va	N-90°	0.22	(0.14)	(0.11)	0.12	8.93	楕円形	半円形	単層	1					
72-171			2 Prt 236	14R-5H11	>Ph235	近世以降	Va	N-78°-W	0.24	(0.22)	0.13	0.12	0.22	8.82	楕円形	U字形	単層	2				
72-171			2 Prt 235	14R-5H6・11	>Ph236	近世以降	Va	N-77°-W	0.22	0.18	0.11	0.10	0.17	8.88	楕円形	箱形	単層	2				
72-171			2 Prt 414	14R-5H6・11	>SE403	不明	Va	N-67°-W	0.40	0.28	0.31	0.18	0.09	8.95	楕円形	箱形	単層	1				
72-171			2 Prt 934	14R-5H11	不明	Va	N-32°-W	0.30	0.28	0.13	0.10	0.32	8.70	円形	階段状	ブロック状	5					
72-171			2 Prt 273	14R-5H11・16	近世	Va	N-34°-E	0.46	0.36	0.22	0.17	0.33	8.71	楕円形	階段状	ブロック状	2					
72-159	164	338a・c	2 Prt 348	14R-5H11	>SD1426	不明	Va	N-5°-W	0.36	0.36	0.10	0.08	0.38	8.65	円形	U字形	ブロック状	4	有	221	石/磨石	
72-159	164	338a	2 Prt 349	14R-5H11・16	>SD1426	中世	Va	N-10°-W	0.22	0.16	0.12	0.06	0.19	8.84	楕円形	半円形	単層	1			SB2006	
72-159			2 Prt 350	14R-5G15	>SD1426	不明	Va	N-2°-E	0.23	0.19	0.13	0.09	0.15	8.85	楕円形	半円形	単層	1				
72-159			2 Prt 354	14R-5G15, 5H11	不明	Va	N-37°-E	0.19	0.16	0.12	0.08	0.08	8.94	円形	半円形	単層	1					
72-159			2 Prt 240	14R-5G15	>SD1427, Ph241	近世以降	Va	N-46°-E	0.25	0.20	0.15	0.13	0.07	8.94	楕円形	圓形	単層	1				
72-159			2 Prt 241	14R-5G15	<Ph240, <SD1457	近世以降	Va	N-43°-E	0.25	0.07	0.11	(0.06)	0.16	8.85	長楕円形	箱形	単層	1				
72-159			2 Prt 239	14R-5G15, 5H11	>Ph238	近世以降	Va	N-20°-W	0.24	(0.06)	0.15	(0.04)	0.13	8.89	楕円形	U字形	単層	1				
72-159			2 Prt 238	14R-5H11	>Ph239	近世以降	Va	N-8°-W	0.25	0.24	0.14	0.12	0.20	8.82	円形	U字形	単層	1				
72-159			2 Prt 678	14R-5G15	不明	Va	N-64°-E	0.18	0.16	0.08	0.06	0.40	8.58	円形	台形	単層	1					
72-159	161・162	202・337a	2 Prt 675	14R-5G14・15	中世	Va	N-87°-E	0.42	0.32	0.31	0.19	0.21	8.77	楕円形	ブロック状	4				SB2024		
72-159			2 Prt 1407	14R-5G14・15	>SE403, Ph435	中世	Va	N-26°-E	(0.58)	0.51	0.31	0.15	8.82	楕円長方形	台形	ブロック状	2					
72-85・111	106		2 Prt 435	14R-5G9・14	>SE405, Ph1407	中世	Va	N-85°-E	0.78	0.72	0.42	0.34	0.14	8.83	円形	半円形	単層	2				
72-159			2 Prt 1390	14R-5G9	不明	Va	N-44°-E	0.16	0.14	0.07	0.07	0.07	8.93	円形	半円形	単層	1					
72-159			2 Prt 254	14R-5G3・8	近世以降	Va	N-12°-E	0.57	0.50	0.28	0.26	0.25	8.81	円形	台形	レンズ状	2					
72-159	161	337a	2 Prt 260	14R-5G7	近世以降	Va	N-2°-E	0.25	0.21	0.12	0.09	0.13	8.91	円形	半円形	単層	1					
72-159	161	337a	2 Prt 356	14R-5G8	中世	Va	N-27°-W	0.30	0.29	0.18	0.11	0.27	8.76	円形	台形	単層	1			SB2024		
72-159			2 Prt 1429	14R-5G15	不明	Va	N-44°-W	0.26	0.22	0.11	0.11	0.38	8.58	楕円長方形	U字形	単層	1					
72-159	163	338a・f	2 Prt 243	14R-5G15	中世	Va	N-68°-W	0.27	0.25	0.15	0.13	0.14	8.88	円形	階段状	単層	1			SB2006		
72-159			2 Prt 242	14R-5G15	近世以降	Va	N-56°-E	0.33	0.26	0.20	0.14	0.20	8.83	楕円形	半円形	単層	1					
72-159	168	214・338a・d・e	2 Prt 245	14R-5G15	中世	Va	N-75°-W	0.36	0.33	0.14	0.12	0.32	8.68	円形	U字形	柱状	4	有	236	SB2007 金属製品/厨 俵		
72-159			2 Prt 250	14R-5G15・20	>Ph249	近世以降	Va	N-33°-E	0.16	(0.13)	0.09	0.09	0.14	8.88	楕円形	U字形	単層	1				
72-159			2 Prt 249	14R-5G15・20	>Ph250	近世以降	Va	N-34°-E	0.25	0.20	0.18	0.10	0.14	8.88	楕円形	U字形	水平	2				
72-159			2 Prt 246	14R-5G15・20	>Ph408	近世以降	Va	N-17°-E	0.23	0.18	0.14	0.10	0.18	8.82	楕円形	箱形	単層	1				
72-159			2 Prt 408	14R-5G15・20	<Ph246, <Ph341, <SB2006	中世	Va	N-43°-W	0.48	0.47	0.14	0.10	0.43	8.58	円形	U字形	水平	6				
72-159	165	338e	2 Prt 341	14R-5G20	>Ph408	中世	Va	N-50°-W	0.29	0.25	0.16	0.15	0.38	8.62	円形	階段状	単層	1			SB2006	
72-159			2 Prt 244	14R-5G20	不明	Va	N-34°-W	0.27	0.26	0.12	0.10	0.19	8.80	円形	台形	単層	1					
72-159			2 Prt 247	14R-5G19・20	不明	Va	N-81°-W	0.26	0.24	0.18	0.10	0.12	8.86	円形	半円形	単層	1					
72-159			2 Prt 343	14R-5G19・20	不明	Va	N-8°-E	0.20	0.16	0.13	0.08	0.16	8.83	楕円形	半円形	単層	1					
72-159			2 Prt 342	14R-5G19	不明	Va	N-80°-E	0.16	0.15	0.09	0.08	0.05	8.93	円形	圓形	単層	1					
72-159			2 Prt 407	14R-5G19	<Ph256・406	不明	Va	N-20°-W	0.23	(0.18)	0.16	0.14	0.08	8.88	楕円形	箱形	単層	1				
72-159			2 Prt 256	14R-5G19	>Ph406・407	近世以降	Va	N-36°-E	0.18	0.16	0.09	0.07	0.13	8.84	円形	半円形	単層	1				
72-159			2 Prt 406	14R-5G19	<Ph256, <Ph407	不明	Va	N-85°-E	0.21	0.17	0.12	0.10	0.08	8.88	楕円形	圓形	単層	1				
72-159			2 Prt 248	14R-5G19	近世以降	Va	N-40°-E	0.21	0.18	0.14	0.10	0.10	8.87	円形	台形	単層	1					
72-159			2 Prt 255	14R-5G19	不明	Va	N-70°-W	0.24	0.10	0.13	0.05	0.09	8.88	長楕円形	箱形	単層	1					
72-159	162		2 Prt 1454	14R-5G20	不明	Va	N-70°-W	0.23	0.20	0.12	0.09	0.10	8.85	円形	圓形	単層	1					

図版No.	写真図版No.	SP記号	遺構 種別 番号	グリッド	重複状況	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)					底面 標高 (m)		形態		堆積状況	礎土の有無	遺物の有無	遺物図版No.	出土遺物備考
									上端		下端		深度	平面	断面	長輪	短輪					
									長輪	短輪	長輪	短輪										
72-74・159	165	206・338b	2 Prt 347	14R-5H16	>Ph518	中世	Va	N-82°-E	0.48	0.39	0.16	0.12	0.46	8.53	楕円形	U字形	ブロック状	5			SB2006	
72-159	165	206・339a	2 Prt 348	14R-5H16	不明	Va	N-20°-E	0.27	(0.19)	0.17	(0.10)	0.07	8.89	楕円形	箱形	単層	1					
72-159	164	204・338a	2 Prt 271	14R-5H17	>Ph272	中世	Va	N-86°-E	0.33	0.32	0.08	0.08	0.31	8.70	円形	階段状	ブロック状	4	有	225	SB2006 石/磨石+歳 石	
72-159	164	204	2 Prt 272	14R-5H17	<Ph271, <SB2006	不明	Va	N-66°-W	0.32	(0.20)	0.12											

図版No.	写真図版No.	SP記号	区	遺構番号	グリッド	重複状況	時代	観測点	主軸方向	規模 (m)				底面標高 (m)	形態		堆積状況	遺物の有無	遺物図版No.	出土遺物備考	
										上端		下端			深度	平面					断面
										長軸	短軸	長軸	短軸								
72		2 Pr	279	14R-SG13		不明	Va	N-26°-E	0.35	0.33	0.23	0.16	0.13	8.88	円形	単層	2				
72-159	162	2 Pr	285	14R-SG18		不明	Va	N-70°-E	0.26	0.22	0.07	0.04	0.26	8.74	円形	単層	1		SB2024		
72		2 Pr	286	14R-SG17		不明	Va	N-42°-E	0.20	0.20	0.10	0.09	0.08	8.92	円形	単層	1				
72		2 Pr	1410	14R-SG12-17		不明	Va	N-37°-W	0.35	0.25	0.20	0.12	0.12	8.88	楕円形	単層	1				
72		2 Pr	284	14R-SG18		不明	Va	N-30°-E	0.27	0.20	0.04	0.04	0.19	8.82	楕円形	単層	2				
72-74		2 Pr	280	14R-SG17		不明	Va	N-6°-E	0.29	0.18	0.08	0.07	0.23	8.78	長楕円形	単層	2				
72-74	116	2 Pr	1386	14R-SG16-17		不明	Va	N-58°-W	0.47	(0.32)	(0.18)	0.10	0.10	8.89	楕円形	単層	1				
72-74	116	2 Pr	1387	14R-SG16		不明	Va	N-51°-W	(0.35)	0.31	(0.28)	0.23	0.11	8.89	楕円形	単層	1				
72-74	116	2 Pr	1385	14R-SG16-17		不明	Va	N-86°-E	0.27	0.19	0.14	0.10	0.11	8.88	楕円形	単層	1				
72-74		2 Pr	307	14R-SG16		不明	Va	N-3°-W	0.23	0.20	0.13	0.08	0.42	8.60	円形	単層	1				
72-74		2 Pr	308	14R-SG16-17		不明	Va	N-4°-E	0.19	0.16	0.11	0.10	0.11	8.90	円形	単層	1				
72-74		2 Pr	309	14R-SG16-17		不明	Va	N-40°-W	0.23	0.23	0.12	0.11	0.15	8.85	円形	単層	1				
72-74		2 Pr	310	14R-SF20-5G16		不明	Va	N-53°-E	0.40	0.37	0.22	0.18	0.46	8.56	円形	単層	3				
72-74		2 Pr	401	14R-SF20		不明	Va	N-1°-E	0.24	0.22	0.11	0.10	0.20	8.78	円形	単層	1				
72-74		2 Pr	380	14R-SF20		不明	Va	N-42°-E	0.25	0.18	0.13	0.12	0.07	8.92	楕円形	単層	1				
72-74		2 Pr	379	14R-SF20-25		不明	Va	N-5°-W	0.18	0.17	0.10	0.10	0.06	8.94	円形	単層	1				
72-74		2 Pr	378	14R-SF25		不明	Va	N-55°-W	0.19	0.17	0.10	0.08	0.08	8.91	円形	単層	1				
72-74		2 Pr	1402	14R-SF25		不明	Va	N-79°-E	0.20	0.16	0.08	0.06	0.05	8.93	楕円形	単層	1				
72-74		2 Pr	1403	14R-SF25		不明	Va	N-70°-E	0.16	0.13	0.08	0.05	0.08	8.90	楕円形	単層	1				
72-74		2 Pr	338	14R-SF25-GF5		不明	Va	N-32°-E	0.25	0.23	0.09	0.08	0.06	8.93	円形	単層	1				
72-74		2 Pr	1376	14R-SG21		不明	Va	N-5°-W	0.15	0.15	0.06	0.06	0.06	8.93	円形	単層	1				
72-74		2 Pr	1379	14R-SF25-GC21		不明	Va	N-83°-W	0.19	0.14	0.07	0.04	0.13	8.87	楕円形	単層	1				
72-74		2 Pr	1378	14R-SG21		不明	Va	N-85°-E	0.23	0.18	0.10	0.07	0.15	8.85	楕円形	単層	1				
72-74		2 Pr	1377	14R-SG21		不明	Va	N-56°-W	0.16	0.15	0.08	0.07	0.18	8.82	楕円形	単層	1				
72-74		2 Pr	306	14R-SG21		不明	Va	N-89°-E	0.28	0.22	0.15	0.09	0.25	8.74	楕円形	単層	1				
72-74	162-159	2 Pr	1371	14R-GC22		不明	Va	N-15°-W	0.33	0.26	0.21	0.15	0.25	8.70	楕円形	単層	1		SB2024		
72-74		2 Pr	269	14R-GC23		不明	Va	N-85°-E	0.20	0.20	0.11	0.09	0.13	8.87	円形	単層	1				
72-74		2 Pr	268	14R-GC23		不明	Va	N-9°-E	0.25	0.23	0.12	0.11	0.23	8.66	円形	単層	3				
72-74		2 Pr	267	14R-GC23		不明	Va	N-29°-E	0.21	0.18	0.15	0.15	0.21	8.74	円形	単層	1				
72-74	163	2 Pr	266	14R-GC23		不明	Va	N-55°-E	0.32	0.23	0.16	0.15	0.29	8.69	楕円形	単層	1		SB2024		
72-74		2 Pr	288	14R-GC23		不明	Va	N-86°-W	0.26	0.20	0.12	0.10	0.09	8.91	楕円形	単層	2				
72-74		2 Pr	289	14R-GC23		不明	Va	N-53°-W	0.61	(0.50)	0.51	0.30	0.09	8.90	楕円形	単層	1				
72-74		2 Pr	259	14R-GC23		不明	Va	N-45°-W	0.25	0.21	0.16	0.10	0.12	8.87	円形	単層	1				
72-74		2 Pr	263	14R-GC23		不明	Va	N-32°-W	0.15	0.12	0.11	0.07	0.09	8.90	楕円形	単層	2				
72-74		2 Pr	264	14R-GC23-24		不明	Va	N-18°-W	0.25	0.22	0.13	0.12	0.18	8.82	円形	単層	2				
72-74		2 Pr	265	14R-GC23		不明	Va	N-59°-W	0.30	0.25	0.25	0.13	0.25	8.73	楕円形	単層	1				
72-74		2 Pr	276	14R-GC23-GC3		不明	Va	N-26°-E	0.80	0.59	0.38	0.35	0.14	8.83	楕円形	単層	1				
72-74		2 Pr	275	14R-GC24		不明	Va	N-31°-W	0.57	0.51	0.36	0.27	0.15	8.83	楕円形	単層	1				
72-74	169	2 Pr	262	14R-GC24		不明	Va	N-9°-E	0.33	0.22	0.18	0.10	0.10	8.86	楕円形	単層	1		SB2007		
72-74	169	2 Pr	418	14R-GC24		不明	Va	N-17°-E	0.22	0.20	0.10	0.07	0.30	8.64	円形	単層	1		SB2006		
72-74	167	2 Pr	368	14R-GC24		不明	Va	N-32°-W	0.33	0.27	0.13	0.11	0.46	8.29	楕円形	単層	1		SB2007		
72-74		2 Pr	304	14R-GC4		不明	Va	N-3°-W	0.30	0.26	0.14	0.10	0.30	8.66	円形	単層	5				
74-159	163	2 Pr	1329	14R-GC3-4		不明	Va	N-72°-W	0.27	0.17	0.13	0.08	0.26	8.67	長楕円形	単層	4		SB2024		
74		2 Pr	1330	14R-GC3		不明	Va	N-60°-E	0.17	0.15	0.12	0.04	0.24	8.72	円形	単層	3				
74		2 Pr	300	14R-GC3-4		不明	Va	N-7°-E	0.28	0.27	0.10	0.10	0.28	8.67	円形	単層	3				
74		2 Pr	296	14R-GC3		不明	Va	N-49°-W	0.25	0.21	0.11	0.09	0.11	8.86	円形	単層	1				
74-160	169	2 Pr	299	14R-GC3		不明	Va	N-17°-W	0.36	0.32	0.08	0.07	0.37	8.62	円形	単層	5		SB2008		
74		2 Pr	270	14R-GC2		不明	Va	N-73°-E	0.26	0.25	0.21	0.11	0.21	8.76	楕円形	単層	1				
74		2 Pr	324	14R-GC2		不明	Va	N-22°-E	0.25	0.21	0.14	0.10	0.21	8.77	円形	単層	1				
74		2 Pr	315	14R-GC1		不明	Va	N-8°-W	0.23	0.20	0.10	0.09	0.06	8.90	円形	単層	1				
74		2 Pr	305	14R-GC1		不明	Va	N-67°-E	0.42	0.39	0.18	0.15	0.10	8.88	円形	単層	1				
74		2 Pr	327	14R-GC1		不明	Va	N-70°-W	0.56	0.48	0.36	0.23	0.11	8.87	楕円形	単層	3				
74		2 Pr	326	14R-GC1		不明	Va	N-7°-W	0.20	0.18	0.11	0.09	0.09	8.87	円形	単層	1				
74		2 Pr	339	14R-GC1		不明	Va	N-38°-W	0.36	0.32	0.16	0.12	0.11	8.87	楕円形	単層	1				
74		2 Pr	330	14R-GC1		不明	Va	N-67°-W	0.25	0.19	0.14	0.07	0.07	8.91	楕円形	単層	1				
74		2 Pr	337	14R-GC1		不明	Va	N-8°-W	0.35	0.30	0.14	0.12	0.12	8.84	楕円形	単層	1				
74		2 Pr	329	14R-GF5-GC1		不明	Va	N-32°-W	0.24	0.22	0.10	0.08	0.05	8.90	円形	単層	1				
74		2 Pr	774	14R-GC1-6		不明	Va	N-2°-W	0.50	0.45	0.34	0.29	0.10	8.88	楕円形	単層	4				
74		2 Pr	1453	14R-GC1		不明	Va	N-38°-W	0.22	0.17	0.08	0.06	0.11	8.86	楕円形	単層	1				
74		2 Pr	782	14R-GF10		不明	Va	N-73°-W	0.45	0.40	0.14	0.10	0.24	8.70	円形	単層	1				
74		2 Pr	772	14R-GF13-14		不明	Va	N-77°-E	0.43	0.38	0.12	0.10	0.26	8.74	円形	単層	5				
73-74		2 Pr	1501	14R-GF7		不明	Va	N-15°-W	0.23	0.18	0.15	0.10	0.07	8.93	楕円形	単層	1				
73-74		2 Pr	1130	14R-GF11		不明	Va	N-30°-W	(0.35)	0.31	0.07	0.06	0.21	8.72	楕円形	単層	2				
73-74		2 Pr	1170	14R-GF12		不明	Va	N-44°-W	(0.26)	(0.26)	0.13	0.12	0.29	8.63	円形	単層	3				
73-74		2 Pr	1956	14R-GF13		不明	Va	N-30°-W	(0.31)	(0.18)	(0.24)	(0.07)	0.14	8.78	楕円形	単層	1				
73-74		2 Pr	1956	14R-GF13		不明															

図版No.	写真図版 No.	SP記号	遺構 種類	グリッド	重複状況	時代	確認 面	主軸方向	規模 (m)						底面 標高 (m)	形態		堆積状況	遺物の 有無	遺物図版 No.	出土遺物 備考
									上端		下端		深度	平面		断面					
									長軸	短軸	長軸	短軸									
75		2 Pr	597	14R-611		不明	Va	N-8°-W	0.80	(0.40)	(0.63)	0.30	0.11	8.91	長楕円形	台形	ブロック状	5			
75-113	117	337a	2 Pr	371	14R-611-2	<SK370	不明	Va	N-10°-W	0.81	(0.42)	0.40	0.18	8.84	楕円形	台形	単層	1			
75		2 Pr	603	14R-611		不明	Va	N-18°-W	0.26	0.24	0.08	0.07	0.21	8.83	円形	階段形	ブロック状	2			
75		2 Pr	417	14R-612-7	<SK370	不明	Va	N-9°-E	0.79	(0.48)	0.46	0.30	0.17	8.84	長楕円形	台形	単層	1			
75		2 Pr	616	14R-617		不明	Va	N-40°-W	0.16	0.10	0.06	0.07	0.92	長楕円形	台形	単層	1				
75		2 Pr	611	14R-616-7	<SD144	不明	Va	N-35°-E	(0.25)	(0.19)	(0.12)	(0.10)	0.23	8.62	楕円形	U字形	単層	1			
75		2 Pr	598	14R-617		不明	Va	N-56°-W	0.35	0.29	0.23	0.16	0.13	8.86	楕円形	台形	単層	1			
75		2 Pr	615	14R-617		不明	Va	N-3°-E	0.26	0.20	0.14	0.12	0.12	8.86	楕円形	台形	ブロック状	4			
75		2 Pr	598	14R-615-10	<SD144	不明	Va	N-32°-E	(0.25)	(0.20)	(0.13)	(0.10)	0.34	8.67	楕円形	台形	単層	1			
75		2 Pr	45	14R-615		近世 以降	Va	N-42°-W	0.20	0.18	0.14	0.14	0.26	8.76	円形	箱形	単層	1			
75		2 Pr	109	14R-616-7		不明	Va	N-9°-W	0.34	0.28	0.16	0.12	0.15	8.90	楕円長方形	台形	単層	1			
75		2 Pr	221	14R-610		不明	Va	N-70°-W	0.24	0.23	0.17	0.15	0.81	円形	箱形	単層	1				
75		2 Pr	121	14R-615-611		不明	Va	N-67°-W	0.40	0.28	0.25	0.11	0.13	8.89	楕円形	台形	単層	1			
75		2 Pr	89	14R-611		不明	Va	N-90°	0.28	0.23	0.15	0.13	0.22	8.81	円形	U字形	単層	1			
75		2 Pr	117	14R-612		不明	Va	N-62°-W	0.24	0.23	0.15	0.14	0.17	8.88	楕円長方形	半円形	単層	1			
75		2 Pr	111	14R-612-13		近世 以降	Va	N-49°-E	0.27	0.21	0.07	0.06	0.20	8.84	楕円形	台形	単層	1			
75		2 Pr	116	14R-619		不明	Va	N-51°-W	0.32	0.24	0.15	0.15	0.28	8.72	楕円形	半円形	単層	1			
75		2 Pr	608	14R-617	<SD362	不明	Va	N-62°-W	(0.17)	(0.14)	(0.08)	(0.07)	0.15	8.79	楕円形	半円形	単層	1			
75-143	146	2 Pr	531	14R-617	<SD530	不明	Va	N-60°-W	(0.17)	(0.14)	(0.08)	(0.08)	0.11	8.93	楕円形	半円形	単層	1			
75		2 Pr	333	14R-617	<SD593	不明	Va	N-23°-W	0.17	0.16	0.10	0.09	0.10	8.93	円形	半円形	単層	1			
75		2 Pr	331	14R-616-17	<SD530	不明	Va	N-66°-E	(0.28)	(0.27)	(0.13)	(0.12)	0.28	8.75	円形	U字形	単層	2			
75-173	215	358	2 Pr	332	14R-616		近世 以降	Va	N-44°-W	0.22	0.19	0.12	0.08	0.20	8.82	円形	半円形	単層	1	SA2000	
75-173	215	358	2 Pr	99	14R-616-17	<SD362	不明	Va	N-68°-W	0.24	0.20	0.13	0.12	0.20	8.83	円形	箱形	単層	1	SA2000	
75-173	210-211	357	2 Pr	100	14R-617	>SD362	不明	Va	N-84°-E	0.23	0.18	0.19	0.15	0.38	8.67	円形	半円形	単層	1	SA1999	
75-173	211	357	2 Pr	78	14R-622		近世 以降	Va	N-71°-W	0.22	0.20	0.12	0.12	0.26	8.78	円形	U字形	単層	1	SA1999	
75-173	215-216	358	2 Pr	77	14R-622		近世 以降	Va	N-0°	0.21	0.21	0.16	0.12	0.13	8.92	円形	半円形	単層	1	SA2000	
75		2 Pr	837	14R-620-25		不明	Va	N-85°-W	0.37	0.34	0.14	0.09	0.14	8.86	円形	半円形	単層	1			
75		2 Pr	705	14R-624		不明	Va	N-78°-W	0.30	0.24	0.15	0.12	0.29	8.72	楕円形	箱形	柱状	2			
75		2 Pr	762	14R-616		不明	Va	N-23°-W	0.44	0.24	0.33	0.14	0.11	8.90	長楕円形	台形	単層	1			
75-161	173	234-341d	2 Pr	612	14R-6H15		中世	Va	N-26°-E	0.27	(0.24)	0.14	0.06	0.51	8.48	円形	U字形	柱状	6	SB2033	
74-75-161	174	341c	2 Pr	1123	14R-6H13		中世	Va	N-45°-E	0.10	0.09	0.06	0.06	0.18	8.82	円形	半円形	単層	1	SB2033	
74-75		2 Pr	361	14R-6H13		不明	Va	N-85°-E	0.38	0.34	0.07	0.06	0.41	8.58	円形	U字形	ブロック状	4			
74-75		2 Pr	533	14R-6H13		不明	Va	N-42°-E	0.24	0.22	0.16	0.15	0.83	円形	箱形	ブロック状	3				
74-75-160	170	221	2 Pr	516	14R-6H12-13	<Ph515	中世	Va	N-0°	0.22	(0.17)	0.14	(0.14)	0.35	8.67	楕円形	U字形	傾斜	6	SB2008	
74-75-160	170	221	2 Pr	515	14R-6H12-13	<Ph516, SB2008	不明	Va	N-10°-E	0.72	0.46	0.30	0.17	0.35	8.65	楕円形	扇形	ブロック状	5		
74-75		2 Pr	520	14R-6H12-17	<Ph521	不明	Va	N-35°-W	0.36	0.30	0.21	0.15	0.23	8.77	楕円形	半円形	レンズ状	2			
74-75		2 Pr	521	14R-6H12-17	<Ph520	不明	Va	N-72°-E	0.56	0.42	(0.33)	0.25	0.21	8.78	楕円形	台形	ブロック状	4			
74-75		2 Pr	532	14R-6H13-18		不明	Va	N-5°-W	0.20	0.18	0.10	0.09	0.18	8.83	円形	U字形	柱状	3			
74-75		2 Pr	568	14R-6H18		不明	Va	N-83°-E	0.20	0.18	0.08	0.08	0.39	8.60	円形	U字形	単層	1			
74-75		2 Pr	567	14R-6H18		不明	Va	N-60°-E	0.18	0.17	0.08	0.08	0.23	8.76	円形	U字形	単層	1			
74-75		2 Pr	571	14R-6H18		不明	Va	N-40°-W	0.34	0.29	0.12	0.10	0.27	8.72	円形	U字形	単層	1			
74-75		2 Pr	569	14R-6H19		不明	Va	N-34°-W	0.20	0.19	0.08	0.06	0.24	8.76	円形	半円形	単層	1			
74-75		2 Pr	535	14R-6H19		不明	Va	N-20°-E	0.26	0.24	0.18	0.11	0.23	8.77	円形	箱形	傾斜	4			
75		2 Pr	1172	14R-6H19-24	<SD450	不明	Va	N-0°	0.24	(0.14)	0.14	(0.08)	0.16	8.82	楕円形	半円形	単層	1			
74-75		2 Pr	513	14R-6H19-24		不明	Va	N-80°-W	0.29	0.25	0.08	0.06	0.36	8.65	円形	U字形	ブロック状	6			
74-75		2 Pr	534	14R-6H24		不明	Va	N-64°-E	0.35	0.33	0.20	0.20	0.14	8.86	楕円長方形	箱形	単層	1			
74-75		2 Pr	517	14R-6H18-19-23-24		不明	Va	N-18°-E	0.35	0.30	0.24	0.18	0.14	8.87	円形	階段形	ブロック状	2			
74-75		2 Pr	570	14R-6H18-19		不明	Va	N-40°-E	0.18	0.14	0.10	0.10	0.06	8.95	楕円形	箱形	単層	1			
74-75		2 Pr	536	14R-6H18-23		不明	Va	N-43°-E	0.28	0.24	0.16	0.12	0.24	8.75	円形	箱形	ブロック状	5			
74-75		2 Pr	524	14R-6H23		不明	Va	N-7°-W	0.15	0.14	0.10	0.07	0.15	8.84	円形	台形	単層	1			
74-75		2 Pr	512	14R-6H23		不明	Va	N-4°-E	0.43	0.42	0.25	0.18	0.19	8.81	円形	半円形	ブロック状	4			
74-75		2 Pr	523	14R-6H23		不明	Va	N-2°-E	0.20	0.15	0.10	0.10	0.07	8.89	楕円形	台形	単層	1			
74-75-161	174	236-341b-c	2 Pr	509	14R-6H23		中世	Va	N-44°-E	0.20	0.20	0.12	0.09	0.25	8.73	円形	U字形	ブロック状	3	SB2033	
74-75-160	172	230	2 Pr	464	14R-6H22	>Ph465	不明	Va	N-16°-E	0.42	0.42	0.22	0.20	0.27	8.69	円形	半円形	レンズ状	3		
74-75-160	172	230	2 Pr	465	14R-6H22	>Ph463-464, SB2008	不明	Va	N-75°-W	0.38	(0.30)	(0.30)	0.17	0.22	8.74	楕円形	階段形	水平	3		
74-75-160	172	230-340c-h	2 Pr	463	14R-6H22	>Ph465	中世	Va	N-75°-W	0.51	0.38	0.13	0.12	0.16	8.83	楕円形	箱形	レンズ状	2	SB2008	
74-75-161	175	238-342a-c	2 Pr	461	14R-6H21	<Ph460	中世	Va	N-79°-E	(0.30)	0.30	0.17	0.15	0.15	8.83	楕円形	台形	単層	2	SB2025	
74-75-161	175	238	2 Pr	460	14R-6H21	<Ph461, SB2025	不明	Va	N-9°-W	0.50	0.46	0.31	0.25	0.14	8.84	円形	箱形	レンズ状	2		
74-75-160	172	229-340c-g	2 Pr	459	14R-6H21		中世	Va	N-85°-E	0.27	0.27	0.17	0.15	0.36	8.60	楕円形	U字形	柱状	4	SB2008	
74-75		2 Pr	470	14R-6H17		不明	Va	N-22°-W	0.30	0.25	0.20	0.15	0.07	8.89	楕円形	台形	単層	1			
74-75		2 Pr	469	14R-6H17		不明	Va	N-65°-E	0.30	0.25	0.18	0.12	0.19	8.78	楕円形	階段形	ブロック状	3			
74-75		2 Pr	525	14R-6H18	>Ph526	不明	Va	N-89°-E	0.32	0.20	0.12	0.11	0.23	8.73	長楕円形	台形	傾斜	3			
74-75		2 Pr	526	14R-6H18	<Ph525	不明	Va	N-28°-E	(0.25)	(0.14)	(0.14)	(0.14)	0.24	8.73	長楕円形	半円形	単層	1			
74-75		2 Pr	468	14R-6H17		中世	Va	N-8°-E	0.28	0.27	0.17	0.15	0.44	8.52	円形	箱形	柱状	3	SB2008		
74-75		2 Pr	467	14R-6H17		不明	Va	N-31°-E	0.50	0.45	0.28	0.25	0.21	8.77	円形	台形	ブロック状	3			
74-75		2 Pr	466	14R-6H17		不明	Va	N-32°-E	0.32	0.24	0.04	0.04	0.27	8.70	楕円形	半円形	柱状	3			
74-75		2 Pr	457	14R-6H12		不明	Va	N-5°-E	0.34	0.23	0.21	0.11	0.16	8.82	楕円形	箱形	ブロック状	5			
74-75-160	171	225-340b-g	2 Pr	458	14R-6H16-17		不明	Va	N-71°-W	0.48	0.43	0.16	0.11	0.43	8.56	円形	箱形	ブロック状	3	SB2008	
74-75		2 Pr	1171	14R-6H16		不明	Va	N-2°-E	0.12	0.12	0.03	0.03	0.15	8.78	円形	半円形	単層	1			
74-75		2 Pr	1328	14R-6H11	<SD537	不明	Va	N-83°-W	(0.18)	(0.18)	0.04	0.04	0.20	8.73	円形	半円形	単層	1			

図面No.	写真図面 No.	SP記号	区 画 番 号	遺構 番号	グリッド	重複状況	時代	確認 主軸方向	規模 (m)				底面 標高 (m)		形態		堆積状況	遺物の 有無	遺物図面 No.	出土遺物 備考
									上端		下端		長さ	幅	平面	断面				
									長軸	短軸	長軸	短軸								
73-74				2 Prt 804	14R-7F6		不明	Va N-27-E	0.32	0.28	0.08	0.17	0.21	8.69	円形	円形	水平	4		
73-74				2 Prt 1430	14R-7F6	>Ph1431	不明	Va N-75-E	0.23	0.15	0.12	0.06	0.11	8.88	長楕円形	円形	単層	1		
73-74				2 Prt 1431	14R-7F1-6	>Ph1430	不明	Va N-78-E	0.22	0.13	0.16	0.12	0.08	8.91	楕円形	円形	単層	1		
73-74				2 Prt 798	14R-7F2-7		不明	Va N-0	0.26	0.22	0.14	0.12	0.10	8.81	円形	台形	単層	1		
73-74				2 Prt 1410	14R-7F7		不明	Va N-64-W	0.18	0.14	0.10	0.05	0.11	8.79	楕円形	円形	単層	1		
73-74				2 Prt 805	14R-7F7		不明	Va N-61-W	0.30	0.22	0.20	0.12	0.10	8.78	円形	台形	単層	1		
73-74				2 Prt 1435	14R-7F12		不明	Va N-0	0.15	0.14	0.08	0.06	0.11	8.74	円形	半円形	単層	1		
73-74				2 Prt 1434	14R-7F11		不明	Va N-8-W	0.23	0.22	0.12	0.10	0.29	8.59	円形	半円形	ブロック状	3		
73-74				2 Prt 1436	14R-7F12		不明	Va N-90	0.18	0.12	0.10	0.04	0.07	8.80	長楕円形	圓形	単層	1		
74				2 Prt 843	14R-7F13-18		不明	Va N-43-W	0.23	0.22	0.12	0.08	0.15	8.77	円形	半円形	レンズ状	3		
74				2 Prt 1408	14R-7F13-18		不明	Va N-4-W	0.28	0.28	0.28	0.17	0.06	8.84	円形	半円形	ブロック状	3		
74				2 Prt 844	14R-7F13-18		不明	Va N-43-E	0.26	0.22	0.10	0.08	0.22	8.69	楕円形	円形	柱状	4		
73-74				2 Prt 1417	14R-7F13		不明	Va N-28-W	0.16	0.16	0.08	0.06	0.16	8.72	円形	半円形	単層	1		
73-74				2 Prt 1416	14R-7F8		不明	Va N-17-W	0.14	0.12	0.06	0.03	0.08	8.71	円形	半円形	単層	1		
73-74				2 Prt 1415	14R-7F8		不明	Va N-47-W	0.19	0.18	0.06	0.06	0.10	8.79	円形	半円形	単層	1		
73-74				2 Prt 1414	14R-7F7-8		不明	Va N-12-W	0.15	0.13	0.06	0.05	0.05	8.71	円形	半円形	単層	1		
74-162	178		249-343b-d	2 Prt 937	14R-7F3-4		中世	Va N-13-W	0.26	0.24	0.14	0.12	0.25	8.59	円形	箱形	柱状	5		SB2034
74-162	178		250-343b	2 Prt 788	14R-7F10		中世	Va N-30-E	0.22	0.22	0.08	0.08	0.36	8.54	円形	半円形	ブロック状	6		SB2034
74				2 Prt 1491	14R-7F10		不明	Va N-74-E	0.14	0.12	0.06	0.06	0.07	8.82	円形	圓形	単層	1		
74				2 Prt 1441	14R-7F15		不明	Va N-47-W	0.14	0.14	0.06	0.06	0.11	8.80	円形	台形	単層	1		
74				2 Prt 1383	14R-7G11		不明	Va N-84-W	0.23	0.16	0.07	0.04	0.07	8.84	楕円形	台形	単層	1		
74				2 Prt 784	14R-7G6-11	<SD1252	不明	Va N-2-W	0.31	0.15	0.20	0.10	0.07	8.88	楕円形	台形	単層	1		
74-162	178		251-343b-e	2 Prt 789	14R-7G6		中世	Va N-85-E	0.28	0.28	0.12	0.11	0.37	8.57	円形	半円形	柱状	4		SB2034
74				2 Prt 891	14R-7G6	<SD1252	不明	Va N-83-W	0.16	0.15	0.10	0.07	0.05	8.89	円形	圓形	単層	1		
74-162	177		247-343e	2 Prt 780	14R-7G1-6		中世	Va N-3-W	0.26	0.23	0.10	0.10	0.26	8.63	円形	円形	傾斜	3		SB2034
74				2 Prt 790	14R-7G1	<SD1252	不明	Va N-3-W	0.16	0.12	0.10	0.07	0.05	8.86	楕円形	圓形	単層	1		
74-162	177		244-343a-e	2 Prt 757	14R-7G2		中世	Va N-2-W	0.29	0.25	0.14	0.13	0.42	8.48	円形	円形	レンズ状	3		SB2034
74				2 Prt 758	14R-6G23, 7G3		不明	Va N-35-W	0.28	0.26	0.08	0.08	0.42	8.51	円形	円形	柱状	3		
74				2 Prt 1122	14R-6G24, 7G4		不明	Va N-89-W	0.24	0.17	0.18	0.08	0.11	8.82	楕円形	半円形	単層	1		
74				2 Prt 756	14R-7G3		不明	Va N-51-E	0.32	0.24	0.18	0.12	0.06	8.88	円形	圓形	単層	1		
74-75				2 Prt 1856	14R-7G10		不明	Va N-83-W	0.26	0.16	0.12	0.05	0.11	8.83	長楕円形	圓形	単層	1		
74-75				2 Prt 889	14R-7G10		不明	Va N-32-W	0.16	0.15	0.08	0.06	0.05	8.89	円形	圓形	単層	1		
74-75				2 Prt 579	14R-6H21		不明	Va N-19-E	0.40	0.39	0.26	0.17	0.13	8.83	円形	半円形	ブロック状	3		
74-75				2 Prt 106	14R-6H21		不明	Va N-71-W	0.25	0.20	0.09	0.10	0.87	楕円形	圓形	単層	1			
74-75				2 Prt 462	14R-6H22		不明	Va N-71-W	0.22	0.21	0.10	0.08	0.34	8.64	隅丸方形	円形	ブロック状	6		
74-75				2 Prt 510	14R-6H23		不明	Va N-47-W	0.27	0.25	0.18	0.13	0.20	8.78	円形	円形	ブロック状	3		
74-75	175		239-342a-d	2 Prt 511	14R-6H23, 7H3		中世	Va N-90	0.52	0.35	0.30	0.20	0.32	8.67	楕円形	台形	水平	4		SB2025
74-75	174		341b	2 Prt 803	14R-6H23		中世	Va N-42-W	0.18	0.14	0.07	0.04	0.18	8.79	楕円形	半円形	単層	1		SB2033
74-75				2 Prt 801	14R-6H23, 7H3		不明	Va N-44-E	0.24	0.22	0.10	0.10	0.18	8.78	楕円形	半円形	ブロック状	4		
74-75				2 Prt 802	14R-7H3		不明	Va N-0	0.28	0.24	0.15	0.12	0.35	8.64	円形	円形	単層	1		
74-75				2 Prt 573	14R-7H3	<Ph572	不明	Va N-86-E	0.34	0.31	0.13	0.10	0.18	8.80	楕円形	圓形	ブロック状	5		
74-75				2 Prt 572	14R-7H3	<Ph573	不明	Va N-50-E	0.35	0.25	0.20	0.18	0.11	8.87	楕円形	台形	レンズ状	3		
74-75				2 Prt 686	14R-7H3-4		不明	Va N-30-E	0.50	0.37	0.30	0.23	0.09	8.83	楕円形	台形	単層	1		
74-75				2 Prt 685	14R-7H4		不明	Va N-35-W	0.29	0.25	0.20	0.18	0.03	8.85	円形	圓形	単層	1		
74-75				2 Prt 1872	14R-7H4	<SK1093	不明	Va N-2-W	0.15	0.10	0.10	0.08	0.08	8.88	楕円形	台形	単層	1		
74-75				2 Prt 1715	14R-7H4-9	>Ph1716	不明	Va N-25-W	0.16	0.14	0.08	0.08	0.10	8.88	円形	円形	単層	1		
74-75				2 Prt 1716	14R-7H4-9	>Ph1715, >Ph1717	不明	Va N-31-E	0.28	0.14	0.04	0.04	0.24	8.74	長楕円形	円形	単層	1		
74-75				2 Prt 1717	14R-7H4	>Ph1716	不明	Va N-30-E	0.21	0.13	0.08	0.07	0.18	8.80	楕円形	半円形	ブロック状	2		
74-75				2 Prt 676	14R-7H8-9		不明	Va N-68-W	0.67	0.52	0.40	0.33	0.10	8.86	楕円形	円形	単層	1		
74-75				2 Prt 929	14R-7H8		不明	Va N-90	0.15	0.10	0.09	0.14	0.94	楕円形	台形	単層	1			
74-75				2 Prt 574	14R-7H3		不明	Va N-88-E	0.31	0.26	0.14	0.14	0.18	8.81	円形	圓形	単層	1		
74-75				2 Prt 576	14R-7H3	<Ph575	不明	Va N-2-E	0.20	0.13	0.10	0.10	0.10	8.90	楕円形	台形	単層	1		
74-75				2 Prt 575	14R-7H3-8	>Ph576	不明	Va N-2-E	0.27	0.24	0.12	0.11	0.06	8.93	円形	圓形	ブロック状	4		
74-75	175		342b-d	2 Prt 577	14R-7H3		中世	Va N-37-E	0.19	0.19	0.11	0.09	0.14	8.86	円形	台形	単層	1		SB2025
74-75				2 Prt 880	14R-7H2		不明	Va N-28-W	0.36	0.35	0.25	0.24	0.32	8.68	円形	階段形	ブロック状	5		
74-75				2 Prt 508	14R-7H2		不明	Va N-5-W	0.28	0.22	0.17	0.14	0.17	8.82	楕円形	台形	単層	1		
74-75				2 Prt 507	14R-7H2		不明	Va N-0	0.32	0.27	0.18	0.13	0.26	8.73	円形	半円形	単層	1		
74-75				2 Prt 578	14R-6H21, 7H1		不明	Va N-29-W	0.65	0.60	0.15	0.08	0.17	8.80	円形	台形	ブロック状	4		
74-75	175	240	342a-e	2 Prt 501	14R-7H1	<Ph502, <SB2025	不明	Va N-76-E	0.28	0.18	0.14	0.12	0.07	8.90	楕円形	台形	単層	1		
74-75	175	240-342b-c		2 Prt 502	14R-7H1	>Ph501	不明	Va N-59-E	0.43	0.35	0.08	0.08	0.23	8.75	楕円形	階段形	柱状	4		SB2025
74-75				2 Prt 503	14R-7H1		不明	Va N-28-E	0.18	0.17	0.10	0.08	0.09	8.90	円形	半円形	レンズ状	2		
74-75				2 Prt 505	14R-7H1	<Ph504	不明	Va N-56-E	0.55	0.50	0.44	0.20	0.14	8.86	楕円形	台形	ブロック状	3		
74-75				2 Prt 504	14R-7H1	>Ph505	不明	Va N-51-W	0.14	0.11	0.06	0.05	0.11	8.89	楕円形	円形	ブロック状	2		

図版No.	写真図版 No.	SP記号	遺構の種類	グリッド	重複状況	時代	断面	主軸方向	規模 (m)						底面標高 (m)	形態	堆積状況	遺物の有無	遺物図版 No.	出土遺物備考		
									上端		下端		深度								平面	断面
									長軸	短軸	長軸	短軸	長軸	短軸								
75-173	228	362	2 Pr	335	14R-7115	近世以降	Va	N-55°-W	0.23	0.20	0.13	0.09	0.20	8.81	円形	円形	単層	1	SA2004			
75			2 Pr	106	14R-7110-15	不明	Va	N-90°	0.36	0.31	0.19	0.15	0.14	8.80	円形	円形	単層	1				
75			2 Pr	708	14R-7110	不明	Va	N-0°	0.30	0.20	0.17	0.12	0.12	8.86	長円形	半円形	単層	1				
75			2 Pr	704	14R-7110-15	不明	Va	N-42°-W	0.23	0.19	0.10	0.10	0.40	8.59	楕円形	楕円形	単層	1				
75			2 Pr	650	14R-7114	不明	Va	N-10°-E	0.33	0.19	0.11	0.10	0.27	8.72	楕円形	楕円形	単層	1				
75			2 Pr	336	14R-7114-15	不明	Va	N-70°-E	0.28	0.25	0.13	0.10	0.31	8.57	円形	U字形	単層	1				
75-166	194	350b	2 Pr	105	14R-7115-20	近世	Va	N-8°-E	0.27	0.26	0.10	0.09	0.22	8.76	円形	台形	単層	1	SB2027			
75			2 Pr	104	14R-7115-20	不明	Va	N-0°	0.20	0.19	0.09	0.09	0.12	8.87	円形	半円形	単層	1				
75			2 Pr	103	14R-7120	不明	Va	N-67°-W	0.25	0.21	0.10	0.10	0.14	8.84	楕円形	台形	単層	1				
75			2 Pr	710	14R-7119-20	不明	Va	N-90°	0.28	0.25	0.13	0.13	0.14	8.94	円形	U字形	単層	1				
75			2 Pr	854	14R-7119	不明	Va	N-60°-W	(0.36)	(0.21)	(0.10)	0.06	0.49	8.51	楕円形	単層	1	<P642- P854>				
75			2 Pr	643	14R-7119	不明	Va	N-72°-W	0.40	0.28	0.09	(0.07)	0.37	8.64	楕円形	楕円形	水平	2	<P642- P854>			
75			2 Pr	642	14R-7119	不明	Va	N-5°-E	0.30	0.22	0.08	0.05	0.28	8.72	円形	U字形	単層	1	<P643- 854>			
75			2 Pr	707	14R-7119	不明	Va	N-90°	0.26	0.26	0.14	0.10	0.27	8.72	円形	U字形	単層	1				
75			2 Pr	644	14R-7119	不明	Va	N-55°-W	0.31	0.30	0.03	0.03	0.22	8.74	円形	台形	斜位	2				
75			2 Pr	658	14R-7114-13	不明	Va	N-89°-E	0.23	0.21	0.08	0.07	0.26	8.76	円形	台形	単層	1				
75-166	193	350a+d	2 Pr	644	14R-7113	近世	Va	N-0°	0.30	0.27	0.05	0.05	0.28	8.46	円形	楕円形	ブロック状	1	SB2027			
75-166	194	295-350b+d	2 Pr	664	14R-7113	近世	Va	N-48°-W	0.50	0.30	0.30	0.22	0.26	8.70	楕円長方形	台形	斜位	3	SB2027			
75			2 Pr	706	14R-7118	不明	Va	N-89°-E	0.19	0.18	0.08	0.07	0.16	8.82	円形	半円形	単層	1				
75-166			2 Pr	652	14R-7118	不明	Va	N-89°-E	0.21	0.19	0.05	0.04	0.24	8.76	円形	台形	単層	1				
75			2 Pr	657	14R-7118-23	不明	Va	N-48°-W	0.26	0.24	0.08	0.07	0.33	8.67	円形	楕円形	単層	1				
75			2 Pr	656	14R-7123	不明	Va	N-12°-E	0.36	0.29	0.20	0.09	0.25	8.74	楕円形	台形	単層	1				
75			2 Pr	665	14R-7123	不明	Va	N-37°-E	0.29	0.28	0.13	0.13	0.20	8.79	円形	台形	単層	1				
75-166	195	350c+d	2 Pr	650	14R-7123	近世	Va	N-90°	0.24	0.22	0.05	0.04	0.41	8.59	円形	台形	単層	1	SB2027			
75			2 Pr	472	14R-7121	近世	Va	N-8°-E	0.27	0.23	0.21	0.16	0.11	8.88	円形	圓形	単層	1	>SD150			
75			2 Pr	651	14R-7117	不明	Va	N-89°-E	0.19	0.17	0.08	0.07	0.24	8.75	円形	半円形	単層	1				
75			2 Pr	1796	14R-7125-7121	不明	Va	N-54°-W	(0.12)	(0.09)	0.03	0.03	0.39	8.57	楕円形	楕円形	単層	1	<SK400			
75			2 Pr	1797	14R-7121	不明	Va	N-63°-E	(0.15)	(0.14)	0.05	0.04	0.22	8.56	円形	楕円形	単層	1	<SK400			
75			2 Pr	1794	14R-7116	不明	Va	N-42°-W	(0.19)	(0.17)	0.11	0.10	0.12	8.69	円形	楕円形	単層	1	<SK400			
75			2 Pr	1795	14R-7120	不明	Va	N-43°-W	(0.15)	(0.13)	0.06	0.06	0.23	8.55	円形	U字形	単層	1	<SK400			
75			2 Pr	1870	14R-7120	不明	Va	N-90°	(0.27)	(0.25)	(0.17)	0.15	0.10	8.82	楕円形	台形	単層	1	<SD450			
75			2 Pr	1871	14R-7114-19	不明	Va	N-18°-W	(0.24)	(0.20)	0.10	0.09	0.20	8.69	楕円形	半円形	単層	1	<SD450 +I101, SN2015			
74-75	188	285-347b+cf	2 Pr	549	14R-7114	近世	Va	N-57°-E	0.64	0.57	0.32	0.30	0.26	8.72	円形	台形	柱状	2	SB2009			
74-75	188	284-347b+e	2 Pr	1690	14R-7113	不明	Va	N-47°-W	0.19	0.17	0.10	0.10	0.06	8.85	円形	楕円形	ブロック状	2	>SD870			
74-75	188	283-347b	2 Pr	551	14R-7113	近世	Va	N-3°-W	0.77	0.64	0.08	0.08	0.24	8.72	楕円形	台形	水平	2	>SD870			
74-75	188	282-347b+d	2 Pr	552	14R-7112-13	近世	Va	N-31°-E	0.54	0.50	0.14	0.13	0.26	8.72	円形	台形	水平	2	<P4550			
74-75	188	282-347b+d	2 Pr	699	14R-7112	近世	Va	N-35°-E	(0.30)	0.28	0.05	0.05	0.41	8.76	円形	U字形	斜位	3	<P4550			
74-75	188	282-347b+d	2 Pr	553	14R-7112	不明	Va	N-35°-E	0.85	0.67	0.57	0.43	0.18	8.80	楕円形	台形	ブロック状	4	<P4699, SB2009			
74-75	188	282-347b+d	2 Pr	877	14R-7111	不明	Va	N-44°-E	0.19	0.14	0.10	0.05	0.05	8.94	楕円形	台形	単層	1				
74-75	188	282-347b+d	2 Pr	878	14R-7111	不明	Va	N-90°	0.22	0.19	0.10	0.06	0.08	8.92	円形	半円形	単層	1				
74-75	188	282-347b+d	2 Pr	696	14R-7111	不明	Va	N-21°-E	(0.41)	0.40	0.15	0.13	0.19	8.81	円形	半円形	単層	1				
74-75	188	282-347b+d	2 Pr	697	14R-7116-11	不明	Va	N-85°-E	0.33	0.25	0.15	0.12	0.07	8.93	楕円形	楕円形	単層	1				
74-75	188	282-347b+d	2 Pr	936	14R-7111	不明	Va	N-38°-E	0.17	0.16	0.07	0.07	0.15	8.86	円形	半円形	水平	2				
74-75	188	282-347b+d	2 Pr	698	14R-7111	不明	Va	N-89°-E	0.31	0.29	0.11	0.10	0.23	8.77	円形	U字形	ブロック状	5				
74-75	188	282-347b+d	2 Pr	729	14R-7111	不明	Va	N-60°-E	0.22	0.20	0.10	0.10	0.07	8.93	円形	楕円形	単層	1	<SK550			
74-75	188	282-347b+d	2 Pr	1629	14R-7G20	不明	Va	N-87°-W	0.13	0.10	0.06	0.04	0.17	8.81	楕円形	楕円形	単層	1				
74-75	188	282-347b+d	2 Pr	1661	14R-7G20	不明	Va	N-57°-W	0.16	0.14	0.07	0.06	0.07	8.90	円形	楕円形	単層	1				
74-75	188	282-347b+d	2 Pr	1167	14R-7G20	不明	Va	N-88°-W	0.18	0.16	0.08	0.06	0.10	8.86	円形	楕円形	単層	1				
74-75	188	282-347b+d	2 Pr	1166	14R-7G20	不明	Va	N-28°-E	0.36	0.24	0.16	0.14	0.16	8.80	長楕円形	楕円形	ブロック状	2				
74-75	188	282-347b+d	2 Pr	935	14R-7116	不明	Va	N-4°-W	0.16	0.15	0.04	0.03	0.17	8.78	円形	半円形	柱状	2	<SK550			
74-75	189	286-347d	2 Pr	554	14R-7117	近世	Va	N-1°-E	0.32	0.26	0.12	0.11	0.36	8.58	楕円形	U字形	柱状	2	SB2009			
74-75	189	287-347e	2 Pr	547	14R-7118	近世	Va	N-38°-W	0.43	0.38	0.24	0.18	0.30	8.60	円形	U字形	柱状	2	有 248 SB2009 松柱材			
74-75	189	347f	2 Pr	1105	14R-7114-19	近世	Va	N-58°-E	0.18	0.17	0.10	0.07	0.25	8.69	円形	楕円形	単層	1	SB2009			
74-75	190	291-347c+f	2 Pr	548	14R-7119-24	不明	Va	N-6°-E	(0.65)	(0.34)	0.50	0.29	0.06	8.57	長楕円形	楕円形	単層	2	<SD450			
74-75	190	290-347c+e	2 Pr	542	14R-7118-23	近世	Va	N-19°-E	0.54	0.54	0.23	0.20	0.49	8.44	円形	U字形	柱状	3	有 SB2009 磁器/木筒			
74-75	190	289-347c	2 Pr	731	14R-7123	不明	Va	N-1°-W	0.22	0.21	0.12	0.07	0.17	8.76	円形	半円形	単層	1				
74-75	190	287-347c	2 Pr	543	14R-7117-18-22-23	不明	Va	N-89°-E	0.63	0.59	0.36	0.32	0.24	8.71	円形	半円形	レンズ状	2	SB2009			
74-75	190	287-347c	2 Pr	546	14R-7117	不明	Va	N-36°-W	0.27	(0.14)	0.16	(0.09)	0.08	8.88	楕円形	楕円形	単層	1	<P4544, SB2009			
74-75	190	288-347c	2 Pr	544	14R-7117-27	近世	Va	N-0°	0.75	0.65	0.21	0.20	0.30	8.67	円形	楕円形	ブロック状	4	<P4545- 546>			
74-75	190	287-347c	2 Pr	545	14R-7117	不明	Va	N-63°-W	(0.36)	0.34	0.20	0.17	0.07	8.90	楕円形	楕円形	単層	1				
74-75	190	287-347c	2 Pr	1631	14R-7116	不明	Va	N-3°-W	(0.16)	(0.16)	0.10	0.07	0.21	8.66	円形	半円形	単層	1	<SK550			
74-75	190	287-347c	2 Pr	691	14R-7121	不明	Va	N-10°-E	0.44	0.43	0.11	0.10	0.60	8.37	円形	U字形						

図版No.	写真図版No.	SP記号	橋種	遺構番号	グリッド	重複状況	時代	確認面	主軸方向	規模(m)					底面標高(m)		形態		堆積状況	遺物の有無	遺物図版No.	出土遺物備考
										上端		下端		深度	平面	断面	長さ	幅				
										長輪	短輪	長輪	短輪									
73-163	179	253-344a-i	2 Prt	1623	14R-7C25		中世	Va	N-9°-E	0.30	0.27	0.07	0.05	0.26	8.55	円形	半円形	柱状	4		SB2012	
73			2 Prt	1597	14R-7C25	>SD1670	中世	Va	N-88°-W	0.26	0.23	0.10	0.09	0.31	8.49	円形	円形	ブロック状	3			
73-164	184	271-345a-e	2 Prt	1580	14R-8C5, 8D1	>SD1579	中世	Va	N-76°-W	0.39	0.34	0.09	0.07	0.36	8.30	円形	円形	柱状	3		SB2011	
73			2 Prt	1648	14R-8C5	<SE1028	不明	Va	N-72°-W	(0.25)	(0.19)	0.09	0.06	0.37	8.42	楕円形	半円形	単層	1			
73			2 Prt	1647	14R-8C5		中世	Va	N-63°-E	0.22	0.17	0.09	0.08	0.26	8.55	楕円形	円形	ブロック状	2			
73-163	181	260-344e-i	2 Prt	1646	14R-8C4・5		中世	Va	N-84°-W	0.34	0.23	0.13	0.09	0.23	8.57	楕円形	半円形	ブロック状	4	有	202	SB2012 珠洲城/片口跡
73-76-163			2 Prt	1645	14R-8C4・5	<SE1028	不明	Va	N-65°-W	(0.26)	(0.24)	0.18	0.09	0.17	8.63	楕円形	半円形	ブロック状	3			
73-76-163			2 Prt	1582	14R-8C9		中世	Va	N-30°-E	0.32	0.29	0.19	0.16	0.35	8.44	円形	円形	水平	3		SB2012	
73-76-163			2 Prt	1581	14R-8C9		中世	Va	N-49°-W	0.39	0.33	0.06	0.06	0.40	8.42	円形	円形	ブロック状	4		SB2012	
73-76-164			2 Prt	1584	14R-8C10, 8D6		中世	Va	N-64°-W	0.38	0.28	0.12	0.11	0.49	8.33	楕円長方形	円形	柱状	4		SB2011	
73-76-164			2 Prt	1625	14R-8D6		中世	Va	N-48°-W	0.29	0.22	0.12	0.09	0.32	8.47	楕円形	円形	柱状	4		SB2011	
73-76-164			2 Prt	1626	14R-8D7	<SD1522	中世	Va	N-79°-E	(0.24)	(0.20)	(0.14)	0.09	0.20	8.62	楕円形	円形	ブロック状	3	有	220	SB2011 石/磨石
76-153	154		2 Prt	1568	14R-8D12	>SD1299, >SD1522	不明	Va	N-90°	(0.28)	(0.19)	(0.07)	(0.06)	0.16	8.66	楕円形	半円形	単層	1		SB2026	
73-164	184	273-345a-e	2 Prt	1578	14R-8D2		中世	Va	N-63°-W	0.29	0.26	0.12	0.11	0.38	8.41	円形	円形	柱状	6		SB2011	
73-164	184	272-345a-d	2 Prt	1577	14R-8D1		中世	Va	N-62°-E	0.30	0.27	0.12	0.10	0.41	8.37	円形	半円形	柱状	5	有	221	SB2011 石/磨石
73			2 Prt	1657	14R-7D16		不明	Va	N-0°	0.21	0.17	0.10	0.09	0.24	8.55	楕円形	円形	ブロック状	4			
73-164	183	270-345c	2 Prt	1650	14R-7D22		中世	Va	N-2°-W	0.26	0.23	0.12	0.12	0.27	8.53	円形	円形	ブロック状	5		SB2011	
73			2 Prt	1649	14R-7D22		不明	Va	N-6°-W	0.20	0.18	0.14	0.08	0.14	8.69	円形	半円形	単層	1			
73			2 Prt	1831	14R-8D8		不明	Va	N-90°	0.20	0.19	0.08	0.08	0.16	8.69	円形	半円形	ブロック状	2			
73-74-77			2 Prt	1280	14R-8E8		近世	Va	N-55°-W	0.33	0.30	0.15	0.12	0.24	8.65	円形	円形	ブロック状	3			
73-74-77			2 Prt	1279	14R-8E8		不明	Va	N-86°-E	0.17	0.16	0.08	0.08	0.18	8.68	円形	円形	ブロック状	2			
73-74-77			2 Prt	1278	14R-8E8	近世以降	不明	Va	N-53°-E	0.16	0.16	0.08	0.06	0.19	8.67	円形	円形	単層	1			
73-74-77			2 Prt	1277	14R-8E8	近世以降	不明	Va	N-40°-W	0.19	0.19	0.11	0.08	0.14	8.71	円形	半円形	単層	1			
73-74-77			2 Prt	1274	14R-8E9		不明	Va	N-0°	0.14	0.14	0.02	0.02	0.21	8.65	円形	半円形	単層	1			
73-74-77			2 Prt	1275	14R-8E9		不明	Va	N-24°-E	0.26	0.21	0.12	0.11	0.13	8.74	楕円形	円形	水平	2			
73-74-164			2 Prt	1276	14R-8E9		中世	Va	N-64°-W	0.28	0.24	0.14	0.07	0.23	8.64	円形	円形	水平	3		SB2030	
73-74-77			2 Prt	1842	14R-8E9		不明	Va	N-19°-W	0.40	0.26	0.25	0.12	0.29	8.53	楕円形	半円形	単層	1			
73-74-164			2 Prt	1868	14R-8E4		中世	Va	N-69°-W	0.25	0.18	0.14	0.12	0.20	8.66	楕円形	半円形	単層	1		SB2030	
73-74-164			2 Prt	1867	14R-8E4		中世	Va	N-20°-W	0.33	0.26	0.20	0.14	0.18	8.69	楕円形	半円形	単層	1		SB2030	
73-74			2 Prt	1866	14R-8E4		近世	Va	N-55°-E	0.22	0.17	0.10	0.07	0.10	8.76	楕円形	台形	単層	1			
73-74-164			2 Prt	1865	14R-8E4・5		中世	Va	N-63°-W	0.33	0.24	0.16	0.06	0.37	8.53	楕円形	円形	単層	1		SB2030	
73-74			2 Prt	1918	14R-7E25, 7F21		不明	Va	N-32°-E	0.20	0.16	0.10	0.06	0.12	8.79	楕円形	半円形	単層	1			
73-74			2 Prt	1922	14R-7F21		不明	Va	N-40°-E	0.28	0.24	0.08	0.08	0.28	8.60	円形	半円形	単層	1			
73-74			2 Prt	1923	14R-7E25, 8E5, 8F1		不明	Va	N-9°-W	0.32	0.31	0.20	0.20	0.29	8.60	円形	円形	傾斜	2			
73-74			2 Prt	1393	14R-8E5		不明	Va	N-60°-W	0.18	0.15	0.08	0.05	0.11	8.72	楕円形	半円形	単層	1			
73-74			2 Prt	1391	14R-8E5・10		不明	Va	N-11°-E	0.13	0.11	0.08	0.05	0.17	8.68	円形	半円形	単層	1			
73-74			2 Prt	1913	14R-8E5・10, 8F1・6		不明	Va	N-3°-W	0.46	0.32	0.16	0.11	0.51	8.35	楕円形	円形	ブロック状	6			
73-74			2 Prt	1392	14R-8F6		不明	Va	N-42°-E	0.14	0.14	0.06	0.06	-	-	-	-	-	-			
73-74-77			2 Prt	1271	14R-8F6		近世	Va	N-2°-E	0.24	0.19	0.16	0.15	0.06	8.82	楕円形	箱形	単層	1		SB2023 線石/磨	
73-74-77			2 Prt	1272	14R-8E10		近世	Va	N-4°-E	0.24	0.21	0.14	0.10	0.14	8.74	円形	半円形	水平	2			
73-77			2 Prt	1273	14R-8E10		近世	Va	N-30°-W	0.16	0.14	0.06	0.04	0.14	8.73	円形	円形	単層	1			
73-77			2 Prt	1286	14R-8E10・15		近世以降	Va	N-28°-W	0.14	0.13	0.04	0.15	8.73	円形	円形	単層	1				
73-77			2 Prt	1287	14R-8F6		近世	Va	N-4°-W	0.28	0.26	0.14	0.10	0.23	8.66	円形	円形	ブロック状	3			
73-77			2 Prt	884	14R-8F2		不明	Va	N-30°-E	0.48	0.34	0.34	0.20	0.09	8.82	楕円形	箱形	単層	3			
74-77			2 Prt	1185	14R-8F9	<Ph1184	不明	Va	N-72°-W	0.40	(0.30)	0.14	0.12	0.08	8.82	楕円形	箱形	単層	1			
74-77			2 Prt	1184	14R-8F9	>Ph1185	不明	Va	N-85°-E	0.52	0.47	0.33	0.32	0.14	8.76	円形	箱形	単層	1			
74-77			2 Prt	883	14R-8F9		不明	Va	N-12°-W	(0.31)	0.26	0.09	0.08	0.19	8.73	円形	台形	ブロック状	5			
74			2 Prt	882	14R-8F9		不明	Va	N-62°-E	0.25	0.22	0.13	0.10	0.22	8.70	円形	箱形	ブロック状	4			
74-77			2 Prt	1259	14R-8F10		不明	Va	N-0°	0.16	0.15	0.07	0.06	0.22	8.66	円形	半円形	単層	1			
74			2 Prt	881	14R-8G1		不明	Va	N-39°-W	0.26	0.20	0.14	0.11	0.20	8.71	楕円形	半円形	ブロック状	6			
74			2 Prt	1258	14R-8G1		不明	Va	N-43°-E	0.22	0.20	0.05	0.05	0.21	8.71	楕円形	台形	単層	1			
74			2 Prt	1495	14R-8G1		不明	Va	N-90°	0.20	0.15	0.12	0.08	0.03	8.88	楕円形	台形	単層	1			
74			2 Prt	1118	14R-8G2		不明	Va	N-0°	0.18	0.14	0.08	0.08	0.23	8.68	楕円形	台形	ブロック状	6			
74			2 Prt	1127	14R-7G21-22		不明	Va	N-24°-W	0.30	0.24	0.18	0.15	0.21	8.71	楕円形	半円形	ブロック状	4			
74			2 Prt	1092	14R-7G22-23		不明	Va	N-89°-W	0.30	0.26	0.18	0.14	0.20	8.74	円形	箱形	ブロック状	5			
74			2 Prt	1098	14R-8G2		不明	Va	N-30°-E	0.26	0.17	0.13	0.08	0.11	8.81	長楕円形	台形	傾斜	3			
74			2 Prt	747	14R-8G2・3		不明	Va	N-6°-E	0.29	0.22	0.09	0.07	0.28	8.66	楕円形	円形	レシマ状	3			
74			2 Prt	746	14R-8G2	>Ph1117	不明	Va	N-63°-W	0.27	0.24	0.15	0.10	0.16	8.77	円形	箱形	単層	1			
74			2 Prt	1117	14R-8G2	<Ph1746	不明	Va	N-51°-E	0.17	0.16	0.11	0.10	0.30	8.62	円形	円形	柱状	5			
74			2 Prt	745	14R-8G3		不明	Va	N-45°-E	0.35	(0.30)	0.10	0.09	0.53	8.39	楕円形	台形					

図版No.	写真図版No.	SP記号	区画番号	遺構種類	グリッド	重複状況	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)					底面標高 (m)		形態		堆積状況	覆土の有無	遺物の有無	遺物図版No.	出土遺物備考
										上端		下端		深度	平面	断面	長輪	短輪					
										長輪	短輪	長輪	短輪										
75-173	229	362	2	Pr	212	14R-722	近世以降	Va	N-2°-E	0.20	0.17	0.05	0.04	0.25	8.73	円形	圓形	単層	1		SA2004		
75-173	229	362	2	Pr	95	14R-716	近世以降	Va	N-45°-W	0.25	0.24	0.14	0.13	0.11	8.89	円形	円形	単層	1		SA2004		
75-173	227	330-361	2	Pr	213	14R-716-17	近世以降	Va	N-1°-W	0.27	0.18	0.16	0.13	0.23	8.78	長楕円形	箱形	レンズ状	2		SA2003		
75-173	224	360	2	Pr	34	14R-718	近世以降	Va	N-70°-E	0.29	0.25	0.17	0.14	0.15	8.90	円形	半円形	単層	1		SA2002		
75-173	221	359	2	Pr	33	14R-718-23	近世以降	Va	N-49°-E	0.27	0.24	0.15	0.15	0.10	8.96	円形	半円形	単層	1		SA2001		
75-173	212	357	2	Pr	134	14R-719	近世以降	Va	N-76°-E	0.22	0.20	0.10	0.10	0.21	8.85	隅丸方形	半円形	単層	1		SA1999		
75-173	217	358	2	Pr	859	14R-719	不明	Va	N-72°-W	0.33	0.21	0.14	0.10	0.17	8.98	長楕円形	半円形	単層	1		SA2000		
75-173	212-213	357	2	Pr	51	14R-719	近世以降	Va	N-50°-W	0.21	0.19	0.13	0.12	0.23	8.85	円形	半円形	単層	1		SA2000		
75-173	217	358	2	Pr	26	14R-719	近世以降	Va	N-60°-W	0.22	0.21	0.16	0.14	0.24	8.93	隅丸方形	箱形	単層	1		SA1999		
75-173	212-144	129	2	Pr	445	14R-724	>SK442	不明	Va	N-2°-E	0.36	0.26	0.16	0.12	0.14	8.94	楕円形	半円形	単層	1		SA2001	
75-173	221	329-359	2	Pr	232	14R-723	<Pr231	近世以降	Va	N-9°-E	0.20	(0.16)	0.12	0.10	0.18	8.90	円形	半円形	単層	1		SA2001	
75-173	221	329	2	Pr	231	14R-723	>Pr232, SA2001	近世以降	Va	N-29°-W	0.20	0.19	0.14	0.10	0.12	8.94	円形	半円形	単層	1			
75-173	225	360	2	Pr	387	14R-723	近世以降	Va	N-65°-W	0.24	0.23	0.15	0.15	0.27	8.79	円形	台形	単層	1		SA2002		
75-173	225	360	2	Pr	386	14R-723, 813	近世以降	Va	N-50°-E	0.25	0.24	0.18	0.16	0.21	8.84	円形	半円形	単層	1		SA2002		
75-173	228	361	2	Pr	48	14R-812	>SE444	近世以降	Va	N-74°-E	0.40	0.37	0.19	0.17	0.19	8.77	円形	半円形	単層	1		SA2003	
75-173	229-173	331-362	2	Pr	216	14R-812	>Pr215, SE444	近世以降	Va	N-37°-E	0.20	0.20	0.10	0.08	0.09	8.88	円形	U字形	単層	1		SA2004	
75-173	229-173	331-362	2	Pr	215	14R-812	<Pr216, SA2004	近世以降	Va	N-60°-E	0.26	(0.20)	0.10	0.08	0.23	8.74	楕円形	円形	単層	1			
75-173	195-167	297-351a-c	2	Pr	388	14R-813	近世	Va	N-22°-E	0.26	0.24	0.06	0.02	0.40	8.61	隅丸方形	U字形	水平	2		SB2028		
75-173	196	351a	2	Pr	385	14R-813	近世	Va	N-34°-E	0.28	0.24	0.06	0.06	0.21	8.82	円形	半円形	単層	1		SB2028		
75-173	225	360	2	Pr	40	14R-813	近世以降	Va	N-69°-E	0.22	0.21	0.18	0.17	0.19	8.86	円形	半円形	単層	1		SA2002		
75-173	221	359	2	Pr	39	14R-814	近世以降	Va	N-52°-E	0.34	0.24	0.23	0.13	0.15	8.90	楕円形	圓形	単層	1		SA2001		
75-173	217-218	358	2	Pr	17	14R-724-25	>SK442, SD81	近世以降	Va	N-85°-E	0.24	0.23	0.10	0.08	0.18	8.90	円形	U字形	単層	1		SA2000	
75-173	213	357	2	Pr	123	14R-725	>SD81	近世以降	Va	N-14°-E	0.19	0.19	0.10	0.09	0.26	8.80	円形	半円形	単層	1		SA1999	
75-173	213	357	2	Pr	122	14R-725, 815	>SD81	近世以降	Va	N-63°-E	0.23	0.18	0.12	0.12	0.25	8.81	隅丸長方形	円形	単層	1		SA1999	
75-173	218	358	2	Pr	24	14R-815	>SD81	近世以降	Va	N-31°-W	0.24	0.24	0.18	0.14	0.19	8.91	隅丸方形	半円形	単層	1		SA2000	
75-173	222	359	2	Pr	432	14R-814	>SD81	不明	Va	N-38°-E	0.24	0.20	0.14	0.13	0.61	8.39	楕円形	U字形	単層	1			
75-173	222	359	2	Pr	44	14R-814	>Pr384, SB2028	近世以降	Va	N-41°-E	0.31	0.23	0.05	0.04	0.14	8.90	楕円形	箱形	単層	1		SA2001	
75-173	196	351a-d	2	Pr	384	14R-814	<Pr44, SA2001	近世	Va	N-90°	0.34	0.26	0.19	(0.06)	0.28	8.74	楕円形	台形	単層	1		SB2028	
75-173	225	360	2	Pr	230	14R-814-9	近世以降	Va	N-30°-E	0.20	0.17	0.16	0.08	0.16	8.88	円形	半円形	単層	1		SA2002		
75-173	196	351c	2	Pr	389	14R-818	不明	Va	N-37°-E	0.26	0.23	0.14	0.12	0.25	8.78	円形	階段形	ブロック状	2		SB2028		
75-173	230	362	2	Pr	206	14R-818	近世	Va	N-3°-E	0.44	0.41	0.14	0.12	0.40	8.58	円形	U字形	レンズ状	3		SB2028		
75-173	230	362	2	Pr	208	14R-817-8	近世以降	Va	N-13°-E	0.18	0.16	0.10	0.09	0.09	8.87	円形	箱形	単層	1		SA2004		
75-173	230	362	2	Pr	205	14R-818	近世以降	Va	N-59°-E	0.24	0.22	0.17	0.16	0.14	8.84	円形	箱形	単層	1		SA2004		
75-173	230	362	2	Pr	204	14R-818	近世以降	Va	N-35°-E	0.20	0.16	0.13	0.10	0.13	8.86	楕円形	箱形	単層	1				
75-173	197-230	362	2	Pr	203	14R-813	近世以降	Va	N-43°-E	0.24	0.24	0.12	0.10	0.19	8.81	円形	台形	単層	1		SA2004		
75-173	197	351b-c	2	Pr	202	14R-813	近世	Va	N-87°-W	0.29	0.28	0.06	0.03	0.43	8.55	円形	U字形	単層	1		SB2028		
75-173	197	351b	2	Pr	201	14R-813	不明	Va	N-64°-W	0.31	0.24	0.12	0.08	0.29	8.69	楕円形	圓形	単層	1				
75-173	197	351a	2	Pr	822	14R-813	不明	Va	N-68°-E	0.18	0.16	0.08	0.05	0.04	8.93	円形	圓形	単層	1		SB2028		
75-173	197	351b-d	2	Pr	428	14R-814	>SD81	近世	Va	N-70°-W	0.32	0.23	0.14	0.10	0.36	8.68	楕円形	レンズ状	2				
75-173	226	360	2	Pr	42	14R-819-14	>SD81	近世以降	Va	N-83°-W	0.43	0.38	0.28	0.24	0.15	8.90	円形	台形	単層	1		SB2028	
75-173	196	351d	2	Pr	52	14R-819	>SB2028, SA2002	近世	Va	N-27°-W	0.24	0.22	0.15	0.13	0.19	8.88	円形	U字形	単層	1		SB2028, SA2002	
75-173	222	359	2	Pr	43	14R-819	>SD81	近世以降	Va	N-58°-E	0.32	0.24	0.19	0.14	0.25	8.80	楕円形	半円形	単層	1		SA2001	
75-173	222	359	2	Pr	41	14R-819-10	>SD81	近世以降	Va	N-31°-E	0.32	0.24	0.18	0.16	0.14	8.90	楕円形	圓形	単層	1		SA2001	
75-173	222	359	2	Pr	10	14R-810	近世以降	Va	N-89°-W	0.58	0.50	0.32	0.20	0.18	8.92	円形	半円形	単層	1				
75-173	218	358	2	Pr	132	14R-810	近世以降	Va	N-82°-E	0.22	0.18	0.10	0.09	0.27	8.81	楕円形	U字形	単層	1		SA2000		
75-173	218	358	2	Pr	131	14R-815	近世以降	Va	N-43°-W	0.22	0.22	0.08	0.08	0.28	8.81	円形	半円形	単層	1		SA2000		
75-173	213	357	2	Pr	8	14R-815	近世以降	Va	N-90°	0.25	0.19	0.15	0.11	0.29	8.78	隅丸方形	半円形	単層	1		SA1999		
75-173	213-214	357	2	Pr	133	14S-8A6, 8110	近世以降	Va	N-26°-W	0.18	0.17	0.13	0.10	0.27	8.79	隅丸方形	U字形	単層	1		SA1999		
75-173	213	357	2	Pr	21	14S-8A2	不明	Va	N-47°-W	0.32	0.28	0.09	0.07	0.38	8.64	円形	半円形	単層	1				
75-173	213	357	2	Pr	484	14S-8A8	不明	Va	N-26°-W	0.54	(0.46)	0.09	0.08	0.55	8.49	楕円形	箱形	柱状	5				
75-173	213	357	2	Pr	485	14S-8A13	不明	Va	N-24°-W	0.42	(0.21)	0.06	0.03	0.34	8.69	長楕円形	階段形	柱状	4				
75-173	213	357	2	Pr	82	14S-8A7	不明	Va	N-76°-W	0.40	0.32	0.14	0.10	0.32	8.88	楕円形	半円形	単層	1				
75-173	213	357	2	Pr	57	14S-8A12	不明	Va	N-74°-W	0.33	0.20	0.22	0.10	0.12	8.93	長楕円形	圓形	単層	1				

図版No.	写真図版No.	SP記号	区画番号	遺構種類	グリッド	重複状況	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)					底面標高 (m)		形態		堆積状況	覆土の有無	遺物の有無	遺物図版No.	出土遺物備考
										上端		下端		深度	平面	断面	長輪	短輪					
										長輪	短輪	長輪	短輪										
75-78	214	357	2	Pr	1	14S-8A11	近世以降	Va	N-69°-W	0.22	0.19	0.13	0.11	0.27	8.79	隅丸方形	U字形	単層	1		SA1999		
75-78	214	357	2	Pr	3	14S-8A6	近世以降	Va	N-40°-E	0.22	0.22	0.14	0.12	0.32	8.74	円形	U字形	単層	1		SA1999		
75-78	218-219	358	2	Pr	9	14S-8A6-11	近世以降	Va	N-20°-W	0.19	0.16	0.06	0.06	0.18	8.91	円形	U字形	単層	1		SA2000		
75-78	219	358	2	Pr	2	14S-8A11	近世以降	Va	N-65°-W	0.26	0.20	0.11	0.08	0.12	8.96	楕円形	圓形	単層	1		SA2002		
75-78	219	358	2	Pr	6	14S-8A11	近世以降	Va	N-90°	0.22	0.20	0.10	0.09	0.22	8.87	隅丸方形	U字形	単層	1		SA2000		
78-173	223	359	2	Pr	54	14R-8115	近世以降	Va	N-61°-E	0.26	0.22	0.08	0.08	0.13	8.91	円形	U字形	単層	1		SA2001		
78-173	222	359	2	Pr	229	14R-8115	近世以降	Va	N-52°-E	0.27	0.22	0.17	0.10	0.16	8.88	楕円形	台形	単層	1		SA2001		
78-173	222	359	2	Pr	427	14R-8114	不明	Va	N-44°-E	0.39	0.30	0.22	0.18	0.07	8.87	楕円形	半円形	単層	1				
78-173	222	359	2	Pr	426	14R-8114-19	不明	Va	N-84°-E	0.33	0.32												

図版No.	写真図版 No.	SP記号	遺構 種別	グリッド	重複状況	時代	確認 主軸方向	規模 (m)					底面 標高 (m)		形態		重複 状況	礎土 の有無	遺構 図版 No.	出土遺物 備考
								上端		下端		深度	平面	断面	階数	層数				
								長軸	短軸	長軸	短軸									
78		2 Prt 856	14R-9J7	<SD252, <PH872	不明	Va N-90°	(0.29)	0.22	0.10	0.10	0.30	8.81	楕円形	半円形	単層	1				
78		2 Prt 872	14R-9J7	<PH856	近世 以降	Va N-61°-W	0.20	0.15	0.09	0.06	0.20	8.90	楕円形	半円形	単層	1				
78		2 Prt 851	14R-9J6	<SD665	不明	Va N-46°-E	(0.23)	(0.20)	0.10	0.08	0.38	8.57	円形	U字形	単層	1				
78		2 Prt 852	14R-9J2	<SD421- <665	不明	Va N-63°-W	(0.23)	(0.20)	0.10	0.06	0.45	8.57	円形	U字形	単層	1				
78		2 Prt 281	14R-8J21		不明	Va N-24°-E	0.30	0.25	0.15	0.14	0.13	8.92	隅丸方形	圓形	単層	1	有 199	遺墨/漆		
78-167	197-198	301・352a・d	14R-8J12-17		近世	Va N-20°-E	0.75	0.53	0.11	0.10	0.54	8.44	楕円形	U字形	ブロック状	4			SB2029	
78-167	197-300	302・352a・c	14R-8J16	<PH634	近世	Va N-3°-E	0.62	0.56	0.32	0.26	0.43	8.56	円形	階段形	ブロック状	6			SB2029	
78-167	197-300		14R-8J16	<PH635, <SR029	不明	Va N-47°-W	0.40	0.20	0.07	0.06	0.22	8.76	長楕円形	V字形	水平	2				
78		2 Prt 839	14R-8J16		不明	Va N-1°-E	0.18	0.16	0.09	0.07	0.18	8.76	円形	台形	単層	1				
78		2 Prt 499	14R-8J15-20		不明	Va N-68°-W	0.34	0.33	0.10	0.06	0.29	8.64	円形	半円形	単層	1				
78		2 Prt 815	14R-8J19		不明	Va N-89°-W	0.21	0.20	0.10	0.06	0.12	8.84	円形	半円形	単層	1				
78		2 Prt 800	14R-8J20	<PH661	不明	Va N-42°-E	0.28	0.26	0.12	0.08	0.13	8.81	円形	半円形	単層	2				
78		2 Prt 661	14R-8J20	<PH500	不明	Va N-17°-E	(0.19)	(0.19)	0.07	0.07	0.10	8.84	楕円形	半円形	単層	1				
78		2 Prt 638	14R-8J20	<PH810, <PH639	不明	Va N-3°-W	0.48	0.46	0.34	0.20	0.24	8.70	円形	台形	ブロック状	4				
78		2 Prt 810	14R-8J20	<PH638- <639	不明	Va N-37°-E	0.31	0.22	0.12	0.12	0.31	8.61	楕円形	台形	単層	1				
78		2 Prt 639	14R-8J20	<PH638- <810	近世	Va N-57°-E	0.42	(0.30)	0.20	0.15	0.42	8.52	楕円形	U字形	レンズ状	4	有 210	陶器/皿		
78		2 Prt 711	14R-8J19-20-24-25		不明	Va N-3°-W	0.32	0.28	0.14	0.09	0.17	8.76	円形	レンズ状	2					
78		2 Prt 711	14R-8J24		不明	Va N-47°-W	0.30	0.28	0.10	0.10	0.12	8.85	円形	半円形	ブロック状	3				
78		2 Prt 714	14R-8J25		不明	Va N-38°-E	0.29	0.26	0.08	0.08	0.31	8.64	円形	U字形	単層	1				
78		2 Prt 811	14R-8J25	<PH812	不明	Va N-16°-W	0.25	(0.02)	(0.10)	(0.10)	0.15	8.78	円形	半円形	水平	2				
78		2 Prt 812	14R-8J25	<PH715, <PH811	不明	Va N-72°-E	0.38	0.20	0.26	0.14	0.07	8.86	長楕円形	楕円形	水平	2				
78		2 Prt 715	14R-8J25	<PH812	不明	Va N-25°-W	0.38	0.25	0.14	0.14	0.13	8.80	長楕円形	半円形	斜位	2				
78		2 Prt 712	14R-8J24-25, 9J4-5		不明	Va N-52°-W	0.56	0.42	0.44	0.31	0.11	8.85	楕円形	台形	単層	1				
78-132	140	2 Prt 703	14R-8J23	<SX701	不明	Va N-12°-E	(0.30)	(0.25)	0.12	0.11	0.17	8.80	楕円形	半円形	単層	1				
78		2 Prt 606	14R-8J23		不明	Va N-87°-E	0.25	0.23	0.15	0.11	0.32	8.64	円形	半円形	水平	4				
78-132	140	2 Prt 702	14R-8J23	<SX701	不明	Va N-83°-W	(0.28)	(0.24)	0.20	0.12	0.34	8.63	円形	U字形	斜位	3				
78		2 Prt 646	14R-8J23-9J3		不明	Va N-9°-W	0.50	0.40	0.35	0.24	0.04	8.92	楕円形	台形	単層	1	有 222	石/磨石		
78		2 Prt 671	14R-9J3		不明	Va N-64°-W	0.48	0.44	0.23	0.15	0.21	8.78	円形	U字形	単層	1				
78		2 Prt 666	14R-9J3	>PH667	不明	Va N-1°-W	0.62	0.49	0.06	0.06	0.29	8.71	楕円形	箱形	ブロック状	3				
78		2 Prt 667	14R-9J3	<PH666	不明	Va N-80°-W	0.48	0.25	0.14	0.11	0.36	8.64	楕円形	U字形	柱状	3				
78		2 Prt 670	14R-9J3		不明	Va N-9°-W	0.39	0.24	0.12	0.20	0.80	楕円形	半円形	レンズ状	3					
78		2 Prt 669	14R-9J2-3		不明	Va N-50°-E	0.31	0.23	0.16	0.10	0.27	8.74	楕円形	U字形	柱状	3				
78		2 Prt 807	14R-9J2		近世	Va N-79°-W	0.23	0.20	0.10	0.09	0.06	8.94	円形	圓形	レンズ状	2	有 210・225	陶器/鉢、石/磨石+磁石		
78		2 Prt 1855	14R-8J21		不明	Va N-7°-W	0.21	0.17	0.12	0.08	0.07	8.90	楕円形	圓形	単層	1				
78		2 Prt 1852	14R-9H5		不明	Va N-76°-E	0.18	0.15	0.10	0.05	0.06	8.87	楕円形	圓形	単層	1				
78		2 Prt 1851	14R-9H5		不明	Va N-53°-E	0.36	0.26	0.23	0.16	0.08	8.84	楕円形	圓形	単層	1				
78		2 Prt 1869	14R-9H5		不明	Va N-25°-E	0.46	0.34	0.37	0.17	0.09	8.85	楕円形	圓形	単層	1	有 224	下段※		
78		2 Prt 1854	14R-9H5		不明	Va N-64°-E	0.22	0.21	0.09	0.08	0.15	8.76	円形	半円形	単層	1				
78		2 Prt 1853	14R-9H5		不明	Va N-22°-W	0.21	0.17	0.12	0.06	0.09	8.83	楕円形	圓形	単層	1				
78		2 Prt 1858	14R-8J25	<SD150	不明	Va N°	(0.21)	(0.21)	0.09	(0.08)	0.17	8.73	楕円形	U字形	単層	1				
78		2 Prt 630	14R-8H14-19	<SD150	不明	Va N-39°-E	0.69	0.56	0.24	0.20	0.30	8.65	楕円形	半円形	柱状	4				
78		2 Prt 620	14R-8H13-18	<PH619	不明	Va N-68°-W	0.58	0.52	0.37	0.28	0.12	8.84	円形	圓形	ブロック状	3				
77-78		2 Prt 619	14R-8H13	>PH620	不明	Va N-7°-W	0.37	0.33	0.21	0.16	0.20	8.75	円形	半円形	斜位	2				
75-77-78		2 Prt 775	14R-8H13		不明	Va N-34°-E	0.47	0.31	0.05	0.04	0.35	8.60	隅丸長方形	円形	単層	1				
75-77-78		2 Prt 617	14R-8H13		不明	Va N-71°-E	0.43	0.42	0.20	0.17	0.13	8.82	円形	半円形	単層	1				
75-77-78		2 Prt 1106	14R-8H13		不明	Va N-90°	0.23	0.17	0.11	0.05	0.12	8.82	楕円形	箱形	単層	1				
77-78		2 Prt 1107	14R-8H12		不明	Va N-23°-E	0.27	0.24	0.15	0.13	0.08	8.85	円形	台形	斜位	3				
77-78		2 Prt 627	14R-8H12-17		近世 以降	Va N-83°-W	0.28	0.27	0.08	0.05	0.17	8.73	円形	台形	単層	1				
75-77		2 Prt 776	14R-8H11-12		不明	Va N-70°-W	0.30	0.20	0.16	0.06	0.10	8.84	長楕円形	台形	斜位	3				
75-77		2 Prt 621	14R-8H11		不明	Va N-12°-E	0.30	0.24	0.13	0.12	0.11	8.83	楕円形	台形	単層	1				
77		2 Prt 1691	14R-8H11		近世 以降	Va N-5°-E	0.18	0.16	0.07	0.15	0.79	円形	U字形	ブロック状	2					
77		2 Prt 927	14R-8G15		不明	Va N-2°-W	0.24	0.18	0.12	0.10	0.12	8.80	楕円形	半円形	単層	1				
77		2 Prt 926	14R-8G15		不明	Va N-65°-W	0.20	0.19	0.09	0.08	0.17	8.74	円形	半円形	単層	1				
77		2 Prt 916	14R-8G9-14	>PH917, <SD537	不明	Va N-48°-E	0.28	(0.22)	0.05	0.04	0.23	8.70	楕円形	U字形	水平	2				
77		2 Prt 917	14R-8G9-14	<PH916	不明	Va N-18°-E	0.30	(0.28)	0.07	0.06	0.20	8.72	円形	台形	柱状	3				
77		2 Prt 1256	14R-8G13		不明	Va N-22°-W	0.24	0.21	0.10	0.17	0.73	楕円形	台形	ブロック状	4					
77		2 Prt 1198	14R-8G7	<SD1299	不明	Va N-52°-E	0.22	0.21	0.11	0.09	0.31	8.59	楕円形	半円形	単層	1	有 240	木/漆/椀		
77		2 Prt 1711	14R-8G17	<SK1195	不明	Va N-68°-W	0.25	(0.12)	(0.16)	0.15	0.08	8.72	楕円形	半円形	単層	1				
77		2 Prt 1713	14R-8G18		不明	Va N-42°-W	0.14	0.13	0.10	0.07	0.07	8.75	円形	台形	単層	1				
77		2 Prt 1712	14R-8G18		不明	Va N°	0.20	0.17	0.10	0.05	0.15	8.67	円形	台形	単層	1				
77		2 Prt 1779	14R-8G13-18	<PH1253	不明	Va N-89°-E	(0.42)	(0.40)	0.10	0.08	0.32	8.68	隅丸方形	半円形	ブロック状	3				
77		2 Prt 1254	14R-8G13-18	<PH1253	不明	Va N-87°-E	0.30	(0.21)	0.22	(0.15)	0.14	8.69	隅丸方形	半円形	ブロック状	3				
77		2 Prt 1253	14R-8G13-18	下段※	不明	Va N-80°-W	(0.70)	(0.41)	0.55	(0.29)	0.22	8.60	楕円形	箱形	水平	5				
77		2 Prt 1500	14R-8G13	<SE732, <PH1254-1779	不明	Va N-6°-E	(0.40)	0.32	0.24	(0.23)	0.13	8.69	楕円形	圓形	単層	1				
77		2 Prt 1496	14R-8G13	<SE732, <PH1714	不明	Va N-45°-E	0.26	(0.25)	0.06	0.05	0.24	8.61	円形	U字形	単層	1				
77		2 Prt 1714	14R-8G13	<PH1496	不明	Va N-65°-W	0.19	(0.17)	0.10	(0.07)	0.08	8.79	円形	半円形	単層	1				
77		2 Prt 1187	14R-8G14	<SD537	不明	Va N-69°-W	(0.22)	(0.20)	0.11	(0.10)	0.19	8.69	楕円形	半円形	ブロック状	3				
77		2 Prt 1186	14R-8G14-19	<SD537	不明	Va N-24°-W	(0.44)	(0.23)	0.08	0.07	0.20	8.52	円形	台形	ブロック状	1				
77		2 Prt 925	14R-8G15-20		不明	Va N°	0.24	0.30	0.23	0.15	0.16	8.73	隅丸長方形	半円形	単層	1				
77		2 Prt 623	14R-8H16		近世 以降	Va N-4°-E	0.39	0.36	0.24	0.20	0.20	8.73	円形	箱形	ブロック状	3				
77		2 Prt 622	14R-8H11		不明	Va N-20°-E	0.29	0.25	0.18	0.15	0.08	8.82	楕円形	ブロック状	3					
77		2 Prt 624	14R-8H16		不明	Va N-83°-E	0.28	0.25	0.19	0.13	0.18	8.73	円形	箱形	ブロック状	4				
77		2 Prt 625	14R-8H16		不明	Va N-88°-W	0.26	0.25												

図版No.	写真図版 No.	SP記号	遺構 種別 番号	グリッド	重要状況	時代	確認 面	主軸方向	規模 (m)				底面 標高 (m)	形態		堆積状況	遺物の 有無	遺物図版 No.	出土遺物 備考
									上端		下端			平面	断面				
									長軸	短軸	長軸	短軸							
77		2 Pt	1468	14R-SF17-18	<SD1241, 道路状遺構 2016>	近世	Va N-5°-W	0.22	0.16	0.13	0.08	0.10	8.78	楕円形	単層	1			
77		2 Pt	1761	14R-SF17	<SD1241, 道路状遺構 2016>	近世	Va N-0°	0.24	(0.12)	0.10	(0.10)	0.10	8.77	円形	単層	2			
77		2 Pt	1759	14R-SF22	<SD1241, 道路状遺構 2016>	近世	Va N-10°-W	0.45	(0.30)	(0.18)	0.06	0.21	8.66	楕円形	単層	2			
77		2 Pt	1760	14R-SF17	<SD1241, 道路状遺構 2016>	近世	Va N-3°-W	0.30	(0.18)	0.13	0.10	0.14	8.72	長楕円形	単層	1			
77		2 Pt	1289	14R-SF17	<SD1241, 道路状遺構 2016>	近世	Va N-53°-W	0.15	0.13	0.06	0.05	0.11	8.74	円形	単層	1			
77		2 Pt	1238	14R-SF17	<SD1241, 道路状遺構 2016>	近世	Va N-16°-W	0.26	0.22	0.12	0.10	0.34	8.53	円形	単層	1			
77		2 Pt	1653	14R-SF17	<SD1241, 道路状遺構 2016>	近世	Va N-72°-W	0.19	0.15	0.10	0.06	0.11	8.76	楕円形	単層	2			
77		2 Pt	1290	14R-SF16-17	<SD1241, 道路状遺構 2016>	近世	Va N-90°	0.54	0.30	0.08	0.07	0.15	8.73	長楕円形	単層	1			
77		2 Pt	1291	14R-SF11	<SD1241, 道路状遺構 2016>	近世	Va N-17°-E	0.20	0.18	0.13	0.09	0.04	8.83	円形	単層	1			
77		2 Pt	1288	14R-SF11	<SD1299, 不明>	不明	Va N-90°	(0.24)	(0.24)	0.10	0.08	0.20	8.70	楕円形	単層	2			
77		2 Pt	1301	14R-SF18	<SD1299, 不明>	近世	Va N-53°-E	0.17	0.17	0.10	0.04	0.16	8.68	円形	単層	1			
77		2 Pt	1302	14R-SF13	<SD1299, 不明>	近世	Va N-0°	0.18	0.17	0.12	0.10	0.05	8.80	円形	単層	1			
77		2 Pt	1304	14R-SF13	<SD1300, 不明>	不明	Va N-64°-W	(0.19)	(0.16)	(0.10)	(0.06)	0.14	8.63	円形	単層	1			
73-77		2 Pt	1303	14R-SF13	<SD1300, 不明>	近世	Va N-39°-E	0.21	0.18	0.10	0.08	0.17	8.70	円形	単層	1			
77		2 Pt	1204	14R-SF12-13	<SD1299, 不明>	近世	Va N-87°-E	0.26	0.22	0.11	0.06	0.20	8.67	円形	単層	1			
77		2 Pt	1244	14R-SF12	<SD1299, 不明>	近世	Va N-35°-E	0.17	0.14	0.04	0.04	0.10	8.76	楕円形	単層	1			
77		2 Pt	1245	14R-SF12-17	<SD1299, 不明>	近世	Va N-46°-W	0.20	0.20	0.08	0.06	0.14	8.74	円形	単層	2			
77		2 Pt	1246	14R-SF16-17	<SD1299, 不明>	近世	Va N-0°	0.22	0.22	0.12	0.08	0.26	8.61	円形	単層	1			
77		2 Pt	1247	14R-SF16	<SD1299, 不明>	近世	Va N-11°-W	0.26	0.20	0.18	0.11	0.10	8.78	楕円形	単層	2			
77		2 Pt	1249	14R-SF16	<SD1299, 不明>	不明	Va N-28°-E	0.25	0.23	0.17	0.16	0.24	8.62	円形	単層	1			
77		2 Pt	1604	14R-SF11	<SD1299, 不明>	近世	Va N-73°-W	0.24	0.21	0.14	0.10	0.08	8.78	円形	単層	1			
77		2 Pt	1250	14R-SF16	<SD1300, 不明>	近世	Va N-45°-E	0.21	0.20	0.08	0.07	0.20	8.68	円形	単層	1			
76		2 Pt	1808	14R-SD14	<SD1300, 不明>	近世	Va N-34°-W	(0.43)	0.37	0.31	0.22	0.18	8.66	楕円形	単層	4			
76		2 Pt	1806	14R-SD18	<SD1300, 不明>	近世	Va N-57°-W	0.15	0.14	0.07	0.04	0.08	8.76	円形	単層	1			
76		2 Pt	1819	14R-SD22	<SD1300, 不明>	近世	Va N-0°	0.27	0.25	0.10	0.07	0.81	円形	単層	2				
76		2 Pt	1805	14R-SD16	<SD1300, 不明>	近世	Va N-83°-E	0.23	0.21	0.15	0.08	0.24	8.62	円形	単層	2			
76		2 Pt	1804	14R-SD20	<SD1300, 不明>	近世	Va N-4°-W	0.28	0.22	0.18	0.15	0.09	8.78	楕円形	単層	2			
76		2 Pt	1914	14R-SF15	<SD1300, 不明>	近世	Va N-75°-W	(0.36)	(0.27)	(0.19)	(0.18)	0.18	8.45	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1913	14R-SF14-15	<SD1300, 不明>	近世	Va N-83°-E	(0.20)	(0.16)	(0.12)	(0.10)	0.20	8.55	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1802	14R-SF19	<SD1300, 不明>	中世	Va N-7°-E	0.30	0.27	0.10	0.08	0.24	8.59	楕円形	単層	5			
76-118-154	125	2 Pt	1679	14R-SF12-13-17-18	<SD1563, 道路状遺構 2018, >SK1567	近世	Va N-87°-W	(0.55)	0.34	0.08	0.06	0.16	8.54	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1864	14R-SF12	<SD1563, 道路状遺構 2018, >SK1567	不明	Va N-30°-W	0.37	0.30	0.15	0.10	0.24	8.52	楕円形	単層	3			
76		2 Pt	1863	14R-SF12	<SD1563, 道路状遺構 2018, >SK1567	不明	Va N-32°-W	0.36	0.27	0.22	0.14	0.15	8.63	楕円形	単層	2			
76		2 Pt	1789	14R-SF14	<SD1563, 道路状遺構 2018, >SK1567	近世	Va N-0°	0.23	0.20	0.11	0.11	0.26	8.58	円形	単層	3			
76		2 Pt	1790	14R-SF20-25	<SD1563, 道路状遺構 2018, >SK1567	近世	Va N-58°-W	0.35	0.32	0.17	0.15	0.11	8.70	円形	単層	1			
76		2 Pt	1791	14R-SF20-25	<SD1563, 道路状遺構 2018, >SK1567	不明	Va N-0°	0.25	0.22	0.15	0.13	0.10	8.71	円形	単層	1			
76		2 Pt	1941	14R-SF1-2-6-7	<SD1563, 道路状遺構 2018, >SK1567	近世	Va N-65°-W	0.71	0.58	0.52	0.43	0.31	8.49	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1792	14R-SF5	<SD1563, 道路状遺構 2018, >SK1567	中世	Va N-50°-W	0.29	0.22	0.11	0.07	0.27	8.53	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1396	14R-SF1	<SD1563, 道路状遺構 2018, >SK1567	中世	Va N-0°	0.28	0.22	0.15	0.11	0.22	8.62	楕円形	単層	2			
76		2 Pt	1395	14R-SF7	<SD1563, 道路状遺構 2018, >SK1567	近世	Va N-62°-W	0.26	0.20	0.18	0.12	0.10	8.72	楕円形	単層	3			
76		2 Pt	1803	14R-SF23	<SD1563, 道路状遺構 2018, >SK1567	近世	Va N-18°-E	0.30	0.28	0.08	0.07	0.23	8.60	円形	単層	3			
76		2 Pt	1556	14R-SF9C9	<SD1564, 道路状遺構 2018>	近世	Va N-66°-E	(0.54)	0.42	(0.38)	0.26	0.11	8.78	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1401	14R-SF9C8	<SD1564, 道路状遺構 2018>	近世	Va N-88°-W	0.18	0.15	0.11	0.07	0.06	8.80	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1399	14R-SF7-8	<SD1564, 道路状遺構 2018>	近世	Va N-90°-E	0.26	0.22	0.18	0.10	0.05	8.75	円形	単層	1			
76		2 Pt	1370	14R-SF12-13	<SD1564, 道路状遺構 2018>	近世	Va N-0°	0.28	0.22	0.15	0.10	0.09	8.70	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1362	14R-SF13	<SD1564, 道路状遺構 2018>	近世	Va N-70°-E	0.24	0.20	0.10	0.05	0.21	8.61	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1363	14R-SF13	<SD1564, 道路状遺構 2018>	近世	Va N-20°-W	0.33	0.22	0.20	0.09	0.07	8.75	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1976	14R-SF14	<SD1564, 道路状遺構 2018>	近世	Va N-86°-W	(0.28)	0.26	0.14	0.14	0.14	8.68	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1361	14R-SF14	<SD1564, 道路状遺構 2018>	近世	Va N-26°-W	0.26	0.18	0.14	0.06	0.09	8.79	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1360	14R-SF14	<SD1564, 道路状遺構 2018>	近世	Va N-24°-W	0.26	0.23	0.19	0.13	0.10	8.76	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1359	14R-SF14-15	<SD1564, 道路状遺構 2018>	近世	Va N-25°-W	0.25	0.20	0.14	0.08	0.10	8.77	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1343	14R-SF16	<SD1522, 不明>	近世	Va N-40°-W	0.28	0.22	0.09	0.03	0.24	8.66	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1352	14R-SF16	<SD1522, 不明>	近世	Va N-28°-W	0.17	0.14	0.06	0.03	0.19	8.71	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1351	14R-SF16	<SD1522, 不明>	近世	Va N-90°	0.16	0.12	0.08	0.07	0.14	8.75	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1350	14R-SF16	<SD1522, 不明>	近世	Va N-0°	0.20	0.18	0.10	0.08	0.12	8.79	円形	単層	1			
76		2 Pt	1559	14R-SF17	<SD1522, 不明>	不明	Va N-30°	0.28	0.24	0.18	0.17	0.08	8.72	円形	単層	1			
76		2 Pt	1214	14R-SF18	<SD1522, 不明>	不明	Va N-33°-E	0.21	0.18	0.08	0.06	0.29	8.61	円形	単層	1			
76		2 Pt	1213	14R-SF18	<SD1522, 不明>	近世	Va N-0°	0.24	0.22	0.11	0.10	0.30	8.58	円形	単層	1			
76		2 Pt	1603	14R-SF12-17	<SD1522, 不明>	近世	Va N-5°-E	0.20	0.16	0.12	0.10	0.17	8.76	楕円形	単層	2			
76		2 Pt	1602	14R-SF12	<SD1522, 不明>	近世	Va N-54°-W	0.20	0.14	0.10	0.09	0.06	8.85	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1212	14R-SF12	<SD1522, 不明>	近世	Va N-56°-E	0.22	0.15	0.09	0.06	0.11	8.81	楕円形	単層	1			
76		2 Pt	1211	14R-SF12	<SD1522, 不明>	近世	Va N-56°-E	0.23	0.15	0.12	0.06	0.10	8.81	長楕円形					

図面No.	写真図面 No.	SP記号	区	通構	グリッド	重複状況	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				底面		形態		堆積状況	遺物の有無	遺物図面 No.	出土遺物備考	
										上端		下端		深度	長	幅	平面					断面
										長輪	短輪	長輪	短輪									
77				2 Prt 1199	14R-9G14		近世	Va N-16 -E	0.39	0.25	0.30	0.12	0.10	8.79	長楕円形	円形	水	2				
77				2 Prt 1200	14R-9G13		近世	Va N-53 -E	0.26	0.19	0.17	0.10	0.06	8.92	楕円形	円形	ブロック状	5				
77				2 Prt 1181	14R-9G13-14		近世	Va N-84 -E	0.43	0.34	0.10	0.09	0.34	8.53	楕円形	台形	ブロック状	5				
77-168	200	353e		2 Prt 910	14R-9G13	<SD537	近世	Va N-39 -E	0.51	0.40	0.10	0.08	0.21	8.24	楕円形	階段形	水	1		SB2010		
77				2 Prt 1727	14R-9G13	<SD537	近世	Va N-7 -E	(0.20)(0.17)	(0.09)	(0.07)	0.17	8.65	円形	円形	ブロック状	1					
77				2 Prt 1722	14R-9G13-13		近世	Va N-6 -W	0.35	0.28	0.09	0.09	0.22	8.62	楕円形	楕円形	ブロック状	3				
77				2 Prt 1726	14R-9G18	<SD537	近世	Va N-36 -W	(0.13)(0.13)	(0.06)	(0.05)	0.22	8.62	円形	円形	単層	1					
77				2 Prt 1725	14R-9G18	<SD537	不明	Va N-78 -E	(0.26)(0.18)	(0.07)	(0.06)	0.28	8.56	楕円形	U字形	単層	1					
77				2 Prt 1506	14R-9G18	<SD537	不明	Va N-16 -W	(0.17)(0.15)	(0.10)	(0.06)	0.07	8.65	円形	円形	単層	1					
77				2 Prt 939	14R-9G18		不明	Va N-43 -W	0.29	0.27	0.14	0.12	0.11	8.68	円形	半円形	ブロック状	3				
77				2 Prt 1728	14R-9G13-18		近世	Va N-59 -E	0.21	0.17	0.08	0.08	0.41	8.47	楕円形	円形	単層	1				
77				2 Prt 1180	14R-9G19		不明	Va N-50 -W	0.45	0.40	0.13	0.07	0.34	8.56	円形	楕円形	柱状	6				
77				2 Prt 1263	14R-9G19		不明	Va N-45 -W	0.31	0.29	0.09	0.07	0.29	8.82	円形	楕円形	斜位	3				
77				2 Prt 1443	14R-9G19		不明	Va N-56 -E	0.19	0.17	0.10	0.08	0.07	8.83	円形	単層	1					
77				2 Prt 1442	14R-9G19		不明	Va N-85 -W	0.21	0.21	0.13	0.10	0.07	8.84	円形	台形	単層	1				
77				2 Prt 1444	14R-9G20		不明	Va N-39 -W	0.30	0.27	0.10	0.09	0.23	8.71	円形	台形	ブロック状	4				
77				2 Prt 1134	14R-9H16		不明	Va N-57 -E	0.18	0.15	0.10	0.07	0.05	8.87	楕円形	半円形	単層	1				
77-168	201	314-353c-f		2 Prt 901	14R-9H16		近世	Va N-49 -W	0.93	0.81	0.21	0.17	0.56	8.40	円形	階段形	柱状	6	有 210	SB2010	磁器/陶器、小 林・徳利	
77				2 Prt 922	14R-9H16		不明	Va N-52 -W	0.40	0.28	0.26	0.11	0.08	8.90	円形	単層	1					
77				2 Prt 896	14R-9H16		不明	Va N-52 -W	0.32	0.28	0.17	0.06	0.18	8.82	円形	台形	レンズ状	4				
77				2 Prt 1497	14R-9H20		不明	Va N-39 -W	0.15	0.15	0.07	0.06	0.06	8.87	円形	台形	単層	1				
77-168	200	310		2 Prt 902	14R-9H11	<Pn903, SB2010	近世	Va N-1 -W	0.96	0.88	0.16	0.13	0.28	8.68	楕円長方形	台形	ブロック状	4		SB2010		
77-168	200	353b-f		2 Prt 903	14R-9H11	<Pn902, SB2010	近世	Va N-1 -W	0.70	(0.56)	0.13	0.11	0.28	8.66	楕円長方形	階段形	柱状	4		SB2010		
77				2 Prt 899	14R-9H11-12		近世	Va N-70 -W	0.24	0.23	0.10	0.09	0.12	8.84	円形	台形	単層	1				
77-78	200	311-353b-g		2 Prt 893	14R-9H12		近世	Va N-1 -W	(0.77)(0.56)	0.22	0.15	0.21	8.75	楕円長方形	階段形	水	4		SB2010			
77-78	200	312-353b-h		2 Prt 912	14R-9H12		近世	Va N-87 -E	0.88	0.62	0.45	0.19	0.48	8.46	楕円長方形	階段形	ブロック状	7		SB2010		
77-78				2 Prt 1772	14R-9H17		不明	Va N-37 -E	0.17	0.15	0.08	0.07	0.06	8.87	円形	単層	1					
77-78				2 Prt 723	14R-9H17-18		不明	Va N-2 -E	0.40	0.35	0.17	0.12	0.23	8.72	楕円長方形	半円形	単層	1				
78				2 Prt 1800	14R-9H14		不明	Va N-71 -W	0.25	0.22	0.12	0.08	0.19	8.70	円形	U字形	水	2				
78				2 Prt 648	14R-9H15		不明	Va N-39 -W	0.34	0.32	0.22	0.09	0.48	8.43	円形	U字形	単層	1				
78				2 Prt 673	14R-9I13-18		不明	Va N-48 -E	0.67	0.59	0.47	0.35	0.22	8.76	円形	楕円形	レンズ状	2				
78				2 Prt 850	14R-9I13		不明	Va N-52 -E	0.20	0.19	0.12	0.10	0.37	8.57	円形	台形	単層	1				
78				2 Prt 672	14R-9I13		不明	Va N-56 -W	0.31	0.29	0.15	0.12	0.31	8.66	円形	楕円形	柱状	4				
78				2 Prt 1964	14R-9I9	<SK1957	不明	Va N-34 -W	(0.26)(0.23)	(0.18)	(0.08)	0.33	8.70	円形	楕円形	単層	1					
78				2 Prt 813	14R-9I15		不明	Va N-38 -W	0.24	0.22	0.18	0.14	0.19	8.76	円形	U字形	レンズ状	2	有 226	石/磁石		
78				2 Prt 826	14R-9I11		不明	Va N-15 -W	0.24	0.22	0.09	0.08	0.22	8.79	円形	半円形	単層	1				
78				2 Prt 947	14R-9I11		不明	Va N-9 -W	0.28	0.24	0.10	0.07	0.20	8.81	円形	階段形	水	2				
78				2 Prt 948	14R-9I11		不明	Va N-12 -E	0.23	0.20	0.12	0.09	0.18	8.83	円形	U字形	水	2				
78				2 Prt 946	14R-9I11		不明	Va N-31 -E	(0.20)(0.18)	0.10	0.08	0.28	8.72	円形	U字形	単層	1					
78				2 Prt 825	14R-9I16		近世	Va N-36 -E	0.20	(0.17)	(0.10)	0.10	0.20	8.84	円形	U字形	柱状	3				
78				2 Prt 840	14R-9I20		不明	Va N-82 -E	0.32	0.21	0.20	0.16	0.37	8.75	長楕円形	U字形	柱状	3				
78				2 Prt 841	14R-9I20		不明	Va N-14 -W	0.22	0.22	0.15	0.10	0.11	8.91	円形	台形	単層	1				
78				2 Prt 716	14R-9I15-20		不明	Va N-9 -W	0.34	0.34	0.11	0.08	0.39	8.61	円形	U字形	水	2	有	土師器/黒台 盆		
78				2 Prt 814	14R-9I19		不明	Va N-10 -W	0.28	0.26	0.16	0.15	0.11	8.88	円形	半円形	単層	1				
78				2 Prt 717	14R-9I13-14		不明	Va N-88 -E	0.29	0.23	0.15	0.10	0.12	8.84	楕円形	単層	1					
78				2 Prt 674	14R-9I18-19		不明	Va N-88 -W	0.25	0.22	0.08	0.07	0.30	8.66	円形	U字形	柱状	2				
78				2 Prt 718	14R-9I18		不明	Va N-14 -W	0.33	0.27	0.17	0.14	0.27	8.71	楕円形	台形	柱状	2				
78				2 Prt 809	14R-9I18		不明	Va N-80 -E	0.21	0.20	0.09	0.09	0.16	8.82	円形	半円形	単層	1				
78				2 Prt 827	14R-9I18-23		不明	Va N-68 -W	0.23	0.20	0.10	0.08	0.31	8.68	円形	U字形	柱状	2				
78				2 Prt 828	14R-9I23		不明	Va N-40 -W	0.17	0.15	0.09	0.07	0.11	8.88	円形	台形	単層	1				
78				2 Prt 808	14R-9I18		不明	Va N-60 -W	0.29	0.22	0.07	0.05	0.31	8.67	楕円形	U字形	単層	1				
78				2 Prt 873	14R-9I21		不明	Va N-73 -E	0.31	(0.17)	0.21	(0.10)	0.16	8.76	楕円形	半円形	レンズ状	5				
77-78				2 Prt 892	14R-10H2-7	<SD150	不明	Va N-89 -W	(0.31)(0.26)	0.08	0.06	0.20	8.69	円形	半円形	ブロック状	3					
77-78				2 Prt 11925	14R-10H1		不明	Va N-55 -W	0.20	0.16	0.10	0.09	0.25	8.64	楕円形	U字形	単層	1				
77-78				2 Prt 897	14R-10H2	<SD150	不明	Va N-78 -W	(0.22)(0.21)	0.08	0.08	0.20	8.65	円形	半円形	水	2					
77-78				2 Prt 898	14R-10H2		不明	Va N-65 -W	0.20	0.18	0.07	0.05	0.15	8.72	円形	半円形	ブロック状	3				
77-78				2 Prt 895	14R-9H22		不明	Va N-70 -E	0.22	0.15	0.07	0.07	0.15	8.76	楕円形	半円形	ブロック状	2				
77-78				2 Prt 1770	14R-9H22		不明	Va N-44 -E	0.18	0.12	0.09	0.09	0.10	8.84	長楕円形	半円形	単層	1				
77-78				2 Prt 894	14R-9H22		不明	Va N-82 -E	0.30	0.29	0.17	0.09	0.10	8.81	円形	台形	ブロック状	3				
77				2 Prt 890	14R-9H21		不明	Va N-67 -W	0.30	0.20	0.06	0.06	0.14	8.77	長楕円形	半円形	単層	1				
77-168	201	316-351d-f		2 Prt 900	14R-9H21		近世	Va N-0 -E	0.88	0.82	0.31	0.20	0.51	8.42	円形	階段形	柱状	7		SB2010		
77				2 Prt 1733	14R-9G24		不明	Va N-38 -E	0.30	0.25	0.08	0.07	0.16	8.76	楕円形	半円形						

図面No.	写真図面 No.	SP記号	遺構 種類	グリッド	重複状況	時代	確認 面	主軸方向	規模 (m)					底面 標高 (m)		形態		堆積状況	覆土の有無	遺物の 有無	遺物図面 No.	出土遺物 備考
									上端		下端		深度	平面	断面	長さ	幅					
									長軸	短軸	長軸	短軸										
77-174	232	363	2 Pr	1230	14R-9E8	<SK1592	近世	Va N-57 -E	0.22	0.20	0.12	0.10	0.29	8.59	楕円形	台形	単層	1		SA2031		
77-174	233	363	2 Pr	1525	14R-9E13		近世	Va N-0'	0.21	0.19	0.09	0.08	0.26	8.63	円形	円形	単層	1		SA2031		
77			2 Pr	1553	14R-9E7		近世	Va N-86' -E	0.23	0.18	0.14	0.11	0.06	8.82	楕円形	楕円形	ブロック状	2				
77			2 Pr	1514	14R-9E11		近世	Va N-27' -W	0.34	0.21	0.22	0.07	0.11	8.80	長円形	楕円形	単層	1				
77			2 Pr	1229	14R-9E6		近世	Va N-24' -W	0.26	0.21	0.09	0.07	0.13	8.79	楕円形	円形	単層	1				
77			2 Pr	1228	14R-9E6		近世	Va N-89' -E	0.24	0.23	0.11	0.10	0.11	8.79	円形	楕円形	単層	1				
77			2 Pr	1560	14R-9E6		近世	Va N-48' -W	0.30	0.25	0.13	0.10	0.10	8.82	楕円形	半円形	ブロック状	2				
77			2 Pr	1561	14R-9E1 -6		近世	Va N-72' -E	0.22	0.18	0.10	0.10	0.07	8.84	円形	円形	単層	1				
76-77			2 Pr	1295	14R-9D5-10		近世	Va N-26' -W	0.33	0.28	0.17	0.11	0.11	8.81	円形	台形	単層	1				
76-77			2 Pr	1296	14R-9D10		近世	Va N-70' -E	0.23	0.18	0.10	0.06	0.06	8.85	円形	台形	単層	1				
76-77			2 Pr	1297	14R-9D5		近世	Va N-0'	0.18	0.18	0.10	0.10	0.12	8.77	円形	楕円形	単層	1				
76-77			2 Pr	1217	14R-9D15		不明	Va N-13' -W	0.15	0.14	0.09	0.06	0.07	8.82	円形	半円形	単層	1				
76-77			2 Pr	1762	14R-9D19-20	>P01982	中世	Va N-28' -E	0.54	0.47	0.38	0.30	0.62	8.24	円形	U字形	柱状	4				
76-77			2 Pr	1982	14R-9D20	>P01782	中世	Va N-46' -E	(0.53)	(0.42)	(0.25)	(0.21)	0.48	8.36	楕円形	ブロック状	3					
77			2 Pr	1061	14R-9E17		近世	Va N-59' -W	0.19	0.18	0.07	0.05	0.27	8.61	円形	台形	単層	1				
77			2 Pr	1029	14R-9E17		近世	Va N-48' -W	0.20	0.14	0.03	0.05	0.21	8.61	楕円形	半円形	単層	1				
77			2 Pr	1030	14R-9E17		近世	Va N-32' -E	0.19	0.17	0.10	0.08	0.10	8.81	円形	半円形	単層	1				
77-174	233		2 Pr	980	14R-9E17		近世	Va N-89' -W	0.20	0.19	0.08	0.05	0.27	8.64	円形	台形	単層	1		SA2031		
77-174	233	363	2 Pr	1075	14R-9E17-18		近世	Va N-44' -W	0.20	0.18	0.09	0.08	0.20	8.67	円形	U字形	単層	1		SA2031		
77			2 Pr	1074	14R-9E13		近世	Va N-13' -E	0.24	0.21	0.14	0.12	0.08	8.80	楕円形	U字形	単層	1				
77			2 Pr	1066	14R-9E18	>P01065	不明	Va N-83' -W	0.21	(0.15)	0.08	0.08	0.24	8.65	楕円形	U字形	単層	1				
77			2 Pr	1065	14R-9E18	>P01066	不明	Va N-88' -E	0.17	0.13	0.09	0.08	0.24	8.68	円形	台形	単層	1				
77			2 Pr	1064	14R-9E18		近世	Va N-55' -W	0.24	0.22	0.13	0.09	0.15	8.74	円形	台形	単層	1				
77			2 Pr	1063	14R-9E18-23		近世	Va N-66' -E	0.20	0.19	0.14	0.11	0.10	8.78	円形	台形	単層	1				
77			2 Pr	987	14R-9E23		近世	Va N-0'	0.21	0.20	0.09	0.08	0.34	8.56	円形	台形	単層	1				
77			2 Pr	963	14R-9E24		近世	Va N-89' -E	0.21	0.20	0.12	0.10	0.20	8.70	円形	台形	単層	1				
77			2 Pr	977	14R-9E24-25		近世	Va N-79' -E	0.21	0.20	0.10	0.10	0.30	8.60	円形	台形	単層	1				
77			2 Pr	1980	14R-9E25		近世	Va N-80' -W	0.18	0.16	0.12	0.10	0.29	8.58	円形	台形	単層	1				
77			2 Pr	960	14R-9E25		近世	Va N-50' -W	0.24	0.20	0.12	0.12	0.18	8.73	楕円形	台形	単層	1				
77			2 Pr	1037	14R-9E25		近世	Va N-41' -W	0.22	0.18	0.06	0.06	0.22	8.67	楕円形	U字形	単層	1				
77			2 Pr	1601	14R-10F2	>SD1837	不明	Va N-22' -W	0.17	0.14	0.10	0.09	0.07	8.72	楕円形	半円形	単層	1				
77			2 Pr	1150	14R-10F3	>SD1241, 遺跡状遺構 2016	近世	Va N-39' -E	0.20	0.19	0.13	0.12	0.26	8.55	円形	半円形	単層	1				
77			2 Pr	1564	14R-10F4		不明	Va N-90'	0.48	0.25	0.38	0.18	0.10	8.76	長楕円形	箱形	単層	1				
77			2 Pr	1469	14R-10F5, 10C1	>SE1509	不明	Va N-18' -E	0.16	0.15	0.05	0.04	0.20	8.69	円形	半円形	単層	1				
77			2 Pr	1153	14R-10F5	>SE1509	不明	Va N-90'	0.22	0.21	0.14	0.10	0.13	8.75	円形	半円形	単層	1	有	精美モモ		
77			2 Pr	1628	14R-10F5		不明	Va N-53' -E	0.20	0.18	0.08	0.06	0.08	8.77	円形	楕円形	単層	1				
77			2 Pr	1857	14R-10G1	>SD940	不明	Va N-15' -W	(0.25)	(0.24)	(0.17)	(0.16)	0.25	8.59	円形	U字形	水平	3				
77			2 Pr	1654	14R-10G1	>SD940	不明	Va N-66' -E	(0.25)	(0.22)	(0.18)	(0.17)	0.24	8.77	円形	半円形	単層	1				
77			2 Pr	1264	14R-10G1-2	>SD940	不明	Va N-56' -E	0.28	0.23	0.11	0.10	0.32	8.56	楕円形	U字形	ブロック状	3				
77-168 -169	180D		2 Pr	1191	14R-10G1	>SD940	不明	Va N-0'	(0.27)	(0.26)	(0.18)	(0.14)	0.29	8.61	円形	箱形	ブロック状	3				
77			2 Pr	1190	14R-9G22, 10C2		不明	Va N-1' -E	0.24	0.24	0.11	0.11	0.37	8.54	円形	U字形	柱状	4	有	222	石/磨石	
77			2 Pr	1189	14R-9G22	>SD537	不明	Va N-7' -E	0.29	0.24	0.19	0.13	0.10	8.80	楕円形	半円形	単層	1				
77			2 Pr	1729	14R-10G2	>SD537	不明	Va N-9' -E	0.30	(0.15)	(0.17)	(0.11)	0.11	8.76	長楕円形	楕円形	単層	1				
77			2 Pr	1736	14R-10G3	>SD537	不明	Va N-46' -E	(0.20)	(0.16)	(0.08)	(0.07)	0.11	8.78	楕円形	半円形	単層	1				
77-168 -169 -170	202	317-353e	2 Pr	905	14R-10G3-8		近世	Va N-85' -E	0.79	0.68	0.19	0.14	0.28	8.66	円形	台形	柱状	8	有	232	SB2010 石/台石	
77			2 Pr	1739	14R-10G8	>SK1251, SD537	不明	Va N-24' -W	0.34	(0.25)	(0.18)	(0.11)	0.12	8.78	楕円形	台形	単層	1				
77			2 Pr	1152	14R-10G7-8	>SK1251, SD537	不明	Va N-49' -E	0.22	0.18	0.10	0.08	0.19	8.71	楕円形	楕円形	単層	1				
77			2 Pr	1738	14R-10G7-8	>SD537	不明	Va N-5' -W	(0.40)	(0.28)	0.26	0.20	0.12	8.60	楕円形	楕円形	ブロック状	4				
77			2 Pr	1265	14R-10G3-8	>SD537	不明	Va N-55' -E	(0.31)	0.28	0.25	0.15	0.13	8.78	円形	箱形	ブロック状	4				
77			2 Pr	1737	14R-10G7		不明	Va N-42' -E	0.16	0.14	0.08	0.08	0.06	8.79	円形	半円形	単層	1				
77			2 Pr	1156	14R-10G6	>SD940	不明	Va N-64' -W	(0.27)	(0.24)	(0.13)	(0.14)	0.13	8.60	円形	半円形	単層	1				
77			2 Pr	1157	14R-10G6	>SD940	不明	Va N-35' -W	(0.30)	(0.29)	(0.08)	(0.06)	0.30	8.44	円形	半円形	柱状	3				
77			2 Pr	1298	14R-10G1-6	>SD940	不明	Va N-79' -E	(0.27)	(0.26)	(0.11)	(0.08)	0.35	8.49	円形	U字形	単層	1				
77			2 Pr	1485	14R-10G6	>P01486, >P01484	不明	Va N-63' -E	0.27	0.26	0.13	0.11	0.09	8.75	円形	半円形	斜位	3				
77			2 Pr	1486	14R-10G6	>P01484, 1485	不明	Va N-64' -W	0.18	0.17	0.11	0.10	0.17	8.66	円形	U字形	単層	2				
77			2 Pr	1484	14R-10F10, 10G6	>P01485, 1486	不明	Va N-4' -W	0.35	0.34	0.15	(0.10)	0.11	8.72	円形	半円形	斜位	2				
77-169	202	180E	2 Pr	849	14R-10G6	>SD940	不明	Va N-24' -W	0.23	0.21	0.07	0.06	0.18	8.69	円形	U字形	単層	1				
77			2 Pr	1490	14R-10G11-16		不明	Va N-5' -E	(0.44)	0.21	(0.31)	0.08	0.07	8.84	長楕円形	楕円形	単層	1				
77			2 Pr	1268	14R-10G11		不明	Va N-80' -E	0.46	0.26	0.38	0.20	0.12	8.77	長楕円形	楕円形	単層	1				
77			2 Pr	1844	14R-10F15	>P01482	不明	Va N-66' -W	0.23	(0.20)	0.15	(0.12)	0.11	8.79	楕円形	台形	単層	1				
77			2 Pr	1483	14R-10F15	>P01844	不明	Va N-80' -E	0.38	0.26	0.23											

図版No.	写真図版 No.	SP記号	区 画 種 別	遺構 番号	グリッド	重複状況	時代	確認 面	主軸方向	規模 (m)					底面 標高 (m)	形態		堆積状況	遺構 の 有無	遺物 図版 No.	出土遺物 備考
										上端		下端		深度		平面	断面				
										長軸	短軸	長軸	短軸								
77			2 Pr	969	14R-10E12		近世	Va	N-40°-W	0.23	0.16	0.12	0.08	0.13	8.78	楕円形	半円形	単層	1		
77			2 Pr	961	14R-10E12-13		近世	Va	N-51°-W	0.21	0.17	0.08	0.07	0.17	8.75	楕円形	箱形	単層	1		
77			2 Pr	1040	14R-10E18	>SD1521, 道路状遺構 2017	近世	Va	N-90°	0.13	0.12	0.05	0.04	0.13	8.83	円形	半円形	単層	1		
77			2 Pr	1041	14R-10E18	>SD1521, 道路状遺構 2017	近世	Va	N-54°-W	0.14	0.13	0.03	0.02	0.12	8.82	円形	半円形	単層	1		
77			2 Pr	954	14R-10E12	>SD1521, 道路状遺構 2017	近世	Va	N-5°-E	0.18	0.18	0.09	0.09	0.29	8.62	円形	圓形	単層	1		
77			2 Pr	1078	14R-10E12-17	>SD1521, 道路状遺構 2017	近世	Va	N-67°-W	0.20	0.16	0.06	0.04	0.19	8.71	楕円形	U字形	単層	1		
77			2 Pr	1850	14R-10E17		近世	Va	N-5°-E	0.34	(0.32)	0.10	0.07	0.51	8.38	楕円形	半円形	単層	1		
77			2 Pr	1849	14R-10E17		近世	Va	N-41°-E	0.40	0.26	0.06	0.06	0.46	8.43	長楕円形	半円形	単層	1		
77			2 Pr	952	14R-10E11-12-16		近世	Va	N-39°-E	0.22	0.14	0.10	0.08	0.37	8.41	長楕円形	U字形	単層	1		
77			2 Pr	1008	14R-10E11	下段※	近世	Va	N-81°-W	0.22	0.21	0.16	0.15	0.34	8.58	円形	台形	単層	1		
77			下段※	-SK1562, SD1521, Ph1981, 道路状遺構 2017																	
77			2 Pr	1981	14R-10E11	>SK1562, Ph1008	近世	Va	N-85°-W	(0.17)	(0.16)	(0.07)	(0.07)	0.34	8.58	円形	半円形	単層	1		
77			2 Pr	955	14R-10E16	>SK1562	近世	Va	N-85°-W	0.24	(0.20)	0.10	(0.06)	0.22	8.72	楕円形	半円形	単層	1		
77-174	235	335-363	2 Pr	1026	14R-10E16		近世	Va	N-85°-W	(0.22)	(0.08)	(0.11)	(0.04)	0.25	8.82	楕円形	半円形	単層	1		SA2031
77			2 Pr	1024	14R-10E16		近世	Va	N-4°-W	(0.16)	(0.16)	(0.09)	0.06	0.09	8.85	楕円形	台形	単層	1		
77			2 Pr	1023	14R-10D20, 10E16		近世	Va	N-86°-W	0.19	0.18	0.03	0.02	0.27	8.66	円形	台形	単層	1		
76-77			2 Pr	1866	14R-10D15-20	>SD1859	近世	Va	N-14°-E	(0.25)	(0.20)	0.12	0.12	0.24	8.66	楕円形	半円形	単層	1		
76-77			2 Pr	1861	14R-10D15		近世	Va	N-90°	0.18	0.18	0.12	0.10	0.21	8.70	円形	半円形	単層	1		
76-77			2 Pr	1006	14R-10D15	>SD1859	近世	Va	N-85°-E	0.21	0.21	0.17	0.14	0.10	8.84	円形	半円形	単層	1		
77			2 Pr	956	14R-10D15, 10E11		近世	Va	N-43°-E	0.16	(0.08)	0.10	(0.04)	0.16	8.72	長楕円形	U字形	単層	1		
77			2 Pr	951	14R-10E11	>SD1521, SK1562, 道路状遺構 2017	不明	Va	N-11°-E	0.19	0.18	0.15	0.14	0.25	8.67	円形	箱形	単層	1		
77-174	234	363	2 Pr	1007	14R-10E11	>SK1562, SD1521, 道路状遺構 2017	近世	Va	N-38°-W	0.22	0.20	0.10	0.08	0.24	8.68	円形	U字形	単層	1		SA2031
77			2 Pr	966	14R-10E11-12		近世	Va	N-44°-W	0.20	0.18	0.14	0.14	0.24	8.68	円形	台形	単層	1		
77-174	234	363	2 Pr	967	14R-10E6-11		近世	Va	N-69°-W	0.24	0.20	0.18	0.15	0.27	8.66	楕円形	箱形	単層	1		SA2031
77			2 Pr	965	14R-10E6-7		近世	Va	N-1°-E	0.20	0.19	0.10	0.09	0.33	8.61	円形	台形	単層	1		
77			2 Pr	1513	14R-10E11	>SD1521, 道路状遺構 2017	近世	Va	N-48°-W	0.20	0.18	0.10	0.09	0.23	8.68	円形	半円形	単層	1		
77			2 Pr	1025	14R-10E6-11	>SD1521, 道路状遺構 2017	近世	Va	N-45°-E	(0.34)	(0.22)	(0.11)	(0.04)	0.30	8.64	楕円形	半円形	単層	1		
76-77			2 Pr	1000	14R-10D15	>SD1521, 道路状遺構 2017	近世	Va	N-44°-W	0.22	0.20	0.09	0.07	0.21	8.71	円形	台形	水平	2		
76-77			2 Pr	1001	14R-10D15	>SD1521, 道路状遺構 2017	近世	Va	N-52°-E	0.25	0.18	0.14	0.08	0.12	8.81	楕円形	半円形	水平	2		
76-77			2 Pr	1305	14R-10D9	>SD1521, 道路状遺構 2017	近世	Va	N-36°-E	0.16	0.16	0.09	0.05	0.24	8.69	円形	U字形	単層	1		
76-77			2 Pr	1974	14R-10D9-14		近世	Va	N-33°-E	0.18	0.16	0.10	0.05	0.16	8.74	円形	U字形	ブロック状	3		
76-77			2 Pr	1308	14R-10D9		近世	Va	N-18°-E	0.20	0.18	0.08	0.07	0.17	8.75	円形	半円形	単層	1		
76			2 Pr	1311	14R-10D9		近世	Va	N-36°-W	0.23	0.20	0.13	0.09	0.08	8.81	円形	半円形	単層	1		
76-77			2 Pr	1332	14R-10D9		近世	Va	N-50°-E	0.21	0.20	0.12	0.07	0.12	8.74	扇丸方形	半円形	単層	1		
76			2 Pr	1331	14R-10D4		近世	Va	N-45°-E	0.26	0.22	0.16	0.13	0.16	8.72	円形	半円形	ブロック状	2		
76			2 Pr	1333	14R-10D4-9		近世	Va	N-38°-W	0.24	0.20	0.11	0.08	0.16	8.72	楕円形	半円形	ブロック状	2		
76			2 Pr	1306	14R-10D9	>SD1521, 道路状遺構 2017	近世	Va	N-43°-W	0.22	0.22	0.14	0.14	0.24	8.66	円形	U字形	単層	1		
76			2 Pr	1847	14R-10D13-14-18-19		近世	Va	N-87°-W	0.25	0.22	0.15	0.10	0.11	8.77	円形	台形	単層	1		
76			2 Pr	1848	14R-10D13		近世	Va	N-23°-E	0.25	0.24	0.14	0.11	0.32	8.56	円形	台形	単層	1		
76			2 Pr	1312	14R-10D13		近世	Va	N-70°-W	0.19	0.17	0.12	0.09	0.11	8.78	円形	箱形	単層	1		
76			2 Pr	1334	14R-10D8		近世	Va	N-51°-W	0.20	0.14	0.07	0.07	0.16	8.71	楕円形	U字形	単層	1		
76			2 Pr	1307	14R-10D8	>SD1521, 道路状遺構 2017	近世	Va	N-12°-E	0.22	0.20	0.06	0.05	0.39	8.50	円形	U字形	単層	1		
76			2 Pr	1845	14R-10D8		近世	Va	N-26°-E	0.28	0.26	0.17	0.14	0.10	8.73	円形	台形	単層	1		
76			2 Pr	1335	14R-10D8		近世	Va	N-43°-E	0.22	0.19	0.08	0.06	0.38	8.50	円形	U字形	ブロック状	2		
76			2 Pr	1339	14R-10D7		近世	Va	N-55°-E	0.32	0.26	0.21	0.11	0.20	8.66	楕円形	半円形	ブロック状	2		
76			2 Pr	1310	14R-10D6-7-11-12		近世	Va	N-51°-W	0.26	0.22	0.12	0.07	0.21	8.67	円形	U字形	水平	2		土師器/長巻
76			2 Pr	1846	14R-10D11		近世	Va	N-66°-E	0.26	0.24	0.13	0.07	0.23	8.63	円形	半円形	単層	1		
76			2 Pr	1338	14R-10D11		近世	Va	N-67°-E	0.22	0.22	0.09	0.07	0.16	8.74	円形	圓形	単層	1		
76			2 Pr	1337	14R-10D11		近世	Va	N-76°-W	0.22	0.20	0.13	0.10	0.09	8.81	円形	半円形	単層	1		
76			2 Pr	1366	14R-10D11		近世	Va	N-51°-E	0.28	0.22	0.14	0.10	0.11	8.77	楕円形	半円形	単層	1		
76			2 Pr	1367	14R-10D11		近世	Va	N-21°-W	0.25	0.23	0.06	0.06	0.22	8.71	円形	U字形	ブロック状	2		

図版No.	写真図版 No.	SP記号	区 画 種 別	遺構 番号	グリッド	重複状況	時代	確認 面	主軸方向	規模 (m)					底面 標高 (m)	形態		堆積状況	遺構 の 有無	遺物 図版 No.	出土遺物 備考
										上端		下端		深度		平面	断面				
										長軸	短軸	長軸	短軸								
76			2 Pr	1365	14R-10D11		近世	Va	N-49°-W	0.18	0.17	0.08	0.08	0.17	8.75	楕円形	箱形	単層	1		
76			2 Pr	1364	14R-10C14		近世	Va	N-90°	0.19	0.16	0.08	0.08	0.07	8.84	円形	半円形	単層	1		
76			2 Pr	1357	14R-10C15		近世	Va	N-34°-W	0.21	0.20	0.10	0.09	0.16	8.75	円形	半円形	単層	1		
76			2 Pr	1358	14R-10C10		近世	Va	N-88°-E	0.24	0.24	0.11	0.10	0.08	8.84	円形	台形	ブロック状	2		
76			2 Pr	1164	14R-10C9	>SD1818, 道路状遺構 2017	近世	Va	N-40°-E	0.24	0.24	0.14	0.12	0.15	8.74	円形	台形	単層	1		
76			2 Pr	1355	14R-10C4		近世	Va	N-90°	0.23	0.19	0.13	0.07	0.09	8.81	楕円形	圓形	単層	1		
76			2 Pr	1356	14R-9C24		近世	Va	N-30°-W	0.22	0.20	0.12	0.12	0.09	8.81	円形	半円形	単層	1		
76			2 Pr	1971	14R-9C25	>SD1521, 道路状遺構 2017	不明	Va	N-27°-E	(0.24)	(0.24)	0.14	0.10	0.16	8.72	円形	半円形	ブロック状	3		
76			2 Pr	1970	14R-9C25, 9D21	>SD1521, 道路状遺構 2017	不明	Va	N-70°-W	(0.38)	(0.36)	0.19	0.10	0.21	8.64	円形	箱形	ブロック状	4		
76			2 Pr	1969	14R-9D21	>SD1522	不明	Va	N-55°-W	(0.26)	(0.21)	(0.08)	0.08	0.21	8.65	楕円形	半円形	ブロック状	3		
76			2 Pr	1166	14R-9D21, 10D1	>SD1521, 道路状遺構 2017	近世	Va	N-60°-W	0.18	0.16	0.05	0.04	0.06	8.83	円形	半円形	単層	1		
76			2 Pr	1162	14R-9D21		近世	Va	N-44°-E	0.19	0.18	0.10	0.09	0.05	8.84	円形	圓形	単層	1		
76			2 Pr	1369	14R-9D21		近世	Va	N-40°-W	0.24	0.22	0.13	0.10	0.17	8.73	円形	台形	単層	1		
76			2 Pr	1368	14R-9D22, 10D2		近世	Va	N-60°-E	0.33	0.30	0.22	0.16	0.07	8.82	円形	圓形	単層	1		
76			2 Pr	1346	14R-9D22, 10D2		近世	Va	N-24°-W	0.20	0.16	0.11	0.08	0.07	8.83	楕円形	圓形	単層	1		
76			2 Pr	1968	14R-10D2		近世	Va	N-17°-W	0.											

別表2 掘立柱建物計測表

1区 SB866

図版No.	57	グリッド	13R-7C14・19・20・23・24・25、7D16・17・21・22、8C5、8D1・2	桁行 (m)	6.48	梁行 (m)	3.60	床面積 (㎡)	22.29	時代	中世	構造	側柱、庇間仕切り	棟方向	東西	主軸方位	N-70°-W				
Pit番号	規模 (m)							形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)				梁行柱間 (m)				
	上端		下端		深度	底面標高 (m)	平面	断面	計測Pit名				計測値		計測Pit名		計測値				
	長軸	短軸	長軸	短軸																	
Pit 42	0.18	0.18	0.08	0.07	0.23	8.70	円形	U字形	3					Pit 49	-	Pit 45	1.68	Pit 90	-	Pit 64	0.68
Pit 43	0.22	0.18	0.11	0.09	0.27	8.64	円形	台形	1					Pit 45	-	Pit 50	1.88	Pit 64	-	Pit 57	1.60
Pit 38	0.24	0.23	0.10	0.09	0.40	8.53	円形	U字形	4	有				Pit 50	-	Pit 55	2.88	Pit 57	-	Pit 56	0.48
Pit 39	0.22	0.20	0.08	0.08	0.25	8.64	円形	台形	1									Pit 56	-	Pit 55	0.80
Pit 90	0.29	0.23	0.10	0.10	0.38	8.52	楕円形	U字形	1												
Pit 64	0.17	0.15	0.09	0.07	0.11	8.81	円形	台形	1												
Pit 71	0.16	0.13	0.07	0.05	0.24	8.64	楕円形	U字形	1												
Pit 44	0.25	0.18	0.14	0.05	0.11	8.78	楕円形	皿形	1												
Pit 41	0.31	0.22	0.09	0.08	0.43	8.48	楕円形	U字形	2	有											
Pit 53	0.21	0.20	0.10	0.08	0.35	8.55	円形	U字形	1												
Pit 52	0.23	0.18	0.10	0.06	0.35	8.53	円形	U字形	1												
Pit 57	0.28	0.20	0.17	0.10	0.29	8.63	楕円形	U字形	2												
Pit 56	0.21	0.14	0.08	0.07	0.19	8.72	長楕円形	U字形	1												
Pit 48	0.20	0.16	0.08	0.08	0.33	8.57	楕円形	U字形	2												
Pit 49	0.21	0.17	0.10	0.07	0.32	8.56	楕円形	U字形	2												
Pit 45	0.21	0.17	0.07	0.05	0.15	8.70	楕円形	台形	1												
Pit 50	0.21	0.17	0.10	0.05	0.34	8.54	楕円形	U字形	1												
Pit 55	0.31	0.22	0.10	0.10	0.41	8.51	楕円形	U字形	1												

1区 SB868

図版No.	58	グリッド	13R-9B7・8・9・12・13・14	桁行 (m)	3.84	梁行 (m)	2.88	床面積 (㎡)	10.45	時代	近世	構造	側柱	棟方向	東西	主軸方位	N-85°-W				
Pit番号	規模 (m)							形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)				梁行柱間 (m)				
	上端		下端		深度	底面標高 (m)	平面	断面	計測Pit名				計測値		計測Pit名		計測値				
	長軸	短軸	長軸	短軸																	
Pit 267	0.24	0.21	0.14	0.12	0.16	8.83	円形	箱形	2					Pit 267	-	Pit 273	1.84	Pit 267	-	Pit 280	2.88
Pit 273	0.25	0.22	0.15	0.11	0.13	8.87	隅丸方形	半円形	2					Pit 273	-	Pit 862	2.00				
Pit 862	0.41	0.34	0.09	0.05	0.32	8.66	楕円形	階段形	1												
Pit 280	0.27	0.21	0.15	0.14	0.12	8.78	楕円形	台形	1												
Pit 282	0.45	0.22	0.11	0.10	0.25	8.68	長楕円形	台形	1												
Pit 285	0.36	0.32	0.14	0.12	0.21	8.78	隅丸方形	階段形	2												

1区 SB869

図版No.	58	グリッド	13R-9B8・9・13・14	桁行 (m)	2.48	梁行 (m)	2.00	床面積 (㎡)	4.62	時代	近世	構造	側柱	棟方向	東西	主軸方位	N-81°-E				
Pit番号	規模 (m)							形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)				梁行柱間 (m)				
	上端		下端		深度	底面標高 (m)	平面	断面	計測Pit名				計測値		計測Pit名		計測値				
	長軸	短軸	長軸	短軸																	
Pit 268	0.32	0.31	0.08	0.07	0.35	8.62	円形	箱形	2					Pit 281	-	Pit 283	2.48	Pit 268	-	Pit 281	2.00
Pit 274	0.25	0.22	0.12	0.09	0.18	8.81	円形	U字形	2												
Pit 281	0.57	0.32	0.12	0.10	0.43	8.55	長楕円形	漏斗形	1												
Pit 283	0.39	0.31	0.15	0.10	0.40	8.55	楕円形	皿形	1												

1区 SB867

図版No.	58	グリッド	14R-1A23、2A2・3・4・8・9	桁行 (m)	2.56	梁行 (m)	1.82	床面積 (㎡)	4.56	時代	中世	構造	側柱	棟方向	東西	主軸方位	N-74°-W				
Pit番号	規模 (m)							形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)				梁行柱間 (m)				
	上端		下端		深度	底面標高 (m)	平面	断面	計測Pit名				計測値		計測Pit名		計測値				
	長軸	短軸	長軸	短軸																	
Pit 495	0.27	0.20	0.10	0.09	0.19	8.83	楕円形	半円形	1					Pit 497	-	Pit 494	2.56	Pit 495	-	Pit 496	0.92
Pit 492	0.18	0.16	0.08	0.07	0.15	8.88	円形	U字形	2									Pit 496	-	Pit 497	0.90
Pit 496	0.36	0.24	0.05	0.04	0.21	8.80	長楕円形	皿形	1												
Pit 493	0.23	0.21	0.10	0.08	0.17	8.86	円形	半円形	1												
Pit 497	0.18	0.17	0.11	0.09	0.23	8.78	円形	皿形	1												
Pit 494	0.15	0.14	0.08	0.07	0.12	8.88	円形	半円形	1												

2区 SB2024

図版No.	159	グリッド	14R-5G8・9・13・14・15・18・19・22・23・24、6G3・4	桁行 (m)	6.10	梁行 (m)	3.42	床面積 (㎡)	19.34	時代	中世	構造	側柱	棟方向	南北	主軸方位	N-20°-E				
Pit番号	規模 (m)							形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)				梁行柱間 (m)				
	上端		下端		深度	底面標高 (m)	平面	断面	計測Pit名				計測値		計測Pit名		計測値				
	長軸	短軸	長軸	短軸																	
Pit 356	0.30	0.29	0.18	0.11	0.27	8.76	円形	台形	1					Pit 675	-	Pit 277	3.06	Pit 1371	-	Pit 266	2.00
Pit 675	0.42	0.32	0.31	0.19	0.21	8.77	楕円形	箱形	4					Pit 277	-	Pit 1329	3.04	Pit 266	-	Pit 1329	1.42
Pit 278	0.30	0.23	0.14	0.08	0.17	8.85	楕円形	台形	1												
Pit 285	0.26	0.22	0.07	0.04	0.26	8.74	円形	箱形	1												
Pit 277	0.25	0.20	0.12	0.11	0.16	8.82	楕円形	半円形	1												
Pit 1371	0.33	0.26	0.21	0.15	0.25	8.70	楕円形	箱形	5												
Pit 266	0.32	0.23	0.16	0.15	0.29	8.69	楕円形	箱形	1												
Pit 1329	0.27	0.17	0.13	0.08	0.26	8.67	長楕円形	階段形	4												

2区 SB2006

図版No.	159	グリッド	14R-5G19・20・24・25、5H16・17・18・19・21・22・23・24、6G4・5、6H1・2・3・4・7・8・9	桁行 (m)	8.82	梁行 (m)	4.20	床面積 (㎡)	40.11	時代	中世	構造	棟持柱、庇	棟方向	東西	主軸方位	N-74°-W				
Pit番号	規模 (m)							形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)				梁行柱間 (m)				
	上端		下端		深度	底面標高 (m)	平面	断面	計測Pit名				計測値		計測Pit名		計測値				
	長軸	短軸	長軸	短軸																	
Pit 243	0.27	0.25	0.15	0.13	0.14	8.88	円形	階段形	1					Pit 368	-	Pit 377	2.82	Pit 341	-	Pit 368	4.20
Pit 349	0.22	0.16	0.12	0.06	0.19	8.84	楕円形	半円形	1					Pit 377	-	Pit 412	3.00				
Pit 271	0.33	0.32	0.08	0.08	0.31	8.70	円形	階段形	4					Pit 412	-	Pit 415	3.00				
Pit 27	0.28	0.28	0.19	0.12	0.30	8.72	円形	半円形	1												
Pit 85	0.44	0.31	0.16	0.15	0.44	8.60	楕円形	U字形	3												
Pit 341	0.29	0.25	0.16	0.15	0.38	8.62	円形	階段形	1												
Pit 347	0.48	0.39	0.16	0.12	0.46	8.53	楕円形	U字形	5												
Pit 83	0.48	0.34	0.18	0.14	0.49	8.52	楕円形	U字形	3	有											
Pit 53	0.67	0.62	0.22	0.20	0.53	8.50	円形	階段形	5												
Pit 258	0.24	0.20	0.14	0.11	0.08	8.89	円形	半円形	1												
Pit 599	0.22	0.19	0.13	0.12	0.42	8.58	円形	U字形	4												
Pit 368	0.33	0.27	0.13	0.11	0.46	8.29	楕円形	U字形	1												
Pit 377	0.47	0.42	0.14	0.14	0.49	8.46	円形	U字形	7	有											
Pit 412	0.68	0.52	0.08	0.05	0.20	8.81	楕円形	皿形	3												
Pit 415	0.64	0.56	0.19	0.16	0.59	8.42	円形	漏斗形	8	有											
Pit 606	0.38	(0.36)	0.20	(0.19)	0.29	8.61	楕円形	U字形	5												

別 表

2区 SB2007

図版 No.	159	グリッド	14R-5G15・19・20・24・25、5H11・12・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25、6G4・5、6H1・2・3・4・5・8・9・10				桁行 (m)	9.16	梁行 (m)	4.30	床面積(㎡)	39.19	時代	中世	構造	棟持柱	棟方向	東西	主軸方位	N-73°-W
Pit番号	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)				梁行柱間 (m)				
	上端		下端		深度		平面	断面				計測Pit名		計測値	計測Pit名		計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸																
Pit 245	0.36	0.33	0.14	0.12	0.32	8.68	円形	U字形	4	有		Pit 245	-	Pit 346	3.20	Pit 250	-	Pit 418	4.30	
Pit 346	0.35	0.32	0.19	0.16	0.22	8.76	円形	半円形	3			Pit 346	-	Pit 84	3.16					
Pit 84	0.34	0.28	0.13	0.10	0.50	8.50	楕円形	U字形	3			Pit 84	-	Pit 413	2.80					
Pit 413	0.27	(0.20)	0.10	0.08	0.41	8.51	円形	U字形	1		<Pit53、SB2006									
Pit 410	0.34	0.25	0.10	0.10	0.35	8.62	楕円形	U字形	5		<Pit287									
Pit 418	0.22	0.20	0.10	0.07	0.30	8.64	円形	半円形	1											
Pit 376	0.25	0.25	0.10	0.08	0.30	8.63	円形	箱形	1											
Pit 411	(0.46)	0.43	0.08	0.04	0.40	8.60	円形	U字形	5		<Pit412、SB2006									
Pit 416	(0.46)	(0.38)	(0.12)	(0.12)	0.47	8.54	楕円形	階段形	5		<Pit415、SB2006									

2区 SB2008

図版 No.	160	グリッド	14R-6G2・3・4・7・8・9・10・12・13・14・15・19・20、6H6・7・8・11・12・13・16・17・21・22				桁行 (m)	9.58	梁行 (m)	4.00	床面積(㎡)	37.93	時代	中世	構造	総柱此	棟方向	東西	主軸方位	N-66°-W
Pit番号	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)				梁行柱間 (m)				
	上端		下端		深度		平面	断面				計測Pit名		計測値	計測Pit名		計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸																
Pit 299	0.36	0.32	0.08	0.07	0.37	8.62	円形	U字形	5			Pit 527	-	Pit 555	3.15	Pit 522	-	Pit 458	2.20	
Pit 441	0.32	0.30	0.12	0.10	0.21	8.73	円形	半円形	3			Pit 555	-	Pit 459	6.43	Pit 458	-	Pit 459	1.80	
Pit 454	0.38	0.34	0.12	0.10	0.28	8.70	円形	U字形	3											
Pit 522	0.29	0.29	0.21	0.16	0.53	8.46	隅丸方形	U字形	7	有										
Pit 516	0.22	(0.17)	0.14	(0.14)	0.35	8.67	楕円形	U字形	6		<Pit515									
Pit 291	0.35	0.30	0.06	0.05	0.37	8.60	円形	階段形	3											
Pit 420	0.38	0.35	0.07	0.06	0.42	8.52	円形	U字形	4	有										
Pit 528	0.37	0.33	0.13	0.09	0.40	8.54	円形	漏斗形	5	有										
Pit 458	0.48	0.43	0.16	0.11	0.43	8.56	円形	U字形	5											
Pit 468	0.28	0.27	0.17	0.15	0.44	8.52	円形	U字形	3	有										
Pit 527	0.28	0.28	0.14	0.14	0.38	8.52	円形	U字形	5	有	>Pit1492・1493									
Pit 555	0.38	0.34	0.15	0.13	0.52	8.44	円形	U字形	6											
Pit 459	0.27	0.27	0.17	0.15	0.36	8.60	円形	U字形	4	有										
Pit 463	0.51	0.38	0.13	0.12	0.16	8.83	楕円形	皿形	2		>Pit465									

2区 SB2033

図版 No.	161	グリッド	14R-6H4・5・9・10・13・14・15・18・19・20・23・24・25、6I6、7H4・5				桁行 (m)	8.20	梁行 (m)	4.00	床面積(㎡)	31.85	時代	中世	構造	側柱	棟方向	南北	主軸方位	N-21°-E
Pit番号	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)				梁行柱間 (m)				
	上端		下端		深度		平面	断面				計測Pit名		計測値	計測Pit名		計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸																
Pit 600	(0.48)	(0.36)	(0.29)	(0.16)	0.21	8.80	楕円形	箱形	8		<SD540	Pit 581	-	Pit 612	3.00	Pit 509	-	Pit 803	1.80	
Pit 580	(0.30)	0.24	(0.12)	(0.08)	0.22	8.79	楕円形	台形	4		<SD540	Pit 612	-	Pit 693	2.70	Pit 803	-	Pit 773	2.20	
Pit 581	(0.24)	(0.22)	(0.10)	(0.08)	0.38	8.62	円形	U字形	6	有	<SD540	Pit 693	-	Pit 773	2.50					
Pit 612	0.27	(0.24)	0.14	0.06	0.51	8.48	円形	U字形	6	有										
Pit 1123	0.10	0.09	0.06	0.06	0.18	8.82	円形	半円形	1											
Pit 693	0.27	0.20	0.10	0.08	0.28	8.68	楕円形	U字形	3											
Pit 509	0.20	0.20	0.12	0.09	0.25	8.73	円形	U字形	3											
Pit 803	(0.18)	(0.14)	0.07	0.04	0.18	8.79	楕円形	半円形	1											
Pit 773	(0.40)	0.32	0.07	0.07	0.41	8.58	円形	U字形	5		<SD450									

2区 SB2025

図版 No.	161	グリッド	14R-6H21・22・23、7H1・2・3				桁行 (m)	3.30	梁行 (m)	2.10	床面積(㎡)	4.62	時代	中世	構造	側柱	棟方向	東西	主軸方位	N-70°-W
Pit番号	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)				梁行柱間 (m)				
	上端		下端		深度		平面	断面				計測Pit名		計測値	計測Pit名		計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸																
Pit 461	(0.30)	0.30	0.17	0.15	0.15	8.83	楕円形	皿形	2		<Pit460	Pit 461	-	Pit 511	3.30	Pit 511	-	Pit 577	2.10	
Pit 511	0.52	0.35	0.30	0.20	0.32	8.67	楕円形	台形	4											
Pit 502	0.43	0.35	0.08	0.08	0.23	8.75	楕円形	階段形	4	有	>Pit501									
Pit 577	0.19	0.19	0.11	0.09	0.14	8.86	円形	台形	1											

2区 SB2034

図版 No.	162	グリッド	14R-6F18・19・22・23・24・25、6G21・22、7F2・3・4・5・9・10、7G1・2・6・11				桁行 (m)	8.20	梁行 (m)	3.70	床面積(㎡)	29.36	時代	中世	構造	側柱	棟方向	東西	主軸方位	N-68°-W
Pit番号	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)				梁行柱間 (m)				
	上端		下端		深度		平面	断面				計測Pit名		計測値	計測Pit名		計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸																
Pit 767	0.36	0.28	0.13	0.10	0.39	8.50	楕円形	U字形	6			Pit 797	-	Pit 937	2.55	Pit 767	-	Pit 794	1.70	
Pit 766	0.30	0.26	0.20	0.16	0.22	8.68	円形	U字形	2			Pit 937	-	Pit 788	3.20	Pit 794	-	Pit 797	2.00	
Pit 764	0.31	0.30	0.10	0.08	0.33	8.58	円形	階段形	6	有		Pit 788	-	Pit 789	2.45					
Pit 757	0.29	0.25	0.14	0.13	0.42	8.48	円形	U字形	3											
Pit 794	0.34	0.29	0.16	0.11	0.16	8.71	円形	階段形	4											
Pit 765	0.33	0.31	0.08	0.07	0.40	8.45	円形	U字形	5											
Pit 780	0.26	0.23	0.10	0.10	0.26	8.63	円形	U字形	3											
Pit 797	0.27	0.26	0.18	0.18	0.22	8.63	円形	台形	4	有										
Pit 937	0.26	0.24	0.14	0.12	0.25	8.59	円形	箱形	5	有										
Pit 788	0.22	0.22	0.08	0.08	0.36	8.54	円形	U字形	6											
Pit 789	0.28	0.28	0.12	0.11	0.37	8.57	円形	U字形	4	有										

2区 SB2012

図版 No.	163	グリッド	14R-7C17・18・19・20・22・23・24・25, 8B5・10, 8C1・2・3・4・5・6・7・8・9	桁行 (m)	8.20	梁行 (m)	3.50	床面積 (㎡)	23.81	時代	中世	構造	総柱 此	棟方向	東西	主軸方位	N-83°-W	
Pit番号	規模 (m)				底面 標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)		梁行柱間 (m)					
	上端		下端			平面	断面				計測Pit名	計測値	計測Pit名	計測値				
	長軸	短軸	長軸	短軸	深度													
Pit 1636	0.17	0.17	0.07	0.06	0.17	8.61	円形	U字形	1									
Pit 1627	0.29	0.25	0.12	0.11	0.40	8.38	円形	U字形	3	有				Pit 1674	3.20	Pit 1801	1.68	
Pit 1623	0.30	0.27	0.07	0.05	0.26	8.55	円形	半円形	4	有				Pit 1583	2.50			
Pit 1944	0.28	0.28	0.17	0.17	0.28	8.52	円形	U字形	2									
Pit 1642	0.41	0.37	0.20	0.15	0.29	8.49	円形	台形	6									
Pit 1643	0.32	0.29	0.09	0.09	0.37	8.41	円形	U字形	3									
Pit 1624	0.28	0.26	0.18	0.18	0.33	8.48	円形	U字形	3									
Pit 1801	0.25	0.20	0.10	0.09	0.24	8.54	楕円形	U字形	4									
Pit 1638	0.32	0.26	0.20	0.14	0.17	8.64	楕円形	半円形	3	有								
Pit 1646	0.34	0.23	0.13	0.09	0.23	8.57	楕円形	半円形	4									
Pit 1786	(0.36)	(0.20)	0.22	0.15	0.27	8.54	楕円形	半円形	3	有								
Pit 1674	0.37	0.34	0.21	0.17	0.22	8.56	円形	半円形	5									
Pit 1583	0.29	0.26	0.15	0.13	0.35	8.41	円形	U字形	4	有								
Pit 1582	0.32	0.29	0.19	0.16	0.35	8.44	円形	U字形	3									
Pit 1783	0.31	0.28	0.12	0.11	0.49	8.31	円形	U字形	3									
Pit 1673	0.31	0.29	0.10	0.09	0.32	8.46	円形	U字形	4	有								
Pit 1639	0.38	0.30	0.11	0.10	0.23	8.56	楕円形	半円形	3									
Pit 1581	0.39	0.33	0.06	0.06	0.40	8.42	円形	U字形	4									

2区 SB2011

図版 No.	164	グリッド	14R-7C25, 7D16・17・21・22, 14R-8C5・10, 8D1・2・6・7	桁行 (m)	6.50	梁行 (m)	2.98	床面積 (㎡)	20.89	時代	中世	構造	総柱	棟方向	南北	主軸方位	N-5°-E
Pit番号	規模 (m)				底面 標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)		梁行柱間 (m)				
	上端		下端			平面	断面				計測Pit名	計測値	計測Pit名	計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸	深度												
Pit 1593	0.36	0.32	0.09	0.07	0.38	8.41	円形	半円形	5	有				Pit 1593	3.40	Pit 1580	1.58
Pit 1650	0.26	0.23	0.12	0.12	0.27	8.53	円形	U字形	5					Pit 1580	3.10	Pit 1577	1.40
Pit 1580	0.39	0.34	0.09	0.07	0.36	8.30	円形	U字形	3	有	>SD1579						
Pit 1577	0.30	0.27	0.12	0.10	0.41	8.37	円形	漏斗形	5	有							
Pit 1578	0.29	0.26	0.12	0.11	0.38	8.41	円形	U字形	6	有							
Pit 1584	0.38	0.28	0.12	0.11	0.49	8.33	隅丸長方形	U字形	4	有							
Pit 1625	0.29	0.22	0.12	0.09	0.32	8.47	楕円形	U字形	4	有							
Pit 1626	(0.24)	(0.20)	(0.14)	0.09	0.20	8.62	楕円形	U字形	3		<SD1522						

2区 SB2030

図版 No.	164	グリッド	14R-7E23・24, 8E2・3・4・5・8・9	桁行 (m)	3.30	梁行 (m)	2.60	床面積 (㎡)	8.37	時代	中世	構造	側柱	棟方向	東西	主軸方位	N-62°-W
Pit番号	規模 (m)				底面 標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)		梁行柱間 (m)				
	上端		下端			平面	断面				計測Pit名	計測値	計測Pit名	計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸	深度												
Pit 1815	0.33	0.28	0.17	0.14	0.33	8.54	円形	U字形	3		>Pit1817			Pit 1810	3.30	Pit 1865	2.60
Pit 1865	0.33	0.24	0.16	0.06	0.37	8.53	楕円形	U字形	1								
Pit 1867	0.33	0.26	0.20	0.14	0.18	8.69	楕円形	半円形	1								
Pit 1868	0.25	0.18	0.14	0.12	0.20	8.66	楕円形	半円形	1								
Pit 1810	0.22	0.16	0.14	0.06	0.14	8.68	楕円形	台形	1								
Pit 1276	0.28	0.24	0.14	0.07	0.23	8.64	円形	U字形	3								

2区 SB2009

図版 No.	165	グリッド	14R-7H7・8・9・12・13・14・17・18・19・22・23・24	桁行 (m)	2.60	梁行 (m)	2.60	床面積 (㎡)	6.15	時代	近世	構造	側柱 此	棟方向	南北	主軸方位	N-1°-W
Pit番号	規模 (m)				底面 標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)		梁行柱間 (m)				
	上端		下端			平面	断面				計測Pit名	計測値	計測Pit名	計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸	深度												
Pit 564	0.83	0.52	0.10	0.08	0.23	8.78	長楕円形	漏斗形	6	有				Pit 551	1.32	Pit 547	1.10
Pit 800	0.54	0.39	0.12	0.10	0.16	8.82	楕円形	階段形	4					Pit 547	1.28	Pit 543	1.50
Pit 799	0.52	0.48	0.16	0.16	0.56	8.39	円形	漏斗形	7	有	>Pit928						
Pit 2032	0.28	0.16	0.16	0.08	-	-	楕円形	半円形	-		>SD869, SN2015						
Pit 699	(0.30)	0.28	0.05	0.05	0.21	8.76	円形	U字形	3		<Pit553						
Pit 552	0.54	0.50	0.14	0.13	0.26	8.72	円形	台形	2								
Pit 551	0.77	0.64	0.08	0.08	0.24	8.72	楕円形	台形	2		>SD870						
Pit 549	0.64	0.57	0.32	0.30	0.26	8.72	円形	台形	2	有							
Pit 554	0.32	0.26	0.12	0.11	0.36	8.58	楕円形	U字形	2	有							
Pit 547	0.43	0.38	0.24	0.18	0.30	8.60	円形	U字形	2	有							
Pit 1105	0.18	0.17	0.10	0.07	0.25	8.69	円形	箱形	1								
Pit 544	0.75	0.65	0.21	0.20	0.30	8.67	円形	箱形	4		>Pit545・546						
Pit 543	0.63	0.59	0.36	0.32	0.24	8.71	円形	半円形	2								
Pit 542	0.54	0.54	0.23	0.20	0.49	8.44	円形	U字形	3	有							
Pit 548	0.87	0.62	0.05	0.04	0.19	8.77	楕円形	台形	3	有							

2区 SB2026

図版 No.	166	グリッド	14R-8H1・2・3・6・7・8	桁行 (m)	2.80	梁行 (m)	2.00	床面積 (㎡)	4.62	時代	近世	構造	側柱	棟方向	東西	主軸方位	N-87°-E
Pit番号	規模 (m)				底面 標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)		梁行柱間 (m)				
	上端		下端			平面	断面				計測Pit名	計測値	計測Pit名	計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸	深度												
Pit 1687	0.25	0.19	0.08	0.08	0.12	8.80	楕円形	皿形	2					Pit 1687	2.80	Pit 739	2.00
Pit 739	0.29	0.27	0.12	0.10	0.26	8.69	円形	U字形	1								
Pit 1686	0.23	(0.20)	(0.13)	0.12	0.12	8.80	楕円形	半円形	1		<SK556						
Pit 1685	(0.23)	(0.16)	(0.15)	(0.11)	0.12	8.81	楕円形	半円形	1		<SK556						

別 表

2区 SB2023

図版No.	166	グリッド	14R-8H5・10、8I1・6				桁行 (m)	2.50	梁行 (m)	2.50	床面積 (㎡)	6.27	時代	近世	構造	側柱	棟方向	南北	主軸方位	N-3°-W
Pit番号	規模 (m)						形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)				梁行柱間 (m)				
	上端		下端		深度	底面標高 (m)	平面	断面				計測Pit名		計測値	計測Pit名		計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸								Pit	- Pit		Pit	- Pit				
Pit 479	0.51	0.38	0.31	0.20	0.10	8.88	楕円形	皿形	1		<Pit478、>SD150	Pit 479	-	Pit 477	1.10	Pit 479	-	Pit 473	2.50	
Pit 473	0.31	0.25	0.14	0.13	0.19	8.81	楕円形	半円形	1			Pit 477	-	Pit 476	1.40					
Pit 477	0.48	0.44	0.36	0.27	0.18	8.77	円形	半円形	1		>SD150									
Pit 474	0.51	0.34	0.15	0.15	0.32	8.69	長楕円形	漏斗形	3	有										
Pit 476	0.50	0.29	0.34	0.22	0.15	8.85	隅丸長方形	皿形	1		>SD150									
Pit 475	0.53	0.37	0.10	0.08	0.21	8.80	楕円形	半円形	3	有										

2区 SB2027

図版No.	166	グリッド	14R-7I13・14・15・18・19・20・23・24・25、7J11・12・16・17・21・22				桁行 (m)	7.50	梁行 (m)	3.50	床面積 (㎡)	25.32	時代	近世	構造	側柱	棟方向	東西	主軸方位	N-84°-W
Pit番号	規模 (m)						形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)				梁行柱間 (m)				
	上端		下端		深度	底面標高 (m)	平面	断面				計測Pit名		計測値	計測Pit名		計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸								Pit	- Pit		Pit	- Pit				
Pit 644	0.30	0.27	0.05	0.05	0.28	8.46	円形	漏斗形	1			Pit 650	-	Pit 653	2.80	Pit 61	-	Pit 213	1.50	
Pit 102	0.27	0.23	0.18	0.09	0.32	8.68	円形	半円形	1			Pit 653	-	Pit 1989	4.70	Pit 213	-	Pit 1989	2.00	
Pit 829	0.20	0.17	0.09	0.08	0.22	8.79	円形	半円形	1											
Pit 664	0.50	0.30	0.30	0.22	0.26	8.70	隅丸長方形	台形	3											
Pit 105	0.27	0.26	0.10	0.09	0.22	8.76	円形	台形	1											
Pit 1992	0.25	0.25	0.08	0.08	0.29	8.66	円形	台形	1		<Pit1132									
Pit 61	0.44	0.39	0.13	0.12	0.48	8.52	円形	階段形	1											
Pit 650	0.24	0.22	0.05	0.04	0.41	8.59	円形	台形	1											
Pit 653	0.26	0.25	0.10	0.09	0.32	8.67	円形	台形	1		>SD1404									
Pit 1989	0.27	0.27	0.16	0.10	0.42	8.50	円形	U字形	3											

2区 SB2028

図版No.	166	グリッド	14R-8J3・4・8・9・13・14				桁行 (m)	3.40	梁行 (m)	2.10	床面積 (㎡)	7.36	時代	近世	構造	側柱	棟方向	南北	主軸方位	N-4°-E
Pit番号	規模 (m)						形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)				梁行柱間 (m)				
	上端		下端		深度	底面標高 (m)	平面	断面				計測Pit名		計測値	計測Pit名		計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸								Pit	- Pit		Pit	- Pit				
Pit 388	0.26	0.24	0.06	0.06	0.40	8.61	隅丸長方形	U字形	2			Pit 388	-	Pit 206	1.60	Pit 388	-	Pit 385	0.90	
Pit 385	0.28	0.24	0.06	0.06	0.21	8.82	円形	半円形	1			Pit 206	-	Pit 202	1.80	Pit 385	-	Pit 384	1.20	
Pit 384	0.34	0.26	0.19	(0.06)	0.28	8.74	楕円形	台形	1		<Pit44、SA2001									
Pit 206	0.44	0.41	0.14	0.12	0.40	8.58	円形	U字形	3											
Pit 52	0.24	0.22	0.15	0.13	0.19	8.88	円形	U字形	1		<SA2002									
Pit 202	0.29	0.28	0.06	0.03	0.43	8.55	円形	U字形	1											
Pit 425	0.32	0.23	0.14	0.10	0.36	8.68	楕円形	U字形	2											
Pit 428	0.43	0.38	0.28	0.24	0.15	8.90	円形	台形	1		>SD81									

2区 SB2029

図版No.	167	グリッド	14R-8J12・13・14・16・17・18・19・21・22・23・24、9J1・2・3・4				桁行 (m)	4.42	梁行 (m)	4.00	床面積 (㎡)	18.27	時代	近世	構造	側柱	棟方向	東西	主軸方位	N-88°-E
Pit番号	規模 (m)						形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)				梁行柱間 (m)				
	上端		下端		深度	底面標高 (m)	平面	断面				計測Pit名		計測値	計測Pit名		計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸								Pit	- Pit		Pit	- Pit				
Pit 635	(0.67)	0.62	0.17	0.11	0.15	8.73	円形	階段形	6		<Pit634	Pit 635	-	Pit 424	2.00	Pit 423	-	Pit 253	4.00	
Pit 424	0.75	0.53	0.11	0.10	0.54	8.44	楕円形	U字形	4			Pit 424	-	Pit 423	2.42					
Pit 423	0.60	0.46	0.12	0.10	0.36	8.66	楕円形	半円形	2		<Pit422									
Pit 130	0.35	0.30	0.20	0.16	0.33	8.72	円形	皿形	2		<Pit128・129、>SD665									
Pit 253	0.70	0.67	0.20	0.13	0.41	8.64	楕円形	階段形	3		>SD81									

2区 SB2010

図版No.	168 169	グリッド	14R-9G3・4・5・8・9・10・13・14・15・18・19・20・23、10G3・4・5・8、9H1・2・6・7・11・12・16・21、10H1				桁行 (m)	11.40	梁行 (m)	5.30	床面積 (㎡)	71.81	時代	近世	構造	側柱	棟方向	南北	主軸方位	N-1°-W
Pit番号	規模 (m)						形態		覆土	柱痕	切り合い関係	桁行柱間 (m)				梁行柱間 (m)				
	上端		下端		深度	底面標高 (m)	平面	断面				計測Pit名		計測値	計測Pit名		計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸								Pit	- Pit		Pit	- Pit				
Pit 909	(0.67)	0.62	0.17	0.11	0.15	8.73	円形	台形	4		>SD537	Pit 909	-	Pit 908	2.50	Pit 909	-	Pit 904	5.30	
Pit 904	1.21	0.92	0.17	0.14	0.29	8.59	隅丸長方形	階段形	8			Pit 908	-	Pit 910	2.10					
Pit 944	(0.35)	0.22	(0.30)	(0.06)	0.15	8.74	楕円形	半円形	1		<Pit943、>Pit945	Pit 910	-	Pit 907	2.10					
Pit 1088	0.38	0.30	0.28	0.24	0.40	8.48	楕円形	U字形	5		<Pit1087	Pit 907	-	Pit 906	2.30					
Pit 908	0.74	0.66	0.25	0.23	0.24	8.66	円形	台形	4		>SD537	Pit 906	-	Pit 905	2.40					
Pit 910	0.51	0.40	0.10	0.08	0.21	8.24	楕円形	階段形	1		>SD537									
Pit 903	(0.70)	(0.56)	0.13	0.11	0.28	8.66	隅丸長方形	階段形	4	有	<Pit902、SB2010									
Pit 902	0.96	0.88	0.16	0.13	0.28	8.68	隅丸長方形	台形	6		>Pit903、SB2010									
Pit 893	(0.77)	(0.56)	0.22	0.15	0.21	8.75	隅丸長方形	階段形	4											
Pit 912	0.88	0.62	0.45	0.19	0.48	8.46	隅丸長方形	階段形	7											
Pit 907	0.80	0.69	0.22	0.18	0.52	8.38	楕円形	漏斗形	5	有	>SD537									
Pit 901	0.93	0.81	0.21	0.17	0.56	8.40	円形	階段形	6	有										
Pit 906	0.74	0.70	0.65	0.60	0.38	8.52	円形	階段形	6											
Pit 900	0.88	0.82	0.31	0.20	0.51	8.42	円形	階段形	7	有										
Pit 905	0.79	0.68	0.19	0.14	0.28	8.66	円形	台形	8	有										

別表3 柱列(柵)計測表

1区 SA870

図版 No.	59	グリッド	13R-7C4・5・10、7D6・7・12・13・14・19・20・25、7E21、8E1・2・7・8・13・14・19・20、8F16・21・22、9F2・3				規模 (m)	33.40	時代	近世以降	主軸方位	N-53°-W	備考	柱間隔 (m)			
Pit番号	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	柱間隔 (m)					
	上端		下端		深度		平面	断面				計測Pit名		計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸													
Pit 5	0.44	0.26	0.37	0.19	0.09	8.91	隅丸長方形	台形	2				Pit 5	-	Pit 6	1.86	
Pit 6	0.57	0.28	0.45	0.19	0.11	8.85	隅丸長方形	皿形	2				Pit 6	-	Pit 7	1.90	
Pit 7	(0.45)	0.25	(0.44)	0.16	0.13	8.79	隅丸長方形	皿形	1				Pit 7	-	Pit 8	1.90	
Pit 8	0.71	0.34	0.54	0.23	0.15	8.76	隅丸長方形	台形	1				Pit 8	-	Pit 9	1.88	
Pit 9	(0.62)	0.39	(0.47)	0.27	0.05	8.85	隅丸長方形	皿形	1				Pit 9	-	Pit 10	1.89	
Pit 10	(0.38)	0.30	(0.31)	0.20	0.11	8.82	隅丸長方形	皿形	2				Pit 10	-	Pit 11	1.90	
Pit 11	0.55	0.38	0.48	0.30	0.10	8.80	隅丸長方形	箱形	2				Pit 11	-	Pit 12	1.94	
Pit 12	0.58	0.35	0.39	0.25	0.12	8.84	隅丸長方形	台形	2				Pit 12	-	Pit 13	1.93	
Pit 13	0.60	0.27	0.53	0.18	0.09	8.84	隅丸長方形	箱形	1		>SD194、Pit65		Pit 13	-	Pit 14	2.00	
Pit 14	0.60	0.30	0.52	0.24	0.07	8.83	隅丸長方形	台形	1				Pit 14	-	Pit 15	1.88	
Pit 15	0.55	0.26	0.47	0.18	0.09	8.83	隅丸長方形	台形	1				Pit 15	-	Pit 16	1.46	
Pit 16	0.54	0.26	0.46	0.19	0.07	8.85	隅丸長方形	台形	1				Pit 16	-	Pit 17	1.88	
Pit 17	0.63	0.23	0.53	0.19	0.09	8.84	隅丸長方形	皿形	2				Pit 17	-	Pit 102	1.85	
Pit 102	0.28	0.22	0.23	0.18	0.07	8.87	隅丸長方形	箱形	1				Pit 102	-	Pit 18	1.91	
Pit 18	0.63	0.26	0.56	0.21	0.11	8.85	隅丸長方形	台形	1				Pit 18	-	Pit 19	1.70	
Pit 19	0.52	0.23	0.47	0.18	0.07	8.90	隅丸長方形	皿形	2		>Pit103		Pit 19	-	Pit 20	1.82	
Pit 20	0.48	0.24	0.43	0.18	0.04	8.87	長楕円形	台形	1				Pit 20	-	Pit 21	1.92	
Pit 21	0.51	0.24	0.42	0.17	0.08	8.92	隅丸長方形	皿形	3				Pit 21	-	Pit 22	1.81	
Pit 22	(0.29)	0.21	(0.25)	0.15	0.03	8.93	隅丸長方形	皿形	2								

1区 SA871

図版 No.	60	グリッド	14R-1A9・14・15・19・20・25、2A5・10・15・20・25、3A5				規模 (m)	18.36	時代	近世以降	主軸方位	N-3°-W	備考	柱間隔 (m)			
Pit番号	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	柱間隔 (m)					
	上端		下端		深度		平面	断面				計測Pit名		計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸													
Pit 368	0.25	0.25	0.16	0.16	0.48	8.56	円形	U字形	1				Pit 368	-	Pit 352	1.34	
Pit 352	0.28	0.24	0.18	0.15	0.35	8.68	円形	U字形	2	有			Pit 352	-	Pit 353	1.33	
Pit 353	0.24	0.22	0.07	0.06	0.31	8.74	円形	U字形	2	有			Pit 353	-	Pit 354	1.38	
Pit 354	0.22	0.19	0.10	0.09	0.36	8.67	円形	U字形	2	有			Pit 354	-	Pit 355	1.44	
Pit 355	0.22	0.17	0.11	0.10	0.30	8.72	楕円形	台形	1				Pit 355	-	Pit 356	1.42	
Pit 356	0.24	0.23	0.16	0.14	0.28	8.73	円形	台形	1				Pit 356	-	Pit 357	1.44	
Pit 357	0.24	0.20	0.12	0.10	0.33	8.72	楕円形	U字形	2				Pit 357	-	Pit 358	1.44	
Pit 358	0.25	0.25	0.10	0.09	0.33	8.76	円形	箱形	3	有			Pit 358	-	Pit 359	1.45	
Pit 359	0.22	0.21	0.12	0.08	0.37	8.72	円形	U字形	2	有			Pit 359	-	Pit 360	1.40	
Pit 360	(0.24)	(0.18)	0.13	0.12	0.28	8.76	楕円形	U字形	2	有	>SD3、SZ865		Pit 360	-	Pit 361	1.44	
Pit 361	0.24	0.21	0.12	0.11	0.37	8.72	円形	U字形	2	有	>SZ865		Pit 361	-	Pit 362	1.60	
Pit 362	0.20	0.19	0.13	0.12	0.31	8.72	円形	台形	1		>SZ865		Pit 362	-	Pit 363	1.46	
Pit 363	(0.23)	(0.20)	0.16	0.12	0.31	8.71	円形	U字形	3	有	>SD3、SZ865		Pit 363	-	Pit 364	1.22	
Pit 364	(0.20)	(0.19)	0.11	0.10	0.31	8.70	円形	箱形	2	有	>SD3、SZ865						

2区 SA1997

図版 No.	171	グリッド	14R-4H15・19・20・23・24、4I6・11、5H2・3・6・7				規模 (m)	14.92	時代	近世以降	主軸方位	N-46°-E	備考	柱間隔 (m)			
Pit番号	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	柱間隔 (m)					
	上端		下端		深度		平面	断面				計測Pit名		計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸													
Pit 13	0.28	0.20	0.15	0.13	0.21	8.91	楕円形	半円形	1				Pit 13	-	Pit 172	1.41	
Pit 172	0.24	0.24	0.16	0.14	0.15	8.99	円形	半円形	1				Pit 172	-	Pit 158	1.34	
Pit 158	0.22	0.20	0.11	0.08	0.24	8.88	円形	階段形	1				Pit 158	-	Pit 16	1.56	
Pit 16	0.24	0.24	0.12	0.11	0.20	8.73	円形	階段形	3				Pit 16	-	Pit 47	1.35	
Pit 47	0.22	0.20	0.16	0.12	0.21	8.91	円形	台形	1				Pit 47	-	Pit 19	1.33	
Pit 19	0.22	0.22	0.15	0.14	0.22	8.91	円形	U字形	1				Pit 19	-	Pit 182	1.31	
Pit 182	(0.22)	(0.20)	(0.18)	(0.14)	0.17	8.94	円形	台形	1		>SD419		Pit 182	-	Pit 185	1.33	
Pit 185	0.24	0.24	0.16	0.14	0.12	8.97	円形	台形	1				Pit 185	-	Pit 74	1.36	
Pit 74	0.24	0.22	0.16	0.14	0.16	8.91	円形	半円形	1				Pit 74	-	Pit 73	1.31	
Pit 73	0.24	0.22	0.14	0.13	0.07	8.99	円形	皿形	1				Pit 73	-	Pit 196	1.32	
Pit 196	0.24	0.22	0.16	0.10	0.06	9.00	円形	皿形	1		>Pit197		Pit 196	-	Pit 237	1.30	
Pit 237	0.22	0.22	0.16	0.12	0.07	8.98	円形	皿形	1								

2区 SA1998

図版 No.	171	グリッド	14R-4H19・20・23・24、4I6・11、5H3・6・7				規模 (m)	14.07	時代	近世以降	主軸方位	N-46°-E	備考	柱間隔 (m)			
Pit番号	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	柱間隔 (m)					
	上端		下端		深度		平面	断面				計測Pit名		計測値			
	長軸	短軸	長軸	短軸													
Pit 11	0.38	0.31	0.17	0.10	0.25	8.87	楕円形	階段形	1				Pit 11	-	Pit 345	1.24	
Pit 345	0.17	0.14	0.09	0.08	0.11	9.00	楕円形	皿形	1				Pit 345	-	Pit 363	1.52	
Pit 363	0.20	(0.14)	0.08	0.06	0.23	8.90	楕円形	半円形	1		<Pit161		Pit 363	-	Pit 15	1.10	
Pit 15	0.24	0.20	0.10	0.08	0.19	8.95	楕円形	皿形	1				Pit 15	-	Pit 167	1.37	
Pit 167	0.17	0.14	0.08	0.05	0.14	8.99	楕円形	皿形	1				Pit 167	-	Pit 18	1.34	
Pit 18	0.30	0.28	0.14	0.11	0.32	8.79	円形	半円形	1		>Pit402		Pit 18	-	Pit 178	1.42	
Pit 178	0.26	0.20	0.15	(0.14)	0.13	8.98	楕円形	箱形	2		>SD419、Pit179		Pit 178	-	Pit 180	1.19	
Pit 180	0.22	0.16	0.17	0.13	0.21	8.88	楕円形	箱形	1		>Pit181		Pit 180	-	Pit 190	1.42	
Pit 190	0.24	0.20	0.10	0.10	0.23	8.84	楕円形	U字形	1				Pit 190	-	Pit 72	0.94	
Pit 72	0.24	0.22	0.13	0.12	0.22	8.82	円形	半円形	1				Pit 72	-	Pit 198	1.45	
Pit 198	0.22	0.20	0.12	0.10	0.21	8.84	円形	箱形	1				Pit 198	-	Pit 200	1.08	
Pit 200	0.22	0.21	0.14	0.10	0.25	8.80	円形	皿形	1								

別 表

2区 SA2005

図版 No.	172	グリッド	14R-6D18・19・20・23, 6E16				規模 (m)	7.03	時代	近世	主軸方位	N-85°-E	備考	柱間隔 (m)					
Pit番号	規模 (m)					深度	底面標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	計測Pit名				計測値		
	上端		下端		平面			断面	計測Pit名										
	長軸	短軸	長軸	短軸									Pit	-	Pit	-	Pit	-	Pit
Pit 1549	0.70	0.50	0.43	0.34	0.20	8.60	楕円形	半円形	4				Pit 1549	-	Pit 1545	-	1.42		
Pit 1545	0.66	0.54	0.08	0.07	0.16	8.63	円形	台形	5				Pit 1545	-	Pit 1544	-	1.20		
Pit 1544	0.55	0.52	0.29	0.22	0.13	8.67	円形	台形	3				Pit 1544	-	Pit 1543	-	1.08		
Pit 1543	0.55	0.49	0.28	0.22	0.15	8.66	円形	台形	4				Pit 1543	-	Pit 1550	-	1.06		
Pit 1550	0.60	0.47	0.42	0.31	0.15	8.68	隅丸長方形	台形	4				Pit 1550	-	Pit 1834	-	1.18		
Pit 1834	1.07	0.78	0.87	0.58	0.11	8.74	隅丸長方形	皿形	4				Pit 1834	-	Pit 1833	-	1.09		
Pit 1833	0.66	0.60	0.36	0.34	0.23	8.66	円形	台形	4										

2区 SA1999

図版 No.	173	グリッド	14R-6J17・22, 7J2・3・8・13・14・19・24・25, 8J5・10, 14S-8A6・11・16・17・22, 8J10				規模 (m)	24.85	時代	近世以降	主軸方位	N-28°-W	備考	柱間隔 (m)					
Pit番号	規模 (m)					深度	底面標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	計測Pit名				計測値		
	上端		下端		平面			断面	計測Pit名										
	長軸	短軸	長軸	短軸									Pit	-	Pit	-	Pit	-	Pit
Pit 100	0.23	0.18	0.19	0.15	0.38	8.67	円形	半円形	1		>SD362		Pit 100	-	Pit 78	-	1.16		
Pit 78	0.22	0.20	0.12	0.12	0.26	8.78	円形	U字形	1				Pit 78	-	Pit 80	-	1.26		
Pit 80	0.21	0.20	0.13	0.12	0.26	8.79	隅丸長方形	半円形	1				Pit 80	-	Pit 69	-	1.28		
Pit 69	0.29	0.28	0.12	0.11	0.29	8.76	円形	U字形	1				Pit 69	-	Pit 38	-	1.38		
Pit 38	0.23	0.21	0.16	0.13	0.18	8.84	円形	U字形	1				Pit 38	-	Pit 49	-	1.24		
Pit 49	0.20	0.19	0.12	0.06	0.28	8.75	円形	半円形	1				Pit 49	-	Pit 50	-	2.69		
Pit 50	0.20	0.18	0.12	0.12	0.33	8.73	円形	半円形	1				Pit 50	-	Pit 134	-	1.15		
Pit 134	0.22	0.20	0.10	0.10	0.21	8.85	隅丸方形	半円形	1				Pit 134	-	Pit 26	-	1.30		
Pit 26	0.22	0.21	0.16	0.14	0.24	8.93	隅丸方形	箱形	1				Pit 26	-	Pit 123	-	1.30		
Pit 123	0.19	0.19	0.10	0.09	0.26	8.80	円形	半円形	1		>SD81		Pit 123	-	Pit 122	-	1.36		
Pit 122	0.23	0.18	0.12	0.12	0.25	8.81	隅丸長方形	U字形	1		>SD81		Pit 122	-	Pit 8	-	1.40		
Pit 8	0.25	0.19	0.15	0.11	0.29	8.78	隅丸方形	半円形	1				Pit 8	-	Pit 133	-	1.37		
Pit 133	0.18	0.17	0.13	0.10	0.27	8.79	隅丸方形	U字形	1				Pit 133	-	Pit 3	-	1.26		
Pit 3	0.22	0.22	0.14	0.12	0.32	8.74	円形	U字形	1				Pit 3	-	Pit 1	-	1.37		
Pit 1	0.22	0.19	0.13	0.11	0.27	8.79	隅丸方形	U字形	1				Pit 1	-	Pit 395	-	1.37		
Pit 395	0.21	0.20	0.16	0.14	0.24	8.83	円形	箱形	1				Pit 395	-	Pit 631	-	2.78		
Pit 631	0.20	0.20	0.14	0.10	0.36	8.69	円形	U字形	1				Pit 631	-	Pit 29	-	1.18		
Pit 29	0.25	0.24	0.08	0.08	0.30	8.75	円形	U字形	1										

2区 SA2000

図版 No.	173	グリッド	14R-6J16・17・22, 7J2・3・8・13・14・19・24・25, 8J5・10, 14S-8A6・11・16				規模 (m)	22.11	時代	近世以降	主軸方位	N-27°-W	備考	柱間隔 (m)					
Pit番号	規模 (m)					深度	底面標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	計測Pit名				計測値		
	上端		下端		平面			断面	計測Pit名										
	長軸	短軸	長軸	短軸									Pit	-	Pit	-	Pit	-	Pit
Pit 332	0.22	0.19	0.12	0.08	0.20	8.82	円形	半円形	1				Pit 332	-	Pit 99	-	1.40		
Pit 99	0.24	0.20	0.13	0.12	0.20	8.83	円形	箱形	1		>SD362		Pit 99	-	Pit 77	-	1.17		
Pit 77	0.21	0.21	0.16	0.12	0.13	8.92	円形	半円形	1				Pit 77	-	Pit 79	-	1.35		
Pit 79	0.23	0.22	0.16	0.15	0.18	8.87	隅丸方形	箱形	1				Pit 79	-	Pit 67	-	1.46		
Pit 67	0.23	0.23	0.14	0.12	0.22	8.81	円形	箱形	1		>SD860, SN2014		Pit 67	-	Pit 37	-	1.27		
Pit 37	0.22	0.22	0.17	0.14	0.14	8.89	円形	半円形	1				Pit 37	-	Pit 127	-	1.23		
Pit 127	0.19	0.19	0.07	0.06	0.15	8.88	円形	半円形	1				Pit 127	-	Pit 135	-	2.79		
Pit 135	0.19	0.15	0.08	0.06	0.17	8.90	楕円形	半円形	1				Pit 135	-	Pit 51	-	1.34		
Pit 51	0.21	0.19	0.13	0.12	0.23	8.85	円形	半円形	1				Pit 51	-	Pit 25	-	1.22		
Pit 25	0.21	0.20	0.12	0.11	0.19	8.89	円形	U字形	1				Pit 25	-	Pit 17	-	1.31		
Pit 17	0.24	0.23	0.10	0.08	0.18	8.90	円形	U字形	1		>SK442, SD81		Pit 17	-	Pit 24	-	1.40		
Pit 24	0.24	0.24	0.18	0.14	0.19	8.91	隅丸方形	半円形	1		>SD81		Pit 24	-	Pit 131	-	1.04		
Pit 131	0.22	0.22	0.08	0.08	0.28	8.81	円形	半円形	1				Pit 131	-	Pit 132	-	1.30		
Pit 132	0.22	0.18	0.10	0.09	0.27	8.81	楕円形	U字形	1				Pit 132	-	Pit 9	-	1.32		
Pit 9	0.19	0.16	0.06	0.06	0.18	8.91	円形	U字形	1				Pit 9	-	Pit 6	-	1.25		
Pit 6	0.22	0.20	0.10	0.09	0.22	8.87	隅丸方形	U字形	1				Pit 6	-	Pit 394	-	1.26		
Pit 394	0.22	0.20	0.12	0.11	0.15	8.93	円形	台形	1										

2区 SA2001

図版 No.	173	グリッド	14R-6J21, 7J1・2・7・12・13・18・23・24, 8J4・9・10・15・20				規模 (m)	18.85	時代	近世以降	主軸方位	N-28°-W	備考	柱間隔 (m)					
Pit番号	規模 (m)					深度	底面標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	計測Pit名				計測値		
	上端		下端		平面			断面	計測Pit名										
	長軸	短軸	長軸	短軸									Pit	-	Pit	-	Pit	-	Pit
Pit 98	0.22	0.20	0.14	0.14	0.22	8.81	円形	箱形	1				Pit 98	-	Pit 97	-	1.32		
Pit 97	0.24	0.23	0.14	0.13	0.19	8.84	円形	箱形	1				Pit 97	-	Pit 65	-	1.17		
Pit 65	0.20	0.20	0.14	0.10	0.16	8.88	円形	半円形	1				Pit 65	-	Pit 830	-	1.00		
Pit 830 (0.39)	0.21	0.21	0.25	0.13	0.05	8.97	長楕円形	台形	1		>SD860, SN2014		Pit 830	-	Pit 92	-	1.57		
Pit 92	0.18	0.16	0.09	0.08	0.11	8.93	円形	半円形	1				Pit 92	-	Pit 824	-	1.24		
Pit 824	0.25	0.23	0.10	0.10	0.12	8.91	円形	台形	1				Pit 824	-	Pit 35	-	1.31		
Pit 35	0.25	0.21	0.15	0.15	0.10	8.95	円形	皿形	1				Pit 35	-	Pit 33	-	1.25		
Pit 33	0.27	0.24	0.15	0.15	0.10	8.96	円形	半円形	1				Pit 33	-	Pit 232	-	1.19		
Pit 232	0.20	(0.16)	0.12	0.10	0.18	8.90	円形	半円形	1		<Pit231		Pit 232	-	Pit 39	-	1.32		
Pit 39	0.34	0.24	0.23	0.13	0.15	8.90	楕円形	皿形	1				Pit 39	-	Pit 44	-	1.22		
Pit 44	0.31	0.23	0.05	0.04	0.14	8.90	楕円形	箱形	1		>Pit384, SB2028		Pit 44	-	Pit 43	-	1.25		
Pit 43	0.32	0.24	0.19	0.14	0.25	8.80	楕円形	半円形	1		>SD81		Pit 43	-	Pit 41	-	1.20		
Pit 41	0.32	0.24	0.18	0.16	0.14	8.90	楕円形	皿形	1		>SD81		Pit 41	-	Pit 229	-	1.23		
Pit 229	0.27	0.22	0.17	0.10	0.16	8.88	楕円形	台形	1				Pit 229	-	Pit 54	-	1.23		
Pit 54	0.26	0.22	0.08	0.08	0.13	8.91	円形	U字形	1				Pit 54	-	Pit 55	-	1.35		
Pit 55	0.30	0.20	0.17	0.09	0.44	8.69	長楕円形	半円形	1		>Pit398								

2区 SA2002

図版 No.	173	グリッド	14R-7J1・6・7・12・17・18・23、8J3・4・9・14・15・20・25				規模 (m)	18.62	時代	近世以降	主軸方位	N-28°-W	備考				
Pit番号	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	柱間隔 (m)					
	上端		下端		深度		平面	断面				計測Pit名					
	長軸	短軸	長軸	短軸								Pit	-	Pit	計測値		
Pit 96	0.23	0.20	0.16	0.14	0.18	8.84	円形	箱形	1				Pit 96	-	Pit 66	1.20	
Pit 66	0.26	0.23	0.19	0.19	0.16	8.86	円形	台形	1				Pit 66	-	Pit 94	1.17	
Pit 94	0.14	0.13	0.08	0.07	0.13	8.88	円形	半円形	1		>SD861、SN2014		Pit 94	-	Pit 88	1.17	
Pit 88	0.18	0.15	0.10	0.09	0.12	8.90	楕円形	半円形	1				Pit 88	-	Pit 59	2.35	
Pit 59	0.21	0.20	0.13	0.10	0.14	8.91	円形	皿形	1				Pit 59	-	Pit 34	1.19	
Pit 34	0.29	0.25	0.17	0.14	0.15	8.90	円形	半円形	1				Pit 34	-	Pit 387	1.19	
Pit 387	0.24	0.23	0.15	0.15	0.27	8.79	円形	台形	1				Pit 387	-	Pit 386	1.16	
Pit 386	0.25	0.24	0.18	0.16	0.21	8.84	円形	半円形	1				Pit 386	-	Pit 40	1.14	
Pit 40	0.22	0.21	0.18	0.17	0.19	8.86	円形	半円形	1				Pit 40	-	Pit 230	1.12	
Pit 230	0.20	0.17	0.16	0.08	0.16	8.88	円形	半円形	1				Pit 230	-	Pit 52	1.19	
Pit 52	0.24	0.22	0.15	0.13	0.19	8.88	円形	U字形	1		>SB2028		Pit 52	-	Pit 42	1.18	
Pit 42	0.26	0.25	0.15	0.14	0.40	8.64	円形	U字形	1		>SD81		Pit 42	-	Pit 22	2.27	
Pit 22	0.25	0.23	0.12	0.12	0.30	8.75	円形	半円形	1				Pit 22	-	Pit 91	1.09	
Pit 91	0.23	0.22	0.13	0.10	0.34	8.72	円形	U字形	1				Pit 91	-	Pit 397	1.20	
Pit 397	0.28	0.26	0.17	0.14	0.21	8.87	円形	台形	1		>SK487						

2区 SA2003

図版 No.	173	グリッド	14R-7J11・16・17・22、8J2				規模 (m)	6.38	時代	近世以降	主軸方位	N-29°-W	備考				
Pit番号	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	柱間隔 (m)					
	上端		下端		深度		平面	断面				計測Pit名					
	長軸	短軸	長軸	短軸								Pit	-	Pit	計測値		
Pit 334	0.29	0.27	0.14	0.14	0.18	8.82	円形	皿形	1				Pit 334	-	Pit 214	1.23	
Pit 214	0.24	0.23	0.09	0.09	0.27	8.73	円形	台形	1				Pit 214	-	Pit 213	2.12	
Pit 213	0.27	0.18	0.16	0.13	0.23	8.78	長楕円形	箱形	2				Pit 213	-	Pit 211	1.82	
Pit 211	0.20	0.15	0.10	0.05	0.13	8.85	楕円形	半円形	1		>SE444、SD860、SN2014		Pit 211	-	Pit 48	1.21	
Pit 48	0.40	0.37	0.19	0.17	0.19	8.77	円形	半円形	1		>SE444						

2区 SA2004

図版 No.	173	グリッド	14R-7I5・10・15、7J11・16・21・22、8J2・7・8・13・18・19・24、9J4・5				規模 (m)	20.81	時代	近世以降	主軸方位	N-28°-W	備考				
Pit番号	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	柱間隔 (m)					
	上端		下端		深度		平面	断面				計測Pit名					
	長軸	短軸	長軸	短軸								Pit	-	Pit	計測値		
Pit 836	0.28	0.22	0.14	0.07	0.16	8.82	楕円形	半円形	1				Pit 836	-	Pit 107	1.78	
Pit 107	0.23	0.23	0.18	0.16	0.18	8.83	円形	半円形	1				Pit 107	-	Pit 335	1.23	
Pit 335	0.23	0.20	0.13	0.09	0.20	8.81	円形	半円形	1				Pit 335	-	Pit 101	1.25	
Pit 101	0.26	0.24	0.14	0.10	0.21	8.79	円形	半円形	1				Pit 101	-	Pit 95	2.58	
Pit 95	0.25	0.24	0.14	0.13	0.11	8.89	円形	半円形	1				Pit 95	-	Pit 212	1.24	
Pit 212	0.20	0.17	0.05	0.04	0.25	8.73	円形	漏斗形	1				Pit 212	-	Pit 210	1.38	
Pit 210	0.32	0.30	0.17	0.14	0.16	8.80	円形	箱形	1		>SE444		Pit 210	-	Pit 216	1.32	
Pit 216	0.20	0.20	0.10	0.08	0.09	8.88	円形	U字形	1		>Pit215、SE444		Pit 216	-	Pit 208	1.47	
Pit 208	0.18	0.16	0.10	0.09	0.09	8.87	円形	箱形	1				Pit 208	-	Pit 205	1.27	
Pit 205	0.24	0.22	0.17	0.16	0.14	8.84	円形	箱形	1				Pit 205	-	Pit 203	1.16	
Pit 203	0.24	0.24	0.12	0.10	0.19	8.81	円形	台形	1				Pit 203	-	Pit 399	2.22	
Pit 399	0.22	0.20	0.13	0.13	0.18	8.82	円形	半円形	1				Pit 399	-	Pit 396	1.24	
Pit 396	(0.22)	(0.18)	(0.12)	(0.12)	0.17	8.78	楕円形	半円形	1		<SD391、>SD81		Pit 396	-	Pit 124	1.37	
Pit 124	0.21	0.18	0.12	0.11	0.18	8.87	円形	半円形	1				Pit 124	-	Pit 301	1.30	
Pit 301	0.22	0.20	0.14	0.12	0.20	8.83	円形	U字形	1								

2区 SA2031

図版 No.	174	グリッド	14R-8E19・23・24、9E3・8・13・17・18・22、10E2・6・7・11・16				規模 (m)	19.70	時代	近世以降	主軸方位	N-16°-E	備考				
Pit番号	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		覆土	柱痕	切り合い関係	柱間隔 (m)					
	上端		下端		深度		平面	断面				計測Pit名					
	長軸	短軸	長軸	短軸								Pit	-	Pit	計測値		
Pit 1237	0.22	0.20	0.09	0.09	0.30	8.56	円形	台形	1				Pit 1237	-	Pit 1235	1.50	
Pit 1235	0.26	0.25	0.08	0.06	0.15	8.68	円形	台形	2				Pit 1235	-	Pit 1232	1.60	
Pit 1232	0.20	0.18	0.12	0.08	0.22	8.62	円形	U字形	2				Pit 1232	-	Pit 1205	1.50	
Pit 1205	0.34	0.26	0.06	0.04	0.18	8.71	楕円形	半円形	3				Pit 1205	-	Pit 1230	1.45	
Pit 1230	0.22	0.20	0.12	0.10	0.29	8.59	楕円形	台形	1		>SK1592		Pit 1230	-	Pit 1525	1.40	
Pit 1525	0.21	0.19	0.09	0.08	0.26	8.63	円形	U字形	1				Pit 1525	-	Pit 1075	1.40	
Pit 1075	0.20	0.18	0.09	0.08	0.20	8.67	円形	U字形	1				Pit 1075	-	Pit 989	1.35	
Pit 989	0.20	0.19	0.08	0.05	0.27	8.64	円形	台形	1				Pit 989	-	Pit 990	1.30	
Pit 990	0.19	0.17	0.09	0.07	0.18	8.68	円形	半円形	1				Pit 990	-	Pit 1039	1.40	
Pit 1039	0.21	0.19	0.10	0.09	0.21	8.67	円形	U字形	1				Pit 1039	-	Pit 1015	1.40	
Pit 1015	0.19	0.19	0.09	0.07	0.23	8.70	円形	台形	1				Pit 1015	-	Pit 1986	1.40	
Pit 1986	(0.17)	(0.15)	0.10	0.07	0.26	8.62	円形	半円形	1				Pit 1986	-	Pit 967	1.40	
Pit 967	0.24	0.20	0.18	0.15	0.27	8.66	楕円形	箱形	1				Pit 967	-	Pit 1007	1.20	
Pit 1007	0.22	0.20	0.10	0.08	0.24	8.68	円形	U字形	1		>SK1562、SD1521、SF2017		Pit 1007	-	Pit 1026	1.40	
Pit 1026	(0.22)	(0.08)	(0.11)	(0.04)	0.25	8.82	楕円形	半円形	1								

別表 4 古代土器観察表

- 凡例 1 器種・分類 第V章に記した。
 2 法 量 括弧付の数値は遺存率が低く誤差が大きい可能性のあるものである。
 3 径高指数 器高/口径×100
 4 底径指数 底径/口径×100
 5 胎土 胎土内に含まれる鉱物・小礫等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「雲」は金雲母あるいは黒雲母、「チ」はチャート、「焼」は焼土粒、「白」は白色凝灰岩、「角」は角閃石、「海」は海綿骨針を表す。
 6 色 調 『新版標準土色帖』(小山・竹原1967)の記号を記した。
 7 焼 成 酸化炎焼成・還元炎焼成の区別を記した。
 8 手 法 特徴的な手法のみを記し、網羅的な記載は行っていない。底部の「糸切り」・「ヘラ切り」はいずれも回転台を用いたものである。回転方向は、回転台の回転方向を表す。
 9 遺 存 率 分数表示で遺存割合を示した。

図版No.	写真版No.	報告No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			径高指数	底径指数	胎土		産地	色調		焼成	手法				遺存率			付着物		時代	時期・年代	備考			
			区	遺構					グリッド	口径	底径			器高	状態		含有物	外面		内面	外面	工具痕	内面	工具痕	底部	回転	口縁部	底部				全体	内面	外面
194	244	1	1	SD205	13R-10D9	5	土師器	無台碗		(12.6)	-	-		普通	長・白		浅黄色(10YR8/4)	浅黄色(10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					2/36	1/36			古代	平安	取上No.2	
194	244	2	1	ST1	14R-2A19	1	須恵器	短頸壺		(12.0)	-	-		普通	石・長	Bか	灰色(5Y5/1)	灰色(5Y5/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ					2/36	1/36			古代	平安	取上No.1	
194	244	3	1	SD448	14Q-1G25	1	須恵器	横瓶		-	-	-		普通	白	B	灰白色(5Y6/1)	灰白色(5Y7/1)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	D					1/36			古代	平安	取上No.3	
194	244	4	1	SD577	14Q-3D7	3	須恵器	甕		-	-	-		精	長・白	C	灰色(7.5Y5/1)	オリーブ黒色(10Y3/1)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	D					1/36			古代	平安	取上No.1	
194	244	5	1	SD577	14Q-3E17 14Q-3E18	3	土師器	長甕		29	-	(6.8)		粗	長・雲・チ		浅黄褐色(10YR8/4)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	酸化	ロクロナデ・カキメ		ロクロナデ			7/36	1/36			古代	平安	取上No.3+ 取上No.4			
194	244	6	1	SD578	14Q-5F10	1	須恵器	甕		-	-	-		精	白	C	灰白色(N6/0)	灰白色(N7/0)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	D					1/36			古代	平安	取上No.1	
194	244	7	1	SD574	14Q-4H11	2	土師器	鍋		(37.2)	-	-		普通	長・白・角		にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			2/36	1/36			古代	平安	取上No.1			
194	244	8	1	NR500	13Q-10J14	4	土師器	長甕		-	-	-		粗	石・長・雲・焼		にぶい黄褐色(10YR7/3)	浅黄褐色(10YR8/3)	酸化	不明		当て具痕	D				1/36			古代	平安	取上No.7		
194	244	9	1	NR500	13Q-10J14	4	土師器	長甕		(19.6)	-	-		粗	長・白・角		にぶい黄褐色(10YR7/3)	にぶい黄褐色(10YR7/3)	酸化	ヨコナデ		ヨコナデ			2/36	1/36			古代	平安	取上No.24			
194	244	10	1		14Q-5F9	IV	須恵器	甕		-	-	-		精	長・白	C	灰色(N5/0)	灰色(N6/0)	還元	タタキメ・ハケメ	Ha	当て具痕・ハケメ	D					1/36			古代	平安		
199	246	78	2	SE1027	14R-7D11	5	土師器	無台碗		-	(5.8)	-		精	白		浅黄褐色(10YR8/3)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		9/36	2/36			古代	平安	取上No.2		
199	246	79	2	SE4	14S-8A7	5	須恵器	甕		-	-	-		粗	石・長・白	A	黄灰色(2.5Y6/1)	黄灰色(2.5Y6/1)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	D					1/36			古代	平安	取上No.2	
199	246	80	2	SE23 SE392	14R-9J10 14S-9A1	1	須恵器	無台杯		-	-	-		普通	長・白		灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ					1/36			古代	平安	取上No.1		
199	246	81	2	SX1131	14R-9B16	1	須恵器	甕		-	-	-		普通	石・長・白	A	灰色(5Y5/1)	灰色(5Y5/1)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	D					1/36			古代	平安	取上No.7	
199	246	82	2	SX1131	14R-9A25	1	須恵器	甕		-	-	-		普通	長・白	A	黄灰色(2.5Y5/1)	黄灰色(2.5Y6/1)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	D					1/36			古代	平安	取上No.12	
199	246	83	2	SX1131	14R-9B16	1	須恵器	甕		-	-	-		普通	長・白	C	褐灰色(10YR6/1)	灰色(5Y6/1)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	D					1/36			古代	平安	取上No.8	
199	246	84	2	SX1131	14R-9B21	1	須恵器	壺		-	-	-		精	白	Bか	黄灰色(2.5Y6/1)	灰黄色(2.5Y7/2)	還元	ロクロナデ		ロクロナデか							1/36			古代	平安	取上No.34
199	246	85	2	SX1131	14R-9B21	1	土師器	無台碗		-	(5.0)	-		普通	長・雲・白		にぶい黄褐色(10YR7/3)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		6/36	2/36			古代	平安	取上No.50		
199	246	86	2	SD150	14R-7I7	1	須恵器	甕		-	-	-		精	チ	C	黒色(N2/1)	暗灰色(N3/1)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	D					1/36			古代	平安	取上No.9	
199	246	87	2	SD150	14R-8H5	1	須恵器	甕		-	-	-		普通	長・白	A	灰色(5Y5/1)	灰色(5Y5/1)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	Dか					1/36			古代	平安	取上No.13	
199	246	88	2	SD150	14R-5I23	2	須恵器	壺		-	(9.0)	-		普通	長・白・角・海		灰白色(2.5Y7/1)	灰白色(2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				6/36	1/36			古代	平安	取上No.5 内面自然釉		
199	246	89	2	SD150	14R-6I13	2	須恵器	壺		-	(13.0)	(2.5)		精	白		オリーブ灰色(2.5GY5/1)	オリーブ灰色(2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36	1/36			古代	平安	取上No.4		
199	246	90	2	SD81	14R-8J24	1	須恵器	無台杯		-	(8.8)	-		普通	長・白・海	B	灰色(10Y5/1)	灰色(10Y5/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		3/36	2/36			古代	平安	取上No.2		
199	246	91	2	SD81 SD150	14R-7J25 14R-7I17	9 1	須恵器	焼台		-	6.2	(3.2)		普通	長・チ・白	C	灰色(N6/)	灰色(N6/)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		18/36	7/36			古代	平安	SD81(取上No.5) +SD150(取上No.10)		
199	247	92	2	SD492	14R-8H14	2	須恵器	有台杯		-	(7.4)	-		普通	白	B	灰色(5Y4/1)	灰色(5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ					1/36	2/36		古代	平安	取上No.18		
199	247	93	2	SD537	14R-8G14	1	土師器	無台碗		-	(6.0)	-		普通	石・長		浅黄褐色(10YR8/3)	浅黄褐色(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切りか		3/36	2/36			古代	平安	取上No.6		
199	247	94	2	SD1522	14R-7D23	1	土師器	小甕		15.0	-	-		普通	雲・海		にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					1/36 以下			古代	平安	取上No.1		
199	247	95	2	SD1892	15Q-3G1	9	土師器	小甕		(15.0)	-	-		普通	石・長・白		にぶい黄褐色(10YR7/2)	にぶい黄褐色(10YR7/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36	1/36			古代	平安	取上No.6		

図版No.	写真No.	報告No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			径高指数	底径指数	胎土含有物		産地	色調		焼成	手法				遺存率		付着物		時代	時期・年代	備考				
			区	遺構					グリッド	口径	底径			器高	状態		外面	内面		外面	工具痕	内面	工具痕	底部	回転	口縁部	底部				全体	内面	外面	
			199	247					96	2	Pit281			14R-8J21	1		須恵器	甕		-	-	-	普通	石・白	B	灰白色 (5Y7/1)	灰白色 (5Y7/1)				還元	タタキメ	Ka	当て具痕
199	247	97	2	Pit1886	15Q-3F18	1	土師器	小甕	-	(8.0)	-		普通	長・雲		にぶい橙色 (5YR7/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り					3/36	1/36			古代	平安	取上No.11
199	247	98	2	SD940	14R-9G1	1	土師器	長甕	(20.0)	-	-		普通	石・長		にぶい橙色 (7.5YR7/4)	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					1/36	1/36			古代	平安	取上No.13		
199	247	99	2	SD1521	14R-9C6	1	須恵器	甕	-	-	-		精	石	A	オリーブ灰色 (5GY5/1)	灰色 (5Y6/1)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	H					1/36	1/36			古代	平安	取上No.44	
199	247	100	2	SD1615	14R-10B10	5	須恵器	無台杯	(13.0)	-	-		普通	白	B	灰色 (7.5Y5/1)	灰色 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ					2/36	1/36			古代	平安	取上No.18		
199	247	101	2	SD1615	14R-10C6	5	須恵器	無台杯	(11.0)	-	-		普通	白	B	灰色 (10Y6/1)	灰色 (10Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ					2/36	1/36			古代	平安	取上No.25		
199	247	102	2	SD1615	14R-10B10	2	黒色土器	無台碗	-	-	-		普通	長・雲		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒褐色 (2.5Y3/1)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					5/36	1/36			古代	平安	取上No.5		
199	247	103	2	SD1615	14R-10C6	2	土師器	無台碗	(15.4)	-	-		普通	石・長・白		橙色 (7.5YR7/6)	橙色 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					1/36	1/36			古代	平安	取上No.25		
199	247	104	2	SD1615	14R-10B10	2	土師器	無台碗	(13.0)	-	-		精	白		橙色 (7.5YR7/6)	橙色 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					1/36	1/36			古代	平安	取上No.8		
199	247	105	2	SD1615	14R-10B10	2	土師器	鍋	(39.0)	-	-		普通	石・長・白		浅黄褐色 (7.5YR8/3)	浅黄褐色 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					2/36	1/36			古代	平安	取上No.6		
200	247	106	2	SD1615	14R-10C6	2	土師器	長甕	(20.4)	-	-		普通	石・長・雲・チ・白		黄褐色 (7.5YR7/8)	黄褐色 (7.5YR7/8)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					2/36	1/36			古代	平安	取上No.27		
200	247	107	2	SD1615	14R-10C6	4	土師器	小甕	-	(6.8)	-		普通	長・白		にぶい橙色 (5YR6/4)	淡褐色 (5YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り			12/36	1/36			古代	平安	取上No.22		
200	247	108	2	SD1615	14R-10B4	5	土師器	無台碗	-	(6.0)	-		普通	石・長・白		浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	酸化	不明		不明		不明			18/36	1/36			古代	平安	取上No.36		
200	247	109	2	SD1615	14R-10C13	2	土師器	小甕	-	-	-		普通	長・焼		浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデか		ロクロナデ		不明			4/36	1/36			古代	平安	取上No.45		
200	247	110	2	SD1615	14R-10B5	3	土師器	小甕	(15.4)	-	-		精	石・雲・白		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					3/36	6/36			古代	平安	取上No.2,3		
200	247	111	2	SD1615	14R-10C12	1	土師器	鍋	-	-	-		普通	白		橙色 (7.5YR7/6)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	酸化	タタキメ	Ha	カキメ	C					1/36	1/36			古代	平安	取上No.42	
200	247	112	2	SD1615	14R-10C6	2	土師器	長甕	22.4	-	-		粗	石・長・白		橙色 (5YR6/6)	橙色 (5YR7/8)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ・カキメ					1/36	1/36			古代	平安	取上No.13		
200	247	113	2	SD1615	14R-10C6	2	土師器	長甕	25.2	-	-		普通	石・チ・白		橙色 (7.5YR6/6)	橙色 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ・カキメ					1/36	1/36			古代	平安	取上No.9		
200	247	114	2		14R-7J10	IV	土師器	小甕	-	8.0	-		粗	長・白		浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り			6/36	1/36			古代	平安			
200	247	115	2		14R-9C19	IV	土師器	無台碗	(12.0)	-	-		普通	長・チ・白		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					2/36	1/36			古代	平安			
200	247	116	2		14R-9C23	IV	土師器	長甕	(18.6)	-	-		普通	石・長・チ・白		橙色 (7.5YR7/6)	橙色 (7.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ		カキメ					2/36	1/36			古代	平安			
200	247	117	2		14R-10C2 14R-10C7	IV	土師器	長甕	30.0	-	-		粗	石・長・チ・白		橙色 (7.5YR7/6)	橙色 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ・カキメ		ロクロナデ・カキメ・ナデ					7/36	2/36			古代	平安			
200	247	118	2		14R-10C11	IV	土師器	無台碗	-	6.0	-		普通	長・白		にぶい橙色 (7.5YR7/4)	橙色 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り			7/36	1/36			古代	平安			
200	247	119	2		14R-10C12	IV	土師器	無台碗	-	6.0	-		普通	長・チ・白		浅黄褐色 (7.5YR8/6)	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り			10/36	6/36			古代	平安			
200	247	120	2		15Q-2G13	IV	土師器	無台碗	(14.6)	-	-		普通	雲・白		灰黄褐色 (10YR6/2)	浅黄褐色 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					1/36	1/36			古代	平安			
200	247	121	2		15Q-2G13	IV	土師器	小甕	-	6.6	2.7		普通	石		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					3/36	1/36			古代	平安			

別表 5 中世陶磁器観察表

凡例 1 器種・分類 第V章に記した。
 2 法 量 胎弧内の数値は遺存率が低く誤差が大きい可能性のあるものである。
 3 胎 胎土に含まれる鉱物・小礫等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「雲」は金雲母あるいは黒雲母、「チ」はチャート、「焼」は焼土粒、「白」は白色凝灰岩、「角」は角閃石、「海」は海綿骨針を表す。

4 色 調 『新版標準土色帖』(小山・竹原1967)の記号を記した。
 5 焼 成 酸化・還元・焼成の区別を記した。
 6 手 法 特徴的な手法のみを記し、網羅的な記載は行っていない。回転方向は、回転台の回転方向を表す。
 7 遺 存 率 分数表示で遺存割合を示した。

図版No.	写真版No.	報告No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			胎土含有物	産地	色調		焼成	成形・調整			回転	遺存率			付着物		時代	時期・年代	備考		
			区	遺構名					グリッド	口径	底径			器高	状態		外面	内面	外面		内面	底部	口縁	底部	全体				内面	外面
194	244	11	1	SD205	13R-10D7	12	珠洲焼	壺	D	-	-	-	精	白・角	黄灰色 (2.5Y5/1)	灰白色 (10YR7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36			中世	吉岡I期	四耳壺		
194	244	12	1	ST1	14R-2A19	4	青磁	皿		(12.0)	-	-	精		灰オリーブ色 (5Y6/2)	灰オリーブ色 (5Y6/2)							1/36		1/36		中世	12C中～後半		
194	244	13	1	ST1	14R-2A19	1	青白磁	合子身		6.1	3.5	1.9	精		灰白色 (5GY8/1)	灰白色 (2.5GY8/1)		菊花文押し	型		露胎		9/36	36/36	23/36		中世	12C後半～13C初頭		
194	244	14	1	ST1	14R-2A19	1	青白磁	合子蓋		6.0	-	1.7	精		灰白色 (5GY8/1)	灰白色 (2.5GY8/1)		菊花文押し	型				36/36		36/36		中世	12C後半～13C初頭		
194	244	15	1	SD3	14R-2A25	4	珠洲焼	壺		-	(10.2)	-	精	石・チ・白・海	黄灰色 (2.5Y4/1)	黄灰色 (2.5Y4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切り			4/36		1/36		中世			
194	244	16	1	SD3	14R-2A14	1	珠洲焼	片口鉢	A	(24.0)	-	-	精	石・長・白・海	黄灰色 (2.5Y6/1)	黄灰色 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36		1/36		中世	吉岡I期		
194	244	17	1	SD448	14Q-1H3	4	青磁	盤		(21.4)	-	-	精		オリーブ灰色 (10Y6/2)	オリーブ灰色 (10Y6/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36		1/36		中世	15C		
194	244	18	1	SD600	14Q-4E10	3	珠洲焼	甕	A	-	-	-	精	白	灰色 (7.5Y4/1)	灰色 (7.5Y4/1)	還元	タタキメ						1/36		中世				
194	244	19	1	NR500	13R-10A4	2	珠洲焼	壺	C	-	-	-	精	石・長・白	灰色 (10Y4/1)	灰色 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						1/36		中世			
194	244	20	1	-	14R-1C11	IV	珠洲焼	片口鉢	か	-	-	-	精	白	灰白色 (N7/)	灰白色 (N6/)	還元								1/36		中世		内外面摩滅	
194	244	21	1	攪乱	13Q-10I16		珠洲焼	甕	A	-	-	-	精	白・海	黄灰色 (2.5Y6/1)	黄灰色 (2.5Y5/1)	還元	タタキメ	ロクロナデ 押圧痕						1/36		中世	吉岡IV期		
200	247	122	2	SE403	14R-5G10	1	珠洲焼	壺	B	-	-	-	精	長・白	灰色 (5Y6/1)	灰色 (5Y5/1)	還元	タタキメ							1/36		中世			
200	247	123	2	SE403	14R-5G10	3	珠洲焼	片口鉢		-	-	-	精	長・白	灰黄色 (2.5Y7/2)	灰白色 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						1/36		中世			
200	247	124	2	SE405	14R-5G14	1	珠洲焼	片口鉢		-	-	-	精	白	灰黄色 (2.5Y7/2)	灰黄色 (2.5Y7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						1/36		中世	吉岡III～IV期	155と同一個体か	
200	247	125	2	SE783	14R-6F10	1	青磁	碗		-	-	-	精		灰色 (10Y6/1)	灰色 (10Y6/1)		ロクロナデ	ロクロナデ						1/36		中世			
200	247	126	2	SE783	14R-6F10	2	青磁	皿		-	-	-	精		灰オリーブ色 (5Y5/2)	灰オリーブ色 (5Y5/2)		ロクロナデ	ロクロナデ						1/36		中世			
200	247	127	2	SE783	14R-6F10	9	珠洲焼	壺		-	(10.0)	-	普通	白	灰色 (N4/)	灰色 (N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切り			3/36		1/36		中世			
200	247	128	2	SE1409	14R-6F16	5	珠洲系陶器	片口鉢	D	23.2	10.6	8.1	普通	石・長・チ・白	灰色 (N4/)	灰色 (N4/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切り			4/36	13/36	9/36		中世	13C前半		
200	247	129	2	SE519	14R-6G19	13	珠洲焼	片口鉢	B	(35.6)	-	-	精	長・白	灰色 (N4/)	灰色 (N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36		1/36		中世	吉岡I3期		
200	247	130	2	SE136	14R-6I25	5	珠洲焼	甕	B	-	-	-	普通	雲・チ・白	灰色 (N5/)	灰色 (N5/)	還元	タタキメ	押圧痕						1/36		中世	吉岡II期?		
200	247	131	2	SE446	14R-7I13	1	珠洲焼	壺	A	-	-	-	精	石・長・白	灰色 (5Y6/1)	灰色 (5Y6/1)	還元	タタキメ	押圧痕						1/36		中世	吉岡IV期		
201	247	132	2	SE519	14R-6G14	1	珠洲焼	片口鉢	C	(33.2)	-	-	精	白	灰白色 (2.5Y7/1)	灰白色 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36		1/36		中世	吉岡II～III期		
201	247	133	2	SE137	14R-7I14	5	珠洲焼	甕	A	-	-	-	精	石・長・白	灰色 (N5/)	灰色 (N6/)	還元	タタキメ	押圧痕						1/36		中世			
201	247	134	2	SE137	14R-7I5	1	珠洲焼	甕		-	14.4	-	精	石・長・雲・白・角	灰色 (7.5Y6/1)	灰色 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ		糸切り				12/36		1/36		中世		
201	248	135	2	SE351	14R-8I5	1	青磁	皿		(13.3)	-	-	精		オリーブ灰色 (10Y6/2)	オリーブ灰色 (10Y6/2)							2/36		1/36		中世	13C後半		
201	248	136	2	SE847	14R-8I10	1	珠洲焼	甕	A	-	-	-	精	白	灰色 (5Y5/1)	灰色 (5Y5/1)	還元	タタキメ	ロクロナデ						1/36		中世			
201	248	137	2	SE4	14S-8A7	1	珠洲焼	片口鉢		-	-	-	精	石・白	灰色 (N5/)	灰色 (N5/)	還元								1/36		中世			
201	248	138	2	SE734	14R-9I14	3	珠洲焼	片口鉢		-	(12.6)	-	精	白	灰色 (N5/)	灰色 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			6/36		1/36		中世	吉岡I～II期		
201	248	139	2	SE647	14R-9I6	3	青磁	碗		(14.6)	-	-	精	白	オリーブ灰色 (10Y6/2)	オリーブ灰色 (10Y6/2)		ロクロナデ 蓮弁文	ロクロナデ				2/36		1/36		中世	13C後半		
201	248	140	2	SE647	14R-9H20	1	珠洲焼	壺	A	-	-	-	精	長・白	灰色 (7.5Y6/1)	灰色 (7.5Y6/1)	還元	タタキメ	押圧痕						1/36		中世			
201	248	141	2	SE647	14R-9I16	1	珠洲焼	壺	B	-	-	-	精	石・長・白	灰色 (2.5GY5/)	オリーブ灰色 (2.5GY5/1)	還元	タタキメ	押圧痕						1/36		中世			
201	248	142	2	SK1672	14R-7C19	4	珠洲焼	片口鉢	A	(23.6)	-	-	精	石・長・白	オリーブ灰色 (2.5GY5/1)	灰色 (N4/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36		1/36		中世	吉岡II期 13C前半		
201	248	143	2	SK1671	14R-7C20	1	珠洲焼	片口鉢	A	(23.8)	-	-	粗	白	灰色 (N4/)	灰色 (N4/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36		1/36		中世	吉岡III期		
201	248	144	2	SK550	14R-7H16	4	珠洲焼	壺	A	-	-	-	精	長・白	灰色 (7.5Y5/1)	灰色 (7.5Y4/1)	還元	タタキメ							1/36		中世			
201	248	145	2	SK556	14R-8H2	2	珠洲系陶器	片口鉢		-	-	-	精	長・白	灰色 (N5/)	灰色 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ							1/36		中世		
201	248	146	2	SX1131	14R-9B16	3	珠洲焼	壺	C	-	-	-	精	白	灰色 (7.5Y6/1)	灰色 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						1/36		中世			
201	248	147	2	SX1131	14R-9B21	1	珠洲焼	甕		-	-	-	精	石・長・白	灰色 (N5/)	黒色 (N3/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						1/36		中世			
201	248	148	2	SX1131	14R-9B16	1	珠洲焼	甕	A	-	-	-	精	石・長・白	灰色 (N4/)	灰色 (N5/)	還元	タタキメ	押圧痕						1/36		中世			
201	248	149	2	SX1131	14R-9A25	1	珠洲焼	甕	A	-	-	-	精	石・長・白	灰色 (5Y6/1)	灰色 (5Y6/1)	還元	タタキメ	ハケ目						1/36		中世			
201	248	150	2	SX1131	14R-9B21	1	珠洲焼	甕	A	-	-	-	精	長・白	灰色 (N5/)	暗灰色 (N3/)	還元	タタキメ	押圧痕						1/36		中世		152と同一個体	
201	248	151	2	SX1131	14R-9A25	1	珠洲焼	片口鉢		-	-	-	精	石・長・白	灰色 (5Y5/1)	灰色 (5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						1/36		中世			
201	248	152	2	SD144	14R-6F14	1	珠洲焼	甕	A	-	-	-	普通	長・チ	黄灰色 (2.5Y6/1)	灰色 (5Y4/1)	還元	タタキメ 擦痕	ロクロナデ 押圧痕						1/36		中世		砥石に転用 150と同一個体	

図版No.	写真版No.	報告No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			胎質	胎土	産地	色調		焼成	成形・調整			遺存率			付着物		時代	時期・年代	備考				
			区	遺構名					グリッド	口径	底径				器高	状態		含有物	外面	内面	外面	内面	底部	回転	口縁				底部	全体	内面	外面
201	248	153	2	SD81	14R-8J14	1	珠洲焼	壺	A	—	—	—	普通	白	灰色 (N4/)	灰色 (N5/)	還元	タタキメ	押圧痕				1/36			中世						
201	248	154	2	SD537	14R-8G14	3	珠洲焼	甕	A	—	—	—	普通	長・白	灰色 (5Y6/1)	灰色 (N5/)	還元	タタキメ	押圧痕				1/36			中世						
201	248	155	2	SD1635	14R-6F19	3	珠洲焼	片口鉢		—	10.4	7.4	普通	白・海	灰白色 (10YR7/1)	灰白色 (10YR7/1)	還元	ロクロナデ	指頭圧痕	ロクロナデ	静止糸切り		9/36	6/36		中世	吉岡Ⅲ～Ⅳ期	124と同一個体か				
202	248	156	2	Pit565	14R-7H21	2	珠洲焼	甕		(51.0)	—	—	普通	石・長・角	灰色 (5Y5/1)	灰色 (5Y5/1)	還元	ロクロナデ	指頭圧痕	ロクロナデ		2/36	1/36		中世	吉岡Ⅱ期						
202	248	157	2	Pit1112	14R-8G25	1	珠洲焼	甕	A	—	—	—	普通	石・白	オリーブ灰色 (2.5GY6/1)	灰色 (10Y5/1)	還元	タタキメ	押圧痕				1/36			中世						
202	248	158	2	Pit1646	14R-8C5	1	珠洲焼	片口鉢	A	(25.0)	—	—	粗	石・赤・白	暗灰色 (N3/)	暗灰色 (N3/)	還元	ロクロナデ	指頭圧痕	ロクロナデ		3/36	1/36		中世	吉岡Ⅰ2期						
202	248	159	2	Pit253	14R-9J4	3	珠洲焼	片口鉢	A	—	—	—	精	雲・白・海	オリーブ灰色 (2.5GY5/1)	オリーブ灰色 (2.5GY5/1)	還元	ロクロナデ	指頭圧痕	ロクロナデ			1/36			中世						
202	248	160	2	SD940	14R-9G6	1	珠洲焼	壺か	E	—	—	—	精	石・長・白	灰色 (N4/)	灰色 (N5/)	還元	ロクロナデ					1/36			中世						
202	248	161	2	SD1241	14R-8F12	1	陶器	片口鉢		—	—	—	精	石・長・雲・白	黒褐色 (10YR3/2)	灰色 (N4/)	還元	ロクロナデ					1/36			中世						
202	248	162	2	SD1554	14R-8C18	1	陶器	天目碗		(14.2)	—	—	精	長・白	黒色 (10YR2/1)	黒色 (10YR2/1)		ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	1/36		中世	中期様式Ⅳ14C	鉄釉					
202	248	163	2	SD1521	14R-9C24	1	陶器	花瓶		—	—	—	普通	白	浅灰色 (7.5Y7/3)	灰白色 (5Y8/1)		ロクロナデ	ロクロナデ				1/36			中世	古瀬戸後期15C	灰釉				
202	248	164	2	SD1521	14R-9C24	1	珠洲焼	甕	A	—	—	—	精	石・白	灰色 (7.5Y6/1)	灰色 (7.5Y6/1)	還元	タタキメ	ナデ				1/36			中世		167と接合				
202	248	165	2	SD1521	14R-9C18	2	珠洲焼	甕	A	—	—	—	精	石・長・白	灰色 (7.5Y6/1)	灰色 (7.5Y6/1)	還元	タタキメ	ナデ				1/36			中世		164と同一個体				
202	248	166	2	SD1521	14R-9C18	2	珠洲焼	甕	A	—	—	—	精	石・長・白	黄灰色 (2.5Y6/1)	黄灰色 (2.5Y5/1)	還元	タタキメ	ナデ				1/36			中世		164と同一個体				
202	248	167	2	SD1521	14R-9C11	1	珠洲焼	甕	A	—	—	—	普通	白	灰白色 (5Y7/1)	灰白色 (5Y7/1)	還元	タタキメ					1/36			中世		164と接合				
202	248	168	2	SD1521	14R-9C17	1	珠洲焼	片口鉢		—	—	—	精	白	灰色 (N5/)	灰色 (N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36			中世						
202	248	169	2	SD1615	14R-9A14	1	珠洲焼	壺	C	—	—	—	精	石・長・白	灰オリーブ色 (5Y6/2)	灰色 (N5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36			中世						
202	248	170	2	SD1615	14R-10C6	2	珠洲焼	甕	A	—	—	—	精	石・白	灰色 (5Y5/1)	灰色 (5Y5/1)	還元	タタキメ	押圧痕				1/36			中世	14C					
202	248	171	2	SD1615	14R-10C6	1	珠洲焼	甕	A	—	—	—	精	長・白	灰色 (N5/)	灰色 (N5/)	還元	タタキメ	押圧痕				1/36			中世						
202	248	172	2	SD1615	14R-10B4	1	珠洲焼	片口鉢	A	(22.8)	—	—	普通	石・長・赤・白	灰色 (N4/)	灰色 (N4/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	1/36		中世	吉岡Ⅲ期						
202	248	173	2	—	14Q-10I12	Ⅳ	珠洲焼	甕		—	—	—	普通	白	灰色 (N4/)	灰色 (N4/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36			中世						
202	248	174	2	—	14R-6J16	Ⅳ	陶器	皿		—	—	—	精	白	灰オリーブ色 (5Y5/2)	灰白色 (5Y8/2)		ロクロナデ	ロクロナデ				1/36			中世	大瀬成立前15C	灰釉				
202	248	175	2	—	14R-7G19	Ⅳ	珠洲焼	片口鉢		(10.4)	—	—	精	石・白	黄灰色 (2.5Y6/1)	黄灰色 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	1/36		中世							
202	248	176	2	—	14R-7H5	Ⅳ	珠洲焼	壺	A	—	—	—	精	白	灰色 (N5/)	オリーブ灰色 (2.5GY5/1)	還元	タタキメ					1/36			中世	吉岡Ⅰ期?					
202	248	177	2	—	14R-7I24	Ⅳ	珠洲焼	片口鉢	B	(26.0)	—	—	普通	白	灰白色 (2.5Y7/1)	灰白色 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	1/36		中世	14C						
202	248	178	2	—	14R-8I11	Ⅳ	珠洲焼	甕	A	—	—	—	普通	石・長・赤・白	灰色 (N5/)	黄灰色 (2.5Y5/1)	還元	タタキメ	押圧痕				1/36			中世						
202	248	179	2	—	14R-9I13	Ⅳ	珠洲焼	甕	B	—	—	—	普通	白	灰色 (5Y5/1)	灰色 (5Y5/1)	還元	タタキメ	押圧痕				1/36			中世	吉岡Ⅱ期					
202	248	180	2	—	14R-9J5	Ⅳ	珠洲焼	片口鉢	A	—	—	—	普通	長・白	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	灰黄色 (2.5Y6/2)	還元	ロクロナデ	羅目文			2/36	1/36		中世	13C後半						
202	248	181	2	—	15Q-2G10	Ⅳ	珠洲焼	壺	C	—	—	—	精	赤・白	灰色 (5Y6/1)	灰色 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36			中世						

別表6 近世・近代の土器・陶磁器観察表

- 凡例 1 出土位置 遺構名・グリッド名を記した。
 2 器種 第Ⅴ章に記した。
 3 法量 口径・底径・器高を指す。括弧付の数値は遺存率の低いものである。
 4 胎土 胎土内に含まれる鉱物・小礫等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「雲」は金雲母あるいは黒雲母、「赤」は赤鉄鉱、「白」は白色凝灰岩、「角」は角閃石、「海」は海綿骨針を表す。
 5 色調 『新版標準土色帖』(小山・竹原1967)の記号を記した。

- 6 手法 特徴的な手法のみを記し、網羅的な記載は行っていない。底部の「糸切り」・「ヘラ切り」はいずれも回転台を用いたものである。回転方向は、回転台の回転方向を表す。
 7 遺存率 分数表示で遺存割合を示した。
 8 時期
 9 付着物

図版No.	写真版No.	報告No.	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm)			胎質	胎土	産地	色調		装飾			成形・調整			遺存率			付着物	時代	時期・年代	備考	
			区	遺構				グリッド	口径	底径				器高	外面	内面	絵付・釉薬	文様	装飾特徴	外面	内面	底部	口縁	底部					全体
195	244	22	1	SK687	14Q-3E7 14Q-3E7	1 Ⅳ	陶器	鉢	(19.0)	(7.8)	7.3	普通	長・白	唐津	赤色 (10YR5/6)	赤色 (10YR5/6)	鉄釉 白化粧土 透明釉	刷毛目文		ロクロケズリ	ロクロナデ	土見せ	5/36	6/36	6/36		近世		
195	244	23	1	SK687	14Q-3E7	1	陶器	甕	(21.0)	—	—	精			黒褐色 (7.5YR3/2)	極暗褐色 (7.5YR2/3)	鉄釉			ロクロナデ	ロクロナデ		5/36		1/36		近世		
195	244	24	1	SK684 SK687	14Q-3E13 14Q-3E13	1 1	陶器	鉢	—	(14.6)	—	精			灰赤色 (2.5YR4/2)	褐色 (7.5YR4/1)	鉄釉	縦線文		ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	1/36		近世			
195	244	25	1	SK687	14Q-3E12 14Q-3E11	1 Ⅳ	陶器	甕	(16.0)	—	—	普通	長・白		暗褐色 (10YR3/4)	暗褐色 (10YR3/4)	鉄釉 土灰釉	沈線		ロクロナデ	ロクロナデ		6/36		4/36		近世	18C前半?	
195	244	26	1	SK687	14Q-3E7	1	陶器	壺	—	—	—	精		唐津	灰白色 (5Y7/1)	褐色 (10YR4/1)	土灰釉 鉄釉			ロクロナデ ロクロケズリ	ロクロナデ			1/36			近世		二～三彩
195	244	27	1	SK687	14Q-3E7	1	陶器	壺	(16.8)	12.4	(23.0)	普通		唐津	極暗褐色 (7.5YR2/3)	極暗褐色 (7.5YR2/3)	鉄釉			ケズリ	タタキ目		14/36	36/36	24/36		近世	17C末～18C前半	
195	245	28	1	SK684	14Q-3E13	1	土師質土器	蓋	(20.8)	—	—	精			浅黄褐色 (7.5YR8/3)	褐色 (10YR8/3)				ロクロナデ	ロクロナデ		1/36		1/36		近世		
195	245	29	1	SK684	14Q-3E13	1	土師質土器	蓋	(20.0)	—	—	普通	長・赤		褐色 (7.5YR7/6)	褐色 (7.5YR7/6)				ロクロナデ ロクロケズリ	ロクロナデ		4/36		1/36		近世		

図版No.	写真版No.	報告No.	出土位置			層位	種別	器種	法量 (cm)			胎質	胎土	産地	色調		装飾		成形・調整			遺存率			付着物	時代	時期年代	備考		
			区	遺構	グリッド				口径	底径	器高				外面	内面	絵付, 釉薬	文様	装飾特徴	外面	内面	底部	口縁	底部					全体	
195	245	30	1	SK684	14Q-3E13	3	土師質土器	蓋	(20.0)	-	-	普通	石・長・白		橙色 (7.5YR7/6)	橙色 (7.5YR7/6)					ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世		
195	245	31	1	SK685	14Q-3E14	2	陶器	掃鉢	-	-	-	普通	石・雲・チ	越中瀬戸	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	鉄軸				ロクロケズリ	ロクロナデ 鉦目				1/36		近世	16C末~17C前	
195	245	32	1	SK694	14Q-3E14	1	磁器	碗	(8.6)	-	-	普通			明青灰色 (5B7/1)	明青灰色 (5B7/1)	透明軸	圏線			ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		3/36		近世		焼継痕
196	245	33	1	SK680	14Q-3E14	1	陶器	皿	(20.8)	-	-	精		唐津	灰白色 (2.5Y7/1)	灰白色 (2.5Y7/1)	薬灰軸				ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世	17C中?	
196	245	34	1	SK680	14Q-3E15 14Q-3E14	1 IV	陶器	鉢	-	-	-	精	長・白	唐津	灰黄褐色 (10YR4/2)	灰白色 (2.5Y8/1)	鉄軸 灰軸	刷毛目文			ロクロナデ	ロクロナデ				1/36		近世	17C後~18C	ひっかい鉢?
196	245	35	1	SK680	14Q-3E15	2	陶器	壺	-	-	-	精			にぶい黄褐色 (10YR7/2)	褐色 (10YR4/4)	薬灰軸カ	横線文			ロクロナデ	ロクロナデ				1/36		近世		
196	245	36	1	SK680 SK708	14Q-3E15 14Q-3E14 14Q-3E14	1 1 IV	陶器	甕	(19.4)	-	-	普通			灰褐色 (7.5YR4/2)	灰褐色 (7.5YR4/2)	鉄軸				ロクロナデ	ロクロナデ		21/36		10/36		近世	17C~18C	
196	245	37	1	SK680	14Q-3E15	2	土師質土器	蓋	(18.0)	-	-	普通			にぶい褐色 (7.5YR7/4)	褐色 (7.5YR7/6)					ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世		
196	245	38	1	SK683	15Q-3E20	1	磁器	碗	(7.0)	-	-	普通			灰白色 (5GY8/1)	褐色 (5GY8/1)	透明軸	草花文			ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		1/36		近世		
196	245	39	1	SK682	14Q-3F11	1・2	陶器	甕	55.4	16.6	(54.3)	普通	チ・白	越前	褐色 (7.5YR4/3)	褐色 (7.5YR4/3)	鉄軸				ナデ (はがたな)	振じ立て	ヘラナデ	14/36	36/36	20/36		近世	17C前半	蔵骨器
197	245	40	1	SK705	14Q-3F16	1	陶器	鉢	-	-	-	精			灰白色 (2.5Y8/1)	褐色 (7.5Y4/3)	薬灰軸				ロクロナデ	ロクロナデ				1/36		近世		
197	245	41	1	SK705	14Q-3F16	2	磁器	徳利	-	-	-	精			灰白色 (5Y8/1)	にぶい褐色 (7.5YR7/8)	透明軸	草花文			ロクロナデ	ロクロナデ				1/36		近世	18C	
197	245	42	1	SK707 SK682 SK810 SD672	14Q-3F17・18 14Q-3F11 14Q-3F18 14Q-3E15	1・3 1 1 1	陶器	鉢	41.4	14.3	15.2	精		武雄	にぶい褐色 (5YR6/4)	にぶい褐色 (5YR6/4)	鉄軸	刷毛目文			ロクロケズリ	ロクロナデ	ロクロケズリ	23/36	26/36	20/36		近世	17C末~18C初	唐津二彩
197	246	43	1	SK707 SK706	14Q-3F17・18 14Q-3F17	1・3 1	陶器	甕	-	15.2	-	普通		唐津	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	鉄軸				ロクロナデ ロクロケズリ	当て具痕 指 頭庄痕 ロク ロナデ	ケズリ	30/36		20/36		近世	17C前半	寛永以前 蔵骨器
197	246	44	1	SD204	13R-10D18	2	磁器	碗	(11.2)	-	-	精			明オリブ灰色 (5GY7/1)	灰白色 (7.5Y7/1)	染付 透明軸				ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世	17C~18C	
197	246	45	1	SD329	14R-1C16	2	磁器	碗	(10.0)	-	-	普通			灰白色 (5GY8/1)	灰白色 (5GY8/1)	透明軸	草花文			ロクロナデ	ロクロナデ		1/36		1/36		近世	18C	
197	246	46	1	SD329	14R-1C21	2	磁器	皿	(15.0)	(8.0)	3.5	普通		波佐見カ	灰白色 (2.5GY8/1)	灰白色 (2.5GY8/1)	呉須 透明軸	山水文	見込蛇ノ目軸 剥		ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	1/36	2/36		近世	18C代	くらわんか
197	246	47	1	SD329	14R-1C16	2	陶器	皿	-	6.0	-	普通		瀬戸美濃	灰白色 (5Y8/2)	灰白色 (5Y8/2)	透明軸	見込み花文カ			ロクロナデ	ロクロナデ			16/36	2/36		近世	19C	
197	246	48	1	SD480	14R-2B7	1	磁器	碗	(12.2)	-	-	普通			灰白色 (10Y7/1)	灰白色 (10Y7/1)	透明軸	草花文			ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世	18C	
197	246	49	1	SD732	14Q-1E18	1	磁器	碗	-	(3.8)	-	普通		波佐見カ	明緑灰色 (7.5GY8/1)	明緑灰色 (7.5GY8/1)	染付 透明軸				ロクロナデ	ロクロナデ		6/36	2/36		近世	18C代	くらわんか	
197	246	50	1	SD733	14Q-1E23	3	磁器	碗	(9.2)	-	-	普通			灰白色 (N8/)	灰白色 (N8/)	透明軸	草花文			ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		1/36		近世	18C前半	
197	246	51	1	SD733	14Q-1E18	3	磁器	皿	-	-	-	普通		波佐見カ	明オリブ灰色 (2.5GY7/1)	明オリブ灰色 (2.5GY7/1)	透明軸	圏線			ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	1/36		近世	18C代	くらわんかと同 時期	
197	246	52	1	SD733	14Q-2E17	1	磁器	碗	-	-	-	精			灰白色 (N8/0)	灰白色 (N8/0)	透明軸	圏線			ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	2/36		近世	17C?		
197	246	53	1	SD733	14Q-1E18	3	陶器	掃鉢	-	-	-	精	砂礫		暗褐色 (7.5Y3/4)	暗褐色 (7.5Y3/4)	鉄軸				ロクロナデ	ロクロナデ 鉦目				2/36		近世		
197	246	54	1	SD733	14Q-2E17	1	磁器	碗	-	-	-	精		肥前カ	灰白色 (5Y8/1)	灰白色 (5Y8/1)	透明軸		コンニャク印 判		ロクロナデ	ロクロナデ				2/36		近世	18C後半~末 (1780年代~)	筒形碗
197	246	55	1	SD733	14Q-2E22	1	陶器	乗燭	-	4.3	-	普通	長		灰黄褐色 (10YR6/2)		自然軸				ロクロナデ		回転糸切り	28/36	12/36		近世			
198	246	56	1	SD576	14Q-5F12	1	陶器	掃鉢	(29.7)	-	-	精			にぶい黄褐色 (10YR6/3)	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	鉄軸				ロクロナデ	ロクロナデ 鉦目		1/36		1/36		近世	17C後半	
198	246	57	1	SD576	14Q-5F14	1	土師質土器	焙烙	-	-	-	普通	石・長・雲・チ・焼		黒褐色 (7.5YR3/1)	明褐色 (7.5YR5/6)					ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	2/36	1/36	外面スス	近世		
198	246	58	1		13Q-9J19	IV	磁器	碗	-	-	-	普通		肥前	明緑灰色 (7.5GY8/1)	明緑灰色 (7.5GY8/1)	透明軸	草花文 二条圏線			ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		1/36		近世		二次加工品
198	246	59	1		13R-8E12	IV	土師質土器	壺	-	-	-	普通			明赤褐色 (2.5YR5/6)	褐色 (5YR6/6)					ロクロナデ ミガキ 赤彩	ロクロナデ				1/36		近世		
198	246	60	1		13R-9A10	IV	磁器	皿	-	-	-	普通		肥前	灰白色 (2.5GY8/1)	灰白色 (2.5GY8/1)		草花文 見込み菊文			ロクロナデ	ロクロナデ				2/36		近世	17C後~18C前	

図版No.	写真版No.	報告No.	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm)			胎質	胎土	産地	色調		装飾		成形・調整			遺存率			付着物	時代	時期年代	備考		
			区	遺構				グリッド	口径	底径				器高	外面	内面	絵付,軸染	文様	装飾特徴	外面	内面	底部	口縁					底部	全体
198	246	61	1		14Q-2D6	IV	磁器	皿	(18.0)	-	-	普通	波佐見カ	灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (7.5Y8/1)	透明軸	二条園線+唐草文カ		ロクロナデ	ロクロナデ		1/36		1/36		近世	18C代	くらわんか	
198	246	62	1		14Q-3E11	IV	磁器	碗	(9.0)	-	-	普通		明緑灰色 (7.5GY8/1)	明緑灰色 (7.5GY8/1)	透明軸	草花文	コンニャク印判	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世	18C		
198	246	63	1		14Q-3E14	IV	磁器	碗	(10.4)	-	-	普通		灰白色 (5Y7/1)	灰白色 (5Y7/1)	透明軸	草花文カ		ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		1/36		近世	18C		
198	246	64	1		14Q-3E20	IV	磁器	急須	(7.2)	-	-	普通		灰白色 (N8/)	灰白色 (N8/)	透明軸	唐草文カ		ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世			
198	246	65	1		14Q-3E20	IV	陶器	甕	-	(15.1)	-	精		灰褐色 (7.5YR4/2)	にぶい赤褐色 (5YR4/3)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ→ミガキ?		2/36		1/36		近世		
198	246	66	1		14Q-3F13	IV	陶器	鉢	(19.0)	-	-	精	肥前(唐津)	褐灰色 (7.5YR6/1)	灰黄褐色 (10YR6/2)	薬灰軸			ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世			
198	246	67	1		14R-1C21・16	IV	磁器	猪口	5.8	-	-	精	肥前カ	灰白色 (N8/0)	灰白色 (7.5Y8/1)	染付透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		16/36		12/36		近世	18C?		
198	246	68	1		14R-2C7	IV	磁器	皿	-	(7.0)	-	普通	波佐見カ	明緑灰色 (7.5GY8/1)	灰白色 (N7/0)	透明軸	二条園線	見込蛇ノ目軸刺	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36		6/36		近世	18C代	くらわんか
198	246	69	1		14Q-1H9	IV	陶器	甕	-	-	-	普通	石	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	褐色 (7.5YR4/3)	無軸			ロクロナデ→ミガキ	ロクロナデ→ハケ→タタキ				1/36		近世			
198	246	70	1		14Q-3I3	II	陶器	鉢	(19.2)	-	-	普通		黒色 (7.5YR1.7/1)	黒色 (7.5YR2/1)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ				1/36		近世			
198	246	71	1		14Q-3I3	II	陶器	猪口	(7.4)	-	-	普通		オリーブ灰色 (10Y5/2)	オリーブ灰色 (10Y6/2)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		1/36		近世			
198	246	72	1		14Q-2J5	III	陶器	鉢	(29.0)	-	-	普通	肥前	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	灰オリーブ色 (5Y5/3)	薬灰軸	刷毛目文カ		ロクロナデ	ロクロナデ		1/36		1/36		近世	17C後~18C前		
198	246	73	1		13Q-10I16	カクラン	磁器	碗	(12.0)	-	-	普通	瀬戸美濃カ	灰白色 (7.5Y8/1)	灰白色 (7.5Y8/1)	染付透明軸		摺絵	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		1/36		近世	19C		
198	246	74	1		13Q-10H16	カクラン	陶器	猪口	-	(3.2)	-	普通	長	灰白色 (5Y8/2)	浅黄色 (2.5Y7/4)	施軸			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		25/36		12/36		近世		
198	246	75	1		13Q-10I16	カクラン	磁器	猪口	(5.3)	1.7	2.8	普通		灰白色 (N8/)	灰白色 (N8/)	透明軸		見込み瓢箪「阿賀錦」銘	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	3/36	36/36	20/36		近代			
198	246	76	1		13Q-10I22	カクラン	磁器	碗	(8.2)	-	-	普通	瀬戸美濃	灰白色 (N8/)	灰白色 (N8/)	透明軸		樹木文(蔓性植物カ)	ロクロナデ	ロクロナデ		6/36		1/36		近世	19C		
198	246	77	1		14Q-1I15	カクラン	磁器	小碗	(8.0)	-	-	精		灰白色 (2.5GY8/1)	灰白色 (2.5GY8/1)	透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		6/36		3/36		近世			
202	249	182	2	SE403	14R-5G10	2	陶器	瓶	(14.0)	-	-	普通		灰白色 (5Y7/1)	灰白色 (5Y7/1)	薬灰軸			ロクロナデ	ロクロナデ		4/36		1/36		近世			
202	249	183	2	SE444	14R-7J22	4	磁器	碗	(10.2)	-	-	普通		灰白色 (N8/)	灰白色 (N8/)	染付透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世			
202	249	184	2	SE444	14R-8J3	2	陶器	挿鉢	(32.3)	-	-	精	肥前(唐津)	黒褐色 (7.5YR3/2)	黒褐色 (7.5YR3/2)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世	17C第2四半期		
202	249	185	2	SE351	14R-8J1	1	磁器	碗	(13.2)	-	-	普通		灰白色 (N8/0)	灰白色 (7.5Y7/1)	透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世			
202	249	186	2	SE351	14R-8I10	2	磁器	碗	(10.2)	-	-	普通		灰白色 (5Y8/1)	灰白色 (5Y8/1)	透明軸	草花文		ロクロナデ	ロクロナデ		1/36		1/36		近世			
202	249	187	2	SE351	14R-8J1	2	磁器	碗	(10.1)	-	-	普通		灰白色 (2.5GY8/1)	灰白色 (2.5GY8/1)	透明軸	草花文		ロクロナデ	ロクロナデ		6/36		3/36		近世	17C末~18C前半		
202	249	188	2	SE351	14R-8I5	2	磁器	碗	(10.0)	-	-	普通		灰白色 (N7/0)	灰白色 (7.5Y8/1)	透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世			
202	249	189	2	SE351	14R-8I10	1	磁器	碗	(10.0)	-	-	普通		灰白色 (2.5GY8/1)	灰白色 (2.5GY8/1)	透明軸	草花文		ロクロナデ	ロクロナデ		4/36		2/36		近世	18C第1四半期	くらわんか以前	
202	249	190	2	SE351	14R-8J1	1	磁器	碗	(12.0)	-	-	普通		灰白色 (5GY8/1)	灰白色 (5GY8/1)	染付透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		1/36		近世			
202	249	191	2	SE351	14R-8I5	1	陶器	碗	(10.3)	-	-	普通	唐津カ	暗褐色 (7.5YR3/3)	黒褐色 (10YR2/3)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		1/36		近世			
202	249	192	2	SE351	14R-8I10	1	磁器	碗	-	(4.0)	-	普通	石・長	肥前	灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (5Y8/1)	須須透明軸		コンニャク印判	ロクロナデ	ロクロナデ		6/36		2/36		近世	17C末~18C前	
202	249	193	2	SE351	14R-8J1	1	磁器	碗	-	-	-	普通		灰白色 (5GY8/1)	灰白色 (5GY8/1)	透明軸	園線		ロクロナデ	ロクロナデ				1/36		近世			
203	249	194	2	SE351	14R-8I10	2・3	陶器	皿	(17.6)	-	-	普通		灰オリーブ色 (5Y6/2)	灰色 (5Y6/1)	薬灰軸		溝縁口縁	ロクロナデ	ロクロナデ		6/36		4/36		近世	1610~1630年代		
203	249	195	2	SE351	14R-8J1	1	磁器	皿	(12.0)	-	-	普通		灰白色 (5Y7/1)	灰白色 (5Y7/1)	透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		1/36		1/36		近世			
203	249	196	2	SE351	14R-8I5	2	磁器	皿	-	-	-	精		灰白色 (10Y7/1)	灰白色 (10Y7/1)	透明軸	見込鉄軸カ		蛇ノ目に鉄軸?	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36		近世		
203	249	197	2	SE351	14R-8I10	1	陶器	皿	(30.2)	-	-	普通		褐色 (7.5YR4/3)	褐色 (7.5YR4/3)	鉄軸	刷毛目文		ロクロナデ	ロクロナデ		1/36		1/36		近世	17C後半~18C前半		

図版No.	写真No.	報告No.	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm)			胎質	胎土	産地	色調		装飾		成形・調整			遺存率			付着物	時代	時期年代	備考				
			区	遺構				グリッド	口径	底径				器高	外面	内面	絵付, 釉薬	文様	装飾特徴	外面	内面	底部	口縁					底部	全体		
203	249	198	2	SE351	14R-8I5	1	陶器	皿	(13.7)	-	-	普通		灰白色 (5Y7/2)	オリーブ灰色 (5Y6/2)	薬灰軸					口縁	内面	底部	2/36		1/36		近世	17C		
203	249	199	2	SE351	14R-8J1	1	陶器	皿	(13.0)	-	-	普通		灰黄色 (2.5Y7/2)	緑灰色 (10GY6/1)	薬灰軸 銅緑軸					口縁	内面	底部	2/36		1/36		近世	17C第4~18C第1四半期		
203	249	200	2	SE351	14R-8I5	2	陶器	皿	(11.5)	-	-	普通		暗オリーブ灰色 (2.5GY7/1)	暗オリーブ灰色 (2.5GY7/1)	銅緑軸		蛇ノ目軸剥			口縁	内面	底部	2/36		1/36		近世	17C後半~18C前半		
203	249	201	2	SE351	14R-8I5	2	陶器	皿	(12.0)	-	-	普通		灰オリーブ色 (5Y6/2)	灰オリーブ色 (5Y6/2)	薬灰軸					口縁	内面	底部	1/36		1/36		近世			
203	249	202	2	SE351	14R-8I5 14R-7J8	2 9 IV	陶器	皿	11.6	4.0	3.7	精	肥前 (唐津)	オリーブ灰色 (2.5GY6/1)	オリーブ灰色 (2.5GY6/1)	灰軸			腰部下無軸			口縁	内面	底部	14/36	36/36	20/36	見込み・胎土目	近世	16C末~17C初頭	
203	249	203	2	SE351	14R-8J1	1	陶器	掃鉢	(29.8)	-	-	精		灰赤色 (10R4/2)	灰赤色 (10R4/2)	鉄軸						口縁	内面	底部	1/36		1/36		近世		
203	249	204	2	SE351	14R-8J1	2	陶器	鉢	(28.0)	-	-	普通		暗褐色 (5YR3/3)	暗褐色 (7.5YR3/3)	鉄軸						口縁	内面	底部	1/36		1/36		近世		
203	249	205	2	SE351	14R-8J1	2	陶器	鉢	-	(9.4)	-	普通	唐津カ	褐色 (7.5YR4/3)	褐色 (7.5YR4/3)	鉄軸						口縁	内面	底部		1/36	1/36		近世		
203	249	206	2	SE351	14R-8I5	1	陶器	鉢	(12.4)	-	-	普通		浅黄色 (2.5Y7/3)	浅黄色 (2.5Y7/3)	鉄軸カ						口縁	内面	底部	2/36		1/36		近世		
203	249	207	2	SE251	14S-9A1	1	磁器	碗	(10.2)	-	-	普通	波佐見カ	灰白色 (2.5GY8/1)	灰白色 (2.5GY8/1)	透明軸			コンニャク印判			口縁	内面	底部	1/36		1/36		近世	18C前半	
203	249	208	2	SE251	14S-9A1	2	陶器	皿	(16.0)	-	-	普通		浅黄色 (2.5Y7/3)	浅黄色 (2.5Y7/3)	薬灰軸			溝縁口縁			口縁	内面	底部	6/36		2/36	砂目	近世	1610~1630年代	
203	249	209	2	SE449	14R-9I10	3	磁器	皿	(23.0)	-	-	精	肥前 (伊万里)	灰白色 (N8/0)	灰白色 (N8/0)	透明軸		圈縁 列点文				口縁	内面	底部	3/36		1/36		近世	17C前半	
203	249	210	2	SE449	14R-9J11	1	陶器	皿	-	(5.1)	-	普通		灰白色 (2.5Y8/2)	灰白色 (2.5Y8/2)	透明軸			蛇ノ目軸剥			口縁	内面	底部		12/36	2/36		近世	17C後半~18C前半	
203	249	211	2	SE449	14R-9J6	1	陶器	掃鉢	-	-	-	普通	肥前	にふい褐色 (7.5YR5/4)	にふい褐色 (7.5YR5/4)	鉄軸						口縁	内面	底部			1/36		近世	17C	焼締
203	249	212	2	SE449	14R-9I10	1	陶器	鉢カ	(32.2)	-	-	精	肥前 (唐津)	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	白泥 灰軸		刷毛目文				口縁	内面	底部	3/36		1/36		近世	17C前半 (~1620年代)	
203	249	213	2	SE734	14R-9I14	1	磁器	碗	(12.2)	-	-	普通		明緑灰色 (7.5GY)	明緑灰色 (7.5GY)	透明軸		山水文				口縁	内面	底部	3/36		1/36		近世		
203	249	214	2	SE734	14R-9I14	12	磁器	碗	-	(5.4)	-	精		明緑灰色 (7.5GY8/1)	明緑灰色 (7.5GY8/1)	透明軸		圈縁				口縁	内面	底部		1/36	1/36		近世		
203	249	215	2	SE734	14R-9I14	4	磁器	碗	-	(6.8)	-	精		灰白色 (N8/0)	にふい褐色 (7.5YR7/3)	透明軸		圈縁	蛇ノ目軸剥			口縁	内面	底部	2/36		1/36		近世		
203	249	216	2	SE734	14R-9I14	1	磁器	皿	(13.2)	-	-	精		灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (10Y8/1)	透明軸						口縁	内面	底部	1/36		1/36		近世		
203	249	217	2	SE734	14R-9I14	1	磁器	皿	-	(3.2)	-	普通		灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (10Y8/1)	透明軸			見込み草花文カ			口縁	内面	底部		9/36	1/36		近世	17C中頃	
203	249	218	2	SE734	14R-9I14	1	陶器	掃鉢	(24.0)	-	-	普通		灰褐色 (7.5YR4/2)	灰褐色 (2.5YR4/2)	鉄軸						口縁	内面	底部	2/36		1/36		近世	17C後半	
203	249	219	2	SE734	14R-9I14	1	磁器	火入	(10.6)	-	-	精	波佐見	明オリーブ灰色 (5GY7/1)	明オリーブ灰色 (5GY7/1)	青磁軸						口縁	内面	底部	3/36		1/36		近世	17C末~18C	
203	249	220	2	SK550	14R-7H11	1	磁器	碗	(12.2)	-	-	普通		明緑灰色 (7.5GY8/1)	灰白色 (N8/1)	透明軸		草花文				口縁	内面	底部	5/36		1/36		近世	18C前半	
203	249	221	2	SK550	14R-7H16	4	磁器	碗	-	-	-	普通		灰白色 (2.5GY8/1)	灰白色 (2.5GY8/1)	透明軸						口縁	内面	底部			1/36		近世		二次加工品
203	249	222	2	SK550	14R-7H16	4	磁器	碗	-	-	-	普通		明緑灰色 (2.5GY7/1)	明緑灰色 (2.5GY7/1)	色絵透明軸		山水文				口縁	内面	底部	18/36		2/36		近世	17C後半	
203	249	223	2	SK550	14R-7H16	2	陶器	皿	(21.4)	-	-	精		灰白色 (5Y7/2)	暗オリーブ色 (7.5Y4/3)	銅緑軸						口縁	内面	底部	1/36		1/36		近世		
203	249	224	2	SK550	14R-7H16	4	陶器	皿	(13.2)	-	-	精	肥前 (唐津)	黒褐色 (10YR3/1)	黒褐色 (10YR3/1)	鉄軸			腰部下無軸			口縁	内面	底部	5/36		1/36	砂目	近世	17C前半	
203	249	225	2	SK550	14R-7H16	2	陶器	皿	-	-	-	精	肥前	灰白色 (10YR8/1)	灰白色 (10YR8/1)	銅緑軸			蛇ノ目軸剥			口縁	内面	底部		3/36			近世	17C第4四半期~18C	二次加工品
203	249	226	2	SK550	14R-7H16	1	陶器	掃鉢	(27.8)	-	-	精		暗褐色 (7.5YR3/3)	褐色 (7.5YR4/3)	鉄軸						口縁	内面	底部	1/36		1/36		近世	17C後半	
203	249	227	2	SK550	14R-7H16	1	陶器	鉢	(28.0)	-	-	精	唐津	オリーブ灰色 (7.5Y4/2)	黒褐色 (10YR2/3)	薬灰軸 鉄軸		刷毛目文				口縁	内面	底部	3/36		1/36		近世	17C中~後半	
203	249	228	2	SK550	14R-7H16	2	陶器	鉢	-	(6.8)	-	精		にふい黄褐色 (10YR5/4)	にふい黄褐色 (10YR6/4)	不明						口縁	内面	底部		3/36	2/36		近世		二次加工品
203	249	229	2	SK550	14R-7H11	5	磁器	香炉	-	(7.6)	-	精	チ 波佐見	明オリーブ灰色 (2.5GY7/1)	灰白色 (7.5YR8/1)	青磁軸			蛇ノ目高台			口縁	内面	底部		16/36	6/36		近世	17C末~18C	
203	249	230	2	SK550	14R-7H16	2	陶器	衰	(19.8)	-	-	精		黒褐色 (10YR3/1)	灰赤色 (10R4/2)	鉄軸						口縁	内面	底部	5/36		1/36		近世	17C~18C	

図版No.	写真版No.	報告No.	出土位置			層位	種別	器種	法量 (cm)			胎質	胎土	産地	色調		装飾		成形・調整			遺存率			付着物	時代	時期年代	備考			
			区	遺構	グリッド				口径	底径	器高				外面	内面	絵付, 釉薬	文様	外面	内面	底部	口縁	底部	全体							
			231	2	SK400				14R-7I21	1	磁器				皿	(12.4)	-	-	精	肥前	灰白色 (5Y8/1)	灰白色 (5Y8/1)	染付透明軸						蛇ノ目軸剥	ロクロナデ	ロクロナデ
204	249	232	2	SK400	14R-7I21	1	陶器	掃鉢	(30.8)	-	-	普通		灰赤色 (2.5YR4/2)	灰赤色 (2.5YR4/2)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ	1/36		1/36		近世	17C後半					
204	249	233	2	SK400	14R-7H25	1	陶器	掃鉢	-	-	-	精	肥前	灰褐色 (5YR4/2)	灰褐色 (5YR4/2)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ 鉋目			1/36		近世	17C代					
204	249	234	2	SK400	14R-7I16	1	磁器	徳利	-	-	-	普通		明緑灰色 (7.5GY8/1)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	透明軸	花文		ロクロナデ	ロクロナデ			2/36		近世	18C					
204	249	235	2	SK556	14R-8H8	3	磁器	碗	(10.0)	-	-	普通		灰白色 (5GY8/1)	灰白色 (5GY8/1)	透明軸		コンニャク印判	ロクロナデ	ロクロナデ	3/36		1/36		近世	18C前半					
204	249	236	2	SK556	14R-8H8	2 4	磁器	碗	(10.0)	-	-	普通		灰白色 (2.5GY8/1)	灰白色 (2.5GY8/1)	透明軸		コンニャク印判	ロクロナデ	ロクロナデ	3/36		1/36		近世	18C前半					
204	249	237	2	SK556	14R-8H8	3	磁器	碗	-	(5.0)	-	普通		灰白色 (2.5GY8/1)	灰白色 (2.5GY8/1)	透明軸	圏線		ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	4/36	近世	18C前半					
204	249	238	2	SK556	14R-8H8	2	磁器	碗	-	(5.0)	-	普通		灰白色 (N8/0)	灰白色 (N8/0)	透明軸	圏線		ロクロナデ	ロクロナデ			7/36	5/36	近世	17C後半?18C?					
204	249	239	2	SK556	14R-8H7	1	陶器	鉢	(34.0)	-	-	普通	長・チ	三島寿	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	灰オリーブ色 (5Y5/2)	鉄軸 薬灰軸			ロクロナデ	ロクロナデ	3/36		1/36		近世	17C後半~18C前半				
204	249	240	2	SK556	14R-8H2	2	陶器	鉢	(26.8)	-	-	精	白		灰黄褐色 (10YR5/2)	灰黄褐色 (10YR5/2)	薬灰軸	刷毛目文		ロクロナデ	ロクロナデ			2/36		1/36	近世	17C後半~18C前半			
204	249	241	2	SK556	14R-8H8	4	陶器	落とし蓋	(9.1)	-	1.5	普通	長・白	唐津カ	灰黄褐色 (10YR6/2)		鉄軸			ロクロナデ		回転糸切り	5/36	6/36	5/36	近世	17C前半か?				
204	249	242	2	SK556	14R-8H7	1	陶器	襦	(26.0)	-	-	普通		唐津	オリーブ褐色 (2.5Y4/3)	にぶい赤褐色 (5YR4/3)	白化粧土鉄軸 銅緑軸	刷毛目文		ロクロナデ	ロクロナデ			2/36		1/36	近世	17C後半			
204	249	243	2	SK556	14R-8H3	4	土師質土器	灯明皿	10.0	5.0	1.5	普通	長・砂粒		灰白色 (2.5Y8/2)	灰白色 (2.5Y8/2)						8/36		5/36		内外面: 油煙	近世				
204	249	244	2	SK556	14R-8H8	4	土師質土器	灯明皿	10.0	5.0	1.5	普通			灰白色 (2.5Y8/2)	灰白色 (2.5Y8/2)						8/36		7/36		内外面: 油煙	近世				
204	249	245	2	SK487	14S-8A22	1	磁器	皿	-	(2.0)	-	普通			明オリーブ灰色 (5GY7/1)	明オリーブ灰色 (5GY7/1)	青磁軸カ	見込み花卉文		ロクロナデ	ロクロナデ			8/36	3/36		近世				
204	249	246	2	SK633	14R-8I22	6	磁器	碗	(10.0)	(5.0)	6.2	普通	長		灰白色 (5GY8/1)	灰白色 (5GY8/1)	透明軸	網目文		ロクロナデ	ロクロナデ	1/36	2/36	4/36		近世	17C後半				
204	249	247	2	SK633	14R-8I22	2	磁器	碗	(11.2)	-	-	普通			灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (10Y8/1)	透明軸	山水文		ロクロナデ	ロクロナデ	8/36		3/36		近世	17C末~18C前半				
204	250	248	2	SK633	14R-8I22	4	磁器	碗	-	(4.0)	-	普通			灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (5Y8/1)	透明軸	圏線		ロクロナデ	ロクロナデ			8/36	6/36		近世	17C末~18C初			
204	250	249	2	SK633	14R-8I22	2	陶器	皿	(12.8)	4.2	3.7	精	肥前 (唐津)		にぶい黄色 (2.5Y6/3)	黄褐色 (2.5Y5/3)	灰軸		腰部下無軸 蛇ノ目軸剥	ロクロケズリ ナデ	ロクロケズリ ナデ	削り出し(右)	2/36	15/36	18/36		見込み: 砂目	近世	16C末~17C前		
204	250	250	2	SK628 SK550	14R-8G20 14R-7H16	1 1	磁器	碗	10.6	4.7	6.3	普通	肥前 (伊万里)		灰白色 (N8/0)	灰白色 (N8/0)	透明軸	草花文+人物 風景文		ロクロナデ	ロクロナデ	削り出し	11/36	36/36	18/36			近世	17C末~18C初		
204	250	251	2	SK1195	14R-8G12	1	磁器	碗	(12.2)	-	-	普通			灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (10Y8/1)	染付透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ			2/36		1/36		近世			
204	250	252	2	SK1201	14R-8G22	1	磁器	碗	(12.0)	-	-	普通			灰白色 (10Y7/1)	灰白色 (10Y7/1)	透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ			2/36		1/36		近世			
204	250	253	2	SK1201	14R-8G22 14R-9G2	2	磁器	碗	-	(4.0)	-	普通			明緑灰色 (7.5GY8/1)	明緑灰色 (7.5GY8/1)	透明軸	草花文		ロクロナデ	ロクロナデ			8/36	5/36		近世	18C前半			
204	250	254	2	SK1201	14R-8G22	2	磁器	碗	-	(4.0)	-	普通			灰白色 (5GY8/1)	灰白色 (5GY8/1)	透明軸		蛇ノ目軸剥	ロクロナデ	ロクロナデ			9/36	2/36		近世	17C後半~18C前半			
204	250	255	2	SK1201	14R-8G22	1	磁器	碗	-	-	-	普通			明緑灰色 (7.5GY8/1)	明緑灰色 (7.5GY8/1)	染付透明軸	高台内銘						1/36			近世		二次加工品		
204	250	256	2	SK1201	14R-8G22	1	陶器	掃鉢	-	(10.0)	-	普通	肥前		にぶい褐色 (7.5YR5/3)	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ 鉋目			2/36	1/36		近世	17C			
204	250	257	2	SK1201	14R-8G22	1	陶器	鉢	(28.0)	-	-	普通	チ・白	唐津	黄褐色 (2.5Y5/4)	黄褐色 (2.5Y5/4)	薬灰軸	刷毛目文		ロクロケズリ	ロクロナデ			1/36		1/36		近世	17C後半 (~18C?)		
204	250	258	2	SK1562	14R-10E11	1	陶器	皿	(16.0)	-	-	精			灰オリーブ色 (5Y5/2)	灰オリーブ色 (5Y5/2)	青磁軸カ			ロクロナデ	ロクロナデ			2/36		1/36		近世			
204	250	259	2	SX1131	14R-9A25 14R-9B21	3 1	磁器	碗	10.6	4.1	6.0	普通	瀬戸美濃カ		灰白色 (N8/)	灰白色 (N8/)	透明軸	圏線 見込み風景文 (夕日カ)		ロクロナデ	ロクロナデ			18/36	36/36	29/36			近世		
204	250	260	2	SX1131	14R-9A20	6	磁器	碗	10.2	3.7	6.0	普通			灰白色 (N8/0)	灰白色 (N8/0)	透明軸	草花文 圏線 見込み風景文 (夕日カ)		ロクロナデ	ロクロナデ			34/36	36/36	34/36		内外面: 墨痕カ	近世		
204	250	261	2	SX1131	14R-9B16 14R-9B21	5 3	磁器	碗	(10.0)	3.6	4.9	普通			灰白色 (N8/)	灰白色 (N8/)	透明軸	風景文(焚き 火カ) 圏線 見込み風景文 (池カ)	上絵付	ロクロナデ	ロクロナデ			8/36	36/36	30/36			近世		
204	250	262	2	SX1131	14R-9A25 14R-9B16	1	磁器	碗	(12.2)	-	-	普通	肥前カ		明緑灰色 (7.5GY8/1)	明緑灰色 (7.5GY8/1)	透明軸	草花文 二条圏線		ロクロナデ	ロクロナデ			5/36		2/36		近世			

図版No.	写真版No.	報告No.	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm)			胎質	胎土	産地	色調		装飾		成形・調整			遺存率		付着物	時代	時期年代	備考				
			区	遺構				グリッド	口径	底径				器高	外面	内面	絵付,軸染	文様	外面	内面	底部	口縁					底部	全体		
			2	SX1131				14R-9B16	1	磁器				碗	(9.2)	-	-	精			明オリブ灰色(5GY7/1)	明オリブ灰色(5GY7/1)					透明軸	稜杉文二条圏線	ロクロナデ	ロクロナデ
205	250	264	2	SX1131	14R-9A25 14R-9B21	1	磁器	碗	(12.0)	-	-	普通				透明軸	明緑灰色(7.5GY8/1)	明緑灰色(7.5GY8/1)	草花文二条圏線	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36		2/36		近世			
205	250	265	2	SX1131	14R-9A25	1	磁器	碗	(9.4)	-	-	精				透明軸	灰白色(5GY8/1)	灰白色(5GY8/1)	草花文二条圏線	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		1/36		近世			
205	250	266	2	SX1131	14R-9A20	3	磁器	碗	(13.4)	-	-	普通				透明軸	灰白色(2.5GY8/1)	灰白色(2.5GY8/1)	草花文二条圏線	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世			
205	250	267	2	SX1131	14R-9A25	1	磁器	碗	(9.8)	-	-	普通				透明軸	オリブ灰色(2.5GY5/1)	灰白色(N7/0)	山水文カ圏線	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世			
205	250	268	2	SX1131	14R-9B21	1	磁器	碗	(9.0)	-	-	精				透明軸	明緑灰色(7.5GY7/1)	明緑灰色(7.5GY7/1)	染付	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		1/36		近世			
205	250	269	2	SX1131	14R-9A24	1	磁器	碗	(7.2)	-	-	精				透明軸	灰白色(10Y8/1)	灰白色(10Y8/1)	圏線カ	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		1/36		近世			
205	250	270	2	SX1131	14R-9A25	1	磁器	碗	(8.4)	-	-	精				透明軸	明オリブ灰色(2.5GY7/1)	灰白色(N8/)	銅緑軸カ透明軸	圏線カ	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世		
205	250	271	2	SX1131	14R-9B21	1	磁器	碗	(10.2)	-	-	普通				透明軸	灰白色(N8/)	灰白色(N8/)	染付透明軸		ロクロナデ	ロクロナデ		1/36		1/36		近世		
205	250	272	2	SX1131	14R-9A24	1	磁器	碗	(9.0)	-	-	精				透明軸	灰白色(7.5Y7/1)	灰白色(7.5Y7/1)	二条圏線	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		1/36		近世			
205	250	273	2	SX1131	14R-9A25 14R-9B21	1	磁器	小杯	6.6	3.35	3.7	普通				透明軸	灰白色(N8/)	灰白色(N8/)	染付(外面のみ)	圏線	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロケズリ?	7/36	12/36	10/36		近世		
205	250	274	2	SX1131	14R-9B21	1	陶器	碗	(12.4)	-	-	普通	瀬戸美濃			透明軸	灰白色(5Y7/2)	灰白色(5Y7/2)	山水文カ		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロケズリ	1/36		1/36		近世		大白手
205	250	275	2	SX1131	14R-9A20	1	白磁	小杯	7.6	3.4	4.9	普通				透明軸	灰白色(N8/)	灰白色(N8/)		口錆	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロケズリ	2/36	16/36	9/36		近世		
205	250	276	2	SX1131	14R-9A25	1	白磁	猪口	4.9	2.5	3.4	普通				透明軸	灰白色(10Y8/1)	灰白色(10Y8/1)	高台登付のみ無軸		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロケズリ	16/36	17/36	17/36		近世		
205	250	277	2	SX1131	14R-9A25	1	磁器	皿	-	(6.8)	-	普通	肥前カ			透明軸	灰白色(10Y8/1)	灰白色(10Y8/1)	染付透明軸		ロクロ	ロクロ	ケズリ→ナデ	13/36	4/36			近世		
205	250	278	2	SX1131	14R-9A20	5	磁器	皿	-	(4.9)	-	精				透明軸	明緑灰色(7.5GY7/1)	灰白色(7.5GY7/1)	圏線	蛇ノ目軸剥ぎ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	11/36	2/36		内外面:砂目	近世		二次加工品
205	250	279	2	SX1131	14R-9A20 14R-9A25	1	磁器	碗	-	-	-	普通				透明軸	明緑灰色(7.5GY8/1)	明緑灰色(7.5GY8/1)	山水文カ圏線		ロクロナデ	ロクロナデ		9/36	4/36		近世			
205	250	280	2	SX1131	14R-9A25	6	磁器	小碗	7.0	3.2	4.6	普通				透明軸	灰白色(10Y8/1)	灰白色(10Y8/1)	圏線		ロクロナデ	ロクロナデ		19/36	36/36	32/36		近世		
205	250	281	2	SX1131	14R-9A24	1	磁器	小碗	-	(3.2)	-	普通	肥前カ			透明軸	明緑灰色(7.5GY8/1)	明緑灰色(7.5GY8/1)	山水文カ圏線		ロクロナデ	ロクロナデ		5/36	4/36		近世			
205	250	282	2	SX1131	14R-9B16 14R-9B21	1 3	陶器	小碗	(8.2)	-	-	普通	萩			透明軸	明緑灰色(7.5GY7/1)	灰褐色(7.5YR6/2)	ピラ掛薬灰軸		ロクロナデ	ロクロナデ		5/36		4/36		近世		
205	250	283	2	SX1131	14R-9A25 14R-9A25	1 IV	磁器	小杯	6.8	3.2	4.1	精				透明軸	明緑灰色(7.5GY8/1)	灰白色(N8/)	染付		ロクロナデ	ロクロナデ		14/36	11/36	13/36		近世		
205	250	284	2	SX1131	14R-9A25	6	磁器	皿	(12.4)	-	-	精				透明軸	灰白色(7.5Y8/1)	灰白色(7.5Y8/1)	茶色の染付(口縁端部)		ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世		
205	250	285	2	SX1131	14R-9A24	1	磁器	皿	(10.2)	(7.0)	3.2	普通	肥前カ			透明軸	灰白色(2.5GY8/1)	灰白色(2.5GY8/1)	風景文	蛇ノ目高台	ロクロナデ	ロクロナデ		7/36	11/36	10/36		近世		
205	250	286	2	SX1131	14R-9A25	1	磁器	皿	-	4.2	-	精				透明軸	灰白色(10Y8/1)	灰白色(10Y8/1)	染付	蛇ノ目軸剥ぎ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロケズリ	36/36	18/36		近世			
205	250	287	2	SX1131	14R-9A20	1	陶器	皿	(15.0)	-	-	普通				銅緑軸	オリブ黄色(5Y6/3)	オリブ黄色(5Y6/3)	満緑口縁		ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世		
205	250	288	2	SX1131	14R-9B21	1	陶器	皿	(12.0)	-	-	精				透明軸	灰白色(5Y7/2)	灰オリブ色(5Y5/2)	銅緑軸		ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世		
205	250	289	2	SX1131	14R-9A25	6	陶器	六角小皿	(11.7)	-	-	普通	村松			鉄軸	オリブ黄色(5Y6/3)	オリブ黄色(5Y6/3)	葉文カ		ナデ	ナデ		4/36		1/36		近世		
205	250	290	2	SX1131	14R-9B16	3	陶器	皿	-	4.4	-	精	肥前カ			透明軸	灰白色(5Y7/2)	灰白色(5Y7/2)			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	18/36	3/36			近世		京焼風?
205	251	291	2	SX1131	14R-9A20	3	陶器	掃鉢	32.5	13.2	13.4	普通				鉄軸	暗赤褐色(5YR3/4)	暗赤褐色(5YR3/4)			ロクロナデ	ロクロナデ	鉦目(1単位17目)	33/36	36/36	35/36		近世		
205	252	292	2	SX1131	14R-9A25 14R-9B16	3 1	陶器	掃鉢	34.4	14.0	16.1	普通				鉄軸	にぶい赤褐色(5YR4/4)	褐色(7.5YR4/4)			ロクロナデ	ロクロナデ	鉦目(1単位15目)	3/36	9/36	5/36		近世		
205	251	293	2	SX1131	14R-9A20 14R-9A25 14R-9B16	1	陶器	掃鉢	34.5	12.3	13.6	普通				鉄軸	暗褐色(7.5YR3/4)	暗褐色(7.5YR3/4)			ロクロナデ	ロクロナデ	鉦目(1単位13目)	24/36	23/36	22/36		近世		
206	252	294	2	SX1131	14R-9A20	1	陶器	掃鉢	39.0	-	-	精				鉄軸	黒褐色(7.5YR3/2)	黒褐色(7.5YR3/2)			ロクロナデ	ロクロナデ	鉦目	6/36		3/36		近世		

図版No.	写真版No.	報告No.	出土位置			層位	種別	器種	法量 (cm)			胎質	胎土	産地	色調		装飾			成形・調整			遺存率			付着物	時代	時期年代	備考	
			区	遺構	グリッド				口径	底径	器高				外面	内面	絵付, 釉薬	文様	装飾特徴	外面	内面	底部	口縁	底部	全体					
																														調
206	252	295	2	SX1131	14R-9A20	1	陶器	掃鉢	31.0	-	9.0	精	長		暗褐色 (10YR3/4)	暗褐色 (5YR3/4)	鉄釉				ロクロナデ ヘラケズリ	ロクロナデ 鉦目 (1単位 21目)		2/36		1/36			近世	
206	252	296	2	SX1131	14R-9A20	1	陶器	掃鉢	-	11.6	-	精			暗赤褐色 (5YR3/4)	暗赤褐色 (5YR3/4)	鉄釉				ロクロナデ ロクロケズリ	ロクロナデ 鉦目 (1単位 20目)		12/36	1/36			近世		
206	252	297	2	SX1131	14R-9B21	6	陶器	掃鉢	-	-	-	普通			黒色 (10YR2/1)	黒色 (10YR2/1)	鉄釉				ロクロナデ	ロクロナデ 鉦目				1/36		近世		
206	252	298	2	SX1131	14R-9A25	6	陶器	掃鉢	-	-	-	普通	須佐唐津		褐色 (7.5YR4/3)	褐色 (7.5YR4/3)	鉄釉				ロクロナデ	ロクロナデ 鉦目				1/36		近世		
206	252	299	2	SX1131	14R-9B16	3	陶器	鍋	(20.0)	-	-	精			明赤褐色 (5YR3/6)	明赤褐色 (5YR3/6)	鉄釉				ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	1/36		近世			
206	252	300	2	SX1131	14R-9B16	3	陶器	鉢	(31.0)	-	-	精			灰黄色 (2.5Y6/2)	灰白色 (2.5Y8/1)	薬灰釉				ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	1/36		近世			
206	252	301	2	SX1131	14R-9B21	3	陶器	鉢	-	-	-	普通	成島カ		オリーブ黄色 (7.5Y6/3)	青灰色 (5BG6/1)	鉄釉 薬灰釉				ロクロナデ	ロクロナデ				1/36		近世		
206	252	302	2	SX1131	14R-9A20	3	陶器	鉢	-	-	-	普通	石		にぶい褐色 (7.5YR5/4)	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	鉄釉				ロクロナデ	ロクロナデ				3/36		近世		
206	252	303	2	SX1131	14R-9A25	1	陶器	鉢	-	-	-	精	焼	村松カ	浅黄色 (2.5Y7/4)	浅黄色 (2.5Y7/4)	銅緑釉 透明釉				ロクロナデ	ロクロナデ				1/36		近世		
206	252	304	2	SX1131	14R-9A25	3	陶器	鉢	-	-	-	普通	石	越中瀬戸	灰褐色 (5YR4/2)	灰褐色 (5YR4/2)	鉄釉				ロクロナデ	ロクロナデ				4/36		近世		
206	252	305	2	SX1131	14R-9B21	3	陶器	鉢	-	-	-	精		村松カ	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	褐色 (10YR4/4)	鉄釉				ロクロケズリ	ロクロナデ				4/36		近世		
206	252	306	2	SX1131	14R-9B21 14R-9A25	1 3	陶器	鉢	18.2	9.5	9.6	精	石・長・ 雲	村松	黒褐色 (5YR3/1)	黒褐色 (5YR3/1)	鉄釉				ロクロナデ	ロクロナデ	削り出し	36/36	36/36	36/36		近世		
206	252	307	2	SX1131	14R-9A20 14R-9B16	1 1.5	陶器	鉢	-	(6.2)	-	普通			にぶい赤褐色 (5YR5/4)	黒褐色 (5YR3/1)	鉄釉				ロクロ→回転 ケズリ	ロクロナデ	削り出し		15/36	9/36		近世		
206	253	308	2	SX1131	14R-9A20 14R-9A25	1	陶器	片口鉢	17.6	7.4	8.5	精			上部浅黄色 (5Y7/3)	浅黄色 (5Y7/3)	灰釉				ロクロナデ ロクロケズリ	ロクロナデ	ロクロケズリ	33/36	36/36	36/36		近世	三足付	
206	253	309	2	SX1131	14R-9A20 14R-9B16	1	土師質 土器	焙烙	32.0	23.8	5.1	粗			黒色 (7.5YR2/1)	にぶい黄褐色 (10YR5/3)					ロクロナデ	ロクロナデ	不明	8/36	8/36	9/36		近世	外面：ス ス	
206	253	310	2	SX1131	14R-9A25 14R-9B21	6 1.3	土師質 土器	焙烙	32.0	25.8	4.4	粗	石・長・ 雲・チャ		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)					ロクロナデ	ロクロナデ		5/36	2/36	3/36		近世	外面：ス ス	
207	253	311	2	SX1131	14R-9A20	5	磁器	蓋	6.0	-	2.4	普通	会津本 郷カ		明緑灰色 (7.5YR8/1)	灰白色 (2.5GY8/1)	透明釉	草花文			ロクロナデ	ロクロナデ		26/36		34/36		近世	つまみ径0.8cm	
207	253	312	2	SX1131	14R-9A20	6	陶器	蓋	5.8	-	2.9	普通			暗灰黄色 (2.5Y5/2)	黒褐色 (2.5Y3/1)	鉄釉				ロクロナデ	ロクロナデ		36/36		36/36		近世	内面：ス ス	
207	253	313	2	SX1131	14R-9B16	1	陶器	蓋	7.8	-	1.8	普通			灰黄色 (2.5Y7/2)	暗赤褐色 (5YR3/6)	鉄釉				ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズ リ(右)	18/36		32/36		近世	外面：ス スカ	
207	253	314	2	SX1131	14R-9A25	1	陶器	蓋	-	-	-	精			灰白色 (2.5Y8/1)	浅黄色 (2.5Y7/3)	薬灰釉				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロ		36/36	4/36		近世	内面：ス ス	
207	253	315	2	SX1131	14R-9A20	1	陶器	蓋	5.6	-	(0.8)	粗			灰白色 (5Y7/2)	灰白色 (5Y7/2)					ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	14/36	20/36	18/36		近世		
207	253	316	2	SX1131	14R-9A20	3	陶器	鍋蓋	(17.0)	-	-	普通	相馬カ		褐色 (7.5YR7/6)		鉄釉				トビガンナ イッチン	ロクロナデ	ロクロナデ		9/36		5/36		近世	
207	253	317	2	SX1131	14R-9A25	6	陶器	鍋蓋	14.9		3.6	普通	石・長		浅黄色 (2.5Y7/3)	赤黒色 (7.5R2/1)					トビガンナ イッチン	ロクロナデ	ロクロナデ		25/36		25/36		近世	
207	253	318	2	SX1131	14R-9A25 14R-9B21	6 5	磁器	徳利	-	-	-	精			灰白色 (5Y8/)	灰白色 (5Y8/)	透明釉 施釉				ロクロナデ	ロクロナデ				6/36		近世		
207	253	319	2	SX1131	14R-9A25 14R-9B21	3 1 3 5 6	磁器	徳利	-	6.2	-	普通			灰白色 (5GY8/1)	灰白色 (N8/0)	透明釉	草花文(松カ)				ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラケズリ→ ナデ?	30/36		18/36		近世	
207	254	320	2	SX1131	14R-9A20	3	磁器	徳利	-	(6.4)	-	普通			褐色 (7.5YR4/4)	灰白色 (N8/0)	茶色の染付 透明釉				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		9/36	5/36		近世		
207	254	321	2	SX1131	14R-9A20	1	磁器	徳利	-	5.6	-	普通			明青灰色 (5B7/1)	灰白色 (10Y8/1)					ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロケズリ	30/36		15/36		近世		
207	254	322	2	SX1131	14R-9A20	5	磁器	徳利	-	7.4	-	普通			灰白色 (7.5Y8/1)	灰白色 (5Y8/1)	透明釉				ロクロナデ	ロクロナデ		20/36		1/36		近世		
207	254	323	2	SX1131	14R-9A20	3	陶器	徳利	-	6.4	-	普通	村松		暗褐色 (7.5YR3/3)	黒褐色 (7.5YR3/2)	鉄釉				ロクロケズリ	ロクロケズリ	回転ヘラ切り	36/36		33/36		近世		
207	254	324	2	SX1131	14R-9B16	1	磁器	猪口	-	(1.5)	-	精			灰白色 (N8/)	灰白色 (N8/)	透明釉				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		36/36	12/36		近世		
207	254	325	2	SX1131	14R-9A25	1 3	磁器	急須	(5.5)	5.5	6.2	普通	会津本 郷カ		灰白色 (N8/0)	灰白色 (N8/0)	透明釉	草花文				ロクロナデ	ロクロナデ		17/36	23/36	20/36		近世	

図版No.	写真版No.	報告No.	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm)			胎質	胎土	産地	色調		装飾		成形・調整			遺存率			付着物	時代	時期年代	備考			
			区	遺構				フリッド	口径	底径				器高	外面	内面	絵付,軸染	文様	外面	内面	底部	口縁	底部					全体		
207	254	326	2	SX1131	14R-9A25 14R-9B21	3・6 3	陶器	土瓶	7.4	-	-	普通		村松	灰黄色 (2.5Y6/2)	褐灰色 (7.5YR5/2)	薬灰軸		トビガンナ イッチン	ロクロケズリ	ロクロナデ		24/36	20/36	20/36	外面：ス ス	近世			
207	254	327	2	SX1131	14R-9B21	3	陶器	乗燗	-	4.0	-	普通			灰黄色 (2.5Y7/2)					ロクロナデ			糸切り	26/36	9/36	底面：墨 痕カ	近世			
207	254	328	2	SX1131	14R-9A25 14R-9B16	3 3	陶器	火入	-	6.0	-	普通			黒褐色 (10YR3/2)	黒褐色 (10YR2/3)			2色の軸染 を掛け分け	ロクロナデ	ロクロナデ		22/36	11/36			近世			
207	254	329	2	SX1131	14R-9B21	1	磁器	瓶	-	-	-	精			灰白色 (5Y8/1)	灰白色 (5Y8/1)	透明軸	唐草文カ		ロクロナデ	ロクロナデ				6/36			近世		
207	254	330	2	SX1131	14R-9B21	6	磁器	瓶	-	2.6	-	普通			灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (10Y8/1)	透明軸	草花文カ		ロクロナデ	ロクロナデ				36/36	12/36		近世		
208	254	331	2	SX1131	14R-9A25	6	陶器	瓶	-	-	-	精			暗緑灰色 (10GY4/1)	浅黄色 (2.5Y7/3)	銅緑軸			ロクロナデ	ロクロナデ				9/36			近世		
208	254	332	2	SX1131	14R-9B21	3	陶器	瓶	-	-	-	精	角	村松カ	緑灰色 (7.5GY6/1)	灰黄色 (2.5Y6/2)	透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ				1/36			近世		把手の剥落痕
208	254	333	2	SX1131	14R-9B16	3	陶器	瓶	-	-	-	精			灰白色 (2.5Y8/2)	灰黄色 (2.5Y7/2)	透明軸	風景文(棚カ)		ロクロナデ	ロクロナデ				1/36			近世		
208	254	334	2	SX1131	14R-9A20	1	陶器	仏花器	8.3	4.6	10.4	普通		村松	にふい褐色 (7.5YR6/3)	黄褐色 (2.5Y5/4)	施軸			耳たぶ状突起	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36	36/36	32/36		近世		
208	254	335	2	SX1131	14R-9A20 14R-9A25 14R-9B16	1・5 3 1・3	陶器	植木鉢	30.8	19.8	25.7	普通	長		褐色 (7.5YR 4/4)	にふい褐色 (7.5YR7/4)				ロクロナデ	ロクロナデ		23/36	13/36	18/36	外面：高 台に重焼 き痕	近世			
208	254	336	2	SX1131	14R-9A24	1	陶器	掃鉢	(32.1)	-	-	精			黒色 (10YR2/1)	黒色 (10YR2/1)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ 鉦目		1/36		1/36		近世			
208	254	337	2	SX1131	14R-9A20	1	陶器	壺	-	-	-	精			黒褐色 (10YR2/2)	にふい黄色 (2.5Y6/3)	鉄軸 (2色)		単沈線文	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36			近世		
208	254	338	2	SX1131	14R-9A25	3	陶器	養	(29.2)	-	-	精			黒色 (7.5YR2/1)	オリーブ黒色 (5Y3/2)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ		1/36		1/36		近世			
208	255	339	2	SX1131	14R-9A25	5	陶器	壺	12.7	8.1	10.3	普通			暗褐色 (10YR3/3)	暗褐色 (10YR3/3)	鉄軸			ロクロナデ ロクロケズリ			29/36	36/36	35/36		近世			
208	255	340	2	SX1131	14R-9A25	3	陶器	燗燗	16.5	7.2	10.7	普通			にふい褐色 (7.5YR7/4)	にふい褐色 (7.5YR7/4)			トビガンナ	ロクロナデ ケズリ	ロクロナデ ケズリ		36/36	36/36	34/36		近世			
208	256	341	2	SX1131	14R-9A20	1	瓦質 土器	火鉢	22.5	15.2	22.0	普通	長		黒色 (10Y2/1)	黒色 (10Y2/1)		菊花 角渦文	スタンプ 回転施文	ロクロミガキ	ロクロナデ 指頭圧痕		36/36	9/36	23/36		近世	幕末～明治	朱塗り 漆塗り	
209	255	342	2	SX1131	14R-9A20 14R-9B21	3 3	瓦質 土器	火鉢	-	23.0	-	普通	長		暗灰色 (N3/)	暗灰色 (N3/)				型押	ロクロナデ カキメ		-	36/36	18/36		近世	幕末～明治	底面に型合せ痕	
209	256	343	2	SD150	14R-9H4	2	土師質 土器	鉢	-	(7.6)	-	普通	石・長・ 雲		褐色 (7.5YR6/2)	褐色 (7.5YR6/6)				ロクロナデ	ロクロナデ		12/36	1/36			近世			
209	256	344	2	SD144	14R-6H7	1	磁器	碗	(10.2)	-	-	普通			明緑灰色 (7.5GY8/1)	明緑灰色 (7.5GY8/1)	透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		5/36		2/36		近世			
209	256	345	2	SD144	14R-6I6	2	磁器	鉢	(16.1)	-	-	普通			灰白色 (N8/0)	灰白色 (N8/0)	染付 透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世			
209	256	346	2	SD391	14R-8J18	1	陶器	鉢	-	(10.3)	-	普通			灰黄色 (2.5Y6/2)	暗オリーブ色 (5Y4/4)	透明軸	刷毛目文		ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	1/36	砂目	近世			
209	256	347	2	SD391	14S-8A18	1	磁器	鉢	(14.0)	-	-	普通	石・長		灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (N8/)	染付 透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		4/36		1/36		近世			
209	256	348	2	SD252	14R-9J7	1	陶器	掃鉢	(22.0)	-	-	普通		須佐唐津	にふい褐色 (7.5YR6/4)	にふい褐色 (7.5YR6/4)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世	17C後～18C前		
209	256	349	2	SD492	14R-8H15 14R-8I11	2 1	磁器	碗	(12.2)	-	-	普通			灰白色 (7.5Y8/1)	灰白色 (7.5Y8/1)	透明軸	鳥文		ロクロナデ	ロクロナデ		4/36		2/36		近世	17C後半～18C初		
209	256	350	2	SD492	14R-8H14	2	磁器	碗	(12.2)	-	-	普通			灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (10Y8/1)	染付 透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		2/36		近世	18C初		
209	256	351	2	SD492	14R-8H14 14R-8I11	10 3	磁器	碗	(11.0)	-	-	普通			灰白色 (N8/)	灰白色 (N8/)	透明軸	草花文		ロクロナデ	ロクロナデ		15/36		15/36		近世	17C末～18C前半		
209	256	352	2	SD492	14R-8H14	5	磁器	碗	(10.2)	-	-	精			白色 (9 N)	白色 (9 N)	透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		6/36		3/36		近世	17C後末		
209	256	353	2	SD492	14R-8I11	3	磁器	碗	(10.2)	-	-	普通			灰白色 (2.5GY8/1)	灰白色 (2.5GY8/1)	透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		1/36		近世			
209	256	354	2	SD492	14R-8H14	2	磁器	碗	(10.2)	-	-	普通			灰白色 (6GY8/1)	灰白色 (5GY8/1)	透明軸	草花文		ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36		近世			
209	257	355	2	SD492	14R-8I11	1	磁器	碗	-	(4.3)	-	普通			灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (10Y8/1)	透明軸	園線		ロクロナデ	ロクロナデ		1/36		3/36		近世			
209	257	356	2	SD492	14R-8I11	1	磁器	碗	-	-	-	普通	長・白		灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (5Y8/1)	透明軸		コンニャク印 判	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36			近世	18C前半	
209	257	357	2	SD492	14R-8I11	1	磁器	碗	-	4.1	-	精			明緑灰色 (7.5GY7/1)	明緑灰色 (7.5GY7/1)	須 透明軸	園線		ロクロナデ	ロクロナデ		14/36		2/36		近世	17C		
209	257	358	2	SD492	14R-8H15	2	磁器	碗	-	-	-	普通			灰白色 (6GY8/1)	灰白色 (5GY8/1)	透明軸	園線		ロクロナデ	ロクロナデ		7/36		1/36		近世			

図版No.	写真図版No.	報告No.	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm)			胎質	胎土	産地	色調		装飾		成形・調整			遺存率			付着物	時代	時期年代	備考			
			区	遺構				グリッド	口径	底径				器高	外面	内面	絵付, 釉薬	文様	装飾特徴	外面	内面	底部	口縁					底部	全体	
209	257	359	2	SD492	14R-8111	3	陶器	碗	(10.3)	-	-	普通		にぶい黄褐色(10YR7/3)	にぶい黄褐色(10YR7/3)	薬灰軸			ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		1/36			近世			
209	257	360	2	SD492	14R-8H14 14R-8H14	1・2・5 IV	陶器	碗	10.8	4.8	7.1	普通	唐津	浅黄色(5Y7/3)	浅黄色(5Y7/3)	透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ	土見せ	4/36	12/36	24/36			近世	17C後末~18C初	京焼風 呉器手碗	
209	257	361	2	SD492	14R-8111	1	磁器	皿	-	(6.8)	-	普通		明緑灰色(7.5GY8/1)	明緑灰色(7.5GY8/1)	透明軸	見込み草花文		ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	1/36	砂目		近世	17C中~後末		
209	257	362	2	SD492	14R-8H15	10	陶器	皿	(13.7)	-	-	精		灰白色(2.5Y8/1)	灰白色(2.5Y8/1)	薬灰軸カ	圏線		ロクロナデ	ロクロナデ		5/36		1/36			近世	17C後末?		
209	257	363	2	SD492	14R-8111	1	陶器	皿	(15.4)	-	-	普通		にぶい黄色(2.5Y6/4)	にぶい黄色(2.5Y6/4)	薬灰軸		溝線口縁	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36			近世			
209	257	364	2	SD492	14R-8111	3	陶器	皿	(13.5)	-	-	普通		灰白色(5Y8/1)	灰白色(5Y8/1)	染付薬灰軸			ロクロナデ	ロクロナデ		1/36		1/36			近世		No.364と同一個体カ	
209	257	365	2	SD492	14R-8H15	5	陶器	皿	(14.2)	-	-	普通		灰白色(10YR7/1)	灰白色(10YR7/1)	薬灰軸	圏線		ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		1/36			近世		No.365と同一個体カ	
209	257	366	2	SD492	14R-8111	3	陶器	鉢	(32.5)	-	-	普通	唐津	にぶい黄褐色(10YR5/4)	灰黄褐色(10YR6/2)	薬灰軸	刷毛目文カ		ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36			近世	17C代		
209	257	367	2	SD492	14R-8H15	2	陶器	挿鉢	(27.8)	-	-	精		暗褐色(7.5YR3/3)	暗褐色(7.5YR3/3)	鉄軸		玉線口縁	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36			近世			
209	257	368	2	SD492	14R-8H15	10	陶器	挿鉢	(33.0)	-	-	精	長	唐津	灰褐色(7.5YR4/2)	灰褐色(7.5YR4/2)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ 鉦目		4/36		1/36		近世	17C末~18C前		
209	257	369	2	SD492	14R-8111	3	陶器	挿鉢	-	-	-	粗	唐津	にぶい赤褐色(5YR5/4)	にぶい赤褐色(5YR5/4)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ 鉦目				1/36			近世	17C代		
209	257	370	2	SD492	14R-8H15 14R-8111	10 3	陶器	花生	-	-	-	普通	肥前カ 丹波カ	暗褐色(7.5YR3/3)	にぶい黄褐色(10YR5/3)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ				10/36			近世			
210	257	371	2	SD492	14R-8111	1	陶器	壺	-	(12.6)	-	普通	肥前	暗赤褐色(2.5YR3/1)	暗赤褐色(2.5YR3/3)	鉄軸			ロクロケズリ	ロクロケズリ →タタキ	ケズリ		4/36	2/36			近世			
210	257	372	2	SD492	14R-8111	3	土師質土器	灯明皿	10.4	7.0	1.9	普通	石・長	灰白色(2.5Y8/2)	灰白色(2.5Y8/2)				ナデカ 摩滅	ナデカ 摩滅		24/36	24/36	27/36	内外面：油煙		近世			
210	257	373	2	SD733	14R-8119	1	磁器	碗	(8.4)	-	-	精		灰白色(2.5GY8/1)	灰白色(2.5GY8/1)	透明軸		コンニャク印判	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		1/36			近世	17C末~18C前		
210	257	374	2	SD733	14R-8119	1	磁器	碗	-	4.0	-	普通	波佐見カ	灰白色(5GY8/1)	灰白色(5GY8/1)	透明軸		コンニャク印判	ロクロナデ	ロクロナデ			36/36	18/36	外面：砂目		近世	18C代	くらわんか	
210	257	375	2	SD636	14R-9I5	1	磁器	皿	(16.0)	-	-	普通		明緑灰色(7.5GY8/1)	明緑灰色(7.5GY8/1)	透明軸	山水文カ 圏線		ロクロナデ	ロクロナデ		1/36		1/36			近世			
210	257	376	2	SD636	14R-9J1	1	陶器	挿鉢	-	-	-	精	唐津カ	暗褐色(10YR3/3)	暗褐色(10YR3/3)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ 鉦目				1/36			近世			
210	257	377	2	SD636	14R-9J1	1	陶器	鉢	-	(13.2)	-	精		にぶい赤褐色(5YR4/3)	にぶい黄褐色(10YR4/3)	鉄軸 薬灰軸			ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ?	3/36	1/36				近世	17C後~18C前		
210	257	378	2	SD636	14R-9J1	1	陶器	養力壺カ	-	-	-	普通	チ	肥前系	黒色(10YR4/1)	灰色(5Y5/1)	鉄軸			ケズリ→ミガキ	タタキ目				1/36			近世		
210	257	379	2	SD450	14R-8H9	2	磁器	碗	-	(3.7)	-	普通		明緑灰色(7.5GY8/1)	明緑灰色(7.5GY8/1)	透明軸	圏線		ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	1/36				近世			
210	257	380	2	SD450	14R-7H4	1	陶器	碗	-	-	-	普通	瀬戸美濃	灰白色(5Y8/1)	灰白色(5Y8/1)	染付透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ				3/36			近世		太白手カ	
210	257	381	2	SD450	14R-7H20	1	陶器	碗	-	(9.0)	-	普通	肥前	にぶい赤褐色(5YR5/3)	黒褐色(5YR2/2)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ?	5/36	3/36				近世	17C後~18C前		
210	257	382	2	SD450	14R-6H24	1	磁器	皿	(14.2)	-	-	普通	波佐見	明オリブ灰色(2.5GY7/1)	明オリブ灰色(2.5GY7/1)	染付透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		3/36			近世	18C代	くらわんか	
210	257	383	2	SD450	14R-8H15	2	磁器	皿	(12.0)	-	-	普通		明緑灰色(7.5GY8/1)	明緑灰色(7.5GY8/1)	透明軸	圏線		ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		1/36			近世			
210	257	384	2	SD450	14R-8H9	1	陶器	挿鉢	(28.0)	-	-	普通	唐津	にぶい赤褐色(5YR5/3)	にぶい赤褐色(5YR5/3)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		1/36			近世	17C後半		
210	257	385	2	SD450	14R-6H24	2	磁器	香炉	-	-	-	精	波佐見	明オリブ灰色(2.5GY7/1)	褐色(7.5YR7/6)	青磁軸			ロクロナデ	ロクロナデ				1/36			近世	18C初		
210	257	386	2	SD1300	14R-8F13	1	陶器	鉢	-	(12.4)	-	普通	肥前	暗褐色(7.5YR3/4)	暗褐色(7.5YR3/3)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	3/36				近世			
210	257	387	2	SD1299	14R-8F14	1	陶器	挿鉢	-	-	-	精	肥前	にぶい褐色(7.5YR5/3)	褐色(7.5YR4/3)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ 鉦目				1/36			近世	17C		
210	257	388	2	Pit639	14R-8I20	4	陶器	皿	-	4.2	-	精	チ・白 (唐津)	灰黄色(2.5Y7/2)	灰黄色(10YR5/3)	灰軸		腰部下無軸	ロクロケズリ ナデ	ロクロナデ	削り出し(右)	36/36	18/36		見込み：砂目		近世	17C前半	埴付磨耗	
210	257	389	2	Pit807	14R-9I2	1	陶器	鉢	25.2	-	-	普通	チ・白 唐津	灰白色(5Y6/2)	灰黄色(2.5Y7/2)	透明軸	刷毛目文		ロクロケズリ	ロクロケズリ		9/36		6/36			近世	17C~18C		
210	258	390	2	Pit913	14R-9H3	3	磁器	瓶	(5.6)	-	-	精		灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		5/36		1/36			近世	17C~18C代		
210	258	391	2	Pit564	14R-7H7	4	陶器	火入	10.0	-	-	精	白	唐津	褐色(10YR4/1)	褐色(10YR4/1)	鉄軸	横線文		ロクロナデ	ロクロナデ		8/36		6/36			近世	17C末~18C初	

図版No.	写真版No.	報告No.	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm)			胎質	胎土	産地	色調		装飾		成形・調整			遺存率			付着物	時代	時期年代	備考								
			区	遺構				グリッド	口径	底径				器高	外面	内面	絵付, 釉薬	文様	装飾特徴	外面	内面	底部	口縁					底部	全体						
210	258	392	2	Pt901	14R-9H16	1	磁器	小杯	(7.2)	-	-	普通	肥前	明緑灰色 (7.5GY8/1)	明緑灰色 (7.5GY8/1)	染付透明軸				ロクロナデ	ロクロナデ		4/36		1/36		近世	17C後?							
210	258	393	2	SD848	14R-10G14	1	陶器	皿	-	-	-	精	肥前(唐津)	灰白色 (2.5Y7/1)	灰白色 (2.5Y7/1)	薬灰軸				腰部下無軸	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36	内面: 砂目カ	近世	16c末~17c初頭							
210	258	394	2	SD848	14R-10G14	1	磁器	碗	-	(3.8)	-	普通		灰白色 (7/0)	灰白色 (7/0)	透明軸					ロクロナデ	ロクロナデ			6/36	4/36		近世	17C中						
210	258	395	2	SD940	14R-8H22	1	磁器	碗	(8.4)	-	-	普通		灰白色 (N7/1)	灰白色 (N8/0)	透明軸	山水文					ロクロナデ	ロクロナデ			3/36		1/36		近世	17C代				
210	258	396	2	SD940	14R-8H16	4	磁器	碗	(11.2)	-	-	精		灰白色 (N8/0)	灰白色 (N8/0)	透明軸	圏線					ロクロナデ	ロクロナデ			1/36		1/36		近世	17C代				
210	258	397	2	SD940	14R-8H22	1	磁器	碗	(11.2)	-	-	普通		灰白色 (N8/0)	灰白色 (N8/0)	透明軸	圏線					ロクロナデ	ロクロナデ			2/36		1/36		近世					
210	258	398	2	SD940	14R-8G17	1	磁器	碗	(10.2)	-	-	精		灰白色 (N8/)	灰白色 (N8/)	透明軸						ロクロナデ	ロクロナデ			6/36		28/36		近世	17C代				
210	258	399	2	SD940	14R-8H22	1	磁器	碗	-	(5.0)	-	精		灰白色 (N8/0)	灰白色 (N8/0)	透明軸	圏線					ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	1/36		近世					
210	258	400	2	SD940	14R-9G1	1	陶器	碗	(10.4)	-	-	普通	肥前	浅黄色 (2.5Y7/4)	浅黄色 (2.5Y7/4)	透明軸						ロクロナデ	ロクロナデ			2/36		2/36		近世	17C後~18C前	京焼風?			
210	258	401	2	SD940	14R-9G11	1	陶器	皿	-	(4.2)	-	普通	チ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	薬灰軸						ロクロケズリナデ	ロクロナデ			16/36	3/36		見込み: ススカ	近世	17C後~18C前				
210	258	402	2	SD940	14R-8H17	1	陶器	皿	-	4.7	-	普通	長・角	唐津	オリーブ黄色 (5Y6/3)	オリーブ黄色 (5Y6/3)	透明軸						ロクロケズリナデ	ロクロナデ			36/36	12/36		内外面: 砂目	近世	17C後~18C			
210	258	403	2	SD940	14R-10G6	1	磁器	皿	-	(6.6)	-	精	肥前(伊万里)	灰白色 (5Y7/1)	灰白色 (5Y7/1)	透明軸	輪花						ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	1/36		近世	17C中頃			
210	258	404	2	SD940	14R-8G16 14R-8G21	1	磁器	皿	13.8	5.4	3.1	精	肥前(伊万里)	灰白色 (N7/0)	灰白色 (N7/0)	透明軸	花文 圏線	畳付無軸					ロクロナデ	ロクロナデ	削り出し高台	15/36	12/36	19/36		近世	17C中~後末				
210	258	405	2	SD940	14R-9G11	1	陶器	皿	13.3	4.1	3.9	粗	肥前(伊万里)	灰白色 (5Y7/1)	灰白色 (5Y7/1)	薬灰軸	唐草文カ	蛇ノ目軸剥					ロクロケズリナデ	ロクロナデ	削り出し高台	11/36	36/36	30/36		内面: 目跡	近世	17C後半			
211	258	406	2	SD940	14R-9G6	1	陶器	皿	(14.2)	-	-	精	肥前(唐津)	灰黄色 (2.5Y7/2)	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	鉄軸	鉄絵カ	腰部下無軸						ロクロナデ	ロクロナデ			5/36		4/36		近世	16C末~17C前半		
211	258	407	2	SD940	14R-8G21	1	陶器	皿	(15.2)	-	-	精		灰白色 (2.5Y7/1)	灰黄色 (2.5Y7/2)	無軸							ロクロナデ	ロクロナデ			3/36		1/36		近世				
211	258	408	2	SD940	14R-9G11	1	陶器	皿	21.2	5.8	6.1	普通		灰白色 (5Y7/2)	明緑灰色 (10GY7/1)	銅緑軸							蛇ノ目軸剥	ロクロナデ	ロクロナデ	削り出し高台	17/36	36/36	27/36		近世	17c第四半期~18c前半			
211	258	409	2	SD940	14R-8G21	1	陶器	皿	-	4.2	-	普通	長・チ	唐津	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	透明軸							ロクロケズリナデ	ロクロナデ	削り出し高台		30/36	6/36		近世	17C後~18C前	京焼風		
211	258	410	2	SD940	14R-8G21 14R-10G12	1 IV	陶器	掃鉢	-	(10.6)	-	精	白	にぶい赤褐色 (2.5YR5/4)	暗赤褐色 (2.5YR3/6)	鉄軸								ロクロナデ 鉦目	ロクロナデ 鉦目	ヘラナデ		17/36	9/36		近世	17C代			
211	258	411	2	SD940	14R-9G11	1	陶器	掃鉢	(33.0)	-	-	精	肥前	灰褐色 (5YR4/2)	にぶい赤褐色 (2.5YR4/3)	鉄軸								ロクロナデ 鉦目	ロクロナデ 鉦目			5/36		2/36		近世	17C後		
211	258	412	2	SD940	14R-9G1	1	陶器	掃鉢	-	-	-	精		にぶい褐色 (7.5YR5/4)	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	鉄軸カ								ロクロナデ	ロクロナデ				1/36			近世			
211	258	413	2	SD940	14R-8G21	1	陶器	掃鉢	-	(12.0)	-	粗	肥前カ	明赤褐色 (5YR5/6)	明赤褐色 (5YR5/6)	鉄軸								ロクロナデ	ロクロナデ 鉦目			4/36	1/36		近世	17C			
211	258	414	2	SD940	14R-10G6	1	陶器	鉢	-	-	-	普通		にぶい赤褐色 (2.5YR5/4)	灰黄褐色 (10YR6/2)	薬灰軸	刷毛目文							ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り			1/36			近世	17C後~18C前		
211	258	415	2	SD1241	14R-9F18	1	磁器	皿	-	-	-	普通		灰白色 (N8/0)	灰白色 (N8/0)	透明軸	圏線						ロクロナデ	ロクロナデ			18/36	7/36		近世	18C代	くらわんか			
211	259	416	2	SD1241	14R-8F17	1	陶器	皿	(12.0)	-	-	普通		緑灰色 (7.5GY6/1)	緑灰色 (7.5GY6/1)	銅緑軸							ロクロナデ	ロクロナデ			2/36		1/36		近世				
211	259	417	2	SD1242	14R-10F14	1	陶器	碗	-	(9.2)	-	普通	肥前カ	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	黄褐色 (2.5Y5/4)	鉄軸 (高台) 透明軸								ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	3/36		近世				
211	259	418	2	SD1242	14R-10F4	1	陶器	碗	-	-	-	普通	肥前	灰白色 (10GY8/1)	灰白色 (10GY8/1)	透明軸	圏線						ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	1/36		近世	17C後~18C前	二次加工品			
211	259	419	2	SD1554	14R-10C4	1	磁器	鉢	(22.8)	-	-	普通		灰白色 (5GY8/1)	灰白色 (5GY8/1)	透明軸	圏線 列点文							ロクロナデ	ロクロナデ			2/36		1/36		近世	17C		
211	259	420	2	SD1563	14R-9C12	1	磁器	碗	-	(5.0)	-	精	肥前	灰白色 (2.5GY8/1)	灰白色 (2.5GY8/1)	透明軸	二重網目文							ロクロナデ	ロクロナデ			11/36	5/36		近世				
211	259	421	2	SD1563	14R-10C2	1	陶器	鉢	(14.0)	-	-	普通	長・角	肥前カ	灰白色 (5Y8/2)	灰白色 (5Y8/2)	白化粧カ								ロクロナデ	ロクロナデ			4/36		4/36		近世		被熱
211	259	422	2	SD1563	14R-9C7	1	陶器	甕	(20.2)	-	-	普通	肥前(唐津)	褐色 (7.5YR4/3)	褐色 (7.5YR4/3)	鉄軸								ロクロナデ	ロクロナデ			5/36		1/36		近世	17C前~中葉		
211	259	423	2		14Q-10I12	IV	磁器	皿	-	3.4	-	普通	チ	灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (10Y8/1)	染付透明軸								ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		18/36	6/36		近世	18C末~19C初			
211	259	424	2		14R-7J22	IV	磁器	碗	(12.0)	-	-	普通		灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (10Y8/1)	透明軸	草花文							ロクロナデ	ロクロナデ			3/36		1/36		近世	17C代		

図版No.	写真版No.	報告No.	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm)			胎質	胎土	産地	色調		装飾			成形・調整			遺存率		付着物	時代	時期年代	備考		
			区	遺構				グリッド	口径	底径				器高	外面	内面	絵付,軸染	文様	装飾特徴	外面	内面	底部	口縁					底部	全体
211	259	425	2		14R-8H16	IV	磁器	碗	-	(5.0)	-	普通		明緑灰色 (7.5GY8/1)	明緑灰色 (7.5GY8/1)	透明軸	山水文		ロクロナデ	ロクロナデ		17/36	9/36	外面:砂目	近世	17C後か?			
211	259	426	2		14R-8H22	IV	磁器	徳利	-	-	-	普通		灰白色 (10Y8/1)	灰黄色 (2.5Y7/2)	透明軸	風景文		ロクロナデ	ロクロナデ			1/36			近世			
211	259	427	2		14R-8H22	IV	陶器	皿	(13.0)	-	-	普通		灰白色 (7.5Y7/2)	灰白色 (7.5Y7/2)	染付 透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	1/36		近世				
212	259	428	2		14R-8H22	IV	磁器	皿	-	-	-	精	肥前 (伊万里)	明オリブ灰色 (2.5GY7/1)	明オリブ灰色 (2.5GY7/1)	染付 透明軸	圏線	蛇ノ目軸剥 蛇ノ目高台カ	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	1/36		近世	17C前~中葉		
212	259	429	2		14R-8H23	IV	陶器	掃鉢	(30.0)	-	-	普通	白	唐津	にふい褐色 (7.5YR6/4)	にふい褐色 (7.5YR6/3)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	1/36		近世	17C後半		
212	259	430	2		14R-8I10	IV	陶器	皿	(13.4)	-	-	精	肥前 (唐津)	灰白色 (10Y7/2)	灰白色 (10Y7/2)	灰軸		満縁口縁	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	1/36	砂目カ	近世	17C前半			
212	259	431	2		14R-8I22	IV	磁器	碗	(10.2)	-	-	普通	肥前	灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (10Y8/1)	染付 透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	1/36		近世	18Cか?			
212	259	432	2		14R-9B9	IV	磁器	碗	-	4.2	-	普通	肥前 (伊万里)	灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (10Y8/1)	透明軸	二重網目文		ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	5/36		近世	18C前半			
212	259	433	2		14R-9B16	IV	陶器	鉢	-	-	-	精		黒褐色 (10YR2/3)	明オリブ灰色 (5GY7/1)	鉄軸 透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ			1/36			近世			
212	259	434	2		14R-9C5	IV	陶器	手付き鉢	-	-	-	普通		明緑灰色 (10GY7/1)	明緑灰色 (10GY7/1)	透明軸			ナデ	ナデ			1/36			近世		把手部分 (厚さ1.4cm)	
212	259	435	2		14R-9C13	IV	陶器	土瓶	-	-	-	精		灰白色 (10YR8/1)	にふい黄褐色 (10YR7/3)	染付 透明軸	圏線		ロクロナデ	ロクロナデ			1/36			近世			
212	259	436	2		14R-9G19	IV	磁器	碗	(10.6)	-	-	普通		灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (10Y8/1)	透明軸	葉文		ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	1/36		近世	18Cか?			
212	259	437	2		14R-9I14	IV	磁器	皿	-	-	-	精		灰白色 (2.5Y8/1)	灰白色 (10Y7/1)	透明軸	見込み鶴文		ロクロナデ	ロクロナデ			1/36	墨継痕	近世	17C			
212	259	438	2		14R-9I15	IV	磁器	碗	-	(5.3)	-	普通		灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (10Y8/1)	透明軸	圏線 底面銘		ロクロナデ	ロクロナデ		10/36	3/36		近世	17C後~18C初			
212	259	439	2		14R-9I15	IV	磁器	香炉	-	-	-	普通	肥前系	明オリブ灰色 (2.5GY7/1)	灰白色 (5YR8/2)	青磁軸			ロクロナデ	ロクロナデ			1/36			近世			
212	259	440	2		14R-9I15	IV	磁器	瓶	(8.5)	-	-	精	肥前 (伊万里)	灰白色 (2.5GY8/1)	灰白色 (2.5GY8/1)	透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		9/36	1/36		近世				
212	259	441	2		14R-9I15	IV	磁器	瓶	-	-	-	普通		明緑灰色 (7.5GY8/1)	灰白色 (5Y8/1)	透明軸	圏線		ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	1/36		近世	18Cか?	断面に鉄分付着		
212	259	442	2		14R-9I19	IV	陶器	皿	-	5.4	-	精	肥前 (唐津)	灰白色 (10YR7/1)	灰白色 (10YR7/1)	薬灰軸		蛇ノ目高台	ロクロケズリ ナデ	ロクロナデ	削り出し高台		28/36	12/36	砂目	近世	17C前半 (~1630年代)		
212	259	443	2		14R-9J5	IV	陶器	碗	-	-	-	普通	肥前	灰白色 (5Y7/1)	灰白色 (5Y7/1)	染付 透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ			1/36			近世			
212	259	444	2		14R-9J7	IV	磁器	碗	(11.2)	-	-	普通	肥前	灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (10Y8/1)	透明軸	草花文		ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	1/36		近世				
212	259	445	2		14R-9J11	IV	磁器	碗	-	3.9	-	普通		灰白色 (2.5GY8/1)	灰白色 (2.5GY8/1)	透明軸	風景文		ロクロナデ	ロクロナデ		19/36	11/36		近世	17C末~18C前半			
212	259	446	2		14R-10A2	IV	磁器	徳利	-	(6.0)	-	普通		極暗赤褐色 (5YR2/3)	灰白色 (10YR8/1)	鉄軸			ロクロナデ	ロクロナデ		11/36	2/36		近世				
212	259	447	2		14R-10B6	IV	磁器	猪口	(8.0)	-	-	普通		灰白色 (7.5Y7/2)	灰白色 (10Y8/1)	透明軸	草花文	円形突起	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	2/36		近代	近代か?			
212	259	448	2		14R-10C7	IV	磁器	碗	(9.6)	-	-	普通		灰白色 (10Y7/1)	灰白色 (10Y7/1)	染付 透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	1/36		近世				
212	259	449	2		14R-10C7	IV	磁器	猪口	(7.0)	-	-	普通		灰白色 (N8/)	灰白色 (N8/)	透明軸	風景文カ		ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	1/36		近世	19C以降			
212	259	450	2		14R-10F5	IV	陶器	掃鉢	-	(9.0)	-	普通		にふい赤褐色 (5YR5/4)	にふい赤褐色 (5YR5/4)	鉄軸		卸目	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		10/36	3/36		近世	17C		
212	259	451	2		14R-10F15	IV	陶器	鉢	-	(10.2)	-	普通	長・白	唐津	にふい褐色 (7.5YR5/3)	灰白色 (7.5Y8/1)	白化粧カ 鉄軸			ロクロケズリ ナデ	ロクロケズリ ナデ		7/36	1/36	内面:砂目	近世	17C		
212	259	452	2		14R-10G10	IV	磁器	碗	(10.2)	-	-	普通		灰白色 (N8/)	灰白色 (N8/)	透明軸	人物文 (うちわカ)		ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	1/36		近世	18Cか?			
212	259	453	2		14R-10G10	IV	磁器	皿	-	3.6	-	普通		明オリブ灰色 (2.5GY7/1)	灰白色 (10Y8/1)	染付 透明軸		蛇ノ目軸剥	ロクロケズリ ナデ	ロクロナデ	ロクロケズリ		36/36	12/36	内面:砂目カ	近世	17C後~18C前		
212	259	454	2		14R-10G12	IV	陶器	鉢	-	(12.2)	-	普通		赤灰色 (2.5YR4/1)	褐色 (5YR4/1)	鉄軸			ロクロケズリ	ロクロケズリ	ロクロケズリ		6/36	1/36		近世	17C代か?		
212	259	455	2		14R-10H1	IV	磁器	碗	(12.2)	-	-	普通	肥前	灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (10Y8/1)	透明軸			ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	1/36		近世				
212	259	456	2		14Q-10I11	IV	磁器	碗	(15.4)	-	-	普通	肥前	灰白色 (10Y8/2)	灰白色 (10Y8/2)	透明軸	草花文		ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	1/36		近世	18Cか?			
212	259	457	2		15Q-3F13	IV	磁器	皿	-	-	-	精		淡褐色 (5YR8/3)	淡褐色 (5YR8/3)	透明軸		蛇ノ目軸剥	ロクロケズリ	ロクロナデ	削り出し		6/36	7/36		近世	17C後~18C前		

別表7 土製品と瓦観察表

図版No.	写真図版No.	報告No.	出土位置			器種	法量 (cm)			重量 (g)	胎土		色調		焼成	手法		遺存率	備考	
			区	遺構名	グリッド		層位	口径長さ	底径幅		孔径厚	状態	含有物	外面		内面	外面			内面
212	259	1	2	SX1131	14R-9A25	1	人形	2.6	3.9	1.1	7.38	普通	白	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	酸化	型押しナデ	型押し	全体9/36	
212	259	2	2	SX1131	14R-9A25	6	人形	3.5	3.6	0.9	10.21	普通	長・白	明褐色(7.5YR5/6)	明褐色(7.5YR5/6)	酸化	型押しナデ・ケズリ	型押し	全体3/36	
212	259	3	2	SX1131	14R-9A25	6	人形	2.2	2.6	0.7	6.49	普通	雲・白	明褐色(7.5YR5/6)	明褐色(7.5YR5/6)	酸化	型押しナデ	型押し	全体3/36	
212	259	4	2	SX1131	14R-9B21	3	人形	2.4	3.2	1.3	7.05	普通	石・雲・焼	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	酸化	型押しナデ	型押し	全体3/36	四足動物の足か?
212	259	5	2	SX1131	14R-9A25	3	鉢型	6.6	7.4	3.5	80.76	粗	長・雲・白	灰黄褐色(10YR6/2)	灰黄褐色(10YR6/2)	酸化	—	—	不明	
212	259	6	2	SD940	14R-10G12	1	羽口	2.6	3.0	1.4	9.59	粗	石・白	にぶい黄褐色(10YR5/3)	にぶい黄褐色(10YR5/3)	酸化	ナデ	—	全体2/36	
212	259	7	2	SD119	14R-6I13	1	不明土製品	4.1	3.3	2.3	19.93	粗	雲・焼	褐色(5YR6/6)	—	酸化	ナデ	ナデ	全体26/36	
212	259	8	2	SK645	14R-9I7	1	円盤状土製品	2.0	1.9	0.5	1.55	普通	雲	明黄褐色(10YR7/6)	—	酸化	ナデ	ナデ	全体36/36	
212	259	9	2	SX1131	14R-9B21	3	瓦	11.1	5.8	1.9	121.99	普通	石・白	暗赤褐色(2.5YR3/2)	暗赤褐色(2.5YR3/2)	酸化	ケズリ施軸	ケズリ施軸	全体9/36	

別表8 石製品観察表

図版No.	写真図版No.	報告No.	出土位置			種別	分類	石材	法量 (mm, g)				備考	
			区	遺構	グリッド				層位	長さ	幅	厚さ		重量
213	260	1	1		14Q-3F11	IV	礫石	B類	凝灰岩	41.38	32.49	28.21	47.73	砥面5面
213	260	2	1	SK705	14Q-3F16	1	礫石	B類	凝灰岩	33.96	32.25	30.29	37.73	砥面4面
213	260	3	1	SK684	14Q-3E13	1	礫石	B類	凝灰岩	70.65	25.81	22.78	32.34	砥面3面
213	260	4	1	NR500	14Q-1I17	3	礫石	B類	凝灰岩	37.27	22.63	24.12	15.73	砥面1面
213	260	5	1	SD733	14Q-1E18	3	礫石	B類	凝灰岩	29.66	31.31	13.80	16.10	砥面4面
213	260	6	1	SD329	14R-1C6	1	礫石	C類	凝灰岩	58.78	44.31	40.32	71.61	砥面3面
213	260	7	1	NR500	14Q-1I17	3	礫石	C類	凝灰岩	19.77	19.75	19.66	6.47	砥面1面
213	260	8	1	NR500	14Q-1I12	3	礫石	C類	凝灰岩	52.59	35.88	74.48	140.43	砥面2面
213	260	9	1	SK685	14Q-3E14	1	礫石	C類	凝灰岩	59.87	31.11	11.59	20.21	砥面4面
213	260	10	1	NR500	14Q-1I16	3	礫石	C類	凝灰岩	45.60	41.25	37.46	45.30	砥面1面
213	260	11	1	NR500	14Q-1I17	3	礫石	C類	凝灰岩	73.03	63.21	31.42	151.01	砥面2面
213	260	12	1	SD623	14Q-1G21	1	礫石	C類	頁岩	58.63	48.36	20.78	26.48	砥面1面
213	260	13	1	NR500	14Q-1I17	4	礫石	C類	凝灰岩	31.46	27.22	8.43	6.28	砥面1面
213	260	14	1	SD733	14R-8C10	3	礫石+礫石	—	凝灰岩	82.40	76.79	54.64	255.05	砥面1面 被熱
213	260	15	1	Pt40	13R-7D16	1	磨石	A類	礫岩	97.19	85.69	23.57	286.22	磨面2面
213	260	16	1	SD3	14R-2A25	4	磨石	A類	凝灰岩	91.91	61.66	23.63	197.48	磨面4面
213	260	17	1	SK680	14Q-3E15	1	磨石	A類	硬質砂岩	78.46	60.93	15.81	116.73	磨面4面
213	260	18	1	SD3	14R-2B16	2	磨石	A類	砂岩	66.85	48.92	19.50	85.30	磨面4面
213	260	19	1	SD448	14Q-1H3	1	磨石	A類	硬質砂岩	43.68	65.19	23.16	90.91	磨面2面
213	260	20	1	SK680	14Q-3E15	1	磨石	A類	流紋岩	39.48	55.91	16.33	27.14	磨面1面
213	260	21	1	SD448	14Q-2G4	6	磨石	A類	花崗岩	60.41	53.83	41.26	176.56	磨面4面
213	260	22	1	SD329	14R-2C1	4	磨石	A類	花崗岩	64.88	45.48	34.53	139.17	磨面4面
214	260	23	1	SD733	14Q-4D10	1	磨石	A類	安山岩	66.98	74.70	39.62	220.82	磨面1面 被熱
214	260	24	1	SD409	14R-3B6	3	磨石	A類	砂岩	68.61	40.91	23.83	101.08	磨面2面
214	260	25	1	SD703	14Q-3E18	1	磨石	A類	砂岩	63.11	34.60	19.20	68.24	磨面2面
214	260	26	1	SD329	14R-2C11	4	磨石	A類	砂岩	34.58	26.54	19.06	26.04	磨面4面
214	260	27	1	SK680	14Q-3E15	1	磨石	A類	凝灰岩	52.36	40.31	29.48	81.15	磨面4面
214	261	28	1	SD3	14R-3A4	2	磨石	A類	硬質砂岩	51.76	26.97	21.09	45.86	磨面4面
214	261	29	1	SD329	14R-1C21	2	磨石	B類	砂岩	49.32	33.92	12.51	32.78	磨面4面
214	261	30	1	SD329	14R-1C16	2	磨石	B類	安山岩	37.65	24.95	9.84	12.12	磨面4面
214	261	31	1	SD329	14R-1C16	2	磨石	B類	凝灰岩	43.09	31.55	23.85	35.97	磨面4面
214	261	32	1	SD329	14R-1C11	2	磨石	C類	凝灰岩	87.13	41.62	24.98	98.01	磨面5面
214	261	33	1	SD329	14R-2C1	2	磨石	C類	硬質砂岩	63.65	44.91	17.88	60.01	磨面2面
214	261	34	1	SD733	14Q-4D5	1	磨石	C類	硬質砂岩	55.88	38.96	12.08	42.78	磨面2面 被熱
214	261	35	1	SD3	14R-3A5	2	磨石	C類	硬質砂岩	55.10	37.81	29.09	90.65	磨面2面
214	261	36	1	SD329	14R-2C6	4	磨石	C類	凝灰岩	50.65	35.97	23.19	31.63	磨面2面
214	261	37	1	SD329	14R-1C6	1	磨石	—	凝灰岩	42.92	40.23	15.34	25.78	磨面2面 被熱
214	261	38	1		13R-8F21	IV	磨石	—	硬質砂岩	27.40	19.44	14.72	9.25	磨面1面
214	261	39	1	SK682	14Q-3F11	1	磨石+礫石	—	花崗岩	43.17	20.47	7.99	5.93	磨面1面
214	261	40	1	SK680	14Q-3E14	1	磨石+礫石	磨石C類+礫石A類	凝灰岩	101.64	48.26	33.57	180.15	磨面2面
214	261	41	1	SD28	13R-7D18	1	磨石+礫石	磨石C類+礫石A類	流紋岩	80.95	50.84	20.18	73.01	磨面2面
214	261	42	1	SD329	14R-1C11	2	磨石+礫石	磨石C類+礫石A類	硬質砂岩	50.21	24.91	13.07	19.71	磨面2面
214	261	43	1	SD577	14Q-3D7	3	磨石+礫石	磨石A類+礫石B類	硬質砂岩	75.15	39.60	25.71	114.63	磨面2面
214	261	44	1	SD329	14R-1C21	2	磨石+礫石	磨石A類+礫石B類	凝灰岩	80.40	56.03	17.98	84.76	磨面1面
214	261	45	1	SK691	14Q-3E13	3	磨石+礫石	磨石A類+礫石B類	安山岩	58.71	61.75	29.53	135.54	磨面1面
214	261	46	1	SD733	14Q-2E2	1	磨石+礫石	磨石A類+礫石B類	安山岩	70.86	50.42	29.77	144.65	磨面2面
214	261	47	1	SD329	14R-1C7	4	磨石+礫石	磨石A類+礫石B類	硬質砂岩	56.14	42.13	23.19	82.72	磨面2面
214	261	48	1	SD733	14Q-3E1	1	磨石+礫石	磨石A類+礫石B類	凝灰岩	56.98	39.33	26.29	64.59	磨面2面
214	261	49	1	SD329	14R-1C11	2	磨石+礫石	磨石A類+礫石B類	花崗岩	32.26	38.33	24.09	37.95	磨面2面
214	261	50	1		13R-9C4	IV	磨石+礫石	磨石A類+礫石B類	花崗岩	54.48	44.09	33.66	103.55	磨面2面
214	261	51	1	SD329	14R-1C11	5	磨石+礫石	磨石A類+礫石B類	花崗岩	44.35	38.06	24.16	48.18	磨面1面
214	261	52	1	SD329	14R-1C6	2	磨石+礫石	磨石A類+礫石B類	頁岩	35.96	46.12	26.93	51.37	磨面1面
215	261	53	1	SD329	14R-1C8	4	磨石+礫石	磨石C類+礫石C類	珪質頁岩	45.36	38.89	24.51	47.36	磨面2面
215	261	54	1	SD329	14R-1C8	2	磨石+礫石	磨石C類+礫石C類	緑色珪質頁岩	72.15	68.25	46.05	259.56	磨面1面
215	261	55	1	SD329	14R-1C6	2	磨石+礫石	磨石C類+礫石C類	凝灰岩	88.95	64.63	37.40	263.47	磨面1面
215	261	56	1	SD329	14R-1C6	2	磨石+礫石	磨石C類+礫石C類	頁岩	57.65	48.82	24.86	76.07	磨面1面
215	262	57	1	SD3	14R-3A4	2	礫石	B類	砂岩	110.49	47.49	30.80	209.79	被熱
215	262	58	1	SD446	14Q-2G12	2	礫石	B類	砂岩	111.38	39.25	28.82	154.53	
215	262	59	1	SD205	13Q-9J8	2	礫石	B類	砂岩	69.13	40.32	36.82	127.33	
215	262	60	1	SD733	14Q-2E17	1	礫石	B類	安山岩	66.31	29.77	25.70	37.86	
215	262	61	1	SD329	14R-1C16	2	礫石	B類	凝灰岩	35.62	27.03	22.78	24.23	
215	262	62	1	SD329	14R-2C1	2	礫石	B類	砂岩	53.98	24.96	17.72	34.92	
215	262	63	1	SD329	14R-1C16	2	礫石	B類	流紋岩	47.17	28.41	26.83	39.78	

図版 No.	写真 版No.	報告 No.	出土位置			種別	分類	石材	法量 (mm, g)				備考	
			区	遺構	グリッド				層位	長さ	幅	厚さ		重量
215	262	64	1	SK705	14Q-3F16	1	礫石	B類	硬質砂岩	59.03	32.93	26.85	61.71	
215	262	65	1	SK680	14Q-3E15	1	礫石	B類	砂岩	60.41	30.65	33.21	72.54	
215	262	66	1	SK681	14Q-3F16	4	礫石	C類	安山岩	74.18	48.61	28.22	132.97	
215	262	67	1	SD3	14R-2B16	2	礫石	C類	砂岩	54.46	31.26	26.01	64.75	
215	262	68	1	SD329	14R-1C21	2	礫石	C類	礫岩	64.72	50.49	23.71	91.06	
215	262	69	1	SD733	14R-8I16	1	礫石	C類	凝灰岩	51.27	39.06	28.67	76.54	
215	262	70	1	SD732	14Q-1E23	1	礫石	C類	花崗岩	39.68	37.44	21.68	38.30	
215	262	71	1	SK685	14Q-3E14	1	礫石	C類	チャート	36.67	31.23	20.91	32.17	
215	262	72	1	SD733	14Q-3E1	1	礫石	C類	砂岩	39.12	25.67	21.44	31.60	
215	262	73	1	SK680	14Q-3E15	1	礫石	C類	砂岩	44.09	28.67	24.48	35.84	
215	262	74	1	SK682	14Q-3F11	1	礫石	C類	凝灰岩	44.72	42.82	35.20	61.20	
215	262	75	1	SD733	14Q-4D5	1	礫石	C類	安山岩	56.84	42.82	34.78	103.21	
215	262	76	1	SD3	14R-2A20	2	礫石	C類	凝灰岩	54.11	35.05	34.40	83.82	
215	262	77	1	SD329	14R-1C6	2	礫石	C類	花崗岩	77.64	81.02	50.93	305.17	
216	262	78	1	SD205	13R-9A12	2	礫石	C類	流紋岩	63.16	80.89	69.12	402.26	
216	262	79	1	SD329	14R-1C21	4	礫石	C類	砂岩	112.47	70.09	40.33	371.13	
216	263	80	1	SD329	14R-1C11	4	礫石	C類	砂岩	69.98	48.70	42.51	150.71	
216	263	81	1	SK705	14Q-3F16	1	礫石	C類	花崗岩	53.99	42.37	32.14	74.27	
216	263	82	1	SD329	14R-1C16	5	礫石	C類	砂岩	49.36	35.18	27.61	72.45	
216	263	83	1	SK680	14Q-3E15	1	礫石	C類	砂岩	52.08	35.19	34.24	81.74	
216	263	84	1	SK680	14Q-3E14	1	礫石	C類	流紋岩	49.14	33.01	26.48	46.65	
216	263	85	1	SK706	14Q-3F12	1	礫石	C類	花崗岩	53.48	35.57	25.24	66.39	
216	263	86	1	SD329	14R-1C16	2	礫石	C類	流紋岩	53.35	38.85	27.13	56.61	
216	263	87	1	SK682	14Q-3F11	1	礫石	C類	硬質砂岩	52.66	29.92	17.79	33.20	
216	263	88	1	SD733	14Q-3E11	1	礫石	C類	流紋岩	67.15	39.63	27.49	82.51	
216	263	89	1	SK680	14Q-3E15	1	礫石	C類	凝灰岩	46.52	51.33	17.97	42.61	
216	263	90	1	SD329	14R-1C8	2	礫石	C類	頁岩	39.12	48.53	28.07	63.03	
216	263	91	1	SD733	14Q-4D5	1	礫石	C類	花崗岩	39.88	39.31	33.57	67.03	
216	263	92	1	SD329	14R-1C21	2	礫石	C類	砂岩	48.43	32.83	14.91	39.14	
216	263	93	1	SD3	14R-2B16	11	礫石+台石	礫石C類+台石	砂岩	123.06	85.41	77.78	920.44	磨面1面
216	263	94	1	SD576	14Q-5F14	3	台石	-	硬質砂岩	70.81	71.72	69.77	200.50	磨面2面
216	263	95	1	SD205	13R-10D7	2	台石	-	流紋岩	97.56	46.93	82.77	331.97	磨面2面
217	263	96	1	SD205	13R-9B16	10	台石	-	流紋岩	132.79	63.52	64.08	354.11	被熱
217	263	97	1	SK681	14Q-3F16	2	台石	-	緑色凝灰岩	89.04	73.98	64.88	351.28	磨面1面
217	263	98	1	SK706	14Q-3F17	1	台石	-	凝灰岩	100.58	67.58	37.47	139.26	磨面1面 被熱
217	263	99	1	Pt832	13R-9A10	1	台石	-	砂岩	61.98	54.33	31.19	115.43	
217	263	100	1	SD329	14R-1C21	2	台石	-	花崗岩	65.06	31.38	32.49	73.25	磨面1面
217	264	101	1	SD634	14Q-1F12	1	軽石製石製品	中形品	軽石	58.56	40.92	27.15	12.35	磨面2面
217	264	102	1	SD3	14R-2B16	1	軽石製石製品	小形品	軽石	42.04	29.53	14.54	5.41	磨面1面
217	264	103	1	SK700	14Q-3F12	1	軽石製石製品	小形品	軽石	35.78	28.02	24.04	8.20	磨面2面
217	264	104	1		13Q-10J4	IV	軽石製石製品	小形品	軽石	36.51	26.53	18.81	8.76	磨面3面
217	264	105	1	SK680	14Q-3E15	1	石白	-	凝灰岩	92.72	74.28	40.86	225.18	
217	264	106	1		14R-1A2	IV	不定形石器	-	頁岩	42.71	30.54	8.01	11.92	
217	264	107	1	NR500	14Q-1I16	4	剥片	-	凝灰岩	85.42	81.57	43.20	292.31	砥石未製品
217	264	108	1	NR500	14Q-1I16	4	剥片	-	凝灰岩	81.57	63.35	39.87	219.77	砥石未製品
217	264	109	1	NR500	14Q-1I16	4	剥片	-	凝灰岩	86.53	133.93	43.18	512.08	砥石未製品 107+108
217	264	110	1	SD329	14R-2C6	4	剥片	-	頁岩(黒色)	59.99	34.61	17.51	37.31	
218	264	111	2	SX1131	14R-9A25	6	礫石	A類	粘板岩	37.51	30.44	2.76	5.16	砥面2面
218	264	112	2	SD252	14R-9J12	1	礫石	-	凝灰岩	38.39	31.58	7.45	8.27	砥面1面
218	264	113	2	SD940	14R-8I11	1	礫石	-	凝灰岩	28.80	17.90	9.12	4.79	砥面3面
218	264	114	2	SX1131	14R-9B16	1	礫石	-	凝灰岩	36.76	22.57	5.11	3.45	砥面1面
218	264	115	2	SK556	14R-8H7	1	礫石	-	凝灰岩	40.55	20.84	9.13	7.32	砥面1面
218	264	116	2	SD492	14R-8I11	1	礫石	-	凝灰岩	26.82	26.41	15.95	5.72	砥面3面
218	264	117	2	SD492	14R-8I11	1	礫石	-	凝灰岩	21.33	12.49	13.64	2.45	砥面1面
218	264	118	2	SK628	14R-8G20	3	礫石	-	凝灰岩	40.62	38.79	12.63	13.25	砥面5面
218	264	119	2	SX1131	14R-9A25	1	礫石	-	凝灰岩	62.10	48.86	11.65	36.60	砥面2面
218	264	120	2	SX1131	14R-9A20	1	礫石	B類	凝灰岩	30.89	32.55	25.84	18.24	砥面5面
218	264	121	2		14R-8I10	IV	礫石	B類	凝灰岩	51.04	30.35	12.31	34.04	砥面6面
218	265	122	2	SE847	14R-8J6	2	礫石	B類	珪質頁岩	79.15	56.62	21.38	116.23	砥面2面
218	265	123	2	SX1131	14R-9A25	6	礫石	B類	凝灰岩	61.52	31.09	38.03	72.79	砥面4面
218	265	124	2	SD940	14R-8H16	3	礫石	B類	凝灰岩	97.16	42.39	45.26	232.72	砥面4面
218	265	125	2		14R-10B8	IV	礫石	B類	凝灰岩	97.55	47.47	21.86	92.02	砥面5面
218	265	126	2	SD1241	14R-10F3	2	礫石	B類	凝灰岩	51.19	51.55	43.38	141.55	砥面4面
218	265	127	2	SD362	14R-6H8	3	礫石	B類	凝灰岩	60.53	28.59	44.43	68.58	砥面3面
218	265	128	2	SK282	14S-7A22	3	礫石	B類	凝灰岩	43.88	34.76	38.25	57.19	砥面1面
218	265	129	2	SK735	14R-9I14	2	礫石	B類	凝灰岩	91.24	39.73	27.61	68.80	砥面3面
218	265	130	2		14R-7I24	IV	礫石	B類	凝灰岩	65.93	31.02	18.41	34.78	砥面5面
218	265	131	2	SD450	14R-6H9	1	礫石	B類	凝灰岩	40.67	42.33	25.58	38.83	砥面2面
218	265	132	2	SE444	14R-8J2	1	礫石	B類	凝灰岩	63.09	41.29	51.44	134.99	砥面5面
219	265	133	2	SD1635	14R-6F18	2	礫石	-	凝灰岩	66.13	46.06	57.88	156.47	砥面2面
219	265	134	2	SK442	14R-7J24	2	礫石	-	凝灰岩	52.82	35.84	52.26	70.55	砥面1面
219	265	135	2	SK550	14R-7H16	2	礫石	C類	凝灰岩	38.26	40.01	22.54	24.39	砥面1面
219	265	136	2	SD492	14R-8I11	3	礫石	C類	凝灰岩	17.92	51.67	23.19	23.25	砥面5面
219	265	137	2	SX1131	14R-9A25	1	礫石	C類	凝灰岩	73.28	66.96	22.05	81.90	砥面3面 被熱
219	265	138	2	SK400	14R-7I16	1	礫石	C類	凝灰岩	63.41	60.67	35.53	125.22	砥面5面
219	266	139	2	SD492	14R-8H15	10	礫石	C類	珪化木	141.11	36.16	18.06	103.25	砥面4面
219	266	140	2	SD1635	14R-6F18	2	礫石	C類	凝灰岩	102.74	66.66	47.11	276.86	砥面1面
219	266	141	2		14R-8H16	IV	礫石	C類	凝灰岩	74.89	35.58	77.87	156.80	砥面2面
219	266	142	2	SK550	14R-7H16	1	礫石	C類	凝灰岩	76.90	43.54	44.31	86.07	砥面4面
219	266	143	2	SD481	14S-8A16	2	礫石	C類	凝灰岩	46.66	42.46	20.62	35.80	砥面3面
219	266	144	2	SE449	14R-9J6	1	礫石	C類	流紋岩	45.75	54.25	10.55	28.09	砥面3面
219	266	145	2	SX1131	14R-9B21	3	礫石	C類	凝灰岩	46.12	34.65	11.84	18.06	砥面1面
219	266	146	2	SD636	14R-9I5	1	礫石	C類	凝灰岩	41.47	18.33	43.77	29.76	砥面5面
219	266	147	2	SD1242	14R-10F19	1	礫石	C類	凝灰岩	74.55	51.26	15.42	35.36	砥面2面
219	266	148	2	SK556	14R-8H8	4	礫石+礫石	礫石C類+礫石C類	頁岩	65.79	36.27	27.94	47.02	砥面4面

別 表

図版 No.	写真 版No.	報告 No.	出土位置				種別	分類	石材	法 量 (mm, g)				備考
			区	遺構	グリッド	層位				長さ	幅	厚さ	重量	
219	266	149	2	SD1635	14R-6F19	2	砥石+蔽石	砥石C類+蔽石C類	凝灰岩	88.37	46.91	27.92	139.41	砥面2面
219	266	150	2	SX1131	14R-9A25	3	砥石+台石	—	凝灰岩	117.51	87.94	31.80	352.09	砥面1面 被熱
220	266	151	2	SX1131	14R-9A25 14R-9B21	3 6	硯	—	緑色凝灰岩	146.00	134.50	24.00	385.25	
220	266	152	2	SE647	14R-9H20	1	磨石	A類	凝灰岩	123.48	72.20	22.78	298.93	磨面4面
220	266	153	2	Pit1626	14R-8D7	2	磨石	A類	安山岩	140.13	69.46	22.54	351.11	磨面4面
220	266	154	2	SE728	14R-7G22	1	磨石	A類	凝灰岩	83.30	27.96	53.56	118.02	磨面2面 被熱 炭化物付着
220	266	155	2	SE709	14R-8I16	7	磨石	A類	凝灰岩	131.05	84.79	29.51	409.09	磨面2面
220	267	156	2	SE709	14R-8I16	2	磨石	A類	凝灰岩	67.78	89.66	25.83	160.31	磨面4面
220	267	157	2	SD1299	14R-8F11	1	磨石	A類	凝灰岩	101.75	76.66	24.91	164.03	磨面1面
220	267	158	2	Pit871	14R-9J2	1	磨石	A類	凝灰岩	116.94	63.89	47.80	286.32	磨面2面 被熱 炭化物付着
220	267	159	2	SD1635	14R-6F19	3	磨石	A類	頁岩	91.14	39.55	25.51	80.27	磨面1面
220	267	160	2	SE734	14R-9I14	12	磨石	A類	凝灰岩	96.81	63.54	28.94	201.81	磨面3面 被熱
220	267	161	2	SE351	14R-8I10	4	磨石	A類	頁岩 (黒色)	56.30	75.13	26.04	131.22	磨面1面
220	267	162	2	SD362	14R-6I13	2	磨石	A類	安山岩	61.33	69.39	30.56	178.41	磨面2面
220	267	163	2	SD362	14R-6I12	1	磨石	A類	砂岩	29.97	72.35	27.57	70.07	磨面1面
221	267	164	2	SE538	14R-6H20	1	磨石	A類	凝灰岩	39.30	73.86	40.48	111.82	磨面1面 被熱
221	267	165	2	SX1131	14R-9A20	1	磨石	A類	凝灰岩	72.59	74.63	28.66	251.01	磨面3面
221	267	166	2	SE351	14R-8J1	9	磨石	A類	凝灰岩	89.97	85.73	38.03	361.88	磨面3面
221	267	167	2	SD1615	14R-10B4	2	磨石	A類	流紋岩	79.07	66.38	31.68	241.81	磨面2面
221	267	168	2	SD1554	14R-9C19	1	磨石	A類	凝灰岩	78.68	66.67	18.88	139.48	磨面4面
221	267	169	2	Pit1577	14R-8D1	2	磨石	A類	凝灰岩	68.10	41.06	21.22	37.23	磨面3面
221	267	170	2	SE519	14R-6G19	2	磨石	A類	頁岩	38.24	50.95	40.38	75.86	磨面1面
221	267	171	2	SK556	14R-8H8	4	磨石	A類	凝灰岩	31.71	42.83	27.32	39.65	磨面4面
221	267	172	2	SK224	14R-6I15	2	磨石	A類	花崗岩	27.27	52.48	32.50	25.59	磨面1面
221	267	173	2	SD119	14R-6J16	1	磨石	A類	凝灰岩	35.87	40.18	19.64	30.48	磨面2面
221	267	174	2	SK1201	14R-9G2	3	磨石	A類	凝灰岩	56.09	29.21	13.14	12.73	磨面1面 被熱
221	267	175	2	SD940	14R-9G6	1	磨石	A類	安山岩	35.20	35.93	19.98	19.80	磨面2面
221	268	176	2	Pit871	14R-9J2	1	磨石	A類	凝灰岩	54.18	31.25	22.35	52.55	磨面4面
221	268	177	2	SE449	14R-9J6	11	磨石	A類	硬質砂岩	51.86	28.52	18.56	21.80	磨面1面
221	268	178	2	Pit348	14R-5H11	1	磨石	A類	花崗岩	40.43	37.76	33.06	66.70	磨面4面
221	268	179	2	SD450	14R-6H14	1	磨石	A類	凝灰岩	37.17	32.43	28.34	42.95	磨面1面
221	268	180	2	SX1131	14R-9B21	3	磨石	B類	凝灰岩	46.62	35.72	17.89	35.78	磨面2面
221	268	181	2	SD940	14R-8H16	3	磨石	B類	凝灰岩	50.84	30.95	12.05	13.08	磨面4面
221	268	182	2	SX1131	14R-9A20	6	磨石	B類	緑色凝灰岩	43.22	32.73	7.50	11.49	磨面4面
221	268	183	2	SD940	14R-8H16	4	磨石	B類	凝灰岩	35.07	21.00	11.49	9.97	磨面2面
221	268	184	2	SK556	14R-8H7	2	磨石	B類	凝灰岩	31.71	21.47	9.63	7.16	磨面2面
221	268	185	2	SK400	14R-7I16	1	磨石	B類	凝灰岩	27.82	26.15	15.52	15.08	磨面4面
221	268	186	2	SK372	14R-6H5	3	磨石	B類	瑪瑙	26.96	22.03	8.29	7.25	磨面4面
221	268	187	2	SK556	14R-8H7	2	磨石	B類	凝灰岩	29.63	20.53	7.61	3.43	磨面1面
221	268	188	2	SE449	14R-9J6	11	磨石	B類	砂岩	82.56	49.50	25.66	131.56	磨面3面
221	268	189	2	SE734	14R-9I9	1	磨石	C類	チャート	95.50	69.69	38.21	375.41	磨面1面
222	268	190	2	SK556	14R-8H8	1	磨石	C類	頁岩	70.75	42.24	32.27	134.53	磨面3面
222	268	191	2	SK442	14R-7J24	2	磨石	C類	凝灰岩	60.71	41.49	13.83	50.47	磨面4面
222	268	192	2	SD252	14R-8J22	2	磨石	C類	砂岩	62.33	57.65	22.17	98.43	磨面5面
222	268	193	2	SX1131	14R-9A25	1	磨石	C類	頁岩	48.17	38.60	11.35	36.54	磨面4面
222	268	194	2	SK400	14R-7H20	1	磨石	C類	凝灰岩	49.55	39.80	18.48	45.07	磨面3面
222	268	195	2	SE734	14R-9I14	1	磨石	C類	凝灰岩	50.89	21.86	7.38	9.78	磨面4面
222	268	196	2	Pit1190	14R-10G2	2	磨石	C類	砂岩	38.59	26.80	11.85	17.57	磨面1面
222	268	197	2	SX1131	14R-9A20	1	磨石	C類	チャート	35.61	27.85	23.30	25.86	磨面1面
222	268	198	2	SK550	14R-7H16	4	磨石	C類	チャート	31.51	31.03	24.58	33.45	磨面2面
222	268	199	2	SD492	14R-8H14	2	磨石	C類	凝灰岩	77.71	55.94	15.19	65.19	磨面4面
222	268	200	2	SD940	14R-10G6	1	磨石	C類	凝灰岩	77.17	60.19	17.62	65.77	磨面4面
222	268	201	2	Pit145	14R-6H4	1	磨石	C類	頁岩	62.05	45.45	36.57	128.42	磨面1面
222	268	202	2	—	14R-9I15	IV	磨石	C類	凝灰岩	61.31	38.10	29.86	56.28	砥面3面
222	268	203	2	Pit646	14R-9I3	1	磨石	C類	凝灰岩	45.87	27.63	23.89	18.10	磨面1面
222	268	204	2	SD421	14R-9J7	1	磨石	C類	凝灰岩	49.38	33.98	16.38	19.24	磨面2面
222	268	205	2	SK1326	14R-6G17	3	磨石	C類	角閃石安山岩	36.21	33.18	25.27	15.98	風化著しい
222	268	206	2	SK556	14R-8H8	3	磨石	—	凝灰岩	33.88	17.62	10.79	7.00	磨面2面
222	268	207	2	SD537	14R-6H11	2	磨石	—	凝灰岩	39.21	29.78	13.26	19.48	磨面1面 風化著しい
222	268	208	2	SD450	14R-6H14	1	磨石	—	流紋岩	36.95	30.60	8.35	6.87	磨面1面
222	268	209	2	—	15Q-1H22	IV	磨石	—	凝灰岩	36.20	19.98	17.26	10.54	磨面1面
222	268	210	2	SD421	14R-9J12	1	磨石	—	硬質砂岩	17.86	28.41	16.73	7.60	磨面2面
222	268	211	2	SD421	14R-9J12	1	磨石	—	花崗岩	32.15	20.31	17.43	17.30	磨面2面
222	268	212	2	SD492	14R-8I11	2	磨石	—	石英	21.37	29.85	9.06	7.64	磨面1面
222	269	213	2	SK556	14R-8H7	1	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石A類	砂岩	183.55	49.98	47.36	755.45	磨面1面
222	269	214	2	SD537	14R-6G20	2	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石A類	凝灰岩	102.03	47.29	40.16	223.05	磨面2面
222	269	215	2	SE446	14R-7I2	3	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石A類	凝灰岩	88.66	45.29	29.08	153.77	磨面2面 炭化物付着
223	269	216	2	SD940	14R-8G21	1	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石A類	花崗岩	80.67	40.67	31.28	156.20	磨面2面
223	269	217	2	SD1635	14R-6F15	2	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石A類	花崗岩	76.52	32.63	31.56	110.28	磨面1面
223	269	218	2	SE23	14R-9J10	6	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石A類	砂岩	129.53	49.67	46.22	469.88	磨面1面
223	269	219	2	SE351	14R-8I10	2	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石A類	凝灰岩	94.57	45.76	25.33	147.12	磨面2面
223	269	220	2	SE449	14R-9J6	11	磨石+蔽石	磨石A類+蔽石B類	凝灰岩	110.48	85.25	49.95	514.99	磨面1面
223	269	221	2	SX1131	14R-9B21	3	磨石+蔽石	磨石A類+蔽石B類	安山岩	127.64	82.55	32.22	360.52	磨面2面
223	269	222	2	SX1131	14R-9A25	4	磨石+蔽石	磨石A類+蔽石B類	流紋岩	133.35	76.65	47.34	325.09	磨面1面
223	270	223	2	SE845	14R-9I5	3	磨石+蔽石	磨石A類+蔽石B類	流紋岩	111.78	65.55	32.26	303.28	磨面2面 被熱
223	270	224	2	SE351	14R-8I10	4	磨石+蔽石	磨石A類+蔽石B類	頁岩 (黒色)	94.64	52.97	48.72	313.55	磨面1面
223	270	225	2	SX1131	14R-9A25	1	磨石+蔽石	磨石A類+蔽石B類	凝灰岩	70.31	68.34	15.76	94.62	磨面2面
223	270	226	2	SD636	14R-9J1	1	磨石+蔽石	磨石A類+蔽石B類	凝灰岩	93.42	102.77	32.72	394.26	磨面2面
224	270	227	2	SE449	14R-9J6	11	磨石+蔽石	磨石A類+蔽石B類	硬質砂岩	57.51	63.54	23.63	129.17	磨面4面
224	270	228	2	SE449	14R-9J6	11	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	凝灰岩	99.86	59.53	48.08	329.09	磨面1面
224	270	229	2	Pit1869	14R-9H5	1	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	花崗岩	90.54	55.30	37.19	266.68	磨面5面
224	270	230	2	SD362	14R-6H8	2	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	砂岩	76.12	47.33	32.69	174.89	磨面2面
224	270	231	2	SK1201	14R-8G22	1	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	安山岩	74.17	44.76	32.58	127.87	磨面1面

図版 No.	写真 版No.	報告 No.	出土位置				種別	分類	石材	法量 (mm. g)				備考
			区	遺構	グリッド	層位				長さ	幅	厚さ	重量	
224	270	232	2	SK793	14R-7F9	1	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	礫岩	74.22	47.48	34.88	151.36	磨面1面
224	270	233	2	SK793	14R-7F4	2	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	安山岩	78.64	48.50	33.36	174.58	磨面1面
224	270	234	2	SK1326	14R-6G17	1	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	安山岩	66.95	38.90	29.38	102.54	磨面1面
224	270	235	2	SK793	14R-7F4	1	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	砂岩	83.38	50.46	37.49	211.92	磨面1面
224	270	236	2	SE449	14R-9J6	11	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	砂岩	73.45	54.44	34.98	159.05	磨面1面
224	270	237	2	SD1635	14R-6F13	3	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	花崗岩	74.70	49.63	41.53	210.34	磨面2面
224	271	238	2	SK1326	14R-6G17	3	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	凝灰岩	66.26	57.16	41.62	156.11	磨面2面
224	271	239	2	SK1125	14R-6G18	3	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	安山岩	64.14	39.48	40.38	162.52	磨面2面
224	271	240	2	SE446	14R-7I3	1	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	硬質砂岩	70.65	42.96	39.76	165.82	磨面2面
224	271	241	2	SK550	14R-7H21	5	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	安山岩	60.16	42.81	15.73	42.92	磨面2面
224	271	242	2	SK556	14R-8H7	4	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	凝灰岩	44.03	36.58	28.35	40.90	磨面2面
224	271	243	2	SD940	14R-8H16	4	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	砂岩	71.53	47.51	22.18	83.38	
225	271	244	2	SD940	14R-8G18	4	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	凝灰岩	58.08	56.94	41.12	168.18	磨面1面
225	271	245	2	Pit271	14R-5H17	1	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	硬質砂岩	82.98	95.99	40.53	494.72	磨面2面 被熱
225	271	246	2	SE251	14S-9A1	5	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	安山岩	88.10	69.20	28.95	237.46	磨面2面
225	271	247	2	Pit807	14R-9I2	1	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	緑色凝灰岩	71.45	84.07	25.63	184.75	磨面1面
225	271	248	2	SE1028	14R-8C10	1	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	凝灰岩	52.19	53.73	11.90	20.86	磨面2面 被熱
225	271	249	2	SX1131	14R-9B21	1	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	凝灰岩	55.31	46.23	17.63	34.30	磨面1面
225	271	250	2	SE449	14R-9J11	11	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	安山岩	64.79	66.13	58.70	307.65	磨面3面
225	271	251	2	SE449	14R-9J6	11	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	デイサイト	81.98	63.76	37.79	242.03	磨面1面
225	271	252	2	SX1131	14R-9B21	3	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	硬質砂岩	63.62	52.56	30.31	141.76	磨面2面
225	271	253	2	SX1131	14R-9B21	1	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	頁岩	73.90	64.25	39.36	171.84	磨面1面
225	271	254	2	SE449	14R-9J11	11	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	安山岩	56.23	52.98	39.21	155.30	磨面1面
225	271	255	2	SD252	14R-9J2	2	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	頁岩(黒色)	92.75	77.63	52.10	283.87	磨面3面
225	271	256	2	SE647	14R-9H20	4	磨石+蔽石	磨石C類+蔽石C類	チャート	114.40	100.19	60.36	704.92	磨面1面 被熱
226	272	257	2	SE519	14R-6G20	3	蔽石	A類	頁岩	180.27	87.38	73.60	1254.09	被熱
226	272	258	2	SD940	14R-8H17	5	蔽石	A類	花崗岩	126.22	52.83	49.23	383.91	
226	272	259	2	SE23	14R-9J10	6	蔽石	B類	砂岩	108.91	45.79	39.17	252.95	
226	272	260	2	SE405	14R-5G14	14	蔽石	B類	砂岩	104.08	40.43	32.01	146.48	
226	272	261	2	SE519	14R-6G20	1	蔽石	B類	硬質砂岩	96.80	41.13	38.29	194.98	
226	272	262	2	SK227	14R-9J5	1	蔽石	B類	砂岩	80.01	39.91	21.55	87.70	
226	272	263	2	Pit813	14R-9I15	1	蔽石	B類	砂岩	102.35	46.07	32.16	172.99	
226	272	264	2	SD150	14R-5I23	3	蔽石	B類	砂岩	79.85	31.24	23.34	66.53	
226	272	265	2	SD1635	14R-6F19	2	蔽石	B類	凝灰岩	79.07	36.61	23.87	92.62	
226	272	266	2	SD1635	14R-6F15	2	蔽石	B類	硬質砂岩	84.80	32.19	28.63	99.15	
226	272	267	2	SK529	14R-6H2	1	蔽石	B類	凝灰岩	52.91	29.25	25.35	43.49	
226	272	268	2	SK400	14R-7H20	1	蔽石	B類	砂岩	73.15	33.12	29.26	81.97	
226	272	269	2	SX1131	14R-9A25	1	蔽石	B類	砂岩	66.14	38.18	24.97	80.10	
226	272	270	2	SD636	14R-9I5	1	蔽石	B類	流紋岩	63.31	39.80	33.62	80.11	
227	272	271	2	SK498	14R-8G10	1	蔽石	C類	礫岩	78.40	51.91	40.41	209.19	
227	272	272	2	SK372	14R-6H5	1	蔽石	C類	花崗岩	81.82	54.29	47.15	252.13	
227	272	273	2	SK793	14R-7F4	1	蔽石	C類	礫岩	74.37	46.95	35.77	148.73	
227	273	274	2	SE449	14R-9J6	11	蔽石	C類	安山岩	80.83	49.83	32.27	166.44	
227	273	275	2	SE449	14R-9J6	11	蔽石	C類	硬質砂岩	71.40	55.90	46.56	233.90	
227	273	276	2	SE449	14R-9I15	1	蔽石	C類	安山岩	71.26	63.38	36.39	203.91	
227	273	277	2	SK556	14R-8H2	1	蔽石	C類	凝灰岩	44.23	33.17	25.09	37.79	
227	273	278	2	SK550	14R-7H21	5	蔽石	C類	砂岩	58.90	34.86	24.61	56.74	
227	273	279	2	SD150	14R-6I3	1	蔽石	C類	頁岩(黒色)	66.34	38.18	29.10	67.34	
227	273	280	2	Pit219	14R-5I25	1	蔽石	C類	凝灰岩	44.05	38.50	24.00	32.70	
227	273	281	2	SX1131	14R-9A25	6	蔽石	C類	ホルンフェルス	109.35	67.05	46.06	372.89	
227	273	282	2	SD150	14R-9H17	2	蔽石	C類	礫岩	111.97	60.64	49.74	351.96	
227	273	283	2	SD450	14R-6H9	1	蔽石	C類	砂岩	86.94	50.05	26.54	186.73	
227	273	284	2	SD450	14R-6H9	1	蔽石	C類	礫岩	101.82	59.71	47.59	311.40	
227	273	285	2	SE351	14R-8I10	4	蔽石	C類	凝灰岩	106.77	83.82	64.88	643.08	
228	273	286	2	SE449	14R-9I15	1	蔽石	C類	流紋岩	101.54	71.49	64.54	520.93	
228	273	287	2	SE449	14R-9J6	11	蔽石	C類	凝灰岩	74.67	87.53	51.77	297.95	
228	273	288	2	SE449	14R-9J6	11	蔽石	C類	チャート	91.08	73.94	59.04	433.85	
228	273	289	2	SK400	14R-7I16	1	蔽石	C類	凝灰岩	90.29	63.72	36.85	247.93	
228	274	290	2	SD537	14R-9G4	3	蔽石	C類	頁岩	74.83	52.16	39.06	162.79	
228	274	291	2	SD940	14R-8H16	1	蔽石	C類	頁岩	73.95	55.82	39.85	202.24	
228	274	292	2	SD81	14R-8J19	1	蔽石	C類	珪質頁岩	83.38	55.94	34.97	163.87	
228	274	293	2	SE449	14R-9I15	1	蔽石	C類	礫岩	43.82	58.57	51.18	192.89	
228	274	294	2	SE449	14R-9J6	11	蔽石	C類	頁岩	72.37	54.33	35.70	136.13	
228	274	295	2	SD252	14R-9J12	1	蔽石	C類	緑色凝灰岩	59.19	50.82	25.39	62.52	
228	274	296	2	SE449	14R-9J6	11	蔽石	C類	礫岩	64.95	52.66	42.35	136.37	
228	274	297	2	SE449	14R-9J11	11	蔽石	C類	花崗岩	51.25	44.09	36.26	88.34	
228	274	298	2	SE449	14R-9J6	11	蔽石	C類	砂岩	61.64	47.42	35.77	106.75	
228	274	299	2	SD1242	14R-10F14	1	蔽石	C類	礫岩	55.66	44.99	39.53	99.56	
229	274	300	2	SE449	14R-9J6	11	蔽石	C類	花崗岩	72.72	47.63	29.76	127.88	
229	274	301	2	SK556	14R-8H8	4	蔽石	C類	花崗岩	41.98	42.38	29.66	64.45	
229	274	302	2	SK400	14R-7I16	1	蔽石	C類	安山岩	39.64	51.24	29.43	59.87	
229	274	303	2	Pit907	14R-9G18	1	蔽石	C類	石英	52.01	30.47	16.04	39.30	
229	274	304	2	SE351	14R-8I10	2	蔽石	C類	石英	39.38	31.41	29.99	43.97	火打石?
229	274	305	2	SK1201	14R-9G2	1	蔽石	C類	凝灰岩	47.94	30.87	22.96	31.64	
229	274	306	2	SD362	14R-6H14	2	蔽石	C類	花崗岩	21.18	26.23	17.97	15.75	
229	274	307	2	SD636	14R-9J1	1	蔽石+台石	—	砂岩	83.53	57.87	38.04	278.80	磨面1面
229	274	308	2	SE1409	14R-6F17	5	台石	—	砂岩	159.00	94.50	77.36	1315.08	磨面7面 被熱
229	275	309	2	SK5	14S-8A12	4	台石	—	硬質砂岩	275.81	187.22	155.03	9200.00	
229	275	310	2	SE251	14S-9A1	8	台石	—	花崗岩	249.36	179.53	194.59	10600.00	
229	275	311	2	SE351	14R-8I10	4	台石	—	花崗岩	73.70	59.05	66.76	360.02	磨面1面
230	275	312	2	SK282	14S-8A2	2	台石	—	凝灰岩	113.48	79.32	85.11	619.82	磨面1面
230	275	313	2	SX1131	14R-9A20	6	台石	—	緑色凝灰岩	111.51	54.79	56.16	165.66	磨面1面
230	275	314	2	SE519	14R-6G20	3	台石	—	凝灰岩	111.11	76.78	69.44	428.74	磨面1面 被熱 炭化物付着
230	275	315	2	SK735	14R-9I14	1	台石	—	凝灰岩	125.73	87.09	33.44	316.60	磨面1面
230	275	316	2	SE846	14R-8I10	2	台石	—	安山岩	86.88	72.09	68.41	415.74	磨面2面

別 表

図版 No.	写真 版No.	報告 No.	出土位置				種別	分類	石材	法 量 (mm, g)				備考
			区	遺構	グリッド	層位				長さ	幅	厚さ	重量	
230	275	317	2	SD537	14R-7G10	1	台石	—	凝灰岩	65.13	79.80	60.10	190.55	磨面2面 被熱
230	276	318	2	SE446	14R-7I2	10	台石	—	硬質砂岩	123.33	115.95	59.86	1172.28	磨面2面 被熱
230	276	319	2	SE444	14R-8J3	2	台石	—	珪質頁岩	183.95	132.68	139.56	4200.00	磨面1面
231	276	320	2	Pit452	14R-6G10	1	台石	—	安山岩	101.65	83.29	87.23	971.59	被熱
231	276	321	2	SE1022	14R-10E9	2	台石	—	凝灰岩	162.73	91.78	36.05	475.95	磨面1面 敲打痕
231	276	322	2	SE1203	14R-9F4	7	台石	—	花崗岩	234.54	188.91	110.53	6400.00	磨面2面 被熱
231	276	323	2	SE444	14R-8J2	1	台石	—	流紋岩	232.79	151.02	114.58	4700.00	磨面1面
231	276	324	2	SD150	14R-8G19	2	台石	—	凝灰岩	91.91	93.85	52.27	364.71	磨面1面 被熱
231	276	325	2	SD81	14R-9J8	1	台石	—	凝灰岩	75.87	63.13	80.06	435.58	磨面2面 被熱
231	276	326	2	SE519	14R-6G19	2	台石	—	凝灰岩	104.96	54.89	43.39	240.23	磨面1面 被熱
231	276	327	2	SD1521	14R-9B4	1	台石	—	凝灰岩	151.51	84.16	72.43	841.68	磨面4面 敲打痕
232	277	328	2	SD81	14R-8J24	1	台石	—	珪質凝灰岩	133.95	71.56	60.79	540.45	被熱
232	277	329	2	SK498	14R-8G5	1	台石	—	花崗岩	88.63	41.24	25.80	85.62	磨面2面 被熱
232	277	330	2	SD940	14R-8G19	2	台石	—	花崗岩	51.23	40.17	24.06	63.62	磨面1面
232	277	331	2	SD1242	14R-10F9	1	台石	—	安山岩	43.25	46.18	21.53	47.01	磨面1面
232	277	332	2	SD450	14R-6H24	1	台石	—	花崗岩	44.02	26.12	23.06	18.48	
232	277	333	2	SK227	14R-9J5	3	台石	—	花崗岩	75.35	51.35	23.13	104.25	
232	277	334	2	SK556	14R-8H7	2	台石	—	頁岩	126.55	75.55	49.60	727.93	磨面2面
232	277	335	2	SD537	14R-9G4	1	台石	—	凝灰岩	56.94	57.84	28.11	79.33	被熱
232	277	336	2	Pit905	14R-10G3	1	台石	—	花崗岩	50.88	46.68	24.56	56.97	
232	277	337	2	Pit904	14R-9H1	2	軽石製石製品	—	軽石	88.12	73.89	38.93	97.70	磨面3面
232	277	338	2	SX1131	14R-9A25	1	軽石製石製品	—	軽石	72.17	56.39	71.22	99.08	磨面4面
233	277	339	2	SE351	14R-8J1	2	軽石製石製品	大形品	軽石	104.00	61.35	36.05	91.76	磨面2面
233	277	340	2	SE734	14R-9I9	8	軽石製石製品	中形品	軽石	76.69	67.58	57.71	116.88	磨面3面
233	277	341	2	Pit904	14R-9H1	1	軽石製石製品	—	軽石	34.13	47.42	20.46	22.13	磨面6面
233	277	342	2	SK498	14R-8G10	1	軽石製石製品	—	軽石	29.55	66.96	37.30	32.26	磨面4面
233	277	343	2	SK556	14R-8H7	2	軽石製石製品	—	軽石	49.96	38.36	35.63	34.99	磨面6面
233	277	344	2	Pit871	14R-9J2	1	軽石製石製品	—	軽石	59.76	60.10	41.83	41.47	磨面3面
233	277	345	2	SD150	14R-7I2	1	軽石製石製品	中形品	軽石	53.84	45.33	28.26	16.98	磨面4面
233	277	346	2	SX1131	14R-9A25	3	軽石製石製品	中形品	軽石	58.30	46.85	34.15	51.42	磨面3面
233	278	347	2	SX1131	14R-9A20	3	軽石製石製品	—	軽石	51.40	33.71	32.69	16.13	磨面3面
233	278	348	2	SK556	14R-8H2	1	軽石製石製品	—	軽石	51.10	38.92	14.52	10.83	磨面4面
233	278	349	2	SD940	14R-8H17	1	軽石製石製品	中形品	軽石	50.58	38.87	32.05	33.48	磨面2面
233	278	350	2	SK404	14R-5G18	1	軽石製石製品	小形品	軽石	44.18	39.05	38.50	31.56	磨面1面
233	278	351	2	SD940	14R-8G21	1	軽石製石製品	—	軽石	50.92	34.96	20.47	7.82	磨面1面
233	278	352	2	SD940	14R-9F5	1	軽石製石製品	小形品	軽石	46.91	32.68	25.19	16.90	磨面3面
233	278	353	2	SK400	14R-7I16	1	軽石製石製品	—	軽石	55.04	32.77	15.01	10.28	磨面3面
233	278	354	2	SE734	14Q-3E1	1	軽石製石製品	—	軽石	23.65	50.40	28.56	17.28	磨面3面
233	278	355	2	SD940	14R-8G18	4	軽石製石製品	—	軽石	48.30	30.88	21.54	12.43	磨面2面
233	278	356	2	—	14R-9I15	IV	軽石製石製品	—	軽石	43.69	35.57	24.48	11.53	磨面3面
233	278	357	2	SX1131	14R-9A25	1	軽石製石製品	—	軽石	47.68	28.65	18.95	10.39	磨面2面
233	278	358	2	SK556	14R-8H7	1	軽石製石製品	—	軽石	37.49	30.16	24.22	11.31	磨面4面
234	278	359	2	SX1131	14R-9B16	3	軽石製石製品	—	軽石	32.49	42.14	24.93	11.45	磨面3面 被熱
234	278	360	2	Pit904	14R-9H1	2	軽石製石製品	小形品	軽石	42.49	35.94	15.88	12.66	磨面3面
234	278	361	2	Pit904	14R-9H1	2	軽石製石製品	小形品	軽石	45.66	36.62	10.32	8.96	磨面2面
234	278	362	2	SK1201	14R-8G22	1	軽石製石製品	小形品	軽石	46.22	40.79	17.34	12.88	磨面1面
234	278	363	2	SX1131	14R-9A20	3	軽石製石製品	小形品	軽石	47.15	36.21	18.52	15.18	磨面4面
234	278	364	2	Pit904	14R-9H1	1	軽石製石製品	—	軽石	40.11	37.18	10.38	8.67	磨面3面
234	278	365	2	—	14R-10F4	IV	軽石製石製品	小形品	軽石	38.83	30.02	22.25	9.86	磨面2面
234	278	366	2	—	14R-9J5	IV	軽石製石製品	—	軽石	33.81	33.17	28.67	5.90	磨面1面
234	278	367	2	SK556	14R-8H7	2	軽石製石製品	—	軽石	41.04	19.59	18.22	4.51	磨面2面
234	278	368	2	SE449	14R-9I15	11	軽石製石製品	—	軽石	35.73	27.44	15.03	4.84	磨面2面
234	278	369	2	SD150	14R-6I13	2	軽石製石製品	—	軽石	39.16	25.69	14.47	3.50	磨面1面
234	278	370	2	SK556	14R-8H7	4	軽石製石製品	—	軽石	29.69	23.74	9.85	2.44	磨面2面
234	278	371	2	SK556	14R-8H8	3	軽石製石製品	—	軽石	30.11	27.58	18.31	4.79	磨面3面
234	278	372	2	SK498	14R-8H6	1	軽石製石製品	—	軽石	13.96	31.77	20.03	3.17	磨面4面
234	278	373	2	SX1131	14R-9A25	6	軽石製石製品	—	軽石	39.36	21.08	13.69	4.04	磨面1面
234	278	374	2	Pit904	14R-9H1	1	軽石製石製品	—	軽石	29.42	21.27	19.12	4.10	磨面5面
234	278	375	2	SK633	14R-8I22	2	軽石製石製品	—	軽石	34.71	25.40	11.72	3.16	磨面1面
234	278	376	2	SX1131	14R-9A25	3	軽石製石製品	—	軽石	33.14	15.13	17.80	2.50	磨面1面
234	278	377	2	SD391	14R-8J19	1	軽石製石製品	—	軽石	28.65	22.95	21.04	3.82	
234	278	378	2	SK556	14R-8H8	3	軽石製石製品	—	軽石	29.31	19.52	11.18	1.65	磨面3面
234	278	379	2	SX1131	14R-9A25	3	軽石製石製品	—	軽石	30.80	18.37	19.60	3.57	磨面1面
234	278	380	2	—	14R-9I15	IV	軽石製石製品	—	軽石	29.84	20.75	19.99	3.46	磨面2面
234	278	381	2	—	14R-9I15	IV	軽石製石製品	—	軽石	21.40	18.01	14.86	1.94	磨面3面
234	278	382	2	SD1635	14R-6F20	2	軽石製石製品	小形品	軽石	19.84	18.84	18.40	4.40	磨面1面
234	278	383	2	SX1131	14R-9B16	3	軽石製石製品	小形品	軽石	18.06	17.77	12.62	1.59	磨面2面
234	278	384	2	SK556	14R-8H2	1	軽石製石製品	—	軽石	18.46	13.27	10.96	0.66	磨面2面
234	278	385	2	SX1131	14R-9B21	1	軽石製石製品	—	軽石	17.41	19.85	10.62	1.32	磨面2面
234	278	386	2	SK556	14R-8H7	1	軽石製石製品	—	軽石	18.66	17.10	7.95	0.88	
234	278	387	2	SK556	14R-8H8	1	軽石製石製品	小形品	軽石	13.32	11.84	3.95	0.28	磨面2面
234	278	388	2	SD940	14R-8G17	1	軽石製石製品	小形品	軽石	16.67	9.52	9.06	0.35	磨面1面
234	278	389	2	SK400	14R-7I16	1	軽石製石製品	—	軽石	17.93	10.18	8.63	0.68	
234	278	390	2	SD1241	14R-10F18	1	バステル形石製品	—	滑石	19.47	5.08	4.39	0.75	
234	278	391	2	SX1131	14R-9A25	3	バステル形石製品	—	滑石	25.14	5.21	4.75	1.21	
234	278	392	2	SX1131	14R-9A25	3	不定形石器	—	頁岩	163.63	98.17	16.94	219.50	被熱
235	279	393	2	SE845	14R-9I5	1	不定形石器	—	凝灰岩	186.82	157.48	35.58	804.31	礫石
235	279	394	2	SX1131	14R-9B21	3	不定形石器	—	流紋岩	88.83	45.55	17.04	82.15	
235	279	395	2	SX1131	14R-9A25	1	不定形石器	—	緑色凝灰岩	63.70	37.01	16.48	33.18	
235	279	396	2	SE709	14R-8I16	1	不定形石器	—	凝灰岩	74.53	91.77	18.08	103.15	
235	279	397	2	SX1131	14R-9A25	3	不定形石器	—	砂岩	128.91	108.64	27.90	309.10	被熱
235	279	398	2	—	15Q-1I1	IV	不定形石器	—	流紋岩	31.29	44.11	20.38	24.53	
235	279	399	2	SX1131	14R-9A25	5	不定形石器	—	石英	25.62	30.75	18.94	16.31	
235	279	400	2	—	14R-8H24	IV	不定形石器	—	石英	28.55	24.56	14.30	9.92	
235	279	401	2	SX1131	14R-9B16	1	不定形石器	—	鉄石英(赤玉)	15.31	15.91	6.60	2.19	
235	279	402	2	SE709	14R-8I16	1	剥片	—	凝灰岩	64.65	52.21	28.83	124.87	

図版 No.	写真図 版No.	報告 No.	出土位置				種別	分類	石材	法 量 (mm, g)				備考
			区	遺構	グリッド	層位				長さ	幅	厚さ	重量	
235	279	403	2	SD1615	14R-10B10	1	剥片	—	凝灰岩	83.58	54.72	9.44	54.12	
235	279	404	2	SK550	14R-7H16	1	剥片	—	頁岩	57.51	38.06	12.53	28.99	
235	279	405	2		15Q-3F9	IV	剥片	—	珪質流紋岩	35.31	41.61	6.44	9.48	
235	279	406	2	SD1241	14R-10F3	2	剥片	—	石英	30.53	23.19	19.85	12.15	
235	279	407	2	SE444	14R-7J23	1	剥片	—	砂岩	39.77	21.34	11.95	6.56	
235	279	408	2	SX1131	14R-9B21	1	石核	—	流紋岩	68.93	56.19	58.74	177.49	
235	279	409	2	SK550	14R-7H16	4	原石	—	鉄石英(黄玉)	50.31	65.89	36.37	101.36	

別表 9 金属製品・鍛冶関連遺物観察表

図版 No.	写真図 版No.	報告 No.	出土位置				種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	時代	備考
			区	遺構名	グリッド	層位			長さ	幅	厚さ			
236	280	1	1	SK706	14Q-3F17	1	金属製品	包丁	(12.8)	3.3	0.5	15.9	近世	
236	280	2	1	SK706	14Q-3F17	1	金属製品	釘	2.02	0.2	0.2	0.89	近世	
236	280	3	1	SK684	14Q-3E13	1	金属製品	釘	1.6	0.3	0.29	0.78	近世	
236	280	4	2	SK556	14R-8H2	1	金属製品	刀子	(5.9)	1.2	0.4	8.0	近世	
236	280	5	2	SK556	14R-8H2	1	金属製品	包丁	(2.2)	(1.7)	0.2	1.05	近世	
236	280	6	2	Pit904	14R-9H1	2	金属製品	鎌	(6.5)	3.0	0.2	14.5	近世	
236	280	7	2	SE444	14R-7J22	1	金属製品	鎌	(5.4)	3.5	1.0	25.4	近世	
236	280	8	2	SK556	14R-8H8	3	金属製品	釘	(3.7)	0.6	0.5	4.6	近世	
236	280	9	2	SX1131	14R-9B21	1	金属製品	釘	4.6	0.6	0.5	2.63	近世	
236	280	10	2	SD537	14R-9G8	2	金属製品	釘	2.5	0.4~1.0	0.45	2.77	中世	
236	280	11	2	SD362	14R-6I19	1	金属製品	釘	(7.7)	0.6	0.6	32.9	中世	
236	280	12	2	SE647	14R-9I16	1	金属製品	大釘	20.2	1.2	1.1	86.5	近世	
236	280	13	2	SK556	14R-8H2	1	金属製品	鋳物製品	2.5	1.7	0.4	3.12	近世	
236	280	14	2		15Q-2G15	IV	金属製品	鉄鏝	(3.6)	(2.4)	0.29	4.14		
236	280	15	2		15Q-2G5	IV	金属製品	鉄鏝	(6.5)	(4.35)	0.5	17.07		
236	280	16	2		15Q-2G14	IV	金属製品	鉄鏝	(3.4)	(5.1)	0.6	17.50		
236	280	17	2		15Q-2G15	IV	金属製品	鉄鏝	(3.69)	(1.7)	0.52	4.55		
236	280	18	2	Pit245	14R-5G15	3	鍛冶関連	銅塊	3.5	3.05	2.0	58.13	中世	
236	280	19	2	SD362	14R-6H15	2	鍛冶関連	椀形鍛冶滓	3.2	3.8	2.6	24.7	中世	
236	280	20	2	Pit441	14R-6G4	2	鍛冶関連	椀形鍛冶滓	4.4	5.9	2.1	53.3	中世	
236	280	21	2	SK633	14R-8I22	2	鍛冶関連	椀形鍛冶滓	3.02	5.3	2.5	24.59	近世	
236	280	22	2	SD537	14R-6G25	1	鍛冶関連	椀形鍛冶滓	1.1	0.9	0.6	1.09	中世	
236	280	23	2	SD1635	14R-6F15	2	鍛冶関連	銅製用瑠	2.3	2.3	1.6	5.19	中世	

別表 10 銭貨観察表

図版 No.	写真図 版No.	報告 No.	出土位置				銭種	材質	法量 (mm)			重量 (g)	時代	備考
			区	遺構名	グリッド	層位			長さ	幅	厚さ			
236	281	1~6	1	SK682	14Q-3F16	2	寛永通宝	鉄	27.00	26.00	10.00	11.9	近世	No.1~6が錆着
236	281	1	1	SK682	14Q-3F16	2	寛永通宝	鉄	24.00	24.00	1.50	1.87	近世	No.2~6と錆着
236	281	2	1	SK682	14Q-3F16	2	寛永通宝	鉄	23.50	22.00	1.50	1.66	近世	No.1・3~6と錆着
236	281	3	1	SK682	14Q-3F16	2	寛永通宝	鉄	24.00	23.50	1.50	2.12	近世	No.1・2・4~6と錆着
236	281	4	1	SK682	14Q-3F16	2	寛永通宝	鉄	23.00	23.00	1.50	1.86	近世	No.1~3・5・6と錆着
236	281	5	1	SK682	14Q-3F16	2	寛永通宝	鉄	23.00	23.00	1.50	2.26	近世	No.1~4・6と錆着
236	281	6	1	SK682	14Q-3F16	2	寛永通宝	鉄	24.00	24.00	1.50	1.53	近世	No.1~5と錆着
236	281	7	1	SK540	14Q-4G4	2	不明	銅	(5.00)	(12.00)	1.50	0.23	近世	破片
236	281	8	1	SK540	14Q-4G4・9	2	不明	銅	(9.00)	(8.00)	2.00	0.28	近世	破片
236	281	9	2	Pit253	14R-9J4	2	北宋銭	銅	23.00	23.00	1.00	1.98	中世	至和元寶(1054年)
236	281	10	2	SE4	14S-8A7	3	不明	銅	13.00	11.50	3.00	0.42		

別表 11 木製品観察表

図版 No.	写真図 版No.	報告 No.	出土位置				器種			法量 (cm)				木取り	時代	備考 (取り上げNo.)	
			区	遺構名	グリッド	層位	大分類	中分類	細分類	長さ/口径	幅/底径	器高	厚さ				
237	282	1	1	SK681	14Q-3E20	5	容器	棺桶	蓋	—	(26.7)	(10.5)	—	0.5	板目	近世	No.5 穿孔
237	282	2	1	SK681	14Q-3E20	5	容器	棺桶	蓋	—	(27.4)	(9.8)	—	0.8	板目	近世	No.7
237	282	3	1	SK681	14Q-3F20	7	容器	棺桶	底板	—	(27.9)	(27.1)	—	1.2	—	近世	No.18
237	282	4	1	SK681	14Q-3E15	5	容器	棺桶	蓋?	—	(30.2)	(3.9)	—	0.5	—	近世	No.3
237	282	5	1	SK681	14Q-3E15	5	容器	棺桶	側板	—	(6.15)	(3.6)	—	(0.65)	板目	近世	No.6
237	282	6	1	SK681	14Q-3E15	3	容器	棺桶	側板	—	(8.4)	(2.6)	—	(0.5)	板目	近世	No.13
237	282	7	1	SK681	14Q-3E15	3	容器	棺桶	側板	—	(8.4)	(3.1)	—	0.5	板目	近世	No.15
237	282	8	1	SK681	14Q-3E20	3	容器	棺桶	側板	—	(13.2)	(4.1)	—	(0.6)	板目	近世	No.14
237	282	9	1	SK681	14Q-3E20	5	容器	棺桶	側板	—	(8.0)	(2.6)	—	0.4	板目	近世	No.4
237	282	10	1	SK681	14Q-3E20	5	容器	棺桶	側板	—	(7.6)	(2.1)	—	0.4	板目	近世	No.4
237	282	11	1	SK683	14Q-3E15	1	容器	木棺	底板	—	(27.0)	(19.0)	—	1.1	板目	近世	No.10
237	282	12	1	SK683	14Q-3E15	1	容器	木棺	側板	—	(29.0)	(18.5)	—	1.1	板目	近世	No.5
237	282	13	1	SK683	14Q-3E15	1	容器	木棺	側板	—	(28.05)	(20.4)	—	1.0	板目	近世	No.7
237	282	14	1	SK683	14Q-3E15	1	容器	木棺	側板	—	(29.0)	(17.7)	—	0.9	板目	近世	No.6
237	282	15	1	SK683	14Q-3E15	1	容器	木棺	側板	—	(26.1)	(19.7)	—	1.0	—	近世	No.8
238	282	16	1	SK684	14Q-3E13	3	容器	木棺	側板	—	(4.0)	(30.1)	—	0.5	板目	近世	No.13 No.8の右側
238	282	17	1	SK684	14Q-3E13	3	容器	木棺	側板	—	(13.3)	(34.2)	—	0.8	板目	近世	No.9
238	283	18	1	SK684	14Q-3E13	3	容器	木棺	底板	—	(36.0)	(34.3)	—	1.1	板目	近世	No.10
238	283	19	1	SK694	14Q-3E14	1	容器	棺桶	側板	—	(16.4)	(7.3)	—	(1.0)	板目	近世	No.1
238	283	20	1	SK694	14Q-3E14	1	容器	棺桶	側板	—	(17.3)	(3.2)	—	(0.5)	板目	近世	No.2
238	283	21	1	SK705	14Q-3F16	5	容器	棺桶	側板	—	(29.2)	(2.2)	—	(0.75)	—	近世	No.13
238	283	22	1	SK708	14Q-3E14	2	容器	木棺	側板	—	(33.3)	(32.45)	—	0.9	板目	近世	No.4
238	283	23	1	SK708	14Q-3E14	2	容器	木棺	側板	—	(30.4)	(34.4)	—	1.0	板目	近世	No.5
239	283	24	1	SK708	14Q-3E14	2	容器	木棺	側板	—	(31.0)	(32.4)	—	1.0	板目	近世	No.6
239	284	25	1	SK708	14Q-3E14	2	容器	木棺	蓋	—	(33.5)	(29.1)	—	0.6	板目	近世	No.2
239	284	26	1	SK708	14Q-3E14	2	容器	木棺	側板	—	(33.6)	(34.6)	—	0.9	板目	近世	No.7
239	284	27	1	SK708	14Q-3E14	6	容器	木棺	底板	—	(34.4)	(30.5)	—	1.4	板目	近世	No.9
239	284	28	1	SK708	14Q-3E14	6	容器	木棺	側板	—	(34.6)	(4.7)	—	1.2	板目	近世	No.8 3か所に釘穴

別 表

図版No.	写真図版No.	報告No.	出土位置			器種			樹種	法量 (cm)				木取り	時代	備考 (取り上げNo.)	
			区	遺構名	グリッド	層位	大分類	中分類		細分類	長さ/口径	幅/底径	器高				厚さ
239	284	29	1	SK708	14Q-3E14	2	容器	木棺	側板	—	(15.0)	(0.9)	—	0.4	板目	近世	No.3
239	284	30	1	SK688	14Q-3E12	3	部材	板材	—	—	(7.5)	(5.0)	—	0.8	板目	近世	No.1
239	284	31	1	SK681	14Q-3E20	5	部材	不明部材	—	—	7.1	1.6	—	0.6	板目	近世	No.8 副葬品か
240	285	32	2	SX1131	14R-9B16	3	食膳具	漆器	蓋	—	—	(5.0)	(1.8)	0.2~0.3	板目	近世	No.159 重さ 2.859g 摘み 5.2cm 内外面黒漆 摘み内「イ」朱書
240	285	33	2	SX1131	14R-9A20	5	食膳具	漆器	椀	—	—	(5.6)	(4.2)	—	—	近世	No.358 内外面黒漆 底部外面「イ」朱書
240	285	34	2	SX1131	14R-9B21	3	食膳具	漆器	椀	—	—	—	(6.3)	0.4~0.8	板目	近世	No.161 重さ 8.864g 内外面黒漆 底部外面「イ」朱書
240	285	35	2	SX1131	14R-9B16	3	食膳具	漆器	皿	—	—	—	(2.4)	0.2~0.5	板目	近世	No.160 重さ 33.09g 内外面黒漆 底部外面「イ」朱書
240	285	36	2	SX1131	14R-9B21	6	食膳具	漆器	椀	—	—	—	—	—	—	近世	No.322
240	285	37	2	Pit198	14R-8G7	1	食膳具	漆器	椀	—	—	—	—	—	—	近世	No.1 下地に黒漆 内面朱漆
240	285	38	2	SX1131	14R-9A20	6	容器	漆器	箱	—	(28.9)	(7.2)	—	0.7	板目	近世	No.418
240	285	39	2	SX1131	14R-9A25	5	容器	曲物	濾し器	—	18.1	17.9	3.6	0.2~0.4	—	近世	No.366
240	285	40	2	SX1131	14R-9A25	6	容器	漆器	塗箱	—	(2.6)	(9.8)	—	0.7	板目	近世	No.302 外面に朱漆 内面に黒漆
240	285	41	2	SE449	14R-9110	11	容器	箱?	側板	—	(18.5)	—	2.5	1.6	板目	近世	No.13
241	286	42	2	SX1131	14R-9B21	6	容器	曲物	底板	—	19.0	19.0	—	1.1	板目	近世	No.277 2か所に木釘残存 内面中央に方形の小孔
241	286	43	2	SX1131	14R-9A25	3	容器	桶	底板	—	—	42.9	—	1.8	板目	近世	No.217
241	286	44	2	SX1131	14R-9A25	8	容器	桶	底板	—	21.7	22.0	—	1.6	板目	近世	No.437
242	286	45	2	SX1131	14R-9A20	6	容器	蓋	把手	—	2.3	22.5	—	1.0	板目	近世	No.416 45の把手か
242	287	46	2	SX1131	14R-9A20	6	容器	蓋	—	—	20.6	(9.5)	—	1.2	板目	近世	No.417
242	287	47	2	SX1131	14R-9B21	6	容器	桶	側板	—	(8.2)	(3.9)	—	0.7	板目	近世	No.284
242	287	48	2	SX1131	14R-9B21	6	容器	桶	側板	—	12.5	(8.0)	—	0.8	板目	近世	No.254
242	287	49	2	SX1131	14R-9B21	6	容器	桶	側板	—	12.5	(4.5)	—	0.8	板目	近世	No.330
242	287	50	2	SX1131	14R-9B21	6	容器	桶	側板	—	12.6	(7.5)	—	0.8	板目	近世	No.327
242	287	51	2	SX1131	14R-9B21	6	容器	桶	底板	—	16.3	(3.8)	—	0.9	板目	近世	No.285 桶側板か
242	287	52	2	SX1131	14R-9B21	6	容器	桶	側板	—	12.1	(2.1)	—	0.75	板目	近世	No.328
242	287	53	2	SX1131	14R-9B21	6	容器	桶	側板	—	(9.75)	(4.9)	—	0.7	板目	近世	No.255
242	287	54	2	SX1131	14R-9A25	8	容器	桶	側板	—	16.3	7.5	—	1.3	板目	近世	No.427
242	287	55	2	SX1131	14R-9B21	6	容器	桶	側板	—	(15.3)	(9.9)	—	1.3	板目	近世	No.378 桶側板か
242	287	56	2	SX1131	14R-9B21	6	容器	桶	側板	—	(14.4)	(11.9)	—	(1.4)	板目	近世	No.379 桶側板か
243	287	57	2	SX1131	14R-9A25	6	容器	桶	底板	—	(21.4)	(13.2)	—	1.25	板目	近世	No.306
243	288	58	2	SX1131	14R-9B16	6	容器	桶	底板	—	43.8	(18.1)	—	2.0	板目	近世	No.388
243	288	59	2	SX1131	14R-9A25	8	容器	桶	底板	—	19.6	(9.5)	—	1.5	板目	近世	No.432
243	288	60	2	SX1131	14R-9A25	5	容器	桶	底板	—	(29.2)	(6.1)	—	2.0	板目	近世	No.259
243	288	61	2	SX1131	14R-9B21	6	容器	板材	—	—	(17.5)	(14.8)	—	1.0	板目	近世	No.272 柄杓か
244	288	62	2	SX1131	14R-9B21	6	容器	板材	—	—	(16.55)	(14.9)	—	1.1	板目	近世	No.273 柄杓か
244	288	63	2	SX1131	14R-9A25	6	容器	網代	—	—	2.7	4.8	—	0.3	—	近世	No.319
244	288	64	2	SX1131	14R-9B16	3	容器	桶	籬	竹	(6.4)	1.5	—	0.4	—	近世	No.184
244	288	65	2	SX1131	14R-9B21	6	容器	板材	—	—	(14.4)	13.9	—	0.9	板目	近世	No.274 孔長さ3.2幅2.0 柄杓か
244	289	66	2	SX1131	14R-9A20	5	服飾具	下駄	—	—	(16.8)	10.0	—	3.3	板目	近世	No.397 差歯下駄
244	289	67	2	SX1131	14R-9A20	5	服飾具	下駄	—	—	26.9	13.5	—	5.5	板目	近世	No.396 連歯下駄
244	289	68	2	SX1131	14R-9A20	5	服飾具	下駄	—	—	(21.4)	(9.2)	—	3.6	板目	近世	No.393 差歯下駄
245	289	69	2	SX1131	14R-9B21	8	服飾具	下駄	—	—	20.8	8.5	7.0	3.8	板目	近世	No.275 差歯下駄
245	289	70	2	SX1131	14R-9B21	6	服飾具	下駄	齒	—	(4.6)	(5.4)	—	1.0	板目	近世	No.256 差歯下駄の齒
245	289	71	2	SX1131	14R-9A20	5	服飾具	下駄	—	—	(15.4)	(7.7)	—	3.5	板目	近世	No.397
245	290	72	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	持ち手	—	3.9	24.5	—	2.2	板目	近世	No.436
245	290	73	2	SX1131	14R-9A20	11	調度具	行灯	持ち手	—	6.4	2.2	—	0.9	板目	近世	No.438-1-401
245	290	74	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	支柱	—	1.4	25.0	—	1.6	板目	近世	No.436 加工痕 目釘 相欠つき
245	290	75	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	支柱	—	1.5	27.4	—	1.5	板目	近世	No.436 相欠つき(十字)
245	290	76	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	支柱	—	1.5	(25.2)	—	1.7	—	近世	No.436
245	290	77	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	支柱	—	1.4	(23.0)	—	1.6	板目	近世	No.436
245	290	78	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	支柱	—	59.0	1.5	—	1.6	—	近世	No.420
245	290	79	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	支柱	—	(36.5)	1.5	—	1.5	板目	近世	No.436
245	290	80	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	支柱	—	36.6	1.5	—	1.4	—	近世	No.436
246	290	81	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	台座	—	27.0	27.3	—	0.9	板目	近世	No.402
246	291	82	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	台座側板	—	10.0	30.7	—	1.0	板目	近世	No.402
246	291	83	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	台座側板	—	10.0	30.7	—	1.2	板目	近世	No.400
246	291	84	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	台座側板	—	9.5	35.5	—	0.9	板目	近世	No.399
246	291	85	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	台座側板	—	30.4	10.0	—	1.0	板目	近世	No.401
247	291	86	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	引出し支柱	—	23.6	2.1	—	1.4	板目	近世	No.402
247	291	87	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	引出し奥板	—	3.7	7.3	—	1.1	板目	近世	No.402
247	291	88	2	SX1131	14R-9A20	5	調度具	行灯	引出し側板	—	26.1	3.7	—	2.0	板目	近世	No.402
247	291	89	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	引出し底板	—	25.4	8.3	—	0.8	板目	近世	No.402 目釘
247	291	90	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	引出し側板	—	25.0	3.6	—	1.2	板目	近世	No.402
247	291	91	2	SX1131	14R-9A20	6	調度具	行灯	引出し側板	—	5.0	8.8	—	2.2	板目	近世	No.402
247	292	92	2	SX1131	14R-9B16	6	建築材	角材	—	—	25.6	5.5	—	4.5	板目	近世	No.409
247	292	93	2	SX1131	14R-9A25	6	建築材	柱材	—	—	(30.7)	11.5	—	9.3	—	近世	No.313
248	292	94	2	SX1131	14R-9B16	6	建築材	角材	—	—	(60.2)	5.0	—	4.9	板目	近世	No.390
248	292	95	2	SX1131	14R-9A25	8	建築材	角材	—	—	(61.1)	5.3	—	4.9	板目	近世	No.435
248	292	96	2	SX1131	14R-9B21	6	建築材	部材	—	—	16.2	2.2	—	1.2	板目	近世	No.278 釘穴6箇所 鉄?
248	292	97	2	Pit547	14R-7H18	1	建築材	柱材	—	—	(19.3)	(5.3)	—	(4.2)	板目	近世	No.1
248	292	98	2	Pit1895	15Q-1H10	8	建築材	杭	—	—	(18.7)	3.8	—	—	不明	No.1	
248	292	99	2	SX1131	14R-9A25	6	建築材	杭	—	—	(33.9)	4.0	—	2.8	板目	近世	No.433
248	292	100	2	SX1131	14R-9A25	11	建築材	杭	—	—	(43.4)	3.6	—	2.7	板目	近世	No.434
249	293・296	101	2	SE734	14R-919	10	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	(68.3)	12.0	—	2.0	板目	近世	No.15 井戸側上段
249	293・296	102	2	SE734	14R-919	10	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	(66.0)	15.5	—	2.2	板目	近世	No.16 井戸側上段
249	293・296	103	2	SE734	14R-919	10	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	(66.3)	11.7	—	2.3	板目	近世	No.17 井戸側上段
249	293・296	104	2	SE734	14R-919	10	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	(69.8)	8.5	—	2.3	板目	近世	No.18 井戸側上段
249	293・296	105	2	SE734	14R-919・14	10	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	(64.7)	21.8	—	2.1	板目	近世	No.19 井戸側上段
249	293・296	106	2	SE734	14R-9114	10	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	(78.4)	18.1	—	2.1	板目	近世	No.20 井戸側上段
249	293・296	107	2	SE734	14R-9114	10	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	(68.1)	17.8	—	2.5	板目	近世	No.21 井戸側上段
249	293・296	108	2	SE734	14R-9114	10	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	(85.7)	17.0	—	2.9	板目	近世	No.22 井戸側上段

図版 No.	写真図版 No.	報告 No.	出土位置			器種			樹種	法量 (cm)				木取り	時代	備考 (取り上げNo.)	
			区	遺構名	グリッド	層位	大分類	中分類		細分類	長さ/口径	幅/底径	器高				厚さ
249	293・296	109	2	SE734	14R-9114	10	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	(74.4)	16.4	-	2.5	板目	近世	No.23 井戸側上段
249	293・296	110	2	SE734	14R-9114	10	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	(71.0)	22.8	-	2.5	板目	近世	No.24 井戸側上段
250	293・297	111	2	SE734	14R-9114	10	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	(56.5)	8.4	-	2.0	板目	近世	No.25 井戸側上段
250	293・297	112	2	SE734	14R-919・14	10	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	(64.0)	13.6	-	2.2	板目	近世	No.26 井戸側上段
250	293・297	113	2	SE734	14R-919	10	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	(72.6)	17.8	-	2.5	板目	近世	No.27 井戸側上段
250	293・297	114	2	SE734	14R-919	10	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	(87.2)	16.0	-	2.2	板目	近世	No.28 井戸側上段
250	293・297	115	2	SE734	14R-919	10	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	(67.3)	17.7	-	2.4	板目	近世	No.29 井戸側上段
250	294・297	116	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.9	9.0	-	2.8	板目	近世	No.35 井戸側中段
250	294・297	117	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.7	10.9	-	2.4	板目	近世	No.36 井戸側中段
250	294・297	118	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.6	8.4	-	2.6	板目	近世	No.37 井戸側中段
251	294・298	119	2	SE734	14R-919・14	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	93.2	17.6	-	3.5	板目	近世	No.38 井戸側中段
251	294・298	120	2	SE734	14R-9114	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	94.3	15.5	-	3.3	板目	近世	No.39 井戸側中段
251	294・298	121	2	SE734	14R-9114	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	93.6	19.7	-	2.7	板目	近世	No.40 井戸側中段
251	294・298	122	2	SE734	14R-9114	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.6	11.2	-	2.7	板目	近世	No.41 井戸側中段
251	294・298	123	2	SE734	14R-9114	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	90.0	20.3	-	2.7	板目	近世	No.42 井戸側中段
251	294・298	124	2	SE734	14R-9114	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.0	11.6	-	2.8	板目	近世	No.43 井戸側中段
252	294・298	125	2	SE734	14R-919・14	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.1	8.4	-	2.5	板目	近世	No.44 井戸側中段
252	294・298	126	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.6	11.8	-	3.0	板目	近世	No.45 井戸側中段
252	294・299	127	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.8	7.6	-	3.0	板目	近世	No.46 井戸側中段
252	294・299	128	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.7	11.7	-	2.5	板目	近世	No.47 井戸側中段
252	294・299	129	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.9	8.3	-	2.8	板目	近世	No.48 井戸側中段
252	294・299	130	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	92.2	20.0	-	3.1	板目	近世	No.49 井戸側中段
252	294・299	131	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	92.0	8.8	-	2.8	板目	近世	No.50 井戸側中段
252	294・299	132	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.6	9.9	-	2.9	板目	近世	No.51 井戸側中段
252	294・299	133	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.1	20.9	-	2.8	板目	近世	No.52 井戸側中段
253	295・300	134	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	90.9	10.6	-	3.1	板目	近世	No.53 井戸側中段
253	295・300	135	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	92.7	15.6	-	2.9	板目	近世	No.54 井戸側下段
253	295・300	136	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	92.3	13.8	-	3.0	板目	近世	No.55 井戸側下段
253	295・300	137	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.5	7.3	-	2.7	板目	近世	No.56 井戸側下段
253	295・300	138	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	92.5	10.4	-	2.7	板目	近世	No.57 井戸側下段
253	295・300	139	2	SE734	14R-919・14	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.3	20.5	-	3.0	板目	近世	No.58 井戸側下段
253	295・300	140	2	SE734	14R-9114	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	90.1	15.4	-	2.7	板目	近世	No.59 井戸側下段
253	295・301	141	2	SE734	14R-9114	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	90.8	8.3	-	2.8	板目	近世	No.60 井戸側下段
254	295・301	142	2	SE734	14R-9114	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	89.7	11.3	-	2.9	板目	近世	No.61 井戸側下段
254	295・301	143	2	SE734	14R-9114	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.2	13.9	-	2.9	板目	近世	No.62 井戸側下段
254	295・301	144	2	SE734	14R-9114	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	92.1	9.4	-	3.2	板目	近世	No.63 井戸側下段
254	295・301	145	2	SE734	14R-9114	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.0	18.5	-	3.0	板目	近世	No.64 井戸側下段
254	295・301	146	2	SE734	14R-9114	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	92.4	13.6	-	3.2	板目	近世	No.65 井戸側下段
254	295・301	147	2	SE734	14R-919・14	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.1	10.3	-	2.9	板目	近世	No.66 井戸側下段
254	295・302	148	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.0	12.9	-	2.8	板目	近世	No.67 井戸側下段
254	295・302	149	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.5	9.7	-	3.0	板目	近世	No.68 井戸側下段
255	295・302	150	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	91.0	17.4	-	3.0	板目	近世	No.69 井戸側下段
255	295・302	151	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	92.0	7.0	-	3.0	板目	近世	No.70 井戸側下段
255	295・302	152	2	SE734	14R-919	11	建築材	井戸側構築材	桶側板	アスナロ	92.6	14.5	-	2.8	板目	近世	No.71 井戸側下段
255	303	153	2	SE734	14R-919・14	10	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(15.4)	1.0	-	0.35	-	近世	No.30-28
255	303	154	2	SE734	14R-919	10	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(17.2)	0.7	-	0.35	-	近世	No.32-4-121
255	303	155	2	SX1131	14R-9A25	6	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(25.4)	1.3	-	0.4	-	近世	No.439-1-524
255	303	156	2	SE734	14R-919	8	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(14.9)	1.7	-	0.5	-	近世	No.32-4-37
255	303	157	2	SX1131	14R-9A20	8	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(21.1)	1.5	-	0.3	-	近世	No.438-2-143
255	303	158	2	SE734	14R-919・14	10	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(12.0)	1.7	-	0.45	-	近世	No.30-10
255	303	159	2	SX1131	14R-9A25	8	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(12.9)	2.0	-	0.5	-	近世	No.439-1-522
255	303	160	2	SX1131	14R-9A20	8	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(22.2)	2.5	-	0.8	-	近世	No.438-2-404
255	303	161	2	SE734	14R-919・14	10	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(7.4)	0.6	-	0.25	-	近世	No.30-55
255	303	162	2	SX1131	14R-9A25	8	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(12.8)	1.1	-	0.3	-	近世	No.439-1-254
255	303	163	2	SE449	14R-9J11	11	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(17.4)	1.0	-	3.5	-	近世	No.43-28
255	303	164	2	SE734	14R-919	10	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(16.8)	9.5	-	0.1	-	近世	No.32-4-46
256	303	165	2	SX1131	14R-9A25	8	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(17.1)	1.2	-	0.35	-	近世	No.439-1-183
256	303	166	2	SE449	14R-9J11	11	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(12.5)	1.7	-	0.5	-	近世	No.43-22
256	303	167	2	SX1131	14R-9A25	8	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(19.0)	1.6	-	0.3	-	近世	No.439-1-26
256	303	168	2	SE734	14R-919・14	10	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(19.3)	2.2	-	0.3	-	近世	No.30-7
256	303	169	2	SX1131	14R-9A25	8	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(15.5)	2.2	-	2.2	-	近世	No.439-1-144
256	303	170	2	SX1131	14R-9A25	8	建築材	井戸側構築材	籬	竹	(19.8)	2.7	-	0.4	-	近世	No.439-1-90
256	303	171	2	SX1131	14R-9A25	8	部材	竹製品	-	-	(16.1)	0.5	-	0.3	-	近世	No.439-2-369
256	303	172	2	SX1131	14R-9B21	6	部材	板材	-	-	(16.35)	(3.3)	-	0.8	板目	近世	No.354 7か所に釘穴箱蓋の可能性
256	304	173	2	SX1131	14R-9B21	8	部材	板材	-	-	(16.6)	3.5	-	0.9	板目	近世	No.429
256	304	174	2	SX1131	14R-9A25	6	部材	板材	-	-	27.3	(4.7)	-	0.8	板目	近世	No.286 左側欠損 墨書(判読不能)
256	304	175	2	SX1131	14R-9B21	6	部材	板材	-	-	16.4	6.3	-	1.0	板目	近世	No.391 木釘
256	304	176	2	SX1131	14R-9A20	6	部材	板材	-	-	18.5	3.5	-	0.8	板目	近世	No.415
256	304	177	2	SX1131	14R-9A25	6	部材	板材	-	-	(20.8)	(4.5)	-	1.3	板目	近世	No.369 4か所に釘穴
256	304	178	2	SX1131	14R-9B21	6	部材	板材	-	-	(14.8)	(6.3)	-	0.9	板目	近世	No.265 穿孔1ヶ所 釘穴4ヶ所
256	304	179	2	SX1131	14R-9B21	5	部材	板材	-	-	(15.2)	(5.9)	-	1.0	板目	近世	No.350 上部に釘穴か
256	304	180	2	SX1131	14R-9A25	6	部材	板材	-	-	(10.7)	(6.6)	-	0.8	板目	近世	No.338 釘穴に木釘残存 箱?
257	304	181	2	SX1131	14R-9A25	6	部材	板材	-	-	(15.4)	(2.7)	-	1.45	板目	近世	No.340 上部炭化
257	304	182	2	SX1131	14R-9A25	6	部材	板材	-	-	(16.7)	(6.15)	-	1.3	板目	近世	No.370
257	304	183	2	SX1131	14R-9B21	6	部材	角材	-	-	(19.6)	(2.8)	-	1.9	板目	近世	No.333 下方にハツリ痕
257	304	184	2	SX1131	14R-9B21	5	部材	板材	-	-	(22.7)	(7.5)	-	0.4	板目	近世	No.348
257	304	185	2	SX1131	14R-9B21	8	部材	板材	-	-	(23.0)	(9.8)	-	0.7	板目	近世	No.331
257	305	186	2	SX1131	14R-9A25	6	部材	板材	-	-	(26.9)	(3.5)	-	0.5	板目	近世	No.308 釘穴に目釘残存
257	305																

別 表

図版 No.	写真図版 No.	報告 No.	出土位置				器種			樹種	法量 (cm)				木取り	時代	備考 (取り上げNo.)
			区	遺構名	グリッド	層位	大分類	中分類	細分類		長さ/口径	幅/底径	器高	厚さ			
258	305	194	2	SX1131	14R-9A25	3	部材	板材	-	-	(8.4)	(5.7)	-	1.5	板目	近世	No.245
258	305	195	2	SE449	14R-9J6	4	部材	板材	-	-	(6.4)	(4.3)	-	1.4	板目	近世	No.5
258	305	196	2	SX1131	14R-9A25	6	部材	板材	-	-	(17.85)	(8.4)	-	1.3	板目	近世	No.367 表裏両面に刃物痕
258	305	197	2	SX1131	14R-9A25	6	部材	板材	-	-	(12.4)	(7.8)	-	1.4	板目	近世	No.305
258	305	198	2	SX1131	14R-9A25	5	部材	板材	-	-	(13.4)	4.4	-	1.2	板目	近世	No.249 桶側板か
258	305	199	2	SX1131	14R-9A20	6	部材	板材	-	-	(14.0)	(9.5)	-	1.2	板目	近世	No.419 桶側板か
258	306	200	2	SX1131	14R-9B21	6	部材	板材	-	-	(17.4)	(4.3)	-	0.5	板目	近世	No.279
258	306	201	2	SX1131	14R-9A25	4	部材	板材	-	-	(29.3)	(9.2)	-	0.7	板目	近世	No.337 2分割 1箇所に釘穴
258	306	202	2	SX1131	14R-9B21	6	部材	板材	-	-	(21.1)	(4.0)	-	1.2	板目	近世	No.326
258	306	203	2	SE734	14R-9I14	12	部材	板材	-	-	40.6	9.4	-	1.5	板目	近世	No.33
259	306	204	2	SX1131	14R-9A25	8	部材	板材	-	-	(36.9)	4.5	-	1.2	板目	近世	No.439-3-523
259	306	205	2	SX1131	14R-9B21	5	部材	板材	-	-	(19.8)	(8.4)	-	1.3	板目	近世	No.283
259	306	206	2	SX1131	14R-9A20	8	部材	板材	-	-	78.5	5.3	-	1.1	-	近世	No.424
259	306	207	2	SE449	14R-9J11	11	部材	板材	-	-	(79.0)	8.5	-	3.1	板目	近世	No.44
259	306	208	2	SX1131	14R-9B21	6	部材	棒状	-	-	(90.0)	3.8	-	2.2	板目	近世	No.271
259	306	209	2	SX1131	14R-9A25	6	部材	棒状	-	-	(58.6)	3.4	-	2.2	板目	近世	No.319
259	307	210	2	SX1131	14R-9A25	3	部材	板材	-	-	(29.1)	(5.6)	-	1.2	板目	近世	No.219
259	307	211	2	SX1131	14R-9B21	6	部材	円盤形木製品	-	-	(16.0)	(5.5)	-	1.1	板目	近世	No.282
259	307	212	2	SX1131	14R-9A25	6	部材	円盤形木製品	円盤形木製品	-	15.3	(14.5)	-	1.3	板目	近世	No.320
259	307	213	2	SX1131	14R-9B21	5	部材	円盤形木製品	円盤形木製品	-	(10.7)	(7.7)	-	1.4	板目	近世	No.352
259	307	214	2	SK550	14R-7H16	2	部材	栓	-	-	(2.9)	(1.2)	-	0.9	板目	近世	No.7
-	310	215	2	SX1131	14R-9B21	3	食膳具	漆器	椀	-	-	-	-	-	-	近世	No.158
-	310	216	2	SK1201	14R-8G22	5	食膳具	漆器	椀	-	-	-	-	-	-	近世	No.20
-	310	217	2	SD492	14R-8I11	10	食膳具	漆器	椀	-	-	-	-	-	-	近世	No.43
-	310	218	2	SK633	14R-8I22	2	食膳具	漆器	椀	-	-	-	-	-	-	近世	No.8

別表 12 数珠玉観察表

※ 法量・重量：() は現存値

図版 No.	写真図版 No.	報告 No.	出土位置				孔数	材質	分類	法量 (mm)				重量 (g)	手法	備考
			区	遺構名	グリッド	層位				長径	短径	高さ	孔径			
260	308	1	1	SK682	14Q-3F16	4	2	ガラス	A1 ii	10.00	9.50	7.00	上面：2.00 正面：2.25	1.24	ミガキ	
260	308	2	1	SK706	14Q-3F12・17	6	2	木	A2 iv	8.00	8.50	5.50	上面：1.00 正面：2.00	(0.07)	ケズリ	
260	308	3	1	SK706	14Q-3F12・17	6	2	木	A2 iv	7.75	7.25	4.90	上面：0.90 正面：1.00	0.04	ケズリ	漆付着
260	308	4	1	SK706	14Q-3F16・17	1	1	ガラス	B1 i	5.25	5.00	5.00	1.10	0.23	ミガキ	
260	308	5	1	SK707	14Q-3F17	4	1	ガラス	B1 i	5.25	3.00	2.50	1.10	(0.06)	ミガキ	
260	308	6	1	SK682	14Q-3F16	4	1	ガラス	B1 ii	5.60	5.00	4.00	1.50	0.16	ミガキ	
260	308	7	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	ガラス	B1 ii	5.00	4.75	3.60	1.20	0.13	ミガキ	
260	308	8	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	ガラス	B1 ii	5.00	5.00	4.00	1.15	0.15	ミガキ	
260	308	9	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	ガラス	B1 ii	4.50	4.55	3.75	1.20	0.13	ミガキ	
260	308	10	1	SK683	14Q-3E15・20	2	1	ガラス	B1 ii	5.00	4.90	3.50	1.00	0.15	ミガキ	
260	308	11	1	SK683	14Q-3E15・20	2	1	ガラス	B1 ii	4.60	4.75	3.25	1.00	0.12	ミガキ	
260	308	12	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	ガラス	B1 ii	4.90	4.50	4.50	1.10	0.15	ミガキ	
260	308	13	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	ガラス	B1 ii	4.90	5.50	4.00	1.25	0.14	ミガキ	
260	308	14	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	ガラス	B1 ii	5.00	4.25	3.50	1.40	0.13	ミガキ	
260	308	15	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	ガラス	B1 ii	4.55	5.00	4.00	1.20	0.13	ミガキ	
260	308	16	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	ガラス	B1 ii	4.75	4.60	3.60	1.00	0.12	ミガキ	
260	308	17	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	ガラス	B1 ii	5.00	5.25	3.50	1.05	0.13	ミガキ	
260	308	18	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	ガラス	B1 ii	1:5.50 2:5.50 3:5.00 4:5.00	1:5.00 2:4.50 3:4.50 4:3.50	1:3.50 2:3.50 3:3.00 4:3.50	1:1.00 2:1.00 3:1.00 4:0.50	0.53 [総重量]	ミガキ	正面図からみて上：1、下：2、左：3、右：4
260	308	19	1	SK706	14Q-3F12・17	4	1	木	B2 ii	4.50	4.00	1.50	0.60	-	ケズリ	
260	308	20	1	SK706	14Q-3F12・17	4	1	木	B2 ii	5.25	4.50	2.50	0.90	-	ケズリ	
260	308	21	1	SK706	14Q-3F12・17	4	1	木	B2 ii	4.50	4.00	1.75	0.60	-	ケズリ	
260	308	22	1	SK706	14Q-3F12・17	4	1	木	B2 ii	5.50	5.00	1.50	0.55	-	ケズリ	
260	308	23	1	SK706	14Q-3F12・17	4	1	木	B2 ii	4.25	3.75	2.00	0.55	-	ケズリ	
260	308	24	1	SK706	14Q-3F12・17	4	1	木	B2 ii	4.50	4.00	1.50	0.50	-	ケズリ	
260	308	25	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2 ii	5.25	4.50	2.40	0.50	-	ケズリ	
260	308	26	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2 ii	4.75	4.00	2.05	0.50	-	ケズリ	
260	308	27	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2 ii	5.50	5.00	2.50	0.50	-	ケズリ	漆付着
260	308	28	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2 ii	5.00	4.25	2.00	0.90	-	ケズリ	
260	308	29	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2 ii	5.00	4.50	2.50	0.90	-	ケズリ	
260	308	30	1	SK706	14Q-3F12・17	4	1	木	B2 ii	5.50	4.50	1.50	0.70	-	ケズリ	
260	308	31	1	SK706	14Q-3F17	5	1	木	B2 ii	4.50	4.00	1.75	0.75	-	ケズリ	
260	308	32	1	SK706	14Q-3F12・17	4	1	木	B2 ii	4.50	4.25	1.75	0.50	-	ケズリ	
260	308	33	1	SK706	14Q-3F17	5	1	木	B2 ii	5.00	4.50	2.40	1.00	-	ケズリ	漆付着
260	308	34	1	SK706	14Q-3F17	5	1	木	B2 ii	4.90	4.40	2.50	1.00	-	ケズリ	
260	308	35	1	SK706	14Q-3F17	6	1	木	B2 ii	5.00	4.50	2.50	0.60	-	ケズリ	
260	308	36	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2 ii	5.00	4.50	2.00	0.60	-	ケズリ	
260	308	37	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2 ii	4.75	4.00	2.10	0.60	-	ケズリ	
260	308	38	1	SK706	14Q-3F17	6	1	木	B2 ii	4.75	4.25	2.00	0.50	-	ケズリ	
260	308	39	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2 ii	5.00	4.00	2.25	1.00	-	ケズリ	
260	308	40	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2 ii	5.50	4.50	2.50	0.75	-	ケズリ	漆付着
260	308	41	1	SK706	14Q-3F12・17	4	1	木	B2 ii	4.50	3.75	1.50	0.60	-	ケズリ	
260	308	42	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2 ii	5.25	4.50	2.50	0.60	-	ケズリ	漆付着
260	308	43	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2 ii	5.00	4.25	1.75	0.60	-	ケズリ	
260	308	44	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2 ii	5.75	4.25	2.00	0.75	-	ケズリ	
260	308	45	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2 ii	5.25	4.50	2.50	0.60	-	ケズリ	
260	308	46	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2 ii	5.25	4.50	2.25	0.50	-	ケズリ	
260	308	47	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2 ii	5.50	4.90	1.85	0.95	-	ケズリ	
260	308	48	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2 ii	5.50	4.50	2.00	0.50	-	ケズリ	
260	308	49	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2 ii	4.75	4.25	2.00	0.75	-	ケズリ	
260	308	50	1	SK706	14Q-3F12・17	4	1	木	B2 ii	4.50	4.00	2.00	0.60	-	ケズリ	

図版 No.	写真 版No.	報告 No.	出土位置			孔数	材質	分類	法量 (mm)				重量 (g)	手法	備考	
			区	遺構名	グリッド				層位	長径	短径	高さ				孔径
260	308	51	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2ii	5.00	4.00	2.00	0.55	-	ケズリ	
260	308	52	1	SK706	14Q-3F17	5	1	木	B2ii	5.00	4.50	2.40	0.55	-	ケズリ	
261	308	53	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2ii	5.00	4.25	2.50	0.75	-	ケズリ	
261	308	54	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2ii	5.40	4.50	2.25	0.50	-	ケズリ	
261	308	55	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2ii	4.65	4.40	2.00	0.75	-	ケズリ	
261	308	56	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2ii	5.50	4.55	2.45	0.75	-	ケズリ	
261	308	57	1	SK706	14Q-3F17	5	1	木	B2ii	4.75	4.00	2.50	0.75	-	ケズリ	漆付着
261	308	58	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2ii	5.25	4.50	2.25	0.50	-	ケズリ	
261	308	59	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2ii	5.25	4.50	2.00	0.60	-	ケズリ	
261	308	60	1	SK706	14Q-3F17	5	1	木	B2ii	5.00	4.50	2.50	1.00	-	ケズリ	
261	308	61	1	SK706	14Q-3F17	6	1	木	B2ii	5.00	4.50	2.25	0.85	-	ケズリ	
261	308	62	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2ii	5.40	4.50	2.50	0.90	-	ケズリ	漆付着
261	308	63	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2ii	5.10	4.25	2.40	0.65	-	ケズリ	
261	308	64	1	SK706	14Q-3F12・17	4	1	木	B2ii	5.00	4.50	2.75	0.85	-	ケズリ	
261	308	65	1	SK706	14Q-3F12・17	4	1	木	B2ii	5.75	4.25	2.00	0.90	-	ケズリ	漆付着
261	308	66	1	SK706	14Q-3F17	5	1	木	B2ii	5.40	4.50	2.50	1.00	-	ケズリ	
261	308	67	1	SK707	14Q-3F17・18	3	1	木	B2ii	5.00	4.50	2.00	0.55	-	ケズリ	
261	308	68	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2ii	1:5.00 2:- 3:-	1:4.50 2:- 3:-	1:2.50 2:2.50 3:2.50	1:0.55 2:- 3:0.55	0.08 [総重量]	ケズリ	溶着 漆付着 上:1、中:2、下:3
261	308	69	1	SK706	14Q-3F12・17	4	1	木	B2ii	1:5.00 2:5.00	1:5.00 2:4.50	1:2.50 2:2.50	1:0.50 2:0.50	0.04 [総重量]	ケズリ	上:1、下:2
261	308	70	1	SK706	14Q-3F12・17	6	1	木	B2ii	1:- 2:-	1:- 2:-	1:2.50 2:2.50	1:0.70 2:1.00	0.05 [総重量]	ケズリ	溶着 漆付着 上:1、下:2
261	308	71	1	SK682	14Q-3F16	4	1	木	B2iii	6.95	6.00	4.00	0.60	0.05	ケズリ	
261	308	72	1	SK682	14Q-3F16	4	1	木	B2iii	7.00	6.25	3.75	1.00	0.05	ケズリ	漆付着
261	308	73	1	SK682	14Q-3F11	1	1	木	B2iii	7.00	6.25	3.50	0.60	0.05	ケズリ	
261	308	74	1	SK682	14Q-3F16	1	1	木	B2iii	6.55	5.25	3.50	0.75	-	ケズリ	樹種同定試料No.37 カキノキ属
261	308	75	1	SK682	14Q-3F16	1	1	木	B2iii	7.00	6.00	3.50	0.75	0.06	ケズリ	
261	308	76	1	SK682	14Q-3F16	4	1	木	B2iii	7.00	6.00	3.90	0.75	0.04	ケズリ	漆付着
261	308	77	1	SK682	14Q-3F16	1	1	木	B2iii	6.50	5.10	3.00	0.75	0.04	ケズリ	樹種同定試料No.38 カキノキ属
261	308	78	1	SK682	14Q-3F16	4	1	木	B2iii	6.50	5.90	3.45	1.00	0.04	ケズリ	
261	308	79	1	SK682	14Q-3F16	4	1	木	B2iii	7.00	4.25	3.50	0.50	(0.03)	ケズリ	漆付着
261	308	80	1	SK540	14Q-4G4	2	1	木	B2iv	6.50	5.00	5.75	1.00	0.04	ケズリ	
261	308	81	1	SK540	14Q-4G4	2	1	木	B2iv	6.75	6.50	5.75	0.75	0.05	ケズリ	
261	308	82	1	SK540	14Q-4G4・9	2	1	木	B2iv	6.25	6.00	5.50	0.50	0.05	ケズリ	
261	308	83	1	SK540	14Q-4G4・9	2	1	木	B2iv	6.50	5.75	6.00	1.10	0.05	ケズリ	
261	308	84	1	SK540	14Q-4G4	2	1	木	B2iv	6.00	5.50	5.50	0.90	0.04	ケズリ	
261	308	85	1	SK540	14Q-4G4	2	1	木	B2iv	6.75	6.25	5.50	1.45	0.04	ケズリ	
261	308	86	1	SK540	14Q-4G4・9	2	1	木	B2iv	6.25	5.75	5.50	0.50	0.05	ケズリ	
261	308	87	1	SK540	14Q-4G4	2	1	木	B2iv	7.25	6.50	6.00	0.75	0.05	ケズリ	
261	308	88	1	SK540	14Q-4G4・9	2	1	木	B2iv	6.50	6.25	6.25	0.55	0.05	ケズリ	
261	308	89	1	SK540	14Q-4G4	2	1	木	B2iv	7.00	6.50	5.75	0.75	0.06	ケズリ	
261	308	90	1	SK540	14Q-4G4	2	1	木	B2iv	6.75	6.00	6.00	0.50	0.06	ケズリ	
261	308	91	1	SK540	14Q-4G4	2	1	木	B2iv	6.00	6.25	5.00	0.75	0.04	ケズリ	
261	308	92	1	SK540	14Q-4G4	2	1	木	B2iv	7.00	6.00	6.00	1.10	0.05	ケズリ	
261	308	93	1	SK540	14Q-4G4	2	1	木	B2v	5.50	4.50	3.75	0.90	-	ケズリ	
261	308	94	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	木	B2v	4.75	3.75	3.00	0.50	-	ケズリ	
261	308	95	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	木	B2v	4.50	4.00	3.40	0.90	-	ケズリ	
261	308	96	1	SK683	14Q-3E15・20	2	1	木	B2v	4.75	4.00	3.00	0.55	-	ケズリ	
261	308	97	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	木	B2v	4.50	4.00	3.55	0.80	-	ケズリ	
261	308	98	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	木	B2v	4.75	4.25	3.50	1.00	-	ケズリ	
261	308	99	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	木	B2v	4.50	3.75	3.25	0.75	-	ケズリ	
261	308	100	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	木	B2v	4.50	4.00	3.50	0.60	-	ケズリ	
261	308	101	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	木	B2v	4.75	4.00	3.00	0.60	-	ケズリ	
261	308	102	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	木	B2v	4.60	4.15	3.50	0.50	-	ケズリ	
261	308	103	1	SK683	14Q-3E15・20	2	1	木	B2v	4.75	4.00	3.50	0.55	-	ケズリ	
261	308	104	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	木	B2v	4.50	3.75	3.25	0.55	-	ケズリ	
261	308	105	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	木	B2v	4.25	3.50	3.50	0.60	-	ケズリ	
261	308	106	1	SK683	14Q-3E15・20	2	1	木	B2v	4.50	4.00	4.00	0.60	-	ケズリ	
261	308	107	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	木	B2v	4.75	3.75	3.50	0.90	-	ケズリ	
261	308	108	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	木	B2v	5.00	3.90	3.05	0.50	-	ケズリ	
261	308	109	1	SK683	14Q-3E15・20	2	1	木	B2v	4.75	4.00	3.75	0.75	-	ケズリ	
261	308	110	1	SK683	14Q-3E15・20	2	1	木	B2v	4.50	4.00	3.10	0.50	-	ケズリ	
261	308	111	1	SK707	14Q-3F17・18・22・23	3	1	木	B2v	4.50	4.00	3.25	0.60	-	ケズリ	
261	308	112	1	SK707	14Q-3F17・18・22・23	3	1	木	B2v	4.55	3.90	3.00	0.85	-	ケズリ	
261	308	113	1	SK686	14Q-3E13	2	1	木	B2v	5.50	4.10	5.75	1.00	-	ケズリ	
261	308	114	1	SK540	14Q-4G4	2	1	木	B2vi	5.00	5.00	5.75	0.65	-	ケズリ	
261	308	115	1	SK682	14Q-3F11	1	1	木	B2vi	4.00	3.45	2.05	(0.65)	-	ケズリ	
261	308	116	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	木	B2vi	4.00	4.05	3.50	(0.70)	-	ケズリ	
261	308	117	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	木	B2vi	4.10	3.90	2.25	(0.90)	-	ケズリ	
261	308	118	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	木	B2vi	5.00	4.50	4.00	(0.45)	-	ケズリ	
261	308	119	1	SK540	14Q-4G4	2	1	木	B2vi	6.50	5.25	5.50	(1.00)	-	ケズリ	
261	308	120	1	SK683	14Q-3E15・20	3	1	木	B2viii	4.50	4.45	4.50	(0.75)	-	ケズリ	
261	308	121	1	SK686	14Q-3E13	2	1	木	B2viii	4.00	3.65	4.75	(1.00)	-	ケズリ?	
261	308	122	1	SK707	14Q-3F17・18・22・23	3	1	木	B2viii	5.75	5.00	2.95	(0.50)	-	ケズリ	
261	308	123	2	SK483	14R-7H25	3	1	木	B2i	9.00	8.00	8.00	1.50	0.12	ケズリ?	
261	308	124	2	SK483	14R-7H25	3	1	木	B2i	9.00	8.25	9.00	0.75	0.13	ケズリ?	漆付着
261	308	125	2	SK483	14R-7H25	3	1	木	B2i	8.75	8.25	8.10	0.55	0.14	ケズリ?	
261	308	126	2	SK483	14R-7H25	3	1	木	B2i	8.00	9.00	8.00	1.00	0.13	ケズリ?	
261	308	127	2	SK483	14R-7H25	3	1	木	B2i	7.00	7.25	7.50	0.95	0.10	ケズリ	
261	308	128	2	SK483	14R-7H25	3	1	木	B2i	8.90	8.00	9.75	1.00	0.14	ケズリ	漆付着
261	308	129	2	SK483	14R-7H25	3	1	木	B2i	7.00	3.50	7.75	(1.50)	-	ケズリ?	
261	308	130	2	SK557	14R-8H2	4	1	木	B2vii	3.65	3.25	3.00	0.45	-	ケズリ	
261	308	131	2	SK557	14R-8H2	4	1	木	B2vii	3.50	3.00	2.75	0.50	-	ケズリ	

別表 13 遺構出土古代土器器種構成比率表

区	遺構	器種 計測法	須恵器							土師器						合計									
			無台杯		有台杯		壺		横瓶		壺・瓶類		その他・不明		無台碗		鉢		その他・不明		黒色土器 無台碗				
			点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等		比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)
1	SK694	口残値																							
		口縁数(点)																							
		底残値																							
		体部数(点)																							
		総点数(点)																							
		総重量(g)																							
1	SD205	口残値																							
		口縁数(点)																							
		底残値																							
		体部数(点)																							
		総点数(点)																							
		総重量(g)																							
1	SD409	口残値																							
		口縁数(点)																							
		底残値																							
		体部数(点)																							
		総点数(点)																							
		総重量(g)																							
1	ST1	口残値																							
		口縁数(点)																							
		底残値																							
		体部数(点)																							
		総点数(点)																							
		総重量(g)																							
1	SD142	口残値																							
		口縁数(点)																							
		底残値																							
		体部数(点)																							
		総点数(点)																							
		総重量(g)																							
1	SD448	口残値																							
		口縁数(点)																							
		底残値																							
		体部数(点)																							
		総点数(点)																							
		総重量(g)																							
1	SD350	口残値																							
		口縁数(点)																							
		底残値																							
		体部数(点)																							
		総点数(点)																							
		総重量(g)																							
1	SD620	口残値																							
		口縁数(点)																							
		底残値																							
		体部数(点)																							
		総点数(点)																							
		総重量(g)																							
1	SD621	口残値																							
		口縁数(点)																							
		底残値																							
		体部数(点)																							
		総点数(点)																							
		総重量(g)																							
1	SD733	口残値																							
		口縁数(点)																							
		底残値																							
		体部数(点)																							
		総点数(点)																							
		総重量(g)																							
1	SD577	口残値																							
		口縁数(点)																							
		底残値																							
		体部数(点)																							
		総点数(点)																							
		総重量(g)																							

区	遺構	器種 計測法	須恵器											土師器				録	その他・不明	黒色土器		合 計		
			無台杯		有台杯		壺		壺		横版		壺・瓶類		その他・不明		無台椀			無台椀				
			点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等			比率 (%)	点数等		比率 (%)	点数等
1	SD574	口残値																					0.056	
		口縁数(点)																						1
		底残値																						
		底縁数(点)																						
		体部数(点)																						
		総点数(点)																						
1	SD578	口残値																						
		口縁数(点)																						
		底残値																						
		底縁数(点)																						
		体部数(点)																						
		総点数(点)																						1
1	Pit473	口残値																						
		口縁数(点)																						
		底残値																						
		底縁数(点)																						
		体部数(点)																						
		総点数(点)																						1
1	NR500	口残値																						
		口縁数(点)																						
		底残値																						
		底縁数(点)																						
		体部数(点)																						
		総点数(点)																						1
2	SE403	口残値																						
		口縁数(点)																						
		底残値																						
		底縁数(点)																						
		体部数(点)																						
		総点数(点)																						1
2	SE783	口残値																						
		口縁数(点)																						
		底残値																						
		底縁数(点)																						
		体部数(点)																						
		総点数(点)																						1
2	SE1027	口残値																						
		口縁数(点)																						
		底残値																						
		底縁数(点)																						
		体部数(点)																						
		総点数(点)																						1
2	SE351	口残値																						
		口縁数(点)																						
		底残値																						
		底縁数(点)																						
		体部数(点)																						
		総点数(点)																						1
2	SE382	口残値																						
		口縁数(点)																						
		底残値																						
		底縁数(点)																						
		体部数(点)																						
		総点数(点)																						1
2	SE4	口残値																						
		口縁数(点)																						
		底残値																						
		底縁数(点)																						
		体部数(点)																						
		総点数(点)																						1
2	SE251	口残値																						
		口縁数(点)																						
		底残値																						
		底縁数(点)																						
		体部数(点)																						
		総点数(点)																						1

区	遺構	器種	碗		皿		鉢		盤		青白磁		瀬戸・美濃				珠洲焼		珠洲系陶器		合計					
			点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	合子		天目碗		花瓶	壺		片口鉢		片口鉢				
1	NR500	計測法																								
		口残值																								
		口縁数 (点)																								
		底残值																								
		底部数 (点)																								
		体部数 (点)																								
總点数 (点)	1	100.0%																					1			
總重量 (g)	88.81	100.0%																						88.81		
2	SE403	口残值																								
		口縁数 (点)																								
		底残值																								
		底部数 (点)																								
		体部数 (点)																								
		總点数 (点)	1	50.0%																				1	50.0%	2
總重量 (g)	19.90	35.4%																				36.36	64.6%	56.26		
2	SE405	口残值																								
		口縁数 (点)																								
		底残值																								
		底部数 (点)																								
		体部数 (点)																								
		總点数 (点)	1	100.0%																						1
總重量 (g)																								94.58		
2	SE783	口残值																								
		口縁数 (点)																								
		底残值																								
		底部数 (点)																								
		体部数 (点)	1	50.0%	1	50.0%																				2
		總点数 (点)	1	33.3%	1	33.3%																				3
總重量 (g)	2.24	3.4%	6.22	9.5%																				57.16		
2	SE1409	口残值																								
		口縁数 (点)																								
		底残值																								
		底部数 (点)																								
		体部数 (点)																								
		總点数 (点)																								1
總重量 (g)																								333.22		
2	SE519	口残值																								
		口縁数 (点)																								
		底残值																								
		底部数 (点)																								
		体部数 (点)																								
		總点数 (点)																								1
總重量 (g)																								0.083		
2	SE136	口残值																								
		口縁数 (点)																								
		底残值																								
		底部数 (点)																								
		体部数 (点)																								
		總点数 (点)																								2
總重量 (g)																								40.56		
2	SE446	口残值																								
		口縁数 (点)																								
		底残值																								
		底部数 (点)																								
		体部数 (点)																								
		總点数 (点)																								1
總重量 (g)																								60.26		
2	SE137	口残值																								
		口縁数 (点)																								
		底残值																								
		底部数 (点)																								
		体部数 (点)																								
		總点数 (点)																								1
總重量 (g)																								0.250		
2	SE351	口残值																								
		口縁数 (点)																								
		底残值																								
		底部数 (点)																								
		体部数 (点)																								
		總点数 (点)																								1
總重量 (g)																								2.91		
2	SE847	口残值																								
		口縁数 (点)																								
		底残值																								
		底部数 (点)																								
		体部数 (点)																								
		總点数 (点)																								1
總重量 (g)																								41.34		

区	遺構	器種	碗		皿		鉢		盤		青白磁 合子		瀬戸・美濃 天目碗				花瓶		壺		珠洲焼 壺		片口鉢		珠洲系陶器 片口鉢		合計	
			点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)		
2	SE4	計測法																										
		口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底数(点)																										
2	SE734	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底数(点)																										
		体部数(点)																										
2	SE647	口残値	0.056	100.0%																								
		口縁数(点)	1	100.0%																								
		底残値																										
		底数(点)																										
		体部数(点)																										
2	SK1672	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底数(点)																										
		体部数(点)																										
2	SK1671	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底数(点)																										
		体部数(点)																										
2	SK550	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底数(点)																										
		体部数(点)																										
2	SK556	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底数(点)																										
		体部数(点)																										
2	SX1131	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底数(点)																										
		体部数(点)																										
2	SD144	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底数(点)																										
		体部数(点)																										
2	SD81	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底数(点)																										
		体部数(点)																										
2	SD537	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底数(点)																										
		体部数(点)																										

区	遺構	器種 計測法	碗		皿		鉢		盤		青白磁 合子		瀬戸・美濃 天目碗				花瓶		壺		珠洲焼 甕		片口鉢		珠洲系陶器 片口鉢		合 計	
			点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)	点数等	比率 (%)		
2	SD1635	口残值																										
		口縁数(点)																										
		底残值																										
		体部数(点)																										
		総点数(点)																										
		総重量(g)																										
		口残值																										
		口縁数(点)																										
		底残值																										
		体部数(点)																										
		総点数(点)																										
		総重量(g)																										
		口残值																										
		口縁数(点)																										
		底残值																										
		体部数(点)																										
		総点数(点)																										
		総重量(g)																										
		口残值																										
		口縁数(点)																										
		底残值																										
		体部数(点)																										
		総点数(点)																										
		総重量(g)																										
		口残值																										
		口縁数(点)																										
		底残值																										
		体部数(点)																										
		総点数(点)																										
		総重量(g)																										
		口残值																										
		口縁数(点)																										
		底残值																										
		体部数(点)																										
		総点数(点)																										
		総重量(g)																										
		口残值																										
		口縁数(点)																										
		底残值																										
		体部数(点)																										
		総点数(点)																										
		総重量(g)																										
		口残值																										
		口縁数(点)																										
		底残值																										
		体部数(点)																										
		総点数(点)																										
		総重量(g)																										
		口残值																										
		口縁数(点)																										
		底残值																										
		体部数(点)																										
		総点数(点)																										
		総重量(g)																										
		口残值																										
		口縁数(点)																										
		底残值																										
		体部数(点)																										
		総点数(点)																										
		総重量(g)																										

凡例 A:口残値 B:口縁数(点) C:底残値 D:底部数(点) E:体部数(点) F:総点数(点) G:総重量(g)

区 遺構	器種 計測法	磁器														陶器														土師質土器					瓦質土器	合計													
		碗	小碗	小杯	皿	鉢	蓋	德利	猪口	急須	香炉	火入	瓶	花瓶	その他	碗	小碗	皿	掃鉢	鉢	片口鉢	燗鍋	蓋	德利	土瓶	朱罏	香炉	火入	瓶	花生	仏花器	植木鉢	壺	甕	壺甕類		その他	鉢	焙烙	蓋	灯明皿	火鉢							
		点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%		点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%									
1区 SK694	A	0.083																																											0.083				
	B	1	100																																												1		
	C																																																
	D																																																
	E																																																
	F	1	100																																												1		
	G	8.82	100																																												8.8		
1区 SK708	A																																																
	B																																																
	C																																																
	D																																																
	E																																																
	F																																																
	G																																																
1区 SK680	A																																																
	B																																																
	C																																																
	D																																																
	E																																																
	F																																																
	G																																																
1区 SK683	A	0.056																																															
	B	1	100																																														
	C																																																
	D																																																
	E	2	100																																														
	F	3	100																																														
	G	11.43	100																																														
1区 SK682	A																																																
	B																																																
	C																																																
	D																																																
	E																																																
	F																																																
	G																																																
1区 SK705	A																																																
	B																																																
	C																																																
	D																																																
	E																																																
	F																																																
	G																																																

凡例 A:口残値 B:口縁数(点) C:底残値 D:底部数(点) E:体部数(点) F:総点数(点) G:総重量(g)

区遺構	器種 計測法	磁器														陶器														土師質土器				瓦質土器		合計								
		碗	小碗	小杯	皿	鉢	蓋	德利	猪口	急須	香炉	火入	瓶	花瓶	その他	碗	小碗	皿	掃鉢	鉢	汙口鉢	爛鍋	蓋	德利	土瓶	朱罏	香炉	火入	瓶	花生	仏花器	植木鉢	壺	甕	壺甕類		その他	鉢	焙烙	蓋	灯明皿	火鉢		
		点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%		点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%				
1区 SD672	A																		0.139																								0.139	
	B																			3																								3
	C																			0.056																							0.056	
	D																			1																							1	
	E																			1																							1	
	F																			5																							5	
	G																			379.57																						379.6		
1区 SD576	A																		0.028																								0.028	
	B																			33.3																							33.3	
	C																			1																							1	
	D																			50																							50	
	E																																											
	F																			1																						1		
	G																			50																						50		
1区 Pit11	A																																											
	B																																											
	C																																											
	D																																											
	E																				1																					1		
	F																			1																						1		
	G																			23.74																					23.74			
1区 Pit160	A																																											
	B																																											
	C																																											
	D																																											
	E																																											
	F																																											
	G																																											
1区 Pit690	A																																											
	B																																											
	C																																											
	D																																											
	E																																											
	F																																											
	G																																											
2区 SE403	A																																											
	B																																											
	C																																											
	D																																											
	E																																											
	F																																											
	G																																											

凡例 A:口残値 B:口縁数(点) C:底残値 D:底部数(点) E:体部数(点) F:総点数(点) G:総重量(g)

区遺構	器種 計測法	磁器															陶器															土師質土器					瓦質土器		合計														
		碗	小碗	小杯	皿	鉢	蓋	德利	猪口	急須	香炉	火入	瓶	花瓶	その他	碗	小碗	皿	掃鉢	鉢	沓口鉢	爛鍋	蓋	德利	土瓶	柔燗	香炉	火入	瓶	花生	仏花器	植木鉢	壺	甕	壺甕類	その他	鉢	焙烙		蓋	灯明皿	火鉢											
		点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)	点数等 比率(%)		点数等 比率(%)	点数等 比率(%)												
2区 SK282	A																																																				
	B																																																				
	C																																																				
	D																																																				
	E																																																				
	F																																																				
	G																																																				
2区 SK487	A																																																				
	B																																																				
	C																																																				
	D																																																				
	E																																																				
	F																																																				
	G																																																				
2区 SK227	A																																																				
	B																																																				
	C																																																				
	D																																																				
	E																																																				
	F																																																				
	G																																																				
2区 SK633	A	0.250 81.8																																																			
	B	2 66.7																																																			
	C	0.306 40.7																																																			
	D	2 66.7																																																			
	E	1 50																																																			
	F	3 75																																																			
	G	79.06 55.4																																																			
2区 SK735	A																																																				
	B																																																				
	C																																																				
	D																																																				
	E	1 100																																																			
	F	1 100																																																			
	G	2.54 100																																																			
2区 SK628	A	0.333 100																																																			
	B	1 100																																																			
	C	1.000 100																																																			
	D	2 100																																																			
	E	1 100																																																			
	F	2 100																																																			
	G	123.02 100																																																			

凡例 A:口残値 B:口縁数(点) C:底残値 D:底部数(点) E:体部数(点) F:総点数(点) G:総重量(g)

区遺構	器種 計測法	磁器															陶器															土師質土器					瓦質土器		合計					
		碗	小碗	小杯	皿	鉢	蓋	德利	猪口	急須	香炉	火入	瓶	花瓶	その他	碗	小碗	皿	掃鉢	鉢	汙口鉢	燗鍋	蓋	德利	土瓶	柔陶	香炉	火入	瓶	花生	仏花器	植木鉢	壺	甕	壺甕類	その他	鉢	焙烙		蓋	灯明皿	火鉢		
		点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%		点数等 比率%	点数等 比率%			
2区 Pit913	A										0.111 100																																0.111	
	B										1 100																																	1
	C																																											
	D																																											
	E																																											
	F											1 100																																1
	G											2.47 100																																2.5
2区 Pit924	A																																											
	B																																											
	C																																											
	D																																											
	E																																										1	
	F																																											
	G																																											2.6
2区 Pit904	A																																											
	B																																											
	C																																											
	D																																											
	E																																										1	
	F																																										1	
	G																																										6.1	
2区 Pit901	A																																											
	B																																											
	C																																											
	D																																											
	E																																										1	
	F																																										2	
	G																																										4.7	
2区 SD848	A																																											
	B																																											
	C																																										0.111	
	D																																										1	
	E																																										4	
	F																																										5	
	G																																										42.7	
2区 SD940	A																																											
	B																																											
	C																																											
	D																																											
	E																																											
	F																																											
	G																																											

凡例 A:口残値 B:口縁数(点) C:底残値 D:底部数(点) E:体部数(点) F:総点数(点) G:総重量(g)

別表

区 遺構	器種 計測法	磁器														陶器														土師質土器				瓦質土器		合計													
		碗	小碗	小杯	皿	鉢	蓋	德利	猪口	急須	香炉	火入	瓶	花瓶	その他	碗	小碗	皿	掃鉢	鉢	汙口鉢	爛鉢	蓋	德利	土瓶	朱罎	香炉	火入	瓶	花生	仏花器	植木鉢	壺	甕	壺		甕類	その他	鉢	焙烙	蓋	灯明皿	火鉢						
		点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%		点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%	点数等 比率%							
2区 SD1241	A														0.056 50		0.056 50																														0.111		
	B														1 50		1 50																															2	
	C																																																
	D				1 100																																										1		
	E																																																
	F				1 20										1 20		1 20																															2	
	G				42.72 66.6										1.46 2.3		1.75 2.7																														5		
2区 SD1242	A													0.083 100																																		0.083	
	B				1 100																																											1	
	C	0.111 50												0.111 50																																		0.222	
	D	1 50												1 50																																		2	
	E	2 50										1 25	1 25																																		4		
	F	3 42.9			1 14.3							1 14.3	1 14.3	1 14.3																																	7		
	G	21.48 54.1			4.22 10.6							2.12 5.3	2.12 5.3	9.8 24.7																																	39.7		
2区 SD1554	A													0.056 100																																		0.056	
	B				1 100																																											1	
	C																																																
	D																																																
	E	2 100																																														2	
	F	2 66.7			1 33.3																																											3	
	G	18.32 55.5			14.68 44.5																																											33.0	
2区 SD1563	A																			0.111 44.4																												0.250	
	B																			1 50																													2
	C	0.111 100																																														0.111	
	D	1 100																																														1	
	E															1 100																																1	
	F	1 25														1 25																																4	
	G	20.27 19.9														5.72 5.6																																101.9	

別表 16 出土石製品・礫 構成比率表

遺構名	種別 計測法	石製品																	石製品合計	礫		礫合計	總合計
		礫石	礫石+礫石	礫石+台石	硯	磨石	磨石+礫石	敲石	敲石+台石	台石	軽石製品	石臼	パステル製品	不定形石器	刮片	石核	原石	礫		焼礫			
		点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)		点数など比率(%)			
1 SK684	個体数(点)	1100.00%																1100.00%			1100.00%		
	総点数(点)	1100.00%																1100.00%			1100.00%		
	総重量(g)	32.34	100.00%															32.34	100.00%		32.34	100.00%	
1 SK691	個体数(点)					1100.00%												1100.00%	1100.00%		1100.00%	2100.00%	
	総点数(点)					1100.00%												1100.00%	1100.00%		1100.00%	2100.00%	
	総重量(g)					135.54	100.00%											135.54	2.25	100.00%	2.25	137.79	100.00%
1 SK685	個体数(点)	1: 50.00%						1: 50.00%										2: 100.00%			2: 100.00%		
	総点数(点)	1: 50.00%						1: 50.00%										2: 100.00%			2: 100.00%		
	総重量(g)	20.21	38.58%					32.17	61.42%									52.38	100.00%		52.38	100.00%	
1 SK680	個体数(点)				3: 30.00%	1: 10.00%		5: 50.00%					1: 10.00%					10: 100.00%	8: 100.00%		8: 100.00%	18: 100.00%	
	総点数(点)				3: 30.00%	1: 10.00%		5: 50.00%					1: 10.00%					10: 100.00%	8: 100.00%		8: 100.00%	18: 100.00%	
	総重量(g)				225.02	24.73%	180.15	19.80%	279.38	30.71%			225.18	24.75%				909.73	253.17	100.00%	253.17	1162.90	100.00%
1 SK683	個体数(点)																	2: 100.00%			2: 100.00%		
	総点数(点)																	2: 100.00%			2: 100.00%		
	総重量(g)																		25.06	100.00%	25.06	25.06	100.00%
1 SK700	個体数(点)										1100.00%							1100.00%			1100.00%		
	総点数(点)										1100.00%							1100.00%			1100.00%		
	総重量(g)										8.20	100.00%						8.20	100.00%		8.20	100.00%	
1 SK706	個体数(点)							1: 50.00%		1: 50.00%								2: 100.00%	3: 100.00%		3: 100.00%	5: 100.00%	
	総点数(点)							1: 50.00%		1: 50.00%								2: 100.00%	3: 100.00%		3: 100.00%	5: 100.00%	
	総重量(g)							66.39	32.28%	139.26	67.72%							205.65	100.00%	89.56	100.00%	295.21	100.00%
1 SK681	個体数(点)							1: 50.00%		1: 50.00%								2: 100.00%	1: 100.00%		1: 100.00%	3: 100.00%	
	総点数(点)							1: 50.00%		1: 50.00%								2: 100.00%	1: 100.00%		1: 100.00%	3: 100.00%	
	総重量(g)							132.97	27.46%	351.28	72.54%							484.25	100.00%	40.23	100.00%	524.48	100.00%
1 SK682	個体数(点)							1: 33.33%	2: 66.67%									3: 100.00%	1: 100.00%		1: 100.00%	4: 100.00%	
	総点数(点)							1: 33.33%	2: 66.67%									3: 100.00%	1: 100.00%		1: 100.00%	4: 100.00%	
	総重量(g)							5.93	6.16%	90.40	93.84%							96.33	100.00%	30.26	100.00%	126.59	100.00%
1 SK705	個体数(点)	1: 33.33%						2: 66.67%										3: 100.00%	2: 100.00%		2: 100.00%	5: 100.00%	
	総点数(点)	1: 33.33%						2: 66.67%										3: 100.00%	2: 100.00%		2: 100.00%	5: 100.00%	
	総重量(g)	37.73	21.72%					135.98	78.28%									173.71	100.00%	84.50	100.00%	258.21	100.00%
1 SK707	個体数(点)																	1: 100.00%			1: 100.00%		
	総点数(点)																	1: 100.00%			1: 100.00%		
	総重量(g)																		15.99	100.00%	15.99	15.99	100.00%
1 SD28	個体数(点)							1100.00%										1100.00%			1100.00%		
	総点数(点)							1100.00%										1100.00%			1100.00%		
	総重量(g)							73.01	100.00%									73.01	100.00%		73.01	100.00%	
1 SD205	個体数(点)							2: 50.00%		2: 50.00%								4: 100.00%			4: 100.00%		
	総点数(点)							2: 50.00%		2: 50.00%								4: 100.00%			4: 100.00%		
	総重量(g)							529.59	43.56%	686.08	56.44%							1215.67	100.00%		1215.67	100.00%	
1 SD409	個体数(点)							1100.00%										1100.00%			1100.00%		
	総点数(点)							1100.00%										1100.00%			1100.00%		
	総重量(g)							101.08	100.00%									101.08	100.00%		101.08	100.00%	
1 SD119	個体数(点)							1100.00%										1100.00%			1100.00%		
	総点数(点)							1100.00%										1100.00%			1100.00%		
	総重量(g)							30.48	100.00%									30.48	100.00%		30.48	100.00%	
1 SD446	個体数(点)							1100.00%										1100.00%			1100.00%		
	総点数(点)							1100.00%										1100.00%			1100.00%		
	総重量(g)							154.53	100.00%									154.53	100.00%		154.53	100.00%	
1 SD448	個体数(点)							2: 100.00%										2: 100.00%			2: 100.00%		
	総点数(点)							2: 100.00%										2: 100.00%			2: 100.00%		
	総重量(g)							267.47	100.00%									267.47	100.00%		267.47	100.00%	
1 SD391	個体数(点)							1100.00%										1100.00%			1100.00%		
	総点数(点)							1100.00%										1100.00%			1100.00%		
	総重量(g)							3.82	100.00%									3.82	100.00%		3.82	100.00%	
1 SD329	個体数(点)	1: 3.03%			9: 27.27%	10: 30.30%	11: 33.33%			1: 3.03%								33: 100.00%	19: 100.00%		19: 100.00%	52: 100.00%	
	総点数(点)	1: 3.03%			9: 27.27%	10: 30.30%	11: 33.33%			1: 3.03%								33: 100.00%	19: 100.00%		19: 100.00%	52: 100.00%	
	総重量(g)	71.61	2.50%		461.51	16.12%	971.15	33.92%	1248.23	43.60%	73.25	2.56%						2863.06	100.00%	779.81	100.00%	3642.87	100.00%
1 SD623	個体数(点)	1100.00%																1100.00%			1100.00%		
	総点数(点)	1100.00%																1100.00%			1100.00%		
	総重量(g)	26.48	100.00%															26.48	100.00%		26.48	100.00%	
1 SD732	個体数(点)							1100.00%										1100.00%	1: 100.00%		1: 100.00%	2: 100.00%	
	総点数(点)							1100.00%										1100.00%	1: 100.00%		1: 100.00%	2: 100.00%	
	総重量(g)							38.30	100.00%									38.30	100.00%	14.86	100.00%	53.16	100.00%
1 SD733	個体数(点)	1: 8.33%	1: 8.33%		2: 16.67%	2: 16.67%	6: 50.00%											12: 100.00%	15: 100.00%		15: 100.00%	27: 100.00%	
	総点数(点)	1: 8.33%	1: 8.33%		2: 16.67%	2: 16.67%	6: 50.00%											12: 100.00%	15: 100.00%		15: 100.00%	27: 100.00%	
	総重量(g)	16.10	1.41%	255.05	22.32%	263.66	23.07%	209.24	18.31%	398.75	34.89%							1142.74	100.00%	634.18	100.00%	1776.92	100.00%
1 SD703	個体数(点)							1100.00%										1100.00%			1100.00%		
	総点数(点)							1100.00%										1100.00%			1100.00%		
	総重量(g)							68.24	100.00%			</											

遺構名	種別 計測法	石製品																石製品合計	礫			礫合計	總合計					
		砥石 点数など比率(%)	砥石+砥石 点数など比率(%)	砥石+台石 点数など比率(%)	硯 点数など比率(%)	磨石 点数など比率(%)	磨石+砥石 点数など比率(%)	敲石 点数など比率(%)	敲石+台石 点数など比率(%)	台石 点数など比率(%)	解石製石製品 点数など比率(%)	石臼 点数など比率(%)	バステル形石製品 点数など比率(%)	不定形石器 点数など比率(%)	刮片 点数など比率(%)	石核 点数など比率(%)	原石 点数など比率(%)		礫 点数など比率(%)	燒礫 点数など比率(%)								
1 SD577	個体数(点)					1100.00%												1100.00%							1100.00%			
	總点数(点)					1100.00%												1100.00%							1100.00%			
	總重量(g)					114.63	100.00%											114.63	100.00%						114.63	100.00%		
1 Pit40	個体数(点)					1100.00%												1100.00%							1100.00%			
	總点数(点)					1100.00%												1100.00%							1100.00%			
	總重量(g)					286.22	100.00%											286.22	100.00%						286.22	100.00%		
1 Pit832	個体数(点)									1100.00%								1100.00%							1100.00%			
	總点数(点)									1100.00%								1100.00%							1100.00%			
	總重量(g)									115.43	100.00%							115.43	100.00%						115.43	100.00%		
1 NR500	個体数(点)	6	66.67%															9	100.00%						9	100.00%		
	總点数(点)	6	66.67%															9	100.00%						9	100.00%		
	總重量(g)	365.22	26.29%															1389.38	100.00%						1389.38	100.00%		
2 SE403	個体数(点)																											
	總点数(点)																											
	總重量(g)																											
2 SE405	個体数(点)									1100.00%								1100.00%								1100.00%		
	總点数(点)									1100.00%								1100.00%								1100.00%		
	總重量(g)									146.48	100.00%							146.48	100.00%	1.12	100.00%			1.12	100.00%	147.60	100.00%	
2 SE1409	個体数(点)																											
	總点数(点)																											
	總重量(g)																											
2 SE519	個体数(点)					1	20.00%				2	40.00%						5	100.00%							5	100.00%	
	總点数(点)					1	20.00%				2	40.00%						5	100.00%							5	100.00%	
	總重量(g)					78.86	3.59%				1449.07	65.96%						2196.90	100.00%							2196.90	100.00%	
2 SE538	個体数(点)																											
	總点数(点)																											
	總重量(g)																											
2 SE446	個体数(点)										2	66.67%																
	總点数(点)										1	33.33%																
	總重量(g)										319.59	21.42%																
2 SE136	個体数(点)																											
	總点数(点)																											
	總重量(g)																											
2 SE1028	個体数(点)																											
	總点数(点)																											
	總重量(g)																											
2 SE1203	個体数(点)																											
	總点数(点)																											
	總重量(g)																											
2 SE728	個体数(点)																											
	總点数(点)																											
	總重量(g)																											
2 SE444	個体数(点)	1	25.00%								2	50.00%																
	總点数(点)	1	25.00%								2	50.00%																
	總重量(g)	134.99	1.49%								8900.00	98.43%																
2 SE351	個体数(点)					2	25.00%			2	25.00%			1	12.50%													
	總点数(点)					2	25.00%			2	25.00%			1	12.50%													
	總重量(g)					493.10	23.56%	460.67	22.01%	687.05	32.83%			360.02	17.20%	91.76	4.38%											
2 SE846	個体数(点)																											
	總点数(点)																											
	總重量(g)																											
2 SE847	個体数(点)																											
	總点数(点)																											
	總重量(g)																											
2 SE392	個体数(点)																											
	總点数(点)																											
	總重量(g)																											
2 SE251	個体数(点)																											
	總点数(点)																											
	總重量(g)																											
2 SE23	個体数(点)																											
	總点数(点)																											
	總重量(g)																											
2 SE709	個体数(点)																											
	總点数(点)																											
	總重量(g)																											
2 SE845	個体数(点)																											
	總点数(点)																											
	總重量(g)																											
2 SE449	個体数(点)	1	4.35%																									
	總点数(点)	1	4.35%																									
	總重量(g)	28.09	0.60%																									
2 SE734	個体数(点)																											
	總点数(点)																											
	總重量(g)																											
2 SE647	個体数(点)																											
	總点数(点)																											
	總重量(g)																											
2 SE1022	個体数(点)																											
	總点数(点)																											
	總重量(g)																											

遺構名	補測法	石製品																	石製品合計	礫			礫合計	總合計
		砥石 点数など比率(%)	砥石+砥石 点数など比率(%)	砥石+台石 点数など比率(%)	硯 点数など比率(%)	磨石 点数など比率(%)	磨石+砥石 点数など比率(%)	敲石 点数など比率(%)	敲石+台石 点数など比率(%)	台石 点数など比率(%)	斬石製石製品 点数など比率(%)	石臼 点数など比率(%)	バスター形石製品 点数など比率(%)	不定形石器 点数など比率(%)	剥片 点数など比率(%)	石核 点数など比率(%)	原石 点数など比率(%)	礫 点数など比率(%)		焼礫 点数など比率(%)				
2 SK372	個体数(点)					1: 50.00%													2:100.00%				2:100.00%	
	総点数(点)					1: 50.00%													2:100.00%				2:100.00%	
	総重量(g)					7.25: 2.80%					252.13: 97.20%								259.38:100.00%				259.38:100.00%	
2 SK529	個体数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総点数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総重量(g)																		43.49:100.00%				43.49:100.00%	
2 SK404	個体数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総点数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総重量(g)																		31.56:100.00%				31.56:100.00%	
2 SK224	個体数(点)					1:100.00%													1:100.00%				1:100.00%	
	総点数(点)					1:100.00%													1:100.00%				1:100.00%	
	総重量(g)					25.59:100.00%													25.59:100.00%				25.59:100.00%	
2 SK1125	個体数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総点数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総重量(g)																		162.52:100.00%				162.52:100.00%	
2 SK1326	個体数(点)					1: 33.33%													3:100.00%				3:100.00%	
	総点数(点)					1: 33.33%													3:100.00%				3:100.00%	
	総重量(g)					15.98: 5.82%													258.65: 94.18%				274.63:100.00%	
2 SK793	個体数(点)																		3: 75.00%				4:100.00%	
	総点数(点)																		3: 75.00%				4:100.00%	
	総重量(g)																		537.86: 78.34%				148.73: 21.66%	
2 SK550	個体数(点)					1: 14.29%													1: 14.29%				7:100.00%	
	総点数(点)					1: 14.29%													1: 14.29%				7:100.00%	
	総重量(g)					110.56: 29.56%													33.45: 8.94%				42.92: 11.48%	
2 SK400	個体数(点)					2: 25.00%													3: 37.50%				2: 25.00%	
	総点数(点)					2: 25.00%													3: 37.50%				2: 25.00%	
	総重量(g)					125.22: 21.36%													60.15: 10.26%				389.77: 66.50%	
2 SK556	個体数(点)					1: 4.55%													5: 22.73%				2: 9.09%	
	総点数(点)					1: 4.55%													5: 22.73%				2: 9.09%	
	総重量(g)					7.32: 0.38%													191.77: 9.86%				796.35: 40.94%	
2 SK498	個体数(点)																		1: 25.00%				2: 50.00%	
	総点数(点)																		1: 25.00%				2: 50.00%	
	総重量(g)																		209.19: 63.34%				85.62: 25.93%	
2 SK442	個体数(点)					1: 50.00%													1: 50.00%				2:100.00%	
	総点数(点)					1: 50.00%													1: 50.00%				2:100.00%	
	総重量(g)					70.55: 58.30%													50.47: 41.70%				121.02:100.00%	
2 SK282	個体数(点)																		1: 50.00%				2:100.00%	
	総点数(点)																		1: 50.00%				2:100.00%	
	総重量(g)																		57.19: 8.45%				619.82: 91.55%	
2 SK5	個体数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総点数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総重量(g)																		57.19: 8.45%				619.82: 91.55%	
2 SK227	個体数(点)																		1: 50.00%				2:100.00%	
	総点数(点)																		1: 50.00%				2:100.00%	
	総重量(g)																		87.70: 45.69%				104.25: 54.31%	
2 SK633	個体数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総点数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総重量(g)																		9200.00:100.00%				9200.00:100.00%	
2 SK735	個体数(点)																		1: 50.00%				2:100.00%	
	総点数(点)																		1: 50.00%				2:100.00%	
	総重量(g)																		68.80: 17.85%				316.60: 82.15%	
2 SK628	個体数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総点数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総重量(g)																		13.25:100.00%				13.25:100.00%	
2 SK1202	個体数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総点数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総重量(g)																		13.25:100.00%				13.25:100.00%	
2 SK1201	個体数(点)																		1: 25.00%				4:100.00%	
	総点数(点)																		1: 25.00%				4:100.00%	
	総重量(g)																		12.73: 6.88%				127.87: 69.07%	
2 SX1131	個体数(点)																		1: 2.38%				11: 26.19%	
	総点数(点)																		1: 2.38%				11: 26.19%	
	総重量(g)																		236.10: 5.70%				352.09: 8.51%	
2 SD150	個体数(点)																		3: 50.00%				3: 50.00%	
	総点数(点)																		3: 50.00%				3: 50.00%	
	総重量(g)																		8.27: 1.83%				98.43: 21.72%	
2 SD144	個体数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総点数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総重量(g)																		1100.00%				1100.00%	
2 SD81	個体数(点)																		1: 33.33%				3:100.00%	
	総点数(点)																		1: 33.33%				3:100.00%	
	総重量(g)																		163.87: 2.34%				6835.58: 97.66%	
2 SD481	個体数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総点数(点)																		1:100.00%				1:100.00%	
	総重量(g)																		35.80:100.00%				35.80:100.00%	
2 SD252	個体数(点)																		1: 25.00%				4:100.00%	
	総点数(点)																		1: 25.00%				4:100.00%	
	総重量(g)																		8.27: 1.83%				98.43: 21.72%	
2 SD421	個体数(点)																		3:100.00%				3:100.00%	
	総点数(点)																		3:100.00%				3:100.00%	
	総重量(g)																		44.14:100.00%				44.14:100.00%	

遺構名	種別 計測法	石製品																石製品合計	礫		礫合計	総合計	
		砥石	砥石+敲石	砥石+台石	硯	磨石	磨石+敲石	敲石	敲石+台石	台石	軽石製石製品	石臼	バステル形石製品	不定形石器	剥片	石核	原石		礫	焼礫			
		点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)	点数など比率(%)						点数など比率(%)
2 Pit905	個体数(点)									1:100.00								1:100.00					1:100.00
	総点数(点)									1:100.00								1:100.00					1:100.00
	総重量(g)									56.97:100.00								56.97:100.00					56.97:100.00
2 Pit907	個体数(点)									1:100.00								1:100.00					1:100.00
	総点数(点)									1:100.00								1:100.00					1:100.00
	総重量(g)									39.30:100.00								39.30:100.00					39.30:100.00
2 Pit807	個体数(点)									1:100.00								1:100.00					1:100.00
	総点数(点)									1:100.00								1:100.00					1:100.00
	総重量(g)									184.75:100.00								184.75:100.00					184.75:100.00

別表 17 石製品実測点数表

	砥石	砥石+敲石	砥石+台石	硯	磨石	磨石+敲石	敲石	敲石+台石	台石	軽石製石製品	石臼	バステル形石製品	不定形石器	剥片	石核	原石	合計
1区出土	13	1			24	18	36	1	7	4	1			4			110
1区実測	13	1			24	18	36	1	7	4	1			4			110
2区出土	45	2	1	1	61	44	50	1	29	53			2	10	1	1	307
2区実測	37	2	1	1	61	44	50	1	29	53			2	10	1	1	299
出土合計	58	3	1	1	85	62	86	2	36	57	1		2	11	1	1	417
実測合計	50	3	1	1	85	62	86	2	36	57	1		2	11	1	1	409

別表 18 石製品組成と石材組成表

凡例 () 内数字は接合後の点数

種別	砥石	砥石+敲石	砥石+台石	硯	磨石	磨石+敲石	敲石	敲石+台石	台石	軽石製石製品	石臼	バステル形石製品	不定形石器	剥片	石核	原石	総点数(点)	総重量(g)	平均重量(g)	点数組成(%)	重量組成(%)
凝灰岩	53	2	1		40	16	13		11		1		2	5			144	18241.86	126.68	34.53%	20.47%
緑色凝灰岩				1	1	1	1		2				1				7	1194.13	170.59	1.68%	1.34%
珪質凝灰岩									1								1	540.45	540.45	0.24%	0.61%
砂岩					11	6	23	2	2				1	1			46	8219.25	178.68	11.03%	9.22%
硬質砂岩					7	7	5		3								22	12727.05	578.50	5.28%	14.28%
頁岩	1	1			5	3	5		1				2	1			19	3635.02	191.32	4.56%	4.08%
頁岩(黒色)					1	2	1							1			5	833.29	166.66	1.20%	0.94%
珪質頁岩	1				1	1	1		1								4	4527.46	1131.87	0.96%	5.08%
緑色珪質頁岩							1										1	259.56	259.56	0.24%	0.29%
花崗岩					5	8	11		9								33	20610.26	624.55	7.91%	23.13%
安山岩					5	11	6		3								25	4872.41	194.90	6.00%	5.47%
角閃石安山岩					1												1	15.98	15.98	0.24%	0.02%
粘板岩	1																1	5.16	5.16	0.24%	0.01%
流紋岩	1				3	3	7		3				2		1		20	7904.39	395.22	4.80%	8.87%
珪質流紋岩														1			1	9.48	9.48	0.24%	0.01%
ホルンフェルス							1										1	372.89	372.89	0.24%	0.42%
礫岩					1	1	8										10	1978.74	197.87	2.40%	2.22%
軽石									57								57	976.54	17.13	13.67%	1.10%
チャート					3	1	2										6	1605.66	267.61	1.44%	1.80%
デイサイト						1											1	242.03	242.03	0.24%	0.27%
石英					1		2						2	1			6	129.29	21.55	1.44%	0.15%
鉄石英(赤玉)													1				1	2.19	2.19	0.24%	0.01%
鉄石英(黄玉)																1	1	101.36	101.36	0.24%	0.11%
珪化木	1																1	103.25	103.25	0.24%	0.12%
瑪瑙					1												1	7.25	7.25	0.24%	0.01%
滑石																	2	1.96	0.98	0.48%	0.01%
総点数(点)	58	3	1	1	85	62	86	2	36	57	1	2	11	10	1	1	417			100.00%	
総重量(g)	3080.73	441.48	352.09	385.25	7589.93	11952.04	13016.03	1199.24	46703.69	976.54	225.18	1.96	1616.26	1297.64	177.49	101.36	89116.91	89116.91			100.00%
点数組成(%)	13.91%	0.72%	0.24%	0.24%	20.38%	14.87%	20.62%	0.48%	8.63%	13.67%	0.24%	0.48%	2.64%	2.40%	0.24%	0.24%	100.00%				
重量組成(%)	3.46%	0.50%	0.40%	0.43%	8.52%	13.41%	14.61%	1.35%	52.41%	1.10%	0.25%	0.00%	1.81%	1.46%	0.20%	0.11%	100.00%				

別表 19 地区別石製品組成表

	砥石	砥石+敲石	砥石+台石	硯	磨石	磨石+敲石	敲石	敲石+台石	台石	軽石製石製品	石臼	バステル形石製品	不定形石器	剥片	石核	原石	総点数	総重量
1区出土	13	1			24	18	36	1	7	4	1			4			110	11931.21
2区出土	45	2	1	1	61	44	50	1	29	53			2	10	1	1	307	76800.45
総点数	58	3	1	1	85	62	86	2	36	57	1	2	11	10	1	1	417	88731.66

別 表

別表 20 地区別石材組成表

凡例 () 内数字は接合後の点数

地区	種別 凝灰岩	緑色凝灰岩	珪質凝灰岩	砂岩	硬質砂岩	頁岩	頁岩(黒色)	珪質頁岩	緑色珪質頁岩	花崗岩	安山岩	角閃石安山岩	粘板岩	流紋岩	珪質流紋岩	ホルンフェルス岩	礫岩	軽石	チャート	デイサイト	石英	鉄石英(赤玉)	鉄石英(黄玉)	珪化木	瑪瑙	滑石	総点数(点)	総重量(g)	平均重量(g)
1区	33	1		22	11	5	1	1	1	12	7			9		2	4	1									110	11931.21	108.47
2区	111	6	1	24	11	14	4	3		21	18	1	1	11	1	1	8	53	5	1	6	1	1	1	1	2	307	76800.45	250.16
総点数	144	7	1	46	22	19	5	4	1	33	25	1	1	20	1	1	10	57	6	1	6	1	1	1	1	2	417	88731.66	212.79

別表 21 地区別礫・焼礫点数重量表

調査区	礫	点数			重量(g)		
		包含層	遺構	小計	包含層	遺構	小計
1区	1区	1	57	58	36.38	2092.97	2129.35
	2区	24	141	165	2158.71	4115.62	6274.33
	小計	25	198	223	2195.09	6208.59	8403.68
焼礫	1区	1		1	17.02		17.02
	2区	3	4	7	367.97	94.96	462.93
	小計	4	4	8	384.99	94.96	479.95
合計		29	202	231	2580.08	6303.55	8883.63

別表 22 遺構出土金属製品・鍛冶関連遺物区毎組成表

区	種別 計測法	金属製品					小計	鍛冶関連遺物				小計
		刀子	包丁	鎌	釘	板状鉄製品		羽口	腕形鍛冶滓	銅塊	銅製埴塙	
1	総点数(点)		1		2		3					
	個体数(点)		1		2		3					
	総重量(g)		15.90		1.67		17.57					
2	総点数(点)	1	1	2	5	1	10	1	4	1	1	7
	個体数(点)	1	1	2	5	1	10	1	4	1	1	7
	総重量(g)	8.00	1.05	39.90	129.40	3.12	181.47	9.59	103.68	58.13	5.19	176.59
合計	総点数(点)	1	2	2	7	1	13	1	4	1	1	7
	個体数(点)	1	2	2	7	1	13	1	4	1	1	7
	総重量(g)	8.00	16.95	39.90	131.07	3.12	199.04	9.59	103.68	58.13	5.19	176.59

別表 23 遺構出土金属製品・鍛冶関連遺物組成表

区	遺構名	種別 計測法	金属製品					鍛冶関連遺物				合計	
			刀子	包丁	鎌	釘	板状鉄製品	羽口	腕形鍛冶滓	銅塊	銅製埴塙		
1	SK706	総点数(点)		1		1							2
		個体数(点)		1		1							2
		総重量(g)		15.90		0.89							16.79
1	SK684	総点数(点)				1							1
		個体数(点)				1							1
		総重量(g)				0.78							0.78
2	SE444	総点数(点)			1								1
		個体数(点)			1								1
		総重量(g)			25.40								25.40
2	SE647	総点数(点)				1							1
		個体数(点)				1							1
		総重量(g)				86.50							86.50
2	SK556	総点数(点)	1	1		1	1						4
		個体数(点)	1	1		1	1						4
		総重量(g)	8.00	1.05		4.60	3.12						16.77
2	SK633	総点数(点)							1				1
		個体数(点)							1				1
		総重量(g)							24.59				24.59
2	SX1131	総点数(点)				1							1
		個体数(点)				1							1
		総重量(g)				2.63							2.63
2	SD940	総点数(点)						1					1
		個体数(点)						1					1
		総重量(g)						9.59					9.59
2	SD362	総点数(点)				1			1				2
		個体数(点)				1			1				2
		総重量(g)				32.90			24.70				57.60
2	SD537	総点数(点)				1			1				2
		個体数(点)				1			1				2
		総重量(g)				2.77			1.09				3.86
2	SD1635	総点数(点)										1	1
		個体数(点)										1	1
		総重量(g)										5.19	5.19
2	Pit904	総点数(点)			1								1
		個体数(点)			1								1
		総重量(g)			14.50								14.50
2	Pit245	総点数(点)									1		1
		個体数(点)									1		1
		総重量(g)									58.13		58.13
2	Pit441	総点数(点)							1				1
		個体数(点)							1				1
		総重量(g)							53.30				53.30

別表 24 木製品集計表

区	遺構名	種別 計測法	漆器			桶			曲物		鍋蓋	差歯 下駄	連歯 下駄	行灯				井戸側構築材		棺			柱	杭	板	棒	角材	円盤形	箱 側板	網代	不明・ 自然木	総点数									
			蓋	椀	皿	箱	側板	底板	籬	側板				底板	持手	支柱	台座	台座 (側板)	引出し 底板	引出し 側板	引出し 支柱	側板											籬	側板	底板	蓋					
1	SK681	掲載																													1	12									
		非掲載																															3	5							
		合計																														1	17								
1	SK683	掲載																															1	5							
		非掲載																																1	5						
		合計																																2	6						
1	SK684	掲載																																	2	3					
		非掲載																																	1	3					
		合計																																	3	3					
1	SK688	掲載																																	2	3					
		非掲載																																	1	3					
		合計																																		3	1				
1	SK694	掲載																																		1	1				
		非掲載																																			1	1			
		合計																																			2	2			
1	SK705	掲載																																			1	1			
		非掲載																																				1	1		
		合計																																				2	2		
1	SK708	掲載																																				6	8		
		非掲載																																				1	8		
		合計																																				7	16		
1	SD576	掲載																																				1	1		
		非掲載																																				1	1		
		合計																																				2	2		
2	SE449	掲載																																				2	5		
		非掲載																																				2	5		
		合計																																					4	10	
2	SE734	掲載																																				52	7		
		非掲載																																				3	10		
		合計																																					55	17	
2	SE728	掲載																																					333	3	
		非掲載																																				1	3		
		合計																																					334	6	
2	SK550	掲載																																					1	1	
		非掲載																																					1	1	
		合計																																					2	2	
2	SX1131	掲載	1	3	1	2	9	7	10	1	1	2	5	1	2	7	1	4	1	4	1																920	1			
		非掲載																																				2	25		
		合計	1	4	1	2	9	7	10	1	1	2	5	1	2	7	1	4	1	4	1																922	26			
2	SD252	掲載																																					1	1	
		非掲載																																					1	1	
		合計																																					2	2	
2	SD940	掲載																																					1	1	
		非掲載																																					1	1	
		合計																																					2	2	
2	Pit1198	掲載			1																																		1	1	
		非掲載																																						1	1
		合計			1																																		2	2	
2	Pit547	掲載																																					1	1	
		非掲載																																						1	1
		合計																																					2	2	
2	Pit1895	掲載																																					1	1	
		非掲載																																						1	1
		合計																																					2	2	
2	Pit907	掲載																																					1	1	
		非掲載																																					1	1	
		合計																																					2	2	

別表 25 土製品と瓦集計表

区	遺構名	土製品					瓦	総合計
		人形	鉢型	羽口	円盤状土製品	不明土製品		
2	SK645	総点数(点)				1		1
		個体数(点)				1		1
		総重量(g)			1.55			1.55
2	SX1131	総点数(点)	5	1			17	23
		個体数(点)	5	1			1	7
		総重量(g)	34.03	80.76			122.21	237.00
2	SD119	総点数(点)				1		1
		個体数(点)				1		1
		総重量(g)					19.93	19.93
2	SD940	総点数(点)			1			1
		個体数(点)			1			1
		総重量(g)			9.59			9.59

別表 26 遺構別取上遺物一覧表

- 凡 例 1 取上番号は遺構毎に1個体1番号を記し、現地調査において使用した番号を記した。遺物分布図のドット番号は取上番号を表す。
 2 遺構を統合又は変更した場合は、現地調査における取上番号に問わず取上番号を新たに付しているものがある。その場合も、遺物分布図のドット番号は取上番号である。
 3 取上番号が同一であっても、別な個体と判断したものは、枝番号で区別して示した。

取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種	取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種	取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種
1区 SK367 図版番号32							32	14Q-3E13	1		骨		骨	98	14Q-3E13	1		骨		骨
1	13R-10A6	1		土器	磁器	徳利	33	14Q-3E13	1		骨		骨	99	14Q-3E13	1		骨		骨
1区 SK687 図版番号32							34	14Q-3E13	1		骨		骨	100	14Q-3E13	1		骨		骨
1-1	14Q-3E7	1	27	土器	陶器	壺	35	14Q-3E13	1		骨		骨	101	14Q-3E13	1		骨		骨
1-2	14Q-3E7	1	22	土器	陶器	鉢	36	14Q-3E13	1		骨		骨	102	14Q-3E13	1		骨		骨
1-3	14Q-3E7	1	26	土器	陶器	壺	37	14Q-3E13	1		骨		骨	103	14Q-3E13	1		骨		骨
1-4	14Q-3E7	1	23	土器	陶器	甕	38	14Q-3E13	1		骨		骨	103	14Q-3E13	1		骨		骨
1-5	14Q-3E7	1				骨	39	14Q-3E13	1		骨		骨	104	14Q-3E13	1		骨		骨
2	14Q-3E7	1	22	土器	陶器	鉢	40	14Q-3E13	1		骨		骨	105	14Q-3E13	1		骨		骨
3	14Q-3E12	1	25	土器	陶器	甕	41	14Q-3E13	1		骨		骨	106	14Q-3E13	1		骨		骨
4	14Q-3E13	1		土器	陶器	鉢	42	14Q-3E13	1		骨		骨	107	14Q-3E13	1		骨		骨
5	14Q-3E13	1	24	土器	陶器	鉢	43	14Q-3E13	1		骨		骨	108	14Q-3E13	1		骨		骨
6	14Q-3E12	1	43	土器	陶器	甕	44	14Q-3E13	1		骨		骨	109	14Q-3E13	1		骨		骨
1区 SK688 図版番号32							45	14Q-3E13	1		骨		骨	110	14Q-3E13	1		骨		骨
1	14Q-3E12	3	30	木製品		板材	46	14Q-3E13	1		骨		骨	111	14Q-3E13	1		骨		骨
1区 SK684 図版番号33							47	14Q-3E13	1		骨		骨	112	14Q-3E13	1		骨		骨
1	14Q-3E13	1	29	土器	土師質土器	蓋	48	14Q-3E13	1		骨		骨	113	14Q-3E13	1		骨		骨
2	14Q-3E13	1	24	土器	陶器	鉢	49	14Q-3E13	1		骨		骨	114	14Q-3E13	1		骨		骨
3	14Q-3E13	1		土器	土師質土器	鉢	50	14Q-3E13	1		骨		骨	115	14Q-3E13	1		骨		骨
4	14Q-3E13	1	25	土器	陶器	甕	51	14Q-3E13	1		骨		骨	116	14Q-3E13	1		骨		骨
5	14Q-3E13	1	3	石製品		砥石	52	14Q-3E13	1		骨		骨	117	14Q-3E13	1		骨		骨
6	14Q-3E13	1		土器	土師質土器	蓋	53	14Q-3E13	1		骨		骨	118	14Q-3E13	1		骨		骨
7	14Q-3E13	1	28	土器	土師質土器	蓋	54	14Q-3E13	1		骨		骨	119	14Q-3E13	1		骨		骨
8	14Q-3E13	4		土器	土師質土器	蓋	55	14Q-3E13	1		骨		骨	120	14Q-3E13	1		骨		骨
9	14Q-3E13	3	17	木製品		木棺側板	56	14Q-3E13	1		骨		骨	121	14Q-3E13	1		骨		骨
10	14Q-3E13	3	18	木製品		木棺底板	57	14Q-3E13	1		骨		骨	122	14Q-3E13	1		骨		骨
11	14Q-3E13	3	30	土器	土師質土器	蓋	58	14Q-3E13	1		骨		骨	123	14Q-3E13	1		骨		骨
12	14Q-3E13	3	3	金属製品		釘	59	14Q-3E13	1		骨		骨	124	14Q-3E13	1		骨		骨
13	14Q-3E13	3	16	木製品		木棺側板	60	14Q-3E13	1		骨		骨	125	14Q-3E13	1		骨		骨
1区 SK691 図版番号33							61	14Q-3E13	1		骨		骨	126	14Q-3E13	1		骨		骨
1	14Q-3E13	1	25	土器	陶器	甕	62	14Q-3E13	1		骨		骨	127	14Q-3E13	1		骨		骨
2	14Q-3E13	3		骨		骨	63	14Q-3E13	1		骨		骨	128	14Q-3E13	1		骨		骨
3	14Q-3E13	3	45	石製品		磨石+砥石	64	14Q-3E13	1		骨		骨	129	14Q-3E13	1		骨		骨
4	14Q-3E13	3		礫		礫	65	14Q-3E13	1		骨		骨	130	14Q-3E13	1		骨		骨
1区 SK686 図版番号33							66	14Q-3E13	1		骨		骨	131	14Q-3E13	1		骨		骨
1	14Q-3E13	1	25	土器	陶器	甕	67	14Q-3E13	1		骨		骨	132	14Q-3E13	1		骨		骨
2	14Q-3E13	1		土器	陶器	鉢	68	14Q-3E13	1		骨		骨	133	14Q-3E13	1		骨		骨
3	14Q-3E13	1		骨		骨	69	14Q-3E13	1		骨		骨	134	14Q-3E13	1		骨		骨
4	14Q-3E13	1		骨		骨	70	14Q-3E13	1		骨		骨	135	14Q-3E13	1		骨		骨
5	14Q-3E13	1		骨		骨	71	14Q-3E13	1		骨		骨	136	14Q-3E13	1		骨		骨
6	14Q-3E13	1		骨		骨	72	14Q-3E13	1		骨		骨	137	14Q-3E13	1		骨		骨
7	14Q-3E13	1		骨		骨	73	14Q-3E13	1		骨		骨	138	14Q-3E13	1		骨		骨
8	14Q-3E13	1		骨		骨	74	14Q-3E13	1		骨		骨	139	14Q-3E13	1		骨		骨
9	14Q-3E13	1		骨		骨	75	14Q-3E13	1		骨		骨	140	14Q-3E13	1		骨		骨
10	14Q-3E13	1		骨		骨	76	14Q-3E13	1		骨		骨	141	14Q-3E13	1		骨		骨
11	14Q-3E13	1		骨		骨	77	14Q-3E13	1		骨		骨	142	14Q-3E13	1		骨		骨
12	14Q-3E13	1		骨		骨	78	14Q-3E13	1		骨		骨	143	14Q-3E13	1		骨		骨
13	14Q-3E13	1		骨		骨	79	14Q-3E13	1		骨		骨	144	14Q-3E13	1		骨		骨
14	14Q-3E13	1		骨		骨	80	14Q-3E13	1		骨		骨	145	14Q-3E13	1		骨		骨
15	14Q-3E13	1		骨		骨	81	14Q-3E13	1		骨		骨	146	14Q-3E13	1		骨		骨
16	14Q-3E13	1		骨		骨	82	14Q-3E13	1		骨		骨	147	14Q-3E13	1		骨		骨
17	14Q-3E13	1		骨		骨	83	14Q-3E13	1		骨		骨	148	14Q-3E13	1		骨		骨
18	14Q-3E13	1		骨		骨	84	14Q-3E13	1		骨		骨	1区 SK685 図版番号34・35						
19	14Q-3E13	1		骨		骨	85	14Q-3E13	1		骨		骨	1	14Q-3E14	1	9	石製品		砥石
20	14Q-3E13	1		骨		骨	86	14Q-3E13	1		骨		骨	2	14Q-3E14	1		土器	陶器	鉢
21	14Q-3E13	1		骨		骨	87	14Q-3E13	1		骨		骨	3	14Q-3E14	2	31	土器	陶器	甕
22	14Q-3E13	1		骨		骨	88	14Q-3E13	1		骨		骨	4	14Q-3E14	2	36	土器	陶器	甕
23	14Q-3E13	1		骨		骨	89	14Q-3E13	1		骨		骨	1区 SK694 図版番号34・35						
24	14Q-3E13	1		骨		骨	90	14Q-3E13	1		骨		骨	1	14Q-3E14	1	19	木製品		棺桶側板
25	14Q-3E13	1		骨		骨	91	14Q-3E13	1		骨		骨	2	14Q-3E14	1	20	木製品		棺桶側板
26	14Q-3E13	1		骨		骨	92	14Q-3E13	1		骨		骨	3	14Q-3E14	1		土器	土師器	長甕
27	14Q-3E13	1		骨		骨	93	14Q-3E13	1		骨		骨	4	14Q-3E14	1	32	土器	磁器	碗
28	14Q-3E13	1		骨		骨	94	14Q-3E13	1		骨		骨	5	14Q-3E14	1		土器	土師器	長甕
29	14Q-3E13	1		骨		骨	95	14Q-3E13	1		骨		骨	6	14Q-3E14	1	71	石製品		砥石
30	14Q-3E13	1		骨		骨	96	14Q-3E13	1		骨		骨	1区 SK692 図版番号34・35						
31	14Q-3E13	1		骨		骨	97	14Q-3E13	1		骨		骨	1	14Q-3E14	1				

取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種
2	14Q-3E14	1		骨		骨
3	14Q-3E14	1		骨		骨
4	14Q-3E14	1		骨		骨
5	14Q-3E14	1		骨		骨
6	14Q-3E14	1		骨		骨
7	14Q-3E14	1		骨		骨
8	14Q-3E14	1		骨		骨
9	14Q-3E14	1		骨		骨
10	14Q-3E14	1		骨		骨
11	14Q-3E14	1		骨		骨
12	14Q-3E14	1		骨		骨
13	14Q-3E14	1		骨		骨
14	14Q-3E14	1		骨		骨
15	14Q-3E14	1		骨		骨
16	14Q-3E14	1		骨		骨
17	14Q-3E14	1		骨		骨
18	14Q-3E14	1		骨		骨
19	14Q-3E14	1		骨		骨
20	14Q-3E14	1		骨		骨
21	14Q-3E14	1		骨		骨
22	14Q-3E14	1		骨		骨
23	14Q-3E14	1		骨		骨
24	14Q-3E14	1		骨		骨
25	14Q-3E14	1		骨		骨
26	14Q-3E14	1		骨		骨
27	14Q-3E14	1		骨		骨
28	14Q-3E14	1		骨		骨
29	14Q-3E14	1		骨		骨
30	14Q-3E14	1		骨		骨
31	14Q-3E14	1		骨		骨
32	14Q-3E14	1		骨		骨
33	14Q-3E14	1		骨		骨
34	14Q-3E14	1		骨		骨
35	14Q-3E14	1		骨		骨
36	14Q-3E14	1		骨		骨
37	14Q-3E14	1		骨		骨
38	14Q-3E14	1		骨		骨
39	14Q-3E14	1		骨		骨
40	14Q-3E14	1		骨		骨
41	14Q-3E14	1		骨		骨
42	14Q-3E14	1		骨		骨
43	14Q-3E14	1		骨		骨
44	14Q-3E14	1		骨		骨
45	14Q-3E14	1		骨		骨
46	14Q-3E14	1		骨		骨
47	14Q-3E14	1		骨		骨
48	14Q-3E14	1		骨		骨
49	14Q-3E14	1		骨		骨
50	14Q-3E14	1		骨		骨
51	14Q-3E14	1		骨		骨
52	14Q-3E14	1		骨		骨
53	14Q-3E14	1		骨		骨
54	14Q-3E14	1		骨		骨
55	14Q-3E14	1		骨		骨
56	14Q-3E14	1		骨		骨
57	14Q-3E14	1		骨		骨
58	14Q-3E14	1		骨		骨
59	14Q-3E14	1		骨		骨
60	14Q-3E14	1		骨		骨
61	14Q-3E14	1		骨		骨
62	14Q-3E14	1		骨		骨
63	14Q-3E14	1		骨		骨
64	14Q-3E14	1		骨		骨
65	14Q-3E14	1		骨		骨
66	14Q-3E14	1		骨		骨
67	14Q-3E14	1		骨		骨
68	14Q-3E14	1		骨		骨
69	14Q-3E14	1		骨		骨
70	14Q-3E14	1		骨		骨
71	14Q-3E14	1		骨		骨
72	14Q-3E14	1		骨		骨
73	14Q-3E14	1		骨		骨
74	14Q-3E14	1		骨		骨
75	14Q-3E14	1		骨		骨
76	14Q-3E14	1		骨		骨
77	14Q-3E14	1		骨		骨
78	14Q-3E14	1		骨		骨
79	14Q-3E14	1		骨		骨
80	14Q-3E14	1		骨		骨
81	14Q-3E14	1		骨		骨
82	14Q-3E14	1		骨		骨
83	14Q-3E14	1		骨		骨
84	14Q-3E14	1		骨		骨
85	14Q-3E14	1		骨		骨
86	14Q-3E14	1		骨		骨
87	14Q-3E14	1		骨		骨
88	14Q-3E14	1		骨		骨
89	14Q-3E14	1		骨		骨
90	14Q-3E14	1		骨		骨
91	14Q-3E14	1		骨		骨

取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種
92	14Q-3E14	1		骨		骨
93	14Q-3E14	1		骨		骨
94	14Q-3E14	1		骨		骨
95	14Q-3E14	4		骨		骨
96	14Q-3E14	1		骨		骨
97	14Q-3E14	1		骨		骨
98	14Q-3E14	1		骨		骨
99	14Q-3E14	1		骨		骨
100	14Q-3E14	1		骨		骨
101	14Q-3E14	1		骨		骨
1区 SK708 図版番号34・35						
1	14Q-3E14	1	36	土器	陶器	甕
2	14Q-3E14	2	25	木製品		木棺蓋
3	14Q-3E14	2	29	木製品		木棺側板
4	14Q-3E14	2	22	木製品		木棺側板
5	14Q-3E14	2	23	木製品		木棺側板
6	14Q-3E14	2	24	木製品		木棺側板
7	14Q-3E14	2	26	木製品		木棺側板
8	14Q-3E14	6	28	木製品		木棺側板
9	14Q-3E14	6	27	木製品		木棺底板
1区 SK680 図版番号37・38						
1	14Q-3E15	1	105	石製品		石臼
2	14Q-3E15	1	20	石製品		磨石
3	14Q-3E15	1	65	石製品		敲石
4	14Q-3E15	1	73	石製品		敲石
5	14Q-3E15	1	36	土器	陶器	甕
6	14Q-3E15	1	27	石製品		磨石
7	14Q-3E15	1	34	土器	陶器	鉢
8	14Q-3E15	1	83	石製品		敲石
9	14Q-3E15	1	36	土器	陶器	甕
10	14Q-3E14	1		礫		礫
11	14Q-3E15	1	89	石製品		敲石
12	14Q-3E15	1	17	石製品		磨石
13	14Q-3E15	1		礫		礫
14	14Q-3E15	1		礫		礫
15	14Q-3E15	1		礫		礫
16	14Q-3E15	1		礫		礫
17	14Q-3E14	1	84	石製品		敲石
18	14Q-3E14	1	33	土器	陶器	皿
19	14Q-3E14	1	40	石製品		磨石+敲石
20	14Q-3E15	1		礫		礫
21	14Q-3E15	1		礫		礫
22	14Q-3E15	1		骨		骨
23	14Q-3E15	2	35	土器	陶器	壺
24	14Q-3E15	2		礫		礫
25	14Q-3E15	2	37	土器	土師質土器	蓋
1区 SK683 図版番号37・38						
1	14Q-3E15	1		礫		礫
2	14Q-3E15	1		土器	磁器	碗
3	14Q-3E15	1		礫		礫
4	14Q-3E20	1	38	土器	磁器	碗
5	14Q-3E15	1	12	木製品		木棺側板
6	14Q-3E15	1	14	木製品		木棺側板
7	14Q-3E15	1	13	木製品		木棺側板
8	14Q-3E15	1	15	木製品		木棺側板
9	14Q-3E15	1		木製品		板材
10	14Q-3E15	1	11	木製品		木棺底板
11	14Q-3E15	2		土器	磁器	碗
12	14Q-3E15	3		骨		骨
13	14Q-3E15	3		骨		骨
14	14Q-3E15	3		骨		骨
15	14Q-3E15	3		骨		骨
16	14Q-3E15	3		骨		骨
17	14Q-3E15	3		骨		骨
18	14Q-3E15	3		骨		骨
19	14Q-3E15	3		骨		骨
20	14Q-3E15	3		骨		骨
21	14Q-3E15	3		骨		骨
22	14Q-3E15	3		骨		骨
23	14Q-3E15	3		骨		骨
24	14Q-3E20	3		骨		骨
25	14Q-3E20	3		骨		骨
26	14Q-3E20	2		骨		骨
27	14Q-3E20	2		骨		骨
28	14Q-3E20	2		骨		骨
29	14Q-3E20	2		骨		骨
30	14Q-3E15	3		骨		骨
31	14Q-3E15	2		骨		骨
32	14Q-3E15	2		骨		骨
33	14Q-3E15	2		骨		骨
34	14Q-3E20	2		骨		骨
35	14Q-3E20	2		骨		骨
36	14Q-3E20	2		骨		骨
37	14Q-3E20	2		骨		骨
38	14Q-3E20	2		骨		骨
39	14Q-3E20	2		骨		骨
40	14Q-3E20	2		骨		骨
41	14Q-3E20	2		骨		骨
42	14Q-3E20	2		骨		骨
43	14Q-3E20	2		骨		骨

取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種
44	14Q-3E20	2		骨		骨
45	14Q-3E20	2		骨		骨
46	14Q-3E20	2		骨		骨
47	14Q-3E20	2		骨		骨
48	14Q-3E20	2		骨		骨
49	14Q-3E20	2		骨		骨
50	欠番					
51	14Q-3E20	2		骨		骨
52	14Q-3E20	2		骨		骨
53	14Q-3E20	2		骨		骨
54	14Q-3E15	2		骨		骨
55	14Q-3E20	2		骨		骨
56	14Q-3E20	2		骨		骨
57	14Q-3E20	2		骨		骨
58	14Q-3E15	2		骨		骨
59	14Q-3E15	2		骨		骨
60	14Q-3E15	2		骨		骨
61	14Q-3E15	2		骨		骨
62	14Q-3E20	2		骨		骨
1区 SK681 図版番号37・38						
1	14Q-3F16	2	97	石製品		台石
2	14Q-3F16	4	66	石製品		敲石
3	14Q-3E15	5	2	木製品		棺桶蓋?
4	14Q-3E20	5	9 10	木製品		棺桶側板
5	14Q-3E20	5	1	木製品		棺桶蓋
6	14Q-3E15	5	5	木製品		棺桶側板
7	14Q-3E20	5	2	木製品		棺桶蓋
8	14Q-3E20	7	3	木製品		棺桶底板
9	欠番					
10	14Q-3E20	3		木製品		板材
11	14Q-3E20	3		木製品		板材
12	14Q-3E20	3		木製品		板材
13	14Q-3E15	3	6	木製品		棺桶側板
14	14Q-3E20	3	8	木製品		棺桶側板
15	14Q-3E15	3	7	木製品		棺桶側板
16	14Q-3E20	3		木製品		籬(上側)
17	14Q-3E20	3		木製品		籬(下側)
18	14Q-3E20	3	31	木製品		不明部材
19	14Q-3E20	7		礫		礫
1区 SK682 図版番号37・38						
1	14Q-3F11	2	39	土器	陶器	甕
1内	14Q-3F11	1	39	土器	陶器	甕
2	14Q-3F11	1	87	石製品		敲石
3	14Q-3F11	1		骨		骨
4	14Q-3F11	1		骨		骨
5	14Q-3F11	1		骨		骨
6	14Q-3F16	1		骨		骨
7	14Q-3F16	1		骨		骨
8	14Q-3F16	1		骨		骨
9	14Q-3F11	1		骨		骨
10	14Q-3F11	1		骨		骨
11	14Q-3F11	1		骨		骨
12	14Q-3F					

別 表

取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種
47	14Q-3F11	1		骨		骨
48	14Q-3F11	1		骨		骨
49	14Q-3F11	1		骨		骨
50	14Q-3F11	1		骨		骨
51	14Q-3F11	1		骨		骨
52	14Q-3F11	1		骨		骨
53	14Q-3F11	1		骨		骨
54	14Q-3F11	1		骨		骨
55	14Q-3F11	1		骨		骨
56	14Q-3F11	1		骨		骨
57	14Q-3F11	1		骨		骨
58	14Q-3F11	1		骨		骨
59	14Q-3F11	1		骨		骨
60	14Q-3F11	1		骨		骨
61	14Q-3F11	1		骨		骨
62	14Q-3F11	1		骨		骨
63	14Q-3F11	1		骨		骨
64	14Q-3F11	1		骨		骨
65	14Q-3F11	1		骨		骨
66	14Q-3F11	1		骨		骨
67	14Q-3F11	1		骨		骨
68	14Q-3F11	1		骨		骨
69	14Q-3F11	1		骨		骨
70	14Q-3F11	1		骨		骨
71	14Q-3F11	1		骨		骨
72	14Q-3F11	1		骨		骨
73	14Q-3F11	1		骨		骨
74	14Q-3F11	1		骨		骨
75	14Q-3F11	1		骨		骨
76	14Q-3F11	1		骨		骨
77	14Q-3F11	1		骨		骨
78	14Q-3F11	1		骨		骨
79	14Q-3F11	1		骨		骨
80	14Q-3F11	1		骨		骨
81	14Q-3F11	1		骨		骨
82	14Q-3F11	1		骨		骨
83	14Q-3F11	1	74	石製品		蔽石
84	14Q-3F11	1		骨		骨
85	14Q-3F11	1		骨		骨
86	14Q-3F11	1		骨		骨
87	14Q-3F11	1		骨		骨
88	14Q-3F11	1		骨		骨
89	14Q-3F11	1		骨		骨
90	14Q-3F11	1		骨		骨
91	14Q-3F11	1		骨		骨
92	14Q-3F11	1		骨		骨
93	14Q-3F11	1	42	土器	陶器	鉢
94	14Q-3F11	1	39	土器	陶器	甕
95	14Q-3F11	4		骨		骨
96	14Q-3F16	2		骨		骨
97	14Q-3F16	2		骨		骨
98	14Q-3F16	2		骨		骨
99	14Q-3F16	2		骨		骨
100	14Q-3F16	2		骨		骨
101	14Q-3F16	2		骨		骨
102	14Q-3F16	2		骨		骨
103	14Q-3F16	2		骨		骨
104	14Q-3F16	2		骨		骨
105	14Q-3F16	2		骨		骨
106	14Q-3F16	2		骨		骨
107	14Q-3F16	2		骨		骨
108	14Q-3F16	2		骨		骨
109	14Q-3F16	2		骨		骨
110	14Q-3F11	2		骨		骨
111	14Q-3F11	2		骨		骨
112	14Q-3F16	2		骨		骨
113	14Q-3F16	2		骨		骨
114	14Q-3F16	2		骨		骨
115	14Q-3F16	2		骨		骨
116	14Q-3F16	2		骨		骨
117	14Q-3F16	2		骨		骨
118	14Q-3F16	2		骨		骨
119	14Q-3F16	2		骨		骨
120	14Q-3F16	2		骨		骨
121	14Q-3F16	2		骨		骨
122	14Q-3F16	2		骨		骨
123	14Q-3F16	2		骨		骨
124	14Q-3F16	2		骨		骨
125	14Q-3F16	2		骨		骨
126-1	14Q-3F16	3		骨		骨
126-2	14Q-3F16	3		骨		骨
1区 SK705 図版番号37・38						
1	14Q-3F16	2	39	土器	陶器	甕
2	14Q-3F16	1	64	石製品		蔽石
3	14Q-3F16	1	81	石製品		蔽石
4	14Q-3F17	2		骨		骨
5	14Q-3F16	2		土器	陶器	鉢
6	14Q-3F16	2		土器	陶器	鉢
7	14Q-3F16	2		土器	陶器	鉢
8	14Q-3F16	2	41	土器	磁器	大徳利

取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種
9	14Q-3F16	2	39	土器	陶器	甕
10	14Q-3F16	1	40	土器	陶器	鉢
11	14Q-3F16	1		土器		鉢
12	14Q-3F16	5		骨		骨
13	14Q-3F16	5	21	木製品		桶側板
1区 SK700 図版番号40						
1	14Q-3F12	1		土器	陶器	甕
2	14Q-3F12	1	103	石製品		軽石製石製品
1区 SK706 図版番号40						
1	14Q-3F12	1		土器	陶器	鉢
2	14Q-3F12	1		土器		鉢
3	14Q-3F12	1	85	石製品		蔽石
4	14Q-3F17	1	98	石製品		台石
5	14Q-3F17	1	43	土器	陶器	甕
6	14Q-3F17	1		土器		鉢
7	14Q-3F17	1	1	金属製品		包丁
8	14Q-3F17	1	43	土器	陶器	甕
9	14Q-3F17	1	43	土器	陶器	甕
10	14Q-3F12	1		土器		鉢
11	14Q-3F17	1		炭化物		炭化物
12	14Q-3F17	1	2	金属製品		釘
13	14Q-3F17	6		骨		骨
1区 SK707 図版番号40						
1	14Q-3F17	1	33	土器	陶器	皿
2	14Q-3F17	1	33	土器	陶器	皿
3	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
4	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
5	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
6	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
7	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
8	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
9	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
10	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
11	14Q-3F18	3	43	土器	陶器	甕
12	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
13	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
14	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
15	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
16	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
17	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
18	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
19	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
20	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
21	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
22	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
23	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
24	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
25	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
26	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
27	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
28	14Q-3F22	1		土器		鉢
29	14Q-3F17	1	42	土器	陶器	鉢
30	14Q-3F17	1	42	土器	陶器	鉢
31	14Q-3F17	1	42	土器	陶器	鉢
32	14Q-3F17	1	42	土器	陶器	鉢
33	14Q-3F17	1	42	土器	陶器	鉢
34	14Q-3F17	3	42	土器	陶器	鉢
35	14Q-3F17	3	42	土器	陶器	鉢
36	14Q-3F17	3	42	土器	陶器	鉢
37	14Q-3F17	3	42	土器	陶器	鉢
38	14Q-3F17	3	42	土器	陶器	鉢
39	14Q-3F17	3	42	土器	陶器	鉢
40	14Q-3F17	3	42	土器	陶器	鉢
41	14Q-3F17	3	42	土器	陶器	鉢
42	14Q-3F17	3	42	土器	陶器	鉢
43	14Q-3F17	1	42	土器	陶器	鉢
44	14Q-3F17	3	42	土器	陶器	鉢
45	14Q-3F17	1	42	土器	陶器	鉢
46	14Q-3F17	3		炭化物		炭化物
47	14Q-3F17	3		骨		骨
48	14Q-3F17	3		骨		骨
49	14Q-3F17	3		骨		骨
50	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
51	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
52	14Q-3F17	3	42	土器	陶器	鉢
53	14Q-3F17	3		骨		骨
54	14Q-3F17	3	42	土器	陶器	鉢
55	14Q-3F17	3	43	土器	陶器	甕
1区 SK810 図版番号40						
1	14Q-3F18	1	42	土器	陶器	鉢
1区 SK540 図版番号41						
1	14Q-4G4	2		骨		骨
2	14Q-4G4	2		骨		骨
3	14Q-4G4	2		骨		骨
4	14Q-4G4	2		骨		骨
5	14Q-4G4	2		骨		骨
6	14Q-4G4	2		骨		骨
7	14Q-4G4	2		骨		骨
8	14Q-4G4	2		骨		骨

取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種
1区 SD28 図版番号42						
1	13R-7D18	1	41	石製品		磨石+蔽石
1区 SD205 図版番号43						
1	13R-10D7	12	11	土器	珠洲焼	壺
2	13R-10D9	5	1	土器	土師器	無台碗
3	13R-10D7	2	95	石製品		台石
4	13R-9A12	2	78	石製品		蔽石
5	13Q-9J8	2	59	石製品		蔽石
6	13R-9B16	10	96	石製品		台石
1区 SD204 図版番号44						
1	13R-10D12	1		土器	磁器	碗
2	13R-10D18	2	44	土器	磁器	碗
1区 SD329 図版番号47						
1	14R-1C8	2		土器		鉢
2	14R-1C8	2	90	石製品		蔽石
3	14R-1C8	4	53	石製品		磨石+蔽石
4	14R-1C8	2	54	石製品		磨石+蔽石
5	14R-1C8	2		土器		鉢
6	14R-1C7	2		土器		鉢
7	14R-1C7	4		土器		鉢
8	14R-1C7	4	47	石製品		磨石+蔽石
9	14R-1C6	2		土器		鉢
10	14R-1C6	2	55	石製品		磨石+蔽石
11	14R-1C6	4		土器		鉢
12	14R-1C6	1	6	石製品		蔽石
13	14R-1C6	1	37	石製品		磨石
14	14R-1C6	3		土器		鉢
15	14R-1C6	2		土器	磁器	碗
16	14R-1C6	2	56	石製品		磨石+蔽石
17	14R-1C6	2	77	石製品		蔽石
18	14R-1C6	2	52	石製品		磨石+蔽石
19	14R-1C6	2		土器		鉢
20	14R-1C11	2		土器		鉢
21	14R-1C11	2	42	石製品		磨石+蔽石
22	14R-1C11	4	80	石製品		蔽石
23	14R-1C11	5	51	石製品		磨石+蔽石
24	14R-1C11	2	49	石製品		磨石+蔽石
25	14R-1C11	2	32	石製品		磨石
26	14R-1C16	2	31	石製品		磨石
27	14R-1C16	2		土器		鉢
28	14R-1C16	2	61	石製品		蔽石
29	14R-1C16	2	63	石製品		蔽石
30	14R-1C16	2		土器		鉢
31	14R-1C16	2	86	石製品		蔽石
32	14R-1C16	5	82	石製品		蔽石
33	14R-1C16	2	30	石製品		磨石
34	14R-1C16	2	47	土器	陶器	皿
35	14R-1C16	2				

取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種
1区 SD733 図版番号51						
1	14Q-2E17	1		礫		礫
2	14Q-2E17	1		礫		礫
3	14Q-2E17	1		礫		礫
4	14Q-2E17	1	60	石製品		敲石
5	14Q-2E17	1	54	土器	磁器	碗
6	14Q-2E17	1	52	土器	磁器	碗
7	14Q-2E22	1		礫		礫
8	14Q-2E22	1		礫		礫
9	14Q-2E22	1		礫		礫
10	14Q-2E22	1		礫		礫
11	14Q-2E22	1		礫		礫
12	14Q-2E22	1	55	土器	陶器	乗燭
13	14Q-3E1	1		礫		礫
14	14Q-3E1	1	69	石製品		敲石
15	14Q-3E6	1		土器	陶器	壺
16	14Q-3E6	1		礫		礫
17	14Q-3E6	1		礫		礫
18	14Q-3E6	1		礫		礫
19	14Q-3E11	1	88	石製品		敲石
20	14Q-4D5	1	91	石製品		敲石
21	14Q-4D5	1	75	石製品		敲石
22	14Q-4D5	1	34	石製品		磨石
23	14Q-4D10	1	23	石製品		磨石
24	14Q-3D25	2		土器	土師器	無台碗
25	14Q-3E11	1		礫		礫
26	14Q-3E1	1	72	石製品		敲石
27	14Q-3E1	1	48	石製品		磨石+敲石
28	14Q-2E2	1	46	石製品		磨石+敲石
29	14Q-2E3	1		礫		礫
30	14Q-2E3	1		礫		礫
31	14Q-1E23	3	50	土器	磁器	碗
32	14Q-1E23	3	14	石製品		敲石+敲石
33	14Q-1E18	3	5	石製品		敲石
34	14Q-1E18	3	53	土器	陶器	鉢鉢
35	14Q-1E18	3	51	土器	磁器	皿
1区 SD672 図版番号52						
1	14Q-3F18	1	42	土器	陶器	鉢
1区 SD703 図版番号52						
1	14Q-3E20	1		礫		礫
2	14Q-3E18	1	25	石製品		磨石
3	14Q-3E12	1		骨		骨
4	14Q-3E12	1		礫		礫
5	14Q-3E12	1		礫		礫
1区 SD576 図版番号54						
1	14Q-5F14	1	57	土器	土師器	焙烙
2	欠番					
3	14Q-5F12	1	56	土器	陶器	鉢鉢
4	14Q-5F12	2		木製品		不明木製品
5	14Q-5F14	3	94	石製品		台石
1区 ST1 図版番号56						
1	14R-2A19	1	2	土器	須恵器	短頸壺
2	14R-2A19	1	14	土器	青白磁	合子(蓋)
3	14R-2A19	1	13	土器	青白磁	合子(身)
4	14R-2A19	4	12	土器	青磁	皿
1区 SD3 図版番号56						
1	14R-2A14	1	16	土器	珠洲焼	片口鉢
2	14R-2B16	1	102	石製品		軽石製石製品
3	14R-2A25	4	15	土器	珠洲焼	壺
4	14R-2B16	2	18	石製品		磨石
5	14R-2B16	2	67	石製品		敲石
6	14R-2A20	2	76	石製品		敲石
7	14R-2B16	6	93	石製品		敲石+台石
8	14R-2A25	4	16	石製品		磨石
9	14R-3A5	2	35	石製品		磨石
10	14R-3A4	2	57	石製品		敲石
11	14R-3A4	2	28	石製品		磨石
1区 SD137 図版番号61						
1	13R-9A6	1		土器	陶器	皿
1区 SD142 図版番号61						
1	13R-9A17	1		土器	土師器	甕
1区 SD350 図版番号63						
1	14R-1B11	2		土器	土師器	長囊
1区 SD634 図版番号64						
1	14Q-1F12	1a	101	石製品		軽石製石製品
1区 NR500 図版番号65						
1	13R-10C19	2		土器	土師器	無台碗
2	13R-10A4	2	19	土器	珠洲焼	壺
3	13R-10A6	2		土器	土師器	碗
4	13Q-10J15	2		土器	土師器	無台碗
5	13Q-10J14	3		土器	土師器	無台碗
6	13Q-10J14	4		土器	土師器	長囊
7	13Q-10J14	4		土器	土師器	小囊
8	13Q-10J14	3		土器	土師器	碗
9	13Q-10J14	3		土器	土師器	碗
10	13Q-10J18	1		土器	土師器	無台碗
11	13Q-10J13	2		土器	土師器	長囊
12	13Q-10I25	2		土器	土師器	無台碗
13	13R-10B6	2		土器	土師器	長囊
14	13R-10B15	3		土器	土師器	無台碗

取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種
15	14Q-1I7	2		土器	土師器	無台碗
16	14Q-1I7	2		土器	土師器	長囊
17	14Q-1I12	3	8	石製品		敲石
18	14Q-1I16	4	107 ~ 109	石製品		剥片
19	14Q-1I17	3	4	石製品		敲石
20	14Q-1I16	3	10	石製品		敲石
21	14Q-1I17	3	11	石製品		敲石
22	14Q-1I17	3	7	石製品		敲石
23	14Q-1I17	4	13	石製品		敲石
24	13Q-10J14	4	9	土器	土師器	長囊
1区 SD446 図版番号67						
1	14Q-2G12	2	58	石製品		敲石
1区 SD448 図版番号67						
1	14Q-1H3	4	17	土器	青磁	盤
2	14Q-1H3	1	19	石製品		磨石
3	14Q-1G25	5	3	土器	須恵器	横版
4	14Q-2G4	6	21	石製品		磨石
25	欠番					
1区 SD574 図版番号69						
1	14Q-4H11	2	7	土器	土師器	鍋
1区 SD577 図版番号69						
1	14Q-3D7	3	4	土器	須恵器	甕
2	14Q-3D7	3	43	石製品		磨石+敲石
3	14Q-3E17	3	5	土器	土師器	長囊
4	14Q-3E17	3	5	土器	土師器	長囊
1区 SD578 図版番号69						
1	14Q-5F10	1	6	土器	須恵器	甕
1区 SD600 図版番号69						
1	14Q-4E10	3	18	土器	珠洲焼	甕
1区 Pit473						
1	14R-1B18	1		土器	土師器	小囊
1区 Pit690						
1	14Q-3E13	1		土器	土師器	鉢
1区 Pit832 図版番号188						
1	13R-9A10	1	99	石製品		台石
1区 Pit40 図版番号42						
1	13R-7D16	1	15	石製品		磨石
2区 SE403 図版番号84						
1	14R-5G10	1	122	土器	珠洲焼	壺
2	14R-5G10	1		礫		礫
3	14R-5G10	3	123	土器	珠洲焼	片口鉢
2区 SE405 図版番号86						
1	14R-5G14	1	124	土器	珠洲焼	片口鉢
2	14R-5G14	14		礫		礫
3	14R-5G14	14	260	石製品		敲石
2区 SE783 図版番号87						
1	14R-6F10	1	125	土器	青磁	碗
2	14R-6F10	1		土器	土師器	無台碗
3	14R-6F10	1		土器	土師器	無台碗
4	14R-6F10	9	127	土器	珠洲焼	壺
2区 SE1409 図版番号88						
1	14R-6F17	5	308	石製品		台石
2	14R-6F16	5	128	土器	珠洲系陶器	片口鉢
2区 SE519 図版番号89						
1	14R-6G14	1	132	土器	珠洲焼	片口鉢
2	14R-6G19	2	170	石製品		磨石
3	14R-6G19	2	326	石製品		台石
4	14R-6G20	3	257	石製品		敲石
5	14R-6G20	3	314	石製品		台石
6	14R-6G20	1	261	石製品		敲石
7	14R-6G19	13	129	土器	珠洲焼	片口鉢
2区 SE538 図版番号89						
1	14R-6H20	1	164	石製品		磨石
2区 SE446 図版番号90						
1	14R-7I2	3	215	石製品		磨石+敲石
2	14R-7I3	1	240	石製品		磨石+敲石
3	14R-7I3	1	131	土器	珠洲焼	壺
4	14R-7I2	10	318	石製品		台石
2区 SE1027 図版番号92						
1	14R-7D17	1		土器	陶器	皿
2	14R-7D11	5	78	土器	土師器	無台碗
2区 SE1028 図版番号93						
1	14R-8C10	1	248	石製品		磨石+敲石
2区 SE728 図版番号94						
1	14R-8G2	9	187	木製品		板材
2区 SE1203 図版番号95						
1	14R-9F4	7	322	石製品		台石
2区 SE137 図版番号95						
1	14R-7I14	5	133	土器	珠洲焼	甕
2区 SE444 図版番号95						
1	14R-8J2	1	132	石製品		敲石
2	14R-8J2	1	323	石製品		台石
3	14R-8J3	2	319	石製品		台石
4	14R-8J3	2	184	土器	陶器	鉢鉢
5	14R-7J22	1	7	金属製品		鎌
6	14R-7J23	1	407	石製品		剥片
7	14R-7J22	1		礫		礫
2区 SE351 図版番号97						
1	14R-8I10	2		土器	磁器	碗

取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種
2	14R-8I10	1	197	土器	陶器	皿
3	14R-8I10	4	161	石製品		磨石
4	14R-8I10	4	285	石製品		敲石
5	14R-8I10	4	311	石製品		台石
6	14R-8I10	4	202	土器	陶器	皿
7	14R-8I10	4	224	石製品		磨石+敲石
8	14R-8J1	1		土器	陶器	皿
9	14R-8I5	9	202	土器	陶器	皿
10	14R-8I5	9		礫		礫
2区 SE847 図版番号97						
1	14R-8I10	1	136	土器	珠洲焼	甕
2	14R-8J6	2	122	石製品		敲石
2区 SE382 図版番号98						
1	14R-8I9	1		土器	土師器	無台碗
2区 SE4 図版番号99						
1	14S-8A7	1	137	土器	珠洲焼	片口鉢
2	14S-8A7	5	79	土器	須恵器	甕
3	14S-8A7	5		炭化物		炭化物
2区 SE251 図版番号100						
1	14S-9A1	5	246	石製品		磨石+敲石
2	14S-9A1	8	310	石製品		台石
2区 SE392 図版番号101						
1	14S-9A1	1	80	土器	須恵器	無台杯
2区 SE23 図版番号102						
1	14R-9J10	1	80	土器	須恵器	無台杯
2	14R-9J10	3		土器	土師器	長囊
3	14R-9J10	6	259	石製品		敲石
4	14R-9J10	6	218	石製品		磨石+敲石
2区 SE709 図版番号103						
1	14R-8I16	1		土器	陶器	鉢
2	14R-8I16	1	402	石製品		剥片
3	14R-8I16	2	156	石製品		磨石
4	14R-8I16	1	396	石製品		不定形石器
5	14R-8I16	2		土器	陶器	碗
6	14R-8I16	2		礫		礫
7	14R-8I16	7	155	石製品		磨石
2区 SE845 図版番号105						
1	14R-9I5		393	石製品		不定形石器
2区 SE449 図版番号105						
1	14R-9I10	1	212	土器	陶器	鉢カ
2	14R-9J6	1	211	土器	陶器	鉢鉢
3	14R-9J6	1	144	石製品		敲石
4	14R-9J11	4		木製品		角材
5	14R-9J6	4	195	木製品		板材
6	欠番					
7	14R-9I10	3	209	土器	磁器	皿
8	14R-9I15	1		土器	磁器	皿
9	14R-9J11	1	210	土器	陶器	皿
10	14R-9I15	1	286	石製品		敲石
11	14R-9I15	1	293	石製品		敲石
12	14R-9I15	1	276	石製品		敲石
13	14R-9I10	11	41	木製品		箱?厨板
14	14R-9I15	11	368	石製品		軽石製石製品
15	14R-9J11	11	250	石製品		磨石+敲石
16	14R-9J6	11		木製品		杭
17	14R-9J6	不明		木製品		杭
18	14R-9J6	不明		木製品		杭
19	14R-9J6	不明		木製品		杭
20	14R-9J6	11	287	石製品		敲石
21	14R-9J6	11	228	石製品		

別 表

取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種
6	14R-919	1		土器	磁器	碗
7	14R-9114	1	219	土器	磁器	火入
8	14R-9114	1		土器	磁器	碗
9	14R-9114	3	138	土器	珠洲焼	片口鉢
10	14R-9114	1	195	石製品		磨石
11	14R-919	8	340	土器		軽石製石製品
12	14R-9114	8		土器	磁器	菊皿
13	14R-9114	8		礎		礎
14	14R-919	4	215	土器	磁器	碗
15	14R-919	10	101	木製品		桶側板
16	14R-919	10	102	木製品		桶側板
17	14R-919	10	103	木製品		桶側板
18	14R-919	10	104	木製品		桶側板
19	14R-919・14	10	105	木製品		桶側板
20	14R-9114	10	106	木製品		桶側板
21	14R-9114	10	107	木製品		桶側板
22	14R-9114	10	108	木製品		桶側板
23	14R-9114	10	109	木製品		桶側板
24	14R-9114	10	110	木製品		桶側板
25	14R-9114	10	111	木製品		桶側板
26	14R-919・14	10	112	木製品		桶側板
27	14R-919	10	113	木製品		桶側板
28	14R-919	10	114	木製品		桶側板
29	14R-919	10	115	木製品		桶側板
30	14R-919・14	10	153, 158, 161, 166	木製品		籬
31	14R-919	10		木		自然木
32-1	14R-914	10		木製品		籬
32-2	14R-9114	10		木製品		籬
32-3	14R-9114	10		木製品		籬
32-4	14R-919	10	154, 156, 164	木製品		籬
33	14R-9114	12	203	木製品		板材
34	14R-919・14	12		木		自然木
35	14R-919	11	116	木製品		桶側板
36	14R-919	11	117	木製品		桶側板
37	14R-919	11	118	木製品		桶側板
38	14R-919・14	11	119	木製品		桶側板
39	14R-9114	11	120	木製品		桶側板
40	14R-9114	11	121	木製品		桶側板
41	14R-9114	11	122	木製品		桶側板
42	14R-9114	11	123	木製品		桶側板
43	14R-9114	11	124	木製品		桶側板
44	14R-919・14	11	125	木製品		桶側板
45	14R-919	11	126	木製品		桶側板
46	14R-919	11	127	木製品		桶側板
47	14R-919	11	128	木製品		桶側板
48	14R-919	11	129	木製品		桶側板
49	14R-919	11	130	木製品		桶側板
50	14R-919	11	131	木製品		桶側板
51	14R-919	11	132	木製品		桶側板
52	14R-919	11	133	木製品		桶側板
53	14R-919	11	134	木製品		桶側板
54	14R-919	11	135	木製品		桶側板
55	14R-919	11	136	木製品		桶側板
56	14R-919	11	137	木製品		桶側板
57	14R-919	11	138	木製品		桶側板
58	14R-919・14	11	139	木製品		桶側板
59	14R-9114	11	140	木製品		桶側板
60	14R-9114	11	141	木製品		桶側板
61	14R-9114	11	142	木製品		桶側板
62	14R-9114	11	143	木製品		桶側板
63	14R-9114	11	144	木製品		桶側板
64	14R-9114	11	145	木製品		桶側板
65	14R-9114	11	146	木製品		桶側板
66	14R-919・14	11	147	木製品		桶側板
67	14R-919	11	148	木製品		桶側板
68	14R-919	11	149	木製品		桶側板
69	14R-919	11	150	木製品		桶側板
70	14R-919	11	151	木製品		桶側板
71	14R-919	11	152	木製品		桶側板
2区 SE647 図版番号109						
1	14R-9116	1	141	土器	珠洲焼	壺
2	14R-9116	1	12	金属製品		大釘
3	欠番					
4	14R-9116	3	139	土器	青磁	碗
5	14R-9H20	4	256	石製品		磨石+蔽石
6	14R-9H20	1	140	土器	珠洲焼	壺
7	14R-9H20	1	152	石製品		磨石
2区 SE1022 図版番号110						
1	14R-10E9	2	321	石製品		台石
2区 SK404 図版番号112						
1	14R-5G18	1	350	石製品		軽石製石製品

取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種
2区 SK372 図版番号113						
1	14R-6H5	1	272	石製品		蔽石
2	14R-6H5	3	186	石製品		磨石
2区 SK529 図版番号114						
1	14R-6H2	1	267	石製品		蔽石
2区 SK369 図版番号115						
1	14R-6I19	1		種実		モモ
2区 SK1125 図版番号115						
1	14R-6G18	3	239	石製品		磨石+蔽石
2区 SK1326 図版番号116						
1	14R-6G17	1	234	石製品		磨石+蔽石
2	14R-6G17	3	205	石製品		磨石
3	14R-6G17	3	238	石製品		磨石+蔽石
2区 SK793 図版番号117						
1	14R-7F9	1	232	石製品		磨石+蔽石
2	14R-7F4	1	273	石製品		蔽石
3	14R-7F4	1	235	石製品		磨石+蔽石
4	14R-7F4	2	233	石製品		磨石+蔽石
2区 SK1672 図版番号117						
1	14R-7C19	4	142	土器	珠洲焼	片口鉢
2区 SK1671 図版番号117						
1	14R-7C20	1	143	土器	珠洲焼	片口鉢
2区 SK550 図版番号119						
1	14R-7H16	1		礎		礎
2	14R-7H16	4		土器	磁器	碗
3	14R-7H16	4		土器	陶器	瓶
4	14R-7H16	2	135	石製品		砥石
5	14R-7H16	4	221	土器	磁器	碗
6	14R-7H16	2		土器	磁器	碗
7	14R-7H16	2	214	木製品		栓
8	14R-7H16	2		礎		礎
9	14R-7H21	5		土器	陶器	鉢
10	14R-7H21	5	278	石製品		蔽石
11	欠番					
12	14R-7H21	5	241	石製品		磨石+蔽石
13	14R-7H11	5	229	土器	磁器	香炉
14	14R-7H11	1	220	土器	磁器	碗
15	14R-7H16	1	250	土器	磁器	碗
16	14R-7H16	1	142	石製品		砥石
17	14R-7H16	1	227	土器	陶器	鉢
18	14R-7H16	2	230	土器	陶器	甕
19	14R-7H16	1		土器	磁器	碗
20	14R-7H16	1		鍛冶関連		鉄滓
21	14R-7H16	1		土器	陶器	碗
22	14R-7H16	2	228	土器	陶器	鉢
23	14R-7H16	1	226	土器	陶器	搦鉢
24	14R-7H16	2	225	土器	陶器	皿
25	14R-7H16	4	409	石製品		原石
26	14R-7H16	4		土器	陶器	鉢
27	14R-7H16	4	198	石製品		磨石
28	14R-7H16	4		礎		礎
29	14R-7H16	2	223	土器	陶器	皿
30	14R-7H16	4	224	土器	陶器	皿
31	14R-7H16	4	222	土器	磁器	碗
32	14R-7H16	2		土器	陶器	碗
33	14R-7H16	2		土器	磁器	碗
34	14R-7H16	4	144	土器	珠洲焼	壺
35	14R-7H16	2		土器	陶器	搦鉢
36	14R-7H16	1	404	石製品		剥片
37	14R-7H21	5		土器	陶器	碗
2区 SK400 図版番号120						
1	14R-7I16	1		礎		礎
2	14R-7I16	1	289	石製品		蔽石
3	14R-7I16	1	302	石製品		蔽石
4	14R-7I16	1	138	石製品		砥石
5	14R-7I16	1	353	石製品		軽石製石製品
6	14R-7I16	1	185	石製品		磨石
7	14R-7I16	1	389	石製品		蔽石
8	14R-7I16	1	234	土器	磁器	徳利
9	14R-7H20	1	194	石製品		磨石
10	14R-7H20	1	268	石製品		蔽石
11	14R-7H20	1		土器	陶器	皿?
12	14R-7H20	1		土器	磁器	皿
13	14R-7H25	1	233	土器	陶器	搦鉢
14	14R-7I21	1	232	土器	陶器	搦鉢
15	14R-7I21	1	231	土器	磁器	皿
2区 SK557 図版番号121						
1	14R-8H2	4		骨		骨
2	14R-8H2	4		骨		骨
3	14R-8H2	4		骨		骨
4	14R-8H2	4		骨		骨
5	14R-8H2	4		骨		骨
6	14R-8H2	4		骨		骨
7	14R-8H2	4		骨		骨
8	14R-8H2	4		骨		骨
9	14R-8H2	4		骨		骨
10	14R-8H2	4		骨		骨
11	14R-8H2	4		骨		骨
12	14R-8H2	4		骨		骨
13	14R-8H2	4		骨		骨
2区 SK498 図版番号122						
1	14R-8G5	1	329	石製品		台石
2	14R-8G10	1	342	石製品		軽石製石製品

取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種
14	14R-8H2	4		骨		骨
15	14R-8H2	4		骨		骨
16	14R-8H2	4		骨		骨
17	14R-8H2	4		骨		骨
18	14R-8H2	4		骨		骨
19	14R-8H2	4		骨		骨
20	14R-8H2	4		骨		骨
21	14R-8H2	4		骨		骨
22	14R-8H2	4		骨		骨
23	14R-8H2	4		骨		骨
24	14R-8H2	4		骨		骨
25	14R-8H2	4		骨		骨
26	14R-8H2	4		骨		骨
27	14R-8H2	4		骨		骨
28	14R-8H2	4		骨		骨
29	14R-8H2	4		骨		骨
30	14R-8H2	4		骨		骨
31	14R-8H2	4		骨		骨
2区 SK556 図版番号121						
1	14R-8H2	1	277	石製品		蔽石
2	14R-8H2	1	13	金属製品		鋳物製品
3	14R-8H8	3	371	石製品		軽石製石製品
4	14R-8H8	3	378	石製品		軽石製石製品
5	14R-8H8	1	387	石製品		軽石製石製品
6	14R-8H8	1	190	石製品		磨石
7	14R-8H7	1	115	石製品		砥石
8	14R-8H7	1	242	土器	陶器	甕
9	14R-8H2	1	4	金属製品		刀子
10	14R-8H7	1		礎		礎
11	14R-8H7	1		礎		礎
12	14R-8H7	1		土器	磁器	碗
13	14R-8H7	1	213	石製品		磨石+蔽石
14	14R-8H7	1	239	土器	陶器	鉢
15	14R-8H7	1	358	石製品		軽石製石製品
16	14R-8H2	1	348	石製品		軽石製石製品
17	14R-8H2	1		土器	磁器	碗
18	14R-8H7	1		礎		礎
19	14R-8H2	1	5	金属製品		包丁
20	14R-8H7	1	386	石製品		軽石製石製品
21	14R-8H2	2	145	土器	珠洲焼	片口鉢
22	14R-8H7	2		土器	陶器	鉢
23	14R-8H7	2	184	石製品		磨石
24	14R-8H7	2	367	石製品		軽石製石製品
25	14R-8H7	2		礎		礎
26	14R-8H2	2	240	土器	陶器	鉢
27	14R-8H7	2		土器	磁器	碗
28	14R-8H7	2	343	石製品		軽石製石製品
29	14R-8H7	2	187	石製品		磨石
30	14R-8H7	2		土器		

Table with 7 columns: 取り上No., グリッド, 層位, 報告No., 種別1, 種別2, 器種. Contains multiple sub-sections like 2区 SK442, 2区 SK282, etc.

Table with 7 columns: 取り上No., グリッド, 層位, 報告No., 種別1, 種別2, 器種. Contains multiple sub-sections like 2区 SK633, 2区 SK487, etc.

Table with 7 columns: 取り上No., グリッド, 層位, 報告No., 種別1, 種別2, 器種. Contains multiple sub-sections like 2区 SK645, 2区 SK735, etc.

別 表

取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種	取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種	取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種
195	14R-9A25	3	221	石製品		磨石+蔵石	279	14R-9B21	6	200	木製品		板材	363	14R-9A20	6	260	土器	磁器	碗
196	14R-9A25	3	333	土器	陶器	土瓶	280	14R-9B21	6		竹		不明	364	14R-9A25	5		土器	磁器	碗
197	14R-9A25	3	328	土器	陶器	火入	281	14R-9B21	6		竹		不明	365	14R-9A25	5	339	土器	陶器	壺
198	14R-9A25	3		種実		モモ	282	14R-9B21	6	211	木製品		円盤形木製品	366-1	14R-9A25	5	399	石製品		不定形石器
199	14R-9A25	3	335	土器	陶器	植木鉢	283	14R-9B21	5	205	木製品		板材	366-2	14R-9A25	5	39	木製品		うらごし器
200-1	14R-9A25	3	319	土器	磁器	徳利	284	14R-9B21	6	47	木製品		桶側板	367	14R-9A25	6	196	木製品		板材
200-2	14R-9A25	3	325	土器	磁器	急須	285	14R-9B21	5	51	木製品		桶底板	368	14R-9A25	6	190	木製品		板材
201-1	14R-9A25	3	340	土器	陶器	燗鍋	286	14R-9A25	6	174	木製品		板材	369	14R-9A25	6	177	木製品		板材
201-2	14R-9B21	3		土器	瓦質土器	火鉢	287	14R-9A25	6		木製品		板材	370	14R-9A25	6	182	木製品		板材
202	14R-9B21	3	327	土器	陶器	柔燗	288	14R-9A25	6	192	木製品		板材	371	14R-9A20	5	311	土器	磁器	蓋
203-1	14R-9A25	3	340	土器	陶器	燗鍋	289	14R-9A25	6		木製品		下駄の歯?	372	14R-9A25	6		土器	磁器	碗
203-2	14R-9A25	3	292	土器	陶器	燗鉢	290	14R-9A25	6		種実		くるみ	373	14R-9A20	6	313	石製品		台石
204	欠番						291	14R-9A25	6		種実		くるみ	374	14R-9A20	6	312	土器	陶器	蓋
205	14R-9B21	3		土器	瓦質土器	火鉢	292	14R-9A25	6		種実		くるみ	375	14R-9A20	6	182	石製品		磨石
206-1	14R-9B21	3		土器	瓦質土器	火鉢	293	14R-9A25	6	3	土製品		人形	376	14R-9B21	6		竹		不明
206-2	14R-9B21	3	9	石製品		瓦	294	14R-9A25	6	373	石製品		軽石製石製品	377	14R-9B21	6		木製品		桶側板
207	14R-9B21	3	394	石製品		不定形石器	295	14R-9A25	6	326	土器	陶器	土瓶	378	14R-9B21	6	55	木製品		桶側板
208	14R-9B21	3	145	石製品		砥石	296	14R-9A25	6	281	石製品		蔵石	379	14R-9B21	6	56	木製品		桶側板
209	14R-9B21	3		土器	磁器	瓶	297	14R-9A25	6	111	石製品		砥石	380	14R-9B21	6		木製品		板材(桶?)
210	14R-9B21	3		土器	瓦質土器	火鉢	298	欠番						381	14R-9B21	6		木製品		板材
211	14R-9B21	3	252	石製品		磨石+蔵石	299	14R-9A25	6	318	土器	磁器	徳利	382	14R-9B21	6		木製品		板材
212	14R-9A25	3	338	土器	陶器	裏	300	14R-9A25	6		土器	磁器	瓶	383	14R-9B21	6		木製品		板材
213	14R-9A25	3	193	木製品		板材	301	14R-9A25	6	2	土製品		人形	384	14R-9B21	6		木製品		板材
214	14R-9A20	3	291	土器	陶器	燗鉢	302	14R-9A25	6	40	木製品		漆器	385	欠番					
215	14R-9A25	3	342	土器	瓦質土器	火鉢	303	14R-9A25	6		炭化物		炭化物	386	14R-9B21	6		木製品		板材
216	14R-9B21	3	319	土器	磁器	徳利	304	欠番						387	14R-9B21	6		木製品		板材
217	14R-9A25	3	43	木製品		桶底板	305	14R-9A25	6	197	木製品		板材	388	14R-9B16	6	58	木製品		桶底板
218	14R-9A25	3	376	石製品		軽石製石製品	306	14R-9A25	6	57	木製品		桶底板	389	14R-9B21	6		木製品		板材
219	14R-9A25	3	210	木製品		板材	307	14R-9A25	6		木製品		板材	390	14R-9B21	6	94	木製品		角材
220	14R-9A25	3	325	土器	磁器	急須	308	14R-9A25	6	186	木製品		板材	391	14R-9B21	6	175	木製品		板材
221	14R-9A25	3	326	土器	陶器	土瓶	309	14R-9A25	6		木製品		角材	392-1	14R-9A25	6	280	土器	磁器	小碗
222	14R-9B21	3	332	土器	陶器	瓶	310	14R-9A25	6	331	土器	陶器	瓶	392-2	14R-9A25	6	318	土器	磁器	徳利
223	14R-9B21	3	326	土器	陶器	土瓶	311	14R-9A25	6		木製品		不明	392-3	14R-9A25	6	289	土器	陶器	六角小皿
224	14R-9B21	3	319	土器	磁器	徳利	312	14R-9A25	6	284	土器	磁器	皿	393	14R-9A20	5	68	木製品		下駄
225	14R-9B21	3		土器	瓦質土器	火鉢	313	14R-9A25	6	93	木製品		柱材	394	14R-9A20	5		木製品		板材
226	14R-9B21	3		土器	瓦質土器	火鉢	314	14R-9A25	6		木製品		棒状木製品	395	14R-9A20	5		木製品		板材
227	14R-9B21	3		土器	瓦質土器	火鉢	315	14R-9A25	6		木製品		板材	396	14R-9A20	5	67	木製品		下駄
228	14R-9B16	3	299	土器	陶器	鍋	316	14R-9A25	6		木製品		板材	397	14R-9A20	5	66.71	木製品		下駄
229	14R-9A25	3		土製品		鋳型	317	14R-9A25	6		木製品		板材	398	14R-9A20	5		木製品		杭
230	欠番						318-1	14R-9A25	6		木製品		竹材	399	14R-9A20	6	84	木製品		行灯
231	14R-9A25	3		土器	陶器	壺	318-2	14R-9A25	6		木製品		竹材	400	14R-9A20	6	83	木製品		行灯
232	14R-9B21	3		種実		モモ	318-3	14R-9A25	6		木製品		竹材	401	14R-9A20	6	85	木製品		行灯
233	14R-9A25	3	325	土器	磁器	急須	318-4	14R-9A25	6		木製品		竹材							
234	14R-9A25	3		土器	磁器	瓶	319-1	14R-9A25	6	63	木製品		網代	402	14R-9A20	6	81.82~86.91	木製品		行灯
235	14R-9A25	3	391	石製品		バステル形石製品	319-2	14R-9A25	6	209	木製品		棒状木製品							
236	14R-9B21	3	261	土器	磁器	碗	320	14R-9A25	6	212	木製品		円盤形木製品	403	14R-9A20	5	335	土器	陶器	植木鉢
237	14R-9B21	3	326	土器	陶器	土瓶	321	14R-9A25	6		土器	磁器	瓶	404	14R-9A20	5	335	土器	陶器	植木鉢
238	14R-9B21	3	326	土器	陶器	土瓶	322	14R-9B21	6	36	木製品		漆器	405	14R-9A20	5	335	土器	陶器	植木鉢
239	14R-9B21	3	310	土器	土師質土器	焙烙	323	14R-9B21	6	319	土器	磁器	徳利	406	14R-9A20	5	335	土器	陶器	植木鉢
240	14R-9B21	3	310	土器	土師質土器	焙烙	324	14R-9B21	6	319	土器	磁器	徳利	407	14R-9A20	5	335	土器	陶器	植木鉢
241	14R-9B21	3	4	土製品		人形	325	14R-9B21	6	330	土器	磁器	瓶	408	14R-9A20	5	322	土器	磁器	徳利
242	14R-9B21	3		土器	瓦質土器	火鉢	326	14R-9B21	6	202	木製品		板材	409	14R-9B16	6	92	木製品		角材
243	14R-9A25	3	392	石製品		不定形石器	327	14R-9B21	6	50	木製品		桶側板	410	14R-9A25	6		木製品		板材
244	14R-9A25	3	150	石製品		砥石+台石	328	14R-9B21	6	52	木製品		桶側板	411	14R-9B21	6		種実		くるみ
245	14R-9A25	3	194	木製品		板材	329	14R-9B21	6		木製品		板材	412	14R-9B21	6	292	土器	陶器	燗鉢
246	14R-9A25	3	397	石製品		不定形石器	330	14R-9B21	6	49	木製品		桶側板	413	14R-9A25	6	317	土器	陶器	鍋蓋
247	14R-9A25	3	151	石製品		硯	331	14R-9B21	6	185	木製品		板材	414	14R-9A20	6		木製品		板材
248	14R-9A25	3	379	石製品		軽石製石製品	332	14R-9B21	6	189	木製品		板材	415	14R-9A20	6	176	木製品		板材
249	14R-9A25	5	198	木製品		板材	333	14R-9B21	6	183	木製品		角材	416	14R-9A20	6	45	木製品		蓋把手
250	14R-9B21	6	297	土器	陶器	燗鉢	334	14R-9A25	6	310	土器	土師質土器	焙烙	417	14R-9A20	6	46	木製品		蓋
251	14R-9B21	6	151	石製品		硯	335	14R-9A25	6		土器	磁器	碗	418	14R-9A20	6	38	木製品		漆器
252	14R-9B21	6		土器	瓦質土器	火鉢	336	14R-9A25	4	222	石製品		磨石+蔵石	419	14R-9A20	6	199	木製品		板材
253	14R-9B21	6		土器	磁器	碗	337	14R-9A25	4	201	木製品		板材	420	14R-9A20	6	78	木製品		行灯
254	14R-9B21	6	48	木製品		桶側板	338	14R-9A25	6	180	木製品		板材	421	14R-9A25	6		木製品		角材
255	14R-9B21	6	53	木製品		桶側板	339	14R-9A25	6		土器	陶器	燗鉢	422	14R-9A25	6	123	石製品		砥石
256	14R-9B21	6	70	木製品		下駄の歯	340	14R-9A25												

Table with columns: 取り上No., グリッド, 層位, 報告No., 種別1, 種別2, 器種. Contains multiple entries for items like 439-1, 439-2, 439-3, and various sub-sections like 2区 SX1963, 2区 SD150, etc.

Table with columns: 取り上No., グリッド, 層位, 報告No., 種別1, 種別2, 器種. Contains multiple entries for items like 14, 15-1, 15-2, 16-2, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, and various sub-sections like 2区 SD733, 2区 SD636, etc.

Table with columns: 取り上No., グリッド, 層位, 報告No., 種別1, 種別2, 器種. Contains multiple entries for items like 9, 10, 11, 12, 2区 SD1635, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14R-6F13, 2区 SD1522, 1, 2区 SD1299, 1, 2, 2区 SD1300, 1, 2区 SD1859, 1, 2区 SD1892, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 2区 ST1621, 1, 2区 Pit441, 1, 2, 2区 Pit1646, 1, 2区 Pit1626, 1, 2, 2区 Pit1577, 1, 2区 Pit564, 1, 2, 2区 Pit547, 1, 2区 Pit542, 1, 2区 Pit253, 1, 2, 2区 Pit871, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 2区 SD940, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13.

別 表

取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種
14	14R-8G21	1	351	石製品		軽石製石製品
15	14R-8G21	1	410	土器	陶器	播鉢
16	14R-8G16	1	404	土器	磁器	皿
17	14R-8G21	1	409	土器	陶器	皿
18	14R-9G1	1		土器	陶器	碗
19	14R-9G1	1	400	土器	陶器	碗
20	14R-9G1	1	113	石製品		砥石
21	14R-9G1	1	412	土器	陶器	播鉢
22	14R-9G1	1		土器	土師器	無台碗
23	14R-9G1	1		土器	陶器	鉢
24	14R-8G21	1	407	土器	陶器	皿
25	14R-8G21	1	413	土器	陶器	播鉢
26	14R-8G21	1		土器	土師器	長囊
27	14R-8G16	1		礫		礫
28	14R-8G16	1		土器	陶器	碗
29	14R-8G21	1	404	土器	磁器	皿
30	14R-9G21	1		土器	土師器	無台碗
31	14R-10G6	1	200	石製品		磨石
32	14R-10G7	1		土器	陶器	鉢
33	14R-10G7	1		土器	陶器	鉢
34	14R-10G6	1		土器	陶器	鉢
35	14R-10G12	1	6	土製品		羽口
36	14R-10G6	1		土器	磁器	碗
37	14R-10G6	1		土器	陶器	鉢
38	14R-10G6	1	403	土器	磁器	皿
39	14R-10G6	1		土器	陶器	鉢
40	14R-10G6	1	414	土器	陶器	鉢
41	14R-9G11	1	401	土器	陶器	皿
42	14R-8H17	1	349	石製品		軽石製石製品
43	14R-8H17	1	402	土器	陶器	皿
44	14R-8H17	1		土器	陶器	皿
45	14R-8H22	1	399	土器	磁器	碗
46	14R-8H22	1	395	土器	磁器	碗
47	14R-8H22	1		土器	磁器	碗
48	14R-8H22	1	397	土器	磁器	碗
49	14R-8H17	3		礫		礫
50	14R-8H17	3		土器	磁器	碗
51	14R-8H17	5	258	石製品		砥石
52	14R-8H16	1	291	石製品		砥石
53	14R-8H16	3	181	石製品		磨石
54	14R-8G19	2	330	石製品		台石
55	14R-8G18	4	355	石製品		軽石製石製品
56	14R-8G18	4	244	石製品		磨石+砥石
57	14R-8H16	3	124	石製品		砥石
58	14R-8H16	4	183	石製品		磨石
59	14R-8H16	4		礫		礫
60	14R-8H16	4		礫		礫
61	14R-8H16	4	243	石製品		磨石+砥石
62	14R-8H16	4	396	土器	磁器	碗
63	14R-8H16	4		土器	土師器	長囊
64	14R-8G17	1	398	土器	磁器	碗
65	14R-8G17	1	388	石製品		軽石製石製品
66	14R-8G17	1		礫		礫
2区 SD848 図版番号170						
1	14R-10G13	1		土器	陶器	鉢
2	14R-10G13	1		土器	陶器	鉢
3	14R-10G14	1	393	土器	陶器	皿
4	14R-10G14	1	394	土器	磁器	碗
5	14R-10G14	1		土器	磁器	碗
2区 Pit924 図版番号170						
1	14R-8H21	2		土器	陶器	碗
2区 Pit904 図版番号170						
1	14R-9H1	1	374	石製品		軽石製石製品
2	14R-9H1	1	341	石製品		軽石製石製品
3	14R-9H1	1	364	石製品		軽石製石製品
4	14R-9H1	2	361	石製品		軽石製石製品
5	14R-9H1	2	337	石製品		軽石製石製品
6	14R-9H1	2	360	石製品		軽石製石製品
7	14R-9H1	2	6	金属製品		鎌
8	14R-9H1	2	370	土器	陶器	花生
2区 Pit908 図版番号170						
1	14R-9G8	1		土器	土師器	長囊
2区 Pit901 図版番号170						
1	14R-9H16	1	392	土器	磁器	小杯
2	14R-9H16	1		土器	磁器	徳利
2区 Pit907 図版番号170						
1	14R-9G18	1		土器	土師器	長囊
3	14R-9G18	3		木製品		柱材?
2	14R-9G18	1	303	石製品		砥石
2区 Pit905 図版番号170						
1	14R-10G3	1	336	石製品		台石

取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種
2区 Pit397 図版番号173						
1	14R-8J25	1		土器	陶器	皿
2区 SD1241 図版番号177						
1	14R-9F7	1		土器	陶器	囊
2	14R-9F18	1	415	土器	磁器	皿
3	14R-9F23	1		土器	陶器	碗
4	14R-10F3	2	126	石製品		砥石
5	14R-10F3	2	406	石製品		剃片
6	14R-10F3	2		土器	土師質土器	鉢
7	14R-10F18	1	390	石製品		ハステル形石製品
8	14R-8F12	1	161	土器	珠洲焼	片口鉢
9	14R-8F17	1	416	土器	陶器	皿
2区 SD1242 図版番号177						
1	14R-10F4	1		土器	磁器	碗
2	14R-10F9	1	331	石製品		台石
3	14R-10F9	1		土器	磁器	皿
4	14R-10F14	1		土器	磁器	碗
5	14R-10F14	1	417	土器	陶器	碗
6	14R-10F14	1	299	石製品		砥石
7	14R-10F19	1		土器	磁器	瓶
8	14R-10F19	1		石製品		砥石
9	14R-10F4	1	418	土器	陶器	碗
2区 SD1554 図版番号178						
1	14R-9C19	1	168	石製品		磨石
2	14R-10C4	1		土器	磁器	碗
3	14R-10C4	1		土器	磁器	碗
4	14R-10C4	1	419	土器	磁器	鉢
5	14R-8C18	1	162	土器	陶器	天目碗
2区 SD1563 図版番号178						
1	14R-9C7	1	422	土器	陶器	囊
2	14R-10C2	1		土器	陶器	皿
3	14R-10C12	1		土器	土師器	長囊
4	14R-10C2	1	421	土器	陶器	鉢
5	14R-9C12	1	420	土器	磁器	碗
2区 SD1521 図版番号181						
1	14R-9C24	1		土器	土師器	長囊
2	14R-9C24	1	164	土器	珠洲焼	囊
3	14R-9C24	1	163	土器	陶器	花瓶
4	14R-9C25	1		土器	土師器	無台碗
5	14R-9C25	1		土器	土師器	無台碗
6	14R-9C17	1	168	土器	珠洲焼	片口鉢
7	14R-9C18	2		土器	土師器	無台碗
8	14R-9C18	2		土器	土師質土器	鉢
9	14R-9C18	1		土器	土師器	長囊
10	14R-9C18	2	166	土器	珠洲焼	囊
11	14R-9C18	2	165	土器	珠洲焼	囊
12	14R-9C11	1	167	土器	珠洲焼	囊
13	14R-9C6	1	99	土器	須志器	囊
14	14R-9B4	1	327	石製品		台石
2区 SD1615 図版番号181						
1	14R-10B5	1		土器	土師器	碗・囊
2	14R-10B5	3	110	土器	土師器	小囊
3	14R-10B5	3	110	土器	土師器	小囊
4	14R-10B5	2		土器	土師器	小囊
5	14R-10B10	2	102	土器	黒色土器	無台碗
6	14R-10B10	2	105	土器	土師器	鉢
7-1	14R-10B10	1		土器	土師器	長囊
7-2	14R-10B10	1	403	石製品		剃片
8	14R-10B10	2	104	土器	土師器	無台碗
9-1	14R-10C6	2		土器	土師器	無台碗
9-2	14R-10C6	2	113	土器	土師器	長囊
10	14R-10C6	2		土器	土師器	長囊
11	14R-10C6	2	112	土器	土師器	長囊
12	14R-10C6	2		土器	土師器	囊
13	14R-10C6	2		土器	土師器	鉢
14	14R-10C6	3		土器	土師器	長囊
15	14R-10C6	2		土器	土師器	長囊
16	14R-10C6	2		土器	土師器	長囊
17	14R-10C6	2		土器	土師器	無台碗
18	14R-10C6	5	101	土器	須志器	無台杯
19	14R-10C6	3		土器	土師器	長囊
20	14R-10C6	5		土器	土師器	長囊
21	14R-10C6	5		土器	土師器	長囊
22-1	14R-10C6	4		土器	土師器	小囊
22-2	14R-10C6	4	107	土器	土師器	小囊
23	14R-10C6	2		土器	土師器	鉢
24	14R-10C6	5		土器	土師器	鉢
25-1	14R-10C6	2		土器	土師器	長囊
25-2	14R-10C6	2	103	土器	土師器	無台碗
26	14R-10C6	2	170	土器	珠洲焼	囊

取り上No.	グリッド	層位	報告No.	種別1	種別2	器種
27	14R-10C6	2	106	土器	土師器	長囊
28	14R-10C6	1	171	土器	珠洲焼	囊
29	14R-10C6	1		土器	土師器	無台碗
30	14R-10C6	3		土器	土師器	長囊
31	14R-10C7	2		土器	土師器	長囊
32	14R-10C12	2		土器	土師器	無台碗
33	14R-10C11	2		土器	土師器	長囊
34	14R-10B4	2		土器	土師器	長囊
35	14R-10B4	2	167	石製品		磨石
36	14R-10B4	5	108	土器	土師器	無台碗
37	14R-10B4	1		土器	土師器	無台碗
38	14R-10B4	1	172	土器	珠洲焼	片口鉢
39	14R-9A14	1		土器	土師器	無台碗
40	14R-9A14	1	169	土器	珠洲焼	壺
41	14R-10C12	1		土器	土師器	長囊
42-1	14R-10C12	1	111	土器	土師器	鉢
42-2	14R-10C12	1		土器	土師器	無台碗
43	14R-10C13	1		土器	土師器	長囊
44	14R-10B10	5	100	土器	須志器	無台杯
45-1	14R-10C13	2		土器	土師器	長囊
45-2	14R-10C13	2		土器	土師器	小囊
46	14R-9A19	5		土器	土師器	長囊
47	14R-9B17	5		土器	土師器	無台碗
2区 Pit145 図版番号189						
1	14R-6H4	1	201	石製品		磨石
2区 Pit281						
1	14R-8J21	1	96	土器	須志器	囊
2区 Pit348 図版番号189						
1	14R-5H11	1	178	石製品		磨石
2区 Pit452 図版番号189						
1	14R-6G10	1	320	石製品		台石
2区 Pit475 図版番号166						
1	14R-8I6	1		土器	磁器	碗
2区 Pit565						
1	14R-7H21	2	156	土器	珠洲焼	囊
2区 Pit639						
1	14R-8I20	4	388	土器	陶器	皿
2区 Pit646 図版番号189						
1	14R-9I3	1	203	石製品		磨石
2区 Pit716						
1	14R-9I20	1		土器	土師器	無台碗
2区 Pit807 図版番号189						
1	14R-9I2	1	389	土器	陶器	鉢
2	14R-9I2	1	389	土器	陶器	鉢
3	14R-9I2	1	389	土器	陶器	鉢
4	14R-9I2	1	389	土器	陶器	鉢
5	14R-9I2	1	389	土器	陶器	鉢
6	14R-9I2	1	389	土器	陶器	鉢
7	14R-9I2	1	247	石製品		磨石+砥石
2区 Pit813 図版番号189						
1	14R-9I15	1	263	石製品		砥石
2区 Pit873						
1	欠番					
2	欠番					
2区 Pit913 図版番号168						
1	14R-9H3	3	390	土器	磁器	瓶
2	14R-9H3	3		礫		礫
2区 Pit1112 図版番号170						
1	14R-8G25	1	157	土器	珠洲焼	囊
2区 Pit1153 図版番号109						
1	14R-10F10	1		種実		モモ
2区 Pit1190 図版番号189						
1	14R-10G2	2	196	石製品		磨石
2区 Pit1198						
1	14R-8G7	1	37	木製品	漆器	碗
2区 Pit1310 図版番号176						
1	14R-10D6	2		土		

報告書抄録

ふりがな	ほそいけてらみちうえいせきはち だいよんじゅうはちじちようさ							
書名	細池寺道上遺跡Ⅷ 第48次調査							
副書名	一 県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う細池寺道上遺跡第23次発掘調査報告書一							
巻次								
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	立木宏明・奈良佳子（新潟市文化財センター）、石川博行・安生素明・重留康弘（株式会社シン技術コンサル）、奈良貴史・佐伯史子（新潟医療福祉大学）、杉山真二・金原正子・金原美奈子（株式会社古環境研究所）、佐々木由香・バンダリ スダルシャン（株式会社パレオ・ラボ）、株式会社加速器分析研究所、山田卓司（公益財団法人元興寺文化財研究所）							
編集機関	新潟市文化スポーツ部 文化財センター							
所在地	〒950-1122 新潟県新潟市西区木場 2748 番地 1 TEL 025-378-0480							
発行年月日	西暦 2019年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ほそいけてらみちうえいせき 細池寺道上遺跡	にいがたけんにいがたしあきほく 新潟県新潟市秋葉区 ひがしかなざわあざいとうら 東金沢字家浦 65-1 ほんち 番地ほか	15105	151	37° 47' 32"	139° 09' 55"	20160616 ∩ 20161228	8,716.71 m ²	県営ほ場整備事業に伴う本発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
細池寺道上遺跡	集落遺跡	平安時代、鎌倉時代・室町時代（12世紀後半～15世紀）、江戸時代（17世紀後半～19世紀）		井戸・埋葬施設・土坑・性格不明遺構・溝・小土坑・墓・掘立柱建物・柱列・畑・旧河道・道路状遺構		須恵器・土師器・青磁・青白磁・中世陶器・近世陶磁器・土製品・石製品・金属製品・木製品・漆塗製品・数珠玉		中世の区画墓、中・近世の集落を検出、区画墓から青白磁合子・烏帽子が出土
要約	<p>細池寺道上遺跡は、阿賀野川と能代川に挟まれた現標高8～9m前後の沖積地に立地し、両河川より約1～1.5kmに位置する。これまでの調査では、奈良・平安時代（8世紀後半から9世紀後半）、鎌倉・室町時代（12世紀後半から15世紀前半）、江戸時代（17世紀後半から19世紀）の各時期に、断続的に営まれていた集落遺跡が確認されている。今回の調査では同様の遺跡に加え、中世の区画墓や江戸時代の墓域が確認された。</p> <p>検出された主な遺構は、平安時代の旧河道、鎌倉・室町時代の井戸・溝・区画墓・掘立柱建物・畑・道路状遺構、江戸時代の井戸・墓・土坑・溝・掘立柱建物・畑・柱列・道路状遺構などがある。平安時代の遺構は旧河道のみであり、調査区を東西に横断するものと、一部のみ検出された2条である。鎌倉・室町時代の集落は区画溝・掘立柱建物・井戸などからなる。さらに区画墓が2基検出され、副葬品と思われる遺物も出土した。道路状遺構は約240m分を検出した。江戸時代の集落は、鎌倉・室町時代の集落と一部重複して検出され、区画溝・掘立柱建物・井戸・土坑などからなる。掘立柱建物や井戸は、調査区南部に多く分布する傾向がみられる。また、調査区西側の一角からは多数の火葬骨を含む墓が複数重複した状態で検出された。以上のように、平安時代から江戸時代まで断続的ではあるが長期間にわたり人々の活動痕跡が認められた。</p> <p>遺物は古代（9世紀後半から10世紀初頭）の須恵器・土師器、中世（12世紀後半から15世紀前半）の珠洲焼、近世（17世紀後半から19世紀）の陶磁器・土器、漆塗製品や建築部材などの木製品が多量に出土した。なかでも中世の区画墓から出土した青白磁合子、烏帽子と思われる漆塗製品は特筆される。近世においては、墓から出土した越前甕や唐津鉢のほか、木製・ガラス製の数珠玉などが注目される。</p>							

細池寺道上遺跡Ⅷ 第48次調査

一 県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う細池寺道上遺跡第23次発掘調査報告書一

本文編

2019年3月14日印刷
2019年3月15日発行

編集 新潟市文化財センター

〒950-1122 新潟県新潟市西区木場 2748 番地 1
TEL 025 (378) 0480

発行 新潟市教育委員会

〒951-8550 新潟県新潟市中央区学校町通一番町 602 番地 1
TEL 025 (228) 1000

印刷・製本 株式会社ウィザップ

〒950-0963 新潟県新潟市中央区南出来島 2 丁目 1 番 25 号
TEL 025 (285) 3311

細池寺道上遺跡Ⅷ 第48次調査
 一県営ほ場整備事業(担い手育成型)両新地区に伴う細池寺道上遺跡第23次発掘調査報告書一
 正 誤 表

本文編

頁	行等	誤	正
5	上から5行目	726. 45m ²	726. 45km ²
18	下から17行目	遠藤・青木2015	遠藤・青木ほか2015
21	第10図右下1行目	平面直角座標値は世界測地系(測地成果2000)による	(削除)
31	下から2行目	(図版196・213	(図版213・215
173	下から11行目	[May 1988]	[Mays 1998]
194	上から18行目	[高橋2010]	[高橋ほか2010]
227	上から8行目	『山崎須恵窯跡』	『山崎須恵窯址』
228	シの1行目に追加	汐見 一夫 1999 「砥石について－中世遺跡出土の仕上砥を中心に－」『第12回北陸中世考古学研究会資料集 中世北陸の石文化Ⅰ』北陸中世考古学研究会	
277	報告No.364の「備考」の欄	No.364と同一個体カ	No.365と同一個体カ
277	報告No.365の「備考」の欄	No.365と同一個体カ	No.364と同一個体カ

図面図版編

頁	行等	誤	正
図版目次	図版196	682・705	682
図版238	柱キャプション	SK684・705・694・708	SK684・694・705・708

2019年3月15日発行 新潟市教育委員会